

---

# Automation Anywhere Enterprise 11 LTS

---

## Bot Creator/Bot Runner - ユーザーガイド

製品バージョン	11.1.0.0
マニュアルバージョン	1.0
発行日	2018/08/08
マニュアルの更新内容	初版


この文書に含まれる内容は、Automation Anywhere Enterprise のバージョン 11.1 用の英語版の文書から翻訳されています。  
この文書はバージョン 11.1 をご利用の場合のみ参照してください。また、最新の更新情報、および 11.1 より後のリリースに関する情報は英語版の文書を参照してください。  
バージョン 11.1 は、英語のオペレーティングシステム上でのみ検証が行われている点にご注意ください。

## セクション: Enterprise Client のご紹介

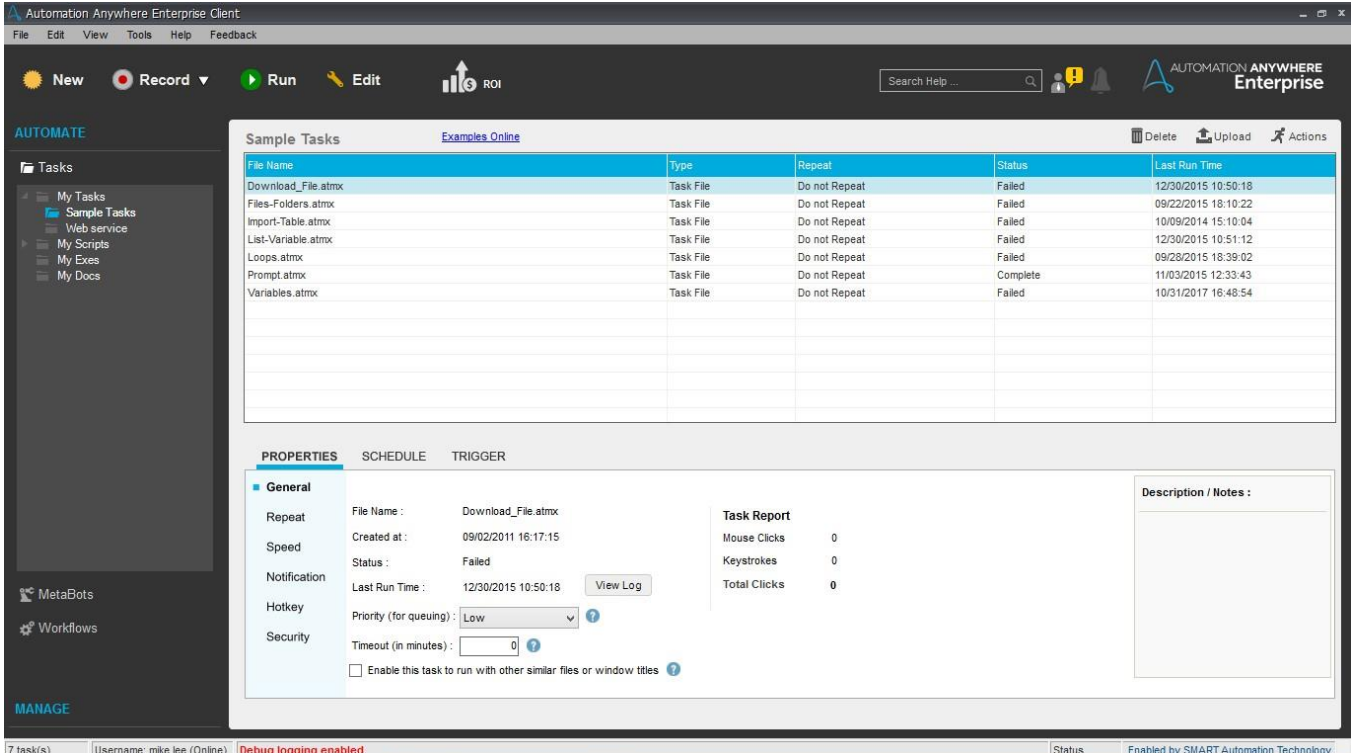
### Automation Anywhere のご紹介

Automation Anywhere では、自動化されたプロセスを簡単に作成できます。直観的なインターフェイスにより、シンプルなものから複雑なものまであらゆるタスクを記録、変更、実行するために不可欠な機能を提供します。

このトピックでは、Automation Anywhere Client で利用できる機能の概要について紹介します。また、関連トピックを参照するために必要な情報も記載しています。

 備考: 前提条件や設定の詳細については、製品に同梱されている「Automation Anywhere Enterprise – インストールガイド」を参照してください。

### クライアントダッシュボード – 概要



The screenshot shows the Automation Anywhere Enterprise Client interface. At the top, there is a menu bar with 'File', 'Edit', 'View', 'Tools', 'Help', and 'Feedback'. Below the menu bar, there are several icons for 'New', 'Record', 'Run', and 'Edit', along with an 'ROI' icon and a search bar. The main area is divided into two sections: 'AUTOMATE' and 'MANAGE'. The 'AUTOMATE' section contains a 'Tasks' panel on the left with a tree view showing 'My Tasks', 'Sample Tasks', 'Web service', 'My Scripts', 'My Exes', and 'My Docs'. The main part of the 'AUTOMATE' section is a table titled 'Sample Tasks' with columns for 'File Name', 'Type', 'Repeat', 'Status', and 'Last Run Time'. Below the table, there are tabs for 'PROPERTIES', 'SCHEDULE', and 'TRIGGER'. The 'PROPERTIES' tab is active, showing details for the 'Download\_File.atmx' task, including 'Repeat', 'Speed', 'Notification', 'Hotkey', and 'Security' settings. A 'Task Report' section shows 'Mouse Clicks', 'Keystrokes', and 'Total Clicks' counts. The 'MANAGE' section at the bottom shows '7 task(s)', 'Username: mike.lee (Online)', 'Debug logging enabled', and 'Status: Enabled by SMART Automation Technology'.

File Name	Type	Repeat	Status	Last Run Time
Download_File.atmx	Task File	Do not Repeat	Failed	12/30/2015 10:50:18
Files-Folders.atmx	Task File	Do not Repeat	Failed	09/22/2015 18:10:22
Import-Table.atmx	Task File	Do not Repeat	Failed	10/09/2014 15:10:04
List-Variable.atmx	Task File	Do not Repeat	Failed	12/30/2015 10:51:12
Loops.atmx	Task File	Do not Repeat	Failed	09/28/2015 18:39:02
Prompt.atmx	Task File	Do not Repeat	Complete	11/03/2015 12:33:43
Variables.atmx	Task File	Do not Repeat	Failed	10/31/2017 16:48:54

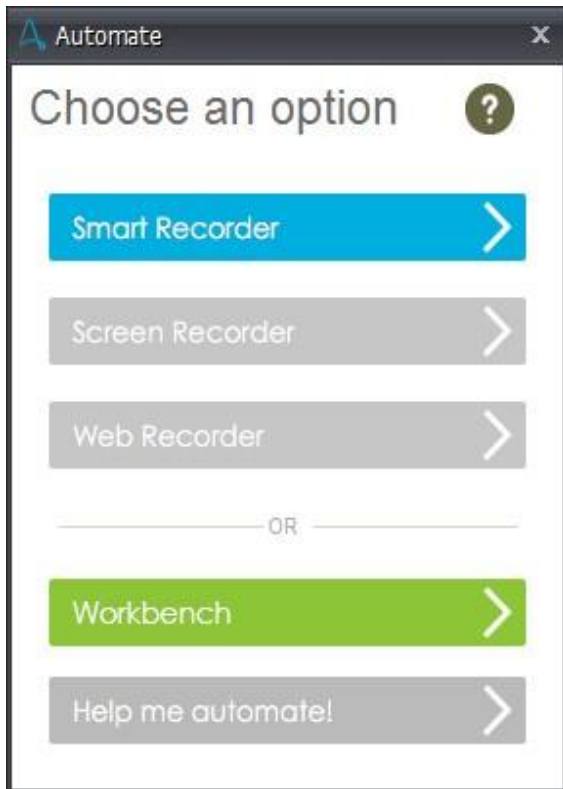
クライアントダッシュボードは基本的にメニューバー、ツールバー、[Automate] (オートメーション) および [Manage] (管理) パネル、タスクパネル、機能パネルで構成されています。これらを合わせて使用することで、ボットを作成、記録、実行、変更できます。

### ツールバー

(メニューバーの下にある) ツールバーには、タスクの記録、実行、変更使用するツールボタンと機能が集まっています。



- [Automate] (オートメーション) ウィンドウで利用可能なさまざまな記録方法でタスクを記録します。



詳しくは、「[記録方法を選択する](#)」を参照してください。

- キーストロークに加えて、マウスのクリックや動作を記録します。



詳しくは、「[スクリーン／標準レコーダーを使用する](#)」を参照してください。

- 選択したタスクを実行します。



詳しくは、「[タスクを実行する](#)」を参照してください。

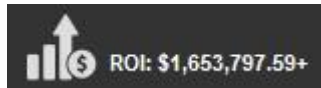
- Workbench を使用して、選択したタスクを変更します。




詳しくは、「[Workbench を使用する](#)」を参照してください。

## ROI

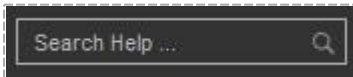
Automation Anywhere の使用によって得られる投資収益率 (ROI) を表示します。クリックして、ROI calculator を起動します。



詳しくは、「[ROI Calculator を使用する](#)」を参照してください。

 備考: 自動化されたタスクを記録、実行する際は、ヘルプピック「[タスクを記録 / 実行するためのベストプラクティス](#)」に記載されたベストプラクティスに従ってください。

さらに、Automation Anywhere はトラブルシューティング機能として「検索ヘルプ」、「チャット」、「クライアント通知\*」を提供しています。• 「検索ヘルプ」機能を使用して、Automation Anywhere のオンラインナレッジベースにアクセスできます。



- 「チャット」機能を使用して、当社のサポートエグゼクティブとチャットできます。



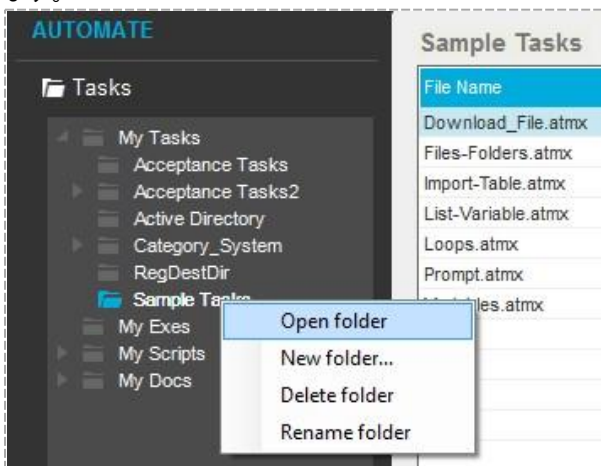
- 試用ステータス、タスクの失敗、外部からの通知を受け取ることができます。詳しくは、「[Automation Anywhere Client 通知](#)」を参照してください



自動化

[Automate] (オートメーション) パネルでは、TaskBot、MetaBot、ワークフローを組み合わせることでプロセスを自動化できます。

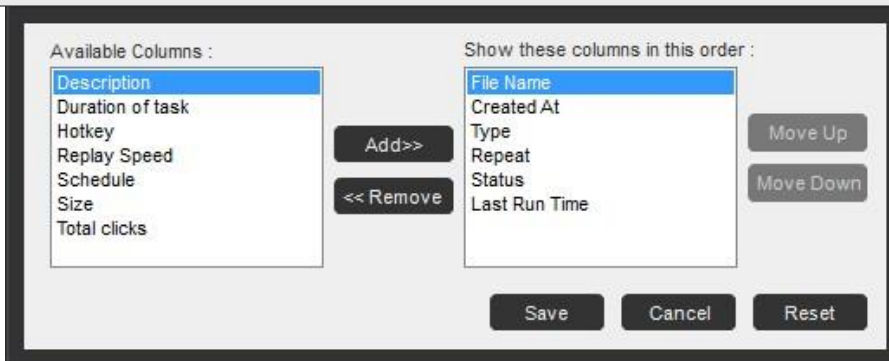
オートメーションタスクは、すべて [Tasks] (タスク) タブ内に表示されます。タスクはそれぞれフォルダーとして表示され、各フォルダーをクリックすると、右に表示される関連タスクリストに移動します。フォルダーを右クリックすると、フォルダーを開く、作成、名前を変更、削除、の各動作を実行できます。



#### A. Tasks (タスク)

タスクリストは、ワークスペースのほとんどを占め、関連するタスクの詳細を [File Name] (ファイル名)、[Description] (説明)、[Created At] (作成日時)、[Duration] (期間)、[Size] (サイズ)、[Hotkey] (ホットキー: ある場合)、[Status] (ステータス) などの列に表示します。

💡 ヒント: [View] (ビュー) > [Column Displayed] (表示する列) から、列ビューを選択します。



タスクリストの右上角には、Exe を削除、作成、および選択したタスクをアップロードできるボタンが表示されます。

[Action] (アクション) ドロップダウンボタンをクリックして、実行、編集、アップロード\*、コピー、名前を変更、検索、送信などのタスク関連アクションを実行することもできます。

#### B. MetaBot

My MetaBots リストには、自分が設計した MetaBot が表示されます。MetaBot は、プロセスを最適化するために再利用できるアプリケーションの自動化ブループリントです。プロセスをエンドツーエンドで標準化するのに役立ちます。

MetaBot を使用すると、画像の形式またはアプリケーション API で情報をキャプチャする自動化ブロックを作成できます。これらをコマンドとして統合し、多様なプロセスによってさらに活用することで、さまざまなレベルで価値を提供できます。

詳しくは、「[MetaBot Designer のご紹介](#)」を参照してください。



## C. ワークフロー

グラフィック環境でのプロセスフロー図の構築に使用します。プロセスフロー図はその後、自動化されたタスクをプログラム内で構築、実行するために使用できます。

詳しくは、「[ワークフローデザイナーを使用する](#)」を参照してください。

### 管理

「管理」パネルは、自動化されたボットを管理するための機能を備えています。以下が含まれます。

#### A. リポジット

Control Room と通信して、TaskBot、MetaBot、IQBot、ワークフローをアップロードおよびダウンロードします。

詳しくは、「[タスクと依存関係をアップロード/ダウンロードする](#)」を参照してください。

#### B. スケジュール

自動化されたボットを時間ベースのスケジュール機能で管理する際に便利な機能です。TaskBot は、毎日、毎週、毎月、またはトリガーイベントの発生時に実行するようにスケジュール設定できます。

詳しくは、「[スケジュールマネージャーを使用する](#)」を参照してください。

#### C. トリガーする

タスクに関連付けられたトリガーをまとめて表示します。選択した、またはすべてのトリガーの有効化や無効化、およびタスクに関連付けられた特定のトリガーの追加、変更、削除ができます。

詳しくは、「[トリガーマネージャーを使用する](#)」および「[タスクにトリガーを追加する](#)」を参照してください。

#### D. レポート

タスクやワークフローのステータスを表示するグラフィカル レポートに加え、経時的な ROI を提供します。

詳しくは、「[レポートデザイナーを使用する](#)」を参照してください。

#### E. コントロールルーム

接続しているコントロールルームを起動します。コントロールルーム管理者から入手した資格情報を使用します。

タスク関連アクティビティ用のパネルタスクリストの下には、タスクに関連するプロパティ、スケジュール、トリガーがタブ形式で表示されたパネルが配置されています。

##### A. プロパティ

優先順位のステータス割り当てのほか、選択済みタスクを繰り返す頻度や条件、速度調整、メール通知、ホットキー、権限を持つユーザーのみにタスクの実行を限定するセキュリティパラメーターをはじめとする詳細情報など、一般プロパティを表示、設定します。

詳しくは、「[タスクのプロパティを設定する](#)」を参照してください。

##### B. スケジュール

管理や介入を必要とせず、好きな時間に実行するように、自動化されたタスクのスケジュールを設定します。

詳しくは、「[スケジューラーを使用してタスクのスケジュールを設定する](#)」を参照してください。

##### C. トリガー

選択したタスクにトリガータイプを結び付けます。お使いのコンピューターで発生するイベントに対応してタスクが自動的に実行されます。

詳しくは、「[タスクにトリガーを追加する](#)」を参照してください。

### 説明/備考パネル

右下方向にある追加タブは、説明/備考パネルと呼ばれています。このタブでは選択したタスクに自由にテキストを入力できます。このテキストは、タスクを変更する場合、変更時に編集できます。

詳しくは、「[一般プロパティを表示および設定する](#)」を参照してください。

### 機能とメリットを理解する

Automation Anywhere は、比類のないパフォーマンスとスケーラビリティを提供して業務プロセスの効率を高める、インテリジェントな自動化ソフトウェアです。

機能: Automation Anywhere はどのような機能を備えているか

Automation Anywhere は、実行中のタスクに費やす時間を最適化できる以下のような機能を備えています。

- ・ 反復的な 20 ステップのプロセスを 1 回のマウスクリックまたはキーストロークに変換します。
- ・ コンピューターがロックされている場合でも、強力なタスクスケジュール機能を使用して、いつでもスケジュールされたタスクを実行できます。
- ・ さまざまな形式で存在するスクリプトを自動化します。
- ・ 単一マシンまたは複数マシン全体、部門または企業全体で、自動化されたプロセスを簡単に管理できます。
- ・ 自動化タスクを数分で作成します。キーストロークとマウスクリックを記録し、簡単なポイントアンドクリックウィザードを使用します。
- ・ 効果的な共同作業を可能にするスケーラブルなサーバーを使用して、自動化ユーザーを簡単に管理できます。
- ・ バックアップ、セキュリティ、リソース用の一元管理システムを管理します。
- ・ 中央リポジトリで自動化されたプロセスをキャプチャして再利用します。
- ・ ジョブスケジュールを管理し、バッチデータ処理を簡単に実行します。
- ・ FTP/SFTP プロセスを自動化します。
- ・ Citrix や Terminal Server などのマルチユーザー環境で、タスクをダウンロード、アップロード、スケジュール、実行します。
- ・ 独自のビジネスニーズに対応するために、MetaBot Designer を使用して AAE プラットフォームを拡張します。詳しくは [こちら](#)を参照してください。

#### ユニークな特徴：機能のしくみ

Automation Anywhere は、以下のような特徴を備えており、完全なオートメーション機能を提供する市場で唯一のソリューションです。

- ・ 複雑なタスクをプログラミングなしで迅速に自動化する、信頼性と正確性に優れたオートメーション技術。
- ・ 自動プロセス、ユーザー、クライアントマシンの設定と管理を容易にする、一元管理された Enterprise Control Room。
- ・ 位置を移動してもオブジェクトを認識する、業界最高レベルの Web Recorder と Object Recorder。
- ・ 実行可能な 550 を超えるアクション。以下はその例です。

1. ユーザー／クライアント管理のための Active Directory のサポート
2. 条件とループ
3. ユーザープロンプト
4. ファイル、データベース、システムの管理
5. 自動化タスクの高速再生
6. 自動メール通知
7. タスクチェーン作成
8. ホットキーの設定と管理
9. ユーザー定義変数とシステム変数
10. 高度なエラーログ
11. PDF オートメーション

メリット：このソリューションを使用する理由

- ・ チームの効率が 30～80%向上します。
- ・ データ入力プロセスの人的エラーを排除します。
- ・ 従業員と部門の連携を強化します。
- ・ トランザクション速度を高めます。
- ・ 既存の IT システムのコストを削減し、ROI を向上させます。
- ・ レガシーシステム、ERP システム、パートナーデータ、Web ポータルなど、複数の異なるシステムやデータを統合します。

価値：Automation Anywhere クライアントで何を実現できるか

Automation Anywhere は、ワークフロー、プロセス、タスクを自動化して管理することで、チーム、部署、部門、企業全体で一貫したプロセスを実現します。

以下のプロセスを自動化できます。

- ・ 時間のかかるデータ入力プロセス：
  1. 在庫の確認
  2. 消耗品の再注文
  3. レポートの書式設定と実行
- ・ Web サイトへのログイン、Web サイトの検索、Web フォームの送信、Web サイト上のレコードの更新。

- SAP、Oracle Applications、Peoplesoft、Microsoft Dynamics、Salesforce などの ERP フロントエンドプロセスの管理。
- アプリケーションやファイル間でのデータのインポート／エクスポートを含む、データ転送の自動化。
- Automation Anywhere Object Recorder を使用して、Windows コントロールをバックグラウンドプロセスとして管理および実行します。
- 定期的なバックアップとファイル管理タスクを自動化します。

Automation Anywhere は、業務プロセス自動化に必要なすべてを備えた、今すぐ利用できるソリューションです。

## Automation Anywhere のシステム要件を検証する

このセクションは、お使いのシステムに Automation Anywhere をインストールするための正しいハードウェアとソフトウェアが搭載されているかどうか判断するのに役立ちます。Automation Anywhere をインストールする前に、お使いの環境で次の要件をサポートしていることを確認してください。

### オペレーティングシステム

(32 ビットと 64 ビットの OS バージョンがサポートされます)

オペレーティングシステム	エディション
Microsoft Windows Server 2016	Datacenter / Standard
Microsoft Windows 10*	Pro / Enterprise
Microsoft Windows Server 2012 R2	Standard
Microsoft Windows Server 2012	Standard
Microsoft Windows Server 2008 R2	Standard
Microsoft Windows 8.1 / 8	Pro / Enterprise
Microsoft Windows 7 SP1	Standard / Professional

\*いくつかの制限があります。FlexAutomation と Windows10 のアプリ上のトリガーはサポートされません。

プロセッサ速度: 推奨- 3.5 GHZ+(4 コア以上) 推奨

RAM: 8 GB 以上

ハードディスク容量: インストールに 300 MB のハードディスク空き容量

備考:
<ul style="list-style-type: none"> <li>Automation Anywhere のスクリプトは平均して約 100~150KB です。Automation Anywhere ではオートメーションスクリプトの実行中にスクリーンショットやサーバーログ、監査ファイルなどの一時ファイルを作成するため、オートメーションプロジェクトを開発するにはディスク空き容量が追加で必要になります。</li> <li>実際に必要な空き容量は、プロジェクトのサイズとともに増加するため、長期的なプロジェクトを実装するには最低 40~50GB のディスク空き容量を用意することをお勧めします。</li> <li>製品の使用方法にもよりますが、インストール後に高度な設定へのアップグレードが必要な場合があります。たとえば、MetaBot Designer ではログファイル、ロジックの作成などの生成で、後になってディスク空き容量がさらに必要になる場合があります。</li> </ul>

### ブラウザサポート

ブラウザ	Version(バージョン)
Internet Explorer	10 および 11
Chrome	49 以降
Firefox	45、46、47
Edge	-

備考:
<ul style="list-style-type: none"> <li>Edge ブラウザーでは Microsoft Windows 10 のみがサポートされます</li> <li>MetaBot では Chrome と Edge を通じたオートメーションはサポートされません。</li> </ul>

プラグイン	Version(バージョン)
Silverlight	5.1.x
Adobe Flex	24
Internet Explorer 11	11.0
Chrome	49 以降
Edge	-
MODI	12.0
TOCR	5.0

### その他の要件

- Microsoft .NET Framework 4.6 および 4.6.1 (Windows 8.1 および Window Server 2012 R2 向け)

備考: Microsoft .NET Framework 4.7 アップデートもサポートされます。

- 1024 x 768 以上の高解像度モニター
- マウスまたはその他のポインティングデバイス

4. テクノロジーサポート: • Windows • OCR • HTML

- .NET • WPF • Flex
- Silverlight
- Java 1.6 (JRE 6.0.450) 以降のバージョン - デスクトップおよび Web

クライアントとサーバーを同期する

- Automation Anywhere Client と Enterprise Control Room 間の時間を同期するには、使用しているネットワークで Network Time Protocol (NTP) を有効にします。
- ネットワークの NTP 設定を変更する方法については、ネットワーク管理者にお問い合わせください。

重要: 複数のターミナルサーバーマシンがある場合、Automation Anywhere は、「ターミナルサーバー」の複数同時接続はサポートしていません。ターミナルサーバーには複数のユーザーがログインすることができ、ログインしているすべてのユーザーは Bot Creator の各自のインスタンスを使用できます。ただし、1 人のユーザーが持つことのできるアクティブなセッションは 1 つのみです。

## Automation Anywhere Control Room に接続する

Automation Anywhere では、Web ベースの Control Room を使用して、大規模なマルチサイトの複雑な自動化インフラストラクチャを監視・管理できます。

### Control Room にログインする

Bot Runner または Bot Creator では、次のいずれかの方法を使用して Control Room に接続し、Client を起動できます。

1. Client のログインウィンドウ
2. コマンドライン

Client のログインウィンドウを使用してログオンするログオンするには、次の手順を実行します

。

1. [Client Login] (Client ログイン) スクリーンの [Control Room] フィールドに、Control Room のサービス URL を入力します。
  - 初回起動時は、該当する Control Room のサービス URL を入力します。2 回目のログイン時には、最後にログインした URL が表示されます。
  - 別の URL を使用してログインする場合は、その URL を入力します。
2. Control Room の認証タイプに応じて、認証の詳細を入力する必要があります。認証には、[Windows] または [AD]、[Single Sign-On] (シングルサインオン)、[User Credentials] (ユーザー認証情報) の 3 つの方法のいずれかを使用します。

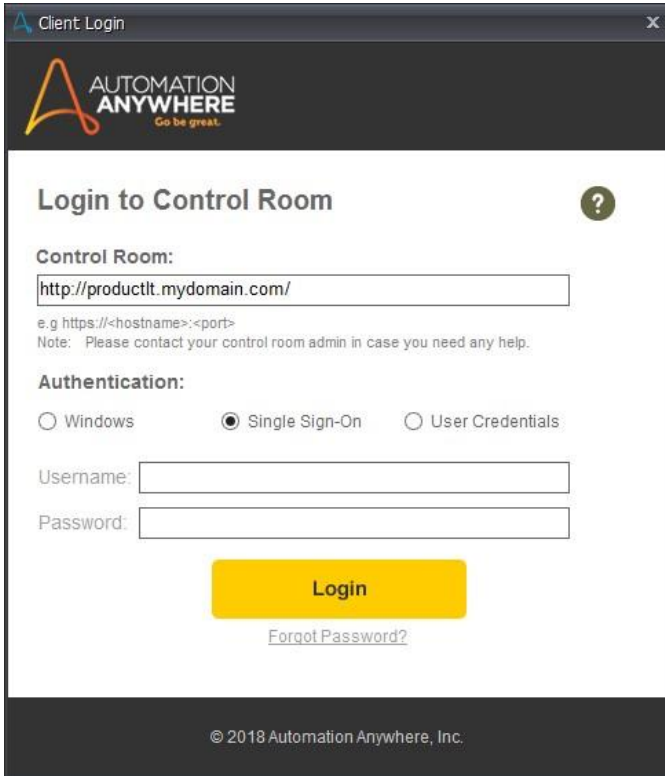
備考: 「@」文字は、Control Room へのログイン時に使用するメールのユーザー名に対応するためにサポートされています。

- a. Windows または AD 認証 - Control Room が Active Directory の認証タイプに対して設定される場合に使用できます。Windows 認証を選択する場合、認証情報を入力する必要はありません。Active Directory または Windows 資格情報で認証されます。このオプションはデフォルトで選択されます。



ヒント: 何らかの理由で自動の Windows 認証に失敗する場合、[User Authentication] (ユーザー認証) を選択して、認証情報を入力します。

- b. Single Sign-On(シングルサインオン) – Control Room が SSO SAML2.0 の認証タイプに設定されている場合に使用できます。このオプションを選択する場合、認証情報を入力する必要はありません。代わりに、[Login](ログイン)をクリックすると組織の IdP 認証ページにリダイレクトされます。そのページで SSO 認証情報を使用してログインする必要があります。

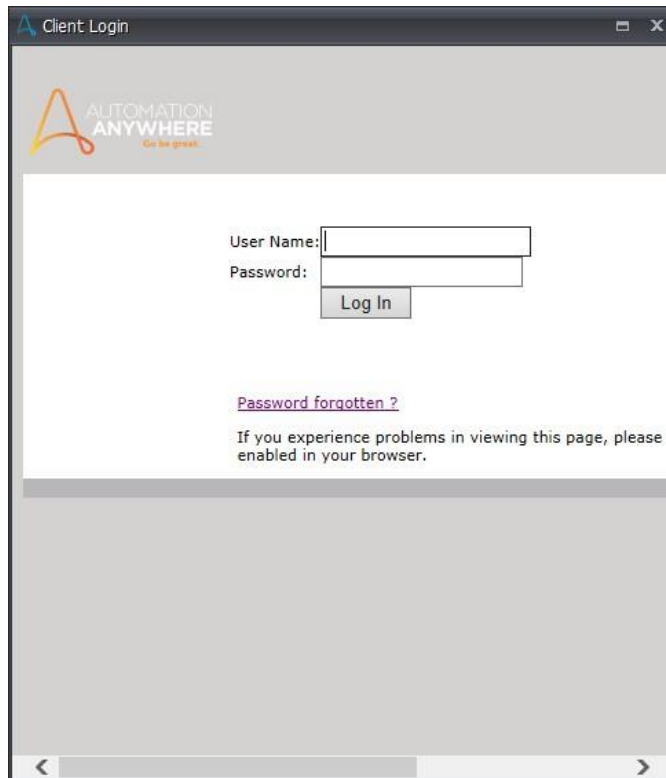


 備考:

- Automation Anywhere Client は Internet Explorer と同じレンダリングエンジンを使用して SSO 認証ページを表示するため、レジストリエントリ(32 ビット)は `HKEY_CURRENT_USER\Software\MicrosoftInternetExplorer\Main\FeatureControl\FEATURE_BROWSER_EMULATION` で行われます。
- IdP のログインページが正しく表示されない場合は、Idp ログイン URL が Internet Explorer の信頼済みサイトに含まれていることを確認してください。

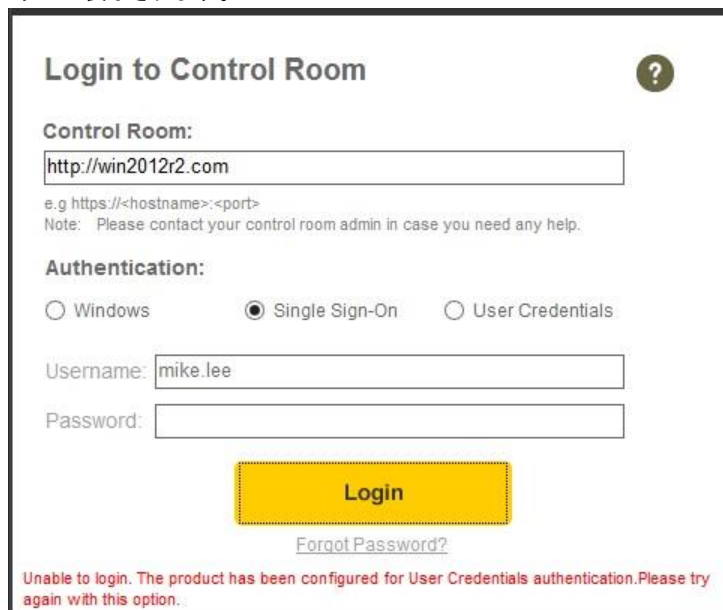
以下のスクリーンショットは、認証ページのサンプルです。





ヒント: ウィンドウのサイズは見やすくするために変更できます。

- Control Room が設定されている認証タイプ以外の認証を使用して [Login] (ログイン) しようとすると、次のエラーが表示されます。



**重要:** Internet Explorer でのレンダリング中に認証ページに不具合があると、ログインの表示に問題が発生する場合があります。

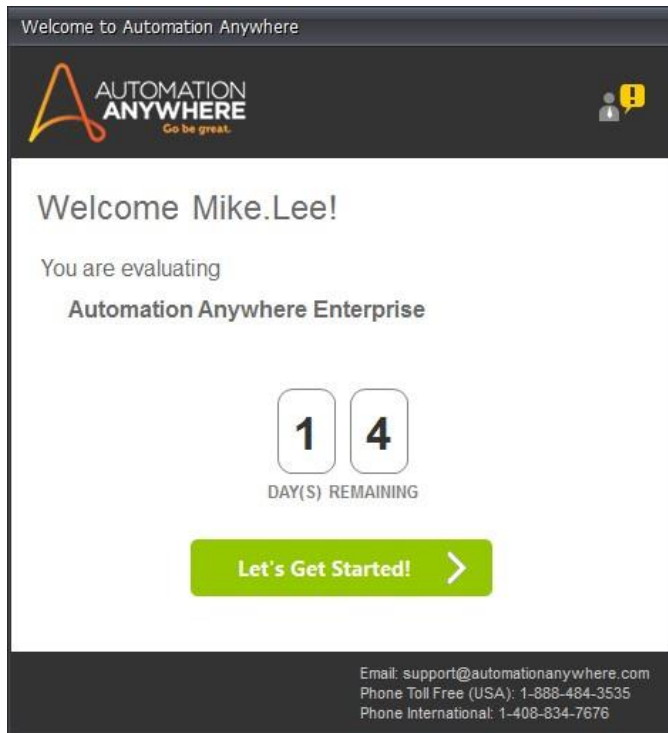
- c. User Credentials (ユーザー認証情報) - Control Room がデータベースの認証タイプに設定されている場合に使用できます。[User authentication] (ユーザー認証) を選択する場合、Control Room 管理者が作成したユーザー認証情報を入力する必要があります。この情報は、ドメイン認証情報を使用して Control Room にログインするときに使用できます。使用方法については、「[ユーザー管理](#)」を参照してください。

- パスワードを忘れた場合は、Control Room 管理者に連絡してください。• 次のいずれかの理由により、Client にログインできない場合があります。

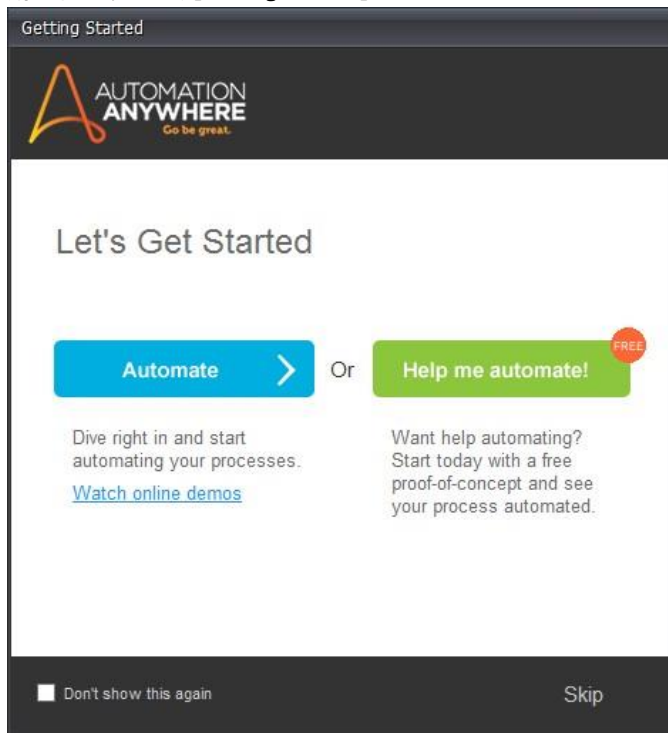
- 入力したユーザー名やパスワードが正しくなかった場合
- ログインしようとしているユーザーが、Control Room で作成されていない場合
- ログインしようとしているユーザーに、Control Room でライセンスが割り当てられていない場合
- Control Room から送信されたメールを使用してユーザーアカウントの確認を済ませていない場合
- ログインしようとしているユーザーが、Control Room で無効になっている場合
- ログインしようとしているユーザーが、別のコンピューターから Control Room にすでに登録されていた場合
- ログインしようとしているユーザーが、別の Windows 資格情報を使用して Control Room に登録されている場合
- Client と Control Room のバージョンに互換性がない場合
- Control Room の証明書が無効である場合
- 別のマシンでアクティブな Bot セッションをすでに実行している場合
- Control Room でパスワードポリシーが更新された後、Client に(再)ログインまたは自動ログインする時に古い認証情報を入力した場合その他のエラーについて詳しくは「[Client のログインエラー](#)」を参照してください。

3. Control Room で使用されるライセンスタイプに基づいて、Client の起動時に以下が表示されます。

- 無料ライセンスを使用している場合は、残りの評価日数



- 購入版の場合は、[Getting Started] (はじめに) 画面

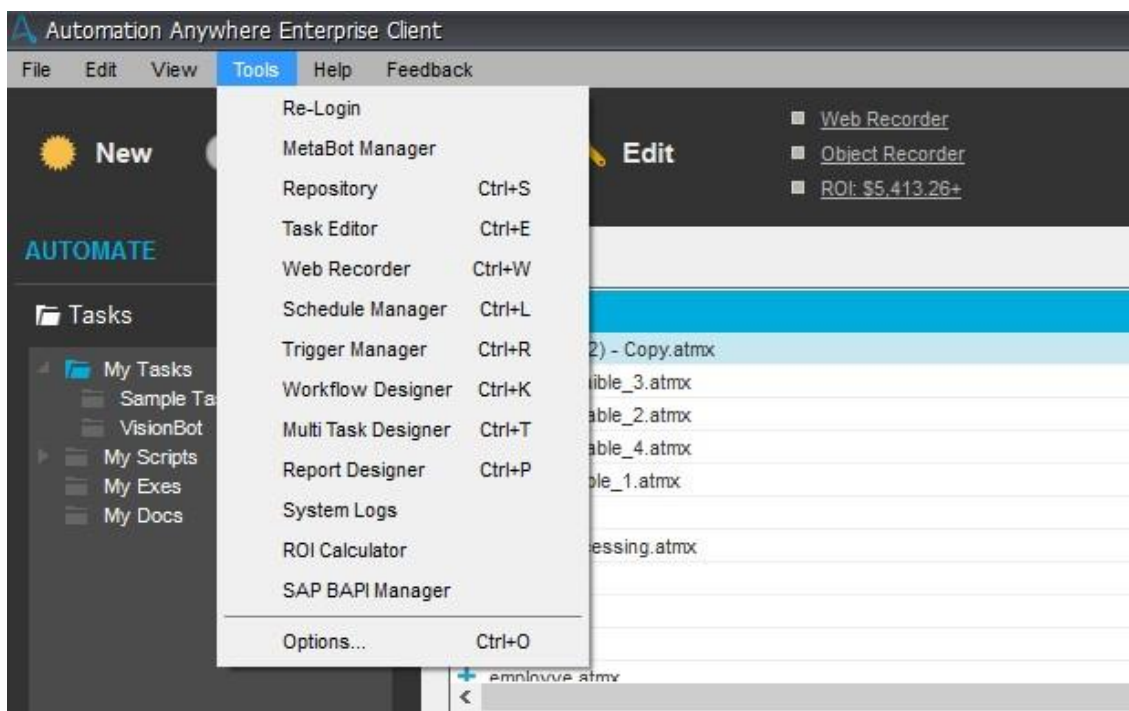


- この画面は無料ライセンスで Client にログインした後も表示されます。

**⚠ 重要:** Bot Creator または Bot Runner による Control Room の切り替えは推奨されません。異なる複数の Control Room に接続し続けると、Client が正しく動作しなくなる可能性があります。以下のような問題が発生する可能性があります。

- Client が Control Room から切断される
- Bot にチェックイン/チェックアウトできない
- Operations Room に正しい Bot の進捗状況が表示されない

Control Room に再ログインする • 異なるユーザー認証情報を使用して Control Room に再ログインするには、[Tools] (ツール) → [Re-login] (再ログイン) をクリックします。 • [Login] (ログイン) ダイアログにユーザー認証情報を入力します。



備考: ステータスバーにログインしたユーザー名とステータスが表示されます。



重要: 1つのAAE Client インスタンスから複数の Control Room に接続することは推奨されません。

#### コマンドラインを使用してログオンする

Control Room に接続するもう1つの方法として、コマンドラインを使用する方法があります。これは、リモート端末の無人モードでホストされている複数の Client に、自動化管理者または自動化ユーザーとしてログインする場合に便利です。再起動時にログオンするたびに実行できるスクリプトの作成もできます。ログオンするには、次の手順を実行します。

1. 管理者モードでコマンドラインを実行します
2. コマンドラインに次のパラメーターを入力します

```
C:\Windows\System32\"<Application Path>\Automation Anywhere.exe" "/c<Control Room URL>"
"/u<Username>" "/p<Password>" "/aclose" "/l<login>"
```

例:

```
C:\Windows\System32\"D:\Automation Anywhere\Enterprise\Client\Automation Anywhere.exe"
"/chttp://product1t.mydomain.com:81/" "/uMike.Lee" "/p12345678!" "/aclose" "/llogin"
```

パラメーター次の表に、ログインで使用できるパラメーターとそれに関する説明を示します。

パラメーター	Description( 説明)
/c	Control Room のログイン URL
/u	Bot Creator または Bot Runner のユーザー名
/p	Bot Creator または Bot Runner のパスワード
/a	アクション。例: /aclose

/l	ログイン
----	------



ヒント:

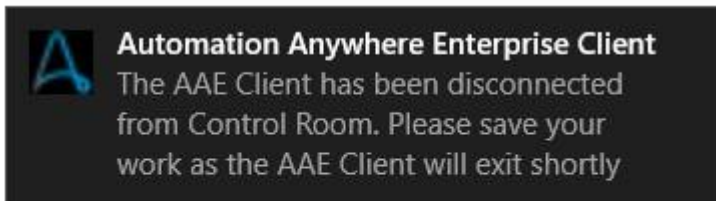
- Control Room の URL にパラメーターを入力しない場合、設定ファイルで指定されたデフォルトの URL が使用されます。ユーザー名のパラメーターを指定する場合、パスワードのパラメーターを指定する必要があります
- パスワードのパラメーターを使用する場合は、[close parameter] (パラメーターを閉じる) を使用してアプリケーションを終了することをお勧めします
- 異なるドメインで Client にログインする場合は、ドメイン名とともにユーザー名のパラメーターを使用します 例: /uAAE.Com/Mike.Lee。すでにアクティブな Client にログインするとその Client セッションは終了し、現在ログインしているユーザーがそのコマンドラインを使用して起動します。
- この場合、アクティブな Task Editor (タスクエディター) セッションは終了しません。

エラーコードを終了する

次の表にエラーコードとその説明を示します。

終了コード	Description(説明)
0	ログインに成功しました
1	ログインに失敗しました
2	Control Room がダウンしています
3	指定したパラメーターが正しくないか無効です
4	AAE Client サービスが停止しました
5	セキュアサーバー証明書が無効です
6	原因不明のエラーが発生しました

Control Room から切断する



以下の状況の場合、Client ユーザー (Bot Creator または Bot Runner) は Control Room から切断されます。

- ログイン時にネットワークサービスが停止した場合。
- Client をすでに使用中であり、接続されている Control Room のライセンスの有効期限が切れた場合。



備考: TaskBot が現在マシンにデプロイされている場合は、実行終了時にのみ Client が切断されます。

Client の終了の選択もできます。詳しくは、「[Automation Anywhere Client を終了する](#)」を参照してください。

Client のログインエラー

Client のログインウィンドウから Control Room にログインする際に、以下のエラーが発生する可能性があります。

- Login Unsuccessful (ログインに失敗しました)
- Unable to Connect to Server (サーバーに接続できません)
- Invalid User Name / Password (無効なユーザー名/パスワード)
- Forgot Password (パスワードを忘れた場合)
- Invalid Certificate (無効な証明書)
- バージョンの不一致
- アクティブな Bot セッションが原因でログインに失敗
- パスワードポリシーの更新

Client のログインエラーについて詳しくは、「[Client のログインエラー](#)」を参照してください。

## タスクの記録、編集、実行

このトピックでは、基本的な自動化タスクを記録、実行する方法について説明します。

簡単な自動化タスクを記録、実行するときの基本的な手順は、次の3つです。

1. 記録
2. 保存
3. 実行

自動化されたタスクを記録する自動化されたタスクを記録するには、次の手順を実行します。


1. シンプルなタスクと、タスクが記録されるコンピューターで実行可能なタスクを記録するには、クライアントのメインスクリーンの[Record] (記録) ボタンをクリックします。



詳しくは、「[記録方法を選択する](#)」を参照してください。

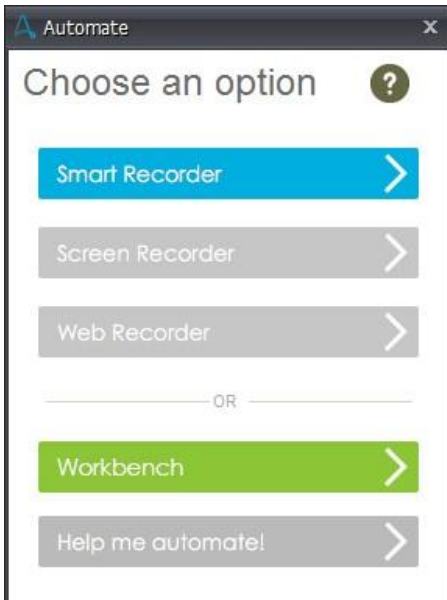
- Automation Anywhere では、キーストローク、マウス動作、マウスクリックといったアクティビティの記録を開始します。
- このプロセスの間、Automation Anywhere クライアントウィンドウは非表示となります。デスクトップの右下の角に小さい[Stop Recording] (記録を停止) ウィンドウが表示されます。



 備考: クライアントスクリーン上部の[New Task] (新しいタスク) ボタンをクリックすると、新しい自動化タスクを作成できます。



- 表示されたウィンドウで、タスクを作成するための方法を選択できます。



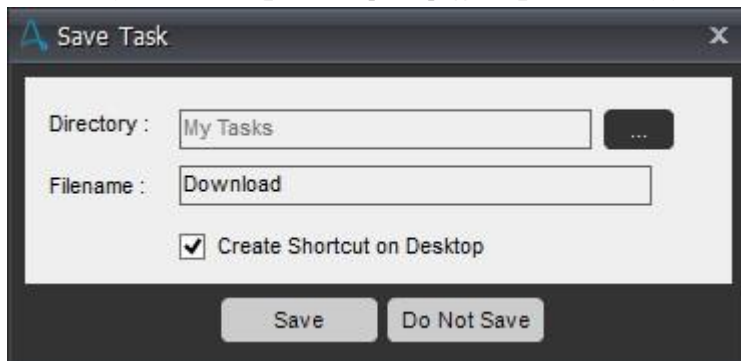
記録方式の選択については、「[記録方式を選択する](#)」を参照してください。あるいは、「[Help me choose an option](#)」(オプション選択ヘルプ)リンクをクリックすると、Automation Anywhere のサポート用チャット[Live Assist] (ライブアシスト) オプションが開かれます。

2. 自動化するために記録するアクションを実行します。アプリケーションの起動、新しいウィンドウの起動、ボタンのクリック、フォームの入力、Web サイトの検索など、目的のアクションを実行できます。
3. [Stop] (停止) ボタンをクリックすると、タスクの記録を停止します。





- [Save Task] (タスクを保存) ウィンドウが表示されます。
4. [Save Task] (タスクを保存) ウィンドウで、タスクを保存するディレクトリの名前を入力するか、デフォルトのディレクトリ (My Tasks) を受け入れます。
  5. タスクに対応するファイル名を入力して [Save] (保存) をクリックします。



6. 必要に応じてタスクを保護するパスワードを入力します。

- タスクが作成されます。

デスクトップにタスクのショートカットを作成する

保存したタスクを実行するショートカットをデスクトップに作成できます。タスクを迅速に起動するため、アイコンにタスクが関連づけられます。

デスクトップにショートカットを作成するには、次の手順を実行します。

1. Automation Anywhere のクライアントウィンドウで、[Task List] (タスクリスト) から目的のタスクを選択します。
2. タスクを右クリックして [Send To] (送る) → デスクトップ ([Create Shortcut] (ショートカットを作成)) を選択します。
3. デスクトップで目的のアイコンを見つけ、目的の場所にドラッグします。

記録したタスクを実行する

次の方法のいずれかの方法で、記録したタスクを実行できます。

- [Task List] (タスクリスト) のタスクを選択して [Run] (実行) をクリックします。



または

- [Task List] (タスクリスト) のタスクをダブルクリックします。

または

- デスクトップのアイコンをダブルクリックします。

タスクを停止する実行中のタスクを停止するには、次のいずれかのアクションを実行します。

1. ESC キーを 2~3 秒間長押しします。
2. [run-time status] (ランタイムステータス) ウィンドウで、[Pause] (一時停止) ボタンをクリックします。



タスクを編集する

自動化されたタスクを最初に作成した後で、さらにカスタマイズしたり、タスクのパフォーマンスを最適化したりすることができます。タスクファイルを記録しなおすことなく、タスクファイルを編集できます。

- タスクを変更するには、[Task List] (タスクリスト) で目的のタスクを選択し、[Edit] (編集) ボタンをクリックします。



- Workbench が起動され、関数の追加、遅延の削除、アクションシーケンスの追加を実行できます。

詳しくは、「[Workbench を使用する](#)」を参照してください。

---

---

### 関連トピック

- [特殊キーを使用する](#)
- [タスクにプロパティを追加する](#)
- [Automation Anywhere Client を終了する](#)

## タスクにプロパティを追加する

プロパティを追加してタスクの効率を向上させることができます。このトピックでは、タスクに追加できるプロパティの概要を説明します。また、必要に応じて詳細な内容に直接アクセスできるリンクを記載しています。

次に掲げるプロパティを追加すると、タスクのパフォーマンス、機能、操作性を向上させることができます。

1. General (一般): ファイル名、作成日時、前回の実行時刻、ログなどの一般プロパティが[General] (一般)タブに表示されます。さらに、キューの優先順位を決めるためのタスクの優先度\*を変更できます。

\*Enterpriseバージョンでのみ利用可能。

「[一般プロパティを表示および設定する](#)」を参照してください。

2. Repeat (繰り返し): 頻繁に更新される Web サイトからデータを抽出する場合などでは、タスクを繰り返し行うことが必要な場合があります。特定の回数繰り返す必要があるタスクを実行するタイミングを指定します。さらに、タスクを繰り返し実行する期間も時間、分、秒で指定します。

「[タスクを繰り返す](#)」を参照してください。

3. Speed (速度): タスクの実行速度を指定します。タスクによっては正確なマウス動作が必要な場合があります。一方で、記録中に操作が遅くなる場合があります。そのようなタスクの記録終了後に、速度を変えて再生するオプションがあります。

「[タスクの速度を調整する](#)」を参照してください。

4. Notification (通知): タスクの実行が終了した後、Automation Anywhere から特定のアドレスにメールを送信するよう指定できます。

「[タスクのメール通知を送信する](#)」を参照してください。

6. Hotkey: プログラムで「Hotkey」と呼ばれる 1 つのキーを押すことで自動化タスクを起動する、キーボードショートカットを割り当てます。

「[タスクの Hotkey を設定する](#)」を参照してください。

7. Screen Security\* (スクリーンセキュリティ\*): Automation Anywhere では、スクリーンにアクションを表示せずにタスクを実行するよう指定できます。タスクの実行中キーボードとマウスを無効化することもできます。

\*購入版の EnterpriseClient でのみ利用可能。

---

## 関連トピック

- [タスクを実行する](#)
- [特殊キーを使用する](#)

### 特殊キーを使用する

記録中、タスクの特殊キーを使用することでタスクの生産性が上がる場合があります。

タスクの記録中と自動化タスクの再生中、Automation Anywhere で次の特殊キーが利用できます。





- タスクの実行を停止(強制終了)するには、ESC キーを 2~3 秒間押したままにします。Automation Anywhere では、実行中の自動化タスクを停止するホットキーを独自に構成することもできます。


強制終了したタスクを実行する際には、タスクは最初から開始されます。



- 実行中の自動化タスクを一時停止するには、[Pause/Break] (一時停止/中断) キーを押すか、[Run Time] (ランタイム) ウィンドウの

[Pause] (一時停止)  ボタンをクリックします。タスクを一時停止すると、[Run Time] (ランタイム) ウィンドウの [Resume] (再開)  ボタンが表示されます。

タスクの実行を継続するには、[Resume] (再開) ボタンをクリックします。

 備考: この機能は、他の目的でコンピューターを使用するために中断する必要がある長いタスクを実行するときに便利です。

## 関連トピック

- [タスクの記録、編集、実行](#)
- [Automation Anywhere Client を終了する](#)

## リモートデスクトップ接続を有効にする

このトピックでは、リモートデスクトップアプリケーションによる自動化プロセスの実行について説明します。


### 最小化されたセッションで自動化されたタスクを実行する

リモートデスクトップウィンドウ(リモートコンピューターのデスクトップを表示するウィンドウ)を最小化すると、オペレーティングシステムはリモートセッションを GUI 以外のモードに切り替えて、ウィンドウおよびコントロールを表示しません。

その結果、Automation Anywhere はアプリケーション GUI とやりとりできなくなります。この時点で、自動化された GUI タスクは失敗します。

リモートデスクトップウィンドウを最小化している時にリモートコンピューターで GUI タスクを実行するには、Automation Anywhere のリモートワークステーションに接続するコンピューターのレジストリキーを変更します。次の手順を実行します。


1. リモートコンピューターに接続するコンピューターにログインします。
2. 開かれているリモートデスクトップセッションをすべて閉じます。
3. [Start] (スタート) -> [Run] (実行) (または Windows + R)
4. [Run] (実行) ダイアログウィンドウで、「regedit」を入力して Enter を押します。
  - [Registry Editor] (レジストリエディター) が開きます。
5. リモートデスクトップ設定の変更を現在のユーザーのみに適用するか、そのコンピューターを使用するすべてのユーザーに適用するかによって、次のレジストリキーのどちらかに移動します。
  - HKEY\_CURRENT\_USER\Software\Microsoft\Terminal Server Client
  - HKEY\_LOCAL\_MACHINE\Software\Microsoft\Terminal Server Client
6. RemoteDesktop\_SuppressWhenMinimized という名前の DWORD 値を作成して 2 と設定します。
7. [Registry Editor] (レジストリエディター) を閉じます。
  - コンピューター上でリモートデスクトップ接続ウィンドウを最小化しても、リモートコンピューターの GUI が影響を受けずに、オートメーションタスクで GUI が利用できるようになります。

 **備考:** レジストリを変更すると、システム全体のパフォーマンスや機能が影響を受ける可能性があります。Automation Anywhere は、レジストリの変更によってシステムに生じる影響については責任を負いません。システム管理者と連携して作業することをおすすめします。

### VNC を使用する - リモートデスクトップの代替手段

一般的にリモートデスクトップアプリケーションでは、ウィンドウが最小時または閉じられた時は、自動化ソフトウェアのタスクの実行はできません。リモートデスクトップは、リモートマシンが接続されるたびにセッションを作成します。このセッションの中で、リモートマシンをコントロールするすべての権限が接続元のマシンに付与されます。

ただし、リモートウィンドウとの接続を切断しているか、リモートウィンドウを最小化している場合は、リモートデスクトップがそれらの権限を取得して、リモートマシンの GUI へのアクセスが失われます。これによって、自動化されたタスクがリモートシステムをコントロールできなくなり、予定どおりに実行されません。

 **ヒント:** バーチャルネットワークコンピューティング (VNC) を使用してサーバーに接続します。VNC では、セッションが最小化されている場合または切断されている場合でも、自動化されたタスクを実行できます。


- VNC は、リモートデスクトップとは異なる方法でリモートシステムとの接続を確立します。VNC は、接続毎にセッションを作成するのではなく、物理的にリモートシステムに接続します。VNC ウィンドウが最小化または切断されている場合でも、リモート GUI に対するコントロールが接続の中で保持されます。
- 自動化されたタスクは、ローカルマシンで実行されるのと同じように実行を継続できます。
- VNC について詳しくは、<http://www.realvnc.com/download/vnc/> を参照してください。

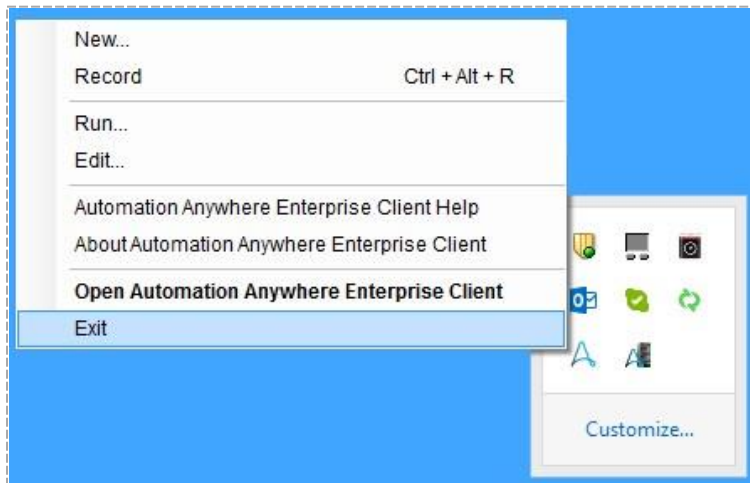
### Automation Anywhere を終了する

このトピックでは、Automation Anywhere を閉じて終了する方法について説明します。

以下のアクションのいずれかの方法でプログラムを終了できます。

1. クライアントウィンドウの右上の角にある「X」をクリックします。
2. [File] (ファイル) メニューをクリックし、[Exit] (終了) を選択します。
3. キーボードの ALT キーと F4 キーを同時に押します。

 **備考:** Automation Anywhere を完全に終了するには、スクリーンの右下の角にあるシステムトレイの Automation Anywhere アイコンを右クリックして、[Exit] (終了) オプションを選択します。



## 関連トピック

- [簡単なタスクを記録、編集、実行する](#) • [特殊キーを使用する](#)  
質問がある場合

Automation Anywhere について、以下の質問がある場合

- ソフトウェアやその機能の使用について
- お使いの環境でのソフトウェアのインストール、設定について
  - 自動化されたタスクの作成について
  - 購入に関する質問次のいずれかの方法でお問い合わせください。
- Automation Anywhere Knowledge Base Help System を利用する
- [Online Examples \(オンラインの例\)](#) を参照する • [テクニカルサポート](#) に問い合わせる

## テクニカルサポートに問い合わせる

Automation Anywhere は顧客対応の向上に尽力しています。当社のサポートチームはお客様の問題の早期解決を目指しています。

問題の種類に応じて、以下の手順を実行してください。

1. Automation Anywhere Knowledge Base Help System ([よくあるご質問など](#))を確認する
2. [オンラインの例](#)を参照して、一般的な自動化の使用例に関する簡単なソリューションを確認する
3. [オンラインのデモと動画](#)を表示する
4. [サポートケースを開く](#)

## サポートケースの開き方

サポートケースを開くには、[テクニカルサポート](#)に問い合わせます。サポート担当者が可能な限り早くご連絡いたします。



その他のヘルプを入手する

より複雑な質問がある場合は、次のいずれかの Automation Anywhere サービスをご利用ください。

1. [ライブの 1 対 1 デモ](#)をリクエストする(ほとんどの場合、無料)
2. [Ask the Expert サービス](#)を利用する(ほとんどの場合、無料)
3. Automation Anywhere [コンサルティングサービス](#)を利用する(有料サービス)これらのオプションの価格については、[当社](#)までお問い合わせください。

ライブの 1 対 1 デモをリクエストする • Automation Anywhere の機能について、具体的な質問がある場合 • 特定のプロセスを自動化する方法について、お困りの場合

- プロセスの自動化中にアプリケーションを操作する方法についてのご質問がある場合

これらの問題については、Automation Anywhere のサポートチームまでお問い合わせください。

サポートチームから、機能の紹介、ご質問への回答、さまざまな自動化のシナリオをご案内いたします。

[ライブデモをリクエスト](#)してください。

より複雑な問題の場合は

Automation Anywhere のコンサルティングサービスの詳細は[こちら](#)をご覧ください。より複雑なプロセスを自動化するお手伝いをしています。

Ask the Expert サービスを利用する • Automation Anywhere の機能  
について、基本的な質問がある場合

- Word、Excel、その他の Microsoft Office 製品など、一般的なアプリケーションを使用するプロセスを自動化しようとしている場合 • アカウント、ソフトウェアバージョン、環境について質問がある場合

以上のトピックでサポートが必要な場合、Automation Anywhere [Ask the Expert](#) チームまでお問い合わせください。

知識の豊富なチームメンバーが質問にお答えし、プロセスを短期間で自動化できるようにサポートします。

より複雑な問題の場合は

Automation Anywhere のコンサルティングサービスの詳細は[こちら](#)をご覧ください。より複雑なプロセスを自動化するお手伝いをしています。

Automation Anywhere コンサルティングサービスを利用する

Automation Anywhere チームは、業務プロセス自動化分野における業界のエキスパートが主導しています。世界中で大手企業の主要事業と IT プロセスの自動化を支援してきました。

Automation Anywhere チームは、自動化実装の合理化を進め、お客様の ROI を最大限に高めることに力を注いでいます。

長年にわたる経験と実装にかかる時間を大幅に削減するベストプラクティスにより、お客様のチームを確実に成功へと導きます。

当社のサービスコンサルタントは、専門的で効果的な実地トレーニングを提供し、実装を行う体制ができています。

オンサイトとリモートの両方で実装サービスが利用できます。内容は以下のとおりです。

- シンプルなものから複雑なプロジェクトまで、自動化の実装とコンサルティング • お客様の目的をしっかりと重視
- ROI を最大化してリスクを最小に抑える、業務と IT プロセスの自動化に関するベストプラクティス
- Automation Anywhere コンサルティングチームに申し込みされると、お客様の分野、要件、技術、環境に詳しいカスタマーエージェントがお客様専任の担当となります。
- 必要に応じて、担当のコンサルタントがお客様のコンピューターにリモートでログインして、プロセスの自動化を補助し、プロジェクトをガイドします。

Automation Anywhere は、以下のようなあらゆるプロセスの自動化を支援します。

1. 業務プロセス
2. IT プロセス
3. Web からデータを抽出
4. 1 つのアプリケーションから別のアプリケーションにデータを転送
5. ERP (統合型業務) データ入力と統合化プロセス
6. ファイルとデータの管理プロセス

当社のコンサルティングサービスについて詳しくお知りになりたい場合は、[Consulting Services Request Form](#) にご登録ください。営業担当者より早急にご連絡いたします。

## セクション: TaskBot を作成する

## ベストプラクティス – タスクを記録および実行する

タスクを記録して実行するには、このトピックに記載されているプラクティスに従う必要があります。

### タスクを記録するためのベストプラクティス

- マウスクリックの使用は避ける。タスクの記録中はできるだけマウスクリックではなく、キーストロークとショートカットを使用します。マウスクリックを避けることで、オブジェクトやアイコンの位置が変わったとしてもタスクが確実に正常に実行されるようになります。
- できるだけキーストロークを使用する。キーボードによるキーストロークは、記録の信頼性と整合性を高めます。
- 記録中はキーボードのショートカットを使用する。ショートカットを使用することで、マウスクリックやマウスの移動への依存を低減し、タスクの堅牢性を高めます。アプリケーションのメニューでキーボードのショートカットを検索できます。またはキーボードの ALT キーを押すとスクリーン上にショートカットが強調表示されます。
- すべてのウィンドウを最大表示する。ウィンドウや Web オブジェクトがタスクの実行中に常に表示されるようにするには、記録中にすべてのウィンドウを必ず最大化してから処理を行います。
- 処理と無関係なアプリケーションをクリックしない。タスクの記録中、自動化する処理の一部ではないアプリケーションをクリックすることは避けられます。
- 処理の実行中、コンピューター上で開いていないアプリケーションのコマンドを実行しようとすると、次のエラーメッセージが表示されます「アプリケーションが見つかりません。」
- タスクの記録は低速で行う。実行中にタスクが処理手順を飛ばすことのないよう、タスクの記録は適度な速度で行い、すべてのアプリケーションを完全に開いて処理するのに十分な時間を確保するようにします。
- 記録中はウィンドウをドラッグしない。一般的に、プロセスを効率的に自動化するためには、ウィンドウの最小化、最大化、移動などのウィンドウアクションを含めないようにします。これらのアクションのいずれかを記録する必要がある場合は、タスクを編集してそのアクションを削除します。

### 記録されたタスクを実行するためのベストプラクティス

- アプリケーションウィンドウを正しく開く。ウィンドウ処理を記録するのに Standard Recorder を使用すると、タスクの実行時に問題が生じる可能性があります。処理中のアプリケーションでランタイムエラーを最小限に抑えるには、次のガイドラインに従います。
  - Workbench を使用して Open Program/File(プログラム/ファイルを開く)コマンドを追加する。
- アプリケーションウィンドウが正しく開かなくなる可能性をなくすには、Workbench を使用して If Window exists(ウィンドウの有無を確認)コマンドを追加します。このコマンドでは、まずウィンドウを確認してから開きます。If Window exists(ウィンドウの有無を確認)コマンドはコマンドリストの「If」条件にリストされています。
- このコマンドと Open Program/File(プログラム/ファイルを開く)コマンドまたは Open Browser(ブラウザーを開く)コマンドを組み合わせると特定のアプリケーションを起動します。
- Delay 'Wait for window'(「ウィンドウを待機」を遅延)コマンドを使用することもできます。ウィンドウが存在しない場合、次のアクションを待機、継続するか、タスクを中止するオプションを提供します。
  - 記録中にアプリケーションアイコンをダブルクリックしてアプリケーションを起動しません。その代わりに、Workbench で記録されたタスクを開き、Open Program/ File(プログラム/ファイルを開く)コマンドを使用し、マウスクリックを置換します。
  - Open Program/ File(プログラム/ファイルを開く)コマンドなどの Workbench コマンドを使用しない場合は、タスクを実行する前に必ず必要なウィンドウを開いておくようにします。
- Standard Recorder のほとんどのコマンドはマウスクリックとキーボードのキーストロークに基づくため、タスクの実行前にプロセスで使用するアプリケーションウィンドウが開かれていることを確認します。
- マウスとキーボードを移動しない。Standard Recorder では記録されたタスクの実行中はマウスとキーボードを使用します。エラーを避けるため、タスクの実行中はこれらを使用しないようにします。タスク実行の進行状況を追跡するには、スクリーン下部に表示される進行状況ウィンドウのみを使用します。
- Manage Windows Controls(ウィンドウコントロールを管理)と Image Recognition(画像認識)を使用する。これらの高度な機能を使用すれば、マウスクリックを使用することなくコントロールのキャプチャや画像のクリックができます。
- Workbench を使用してタスクに強力な機能を追加する。Workbench にはタスクの効率性と機能性を高めるために使用可能な幅広いコマンドメニューがあります。「If/Else」文などのコマンド、ループ、変数をタスクに追加します。
- ワイルドカードを使用する。Image Recognition(画像認識)コマンドと次の IF/Else コマンドにワイルドカード(\*)を指定できます: Window Exists(ウィンドウが存在します)/Window Does Not Exist(ウィンドウが存在しません)。
- たとえば、タイトルに「Microsoft」という語を含むすべてのウィンドウの処理を実行するには、ワイルドカードを使用してウィンドウを特定します。

Specify: IF Window Exists \*Microsoft\*

### 自動化タスクを記録する

Automation Anywhere には、自動化タスクを作成する方法がいくつかあります。信頼できるタスクを作成するには、正しい方法を選択する必要があります。

自動化タスクを計画するときは、必ずタスクの動作に最もよく適合するレコーダー(または Workbench)を選択します。

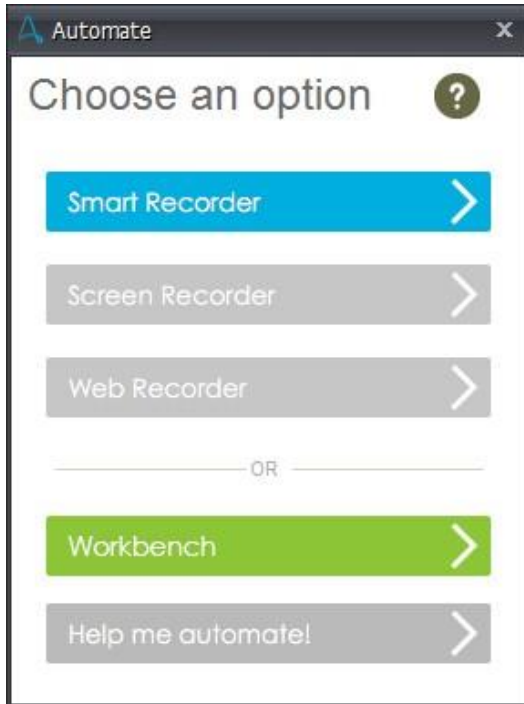
記録方式を選択する

ほとんどのケースでは、ユーザーは自動化するプロセスのタイプに応じてレコーダーを選択します。たとえば、Web サイトからデータを抽出する Web アプリケーションに基づくプロセスの場合、Web Recorder を選択します。

新しいタスクを記録するには、クライアントスクリーン上部の [New] (新規) ボタンをクリックします。



表示されたウィンドウで、タスクを作成するための方法を選択できます。



- Smart Recorder (スマートレコーダー) - HTML、.Net、WPF、Java、Flex、Silverlight など、さまざまなテクノロジーを使用しているさまざまなアプリケーションからオブジェクトをキャプチャできます。これらはひとまとまりの Object Cloning コマンドとして保存されます。詳しくは、「[Smart Recorder を使用する](#)」を参照してください。
- Screen (Standard) Recorder (スクリーン(標準)レコーダー) - 記録先と同じ機械で実行する必要があるタスクを記録するために使用します。マウスクリックやキーボード操作を記録します。詳しくは、「[スクリーン/標準レコーダーを使用する](#)」を参照してください。
- Web Recorder (Web レコーダー) - すべての Web コントロールを把握できます。このため、Web 限定タスクを記録するときに該当します。各ページの Web サイトコントロールの場所が移動する場合、プログラムで正しいコントロールの場所を把握し、タスクを調整して、実行時のエラー発生を防止できます。Web コントロールのプロパティが変化すると、自動化タスクを更新してタスクが正常に実行されるようにできます。詳しくは、「[Web Recorder を使用する](#)」を参照してください。
- Workbench - タスクを手動で作成するとき使用します。エディターに表示されているコマンドを使用して、関連アクションをタスクに割り当てることができます。詳しくは、「[Workbench を使用する](#)」を参照してください。

Web Recorder を使用する

Web アプリケーションまたはブラウザを伴うプロセス(タスク)を自動化するには、Web Recorder を使用します。以下のすべての Web オブジェクトおよびコントロールを認識します。

- URL コマンドライン
- ドロップダウンメニューおよびコマンドバーアイコン
- Web ページのテキストフィールド、図形、ボタン
- ナビゲーションとホットスポットリンク
- フォーム

 備考: Web ページのレイアウトが変更されて、Web コントロールがページ上の別の場所に移動しても、Automation Anywhere はこれらのコントロールの新しい場所を特定して、正常にタスクを実行できます。

一般的な使用事例




ほとんどの場合、以下のアクションを実行するために Web Recorder が使用されます。

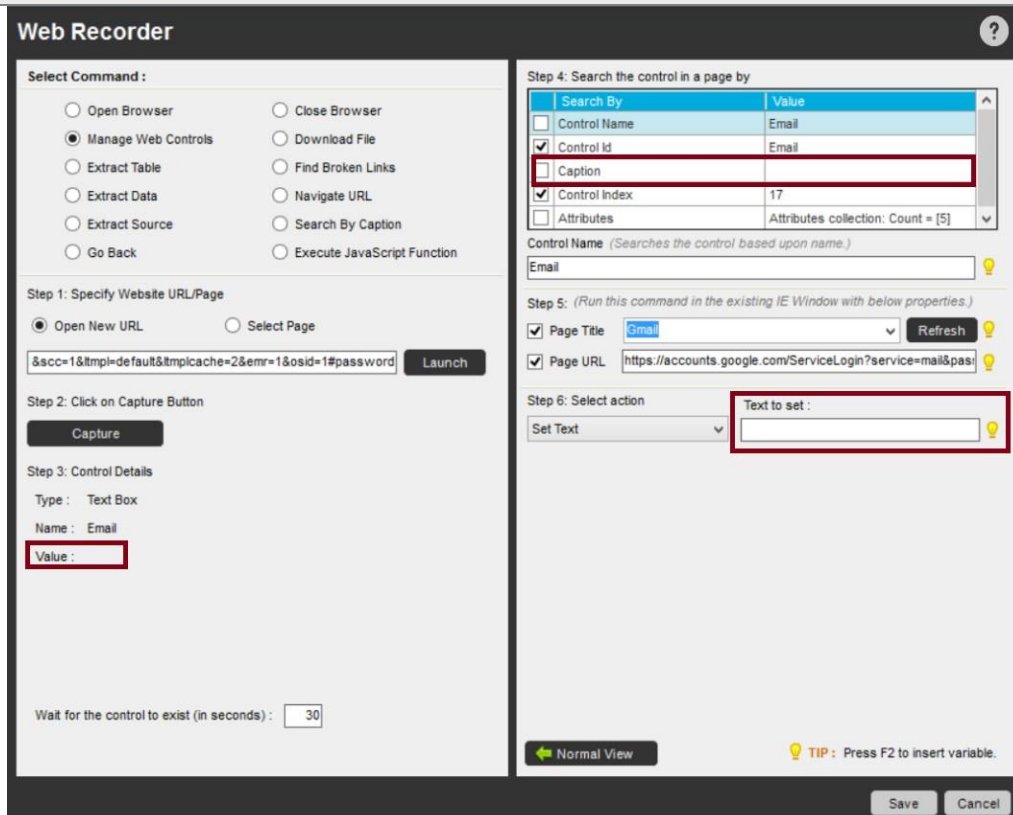
- 複数の Web ページから繰り返しデータを抽出する
- Web ページの表からデータを抽出する
- Web フォームのファイリング

以下のプロセス(タスク)を自動化する場合に Web Recorder を使用します。

- Web ページを開く
- Web サイトへログインする
- 検索する
- フォームにデータを入力して送信する
- データを抽出してデータベースのレコードを更新する
- Web ベースの ERP(統合業務)システムを使用する
- Web データをローカルファイルに抽出する
- オンラインアプリケーションをテストする

## セキュアレコーディングが[有効]の場合

 備考: [Secure Recording mode] (セキュアレコーディングモード)を有効にした場合: 値、キャプション、デフォルトのテキストはキャプチャされません。また、[Extract Data] (データを抽出)と[Extract Multiple Data] (複数のデータを抽出)では値がキャプチャされません。詳しくは[こちら](#)を参照してください。



The screenshot shows the Web Recorder configuration window with the following sections:

- Select Command:** Includes options like Open Browser, Manage Web Controls, Extract Data, etc.
- Step 1: Specify Website URL/Page:** Shows 'Open New URL' selected with a URL field containing a placeholder and a 'Launch' button.
- Step 2: Click on Capture Button:** Shows a 'Capture' button.
- Step 3: Control Details:** Shows 'Type: Text Box', 'Name: Email', and 'Value:' field (highlighted with a red box).
- Step 4: Search the control in a page by:** A table with columns 'Search By' and 'Value'.
 

Search By	Value
<input type="checkbox"/> Control Name	Email
<input checked="" type="checkbox"/> Control Id	Email
<input type="checkbox"/> Caption	
<input checked="" type="checkbox"/> Control Index	17
<input type="checkbox"/> Attributes	Attributes collection: Count = [5]
- Step 5: (Run this command in the existing IE Window with below properties.):** Shows 'Page Title' set to 'Gmail' and 'Page URL' set to 'https://accounts.google.com/ServiceLogin?service=mail&pas'. A 'Refresh' button is present.
- Step 6: Select action:** Shows 'Set Text' selected and a 'Text to set:' field (highlighted with a red box).

## 関連トピック • [Web サイトからデータを](#)

### [抽出する](#)

Web Recorder で Web アクションを記録する

Web Recorder は多くの場合、Web 限定アプリケーションのアクションを記録するために使用されます。

Web Recorder で Web サイトのアクションを記録するには、次の手順を実行します。

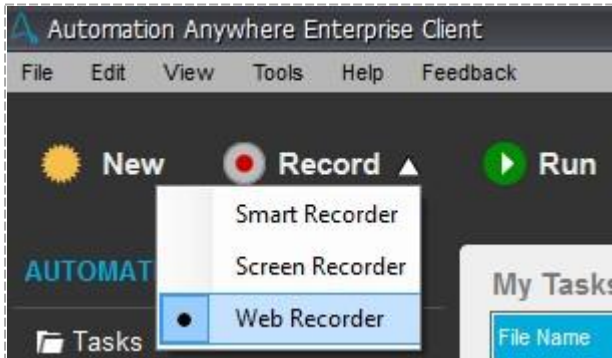
1. [Automation Anywhere]のメインウィンドウで、次のいずれかの方法で Web Recorder を起動します。
  - [New Task] (新しいタスク) ボタンをクリックし、[Web Recorder] (Web レコーダー) を選択します。



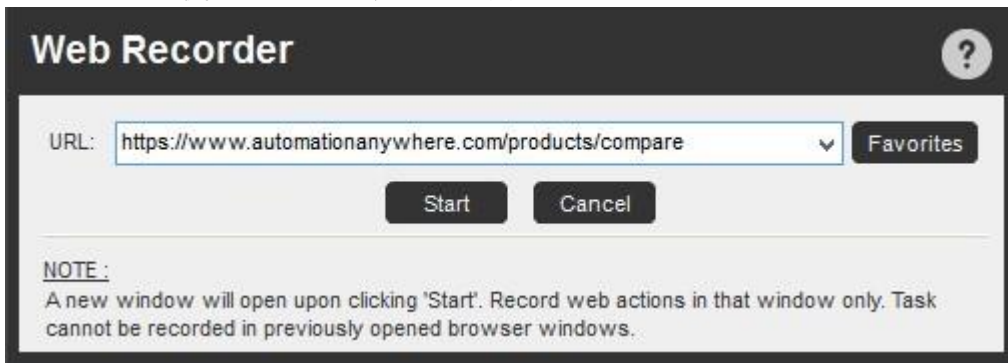
- または、上部の[Web Recorder](Web レコーダー)リンクをクリックします。



- レコーダーのリストから[Web Recorder](Web レコーダー)を選択します。



Web Recorder の最初のウィンドウが表示されます。

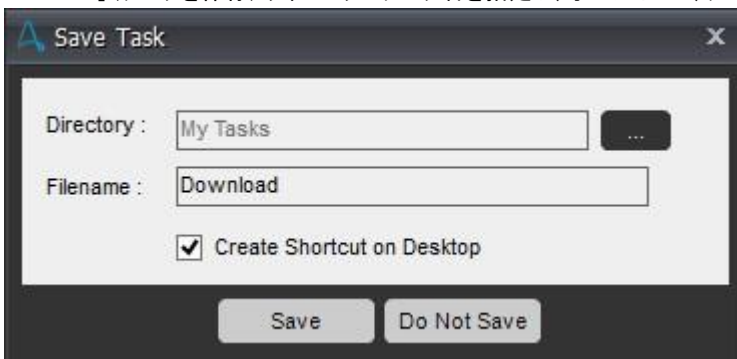


1. アクションを記録する Web サイトのアドレス(URL)を入力し、[Start](開始)をクリックします。今後、簡単にアクセスできるように、この URL を [Favorites](お気に入り)に追加できます。



Web Recorder のツールバーが表示され、Internet Explorer が Web サイトの新しいウィンドウで起動します。


2. ボタンのクリック、リンクのクリック、テキストの入力など、Web サイトで自分に必要なアクションを実行します。
3. Web Recorder ツールバーで[Stop Recording](記録を停止)ボタンをクリックします。
4. [Save Task](タスクを保存)ウィンドウでタスク名を指定し、オプションで、タスクを保存するフォルダーを選択し、[Save](保存)を保存します。



6. タスクを実行するには、該当するタスクをダブルクリックする、または選択し、[Run] (実行) ボタンをクリックします。



7. タスクの実行を停止するには、エスケープ(ESC)キーを 2~3 秒間押したままにします。タスクの実行を停止するための Hotkey を自分で設定することもできます。詳しくは、「[クライアントの Hotkey を定義する](#)」を参照してください。

 備考: Task Editor を使用してタスクを編集すると、プログラムによって Web Recorder (Web レコーダー) コマンドとタスク記録中に使用されたオブジェクトが表示されます。

---

関連トピック • [通常の Web データ](#)

[を抽出する](#)

- [パターンベースのデータを抽出する](#) • [テーブルデータを抽出する](#)

## Web サイトからデータを抽出する

Web サイトからのデータ抽出には、抽出するデータの種類によって 4 つの形式があります。

- 通常データ: 反復的なパターンを持たない非構造化データ。一例として、テキストの段落があります。
- パターンベースのデータ: テーブル内の行やリストなど、パターンを繰り返す構造化データ。
- テーブルデータ: テーブル内のデータ。

---

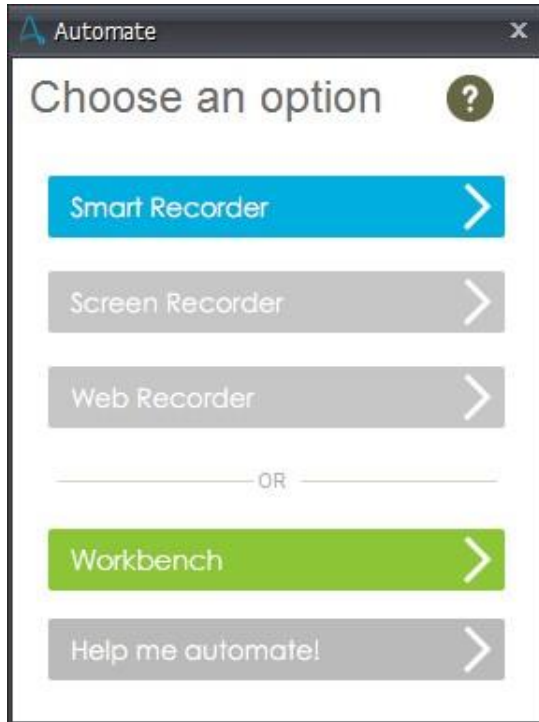
## 関連トピック

- [通常 Web データを抽出する](#)
- [パターンベースのデータを抽出する](#) • [テーブルデータを抽出する](#)

## 通常の Web データを抽出する

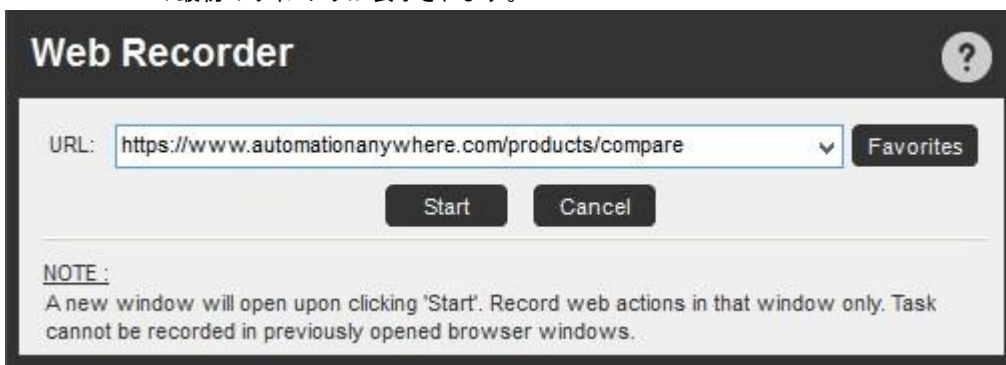
Web サイトから通常のデータを抽出するには、次の手順を実行します。

1. [Automation Anywhere]のメインウィンドウで、次のいずれかの方法で Web Recorder を起動します。
  - [New] (新規) ボタンをクリックし、[Web Recorder] (Web レコーダー) を選択します。



- または、上部の [Web Recorder] (Web レコーダー) リンクをクリックします。
- または、[Tools] (ツール) メニューをクリックし、[Web Recorder] (Web レコーダー) を選択します。


Web Recorder の最初のウィンドウが表示されます。



2. データを抽出する Web サイトのアドレス (URL) を入力し、[Start] (開始) をクリックします。


プログラムに [Web Recorder Tip] (Web レコーダーのヒント) ウィンドウが表示されます。



 備考: プログラムにヒントを表示しないようにするには、[Don't show this message again] (今後、このメッセージを表示しない) を選択します。

Web Recorder のツールバーが表示され、Internet Explorer が Web サイトの新しいウィンドウで起動します。



 備考: この機能は Internet Explorer でのみ動作します。

- これで、マウスクリックやテキスト入力など、任意のアクションを実行できます。通常のデータを Web サイトから抽出するには、Web Recorder ツールバーで [Extract Data] (データを抽出) ボタンをクリックします。

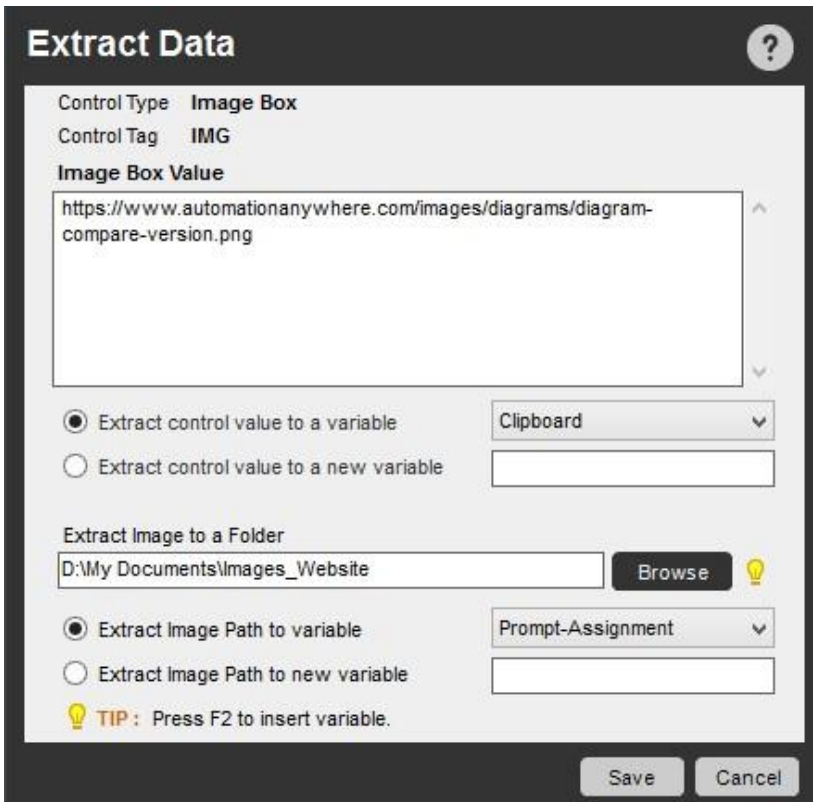
[Extract Data Option] (データの抽出オプション) ウィンドウが表示されます。



- [Regular Data] (通常のデータ) ラジオボタンを選択し、[Next] (次へ) をクリックします。
- これで抽出するデータを強調表示できます。

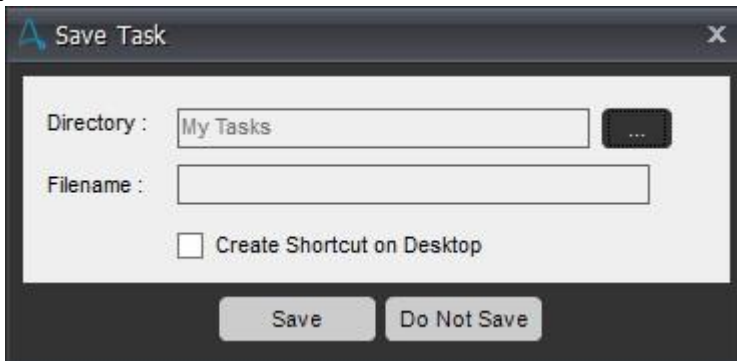
**Please click on the data you want to extract. Press 'Esc' to cancel and continue recording.**

- テキストを強調表示した後、選択したテキストを含む [Extract Data] (データを抽出) ウィンドウが表示されます。




- コピーしたテキストをタスク内に存在する変数に保存します。
- オプションで、コントロール URL を新しい変数またはタスク内に存在する変数のいずれかに保存します。

9. データ抽出のために「Before」(前)および「After」(後)のキーワードを割り当てることもできます。
10. [保存]をクリックします。
11. Web Recorder ツールバーで[Stop Recording] (記録を停止) ボタンをクリックします。
12. [Save Task] (タスクを保存) ウィンドウがポップアップ表示されます。ここではタスク名を指定できます。オプションで、タスクを保存するフォルダーを選択し、[Save] (保存) を保存します。オプションでパスワードを指定し、未承認ユーザーによるタスクの実行を防止することもできます。



13. [保存]をクリックします。

 ヒント:

1. タスクの実行を停止するには、エスケープ(ESC)キーを2~3秒間押したままにします。
2. タスクの実行を停止するためのホットキーを自分で設定することもできます。

関連トピック・ [パターンベースのデータを抽出する](#)・ [テーブルデータを抽出する](#)

### パターンベースのデータを抽出する

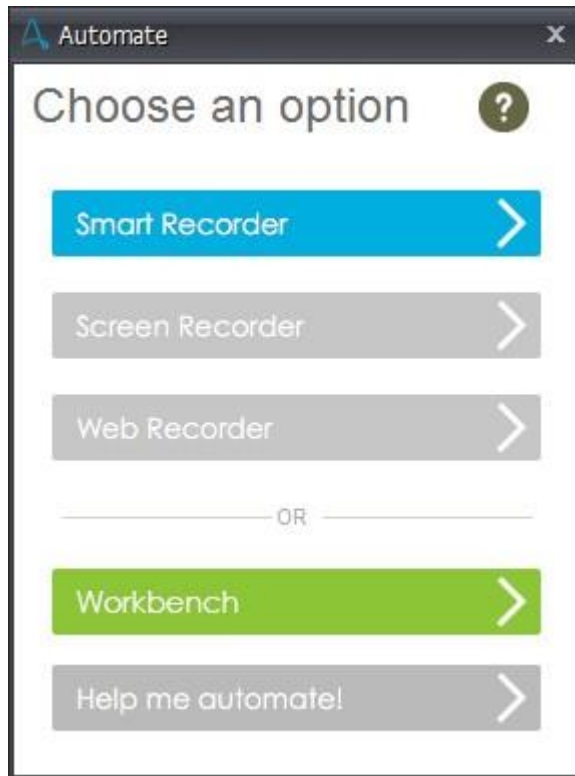
たとえば複数のページにわたる、リンクなどの要素を含むデータを抽出する場合は、[Extract Data] (データを抽出) で [Pattern Data] (パターンデータ) オプションを使用できます。

Web サイトからパターンベースのデータを抽出するには、次の手順を実行します。

1. [Automation Anywhere] のメインウィンドウで、次のいずれかの方法で Web Recorder を起動します。
  - [New] (新規) ボタンをクリックし、[Web Recorder] (Web レコーダー) を選択します。

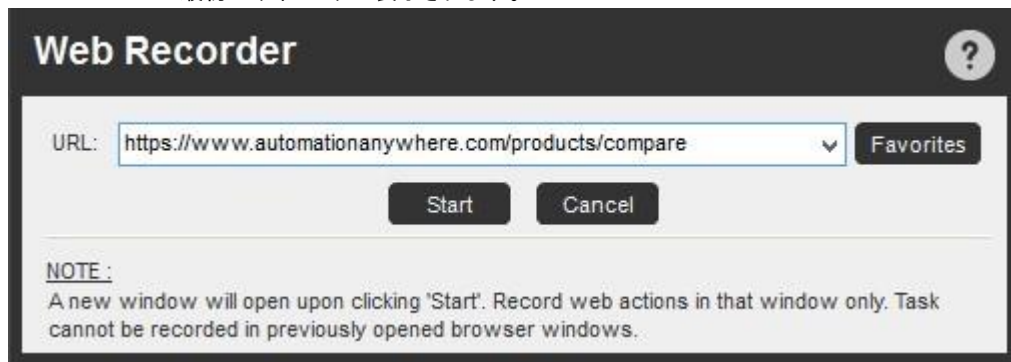







- 上部の[Web Recorder] (Web レコーダー)リンクをクリックします。
- [Tools] (ツール)メニューをクリックし、[Web Recorder] (Web レコーダー)を選択します。

Web Recorder の最初のウィンドウが表示されます。



2. プログラムに[Web Recorder Tip] (Web レコーダーのヒント)ウィンドウが表示されます。



 備考: プログラムにヒントを表示しないようにするには、[Don't show this message again] (今後、このメッセージを表示しない)を選択します。

Web Recorder のツールバーが表示され、Internet Explorer が Web サイトの新しいウィンドウで起動します。



 備考: この機能は Internet Explorer でのみ動作します。



3. これで、マウスクリックやテキスト入力など、任意のアクションを実行できます。通常のデータを Web サイトから抽出するには、Web Recorder ツールバーで [Extract Data] (データを抽出) ボタンをクリックします。

[Extract Data Option] (データの抽出オプション) ウィンドウが表示されます。

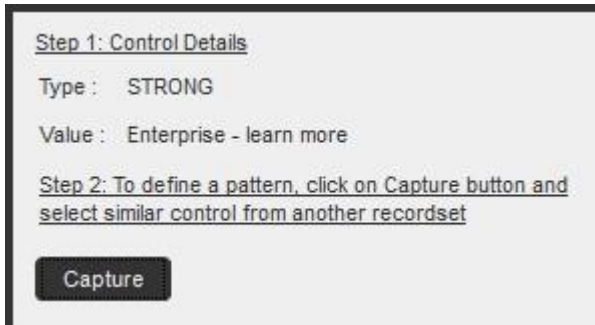


The image shows a dialog box titled "Extract Data" with a question mark icon in the top right corner. It contains two radio button options: "Regular data" and "Pattern based data". The "Pattern based data" option is selected. At the bottom, there are two buttons: "Next" and "Close".

4. [Pattern-based Data] (パターンベースのデータ) ラジオボタンを選択し、[Next] (次へ) をクリックします。
5. これで抽出するデータを強調表示できます。

**Please click on the data you want to extract. Press 'Esc' to cancel and continue recording.**

6. これを使用してパターンを設定するには:
  - a. テキストの 1 行目を強調表示し、ポップアップ表示されるウィンドウで [Capture] (キャプチャ) をクリックします。



The image shows a dialog box titled "Step 1: Control Details". It displays "Type: STRONG" and "Value: Enterprise - learn more". Below this, it says "Step 2: To define a pattern, click on Capture button and select similar control from another recordset". At the bottom, there is a "Capture" button.

- b. テキストの 2 行目を強調表示します。これでパターンが設定されます。[Extract Data Field] (データフィールドを抽出) ウィンドウが表示されます。



The image shows a dialog box titled "Extract data field". It has a table-like structure with the following fields: "Control Type" (STRONG), "Value" (Enterprise - learn more), "Enter Column Name" (Product\_Heading), and "Select Action" (Get Text). At the bottom, there are "Save" and "Cancel" buttons.

- c. [Enter Column Name] (列名を入力) フィールドに名前を入力し、[Save] (保存) をクリックします。
  - 保存した列名を含む [Extract Multiple Data] (複数のデータを抽出) ウィンドウが表示されます。



[Extract Multiple Data] (複数のデータを抽出) ウィンドウでは、いくつかのことができます。

- Add (追加): [Add] (追加) ボタンをクリックして Web サイトから追加データを選択し、キャプチャする別のパターンを追加します。データフィールドは [Classified Data Fields] (分類されたデータフィールド) に自動的に表示されます。
- Edit (編集): [Edit] (編集) ボタンをクリックしてパターン名を変更します。
- Delete (削除): [Delete] (削除) ボタンをクリックして 1 つ以上のパターンを削除します。
- Copy (コピー): [Copy] (コピー) ボタンをクリックして 1 つ以上のパターンをコピーします。
- Paste (貼り付け): [Paste] (貼り付け) ボタンをクリックしてコピーされたパターンを 1 つ以上貼り付けます。
- 完了したら、[Next] (次へ) をクリックします。

[Extract Multiple Data] (複数のデータを抽出) の 2 つ目のウィンドウが表示されます。

## Extract Multiple Data

1 Select Fields      2 Select Repetition      3 Preview Data

The data spans across multiple pages

**Note :** To extract pattern based data from multiple pages, click on 'Capture' button and then select the button/link control that loads the next page.

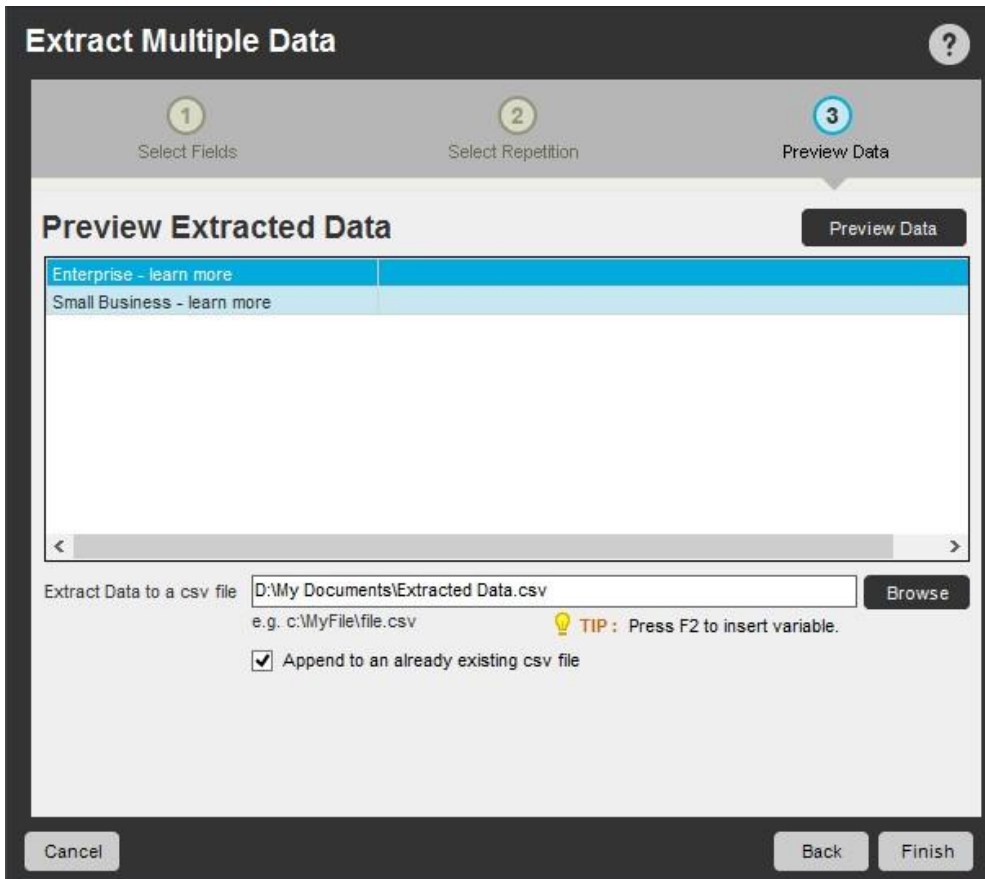
Next Button Details

Control Type : Capture

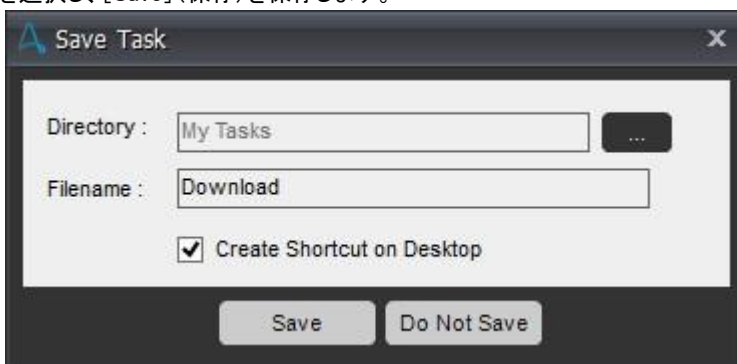
Value :


Cancel      Back      Next

- Web サイト内の複数のページからパターン化されたデータを抽出する場合は、次のチェックボックスをクリックします： [The data spans across multiple pages] (データは複数のページにわたります)
- [Capture] (キャプチャ) ボタンを使用して、次のページに移動するコントロール名をキャプチャします。複数の Web ページから抽出された画像は、異なるファイルに保存されます。
- 完了したら、[Next] (次へ) をクリックします。 [Preview Data] (データをプレビュー) セクションが表示されます。



- [Preview Data] (データをプレビュー) セクションには、キャプチャされたデータのプレビューが表示されます。抽出した画像やデータを必要に応じて、別々のフォルダーに CSV ファイルとして保存します。
- [Finish] (終了) をクリックします。
- Web Recorder ツールバーで [Stop Recording] (記録を停止) ボタンをクリックします。
- [Save Task] (タスクを保存) ウィンドウがポップアップ表示されます。ここではタスク名を指定できます。オプションで、タスクを保存するフォルダーを選択し、[Save] (保存) を保存します。



 備考: 無料版では、表示目的でのみ 5 ページのデータ抽出をサポートしています。購入版にこの制限はありません。

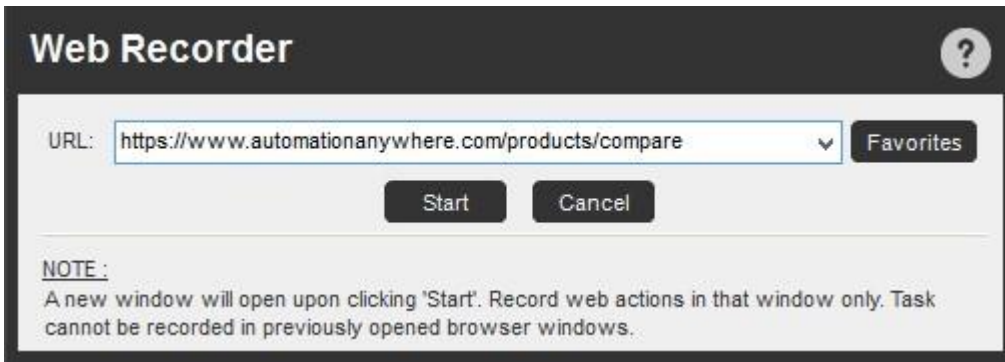
関連トピック • [通常の Web データを抽出する](#) • [テーブルデータを抽出する](#)

### テーブルデータを抽出する

Web ページ上のテーブルからデータを抽出するには、Web Recorder の視覚的なガイドに従って行います。

多くの Web サイトでは、データが HTML テーブルに整理されています。[Extract Table] (テーブルを抽出)を使用すると、表形式データを Excel や Access などほとんどのスプレッドシートおよびデータベースアプリケーションで開くことのできる CSV (カンマ区切り)ファイルに簡単に保存できます。


1. Web Recorder を起動:



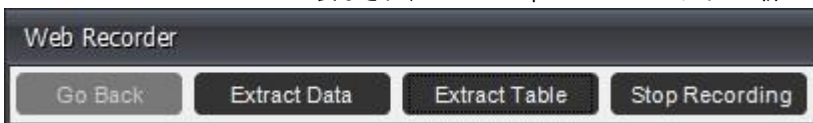
2. データを抽出する Web サイトのアドレス (URL) を入力し、[Start] (開始) をクリックします。

プログラムに [Web Recorder Tip] (Web レコーダーのヒント) ウィンドウが表示されます。




 備考: プログラムにヒントを表示しないようにするには、[Don't show this message again] (今後、このメッセージを表示しない) を選択します。

Web Recorder のツールバーが表示され、Internet Explorer が Web サイトの新しいウィンドウで起動します。



3. これで、マウスクリックやテキスト入力など、任意のアクションを実行できます。テーブルデータを Web サイトから抽出またはコピーするには、[Web Recorder] ツールバーで [Extract Table] (テーブルを抽出) ボタンをクリックします。
4. 抽出するテーブルに黄色いプロンプトバーを移動させてクリックします。

**Click on the table you want to extract from the page. Press 'Esc' to cancel and continue recording.**

 備考: クリックした内容がテーブルではない場合は、黄色いプロンプトバーが赤色に変わります。

テーブル内のデータのプレビューが [Extracted Table] (抽出したテーブル) ウィンドウで表示されます。

### Extracted Table

Preview (Up to 50 rows)

Sr. No.	Column1	Column2	Column3	Column4	Column5
1	Feature	Standard	Premier	Small Business	Enterprise
2		\$995	\$2,995	\$8,000	Call1-800-456-7890
3		For individuals a...	For individuals lo...	For teams lookin...	For cc...
4	Record				
5	Task Editor				
6	Web Recorder				
7	Scheduler				
8	FTP/SFTP				
9	Multi task editing				
10	Excel Integration				
11	Web Data Extrac...	Limited			
12	Available Actions	275+	400+	530+	575+
13	Triggers				
14	Auto Login				

The table spans across multiple pages

**Note :** To extract tabular data from multiple pages, click on 'Capture' button and then select the button/link control that loads the next page.

Next Button Details

Control Type :  Capture

Value :

Cancel Next

5. テーブルが複数のページにわたる場合は、以下のチェックボックスをクリックします: [The table spans across multiple pages] (テーブルは複数のページにわたります)  
 [Capture] (キャプチャ) ボタンを使用して、次のページに移動するコントロール名をキャプチャします。
6. 完了したら [Next] (次へ) をクリックし、抽出したテーブルをプレビュー、保存します。

### Extracted Table

Preview (Up to 50 rows)

Sr. No.	Column1	Column2	Column3	Column4	Column5
1	Feature	Standard	Premier	Small Business	Enterprise
2		\$995	\$2,995	\$8,000	Call1-800-456-7890
3		For individuals a...	For individuals lo...	For teams lookin...	For cc...
4	Record				
5	Task Editor				
6	Web Recorder				
7	Scheduler				
8	FTP/SFTP				
9	Multi task editing				
10	Excel Integration				
11	Web Data Extrac...	Limited			
12	Available Actions	275+	400+	530+	575+
13	Triggers				
14	Auto Login				

Table No.

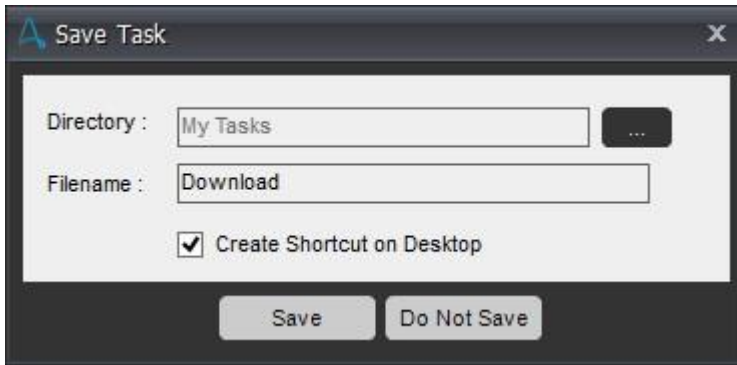
Extract Table Data to a csv file :  Browse 💡


Append to an already existing csv file

Session Name  💡 💡 TIP: Press F2 to insert variable

Cancel Back Finish

7. テーブルを CSV(カンマ区切り)ファイルとして、選択した場所に保存します。[Append to an existing CSV file] (既存の CSV ファイルに追加) チェックボックスを使用して、抽出したデータを既存の CSV ファイルに追加することもできます。
8. [Finish] (終了) をクリックします。
9. Web Recorder ツールバーで [Stop Recording] (記録を停止) ボタンをクリックします。
10. [Save Task] (タスクを保存) ウィンドウでタスク名を指定し、オプションで、タスクを保存するフォルダーを選択し、[Save] (保存) を保存します。  
オプションでパスワードを指定し、未承認ユーザーによるタスクの実行を防止することもできます。



 備考: 無料版では、表示目的でのみ 5 ページのデータ抽出をサポートしています。購入版にこの制限はありません。

関連トピック • [通常の Web データ](#)

[を抽出する](#)

- [パターンベースのデータを抽出する](#)




## スクリーン／標準レコーダーを使用する

Screen Recorder(10.0 より前のバージョンでは StandardRecorder という名称)を使用して、次の場合にタスクや一連のアクションを記録できます。

- マウスクリックとキーボード操作を伴う簡単なタスクを構築する場合。
- プロセスを記録したのと同じコンピューター上で自動化されたプロセス(記録されたタスク)を実行する場合。スクリーン表示の座標がタスクの記録時と同じであることが保証されます。

Screen Recorder を使用してタスクを記録する

- Screen Recorder を使用してオートメーションタスクを作成するには、次の 4 つのいずれかの方法で起動します。

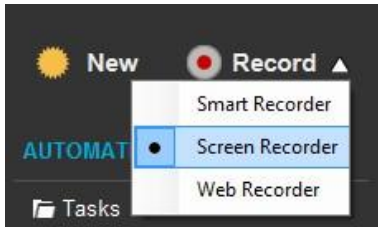
 備考: オプション 3 と 4 が機能するには、[Record] (記録) のドロップダウンリストで「Screen Recorder」がデフォルトレコーダーとして選択されている必要があります。

- [Record] (記録) ボタンのドロップダウンリストを使用する

- メインウィンドウで、上部にある [Record] (記録) ボタンの横の [下向き矢印] をクリックします。



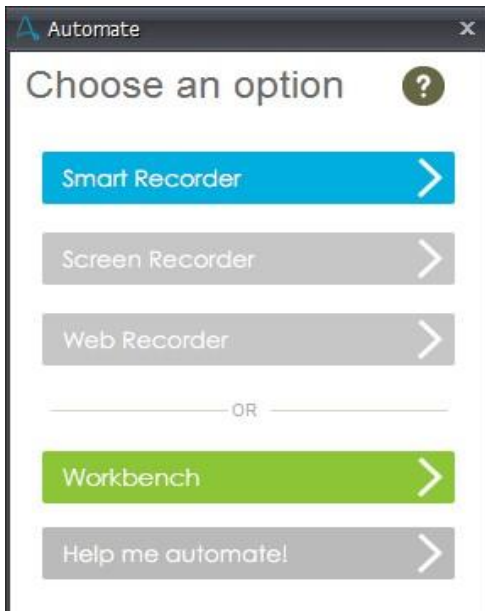
- 次のとおり、[Screen Recorder] を選択します。



- Choose an Option (オプションの選択) を使用する • [New] (新規) タスクボタンをクリックします。



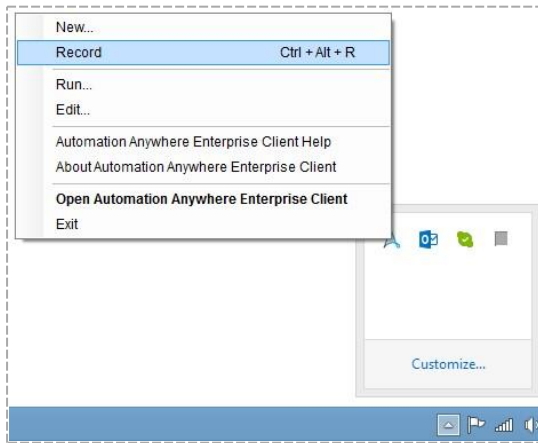
- [Choose an option] (オプションの選択) ダイアログで [Screen Recorder] を選択します。



- システムトレイのコンテキストメニューから [Record] (記録) オプションを使用する

- システムトレイの Anywhere Enterprise Client を右クリックします。

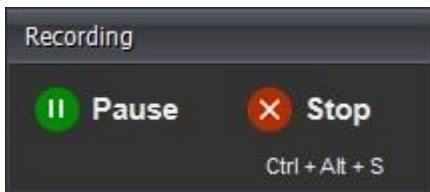





- [Record] (記録) を選択します。


4. ショートカットキーの「Ctrl + Alt + R」を使用する

- Automation Anywhere ウィンドウが最小化して、[Recording] (記録) ツールバーがコンピュータスクリーンの右下隅に表示されます。



 備考: 必要に応じて、記録操作を一時停止して再開することもできます。

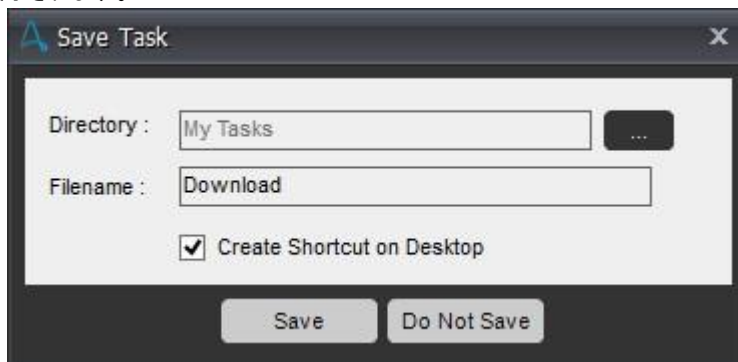
2. タスクを記録するコンピューター上ですべてのアクションを実行します。

 備考: 記録中、Screen Recorder はデスクトップで開かれているさまざまなウィンドウを認識します。

3. 完了したら、[Recording] (記録) ツールバーの [Stop] (停止) ボタンをクリックします。



4. 名前を指定してタスクを保存し、任意で保存場所のフォルダーを選択します。保存すると、[Task List] (タスクリスト) のメインウィンドウにタスク名が表示されます。



 備考:

• Workbench を使用して記録したタスクを編集できます。「[タスクを編集する](#)」を参照してください。

• [Version Control] (バージョンコントロール) が有効になっている場合は、新しいタスクの前にプラス記号 ( + ) が付きます。

 備考: 「Secure Recording mode」を有効にした場合、値や画像はキャプチャされません。詳しくは[こちら](#)を参照してください。

## 関連トピック


- [Workbench を使用する](#) • [タスクを編集する](#) • [タスクを実行する](#)
- [Open Proram/File \(プログラム/ファイルを開く\) コマンド](#)
- [Manage Windows Controls \(ウィンドウズコントロールを管理\) コマンド](#)

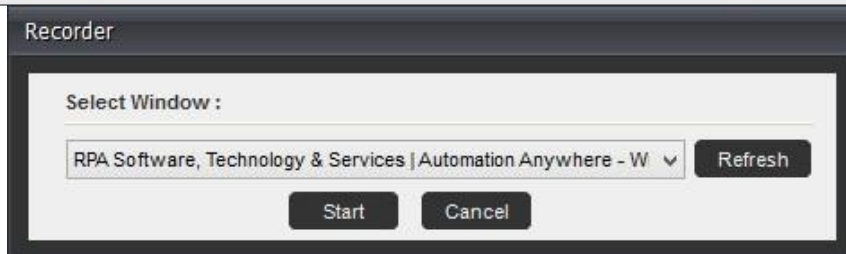
## Smart Recorder を使用してタスクを記録する

HTML、Java、WPF、Flex、SilverlightSmart などの技術を使用するアプリケーションからオブジェクトをキャプチャする必要のあるタスクを構築するときは、Smart Recorder を使用してタスク、またはコンピューターの一連のアクションを記録します。

 備考: 「Secure Recording mode」を有効にした場合、値や画像はキャプチャされません。詳しくは[こちら](#)を参照してください。


タスクの記録は Internet Explorer 8 以上でのみ可能であることに注意してください。


 ヒント: 適切なプラグインがインストールされていない場合は、プラグイン設定を使用してインストールできます。詳しくは[こちら](#)を参照してください。



記録されたアクションは、Workbench で Object Cloning (オブジェクトクローニング) コマンド集として保存されます。


オブジェクトウィンドウを介してアクションをキャプチャするため、キーストロークアクションやマウスクリックは Object Cloning (オブジェクトクローニング) コマンドの [Action] (アクション) リストに保存されます。

 備考: Shift + A というキーボード操作を大文字の A と認識する機能があります。また、Tab や Enter などの特別なキーストロークはコマンド内で個別のアクションとして保存されます。

 ヒント: コントロール間で移動するには、Tab の代わりに「クリック」アクションを使用することをお勧めします。

## Smart Recorder を使用してタスクを記録する

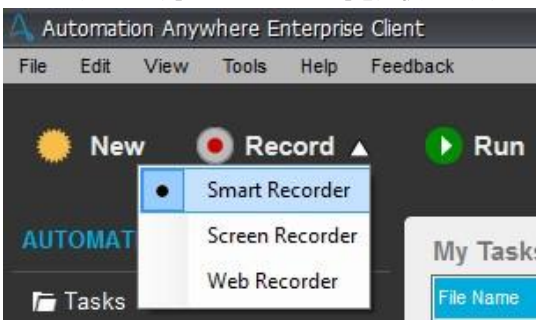
Smart Recorder を使用して自動化タスクを作成するには、次の 4 つのいずれかの方法で起動します。

 備考: オプション 3 と 4 が機能するには、[Record] (記録) のドロップダウンリストで「Smart Recorder」がデフォルトレコーダーとして選択されている必要があります。

1. [Record] (記録) ボタンのドロップダウンリストを使用する
  - a. メインウィンドウで、上部にある [Record] (記録) ボタンの横の [下向き矢印] をクリックします。



- b. 次に示すとおり、[Smart Recorder] を選択します。

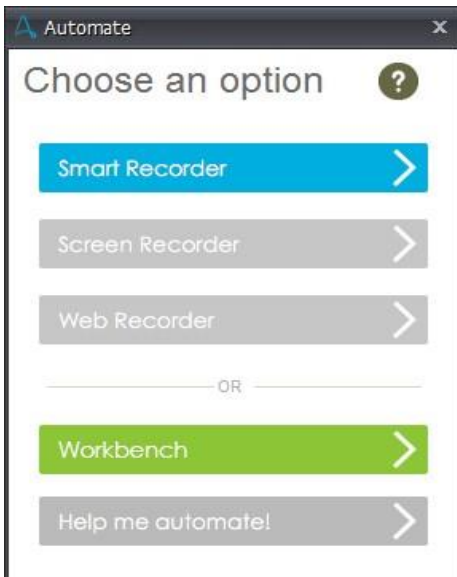


2. Choose an Option (オプションの選択) を使用する

1. [New] (新規) タスクボタンをクリックします。

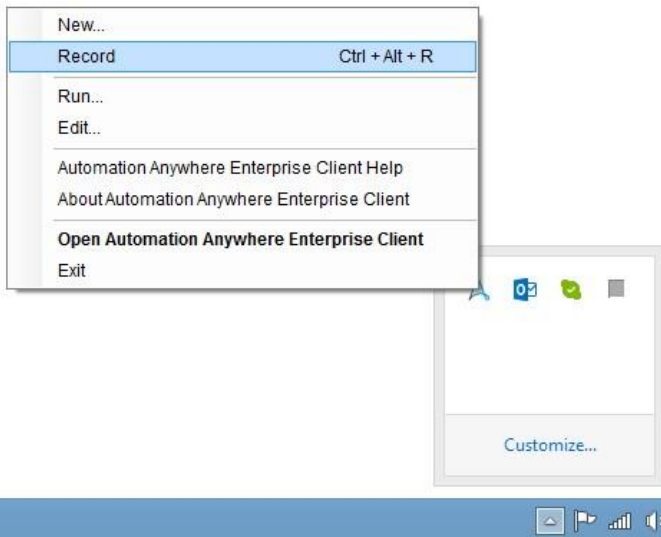


2. [Choose an option] (オプションの選択) ダイアログで [Smart Recorder] を選択します。



3. システムトレイのコンテキストメニューから[Record] (記録)オプションを使用する

1. システムトレイの Anywhere Enterprise Client を右クリックします。



2. [Record] (記録)を選択します。

4. ショートカットキーの「Ctrl + Alt + R」を使用するセキュアレコーディングを有効にする

「Secure Recording mode」を有効にした場合、値や画像はキャプチャされません。詳しくは[こちら](#)を参照してください。

[Record] (記録)ボタンのドロップダウンリストを使用する

[Re-Capture Image] (画像を再キャプチャ)をクリックすると、[Secure Recording mode. Image will not be captured] (セキュアレコーディングモード。画像はキャプチャされていません)というエラーメッセージが表示されます。また、コマンドを保存しようとすると、[Secure Recording mode. Record and Play using the Image Option is not supported.] (セキュアレコーディングモード。イメージオプションを使用した記録と再生はサポートされていません)というエラーメッセージが表示されます。



---

#### 関連トピック

- [Workbench を使用する](#) • [タスクを編集する](#)
- [Object Cloning \(オブジェクトクローニング\) コマンド](#)
- [Manage Windows Controls \(ウィンドウズコントロールを管理\) コマンド](#)

Workbench を使用してタスクを作成する

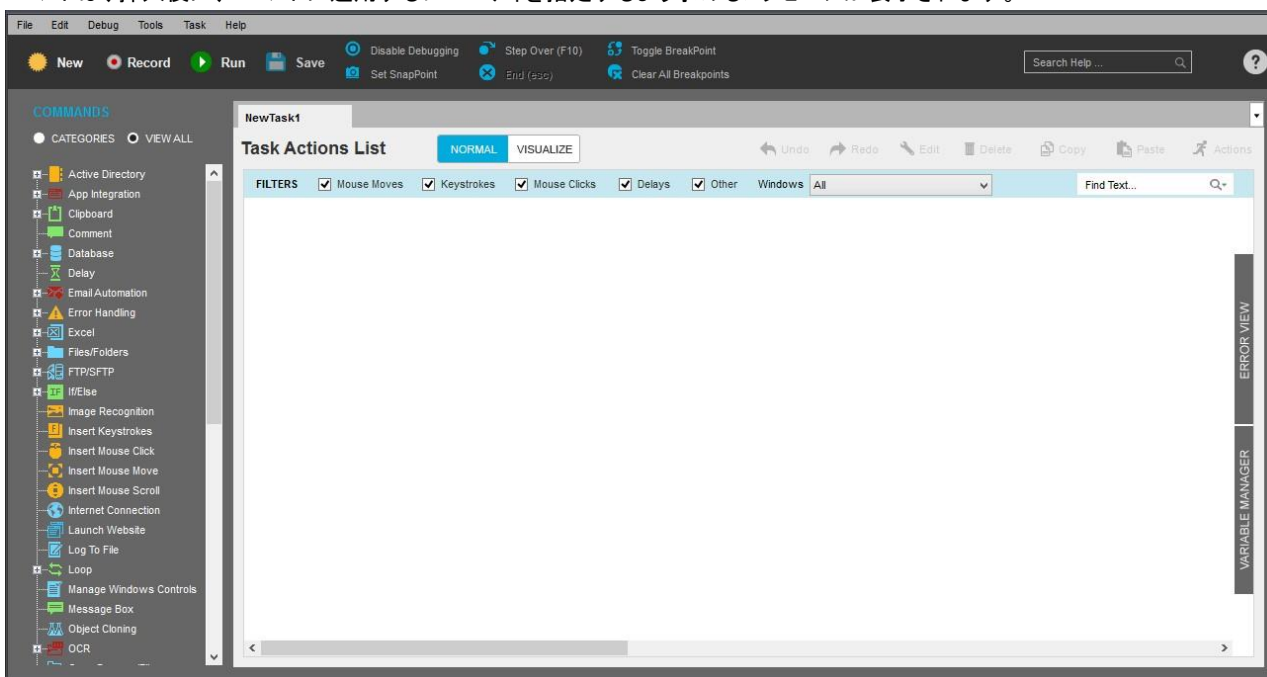
Automation Anywhere Workbench は本製品の最も強力な機能です。プログラミングなしであらゆるプロセスの自動化を実現する、数百ものコマンドとウィザードが用意されています。

Workbench を使用すれば、自動化タスクをゼロから手動で作成できます。

1. 以下のいずれかのアクションで Workbench を起動します。
  - [New] (新規) ボタンをクリックし、[Workbench] を選択します。



- [File] (ファイル) メニューをクリックして [New] (新規) を選択し、[Workbench] を選択します。
  - [Tools] (ツール) メニューをクリックし、[Workbench] を選択します。
2. エディターの左ペインから [Task Actions List] (タスクアクションリスト) にコマンドをドラッグし、新しいタスクにアクションを追加します。ほとんどのコマンドは、挿入後に、コマンドに適用するプロパティを指定するよう求めるメッセージが表示されます。



3. タスクを保存します。

## 関連トピック

- [Workbench を使用する](#)

Secure Recording Mode を使用する

Automation Anywhere レコーダーを使用して業務プロセスを自動化する場合、コマンドは通常、オブジェクトの値、画像、テキスト、内部 HTML などの重要事項をキャプチャします。しかしながら、BFSI (銀行、金融サービス、保険) などの環境下ではタスクの自動化でこれらの機密データ (例: 顧客口座、ID など) をキャプチャすることはセキュリティ上のリスクを引き起こす可能性があります。「セキュアレコーディング」機能は機密データをキャプチャしないことでリスクを軽減します。


 備考: Secure Recording mode は、3 つの主要なレコーダー (Web Recorder, Smart Recorder, Screen Recorder) のすべてで使用できます。

「Secure Recording mode」に対応するこのトピック内のコマンドリストを参照してください

- [Delay/Wait \(延期/待機\)](#)
- [Error Handling \(エラーの処理\)](#) • [IF/ELSE コマンド](#)
- [Image Recognition \(画像認識\)](#)

- [Insert Mouse Click\(マウスクリックを挿入\)](#)
- [Manage Windows Control\(ウィンドウコントロールを管理\)](#) • [Object Cloning](#) • [OCR](#)
- [Screen Capture\(スクリーンキャプチャ\)](#) • [Web Recorder](#)

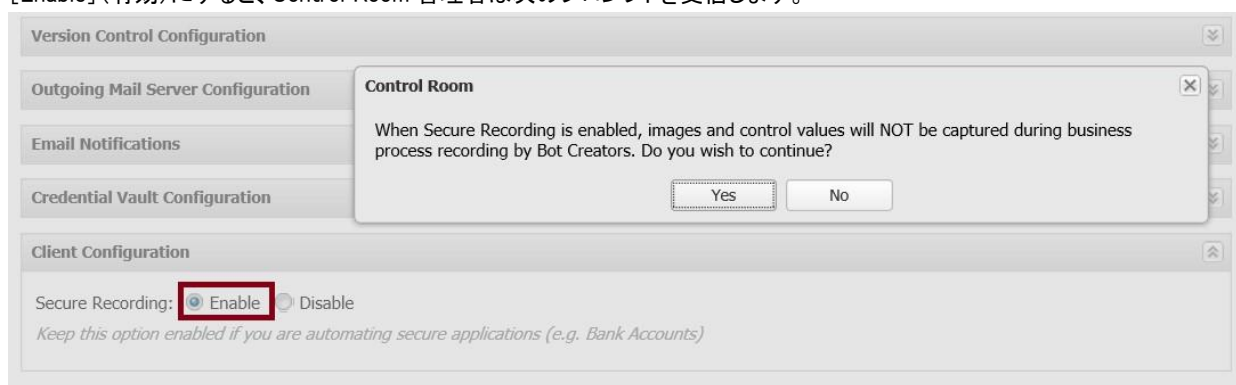
Control Room では、業務プロセスに対してクライアントが設定したレコーディングモードを Client Configuration(クライアント設定)で管理できます。プロセス上、レコーディングのセキュアモードを必要とする場合は Secure Recording mode を「有効」にします。

 備考: 「セキュアレコーディング」はデフォルトで無効になっています。

Control Room 管理者は、Control Room で[Setting](設定)>[SelectClientConfiguration](クライアント設定を選択)を選択して、[Secure Recording](セキュアレコーディング)のオプションを利用できます。



[Enable](有効)にすると、Control Room 管理者は次のプロンプトを受信します。




管理者が[Yes](はい)をクリックすると設定は有効になり、[No](いいえ)をクリックすると、設定は無効のままになります。

[Disable](無効)にすると、Control Room 管理者は次のプロンプトを受信します。



管理者が[Yes](はい)をクリックすると設定は無効になり、[No](いいえ)をクリックすると、設定は有効のままになります。

[Secure Recording mode](セキュアレコーディングモード)を有効にした場合

 備考: [Secure Recording](セキュアレコーディング)が「無効」の状態ではタスクが記録された場合、タスクにはオブジェクトの値と画像が含まれます。その後[Secure Recording](セキュアレコーディング)を有効にして同じタスクを AAE Workbench で開くと、オブジェクトの値と画像が表示されます。

Object Cloning/Smart Recorder(オブジェクトクローニング/スマートレコーダー)コマンドでは、値および画像はキャプチャされません。また、[Re-Capture Image](画像を再キャプチャ)をクリックしても、画像はキャプチャされません。[Image Option](画像オプション)を使用して記録と再生をするためにコマンドを保存しても、「Secure Recording mode」ではサポートされません。

Manage Windows Controls(ウィンドウコントロールを管理)では、値はキャプチャされません。

Web Recorder(Web レコーダー)では、値、キャプション、デフォルトのテキストはキャプチャされません。また、[Extract Data](データ抽出)および [Extract Multiple Data](複数のデータ抽出)では一切の値がキャプチャされません。



Image Recognition(画像認識)コマンドでは、「画像 1」は保存されず、「画像 2」はキャプチャされません。「画像 2」をキャプチャするときは機密データが含まれていないことを確認します。

Insert Mouse Click/Screen Recorder(マウスクリックを挿入/スクリーンレコーダー)および Delay/Wait(延期/待機)コマンドでは、画像はキャプチャされません。

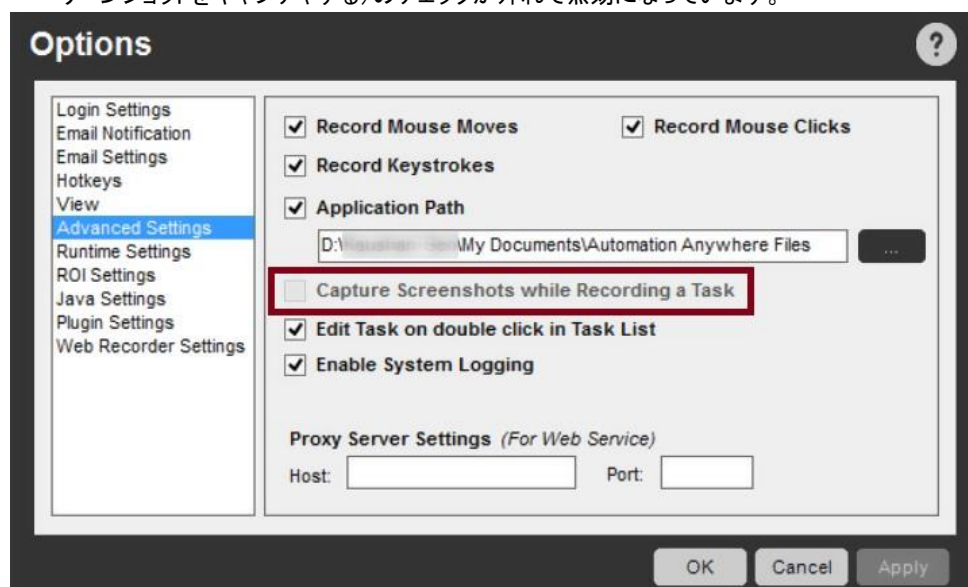
OCR コマンドでは、プレビュー用の画像はキャプチャされません。

Screen Capture(スクリーンキャプチャ)コマンドでは、コマンドを保存しようとするときは、キャプチャされた画像に機密データが含まれていないことを確認します。画像は指定した場所のディスク上に保存されます。

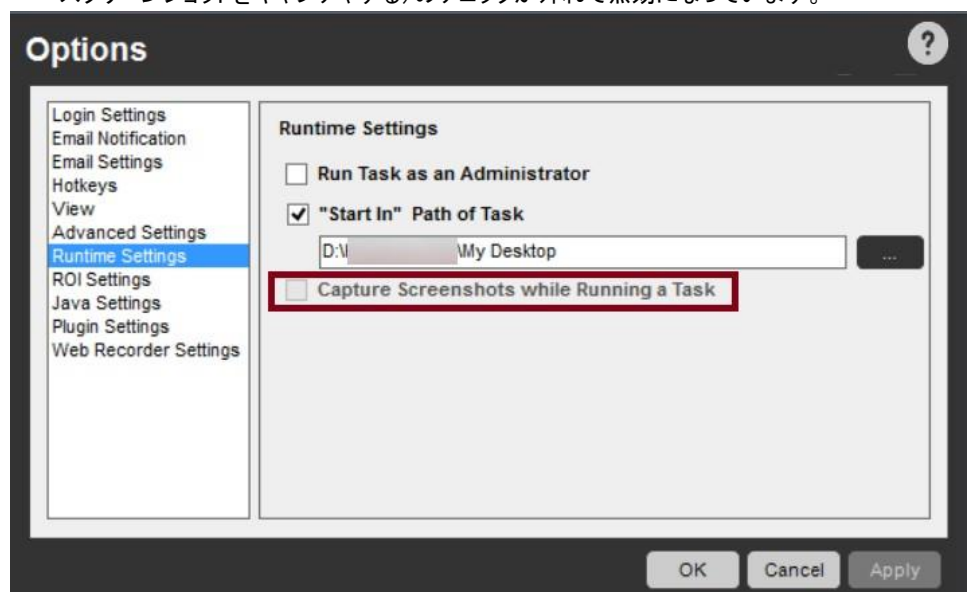
続行する場合は[Yes](はい)をクリックすると、コマンドが保存されます。中止する場合は、[No](いいえ)をクリックすると、コマンドを「キャンセル」できるコマンドに戻ります。

AAE Main Client では、「Secure Recording Mode」が有効な場合は記録中のスクリーンショットが無効になります。

- [Tools](ツール)>[Options](オプション)>[AdvancedSettings](詳細設定)>[CaptureScreenshotswhilerecordingatask](タスクを記録中にスクリーンショットをキャプチャする)のチェックが外れて無効になっています。



- [Tools](ツール)>[Options](オプション)>[RuntimeSettings](ランタイム設定)>[CaptureScreenshotswhilerecordingatask](タスクを記録中にスクリーンショットをキャプチャする)のチェックが外れて無効になっています。



AAE Workbench では、[Visualize](視覚化)と[SnapPoint]ボタンが無効になります。また、[Snap view](ビューをスナップ)を有効にすると、[Secure Recording mode. Image will not be captured](セキュアレコーディングモード。画像はキャプチャされていません)というエラーメッセージが表示されます。



Error handling (エラー処理) コマンドでは、コマンドを保存しようとするときは、キャプチャされた画像に機密データが含まれていないことを確認します。画像は指定した場所のディスク上に保存されます。

続行する場合は [Yes] (はい) をクリックすると、コマンドが保存されます。中止する場合は、[No] (いいえ) をクリックすると、コマンドを「キャンセル」できるコマンドに戻ります。

IF/ELSE コマンドでは、画像はキャプチャされません。

## セクション: TaskBot を使用する

## タスクリストを使用する

Automation Anywhere のタスクリストセクションでは、自動化タスクがわかりやすく表示されています。ここでは、簡単にタスクフォルダー間を移動してタスクに関する作業をすることができます。

File Name	Created At	Hotkey	Description	Schedule	Type	Repeat	Status	Last Run Time
Database Update.wkfx	02/11/2014 15:57:04				Workflow File	Do not Repeat	Complete	02/11/2014 16:08:23
RegEx.wkfx	01/31/2014 13:10:20				Workflow File	Do not Repeat	Complete	01/31/2014 13:15:46
Run Report.wkfx	12/19/2013 17:51:57				Workflow File	Do not Repeat	Complete	12/19/2013 17:52:37
run task.wkfx	03/14/2014 12:35:44				Workflow File	Do not Repeat	Complete	03/14/2014 12:36:37
test1.wkfx	03/27/2014 18:22:01				Workflow File	Do not Repeat		
testworkflow.wkfx	12/17/2013 15:23:35				Workflow File	Do not Repeat	Complete	12/17/2013 15:27:36

Automation Anywhere のメインウィンドウのタスクリストの上にあるボタンを使用して、以下の操作を実行できます。

1. 新しいタスクを作成する - [Create New Task] (新しいタスクを作成) ウィンドウで利用できるさまざまな記録方法でタスクを記録します。



詳しくは、「[記録方法を選択する](#)」を参照してください。

2. 新しいタスクを記録する - キーストロークに加えて、マウスのクリックや動作を記録します。



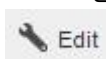
詳しくは、「[標準レコーダーを使用する](#)」を参照してください。

3. 選択したタスク、または既存のタスクを実行する。



詳しくは、「[タスクを実行する](#)」を参照してください。

4. Workbench を使用して選択したタスクまたは既存のタスクを編集、修正する。



詳しくは、「[Workbench を使用する](#)」を参照してください。

タスクリストの右上にあるボタンを使用して、以下のような追加の操作を実行できます。

1. タスクを削除する。



2. サーバーにタスクをアップロードする。



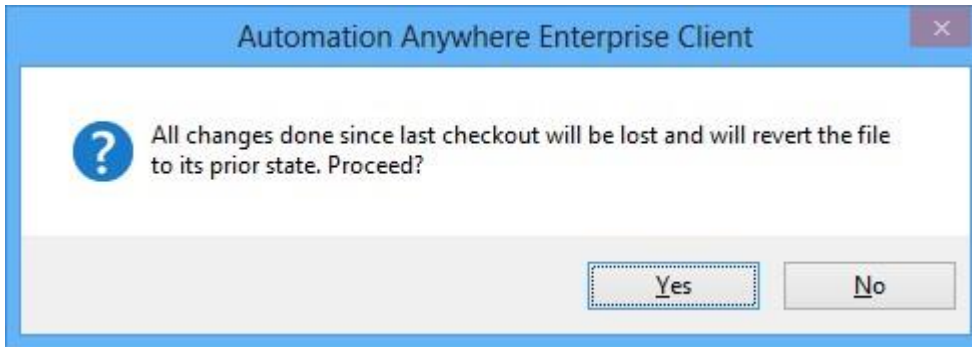
4. 以下のアクションを選択する。



- Run(実行): 選択したタスクを実行します(自動化されたプロセス)。
- Edit(編集): Workbench を使用して選択したタスクを編集します。
- Check Out(チェックアウト): バージョン管理リポジトリにアップロードした後、選択したタスクを変更するためにチェックアウトします。\*

 備考: 編集のためにファイルをチェックアウトした後、このオプションは[Undo CheckOut](チェックアウトを元に戻す)に切り替わります。

Undo CheckOut(チェックアウトを元に戻す): チェックアウトしたファイルに最後に行われた更新を元に戻します。以下の表示で確認を求められます。



- Upload Task(タスクをアップロード): 選択したタスクをサーバータスクリポジトリにアップロードします。
- Version History(バージョン履歴): さまざまなバージョンのタスクを比較します。
- Copy Task(タスクをコピー): 選択したタスクのコピーを作成します。
- Rename(名前の変更): 選択したタスクの名前を変更します。
- Locate on Disk(ディスク上で検索): 次の場所に.atmx ファイルとしてタスクのコピーを作成します: My Documents\Automation Anywhere\Automation Anywhere\My Tasks
- Send To(送る): タスクのコピーを以下に送ります。デスクトップ(ショートカットを作成)、メール受信者、スタートアップフォルダーまたはマイドキュメント。
- Delete(削除): タスクを削除する。

---

## 関連トピック

- [タスクを編集する](#)
- [タスクを削除する](#)
- [タスクを実行する](#)

タスクを編集する

自動化タスクを最初に作成した後、Workbench を使用してタスクを編集し、プロセスまでのアクションおよび手順の追加、変更、削除を行うことができます。

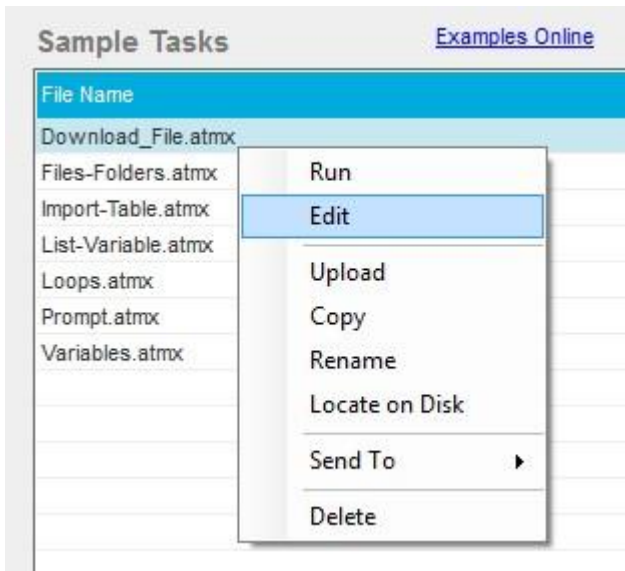
たとえば、組み込まれた遅延をすべて削除して、タスクの実行速度を向上させることもできます。

次の手順を実行して、Workbench でタスクを開くことができます。

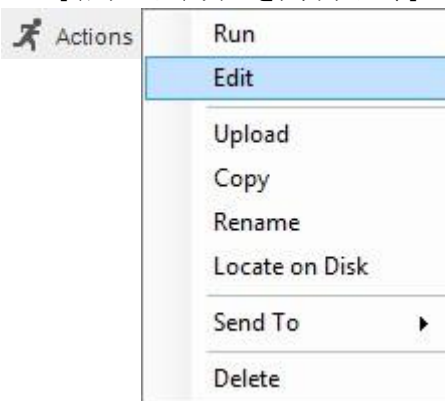
1. タスクを選択(強調表示)して、[Edit] (編集) ボタンをクリックします。



2. タスクを右クリックして、ポップアップメニューから [Edit] (編集) を選択します。

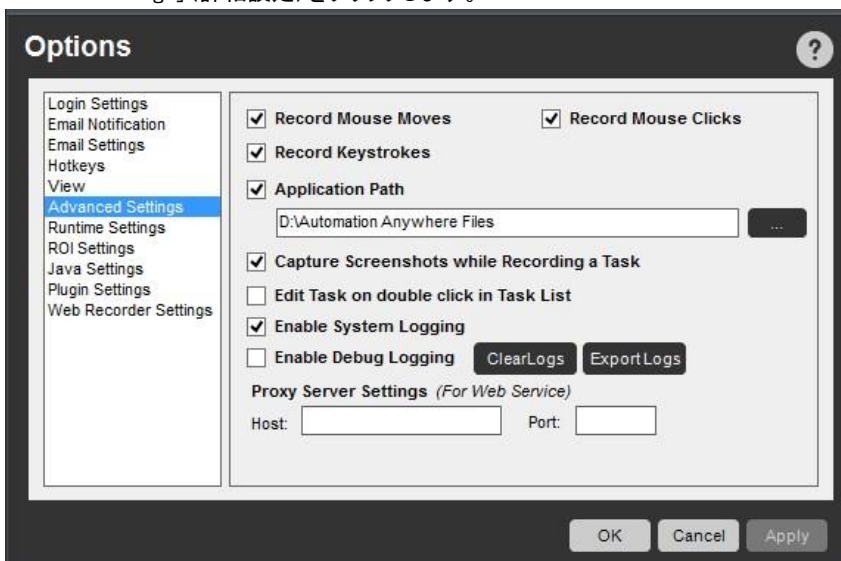


3. [Actions] (アクション) ボタンをクリックして、[Edit] (編集) を選択します。



タスクをダブルクリックして編集できるようにするには、次の手順を実行して設定を変更します。

1. Automation Anywhere メインウィンドウで、[Tools] (ツール) → [Options] (オプション) をクリックします。
2. [Advanced Settings] (詳細設定) をクリックします。

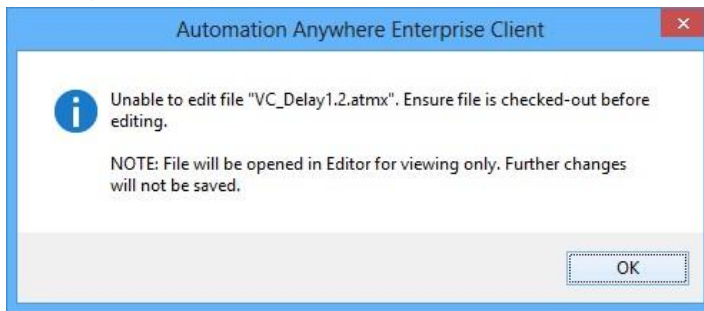


3. [Edit Task on double click in Task List] (タスクリストからダブルクリックでタスクを編集) チェックボックスにチェックを入れます。

バージョン管理が有効になっている時にタスクを編集する

バージョン管理が有効になっている時、タスクとそのプロパティの編集はタスクのステータスに影響されます。

- ・タスクファイルがチェックアウトされていない場合、タスクとそのプロパティは編集できず、[Edit] (編集) オプションをクリックすると、「表示のみ」モードで開かれます。



[Properties] (プロパティ) タブでも編集が無効にされ、「ファイルをチェックアウトしてプロパティの編集を有効にしてください」と表示されます。

 備考: ログの表示は無効にされません。表示するには、[View Logs] (ログを表示) をクリックします。

VC_Delay1.2.atmx	05/21/2015 18:12:11
VC_Delay2.atmx	05/21/2015 18:12:11

**PROPERTIES** SCHEDULE TRIGGER

**General** NOTE: Checkout the file to enable editing the Properties.

File Name : VC\_Delay1.2.atmx

Repeat Created at : 05/21/2015 18:12:11


Speed Status : N/A

Notification Last Run Time : N/A

Hotkey Priority (for queuing) : Low ?

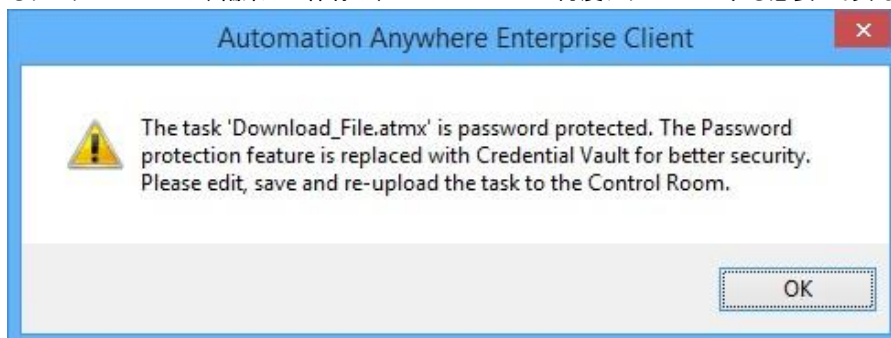
Security  Enable this task to run with other similar files or window titles ?

- ・タスクファイルのチェックが外れていると、タスクとそのプロパティが編集できるようになります。

 備考: レポート、ドキュメント、ワークフロー、スクリプト、リストなどのファイルのチェックを外したり、元に戻したりすることができます。

#### パスワードで保護されたタスクを編集する

タスクのパスワードでの保護は現在推奨されていません。そのため次に表示されるように、旧バージョンにおいて編集がパスワードで保護されているタスクについては、編集して保存し、Control Room に再度アップロードする必要があります。



[OK] をクリックします。[Enter Password] (パスワードを入力) ウィンドウが開きます。パスワードを削除して編集モードでタスクを開くには、パスワードを入力します。



タスクを保存します。

---

### 関連トピック

- [タスクリストを使用する](#) • [タスクを削除する](#) • [タスクを繰り返す](#)
- [タスクの速度を調整する](#) • [タスクを停止する](#)
- [タスクのメール通知を送信する](#) • [タスクを検索する](#) • [タスクを送信する](#)

Web Recorder (Web レコーダー) コマンドで Web のみのタスクを編集する

Workbench を使用すると、過去に Web Recorder を使用して記録した自動化タスクの編集や改善ができます。

Workbench を起動すると、[Web Recorder] (Web レコーダー) の下に表示されているコマンドをどれでも追加できます。

Web Recorder (Web レコーダー) コマンドを使用して、以下のことができます。

- [ブラウザセッションでウェブサイトを開いたり閉じたりする](#) • [Web コントロールを管理する](#) • [データをダウンロードする](#)
- [テーブルを抽出する](#)
- [Web サイトをテストして破損リンクを見つける](#) • [データを抽出する](#)
  - [URL に移動する](#)
- [Web サイトのソースコードを抽出する](#) • [キャプションで検索する](#)
- [元の場所に移動する](#) • [JavaScript を実行する](#)

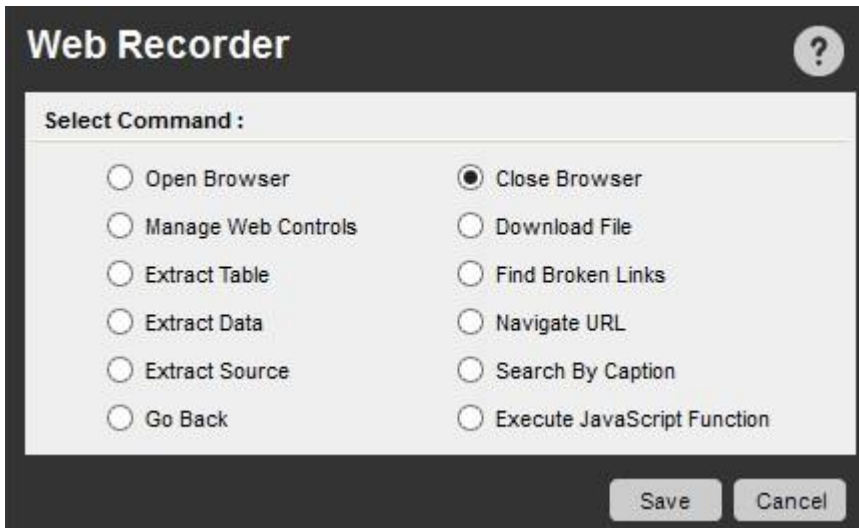


次のアクションを Web Recorder 自動化タスクに追加できます。

#### 1. ブラウザーセッションの開閉

- Open Browser(ブラウザを開く): Web サイトの URL を指定して、その Web サイトでアクションを実行する前に自動化タスクでその Web サイトを開くようにできます。ほとんどのプロセスにおける Web サイトの自動化では、ブラウザを開くことがタスクに追加される最初のコマンドであり、通常は次にコントロールを管理するコマンドが続きます。

- Close Browser(ブラウザを閉じる): Open Browser(ブラウザを開く)コマンドを使用して開かれたブラウザセッションを閉じます。



2. Manage Web Controls (Web コントロールを管理)

Manage Web Controls (Web コントロールを管理) コマンドを使用すると、Web ページにあるコントロールを選択して作業できます。



## Web Recorder ?

**Select Command :**

<input type="radio"/> Open Browser	<input type="radio"/> Close Browser
<input checked="" type="radio"/> Manage Web Controls	<input type="radio"/> Download File
<input type="radio"/> Extract Table	<input type="radio"/> Find Broken Links
<input type="radio"/> Extract Data	<input type="radio"/> Navigate URL
<input type="radio"/> Extract Source	<input type="radio"/> Search By Caption
<input type="radio"/> Go Back	<input type="radio"/> Execute JavaScript Function

**Step 1: Specify Website URL/Page**

Open New URL       Select Page

**Launch**

**Step 2: Click on Capture Button**

**Capture**

**Step 3: Control Details**

Type :

Value :

Wait for the control to exist (in seconds) :

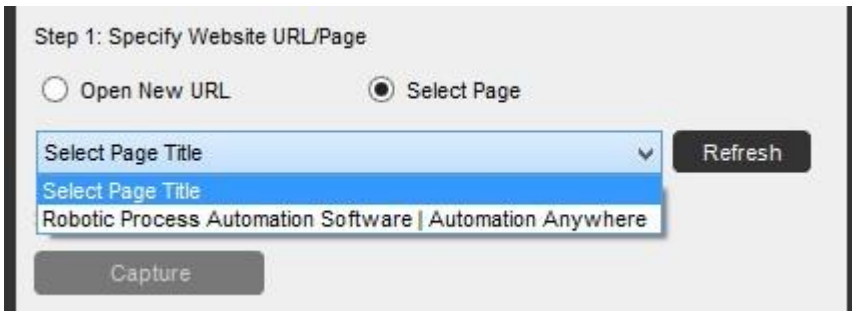
**Advanced View**

たとえば、リンク、チェックボックス、ラジオボタン、ドロップダウンメニュー、その他のオブジェクトにアクションを挿入できます。

Manage Web Controls を使用するには、次の手順を実行します。

3. [Specify a Website URL/Page] (Web サイトの URL/ページを指定) で、[Open New URL] (新しい URL を開く) または [Select Page] (ページを選択) を選択します。

[Select Page] (ページを選択) を指定する場合、開かれているページタイトル (html ページ) をリストから選択する必要があります。



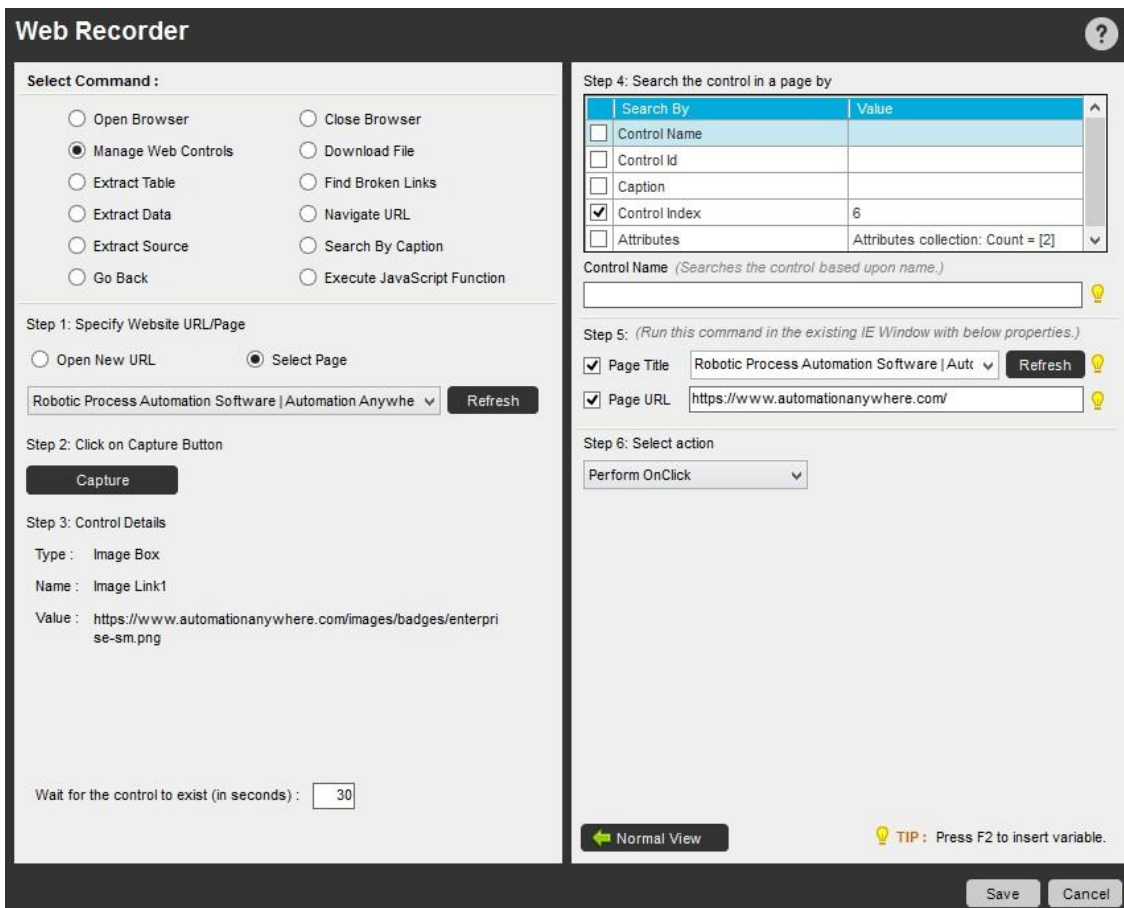
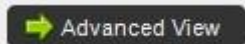
💡 ヒント: ウィンドウが開かれていても表示されない場合は、[Refresh] (更新) をクリックします。

4. [Capture] (キャプチャ) ボタンを使用すると、黄色のプロンプトバーで選択することで Web コントロールをキャプチャできます。

**Please click on the data you want to extract. Press 'Esc' to cancel and continue recording.**

5. コントロールの詳細が表示されます。

6. オプションを追加する場合は、[Advanced View] (詳細ビュー) ボタンをクリックします。



- Control Name / Control ID (コントロール名 / コントロール ID): コントロール名またはコントロール ID に基づいて Web コントロールを検索します。
- キャプション: テキストボックスで入力または選択されたキャプション名に基づいて Web コントロールを検索します。たとえば、「今すぐ購入」というキャプション名が付いたメニューオブジェクトを記録した場合、タスクを実行すると、この Web コントロールにより、Web ページでこのキャプションを検索できます。
- Control Index (コントロールインデックス): コントロールのインデックス番号に基づいて Web コントロールを検索します。コントロールのインデックス番号は Web ページを記録する際に保存されます。

- Attributes(属性): タグ属性に基づいて Web コントロールを検索します。タグ属性は Web ページを記録する際に保存されます。タグ属性を選択して、検索する Web ページの値を指定できます。

必要に応じて、タグ属性の追加または削除を行うことができます。

**ヒント:** 1 番目のオプションで [Search by Caption] (キャプションで検索)、2 番目のオプションで [Search by Attributes] (属性で検索)、3 番目のオプションで [Search by Index] (インデックスで検索) を使用することをお勧めします。

- [Page Title] (ページタイトル) や [Page URL] (ページ URL) を有効または無効にすることで、既存または新しい Internet Explorer ウィンドウで再生するかどうかが決まります。

**備考:** デフォルトではどちらも有効にされており、タスクは既存の Internet Explorer で再生されます。

- タスク再生時間に実行するアクションを指定します。


**ヒント:** [テキストを設定] と [テキストを追加] アクションを使用する場合、変数を使用することもできます。テキストを暗号化する必要がある場合は、ファンクションキー「F2」を使用して Credential Variable \* を挿入することで、セキュリティを強化できます。詳しくは [こちら](#) を参照してください。

\*バージョン 10.3 以降の Enterprise エディションで利用可能

- [保存] をクリックします。

### 3. Download File (ファイルをダウンロード)

このコマンドを使用して HTTP ファイルをダウンロードします。このコマンドはブラウザが不要です。



一般的な使用事例: 定期的にダウンロードする必要がある株式データ、ログファイル、セキュリティパッチ、その他のファイルをダウンロードします。

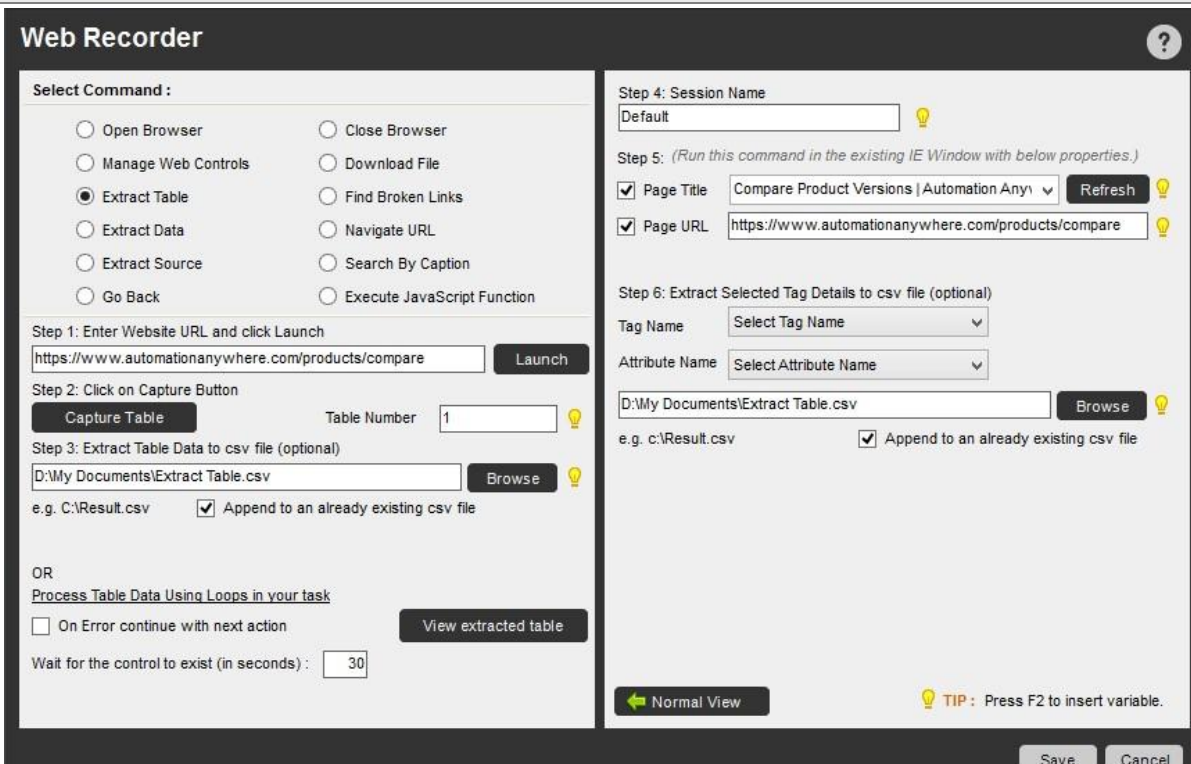
### 4. Extract Table (テーブルを抽出)

このコマンドを使用すると、Web ページにあるテーブルを選択して、データを CSV ファイルに保存できます。

Extract Table (テーブルを抽出) コマンドなどのタスクを実行した後、Automation Anywhere では次の名前が付いたシステム変数にテーブルデータが保存されます。\$Table Column(index)\$

この変数を使用すると、Internet Explorer のテーブルの各行で Loop の組み合わせを使用することにより抽出したデータを行と列のフォーマットで取得できます。

一般的な使用事例： Web ベースの ERP システムのデータを Excel などの別のアプリケーションに転送します。次の手順を実行して、Web サイトからテーブルを抽出します。

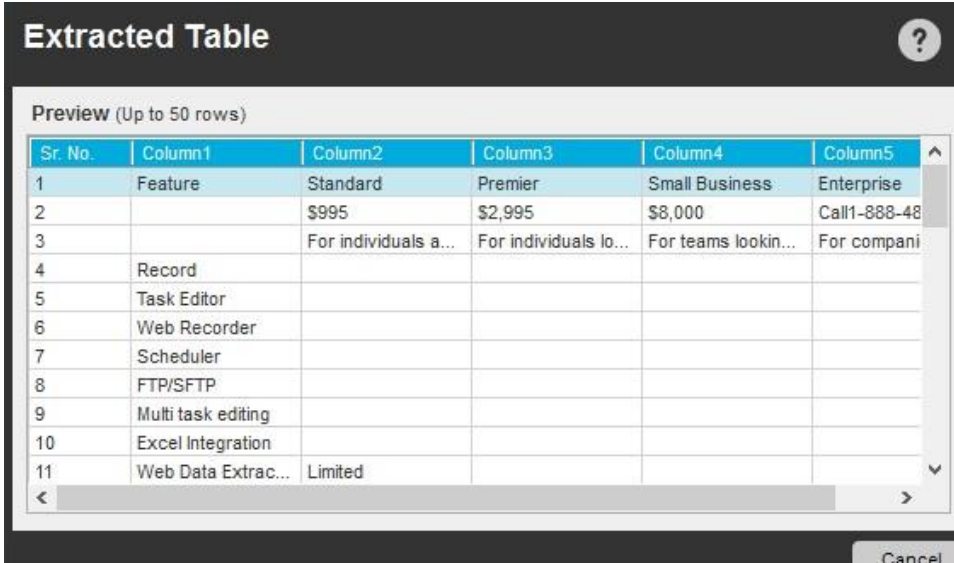


1. [Extract Table] (テーブルを抽出) を選択します。
2. [Launch] (起動) をクリックして、テーブルを抽出する Web サイトを起動します。
3. [Capture Table] (テーブルをキャプチャ) ボタンを使用すると、黄色のプロンプトバーで選択することによりテーブルをキャプチャできます。

**Click on the table you want to extract from the page. Press 'Esc' to cancel and continue recording.**

プログラムによりテーブル番号が表示されます。

4. 任意で、テーブルデータを.csv ファイルに保存または追加できます。タスク内で Loop を使用してテーブルデータを処理することもできます。詳しくは、Loop コマンドを参照してください。
5. [View extracted table] (抽出したテーブルを表示) ボタンをクリックすると、[Extracted Table] (抽出したテーブル) ウィンドウでテーブルデータのプレビューが表示されます。



Sr. No.	Column1	Column2	Column3	Column4	Column5
1	Feature	Standard	Premier	Small Business	Enterprise
2		\$995	\$2,995	\$8,000	Call1-888-48
3		For individuals a...	For individuals lo...	For teams lookin...	For compani
4	Record				
5	Task Editor				
6	Web Recorder				
7	Scheduler				
8	FTP/SFTP				
9	Multi task editing				
10	Excel Integration				
11	Web Data Extrac...	Limited			

6. [Advanced View] (詳細ビュー) ボタンをクリックすると、[Session Name] (セッション名)、[Page Title] (ページタイトル)、[Page URL] (ページ URL)、[Extract selected Tag Details] (選択したタグ詳細を抽出) などのオプションを.csv ファイルに追加できます。

➔ Advanced View

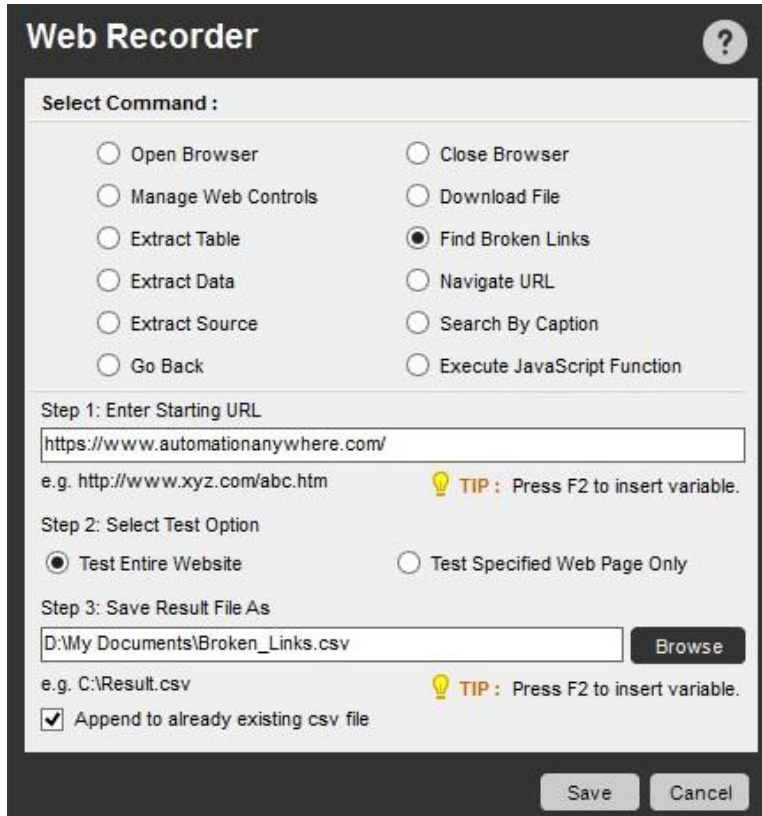
7. [Save] (保存) をクリックします。

#### 5. Find Broken Links (壊れたリンクを検索)

このコマンドを使用すると、Web サイトや Web ページにあるすべてのリンクを検証できます。

コマンドの実行後、Automation Anywhere では、Excel で開くことができる CSV ファイルに結果が保存されます。

このファイルを使用して、壊れたリンクを特定できます。



**Web Recorder** ?

Select Command :

Open Browser       Close Browser  
 Manage Web Controls       Download File  
 Extract Table       Find Broken Links  
 Extract Data       Navigate URL  
 Extract Source       Search By Caption  
 Go Back       Execute JavaScript Function

Step 1: Enter Starting URL

https://www.automationanywhere.com/

e.g. http://www.xyz.com/abc.htm      **TIP:** Press F2 to insert variable.

Step 2: Select Test Option

Test Entire Website       Test Specified Web Page Only

Step 3: Save Result File As

D:\My Documents\Broken\_Links.csv      **Browse**

e.g. C:\Result.csv      **TIP:** Press F2 to insert variable.

Append to already existing csv file

**Save**      **Cancel**

#### 6. データを抽出する

Web サイトまたは Web ページからテキストデータを抽出します。

このコマンドでは、「Before Keyword」および「After Keyword」キーワードを使用して、一定範囲のテキストをコピー対象として指定できます。



## Web Recorder ?

**Select Command :**

Open Browser       Close Browser  
 Manage Web Controls       Download File  
 Extract Table       Find Broken Links  
 Extract Data       Navigate URL  
 Extract Source       Search By Caption  
 Go Back       Execute JavaScript Function

Step 1: Enter Website URL and click Launch

Step 2: Click on Capture Button

     Control Type : Other HTML Control

H1 Value

Extract h1 value to variable       ▾

Step 3: Specify Keywords (Optional)


Before Keyword (Optional)     


After Keyword (Optional)     

**Example :**


Price \$249 xyz. To extract \$249  
 "Before Keyword" = Price:      "After Keyword" = xyz

Step 4: (Run this command in the existing IE Window with below properties.)

Page Title       ▾  

Page URL       

Wait for the control to exist (in seconds) :

 **TIP :** Press F2 to insert variable.


    

例: テキスト文字列 := Price: \$249 xyz"

価格のみ (\$249) をキャプチャするとします。以下のように指定します。

Before Keyword: "= Price:"

After Keyword: "xyz"

 ヒント: 場合によっては、Extract Data(データを抽出)コマンドで一部のレコードの抽出がスキップされることがあります。その場合、パターンベースのデータをキャプチャする際に[First and Last record](最初と最後のレコード)を選択してください。詳細なパターンベースのデータを抽出するには、Web Recorder を使用します。

### 7. Navigate URL(URL に移動)

このコマンドを使用すると、すでに開かれているブラウザウィンドウで Web サイトの URL に移動できます。

### Web Recorder

**Select Command :**

Open Browser                       Close Browser  
 Manage Web Controls               Download File  
 Extract Table                               Find Broken Links  
 Extract Data                                 Navigate URL  
 Extract Source                             Search By Caption  
 Go Back                                     Execute JavaScript Function

Step 1: Navigate URL

Step 2: (Run this command in the existing IE Window with below properties.)

Page Title       

Page URL   

TIP : Press F2 to insert variable.

#### 8. Extract Source(ソースを抽出)

このコマンドを使用すると、Web ページからソースコードを抽出できます。

### Web Recorder

**Select Command :**

Open Browser                       Close Browser  
 Manage Web Controls               Download File  
 Extract Table                               Find Broken Links  
 Extract Data                                 Navigate URL  
 Extract Source                             Search By Caption  
 Go Back                                     Execute JavaScript Function

Step 1: Enter Website URL and click Launch

Step 2: Click on Capture Button

Value: 

```
<html class="google-js" lang="en" itetype="http://schema.org/WebPa
title> Gmail - Free Storage and Email from Google </title> <meta
w.google.com/images/icons/product/googlemail-128.png" property="o
vices Android, iOS, and desktop devices. Sort, collaborate or call a fri
in">Sign in</a> <a class="maia-button" id="gmail-create-account" href
```

Step 3: Select Variable

Assign value to a variable :   

ヒント: [Capture](キャプチャ)ボタンが無効の場合 詳しくは、「[トラブルシューティング](#)」の Web Recorder に関するセクションを参照してください。

#### 9. Search by Caption(キャプションで検索)

このコマンドを使用すると、すでに開かれているブラウザウィンドウでキャプションまたはタイトルに移動できます。URL が変更されていても、このコマンドを使用して移動することが可能です。



**Web Recorder** [?]

Select Command :

- Open Browser
- Close Browser
- Manage Web Controls
- Download File
- Extract Table
- Find Broken Links
- Extract Data
- Navigate URL
- Extract Source
- Search By Caption
- Go Back
- Execute JavaScript Function

Caption :  [?]

Occurrence :  [?]

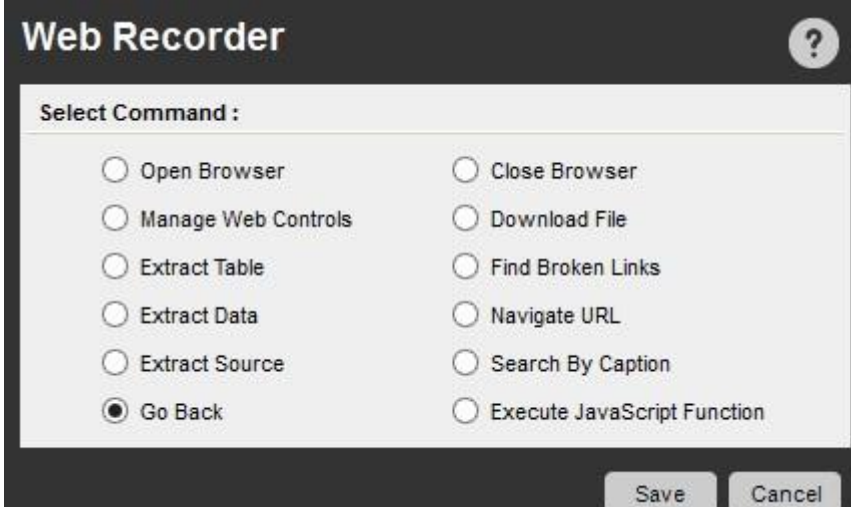
**Note :**  
Above entered caption will search the control in all open IE windows.

[?] **TIP :** Press F2 to insert variable.

[ Save ] [ Cancel ]

#### 10. Go Back(戻る)

このコマンドを使用すると、Web サイトを記録している間、以前に使用した URL の場所に移動できます。



**Web Recorder** [?]


Select Command :

- Open Browser
- Close Browser
- Manage Web Controls
- Download File
- Extract Table
- Find Broken Links
- Extract Data
- Navigate URL
- Extract Source
- Search By Caption
- Go Back
- Execute JavaScript Function

[ Save ] [ Cancel ]

#### 11. Execute Java Script (JavaScript を実行)

このコマンドを使用すると、Web ページにおいて JavaScript を内部で実行できます。

 **備考:** [Function Name](ファンクション名)の入力は必須です。入力されていない場合、その中のスクリプトは実行されません。



## Web Recorder ?

**Select Command :**

<input type="radio"/> Open Browser	<input type="radio"/> Close Browser
<input type="radio"/> Manage Web Controls	<input type="radio"/> Download File
<input type="radio"/> Extract Table	<input type="radio"/> Find Broken Links
<input type="radio"/> Extract Data	<input type="radio"/> Navigate URL
<input type="radio"/> Extract Source	<input type="radio"/> Search By Caption
<input type="radio"/> Go Back	<input checked="" type="radio"/> Execute JavaScript Function

Step 1: Enter Website URL and click Launch

Step 2: Click on Capture Button

i

Step 3: Function Name

Step 4: Assign the Return Value in Variable 💡 TIP : Press F2 to insert variable.

▼

- JavaScript が Internet Explorer で有効にされていることを確認してください。無効にされていると、アクセス拒否のメッセージが表示される場合があります。詳しくは、「[Microsoft サポート](#)」セクションを参照してください。
- [Capture] (キャプチャ) ボタンが無効の場合 詳しくは、「[トラブルシューティング](#)」の Web Recorder に関するセクションを参照してください。

### 関連トピック


- [Web Recorder を使用する](#)
- [通常の Web データを抽出する](#)
- [パターンベースのデータを抽出する](#) • [テーブルデータを抽出する](#) 複数のコマンドを編集する (Bulk Edit)

自動化タスクをより簡単に編集できるように、Automation Anywhere には Bulk Edit 機能があります。これにより複数のコマンドを一度に編集できます。

#### 複数のコマンドを編集するための前提条件

##### \*9.0.2 以降で対応

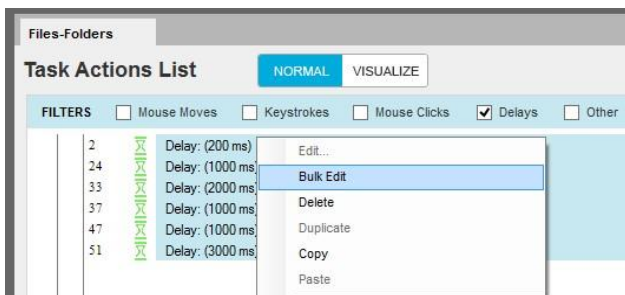
複数のコマンドで Bulk Edit を行う前に、選択したすべてのコマンドが同じ種類ですべて有効にされていることを確認することが重要です。

 **備考:** 選択したコマンドが 1 つでも無効にされていると、Bulk Edit は機能しません。

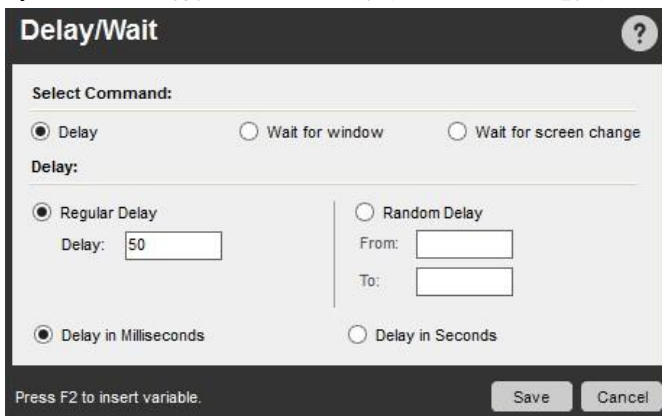
#### 複数の Delay (遅延) コマンドを編集する

Bulk Edit を使用すると、特定の Delay (遅延) コマンドの設定をタスク内の複数の Delay (遅延) コマンドに適用させることができます。次の手順を実行します。

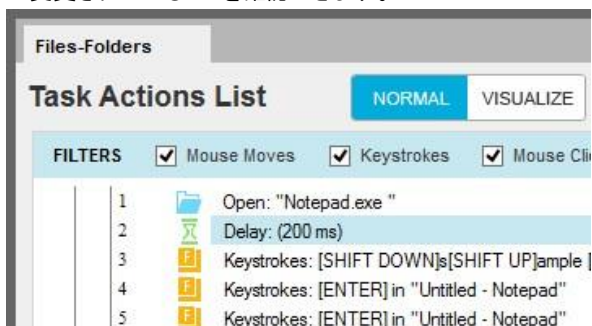
1. Workbench で、タスクにある複数の Delay (遅延) コマンドを選択します。
2. 選択したコマンドの 1 つを右クリックし、ポップアップメニューから [Bulk Edit] (一括編集) を選択します。



- Delay/Wait (遅延/待機) ウィンドウで、設定する遅延の値を設定して [Save] (保存) をクリックします。



- 該当するタスクの [Task Actions List] (タスクアクションリスト) ビューで、Bulk Edit 処理に含まれた Delay (遅延) コマンドがすべて新しい設定に変更されていることを確認できます。



備考: Bulk Edit が機能するコマンドは、Delay (遅延) と Keystrokes (キーストローク) の 2 種類です。Keystrokes (キーストローク) と Delay (遅延) のどちらも個別に編集できます。

#### 使用事例

- 複数の Delay (遅延) コマンドに共通の 5 秒の遅延を設定する
  - Workbench でタスクを開きます。
  - [Task Actions List] (タスクアクションリスト) で Ctrl キーを使用して複数の Delay (遅延) コマンドを選択 (強調表示) するか、[Filter] (フィルター) を使用してタスクのすべての Delay (遅延) コマンドを表示します。
  - 選択したコマンドの 1 つを右クリックし、[Bulk Edit] (一括編集) を選択します。
  - [Delay/Wait] (遅延/待機) ウィンドウでの [Delay] (遅延) フィールドに「2000」を入力します。
  - [保存] をクリックします。
- 複数の Delay (遅延) コマンドに共通のランダム遅延を設定する
  - Workbench でタスクを開きます。
  - [Task Actions List] (タスクアクションリスト) で Ctrl キーを使用して複数の Delay (遅延) コマンドを選択 (強調表示) するか、[Filter] (フィルター) を使用してタスクのすべての Delay (遅延) コマンドを表示します。
  - 選択したコマンドの 1 つを右クリックし、[Bulk Edit] (一括編集) を選択します。

4. Delay/Wait(遅延/待機)ウィンドウで、[Random Delay](ランダム遅延)を選択します。
5. [From](最小値)フィールドに「5」を入力します。
6. [To](最大値)フィールドに「500」を入力します。
7. [Delay in Seconds](秒単位で遅延)ラジオボタンを選択します。
8. [保存]をクリックします。

#### 複数の Keystroke(キーストローク)コマンドを編集する

Bulk Edit を使用すると、特定の Keystrokes(キーストローク)コマンドの設定をタスク内の複数の Keystrokes(キーストローク)コマンドに適用させることができます。次の手順を実行します。

1. Workbench で、タスクにある複数の Keystrokes(キーストローク)コマンドを選択します。
2. 選択したコマンドの 1 つを右クリックし、ポップアップメニューから[Bulk Edit](一括編集)を選択します。
3. [Insert Keystrokes](キーストロークを挿入)ウィンドウで、キーストロークの設定で値を設定して[Save](保存)をクリックします。
  - 該当するタスクの Task Actions List ビューで、Bulk Edit 処理に含められた Keystrokes(キーストローク)コマンドがすべて新しい設定に変更されていることを確認できます。

#### 関連トピック


- [タスクを編集する](#) • [タスクを削除する](#)
- [ウィンドウタイトルを変更する](#)

#### ウィンドウタイトルを変更する

ウィンドウタイトルが頻繁に変わるアプリケーションでタスクを記録する場合、Workbench のコマンドを使用して、タスクが適切なタイトルを参照するようアップデートします。

たとえば、次のような状況が考えられます。

1. Web ページや Windows アプリケーションのウィンドウタイトルが、動的なコンテンツのために絶えず変化している。
  - ユーザーが新しいフォルダーを選択するたびに Microsoft Outlook のタイトルが頻繁に変化する。
  - Web ページのタイトルにその Web サイトのセッション ID が含まれている。
2. コピーされたタスク - 記録されたタスクをコピーして新しいタスクを作成する場合、そのアプリケーションのタイトルは変更する必要があります。
3. ウィンドウタイトルの設定に、ワイルドカード、Current Active Window(現在のアクティブウィンドウ)コマンド、変数を使用している場合。

 ヒント: [Windows](ウィンドウ)フィルターを使用して特定のウィンドウ名を選択でき、アプリケーションによって並べ替えられているタスクアクションが表示可能になります。このフィルターにはタスクで使用されているアプリケーションの一部またはすべてを希望に応じて表示する機能があります。

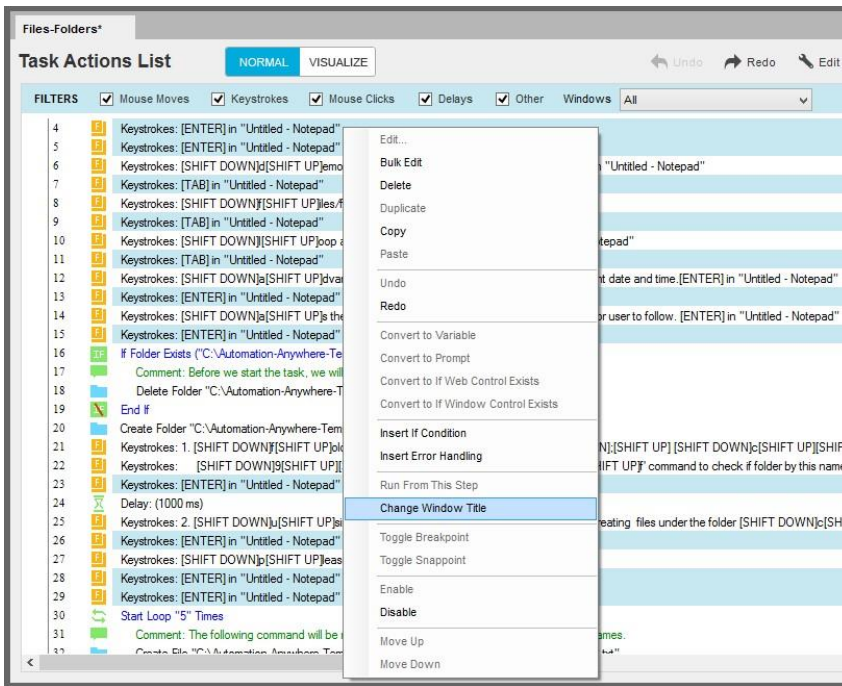
#### [Change Window Title](ウィンドウタイトルを変更)アクションの使用法

[Change Window Title](ウィンドウタイトルを変更)アクションを使用して複数のアプリケーションウィンドウに共通のウィンドウタイトルを付けるには、次の手順を実行します。

1. Workbench で、[Windows](ウィンドウ)フィルターを使用して特定のウィンドウ名を選択します。
2. 変更するウィンドウタイトルを持つコマンドを 1 つまたは複数選択します。
3. 選択したウィンドウのコマンドを右クリックして[Change Window Title](ウィンドウタイトルを変更)アクションを選択します。[Action](アクション)ボタンを使用して[Change Window Title](ウィンドウタイトルを変更)オプションを選択することもできます。
4. 選択したウィンドウに共通のウィンドウタイトルを設定して[OK]をクリックします。
  - [Task Actions List](タスクアクションリスト)ビューで、ウィンドウタイトルが割り当てられた新しいタイトルに変更されていることを確認できます。ここに示した例を参照してください。

#### 複数のウィンドウアクションに共通のウィンドウタイトルを割り当てる

1. Workbench でタスクを開きます。
2. [Windows](ウィンドウ)フィルターのドロップダウンリストで、特定の 1 つのアプリケーションウィンドウを選択します。
3. コントロールキーを使用し、複数のウィンドウのコマンドを選択(強調表示)して、そのウィンドウタイトルを変更します。



4. 選択したコマンドの1つを右クリックして、アクションのポップアップメニューから[Change Window Title] (ウィンドウタイトルを変更)を選択します



5. [Change Window Title] (ウィンドウタイトルを変更)ダイアログで、現在選択しているウィンドウタイトルから置換するウィンドウタイトルを指定します。
- Find and Replace (検索と置換)コマンドを使用して、タイトルを参照し、必要に応じて置換します。
6. [保存]をクリックします。

関連トピック

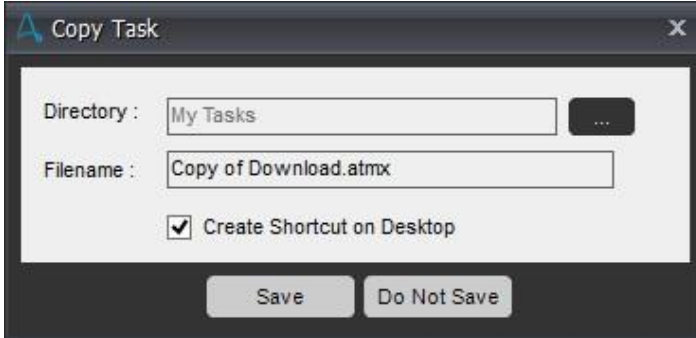
- [タスクを編集する](#) • [タスクを削除する](#)
- [ウィンドウタイトルを変更する](#)

## タスクをコピーまたは名称変更する

Automation Anywhere を使用する大きなメリットの 1 つは、自動化のプロセスを再利用できる点です。自動化タスクをコピーして名前を変更することで、以前に構築したタスクを再利用できます。

タスクをコピーするタスクをコピーするには、次の手順を実行します。

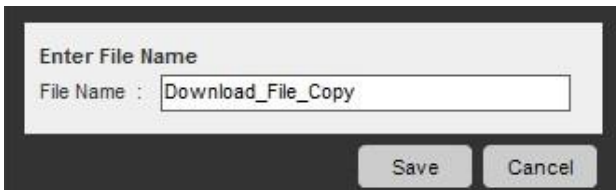
1. [Task List] (タスクリスト) で、コピーするタスクを選択 (強調表示) します。
2. 次のいずれかの方法で、タスクをコピーします。
  - [File] (ファイル) メニューで、[Copy] (コピー) を選択します。
  - [Actions] (アクション) ボタンのドロップダウンリストから [Copy] (コピー) を選択します。
  - 該当するタスクを右クリックし、[Copy] (コピー) を選択します。
3. [Copy Task] (タスクをコピー) ウィンドウで、ディレクトリの場所を選択し、タスクの新しいコピーのファイル名を指定します。



4. 必要に応じてデスクトップショートカットを作成することもできます。
5. [保存] をクリックします。
  - 新しいタスクが [Task List] (タスクリスト) ビューに追加されます。
  - 元のタスクのすべてのコマンドは、新しいコピーのタスクで使用できます。

タスクの名前を変更するタスクの名前を変更するには、次の手順を実行します。

1. [Task List] (タスクリスト) で、名前を変更するタスクを選択 (強調表示) します。
2. 次のいずれかの方法で、タスクの名前を変更します。
  - [File] (ファイル) メニューで、[Rename] (名前の変更) を選択します。
  - [Actions] (アクション) ボタンのドロップダウンリストから [Rename] (名前の変更) を選択します。
  - 該当するタスクを右クリックし、[Rename] (名前の変更) を選択します。
3. [Rename File] (ファイル名を変更) ウィンドウで、タスクの新しいファイル名を指定します。

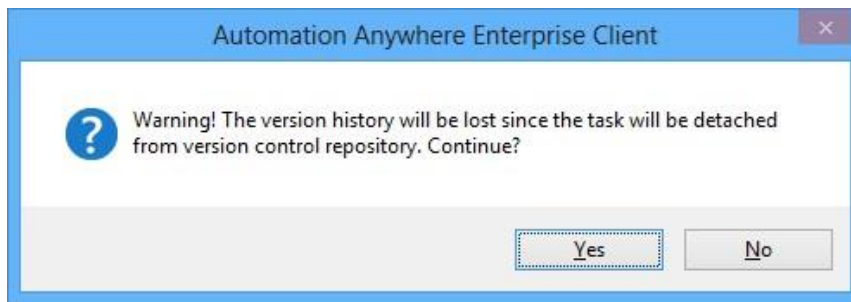


4. [保存] をクリックします。
  - 名前の変更されたタスクが [Task List] (タスクリスト) ビューに表示されます。

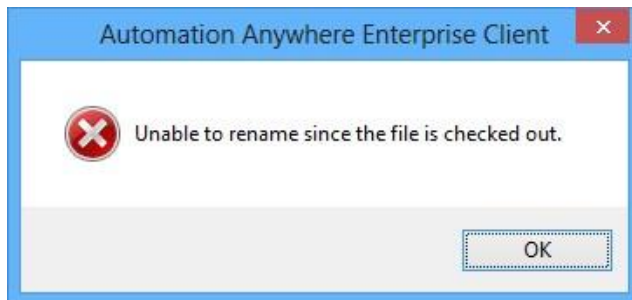
バージョンコントロールが有効になっている場合にファイルとフォルダーをコピーして名前を変更するローカルリポジトリでファイルとフォルダーをコピーして名前を変更できます。

- ファイルをコピーして名前を変更する。ファイルをコピーするときにリポジトリに同じファイルが存在する場合、同じ名前では上書きできません。
- サーバリポジトリにアップロード済みのファイルの名前を変更する場合、次のメッセージが表示されます。



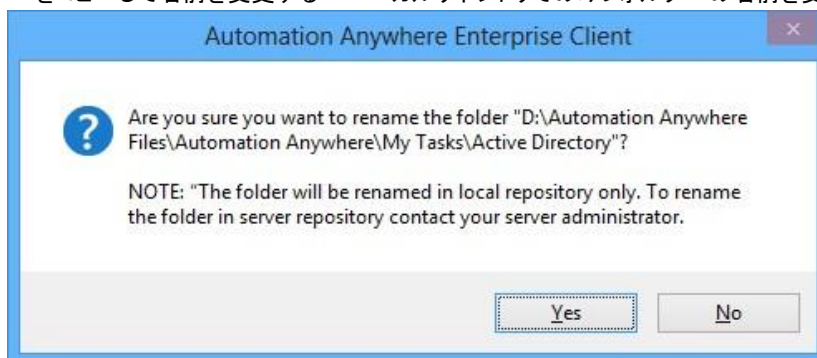


ファイルが編集用にチェックアウトされていると、次のメッセージが表示されます。



ローカルファイルのバージョンのみ、名前が変更されます。チェックアウトを元に戻してファイルの名前を変更します。

- フォルダをコピーして名前を変更する • ローカルリポジトリでのみフォルダの名前を変更できます。



- 選択したフォルダに編集用にチェックアウトされているファイルが含まれる場合、フォルダの名前は変更できません。フォルダの名前を変更するには、チェックアウトを元に戻すか、関連するファイルを最初にアップロードする必要があります。

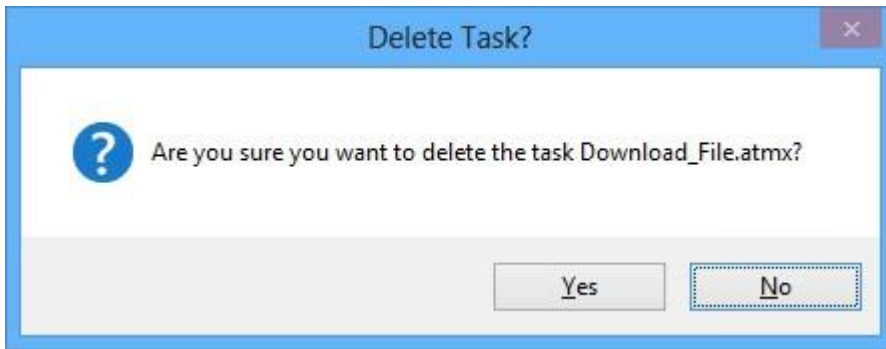
## 関連トピック

- [タスクリストを使用する](#)
- [タスクを編集する](#) • [タスクを削除する](#) TaskBot を削除する

特定のフォルダに対するアクセス権限を持つ Bot Creator は、既存の自動化 TaskBot を削除することもできます。

TaskBot を削除するには、次の手順を実行します。

1. [Task List] (タスクリスト) で、削除する TaskBot を選択 (強調表示) します。
2. 次のいずれかの方法で、TaskBot を削除します。
  - [Edit] (編集) メニューの [Delete] (削除) をクリックします。
  - [Actions] (アクション) ボタンのドロップダウンリストから [Delete] (削除) を選択します。
  - 該当する TaskBot を右クリックして、[Delete] (削除) を選択します。
3. [Delete Task?] (タスクを削除しますか?) ウィンドウで [Yes] (はい) をクリックします。




- TaskBot が [Task List] (タスクリスト) ビューから削除されます。


同様に、サーバーから TaskBot を削除できます。

1. [Manage] (管理) → [Repository] (リポジトリ) に進む
2. [Server Repository] (サーバーリポジトリ) から TaskBot を選択する
3. [Delete] (削除) をクリックする

- [Server Repository] (サーバーリポジトリ) → [My Tasks] (マイタスク) リストビューから TaskBot が削除されます。

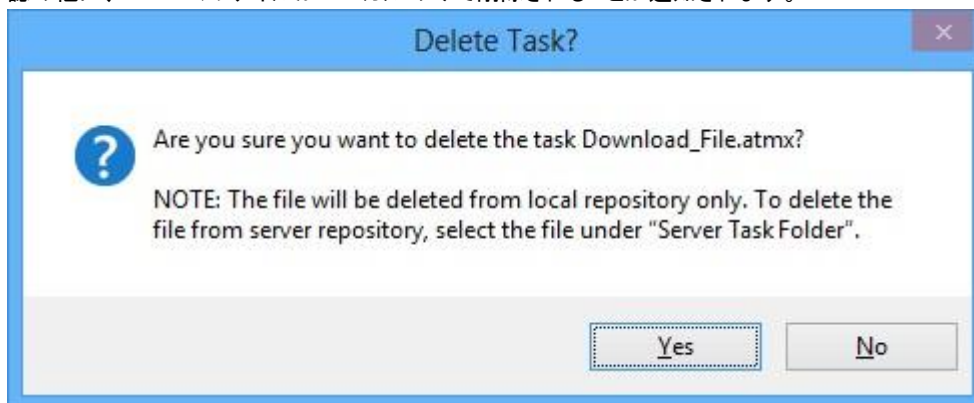
 **備考:** TaskBot を削除した後、クライアントでその TaskBot を復元することはできません。TaskBot を削除する前に、今後その TaskBot を使用しないことを確認してください。

TaskBot がサーバーにコピーされていた場合、サーバーバージョンをクライアントにコピーすることで復元できます。

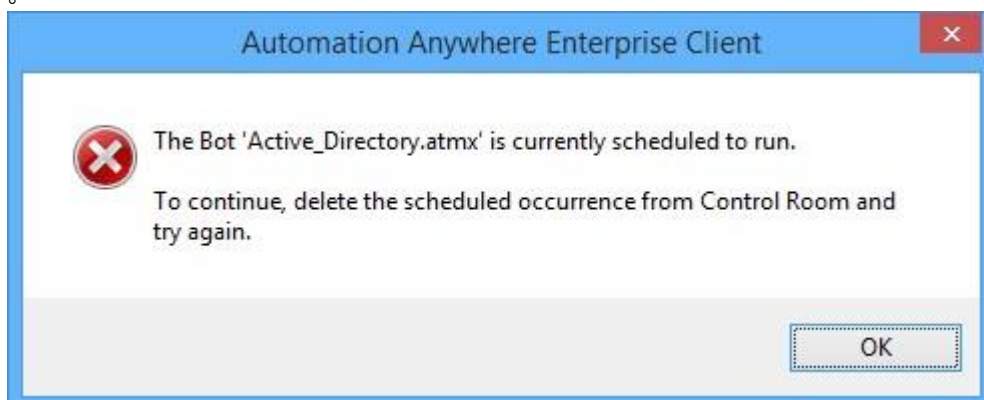
 **ヒント:** 自動化プロジェクトをバックアップする手段として、すべてのタスクがサーバーにコピーされているか確認することをお勧めします。

バージョン管理が有効になっている場合にファイルとフォルダーを削除する

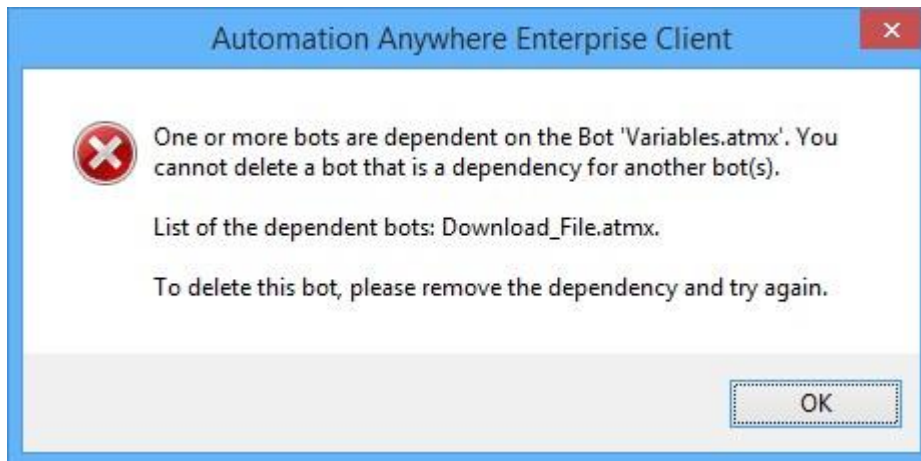
1. TaskBot を削除する
  - a. ローカルリポジトリから削除する - バージョン管理を有効にしている場合、クライアントから TaskBot またはファイルを削除する際、確認の他に、TaskBot/ファイルがローカルのみで削除されることが通知されます。



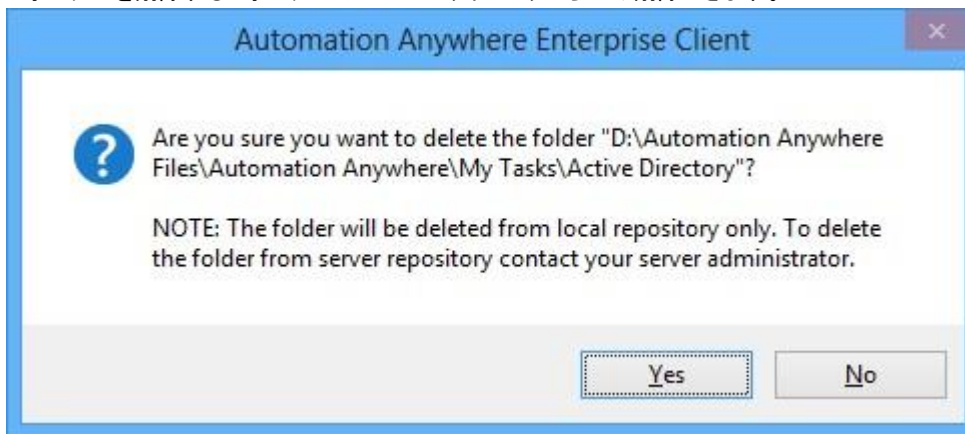
- b. サーバーリポジトリから削除する - サーバーリポジトリから TaskBot/ファイルを削除するには、リポジトリの該当するフォルダーから選択する必要があります。
  - スケジュールが設定されたボット (タスク/ファイル) - スケジュールで使用されているボットを削除しようとすると、次のように表示されます。




- 実行のスケジュールが設定されているボットを削除するには、スケジュールから削除する必要があります。
- 依存ボット(タスク/ファイル) - 別の TaskBot に依存しているボットの削除を試みると、次のように表示されます。



- 別の TaskBot に依存しているタスクのリストにあるタスクを削除するには、まずクライアントから依存関係を削除する必要があります。次に TaskBot をサーバーに再度アップロードすると、依存関係がないことを確認できます。
2. フォルダを削除するフォルダはローカルリポジトリからのみ削除できます。



 備考: 編集のためにチェックアウトされている TaskBot がフォルダーに含まれる場合、[Delete Folder] (フォルダーを削除する) オプションが無効になります。

## 関連トピック

- [タスクリストを使用する](#)
- [タスクを編集する](#)



## タスクを実行する

作成した自動化タスクが、期待通りの結果を得られるかどうかプロセスをテストしたい場合は、タスクを実行することで、自動化されたプロセスをテストすることができます。

Automation Anywhere では、タスクを実行すると、調整可能なランタイム設定を使用した高度なタスクキュー管理テクノロジーを活用できます。

タスクは、手動で実行することも、あとで実行するようスケジュールを設定することもできます。

手動でタスクを実行するには、次の手順を実行します。

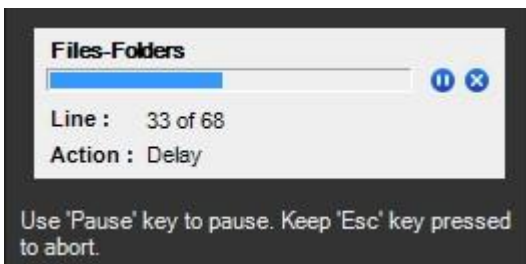
1. Automation Anywhere のメインウィンドウで、実行するタスクを選択(強調表示)します。
2. 次のいずれかの方法でタスクを実行します。
  - a. [Run] (ボタン) ボタンをクリックします。



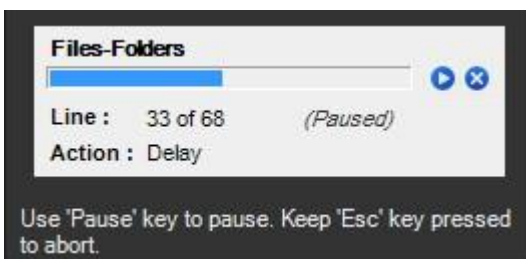
- b. [File] (ファイル) メニューをクリックし、[Run] (実行) を選択します。
- c. [Actions] (アクション) ボタンをクリックし、ドロップダウンリストから [Run] (実行) を選択します。
- d. 該当するタスクを右クリックし、[Run] (実行) を選択します。
  - タスクの実行が開始したら、ランタイムウィンドウが表示されます。

実行中のタスクは、いつでも一時停止または停止できます。

1. タスクを一時停止するには、ランタイムウィンドウの [Pause] (一時停止) ボタンを押します。



2. タスクの実行を再開するには、ランタイムウィンドウの [Play] (再生) ボタンを押します。




3. 実行中のタスクを停止するには、次のいずれかの方法を使用します。

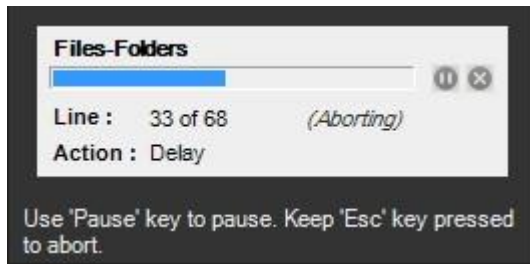
- a. [Stop] (停止) ボタンを使用します。




- b. キーボードのエスケープ (ESC) キーを押します。

 ヒント: Hotkey を変更して、実行中のタスクの停止に別のキーを使用することもできます。


タスクを停止しても、プロセスがすぐに終了するわけではありません。ランタイムウィンドウに「中断中」というメッセージが表示され、進行中のステップが完了されます。

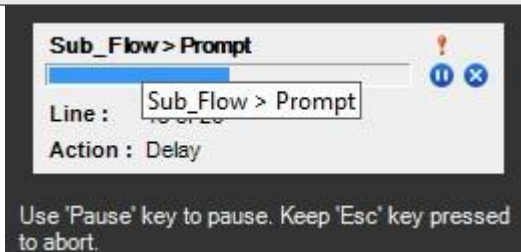


 備考: Run Task(タスクを実行)コマンドを使用する際、メインタスク内のサブタスクが実行中の場合は、ウィンドウにタスクの階層が表示されます。

ランタイムウィンドウには、次の内容が表示されます。

- 選択された現在実行中のタスク。
- 実行中のタスクのアクション。
- タスクの行番号。
- ヒント - タスクフローが長すぎてウィンドウ内に収まらない場合。

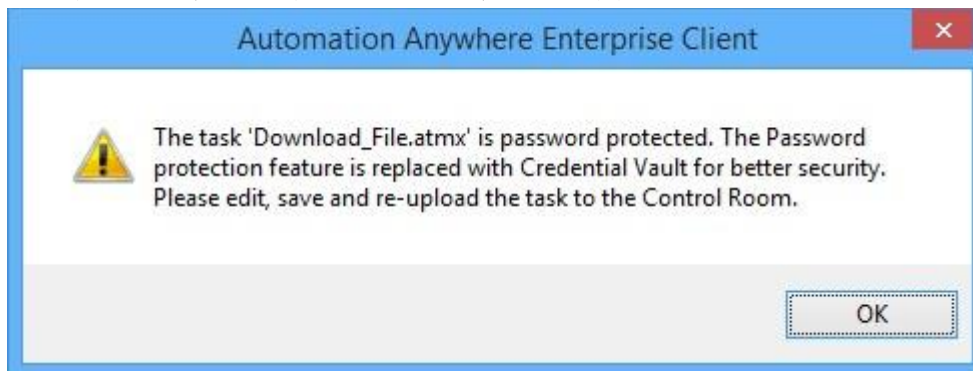
 ヒント: タスク名の上にカーソルを合わせると、タスクフローがヒントとして表示されます。



パスワードで保護されたタスクを実行する

パスワードによる保護機能は廃止されたため、パスワードで保護されたタスクを実行するには、タスクを編集して保存し、Control Room に再アップロードするよう求められます。

このようなタスクの実行中は、次のメッセージが表示されます。



[OK]をクリックします。[Enter Password](パスワードを入力)ウィンドウが開きます。パスワードを削除して編集モードでタスクを開くには、パスワードを入力します。



タスクを保存します。

---



#### 関連トピック

- [タスクの Hotkey を設定する](#)

## タスクを停止する

自動化されたタスクを実行するとき、必要に応じてプロセスを一時停止または停止できます。タスク内に条件付きコマンドを挿入するか、手動で実行する形でタスクを停止できます。


### 手動でタスクを停止する


手動でタスクを停止するには、ただ進捗ウィンドウの[Pause] (一時停止)  または[Stop] (停止)  ボタンをクリックするか、キーボードのエスケープ(ESC)キーを2~3秒間長押しします。

### 条件を使用してタスクを停止する

[Stop Task] (タスクを停止) コマンドを挿入すると、特定の条件でタスクを停止できます。

[Stop Task] (タスクを停止) の指示は、Workbench で次のように表示されます。

 Stop The Current Task

 ヒント: サイズが一定のメガバイト(MB)数を超えるファイルを検出した場合に限り、タスクを停止します。

このコマンドの使用方法について詳しくは、「[Stop Task \(タスクを停止\) コマンド](#)」を参照してください。

---

## 関連トピック

- [タスクを実行する](#)
- [タスクを編集する](#)
- [タスクを削除する](#)

## コンピューター上のタスクを検索する

場合によっては、作成済みの自動化されたタスクに関連付けられているタスクファイルを検索することがあります。

Automation Anywhere ファイルのファイル拡張子は次のとおりです。'.atmx' コンピューター上の

Automation Anywhere タスクファイルを検索するには、次の手順を実行します。

1. Automation Anywhere のメインウィンドウで、.atmx ファイルを検索するタスクを [Task List] (タスクリスト) から選択します。
2. [編集]メニューか [アクション] ボタンのいずれかをクリックして、[ディスク上で検索] を選択します。[Windows エクスプローラー] ウィンドウが表示され、タスクファイルを含むフォルダーが表示されます。
3. 自動化タスクファイルを検索します。タスク名は、タスクに割り当てた名前と一致します。

---

### 関連トピック

- [タスクを送信する](#)

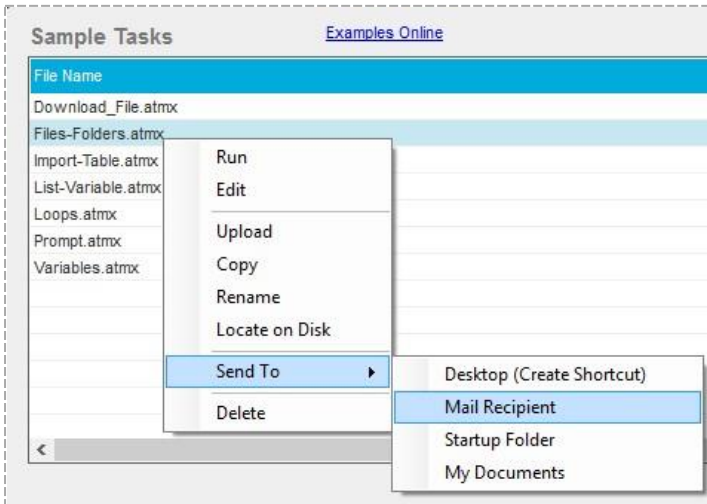
## タスクを送信する

場合によっては、自分の自動化タスクを他の人や場所に配布することがあります。[Send To] (送信先を指定して送信) オプションを使用すると、次の場所にタスクを送信できます。

1. デスクトップ - 該当するタスクをボタンクリック 1 つで実行するデスクトップショートカットを作成できます。
2. メール受信者 - メールアドレスを使用して他の人にタスクを送信します。
3. スタートアップ フォルダー - Windows のスタートアップ フォルダーを使用して、コンピューターが起動されるたびにプロセスを実行させることができます。
4. マイドキュメント フォルダー - マイドキュメントフォルダーからタスクを整理、実行します。

これらの場所のいずれかにタスクを送信するには、次の手順を実行します。

1. [Edit] (編集) メニューか [Actions] (アクション) ボタンのいずれかをクリックして、[Send To] (送信先を指定して送信) を選択します。



2. [Send To] (送信先を指定して送信) オプションの 1 つを選択し、適宜情報を入力します。



## 関連トピック

- [タスクのメール通知を送信する](#)
- [コンピューター上のタスクを検索する](#)

タスクのプロパティを設定する

自動化タスクの作成後、そのプロパティを表示および変更することができます。

**Sample Tasks**

File Name
Analytics_ATM Reconciliation.atmx
Analytics_MortgageProcessing.atmx
Analytics_TelecomOrderEntry.atmx
Download_File.atmx
Files-Folders.atmx
Import-Table.atmx
List-Variable.atmx
Loops.atmx
Prompt.atmx
Variables.atmx

**PROPERTIES** SCHEDULE TRIGGER

**General**

Repeat File Name : Variables.atmx

Speed Created at : 09/02/2011 16:17:18

Notification Status : Complete

Hotkey Last Run Time : 12/14/2017 17:08:15 [View Log](#)

Security Priority (for queuing) : Low [?](#)

Analytics Timeout (in minutes) : 0 [?](#)

Enable this task to run with other similar files or window titles [?](#)

**Task Report**

Mouse Clicks	0
Keystrokes	884
Total Clicks	884

タスクの設定およびタスクの設定の調整には、[Properties] (プロパティ) タブを使用します。このタブでは、次の操作を実行できます。

- 優先順位ステータスの設定や作成日の表示など、全般的なプロパティを表示および設定します。
- タスクを繰り返す頻度または条件を指定します。
- タスクの実行速度を調整します。
- タスクのメール通知を設定します。
- タスクと使用する Hotkey を指定します。
- 許可されたユーザーのみがタスクを実行できるようにセキュリティパラメーターを設定します。
- 分析のためにデータの共有を有効にします。

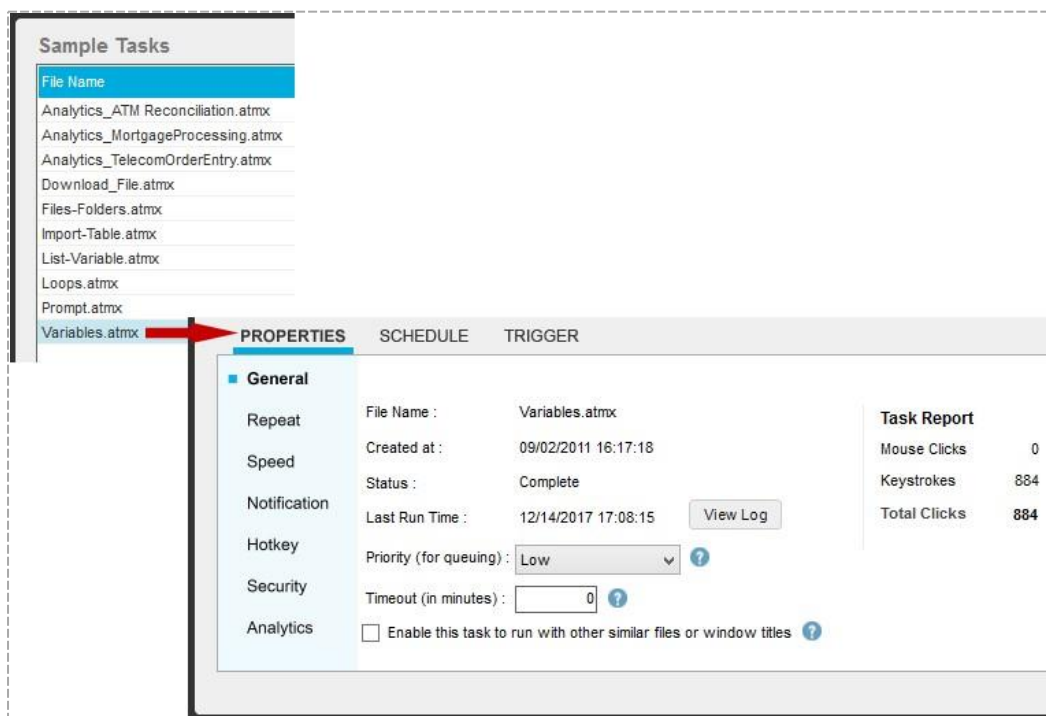
## 関連トピック

- [一般プロパティを表示および設定する](#)
- [タスクを繰り返す](#)
- [タスクの速度を調整する](#)
- [タスクのメール通知を送信する](#)

一般プロパティを表示および設定する

タスクを作成した後は、[General] (全般) タブを使用してタスクの一般プロパティを表示および編集できます。

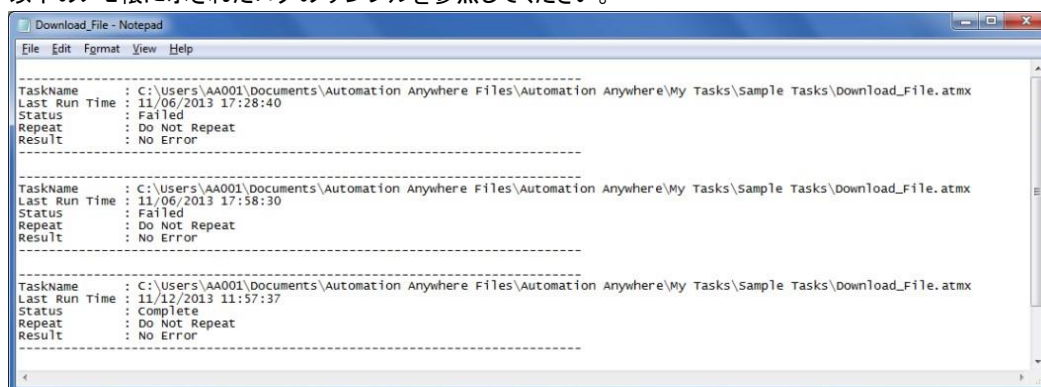
一般プロパティには、タスク名、ステータス、最後に実行された時間、その他の統計情報が含まれます。[Description/Notes] (説明/備考) フィールドを使用して、タスクに関する有用なコメントを記入することもできます。



#### 一般プロパティ - 概要

- File Name (ファイル名) - タスク名を表示します。
- Created at (作成日時) - タスクの作成日時を表示します。
- Status (ステータス) - タスクが最後に実行された時間を表示します。
- View Log (ログを表示) - [View Log] (ログを表示)をクリックして、タスクの履歴と詳細なステータスを確認します。タスクが失敗した場合は、[View Log] (ログを表示)でタスクが失敗した行番号を確認できます。

以下のメモ帳に示されたログのサンプルを参照してください。



- Last Run Time (最終実行時間) - タスクが最後に実行された時間を表示します。
- Mouse Clicks (マウスクリック) - タスクで記録されたマウスクリック合計数を表示します。これは、タスクに基づいて自動的に計算されます。
- Keystrokes (キーストローク) - タスクで記録されたキーストロークの合計数を表示します。これは、タスクに基づいて自動的に計算されます。
- Total Clicks (総クリック数) - タスクに記録された総クリック数(マウスクリック数 + キーストローク数)を表示します。タスクに基づいて自動的に計算されます。
- Priority for queuing (キューの優先順位) - タスクの優先順位を指定します。これにより、タスクがキューに入るときの優先順位を決定します。また、優先順位が同じ場合は、ジョブの優先順位にルールが適用されます。
- Timeout (タイムアウト) - 指定した時間が経過するとタスクが自動的に中止されるように、タスクのタイムアウトを指定します。タイムアウトは、0~9999 の間の分単位でのみ設定できます。詳しくは、[Timeout \(タイムアウト\)](#)を参照してください。
- Enable this task to run with other similar files or window titles (このタスクを他の同様のファイルまたはウィンドウタイトルで実行できるようにする) - デフォルトでは、記録されたタスクは、そのタスクが記録された特定のファイルでのみ実行されます。ただし、タスクが記録されたアプリケーション内の任意のファイルで、記録されたタスクを実行できるオプションがあります。たとえば、ファイル abc.xls に記録されたタスクは、タスクを編集しなくても、def.xls、xyz.xls、その他任意の\*.xls ファイルで実行できます。



- Description/Notes(説明／備考) - [Description/Notes](説明／備考)ウィンドウにタスクの説明と備考を追加します。
- 

#### 関連トピック

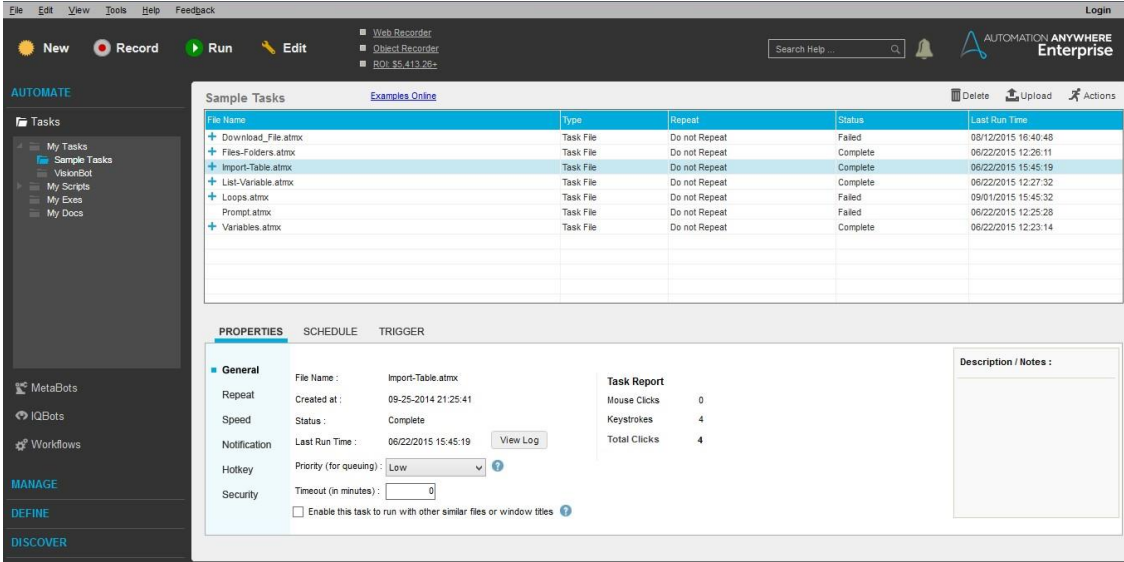
- [タスクを実行する](#)

## Timeout(タイムアウト)

タイムアウト機能を使用すると、タスクが自動的に中止されるまでの時間を指定できます。この機能は、無人モードでタスクを実行する場合に特に便利です。どこかでタスクが停止した場合、指定された時間内に応答がないと、タスクが自動的に中止されます。タスクのタイムアウトが発生すると、ダウンストリームタスク(キュー内のタスク)をスムーズに実行できます。

特定のタスクにタイムアウトを設定するには、以下の手順を実行します。

### 1. タイムアウトを指定するタスクを選択します。



The screenshot shows the Automation Anywhere interface. On the left, there's a navigation pane with 'Tasks' and 'Sample Tasks' selected. The main area displays a table of 'Sample Tasks' with columns: File Name, Type, Repeat, Status, and Last Run Time. The 'Import-Table.atmx' task is highlighted. Below the table, the 'PROPERTIES' section is open, showing details for the selected task. The 'Timeout (in minutes)' field is set to 0.

File Name	Type	Repeat	Status	Last Run Time
+ Download_File.atmx	Task File	Do not Repeat	Failed	08/12/2015 16:40:48
+ Files-Folders.atmx	Task File	Do not Repeat	Complete	06/22/2015 12:26:11
+ Import-Table.atmx	Task File	Do not Repeat	Complete	06/22/2015 15:45:19
+ List-Variable.atmx	Task File	Do not Repeat	Complete	06/22/2015 12:27:32
+ Loops.atmx	Task File	Do not Repeat	Failed	09/01/2015 15:45:32
+ Prompt.atmx	Task File	Do not Repeat	Failed	06/22/2015 12:25:28
+ Variables.atmx	Task File	Do not Repeat	Complete	06/22/2015 12:23:14

**PROPERTIES** | SCHEDULE | TRIGGER

**General**

File Name : Import-Table.atmx

Repeat Created at : 09-25-2014 21:25:41

Speed Status : Complete

Notification Last Run Time : 06/22/2015 15:45:19 [View Log](#)

Hotkey Priority (for queuing) : Low

Security Timeout (in minutes) : 0

Enable this task to run with other similar files or window titles

**Task Report**

Mouse Clicks : 0

Keystrokes : 4

Total Clicks : 4

**Description / Notes :**

### 2. 次に、タスクのタイムアウトを[Properties](プロパティ)セクションで入力します。



The screenshot shows the 'PROPERTIES' section for the 'ArrayVariable\_1.atmx' task. The 'Timeout (in minutes)' field is now set to 15.

**PROPERTIES** | SCHEDULE | TRIGGER

**General**

File Name : ArrayVariable\_1.atmx

Repeat Created at : 08/17/2015 09:17:17

Speed Status : Complete

Notification Last Run Time : 10/06/2015 18:06:40 [View Log](#)

Hotkey Priority (for queuing) : Low

Security Timeout (in minutes) : 15

Enable this task to run with other similar files or window titles


**Task Report**

Mouse Clicks : 0

Keystrokes : 0

Total Clicks : 0

**Description / Notes :**

 **備考:** タイムアウトの範囲は 0~9999 分です。


タスクのタイムアウトは以下の場合には適用されないことに注意してください。

- タスクをデバッグモードで実行している場合。
- タスクを Run Task(タスクを実行)コマンドで呼び出した場合。この場合、メインタスクのタイムアウトが適用されます。

[Repeat](繰り返し)モードで実行されるタスクでは、繰り返しの間隔を考慮してタイムアウトを指定する必要があります。たとえば、タスクの繰り返しを 5 回、繰り返しの間の時間を 5 分と指定したとします。このような場合、すべての繰り返しを完了するのにかかる合計時間を計算した後に、そのタスクのタイムアウトを設定することをおすすめします。

次の場合は、タイムアウト時間枠が除外されます。

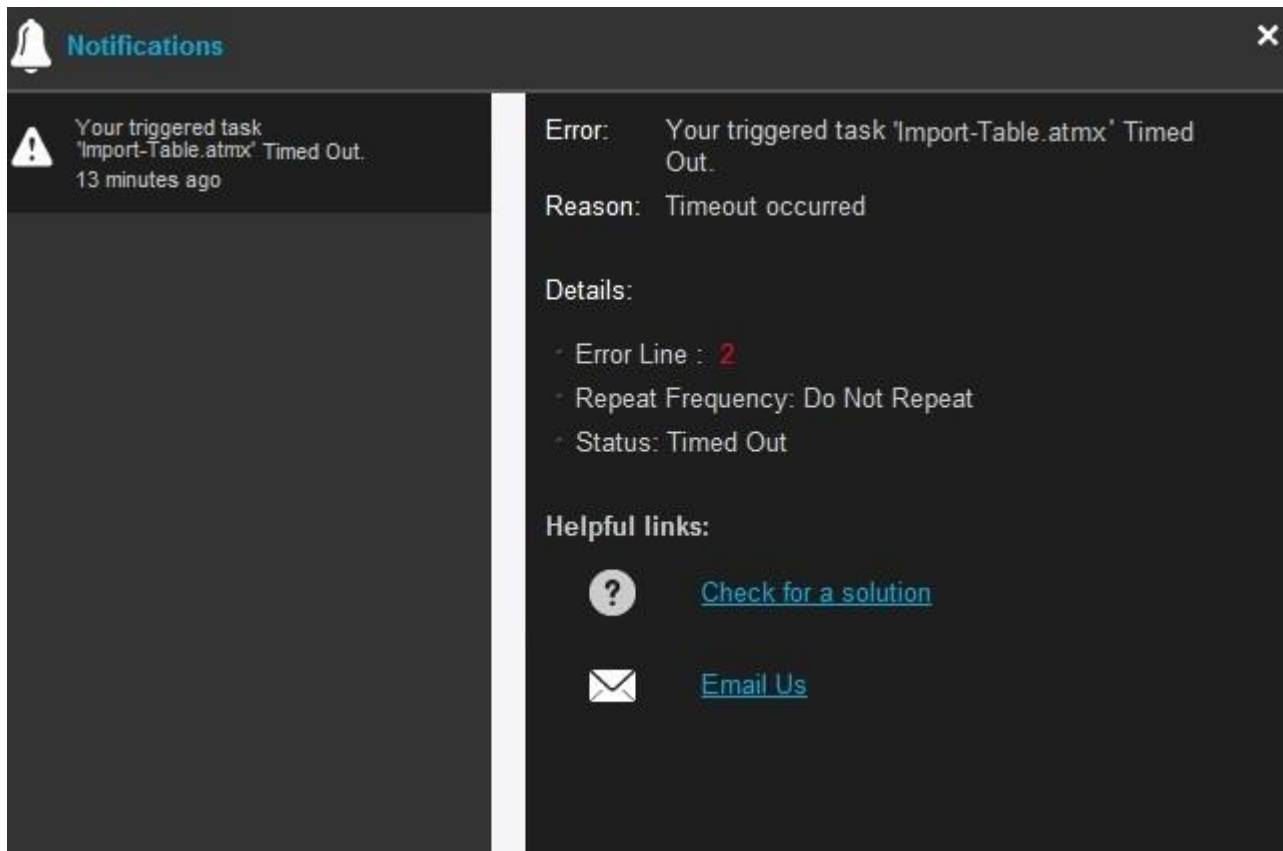
- タスクが手動で一時停止された場合。たとえば、タイムアウトが 1 分に設定されていて、タスクが 40 秒後に一時停止されたようなケースです。この場合、タスクを再開してから 20 秒後にタイムアウトが発生します。
- 優先度の低いタスクが中断され、優先度の高いタスクの完了後に再開された場合。たとえば、タイムアウトが 1 分に設定されていて、タスクが 40 秒後に中断されたようなケースです。この場合、優先度の高いタスクの完了後にタスクが再開され、その 20 秒後にタイムアウトが発生します。
- 最初のタスクが一時停止されると、2 番目のタスクが中止され、最初のタスクが再開されます。
- 優先度の低いタスクが中断され、優先度の高いタスクのタイムアウト後に再開された場合。たとえば、タイムアウトが 1 分に設定されていて、タスクが 40 秒後に中断され、優先度の高いタスクがタイムアウトになったようなケースです。この場合、優先度の低いタスクは再開されません。

 備考: タイムアウトしたタスクの ROI は、ROI 全体には加算されません。

詳細は <https://support.automationanywhere.com> にお問い合わせください。

#### タイムアウト通知

- タスクがタイムアウトになると、[Notifications] (通知) によってユーザーに知らされます。



- タスクがタイムアウトになったときに通知されるようにメール通知を設定することもできます。詳しくは、「[メール通知を設定する](#)」を参照してください。
- タスクの[General Properties] (一般プロパティ) で[View Log] (ログを表示) をクリックすると、タイムアウトしたタスクの履歴や詳細なステータスを確認できます。
- タイムアウトされたタスクの詳細については、[System Logs] (システムログ) の[Timeout] (タイムアウト) エントリーで確認できます。詳しくは、「[システムログを表示する](#)」を参照してください。
- ビジュアルレポートでは、タスクがタイムアウトした回数を確認することもできます。詳しくは、「[レポート](#)」を参照してください。

#### タスクを繰り返す

Automation Anywhere では、実行スケジュールが設定されているタスクを繰り返すことができます。この機能は特に、自動化されたタスク、エラーが発生したときに繰り返すタスク、定期的な保守管理タスクで便利です。

Automation Anywhere メインウィンドウの繰り返しプロパティを使用する:

**PROPERTIES** SCHEDULE TRIGGER

General

**Repeat**

Speed

Notification

Hotkey

Security

Do Not Repeat  
 Repeat  times  
 Repeat until I stop it  
 Repeat for    time  
hh mm ss

Repeat Options

Time between repeats  
 mins  secs

Upon error continue with next repeat

繰り返しプロパティに次のオプションを設定できます。

- Do not repeat (繰り返しなし): このタスクは一回のみ実行されます。これが既定のオプションです。
- Repeat a number of times (指定の回数だけ繰り返し): このフィールドに指定されている回数だけタスクを繰り返します。

例: 電子メールタスクを 15 回繰り返し、15 通のメールを送信します。

Options

Please enter the number of times you want to repeat "Files-Folders.atmx" task.

Repeat  times

OK Cancel

- Repeat until I Stop it (停止するまで繰り返し): 停止ボタンをクリックするか、ESC キーを押して停止するまでタスクを繰り返します。タスクを何回実行する必要があるのかわからない場合にこのオプションを使用します。

**PROPERTIES** SCHEDULE TRIGGER

General

**Repeat**

Speed

Notification

Hotkey

Security

Do Not Repeat  
 Repeat  times  
 Repeat until I stop it  
 Repeat for    time  
hh mm ss


Repeat Options

Time between repeats  
 mins  secs

Upon error continue with next repeat

- Repeat for hh:mm:ss time (指定した時間繰り返し): 指定した時間の間、タスクを繰り返します。

PROPERTIES	SCHEDULE	TRIGGER
<p>General</p> <p><b>Repeat</b></p> <p>Speed</p> <p>Notification</p> <p>Hotkey</p> <p>Security</p>	<p><input type="radio"/> Do Not Repeat</p> <p><input type="radio"/> Repeat <input type="text"/> times</p> <p><input type="radio"/> Repeat until I stop it</p> <p><input checked="" type="radio"/> Repeat for <input type="text" value="99"/> <input type="text" value="59"/> <input type="text" value="59"/> time hh mm ss</p>	<p><u>Repeat Options</u></p> <p><input checked="" type="checkbox"/> Time between repeats <input type="text" value="01"/> mins <input type="text" value="00"/> secs</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> Upon error continue with next repeat</p>

 備考: 最大 99 時間 59 分 59 秒 (4 日間少々) に相当する繰り返し期間を指定できます。

- Time between repeats (繰り返し間隔): タスクを繰り返すまでの待ち時間を設定します。
- Upon error, continue with next repeat (エラー発生時には次の繰り返しから続行): デフォルトでは、エラーが発生すると、実行中のタスクが停止されます。このオプションを設定すると、実行時にエラーの有無とは無関係にタスクが繰り返されます。

#### 関連トピック

- [一般プロパティを表示および設定する](#) • [タスクの速度を調整する](#)
- [タスクのメール通知を送信する](#) • [タスクの Hotkey を設定する](#)

## タスクの速度を調整する

Speed property を使用し、タスクの実行速度を調整します。タスクの所要時間を時間、分、秒単位で表示することもできます。



タスクの速度は次の 3 段階に調整できます。

- Standard Replay (標準再生) - 記録時と同じ速度でタスクを実行します。
- High-Speed Replay (高速再生) - 記録時よりも高速でタスクを実行します。
- Turbo-Action Replay (ターボアクション再生) - タスクを最高速度で実行し、マウスの動きをすべて排除します。

Automation Anywhere の SMART 自動化技術により、再生速度を上げて精度や信頼性が確保されます。

**ヒント:** まれに、プロセス記録中の特定の一時停止が、アプリケーション特有の意味を持つ場合があります。このような場合には、再生速度を標準再生モードに設定し、必ず正確に再生してください。

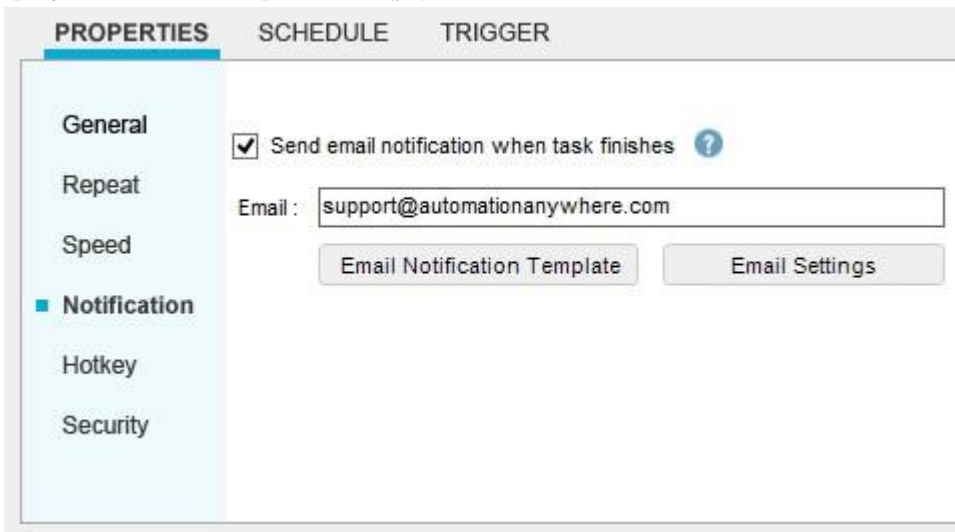
## 関連トピック

- [タスクのプロパティを設定する](#)
- [タスクの実行をスケジュールする](#)

### タスクのメール通知を送信する

タスク実行の計画にあたり、ユーザーの指定した 1 つ以上のメールアドレスにメール通知が送信されるようセットアップできます。

[Properties] (プロパティ) の下にある [Notification] (通知) タブで、[Send email notification when task finishes] (タスク終了時にメール通知を送信) を選択し、メールアドレスを 1 つまたは複数指定します。



[Send email notification when task finishes] (タスク終了時にメール通知を送信) チェックボックスを選択したものの、メールアドレスを指定しなかった場合、Automation Anywhere では、[To:] フィールドで指定されているメールアドレスが使用されます ([Tools] (ツール) → [Options] (オプション) → [Email Notification] (メール通知))。

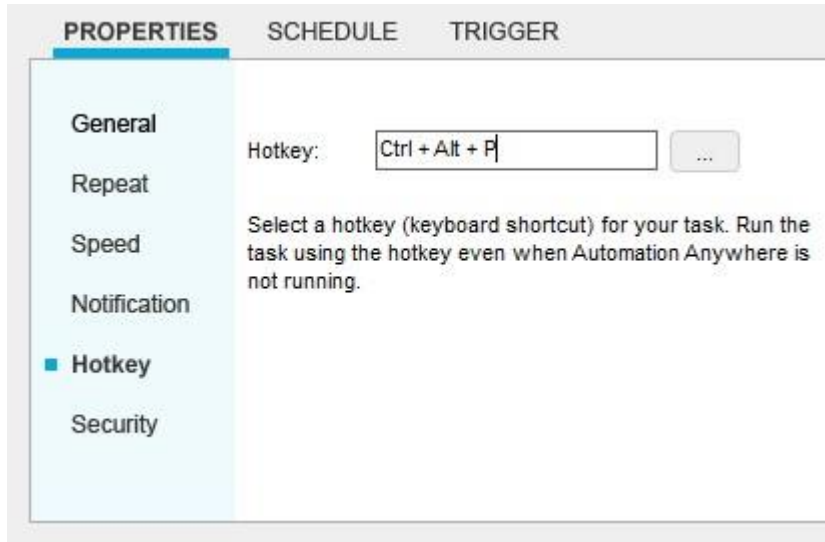
💡 ヒント: 通知用メールアドレスを1つ指定すればよい場合は、[Tools] (ツール) メニューを使用し、[Options] (オプション) → [Email Notification] (メール通知) を選択して設定します。ただし、別々のタスクからそれぞれ別のメールアドレスにステータス通知メールを送信する必要がある場合は、タスクごとにこれらのメールアドレスを指定します。詳しくは、「[メール通知を設定する](#)」を参照してください。

#### 関連トピック

- [タスクのプロパティを設定する](#) • [タスクを編集する](#) タスクの Hotkey を設定する

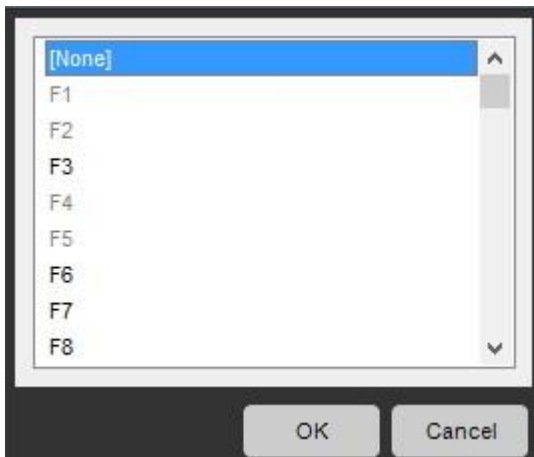
Automation Anywhere でタスクを自動化することの大きな利点の1つは、1つのキーを押すだけでタスクを実行できることです。

[Hotkey] (ホットキー) プロパティを使用して、自動化タスクにホットキーを割り当てることができます。



Hotkey を割り当てるには、次の手順を実行します。

1. [Properties] (プロパティ) タブで、[Hotkey] (ホットキー) を選択します。
2. 表示されたフィールドに Hotkey を指定するか、ポップアップウィンドウから Hotkey を選択します。Hotkey が別のプロセスで使用されている場合は、リストで選択できない表示になります。



📌 備考: 自動化タスクは、Automation Anywhere クライアントが動作していても実行できます。

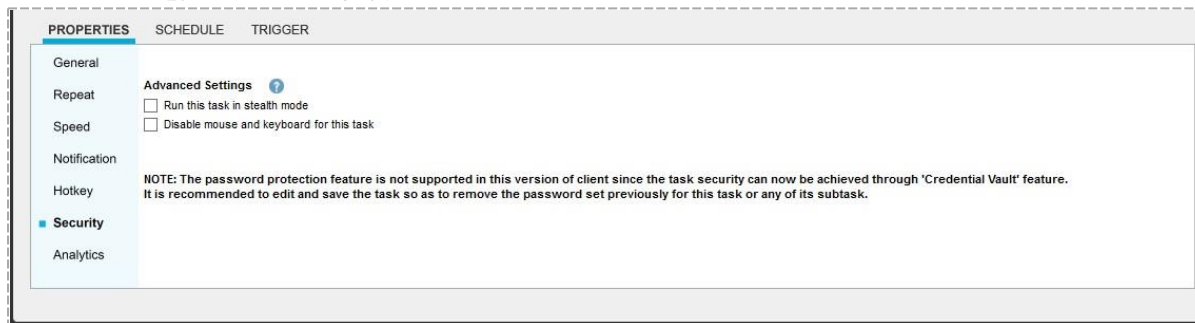
#### 関連トピック

- [タスクを停止する](#)
- [タスクの実行をスケジュールする](#)



## タスクのセキュリティ機能を設定する

Automation Anywhere には、Stealth Mode (ステルスモード) のタスク再生やマウス/キーボードの無効化といったさまざまな機能を使用して、安全な方法でタスクを実行するための高度なセキュリティが用意されています。



**重要:** Enterprise エディション 10.2 以降では、タスクのパスワード保護は推奨されていません。Enterprise エディション 10.2 にアップグレードする場合、パスワード保護されたタスクを手動で編集してパスワードを削除する必要があります。

[Security] (セキュリティ) \*プロパティで提供される機能は次のとおりです。

自動ログインの詳細設定: 自動ログインについて、次の詳細設定を指定できます。

- Running this task in stealth mode (ステルスモードでこのタスクを実行する): このオプションを使用すると、[Auto-Login] (自動ログイン) モードでタスクを実行するときにスクリーンに情報を表示しないようにすることができます。アプリケーションウィンドウとプログラムがスクリーンに表示されず、許可されていないユーザーは情報を見ることができなくなります。
- Disable mouse and keyboard for this task (このタスクでマウスとキーボードを無効にする): このオプションを使用すると、[Auto-Login] (自動ログイン) モードでタスクを実行するときにコンピューターのマウスとキーボードを無効にすることができます。タスクの実行中に、許可されていないユーザーがコンピューターを操作することは禁止されています。コンピューターにアクセスしている許可されていないユーザーをコンピューターが認識すると、Automation Anywhere は自動的にコンピューターをロックしてセキュリティを確保します。

このオプションを有効にするには、[Run Task as an Administrator] (管理者としてタスクを実行) オプションが [Tools] (ツール) > [Options] (オプション) > [Runtime Settings] (ランタイム設定) で有効になっていることを確認する必要があります。詳しくは [こちら](#) を参照してください。



**備考:** 自動化タスクをネストしている場合、親タスクが子タスクを実行すると、子の設定にかかわらず親の自動ログイン設定が有効になります。

\*トライアルバージョンでは、セキュリティ機能は使用できません。

## 関連トピック

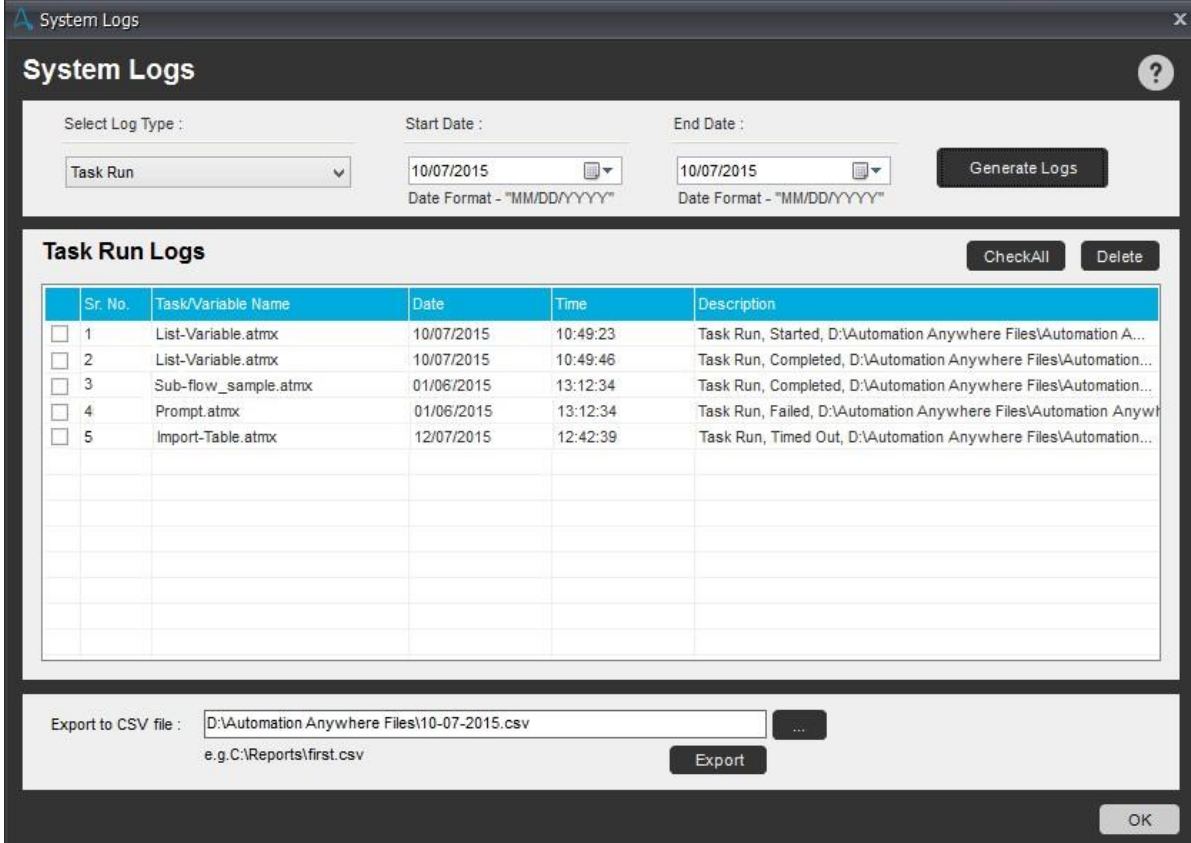
- [タスクを実行する](#)
- [タスクのスケジュールを設定する](#)

### システムログを表示する

Automation Anywhere は、アプリケーションで発生するすべてのイベントをログに記録します。タスクの実行、タスクの作成、タスクのプロパティの変更などの主要なイベントがログに記録されます。

このログに記録されたデータを表示するために、Automation Anywhere では [System Logs] (システムログ) が用意されています。[System Logs] (システムログ) にはすべてのクライアントアクティビティが表示されます。これらのレポートは、監視とトラブルシューティングに非常に役立ちます。





**System Logs**

Select Log Type :  Start Date :  End Date :

Date Format - "MM/DD/YYYY" Date Format - "MM/DD/YYYY"

**Task Run Logs**

Sr. No.	Task/Variable Name	Date	Time	Description
<input type="checkbox"/> 1	List-Variable.atmx	10/07/2015	10:49:23	Task Run, Started, D:\Automation Anywhere Files\Automation A...
<input type="checkbox"/> 2	List-Variable.atmx	10/07/2015	10:49:46	Task Run, Completed, D:\Automation Anywhere Files\Automation...
<input type="checkbox"/> 3	Sub-flow_sample.atmx	01/06/2015	13:12:34	Task Run, Completed, D:\Automation Anywhere Files\Automation...
<input type="checkbox"/> 4	Prompt.atmx	01/06/2015	13:12:34	Task Run, Failed, D:\Automation Anywhere Files\Automation Anyw...
<input type="checkbox"/> 5	Import-Table.atmx	12/07/2015	12:42:39	Task Run, Timed Out, D:\Automation Anywhere Files\Automation...

Export to CSV file :

e.g. C:\Reports\first.csv

システムログを表示するには、次の手順を実行します。

- Automation Anywhere のメインウィンドウで、[Tools] (ツール) メニューをクリックし、[System Logs] (システムログ) を選択します。
- ドロップダウンリストで [Log Type] (ログタイプ) を選択します。以下のタイプがあります。
  - Task Creation (タスク作成)
  - Task Run (タスク実行)
  - Task Modification (タスク変更)
  - Task Deleted (削除されたタスク)
  - WorkFlow Creation (ワークフロー作成)
  - Workflow Run (ワークフロー実行)
  - Workflow Modification (ワークフロー変更)
  - Workflow Deleted (削除されたワークフロー)
  - Report Creation (レポート作成)
  - Report Run (レポート実行)
  - Report Modification (レポート変更)
  - Report Deleted (削除されたレポート)
  - Task To Exe (実行するタスク)
  - スケジュール
  - トリガー
  - Task Properties (タスクのプロパティ)
  - App Configuration (アプリ設定)
  - File (ファイル)
  - Folder (フォルダー)
  - Script (スクリプト)
  - その他
- 指定した形式で開始日と終了日を指定します。
- [Generate Logs] (ログを生成) をクリックします。
- ログを CSV ファイルにエクスポートするには、CSV ファイルの名前を指定して [Export] (エクスポート) をクリックします。
- エントリを削除するには、ログの横にあるチェックボックスにチェックを入れて、[Delete] (削除) をクリックします。

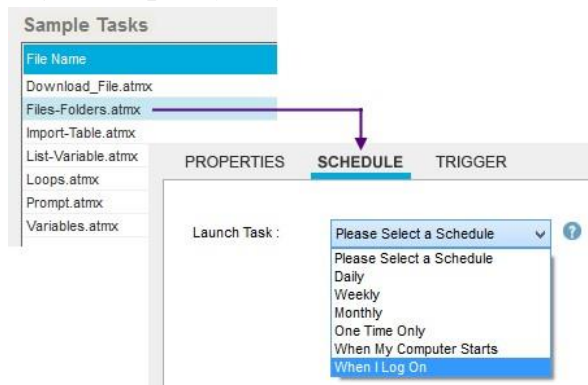
---

## 関連トピック

- [Error View\(エラービュー\)を使用する](#) • [デバッグオプションを有効にする](#)
- [アプリケーションパスの変更時に Windows にログインする](#)

## タスクの実行をスケジュールする

自動化タスクを作成すると、スケジュールまたはトリガーイベントに基づいて実行するタスクをスケジュールできます。



**備考:** Enterprise エディション 10.0 および 10.1 では、[One Time Only] (1 回限り) スケジュールオプションを使用してタスクをテスト実行できるのは、Bot Creator (タスク作成権限を持つクライアントユーザー) のみです。ただし、Enterprise エディション 10.2 以降を使用している場合、Bot Runner (ランタイム権限を持つクライアントユーザー) はさまざまなオプションを使用して引き続きタスクをスケジュールできます。詳しくは [こちら](#) を参照してください。

### タスクをスケジュールする

Automation Anywhere には Scheduler (スケジューラー) と Schedule Manager (スケジュールマネージャー) が用意されており、これらを使用していつでも好きなときにタスクを実行できます。

#### Scheduler (スケジューラー) を使用してタスクをスケジュールする

Automation Anywhere Scheduler は、時間ベースのスケジュール機能を提供します。1 年の特定の日、週、または月に実行するタスクをスケジュールできます。

Scheduler (スケジューラー) について詳しくは、「[Scheduler \(スケジューラー\) を使用してタスクをスケジュールする](#)」を参照してください。

#### Schedule Manager (スケジュールマネージャー) を使用してタスクスケジュールを表示する

Schedule Manager (スケジュールマネージャー) では、作成したタスクのスケジュールを表示、追加、編集できます。

Schedule Manager (スケジュールマネージャー) について詳しくは、「[Schedule Manager \(スケジュールマネージャー\) を使用する](#)」を参照してください。

#### Trigger (トリガー) を使用してタスクをスケジュールする

トリガーイベントに基づいてタスクを実行するには、Automation Anywhere メインウィンドウの [Trigger] (トリガー) タブを使用します。

実行するタスクをトリガーできるイベントの例は次のとおりです。

- 新規ウィンドウが開いたとき
- 特定のファイルが作成されたとき • ファイルが削除されたとき
- 特定の受信トレイにメールが受信されたとき

トリガーの使用について詳しくは、「[Trigger Manage \(トリガーマネージャー\) を使用する](#)」を参照してください。

## 関連トピック

- [自動化タスクを記録する • 特殊キーを使用する](#)
- [タスクのプロパティを設定する](#)
- [Automation Anywhere Client を終了する](#)

### Scheduler (スケジューラー) を使用してタスクをスケジュールする

Automation Anywhere Scheduler では、管理または介入を必要とせずに、好きな時間に実行するオートメーションタスクをスケジュールできます。

### タスクをスケジュールする

次のように、自動化タスクとプロセスワークフローの実行をスケジュールできます。

PROPERTIES **SCHEDULE** TRIGGER

Launch Task :  ?

Start Time :  :

Schedule :  Everyday  
 Weekdays  
 Every  days


Start Date :  /  /

Current Task Schedule(s):

Task Description	Schedule Time	Status
At 10:10 every day, starting ...	10:10:00 10-Oct-2014	The task has ...

次の手順を実行し、Scheduler(スケジューラー)を使用してタスクをスケジュールします。

1. スケジュールを設定するタスクを選択します。
2. [Schedule](スケジュール)タブをクリックします。
3. スケジュールの時刻、日付、および頻度についての情報を設定します。
4. [Save](保存)をクリックします。
5. Windows のユーザー名とパスワードを入力します。


 [Login Settings](ログイン設定)オプションで Windows ログイン資格情報をすでに保存してある場合、Scheduler(スケジューラー)で資格情報を入力し直すよう促すメッセージが表示されません。

6. 実行するタスクを複数回スケジュールします。スケジュールの回数をさらに追加するには、[Add](追加)  ボタンをクリックします。

スケジュールされたタスクを実行する際にコンピューターがロックされていないことを確認するには、「[自動ログインオプションを使用する](#)」を参照してください。

Automation Anywhere には、次の頻度でタスクを実行するためのスケジュールオプションが用意されています。

- Daily(日次。毎日、平日のみ毎日、1日おきなど)
- Weekly(週次。毎週月曜日など特定の曜日)
- Monthly(月次。1月1日や10月5日など、毎月同じ日)
- 1回限り
- コンピューターを起動したとき
- コンピューターにログオンしたとき
- コンピューターがアイドル状態のとき

 備考: アップグレード後にスケジュールが表示されない場合「[新しいバージョンにスケジュールを移行する](#)」を参照してください。

#### Windows ログイン情報を入力する

セキュリティ上の理由から、Scheduler(スケジューラー)を使用してタスクの実行をスケジュールする場合、Windows のユーザー名とパスワードの入力が必要になることがあります。このセキュリティチェックにより、マシン所有者のみが、実行するタスクをスケジュールできるようになります。

## Schedule Task ?

**Please enter your Windows username and password**

Username:

Password:

Confirm Password:

Always use above credentials to schedule and run task(s)

Enable Auto Login (recommended) i

Note:  
For security reasons, Automation Anywhere Enterprise requires the password to precisely schedule and run the task(s) only for the above user.

You can change schedule and Auto Login settings and credentials from Tools --> Options --> Login Settings

### ユーザー名とパスワードがない場合

多くの自動化ユーザーは、システムにパスワードが設定されていません。この場合、パスワードを作成するとタスクをスケジュールできるようになります。コンピューターを起動するたびにパスワードを入力しなくてもすむようにするには、[Auto-Login] (自動ログイン) オプションを使用します。


システムでパスワードを作成するには、次の手順を実行します。

### Windows 7 の場合

1. Windows 7 のデスクトップで、[スタート] ボタンをクリックして [コントロール パネル] をクリックします。
2. [ユーザーアカウント] をダブルクリックします。
3. パスワードを作成する手順を完了します。任意の有効なパスワードを設定できますが、パスワードを空白にすることはできません。

[Auto-Login] (自動ログイン) オプションを使用するようマシンを設定するには、次の手順を実行します。

1. Windows 7 のデスクトップで、[スタート] ボタンをクリックして [ファイル名を指定して実行] をクリックします。
2. タイプ: 「control userpasswords」と入力します。
  - [ユーザーアカウント] ウィンドウが表示されます。
3. [詳細設定] タブに移動します。
4. [ユーザーが必ず Ctrl+Alt+Del キーを押す] の選択を解除します。

 **備考:** 自動ログインを有効にするとコンピューターをより便利に使用できるようになりますが、セキュリティリスクが生じる可能性があります。任意のユーザーがマシンを起動してファイルにアクセスできるよう注意してください。

### 関連トピック


- [タスクの実行をスケジュールする](#)
- [Trigger \(トリガー\) を使用してタスクをスケジュールする](#) • [タスクのプロパティを設定する](#) スケジュールマネージャーを使用する

Automation Anywhere Schedule Manager は、タスクに設定されたすべてのタスクスケジュールを表示する便利な機能です。スケジュールマネージャーを使用して、すべてのタスクスケジュールを表示、追加、編集できます。

### タスクスケジュールを表示する

タスクスケジュールを表示するには、スケジュールマネージャーを以下のいずれかの方法で起動します。

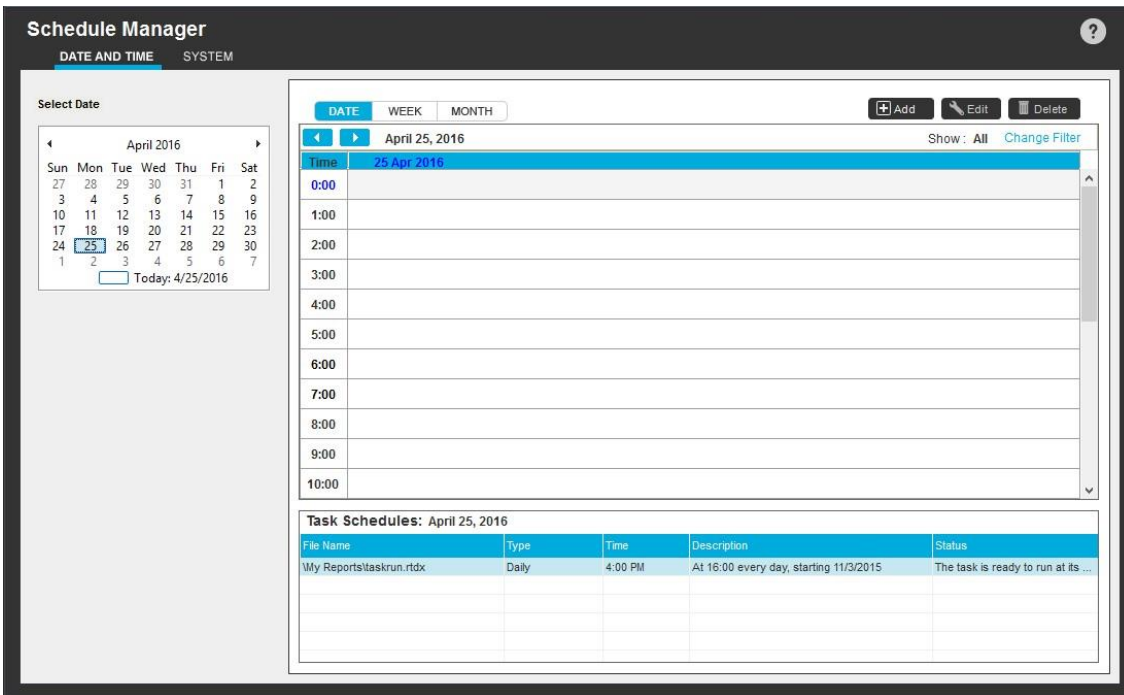
- Automation Anywhere のメインウィンドウの左下部にある [Schedule Manager] (スケジュールマネージャー) タブをクリックします。
- または、メニューバーで [Tool] (ツール) > [Schedule Manager] (スケジュールマネージャー) をクリックします。

 備考: アップグレード後にスケジュールが表示されない場合「[新しいバージョンにスケジュールを移行する](#)」を参照してください。

### タスクスケジュールを作成、編集、削除する

[Schedule Manager] (スケジュールマネージャー) にあるタブを使用してすべてのタスクスケジュールを管理できます。

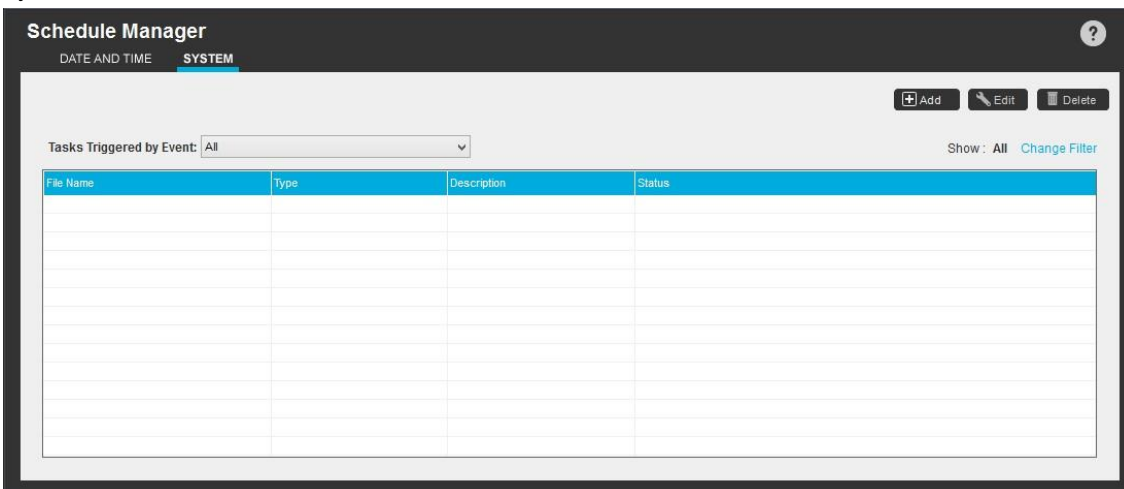
#### 1. Date and Time (日付と時間) タブ



The screenshot shows the 'Schedule Manager' window with the 'DATE AND TIME' tab selected. On the left, there is a calendar for 'April 2016' with the 25th highlighted. Below the calendar, it says 'Today: 4/25/2016'. The main area has tabs for 'DATE', 'WEEK', and 'MONTH', with 'DATE' selected. It shows 'April 25, 2016' and a 'Show: All' filter. A time selection grid is visible with times from 0:00 to 10:00. Below the grid is a table titled 'Task Schedules: April 25, 2016'.

File Name	Type	Time	Description	Status
My Reports\taskrun.rdx	Daily	4:00 PM	At 16:00 every day, starting 11/3/2015	The task is ready to run at its ...

#### 2. System (システム) タブ

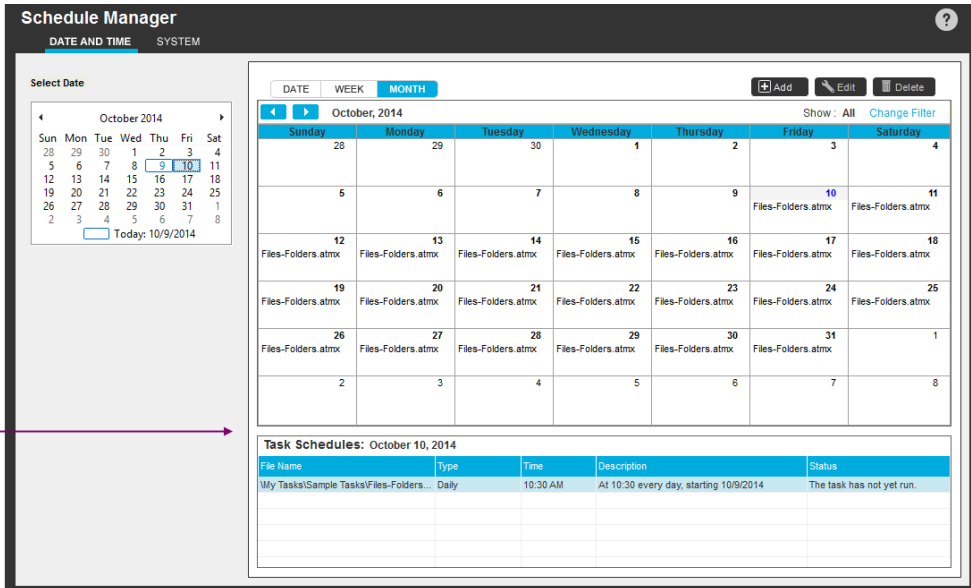


The screenshot shows the 'Schedule Manager' window with the 'SYSTEM' tab selected. At the top, there is a dropdown menu for 'Tasks Triggered by Event' set to 'All'. Below this is a table with columns: 'File Name', 'Type', 'Description', and 'Status'. The table is currently empty.

File Name	Type	Description	Status
-----------	------	-------------	--------

#### Date and Time (日付と時間) スケジュール

[Date and Time] (日付と時間) タブの中にある、[Day] (日)、[Week] (週)、[Month] (月) タブを使用してスケジュールが設定されたタスクを操作できます。



**Schedule Manager**

DATE AND TIME SYSTEM

Select Date

October 2014

Today: 10/9/2014

DATE WEEK MONTH

October, 2014

Show: All Change Filter

Sunday	Monday	Tuesday	Wednesday	Thursday	Friday	Saturday
28	29	30	1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30	31	1
2	3	4	5	6	7	8

Task Schedules: October 10, 2014

File Name	Type	Time	Description	Status
My Tasks\Sample Tasks\Files-Folders...	Daily	10:30 AM	At 10:30 every day, starting 10/9/2014	The task has not yet run.

次のいずれかのビューを使用してスケジュールが設定されたタスクの実行を追加、編集、削除できます。

- Day(日): [Day](日)ビューでは、スケジュールの設定された各タスクの時間と説明を表示します。スケジュールの設定されたタスクを追加、編集、削除できます。タスクを毎日、またはより頻繁に実行する必要がある場合はこのビューを使用します。
- Week(週): [Week](週)ビューでは、その週におけるスケジュールの設定されたタスクの日付と時間、説明を表示します。タスクを週次で実行するようにスケジュールする場合はこのオプションを使用します。
- Month(月): [Month](月)ビューでは、その月におけるスケジュールの設定されたタスクの日付と説明を表示します。タスクの実行頻度を月次でスケジュールする場合はこのオプションを使用します。
- 日付範囲: 左側の[Select Date](日付を選択)セクションで、開始日をクリックしてマウスボタンを押したまま終了日までドラッグして期間をハイライトすることで、スケジュールを設定するタスクの日付範囲を指定できます。[Month](月)ビューが自動的に開き、その日付範囲内でスケジュールが設定されたタスクを表示します。



**DATE AND TIME SYSTEM**

Select Date


October 2014

Today: 10/9/2014

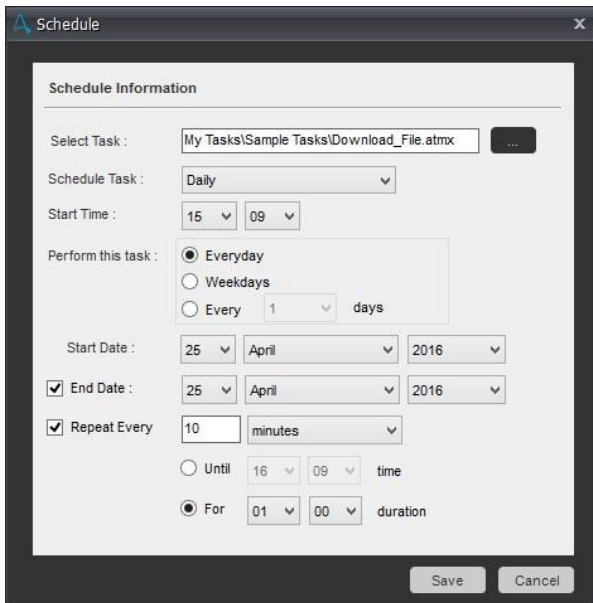
スケジュールを追加、編集、削除する

次のさまざまなオプションを使用して、クライアントマシンのタスクのスケジュールを追加、編集、削除できます。

- Daily(日次。毎日、平日のみ毎日、1日おきなど)
- Weekly(週次。毎週月曜日など特定の曜日)
- Monthly(月次。1月1日や10月5日など、毎月同じ日)
- 1回限り

スケジュールを追加するには、 **Add** をクリックして必要なオプションを選択して保存します。





スケジュールを編集するには、スケジュールを選択して



、をクリックするか、ダブルクリックまたは右クリックしてコンテキスト



メニュー

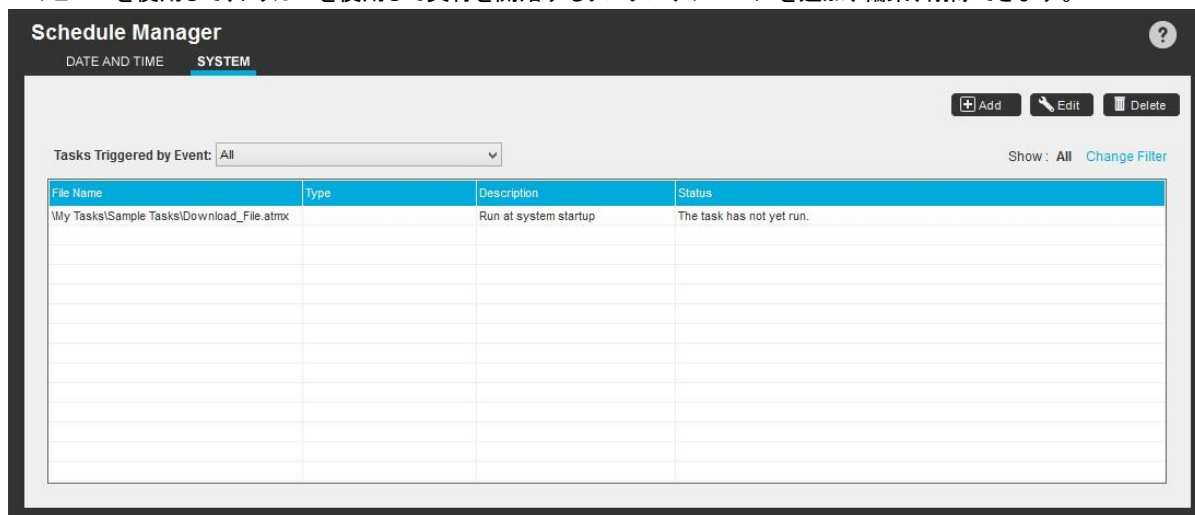
メニューで [Edit] (編集) を選択します。同様に、

をクリックするとスケジュールを削除できます。

### System (システム) コマンドスケジュール

[System] (システム) タブを使用して、トリガーなどのシステムイベントに基づいて実行するようにスケジュールを設定したタスクを表示します。

このビューを使用して、トリガーを使用して実行を開始するタスクスケジュールを追加、編集、削除できます。



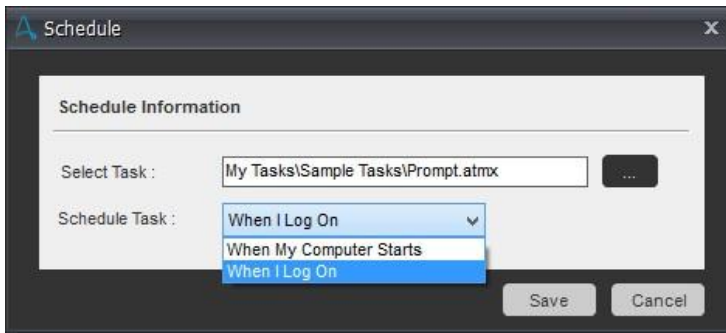
以下のシステムトリガーを利用できます。



- コンピューターを起動するとき
- ログオンするとき

システムイベントスケジュールを設定するには、



をクリックして必要なオプションを選択して保存します。



スケジュールを編集するには、スケジュールを選択して、 をクリックするか、ダブルクリックまたは右クリックしてコンテキストメニューで [Edit] (編集) を選択します。同様に、 をクリックするとスケジュールを削除できます。

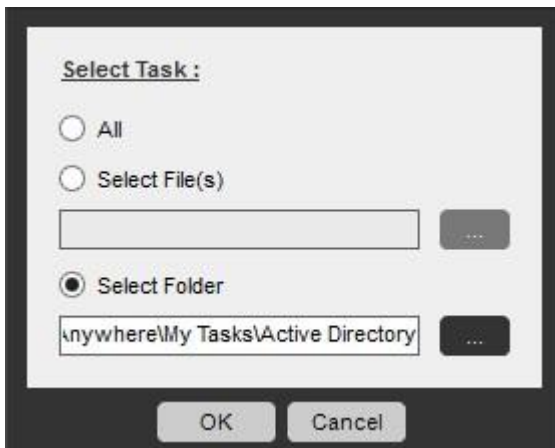
### タスクスケジュールのフィルター表示を変更する

Schedule Manager のシステムタブの一番右にある [Change Filter] (フィルターを変更) をクリックしてスケジュールの設定されたタスクの表示を変更できます。



以下のいずれかのアクションで表示するタスクを選択します。

- 必要なファイルまたはフォルダーを参照してタスクを選択する。
- Ctrl キーを押しながらタスクを選択することによりタスクを複数選択する。
- [All] (すべて) を選択してシステムのスケジュールの設定されたタスクをすべて表示する。



### 関連トピック


- [タスクの実行をスケジュールする](#) • [Trigger \(トリガー\) を使用する](#)

Bot Creator または Bot Runner でタスクのスケジュールを設定する

Automation Anywhere Scheduler により、開発クライアントが管理または介入を必要とせずに、好きな時間に 1 回実行する自動化タスクをスケジュールできます。

[One Time Only] (1 回限り) スケジュールオプションを使用してタスクをテスト実行できるのは、Bot Creator (タスク作成権限を持つクライアントユーザー) と Bot Runner (ランタイム権限を持つクライアントユーザー) のみです。ただし、Enterprise エディション 10.2 を使用している場合、Bot Runner はさまざまなオプションを使用して引き続きタスクをスケジュールできます。

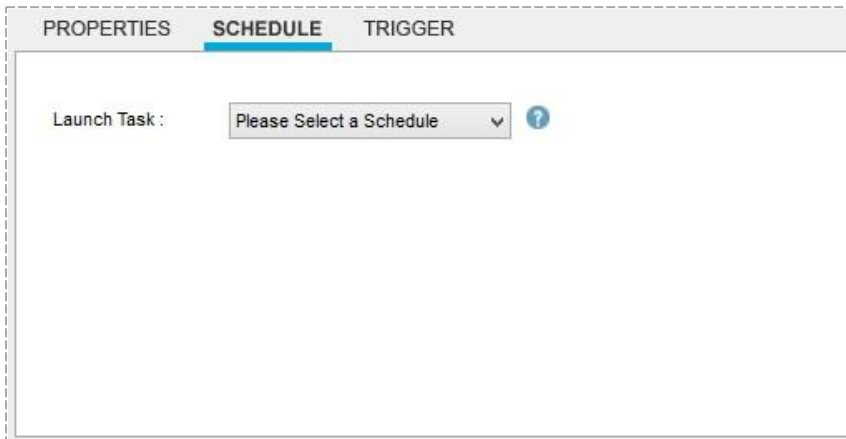
スケジュールされたタスクを Bot Runner で実行するために、Control Room 管理者は Control Room のタスクスケジュールコンソールを使用してスケジュールを作成できます。

 備考: [Login Settings] (ログイン設定) オプションで Windows ログイン資格情報をすでに保存してある場合、Scheduler (スケジューラー) で資格情報を入力し直すよう促すメッセージが表示されません。

#### タスクをスケジュールする

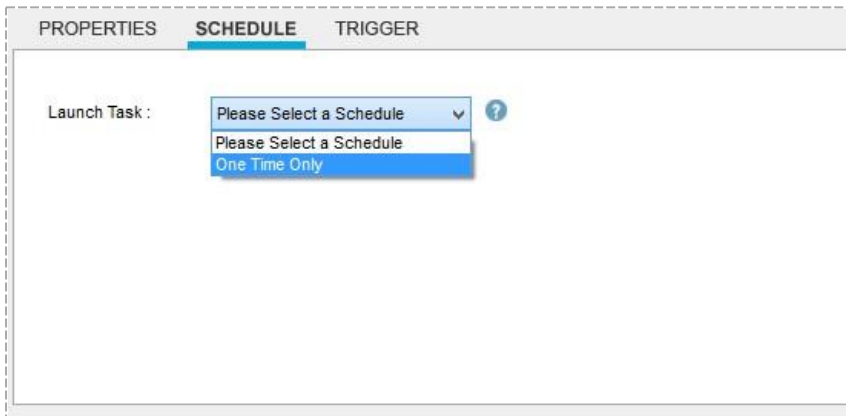
A. Bot Creator (開発権限を持つクライアント) は、次に示すように [One Time Only] (1 回限り) 実行するオートメーションタスクをスケジュールできます。

1. スケジュールを設定するタスクを選択します。
2. [Schedule] (スケジュール) タブをクリックします。



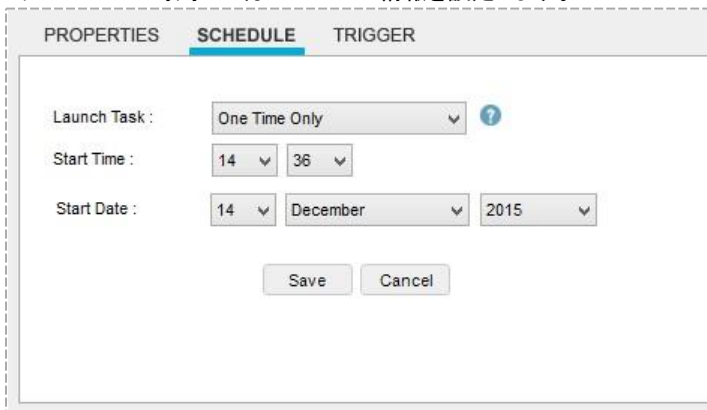
The screenshot shows the 'SCHEDULE' tab selected. Under 'Launch Task', a dropdown menu is open with the text 'Please Select a Schedule' and a question mark icon to its right.

3. ドロップダウンから [One Time Only] (1 回限り) オプションを選択します。



The screenshot shows the 'SCHEDULE' tab. The 'Launch Task' dropdown menu is open, and 'One Time Only' is highlighted in blue.

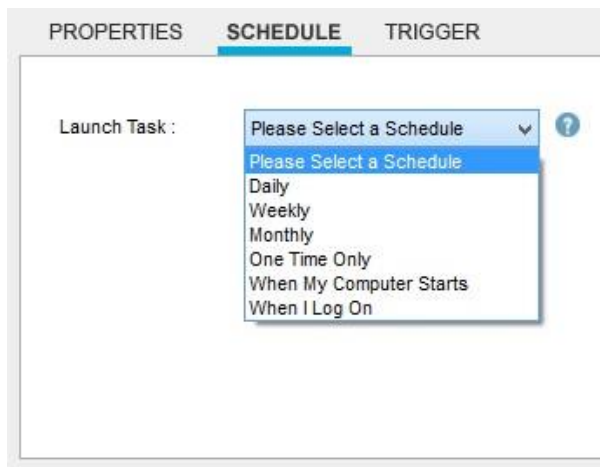
4. スケジュールの時刻と日付についての情報を設定します。




The screenshot shows the 'SCHEDULE' tab with the following settings: 'Launch Task' is 'One Time Only', 'Start Time' is 14:36, and 'Start Date' is 14 December 2015. There are 'Save' and 'Cancel' buttons at the bottom.

5. [Save] (保存) をクリックします。
6. Windows のユーザー名とパスワードを入力します。

B. Bot Runners (ランタイム権限のみを持つクライアント) は、さまざまなオプションを使用して次のような頻度でタスクをスケジュールできます。



- Daily(日次。毎日、平日のみ毎日、1日おきなど)
- Weekly(週次。毎週月曜日など特定の曜日)
- Monthly(月次。1月1日や10月5日など、毎月同じ日)
- 1回限り
- コンピューターを起動するとき

 備考: マシンを再起動するのではなくシャットダウンしてから起動する場合は、まず、[コントロール パネル]の[電源オプション]設定で[高速スタートアップ]オプションを無効にすることが重要です。


たとえば、Microsoft Windows 8、8.1、または 10 を使用している場合は、次の手順を実行します。

- [コントロール パネル]->[電源オプション]に移動します。
- [電源ボタンの動作の選択]->[現在利用可能ではない設定を変更します]をクリックします。
- [高速スタートアップを有効にする]オプションを無効にします。

詳しくは、[Microsoft](#) の Web サイトを参照してください。

- ログオンするとき

スケジュールされたタスクを実行する際にコンピューターがロックされないようにするには、「[ログイン設定オプションを使用する](#)」を参照してください。

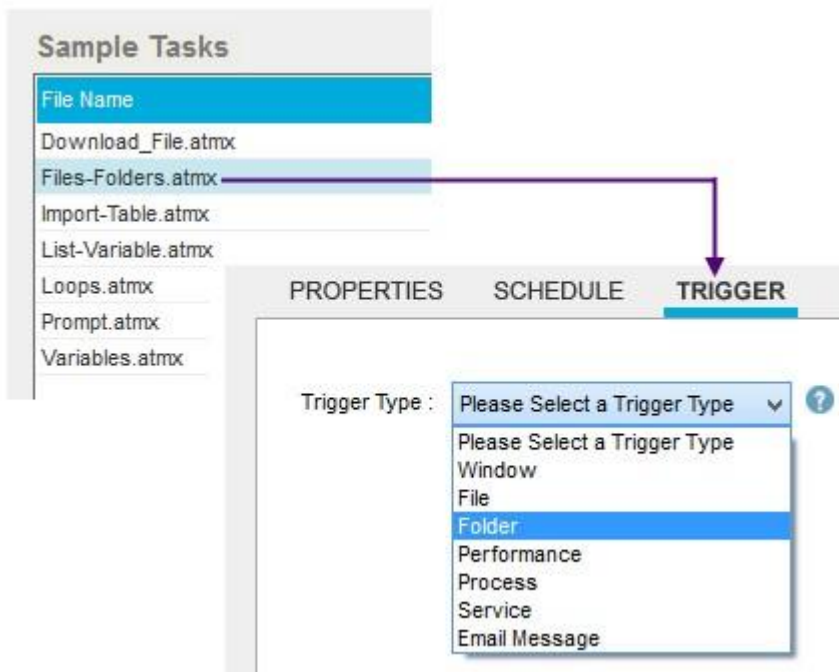
 備考: アップグレード後にスケジュールが表示されない場合、詳しくは、トラブルシューティングの「[新しいバージョンにスケジュールを移行する](#)」セクションを参照してください。


Trigger(トリガー)を使用してタスクをスケジュールする

実行するタスクを日付と時刻に基づいてスケジュールするだけでなく、トリガーイベントを使用して自動化タスクを起動することもできます。

トリガー機能を使用すると、コンピューターで発生するイベントに応じてタスクを自動的に実行できます。たとえば新しいウィンドウが開いたり、特定のファイルが作成されたりする状況をトリガーとして使用し、タスクを実行することができます。

トリガーを使用するには、自動化タスクを選択して、Automation Anywhere メインウィンドウの[Trigger](トリガー)タブをクリックし、選択したタスクに適したトリガータイプを選択します。



 **備考:** Windows にログインするとき、スケジュールの設定されたタスクのトリガーが発効するまでに少し時間がかかります。このため、コンピューターを起動するとき、トリガーイベントが立ち上がるまで待機し、Windows 資格情報を使用してログインするようお勧めします。

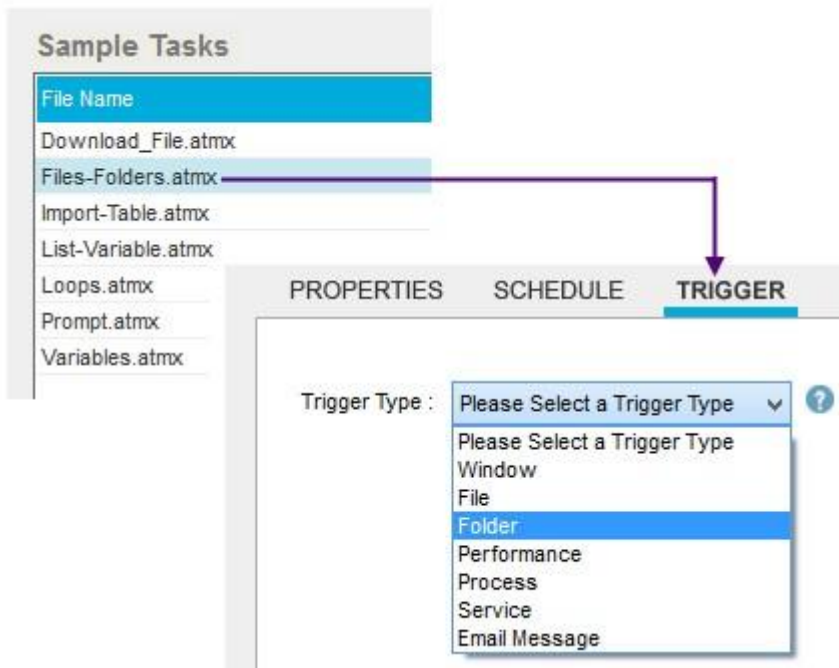
#### 関連トピック

- [タスクに Trigger\(トリガー\)を追加する](#)
- [Trigger Manager\(トリガーマネージャー\)を使用してトリガーを管理する](#)

タスクにトリガーを追加する

Automation Anywhere のトリガーを使用すると、お使いのコンピューターで発生するイベントに対応してタスクが自動的に実行されます。たとえば新しいウィンドウが開いたり、特定のファイルが作成されたりする状況をトリガーとして使用し、タスクを実行することができます。

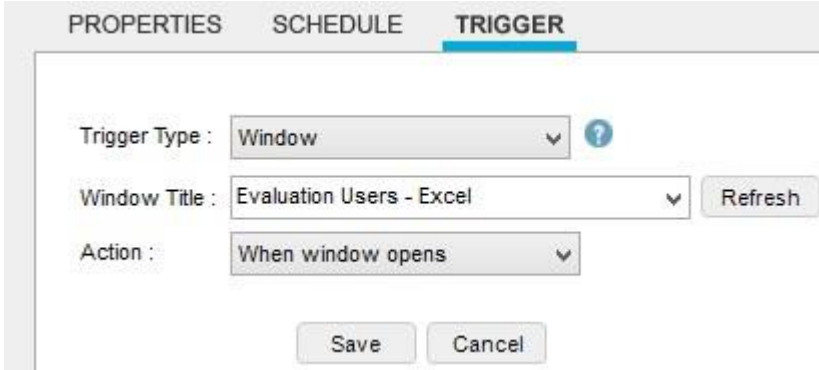
Automation Anywhere には次の種類のトリガーイベントがあります。



トリガーイベントを使用する前に、次の事項に注意する必要があります。

- トリガーはログオフ状態のコンピューターでは機能しません。ただし、ロック状態の場合は、自動ログインが有効になっていればトリガーが機能できます。詳しくは「[自動ログインオプションを使用する](#)」を参照してください。
- トリガーは Client のローカルインスタンスでのみ適用可能です。
- トリガーは Control Room にタスクと共にアップロードされないため、展開できません。

### Window( ウィンドウ)トリガーを使用する



PROPERTIES SCHEDULE **TRIGGER**

Trigger Type : Window ?

Window Title : Evaluation Users - Excel Refresh

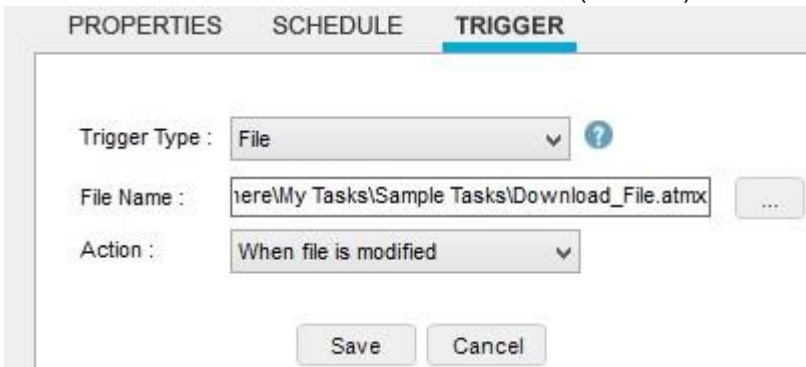
Action : When window opens

Save Cancel

[Window] (ウィンドウ)トリガーによって、アプリケーションウィンドウのアクションが発生した場合に自動化タスクを起動します。Automation Anywhere ではお使いのコンピューターで開いているアプリケーションのリストを表示します。このリストは、いつでも更新できるようになっています。次のオプションのいずれかをトリガーイベントとして選択できます。

- アプリケーションウィンドウを開いたとき
- アプリケーションウィンドウを閉じたとき

### File( ファイル)トリガーを使用する



PROPERTIES SCHEDULE **TRIGGER**

Trigger Type : File ?

File Name : here\My Tasks\Sample Tasks\Download\_File.atmx ...

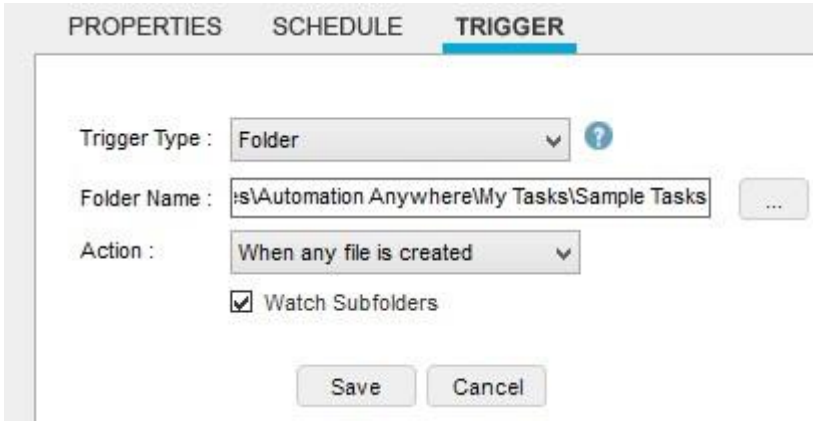
Action : When file is modified

Save Cancel

[File] (ファイル)トリガーによって、ファイルのアクションが発生した場合に自動化タスクを起動します。次のオプションのすべてをトリガーイベントとして選択できます。

- 新しいファイルを作成したとき
- 既存ファイルを削除したとき
- ファイルの名前を変更したとき
- ファイルを変更したとき

### Folder(フォルダー)トリガーを使用する

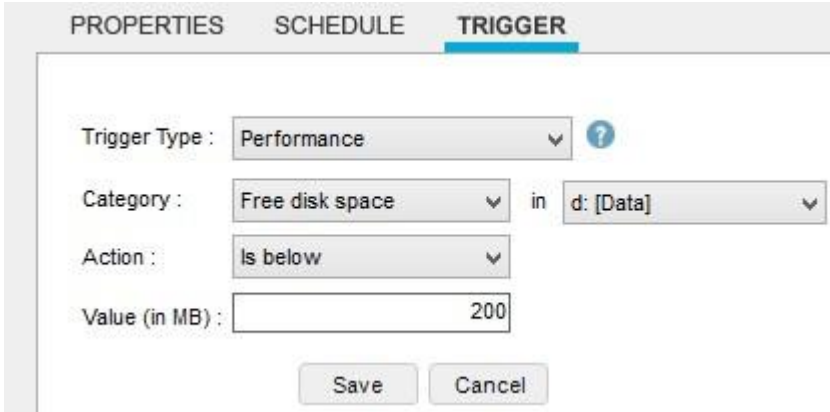


Trigger Type : Folder  
 Folder Name : \\s\Automation Anywhere\My Tasks\Sample Tasks  
 Action : When any file is created  
 Watch Subfolders  
 Save Cancel

[Folder] (フォルダー)トリガーによって、イベントによりお使いのコンピューターのフォルダーに影響があった場合に自動化タスクを起動します。次のオプションのすべてをトリガーイベントとして選択できます。

- 新しいファイルをフォルダーに作成したとき
- フォルダーから既存ファイルを削除したとき
- フォルダー内のファイルの名前を変更したとき
- 新しいフォルダーを作成したとき
- 既存フォルダーを削除したとき
- フォルダーの名前を変更したとき
- フォルダーを変更したとき

### Performance(パフォーマンス)トリガーを使用する



Trigger Type : Performance  
 Category : Free disk space in d: [Data]  
 Action : Is below  
 Value (in MB) : 200  
 Save Cancel

[Performance] (パフォーマンス)トリガーによって、特定のコンピューターのリソースがしきい値に達したか所定の条件が満たされた場合に自動化タスクを起動します。次のオプションをトリガーイベントとして選択できます。

- CPU Usage (CPU 稼働率) : コンピューターの CPU 稼働率が指定のレベル(%単位)に達する。
- Free Disk Space (ディスクの空き容量) : ディスクの空き容量が指定値(メガバイト(MB)単位)に達する。
- Process Count (プロセス数) : 実行中のプロセス数が指定数に達する。



### Process(プロセス)トリガーを使用する

PROPERTIES    SCHEDULE    **TRIGGER**

Trigger Type :  ?

Process :

Action :

[Process](プロセス)トリガーによって、システムプロセスが開始または停止した場合に自動化タスクを起動します。Automation Anywhere ではお使いのコンピューターで使用できるプロセスのリストを表示します。このリストは、いつでも更新できるようになっています。次のオプションのいずれかをトリガーイベントとして選択できます。

- プロセスの実行を開始したとき
- プロセスの実行を停止したとき

### Service(サービス)トリガーを使用する

PROPERTIES    SCHEDULE    **TRIGGER**

Trigger Type :  ?

Service :

Action :

[Service](サービス)トリガーによって、システムサービスが発生した場合に自動化タスクを起動します。Automation Anywhere ではお使いのコンピューターで使用できるサービスのリストを表示します。このリストは、いつでも更新できるようになっています。次のオプションのすべてをトリガーイベントとして選択できます。

- サービスの実行を開始したとき
- サービスの実行を停止したとき
- サービスの実行を再開したとき
- サービスの実行を中断したとき

## Email Message(メールメッセージ)トリガーを使用する

PROPERTIES    SCHEDULE    **TRIGGER**

Trigger Type :  ?

Action :

Host :

Port :     Poll every  mins

User Name :

Password :

Server uses secure connection (SSL)

[Email Message](メールメッセージ)トリガーによって、指定のメールアドレスでメールを受信した場合に自動化タスクを起動します。メールサーバーに新しいメールを受信した場合のトリガーを指定するには、次の事項を指定します。

- ホスト名
- ポートの詳細 • ユーザー名 • パスワード
- 新しいメッセージを確認する時間間隔
- メールアカウントが SSL を使用している場合、[Server Uses Secure Connection (SSL)](サーバーは安全な接続 (SSL) を使用する) チェックボックスにチェックを入れます。

## トリガーの使用例

例 1: Microsoft Excel ウィンドウを開くたびに自動化タスクを実行する

1. [Trigger type](トリガータイプ)で[Window](ウィンドウ)を選択します。
2. [Window Title](ウィンドウのタイトル)ドロップダウンメニューで、[EvaluationUsers-Excel](評価ユーザー - Excel)を選択します。ウィンドウがリストに表示されない場合は、そのアプリケーションを開き、[Refresh](更新)をクリックします。
3. [Action](アクション)で、[When window opens](ウィンドウが開いたとき)を選択します。
4. [Save](保存)ボタンをクリックしてトリガーを保存します。これで Microsoft Excel を開くたびにタスクが実行されます。

PROPERTIES    SCHEDULE    **TRIGGER**

Trigger Type :  ?

Window Title :

Action :

Trigger Type	Action
<input checked="" type="checkbox"/> File	When 'D:\Application Files\Automation Anywher...
<input checked="" type="checkbox"/> Folder	When file is created in folder 'D:\Application File...
<input checked="" type="checkbox"/> Window	When 'Evaluation Users - Excel' window opens

例 2: コンピューター上の重要なワークフォルダーからファイルが削除された場合に常にメールを送信する自動化タスクを実行する。

1. [Trigger type](トリガータイプ)で[Folder](フォルダー)を選択します。
2. [Folder Name](フォルダー名)で、省略記号(...)をクリックして、監視対象のフォルダーを選択します。
3. [Action](アクション)で、[When any file is deleted](ファイルが削除されたとき)を選択します。
4. [Save](保存)ボタンをクリックしてトリガーを保存します。選択したフォルダーからファイルが削除されると、タスクが起動し、通知メールが送信されます。

## トリガーを使用する際の推奨事項

Automation Anywhere では、トリガーを使用してタスクを実行する場合、次のガイドラインに従うことを推奨します。

- ロックされたコンピューターでタスクを実行する場合、トリガーによる実行が設定されたタスクを実行する際にコンピューターがロック解除されるよう、自動ログイン機能を使用します。「自動ログインオプションを使用する」を参照してください。詳しくは「[自動ログインオプションを使用する](#)」を参照してください。
- タスクをトリガーによって実行するために使用されるファイル名、フォルダー名、ウィンドウ名を返すトリガーアクションに、システム変数を割り当てることができます。詳しくは「[トリガー変数](#)」を参照してください。
- トリガーを使用してプロセスワークフローを実行します。詳しくは「[トリガーを使用してタスクをスケジュールする](#)」を参照してください。

### 関連トピック

- [Trigger Manager を使用する](#)

Trigger Manager を使用する

時には、さまざまな自動化されたタスクを実行する複数のトリガーを作成する場合があります。たとえば、5 つの別個のトリガーを使用して 1 つのタスクを実行する場合もあれば、1 つのトリガーで 5 つの別個のタスクを実行する場合もあります。タスクとトリガーの数が増えると、これらのトリガーを整理、管理する必要が生じることがあります。

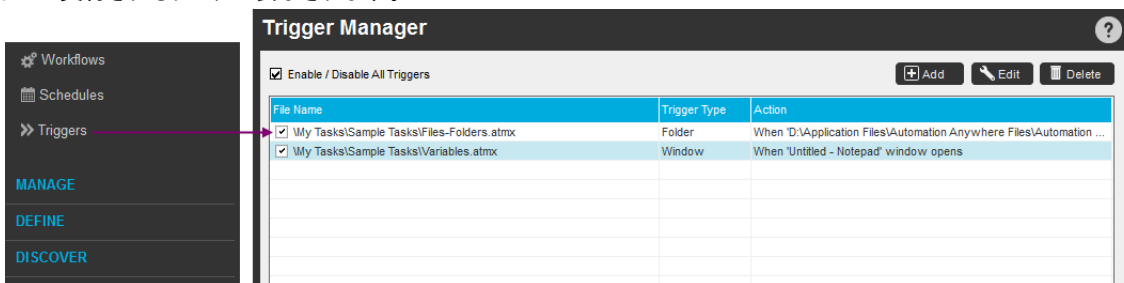
Trigger Manager を使用してタスクに設定したトリガーを表示、追加、修正、削除できます。

トリガーマネージャーを使用して以下の操作を実行できます。

- トリガーを追加する • トリガーを修正する • トリガーを削除する
- トリガーを有効にする • トリガーを無効にする

Trigger Manager を使用するには、次の手順を実行します。

1. Automation Anywhere のメインウィンドウで、左側の [Trigger Manager] タブをクリックします。[Trigger Manager] ウィンドウが開いて、各トリガーによって実行されるタスクが表示されます。



2. トリガーを追加する、または既存のトリガーを操作します。

- 新しいトリガーを追加するには、[Add] (追加) ボタンをクリックします。



- 既存のトリガーを編集するには、[Edit] (編集) ボタンをクリックします。




- 既存のトリガーを削除するには、[Delete] (削除) ボタンをクリックして [Yes] (はい) をクリックして確認します。



- トリガーを有効にするには、左端の列にあるチェックボックスにチェックが入っていることを確認します。
- トリガーを無効にするには、左端の列にあるチェックボックスのチェックを外します。

Trigger Manager ウィンドウの一番上のチェックボックスにチェックを入れるか外すことで、すべてのトリガーを一度に有効または無効にできます。

 **備考:** Windows にログインするとき、スケジュールの設定されたタスクのトリガーが発効するまでに少し時間がかかります。このため、コンピューターを起動するとき、トリガーイベントが立ち上がるまで待機し、Windows 資格情報を使用してログインするようお勧めします。

関連トピック • [Trigger\(トリガー\)を使用してタスクをスケジュールする](#) • [タスクの実行をスケジュールするスケジュールされたタスクをトラブルシューティングする](#)

スケジュールされたタスクの実行に関する問題が発生していますか？

スケジュールされたタスクを実行できない場合は、次の手順を実行します。

1. 入力したユーザー名とパスワードを確認します。

セキュリティ上の理由から、スケジュールされたタスクを実行するには、場合によってユーザー名とパスワードを入力する必要があります。

2. 複数のアカウントがある場合は、正しいユーザー名とパスワードを使用していることを確認します。

同じコンピューターに複数のアカウント(ドメインアカウントやローカルアカウントなど)がある場合は、指定したユーザー名がコンピューターにログインするときに使用したユーザー名と同じであることを確認します。スケジュールされたタスクを別のユーザーアカウントで実行しようとすると、そのタスクは実行されません。Automation Anywhere では、ログインに使用したユーザー名がユーザー名フィールドにあらかじめ入力されています。

3. [コントロールパネル]でタスクのステータスを確認します。

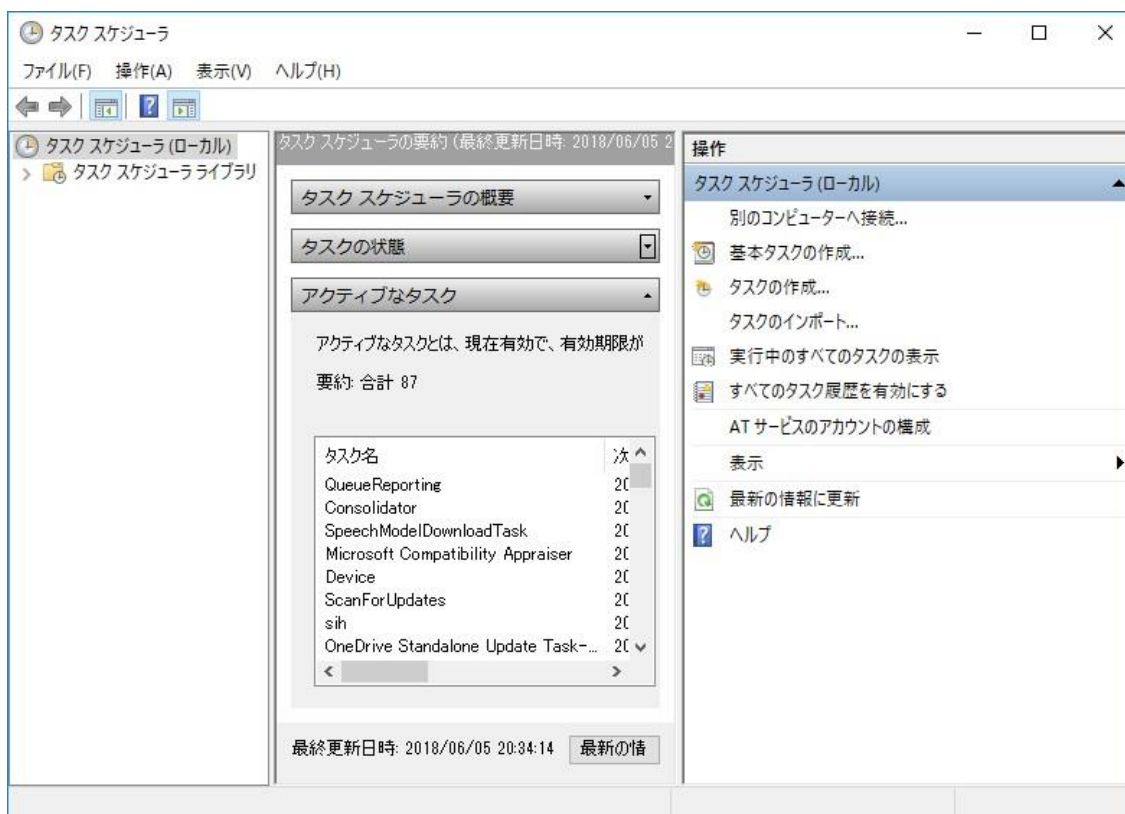
[コントロールパネル]でタスクのステータスを確認するには、次の手順を実行します。

1. [コントロールパネル]を開いて、[スケジュールされたタスク]をクリックします。
2. このタスクに対応するタスク(タスク名で始まるファイル)を選択します。
3. 該当するタスクを右クリックし、[Run](実行)を選択します。タスクが実行されない場合は、[状態]列を確認します。

4. 電卓アプリケーションをスケジュールします。

それでもタスクが実行されない場合は、次の手順を実行します。

1. [コントロールパネル]を開いて、[管理ツール]をクリックします。
2. [タスクスケジューラ]をクリックします。
3. [アクティブなタスク]のドロップダウンリストで、[Calculator](電卓)を選択します(下図参照)。電卓が動作しない場合は、コンピューターにスケジューラサービスが正常にインストールされていません。



5. [タスクスケジューラ]サービスが開始されていることを確認します。

デフォルトでは、スケジューラサービスはすべての Windows XP マシンで開始されています。次の手順を実行して、サービスが開始されていることを確認します。

1. [コントロールパネル]を開いて、[管理ツール]をクリックします。[サービス]を選択します。
2. [タスクスケジューラ]サービスの状態が[実行中]となっていることを確認します。
3. 状態が[実行中]になっていない場合は、右クリックして[開始]を選択します。
4. [スタートアップの種類]が[自動]に設定されていることを確認します。これにより、今後は必ず自動的にサービスが開始されます。

6. Task Scheduler を再起動します。

問題が解決しない場合は、次の手順を実行して[タスクスケジューラ]を再起動します。

1. [コントロールパネル]を開いて、[スケジュールされたタスク]をクリックします。
2. [詳細]メニューで、[タスクスケジューラの使用停止]をクリックします。
3. 10 分間待機します。
4. [タスクスケジューラの使用開始]をクリックして、[タスクスケジューラ]サービスを再起動します。

7. テクニカルサポートに問い合わせます。

上記の手順を完了してもスケジュールどおりにタスクを実行できない場合は、スケジューラサービスがコンピューターに正しくインストールされていない可能性があります。テクニカルサポートへは、「[Open a Support Case \(サポートケースを開く\)](#)」からお問い合わせください。

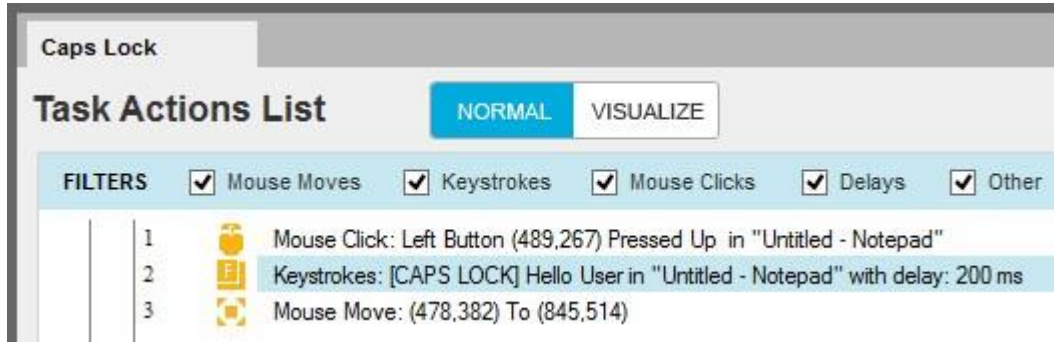
関連トピック

- [タスクの実行をスケジュールする](#) • [タスクを実行する](#)
- [タスクをデバッグする](#)

タスクで Caps Lock を使用する

ベストプラクティスとして、自動化タスクを作成する前に Caps Lock キーがオフであることを確認してください。新規の自動タスクを作成するとき、Automation Anywhere は記録中の Caps Lock キーの状態を記録します。

タスクを実行するとき、Automation Anywhere はタスクを記録する前の状態と一致するように Caps Lock キーの状態を変更します。



Caps Lock をオンにして記録する


記録の開始時に Caps Lock キーがオンにされると、Automation Anywhere は Caps Lock キーがオンの状態でタスクを記録します。

このタスクを実行するとき:

- Automation Anywhere は Caps Lock キーの状態を確認します。
- 実行時に Caps Lock キーがオフの場合は、Automation Anywhere はステップを実行する前に Caps Lock キーをオンに変更します。
- タスクの中で Insert Keystrokes(キーストロークを挿入)コマンドを使用する場合は、タスクを実行する際に Automation Anywhere が Caps Lock キーをオフに切り替えるため、小文字になります。

Caps Lock キーをオフにして記録する

記録の開始時に Caps Lock キーがオフにされ、タスクの中で Insert Keystrokes(キーストロークを挿入)コマンドを使用して大文字を入力する場合は、Automation Anywhere が Caps Lock キーをオンに変更します。

 備考: Insert Keystrokes(キーストロークを挿入)コマンドを使用するときに、Caps Lock キーのステータスが変更されていないか表示を確認してください。変更は内部で行われます。

## 関連トピック

- [タスクをデバッグする](#)

TaskBot/MetaBot Logic をデバッグする

上級ユーザー向けに、Automation Anywhere には自動化 TaskBot/MetaBot Logic をデバッグする機能が用意されています。Automation Anywhere では単純なボットを簡単に作成できますが、時間のかかる複雑なボットではデバッグが必要になる場合もあります。

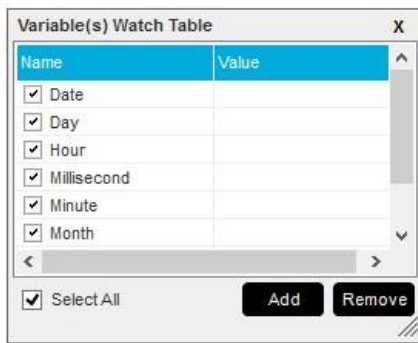
Automation Anywhere にはデバッグを管理するデバッグツールバーがあります。次の手順に従ってデバッグモードを有効にします。

1. デバッグツールバーは、[Enable Debugging](デバッグを有効化)ボタンをクリックするか、[Debug](デバッグ)メニューをクリックして [Enable Debugging](デバッグを有効化)を選択して表示します。



[Variable(s) Watch Table](変数監視テーブル)ウィンドウが表示されます。この機能について詳しくは、「[変数を監視する](#)」を参照してください。





2. デバッグツールバーを使用して、タスクにブレイクポイントを挿入します。ブレイクポイントを挿入するには、コマンドを選択し、デバッグツールバーで[Toggle Breakpoint] (ブレイクポイントを切り替え) ボタンをクリックするか、F9 ファンクションキーを押します。



3. [Step Over] (ステップオーバー) ボタン (または F10 ファンクションキー) を使用してアクションごとに TaskBot/MetaBot Logic をデバッグします。

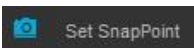


4. デバッグモードでタスクを実行し (一度に 1 つのコマンド)、エラーを特定します。
5. ブレイクポイントを削除するには、コマンドを選択して[Toggle Breakpoint] (ブレイクポイントを切り替え) ボタンをクリックするか、F9 を押します。すべてのブレイクポイントを消去するには、デバッグツールバーで[Clear All Breakpoints] (すべてのブレイクポイントを消去) をクリックします。




6. タスクで[Set SnapPoint] (SnapPoint の設定) ボタンを使用して、実行時にタスクの画像をキャプチャします。デバッグモードで[Set SnapPoint]

(SnapPoint を設定) オプションを使用する際に、[Visualize] (視覚化) ボタンを使用してキャプチャした画像を表示します。



7. デバッグを停止するには、[Disable Debugging] (デバッグを無効化) ボタンをクリックするか、[Debug] (デバッグ) メニューをクリックして [Disable Debugging] (デバッグを無効化) を選択します。



 備考: Automation Anywhere ではデバッグ情報 (ブレイクポイント) を保存しません。このため、アプリケーションを終了するとすべてのブレイクポイント情報が失われることにご注意ください。

## 関連トピック

- [変数を監視する](#)

プログラムやスクリプトからタスクを呼び出す他のプログラム、スクリプト、バッチファイルから Automation Anywhere のタスクを呼び出すことができます。

Automation Anywhere ではデフォルトですべてのタスクが次の名前前のフォルダーに保存されています。

```
My Documents\Automation Anywhere Files\Automation Anywhere
```

バッチファイルからタスクを呼び出す

タスク名: download-emails.atmx

- バッチファイルに次の行を追加して、バッチファイルから download-emails.atmx という名前前のタスクを呼び出します。



```
"C:\Program Files\Automation Anywhere Enterprise 7.0\Client\AA.Player.exe"
```

```
"/fD:\My Documents\Automation Anywhere Files\Automation Anywhere\My Tasks\download-emails.atmx/e"
```

Excel のマクロからタスクを呼び出す

タスク名: download-data.atmx

- 以下の download-data.atmx タスクを Excel のマクロから呼び出すには、Excel のマクロに次のテキストを追加します。

```
DimRetVal
```

```
RetVal = Shell("C:\Program Files\Automation Anywhere Enterprise 7.0\Client\AA.Player.exe "/fD:\My Documents\Automation Anywhere Files\Automation
```

```
Anywhere\My Tasks\download-data.atmx"/e", 1)
```

- タスクが成功すると呼び出したプログラムに 0 が返されます。エラーが発生した場合は 1 が返されます。

## アップロードする - 保留中の変更またはファイル

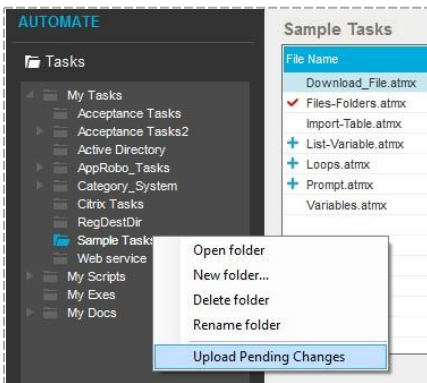
特定のフォルダーへのアクセス権を持つ Bot creator として、Control Room のバージョン管理が有効になっている場合は、さまざまなオプションを利用してフォルダーからファイルをサーバーにアップロードできます。

- [Upload Pending Changes] (保留中の変更をアップロード) で、タスク、ワークフロー、レポートリストで選択したフォルダーからファイルをアップロードします。
- リポジトリから選択したファイルをアップロードします。

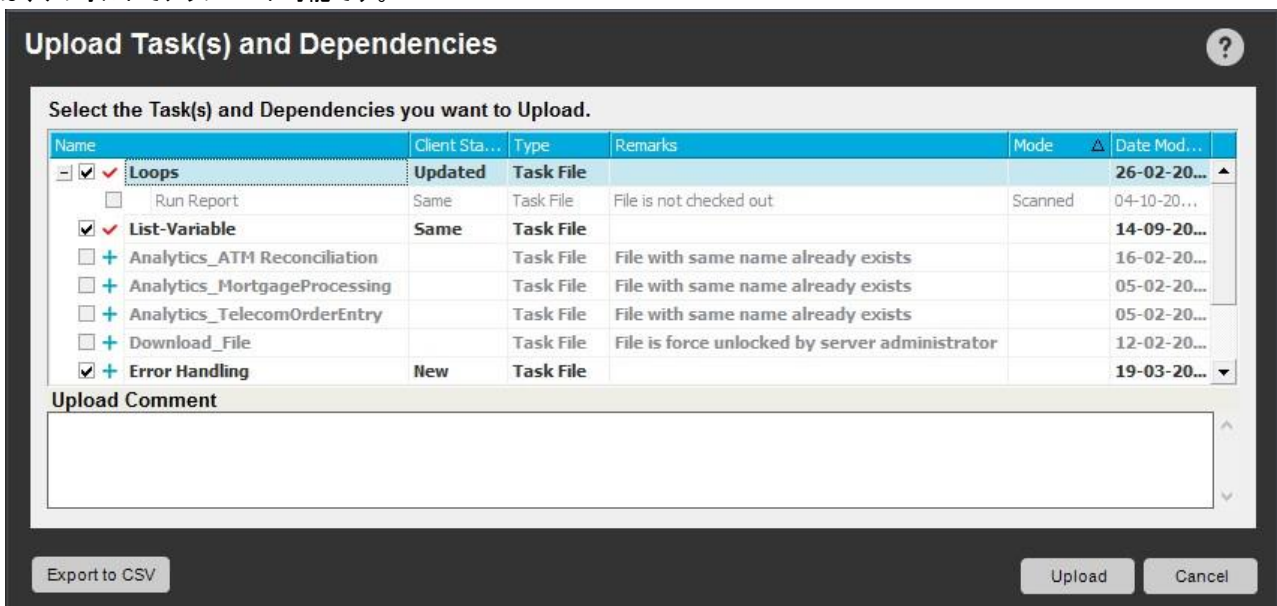
### 保留中の変更をアップロードする

タスクリスト、ワークフロー、レポートのフォルダーからファイルをアップロードするときは、[Upload Pending Changes] (保留中の変更をアップロード) オプションを使用します。これらのフォルダーとサブフォルダーは、新規ファイルやアップロードが保留中のチェックアウトされたファイルで構成されています。

1. アップロードするには、コンテキストメニューから [Upload Pending Changes] (保留中の変更をアップロード) オプションを選択します。




2. このように、[Upload Pending Changes] (保留中の変更をアップロード) ウィンドウで [Remarks] (コメント) に記載があるものを除くすべてのファイルは、デフォルトでアップロード可能です。



ただし、+ が付いているファイルも同様に、以下の理由で選択できません。

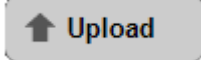
- リポジトリに同名のファイルが存在する。
  - ユーザーにアクセス権のないフォルダーの中にファイルがある。
  - Bot Creator によりファイルがチェックアウトされていない。
  - サーバー管理者によりファイルが強制アンロックされている。
3. ここでアップロードするファイルを選択します。
  4. 「Upload Comment」(コメントをアップロード) に必要なコメントを入力して、[Upload] (アップロード) をクリックします。これらのコメントは、アップロードされるすべてのファイルに適用されます。

 備考: アップロードの途中でエラーが発生すると、処理はキャンセルされます。

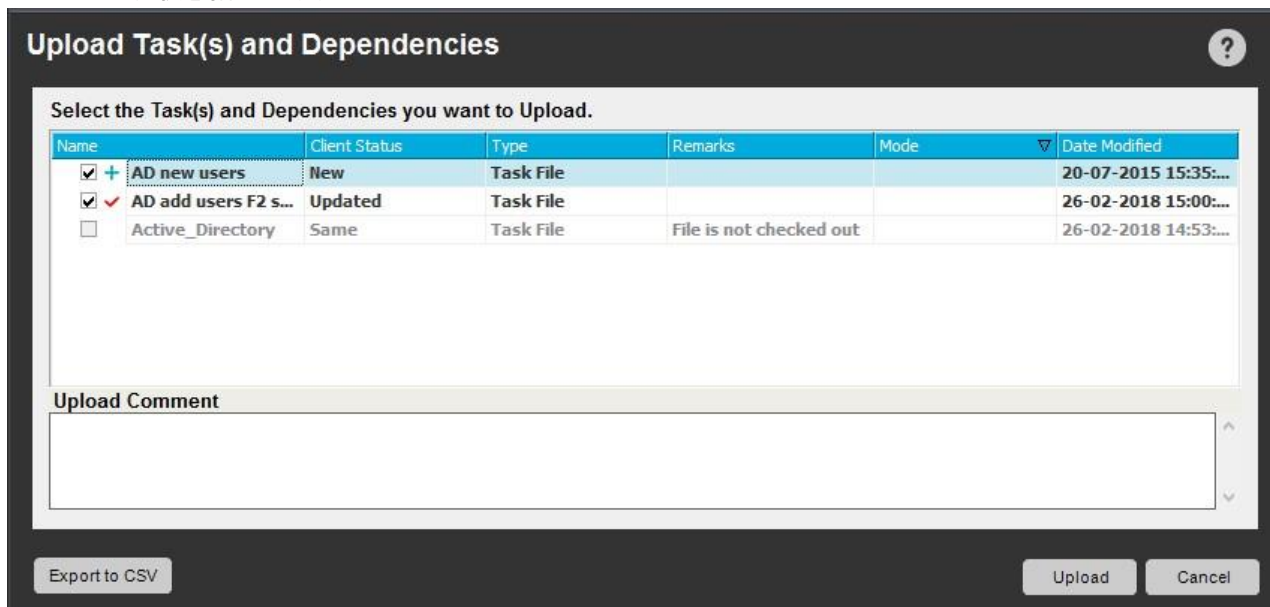
アップロードが完了すると、リスト表示はステータスのチェックを反映します。

ファイルをアップロードする

- [Upload] (アップロード) ボタンをクリックします。



- [Upload Files] (ファイルをアップロード) ウィンドウにアップロード可能(「Allowed」)なファイルが選択されます。必要に応じて、アップロードしないファイルの選択を解除します。



- 「Upload Comment」(コメントをアップロード)を追加して、[Upload] (アップロード) をクリックします。このコメントは、アップロードされるすべてのファイルに適用されます。

ファイルステータスとアクション <update>

同様にマークが付いたファイルステータスとアクションを以下の表に説明します。

ステータスの説明	ファイルステータス	アクション
クライアントによりファイルがチェックアウトされた場合	Checkout (チェックアウト)	Allowed (可)
別のクライアントによりファイルがチェックアウトされたか、サーバー管理者にLocked(ロック)より強制アンロックされた場合	Locked ( )	Not Allowed (不可)
サーバーリポジトリに存在しない新規のファイルの場合	New (新規)	Allowed (可)
新規のファイルだがサーバーリポジトリに存在する場合	Duplicate (重複)	Not Allowed (不可)
新規のファイルで、フォルダーのアクセス権がない場合	New (新規)	Not Allowed (不可)

## 関連トピック


- [コメントをアップロードする](#)
- [バージョン履歴を表示する](#)

TaskBot、ワークフロー、依存

## 関係をアップロードまたはダウンロードする

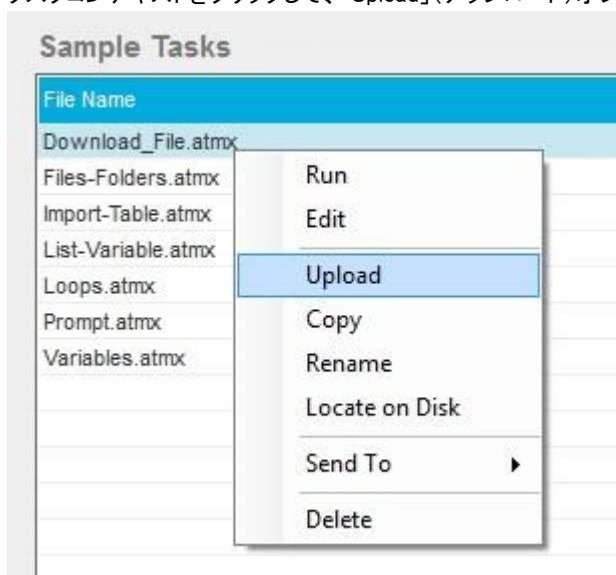
依存関係を持つ TaskBot(タスク)とワークフローを含むフォルダーにアクセス権限がある Bot creator として、ユーザーはアップロード/ダウンロードオプションを使用して自動的に、このような TaskBot とワークフローを Control Room にアップロードしたり、クライアントのクライアントリポジトリにダウンロードしたりできます。そのため、依存関係を持つ TaskBot、MetaBot、IQBot を手動でアップロード/ダウンロードする必要が確実になくなります。doc、docx、xls、xlsx、csv、mdb、pkx、atmx、exe、pdf、txt、jpg、png、bmp、xml などの依存ファイルをアップロードする必要もありません。

これにより、Control Room から Bot runner で選択した Bot とファイルをスムーズに配布できます。

 **備考:** バージョン管理が有効になっている場合、製品バージョン 10.5.0 の Enterprise エディション 10 SP2 以降のユーザーは、タスクと依存関係の自動アップロード/ダウンロードを利用できます。Enterprise エディション 10 SP2 未満をお使いの場合、この機能を使用するにはアップグレードが必要です。詳しくは[こちらを参照してください](#)。

タスクと依存関係をアップロードする任意のメソッドのいずれかを使用して、タスクとその依存関係のアップロードを選択できます。


1. 単独のタスクの依存関係をアップロードするには:
  - タスクコンテキストをクリックして、「Upload」(アップロード)オプションをクリックします。



または

- タスクを選択して  Upload をクリックします。

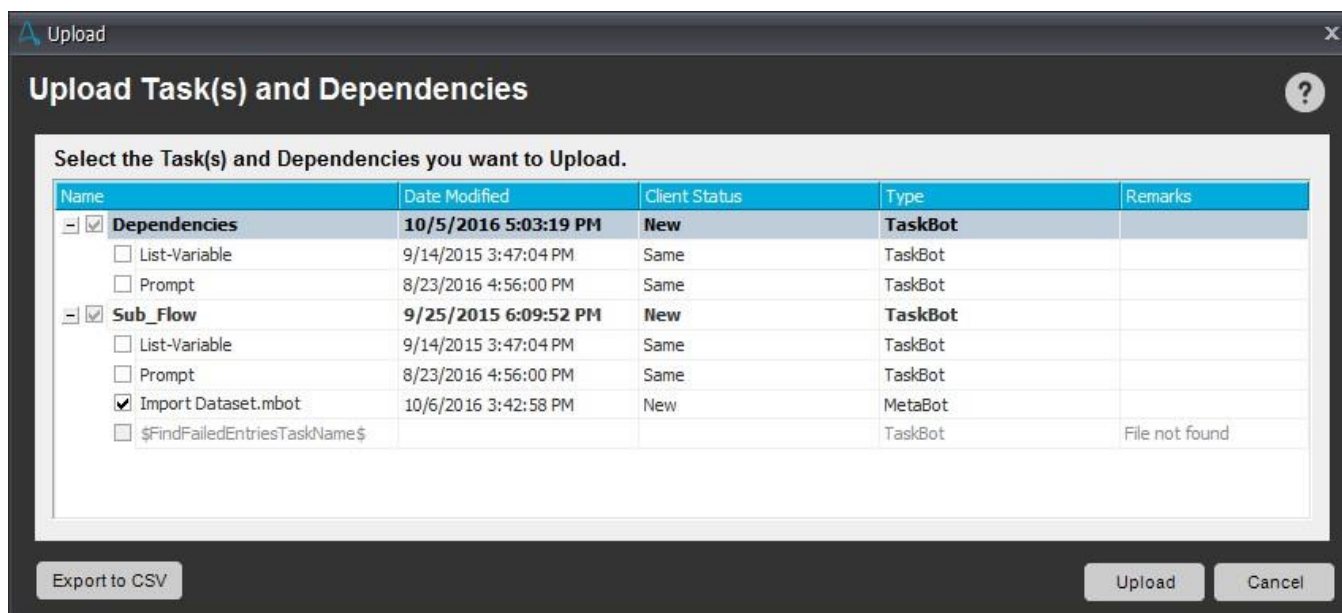
2. 複数のタスクの依存関係をアップロードするには:


- キーの組み合わせ (Ctrl/Shift) を使いタスクを複数選択して  Upload をクリックします。

または

- [Client Repository] (クライアントリポジトリ) からタスクを選択して、[Upload] (アップロード) をクリックします。

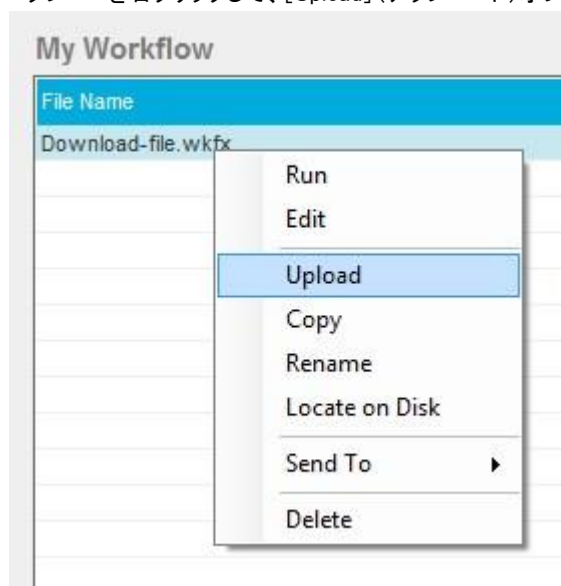
[Upload Task(s) and Dependencies] (タスクと依存関係をアップロード) ウィンドウが表示されます。



 備考：特定の依存条件を満たさないタスク、MetaBot、IQBot は選択できません。アップロード／ダウンロードの失敗の理由は「Remarks」(コメント)列に表示されます。詳しくは「Remarks」(コメント)のセクションを参照してください。

ワークフロータスクをアップロードする任意のメソッドのいずれかを使用して、ワークフローとそのタスクのアップロードを選択できます。


1. 単独のワークフローをタスクと一緒にアップロードするには：
  - ワークフローを右クリックして、[Upload] (アップロード) オプションをクリックします。



または

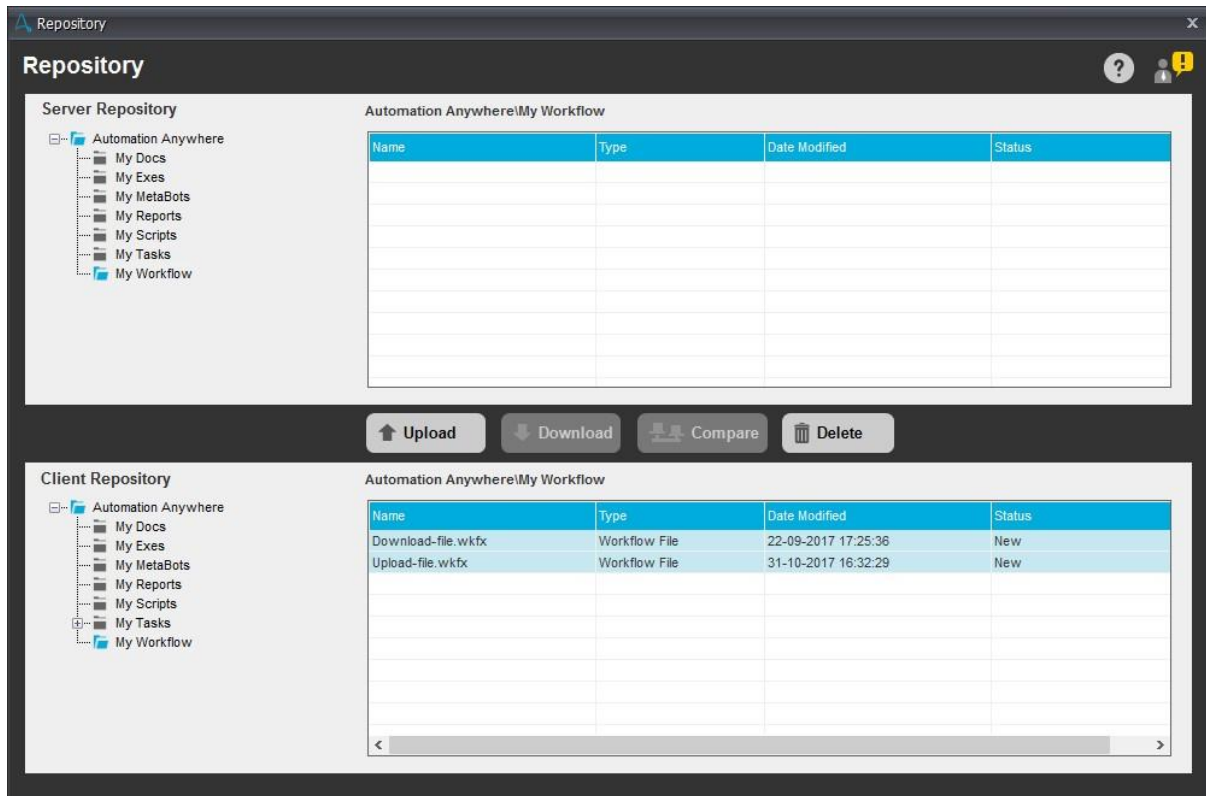
- ワークフローを選択して  Upload をクリックします。

2. 複数のワークフローの依存関係をアップロードするには：

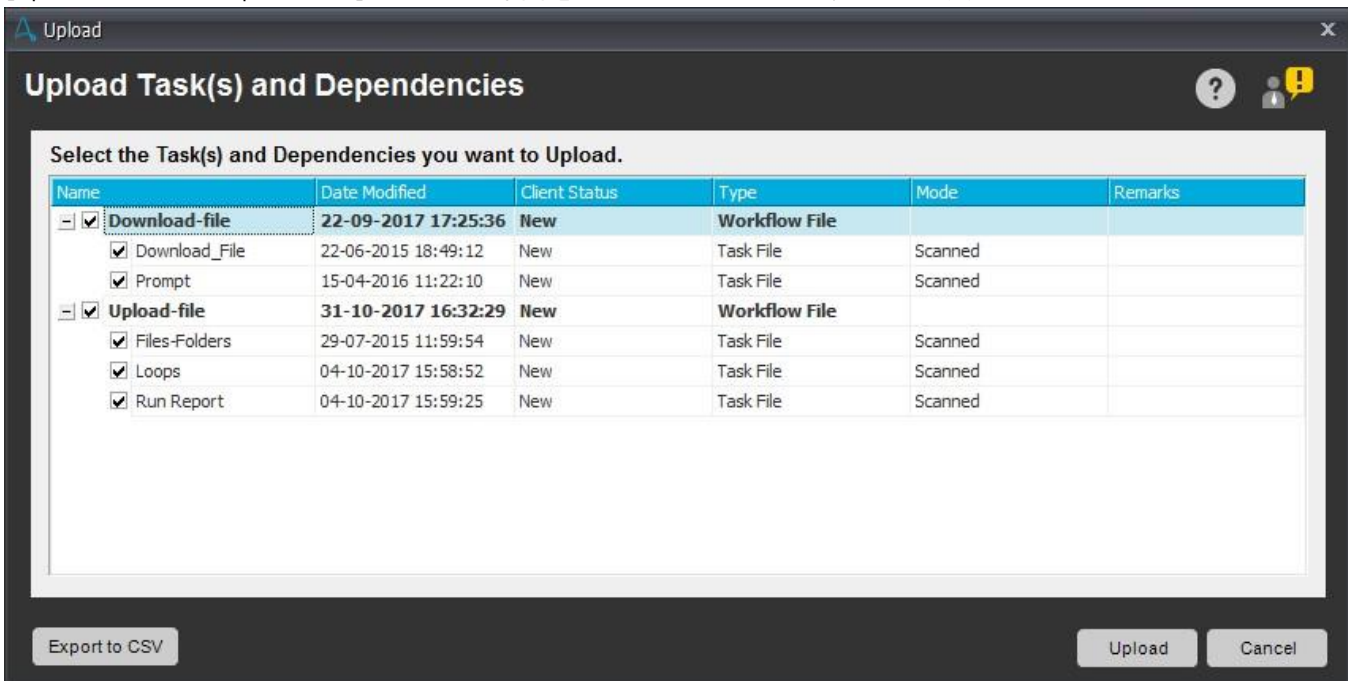
- キーの組み合わせ (Ctrl/Shift) を使いタスクを複数選択して  Upload をクリックします。

または

- [Client Repository] (クライアントリポジトリ) > [My Workflow] (マイワークフロー) からワークフローを選択して [Upload] (アップロード) をクリックします。



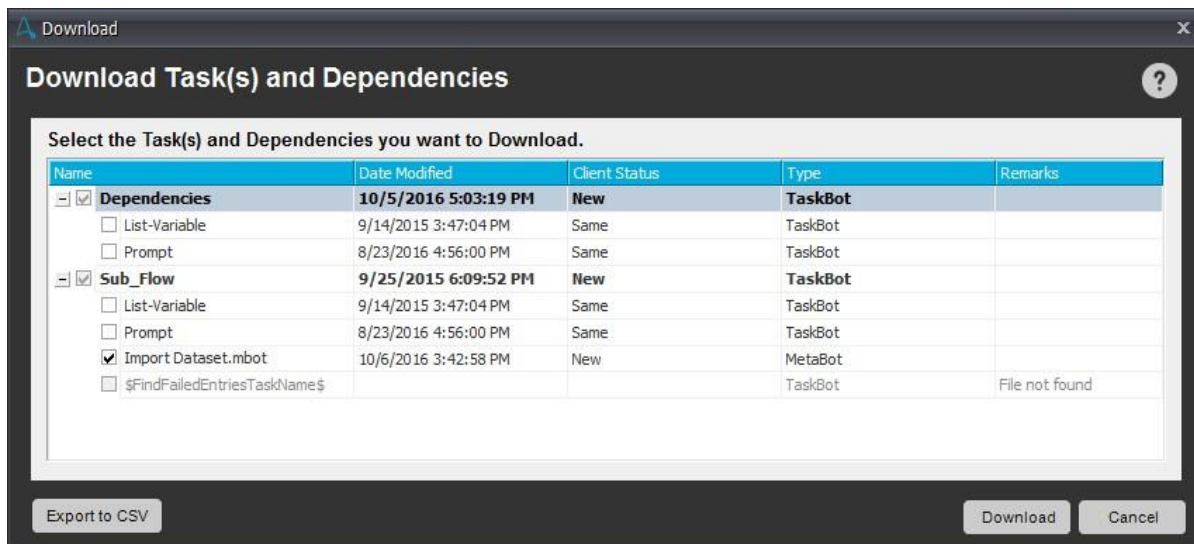
[Upload Task(s) and Dependencies] (タスクと依存関係をアップロード) ウィンドウが表示されます。



タスクと依存関係をダウンロードする

クライアントの [Manage] (管理) タブの [Client Repository] (クライアントリポジトリ) からタスクとその依存関係をダウンロードできます。タスクをダウンロードできるのはリポジトリからのみです。





**ヒント:** アップロード/ダウンロードでは、デフォルトで[New] (新規) または [Updated] (更新) のステータスの Bot が選択されます。変更の必要がなければ、このデフォルトオプションのままにしておくことをお勧めします。

#### CSV にエクスポートする

トラブルシューティングのために、アップロード/ダウンロードの詳細の記録が必要な場合があります。[Upload/Download Task(s) and Dependencies] (タスクと依存関係をアップロード/ダウンロード) 画面の左下にある「Export to CSV」(CSV にエクスポート) をクリックして、詳細を CSV ファイルにエクスポートすることで、記録を管理することができます。

デフォルトの CSV ファイル名は以下のとおりです。


1. アップロードでは「Upload\_Logs\_<username><date><time>.csv」
2. ダウンロードでは「Download\_Logs\_<username><date><time>.csv」

#### VCS が有効な場合のアップロード/ダウンロード

**\*製品バージョン 10.5.0 の Enterprise エディション 10SP2 以降で利用可能**

VCS が有効になっている場合は、TaskBot と依存関係 (たとえばタスクで使用するサブタスク、MetaBot、IQBot、ファイル) を簡単にアップロード/ダウンロードできます。この機能では、タスクの依存関係を個別にアップロードする必要がなくなるため、TaskBot を Control Room にアップロード/ダウンロードするプロセスが簡単になります。

1. これにより、VCS が有効なときに新規とチェックアウトされた TaskBot をアップロードできます。
2. マスタータスクをアップロードするには、ファイルをチェックアウトする必要があります。

 **備考:** 正常にアップロードされたファイルはチェックインされます。アップロードが途中で中断されたファイルはチェックアウトモードのままです。

3. 新規の TaskBot で、他のユーザーがすでにアップロードしている場合は、以下のコメントが示されます。「同名のファイルがすでに存在します」
4. タスクの依存関係スキャナーと [Upload Pending Changes] (保留中の変更をアップロード) は、新規ファイル、チェックアウトされたファイル、アップロードを選択可能なファイルに対応します。
5. VCS が有効なときのダウンロードの場合は、すべてのタスクと依存関係をダウンロードできます。


#### Remarks (コメント) - デコード

タスクまたは依存関係がアップロードまたはダウンロードされないときには、失敗する理由が「Remarks」(コメント) 列に示されます。それぞれのコメントの意味が理解できるように、以下に詳細を説明します。

- Invalid file format (不正なファイル形式) - アップロード/ダウンロードするファイルのファイル形式が Automation Anywhere Enterprise でサポートされていないとき。
- File not found (ファイルが見つからない) - Taskbot で指示されたファイルパスにアプリケーションが見つからないとき。
- Not licensed (ライセンスがない) - Control Room 管理者により MetaBot と IQBot、またはそのどちらかのライセンスを割り当てられていないユーザーが、MetaBot と IQBot、またはそのどちらかを依存関係として持つタスクをアップロード/ダウンロードしようとしたとき。



- Password protected Bot (パスワード保護された Bot) - パスワードで編集保護されたタスクをアップロード/ダウンロードしようとするとき。
  - Insufficient folder privileges (不適切なフォルダー権限) - その特定のフォルダーに対して必要なアクセス権限をユーザーが持っていないとき。
- Cyclic dependency (循環した依存関係) - 選択されたファイルが複数のタスクに含まれていて、かつ複数のタスクの一部のとき。例: タスク A はタスク B の一部であり、タスク B はタスク A の一部である。
- Variabilized path (変数化されたパス) - ファイルやフォルダーの選択、オープン、保存に対して、ファイルやフォルダーのパスに指定された変数がシステム変数 \$AAApplicationPath\$ 以外のとき。
- Locally renamed MetaBot (ローカルで名前が変更された MetaBot) - ユーザーが (ファイルシステムのエクスプローラーで) MetaBot の名前を変更し、そのファイルをアップロードしようとしたとき。
- File with same name already exists\* (同名のファイルがすでに存在) - ユーザーが新規のファイルをアップロードしようとしたが、Control Room リポジトリで対応する同じ場所に同名のファイルが存在しているとき。
- File is force unlocked by server administrator\* (サーバー管理者によりファイルが強制ロックされている) - ユーザーがアップロードしようとしたファイルが Control Room 管理者により強制ロックされているとき。  
\*このコメントは、バージョン管理システムが設定されているときに限り表示されます。

 備考: エラーが複数ある場合は、アップロードが終了したときにエラーレポートが 1 つ表示されます。

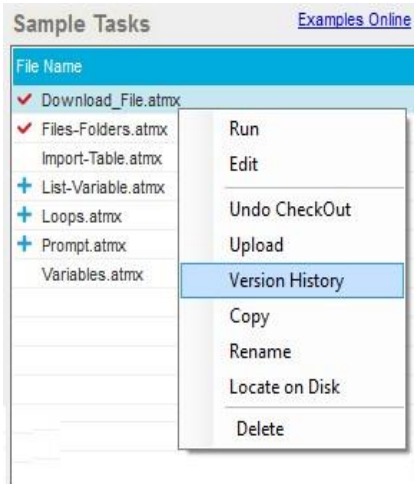
## バージョン履歴を表示する

バージョン履歴を使用して、選択したファイルの更新履歴を確認します。必要に応じて更新を比較してロールバックすることもできます。

バージョン履歴を選択すると、選択したファイルで作成されたすべてのバージョンのリストを表示できます。

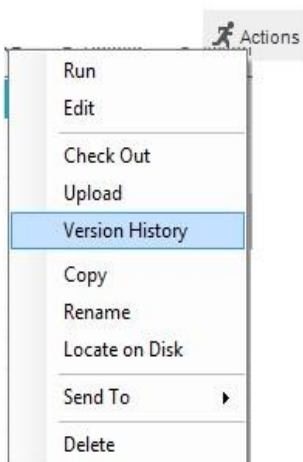
ファイルバージョン履歴を表示する選択したファイルの「バージョン履歴」は、以下から表示できます。

### 1. コンテキストメニュー:

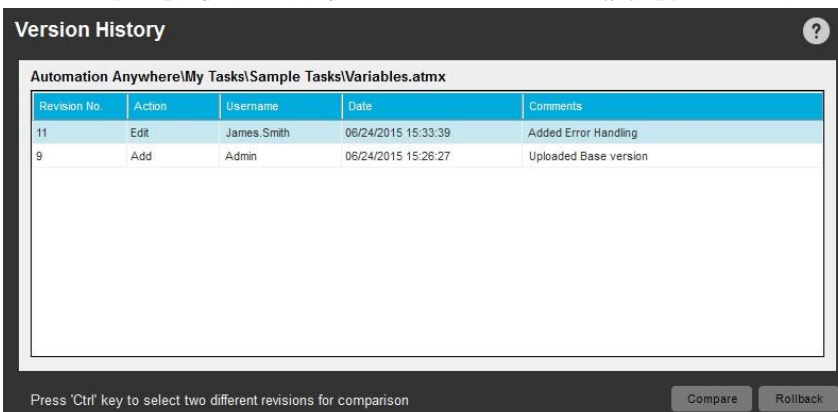


または

### 2. アクションリスト:



### 3. バージョン履歴を選択すると、選択したファイルのバージョン情報を表示できます

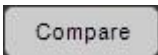


バージョン履歴は、タイムスタンプの降順、つまり最上部に最新バージョン、最下部に最初のバージョンが表示されます。ユーザーと特定の [Date and time] (日時) に実行された関連する [Action] (アクション) を特定し、[Comments] (コメント) で関連事項を確認できます。

ここでは、次のことができます

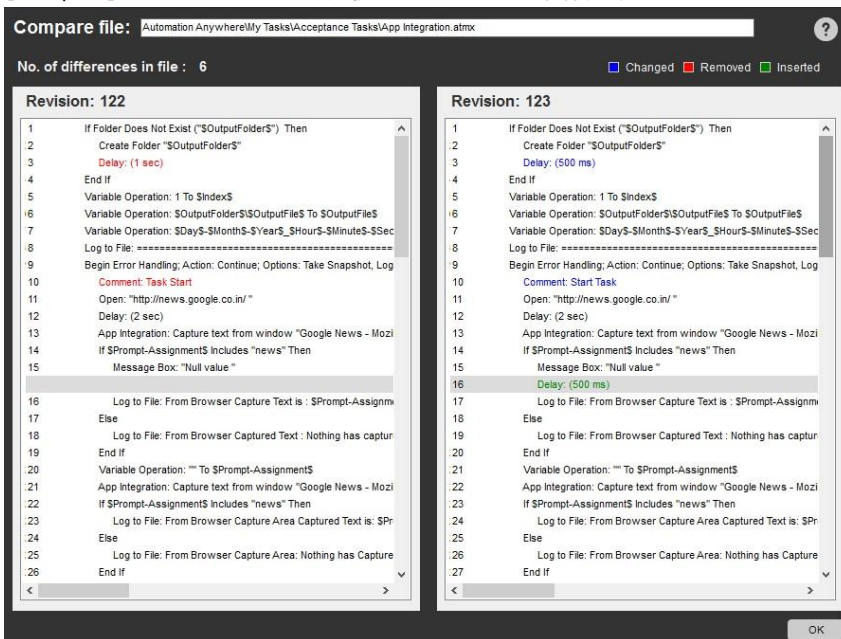
1. ファイルの 2 つのバージョンを比較する。
2. 更新を特定のバージョンにロールバックする。

1. Compare (比較): これを使用して、異なるファイルバージョンを比較します。



ヒント: Ctrl キーを押してファイルの 2 つのバージョンを選択します。

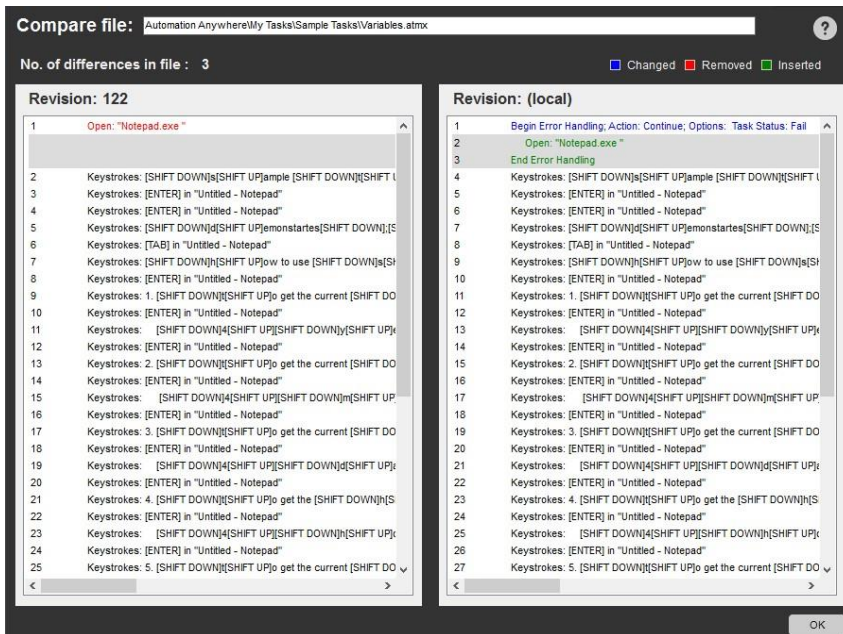
[Compare] (比較) ウィンドウに、選択したファイル間の更新が表示されます。



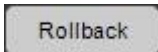
備考: 最新のバージョンが右側のウィンドウに表示されます。

ファイルをチェックインする前に、更新した最新ファイルをローカルファイルと比較して、すべての更新が含まれているか確認することをお勧めします。

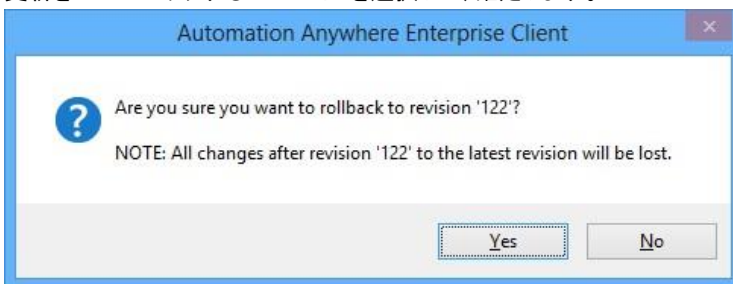
編集のためにファイルをチェックアウトすると、ファイルに加えられた変更はローカルに保存されます。変更をチェックインする前に、ファイルの最新バージョンとローカルバージョンを比較することをお勧めします。これを行うには、リスト内の最新バージョンを選択し、[Compare] (比較) をクリックします。[Compare] (比較) ウィンドウで、以下のように最新バージョンとローカルバージョンが比較されます。




2. Rollback(ロールバック): これを使用して、選択したファイルの更新/変更をバージョン履歴で選択したバージョンに戻します。



更新をロールバックするバージョンを選択して、確定します。



確定すると、選択したバージョンから最新バージョンまでの間に加えられたすべての変更がロールバックされます。

 備考: 選択したバージョンにロールバックしたら、最新バージョンに更新が反映されるように、ロールバックしたファイルをチェックイン (アップロード) することをおすすめします。

## 関連トピック

- [タスクをコピーまたは名称変更する](#) • [タスクを編集する](#) • [タスクを削除する](#)
- [Client とサーバー上のファイルを比較する](#)
- [サーバーにタスクをアップロードおよびダウンロードする](#)

アップロードコメント

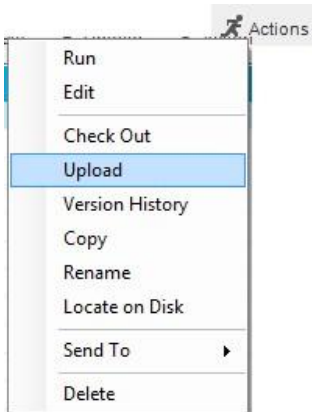
バージョン管理ライセンスを購入した場合のみ、Enterprise エディションで利用可能。

バージョン管理が有効になっている場合は、ファイルをアップロードするときにコメントを含める必要があります。これにより、バージョン履歴を参照ポイントとして必ず使用できるようになります。



サーバーにタスクをアップロードする次の 4 つの方法のいずれかを使用して、Control Room リポジトリマネージャーにタスクをアップロードできます。

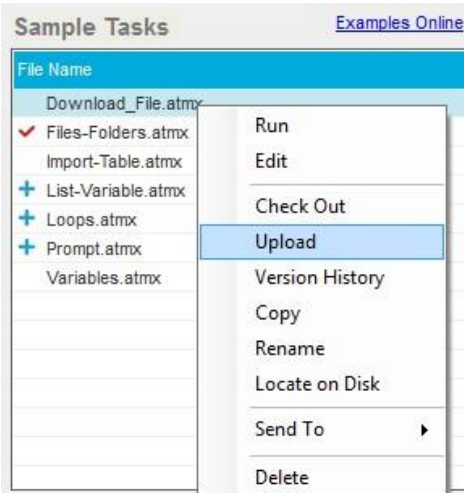
1. [Action] (アクション) ボタンのドロップダウンリストから [Upload] (アップロード) を選択する



2. 右上の [Task List] (タスクリスト) ペインの [Upload] (アップロード) ボタンをクリックする



3. 選択したタスクを右クリックして [Upload] (アップロード) を選択する




4. リポジトリ機能からタスクを選択する:

- タスクが正常にアップロードされると、確認ウィンドウが表示されます。[OK] をクリックします。
- タスクは [Server Repository Manager] (サーバーリポジトリマネージャー) に表示されます。

サーバーからタスクをダウンロードする

[Repository Manager] (リポジトリマネージャー) からタスクをダウンロードするには、次の手順を実行する必要があります。

1. Automation Anywhere メインウィンドウで、[Manage] (管理) > [Repository] (リポジトリ) タブをクリックします。リポジトリが表示され、分割画面にサーバー (Control Room) 上とクライアントにあるファイルが表示されます。
2. クライアントにダウンロードするタスクファイルを強調表示します。
3. [Download] (ダウンロード) ボタンをクリックします。クライアントにタスクがコピーされます。

 備考: クライアントにダウンロードされるファイルと同名のファイルがあった場合は上書きされることに注意してください。ファイルをダウンロードする前に、最新バージョンのタスクがサーバーにあることを確認してください。

#### 関連トピック

- [サーバーにタスクをアップロードおよびダウンロードする](#) • [バージョン履歴](#)
- [タスクリストを使用する](#)

## セクション: Enterprise Client Workbench を使用する

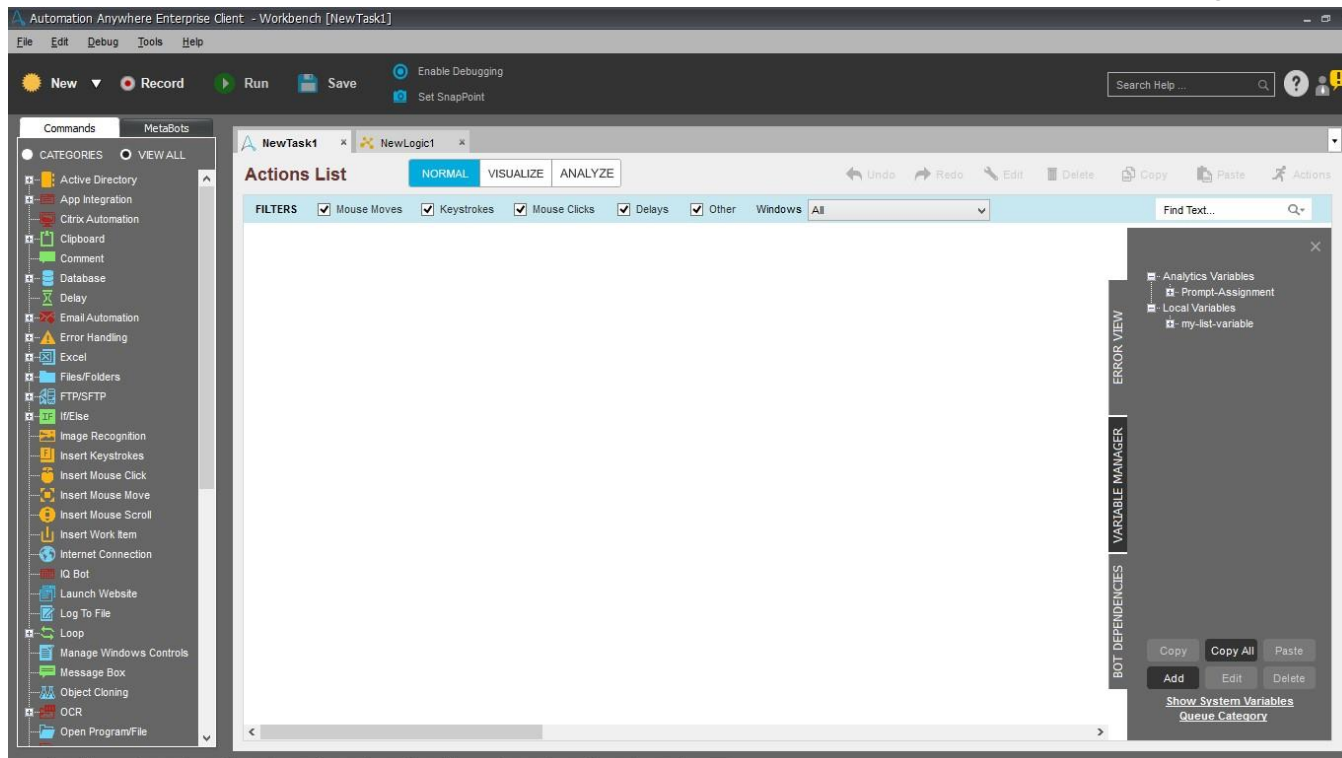


## Workbench を使用する

Automation Anywhere Workbench は、製品において最も高性能なコンポーネントで、ビジネスプロセスの専門家と IT スタッフに自動化プロセスの強化、合理化、デプロイに必要なすべてのツールを提供します。

Workbench では、組織を対象とした自動化プロセスを作成するために使用できるコマンドを多数用意しています。これはソフトウェア自動化業界でも独自のもので、非技術系のビジネスユーザーでもシンプルなドラッグアンドドロップ操作で自動化プロセスをすばやく構築し、デプロイできます。さらにソリューションは、専門的な IT スタッフが、より複雑で統合されたエンドツーエンドのプロセスを構築するのに十分な柔軟性と堅牢性を持っています。

Workbench を使用して、TaskBot や MetaBot を含む自動化を作成できます。コマンドを構成して、TaskBot と MetaBot Logic を作成できます。



## Workbench で TaskBot/MetaBot Logic を開く

1. TaskBot – 次のいずれかの方法によって Workbench で TaskBot を開くことができます。

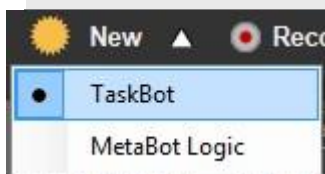
- [My Tasks List] (マイタスクリスト) から [TaskBot] を選択し、[Edit] (編集) ボタンをクリックします。



- [Edit Task] (タスクを編集) の [Advanced Settings] (詳細設定) でダブルクリック編集が有効になっていれば、[Task List] (タスクリスト) で [TaskBot] をダブルクリックします。デフォルトでは、この設定はダブルクリックすると TaskBot を実行します。詳しくは、「[タスクを編集する](#)」を参照してください。
- [New] (新規) ボタンをクリックし、Workbench で新しい TaskBot を作成します。



備考: これは、デフォルトで強調表示されているオプションが自動的に選択されます。




2. MetaBot Logic – 次のいずれかの方法によって、Workbench で新しい MetaBot Logic が作成できます。

- [MetaBots List] (MetaBot リスト) から [MetaBot] を選択し、[Edit] (編集) ボタンをクリックします。



- [My MetaBots]リストで[MetaBot]をダブルクリックし、[Logic] (ロジック)ビューから[MetaBot Logic]を開きます。
- [New] (新規) ボタンをクリックし、Workbench で新しい MetaBot Logic を作成します。



 備考: これは、デフォルトで強調表示されているオプションが自動的に選択されます。



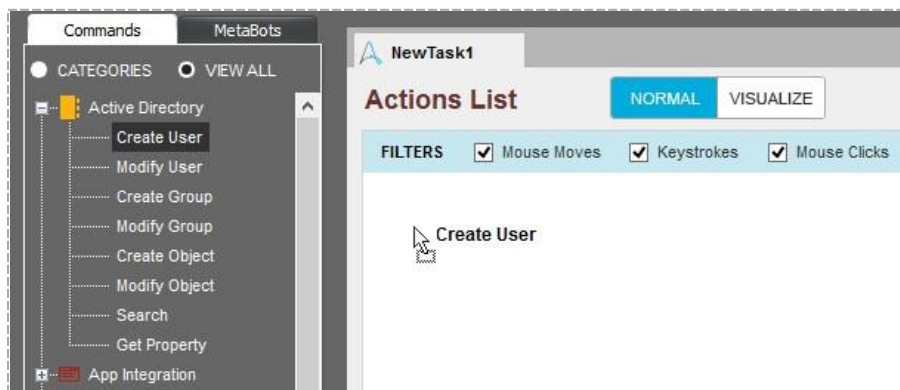
MetaBot Logic の作成について詳しくは、「[Logic Editor を使用する](#)」を参照してください

#### Workbench のコンポーネント

Workbench では、ユーザーインターフェイスを構成する以下のコンポーネントを提供します。

- コマンドパネル • Actions List
- アクションボタン
- Error View と Variable Manager パネル • フィルター

#### コマンドパネルを使用する




左側のパネルには、TaskBot/MetaBot Logic の構築や拡張に使用できる Automation Anywhere の全コマンドが含まれます。必要に応じて、これらのコマンドを[Actions List] (アクションリスト) パネルにドラッグアンドドロップし、コマンドを移動して、一括で編集できます。

#### Actions List を使用する

Workbench では、[Actions List] (アクションリスト) の上部にあるタブを使用して、複数の TaskBot/MetaBot Logic を一度に表示できます。こうしたタブを使用すると、複数の TaskBot/MetaBot Logic を開いて並べて編集できるので、コピー/貼り付けや再利用の作業が非常に簡単になります。また大規模な TaskBot/MetaBot Logic も簡単に構築できるようになります。小規模なプロセスを記録して絞り込み、1 つの大規模なエンドツーエンドの完全なプロセスに組み合わせることができます。



 備考: MetaBot Logic では[Normal] (通常)、[Visualize] (視覚化) オプションは利用できません。

詳しくは、「[Actions List を使用する](#)」を参照してください。

#### アクションボタンを使用する

Workbench ウィンドウの上部には、利用可能なアクションボタンがいくつかあります。これには、TaskBot/MetaBot Logic の作成、Workbench で開いている現在の TaskBot/MetaBot Logic の実行、TaskBot/MetaBot Logic の保存、デバッグの有効化と特定コマンドのスナップポイント設定などのアクションが含まれます。

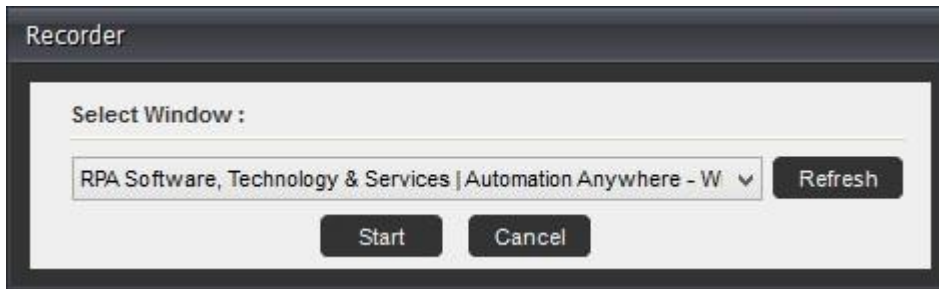
1. [New] (新規) ボタンで、新しい TaskBot/MetaBot Logic を作成します。




2. [Record] (記録) ボタンで、現在の TaskBot で記録を開始します。

## Record

マウスクリックとキーStrokeのアクションは Recorder で記録されます。



 備考: 記録されたアクションは、Object Cloning (オブジェクトクローニング) コマンドとして保存されます。詳しくは [こちら](#) を参照してください。

3. [Run] (実行) ボタンで、現在の TaskBot/MetaBot Logic を実行します。



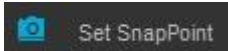
4. [Save] (保存) ボタンで、現在の TaskBot/MetaBot Logic を保存します。TaskBot/MetaBot Logic を起動する際は、無効として表示されますが、コマンドを追加すると有効になります。



5. 複雑なプロセスの TaskBot/MetaBot Logic を作成中に [Enable Debugging] (デバッグを有効化) します。




6. [Set SnapPoint] (SnapPoint を設定) で、TaskBot/MetaBot Logic 再生中にスクリーンショットをキャプチャします。



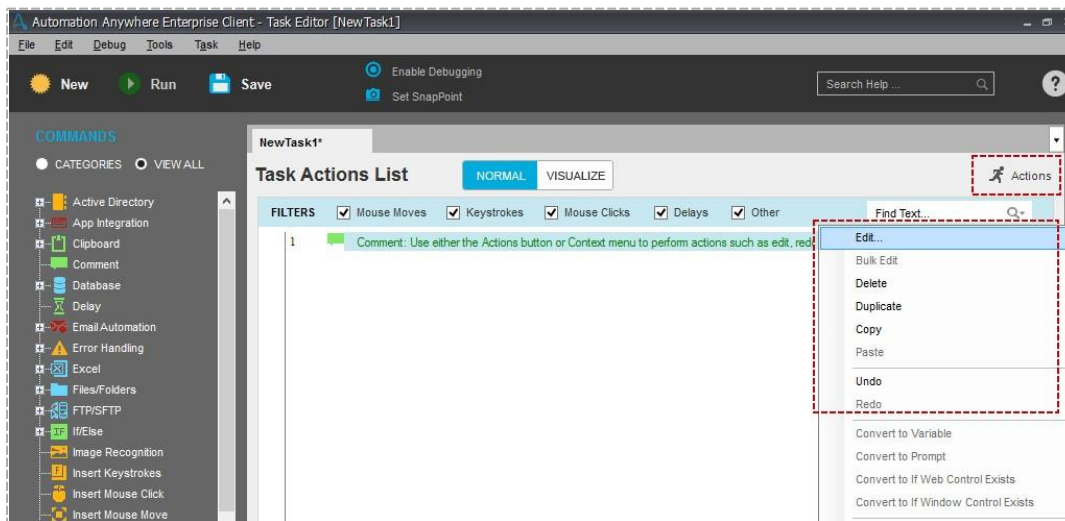
 備考: 「Secure Recording Mode」が有効になっている場合、「SnapPoint」は無効になります。また、「Secure Recording Mode」が有効になっているときに、「Snap view」を有効にしようとする、「Secure Recording mode. Image will not be captured」(セキュアレコーディングモードです。画像はキャプチャされていません) というエラーメッセージが表示されます。詳しくは [こちら](#) を参照してください。


7. [Normal/Visualize] (通常/視覚化) ボタンで、TaskBot の詳細 ([Normal] (通常))、タスクのスクリーンショットビュー ([Visualize] (視覚化))、データ分析の Bot Insight Analytics ダッシュボード ([Analyze] (分析)) 間で表示を切り替えます。



 備考: [Visualize] (視覚化) をクリックすると、「Secure Recording Mode」が有効になっている場合、「Secure Recording mode. Images have not been captured during recording (セキュアレコーディングモードです。記録中、画像はキャプチャされていません)」というエラーメッセージが表示されます。詳しくは [こちら](#) を参照してください。

- Workbench 使用中にお使いのスクリーンの解像度を変更する場合、Automation Anywhere を再起動することをお勧めします。
- 1024 X 768 などスクリーンの解像度が低い場合、[Undo] (元に戻す)、[Redo] (やり直し)、[Edit] (編集)、[Delete] (削除)、[Copy] (コピー)、[Paste] (貼り付け) のボタンが表示されない場合があります。こうしたアクションを実行するには、[Actions] (アクション) または [Context] (コンテキスト) メニューを使用します。




 備考: 同じバーでは、[Actions List] (アクションリスト) でコマンドを操作するアクションが利用できます。これらのボタンについて詳しくは、「[Actions List を使用する](#)」を参照してください。

Error View、Variable Manager、Bot Dependencies を使用する




1. Error View (エラービュー) - [Error View] (エラービュー) タブを使用して、タスクで発生する可能性があるエラーを管理できます。ビューは、タスクに変更を加える度に自動的に更新されます。[Error View] (エラービュー) パネルは、長いタスクの進行を追跡したり、エラー発生時にデバッグしたりする際に役立ちます。タスクを正確にデバッグするには、[Error Handling] (エラーの処理) 機能と一緒に [Error View] (エラービュー) パネルを使用します。詳しくは、「[タスクをデバッグする](#)」を参照してください。
2. Variable Manager (変数マネージャー) - [Variable Manager] (変数マネージャー) パネルは、タスクで複数の変数を使用する場合に役立ちます。Variable Manager では、特定のタスクでユーザーが定義したローカル変数を表示します。Variable Manager (変数マネージャー) を使用して、自動化タスク内で変数を追加、変更、コピーすることができます。Variable Manager の使い方について詳しくは、「[Variable Manager を使用する](#)」を参照してください。

 備考: AAE を利用すると、タスクコマンドをコピーする際に、新しい TaskBot に変数を簡単にコピーできます。新しいタスクで変数とコマンドを再作成する必要がないため便利です。コピー対象の変数が TaskBot に存在する場合、これらの変数の値と型は上書きされます。

3. Bot Dependencies (ボットの依存関係) - Automation Anywhere には、doc、docx、xls、xlsx、csv、mdb、pkx、atmx、exe、pdf、txt、jpg、png、

bmp、xml などのすべての依存ファイルを TaskBot で送信する機能があります。これらは自動的に Control Room にアップロードされ、TaskBot の実行中にデプロイされます。


 備考: このオプションが使用できるのは、TaskBot のみで、MetaBot Logic では使用できません。

Workbench から Bot Dependencies (ボットの依存関係) オプションを使用して、依存ファイルを管理できます。ここでは、[My Tasks] (マイタスク)、[My Docs] (マイドキュメント)、[My Scripts] (マイスクリプト) の各フォルダーにファイルを追加、コピー/すべてコピー、貼り付け、削除できます。詳しくは、「[Bot Dependencies を管理する](#)」を参照してください。

4. Queue Category (キューカテゴリー) - 接続している Control Room インスタンスで特定のキューから作業項目を使用するには、Bot にキューカテゴリーを追加する必要があります。これにより、Bot は選択されたカテゴリーのキューから作業項目を使用できるようになります。詳しくは、「[キュー結合](#)」を参照してください。

フィルターを使用する

[Filters] (フィルター) バーを使用して、長いタスクを管理できます。これらのチェックボックスを選択すると、コマンドは [Task Actions List] (タスクアクションリスト) に表示されます。こうしたフィルターを使用することで、問題の切り分けや特定コマンドの表示が簡単にできるようになります。

 備考: このオプションが使用できるのは、TaskBot のみで、MetaBot Logic では使用できません。


Workbench のフィルターの使用について詳しくは、「[Workbench でフィルターを使用する](#)」を参照してください。

キーボードを使用して TaskBot/MetaBot Logic を編集する

Automation Anywhere では、マウスを使ってコマンドをドラッグアンドドロップしない場合にキーボードストロークを使用してタスクにコマンドが挿入できます。[Commands] (コマンド) パネルでは矢印、Tab、Enter キーの使用をサポートします。

コマンドウィンドウを開くには、Enter キーを押して、コマンドパラメーターを指定するための手順を完了します。

この機能はクイックキーボードショートカットを使用するユーザーに役立ちます。

 ヒント: コマンドの最初の文字を入力すると、ハイライト表示されるので、そのコマンドに簡単に移動できます。たとえば、「e」と入力すると、Email Automation (メールの自動化) コマンドがハイライト表示されます。

[Version Control] (バージョンコントロール) が有効な場合に、新しいタスクに名前を付けて保存、コピー、追加する

[Save As] (名前を付けて保存)、[Copy] (コピー) または [New] (新規) のいずれかを使用して新しいファイル名を付与する場合、作成するそれぞれのフォルダーのみで独自の名前を追加できます。既存のファイル名は追加できません。



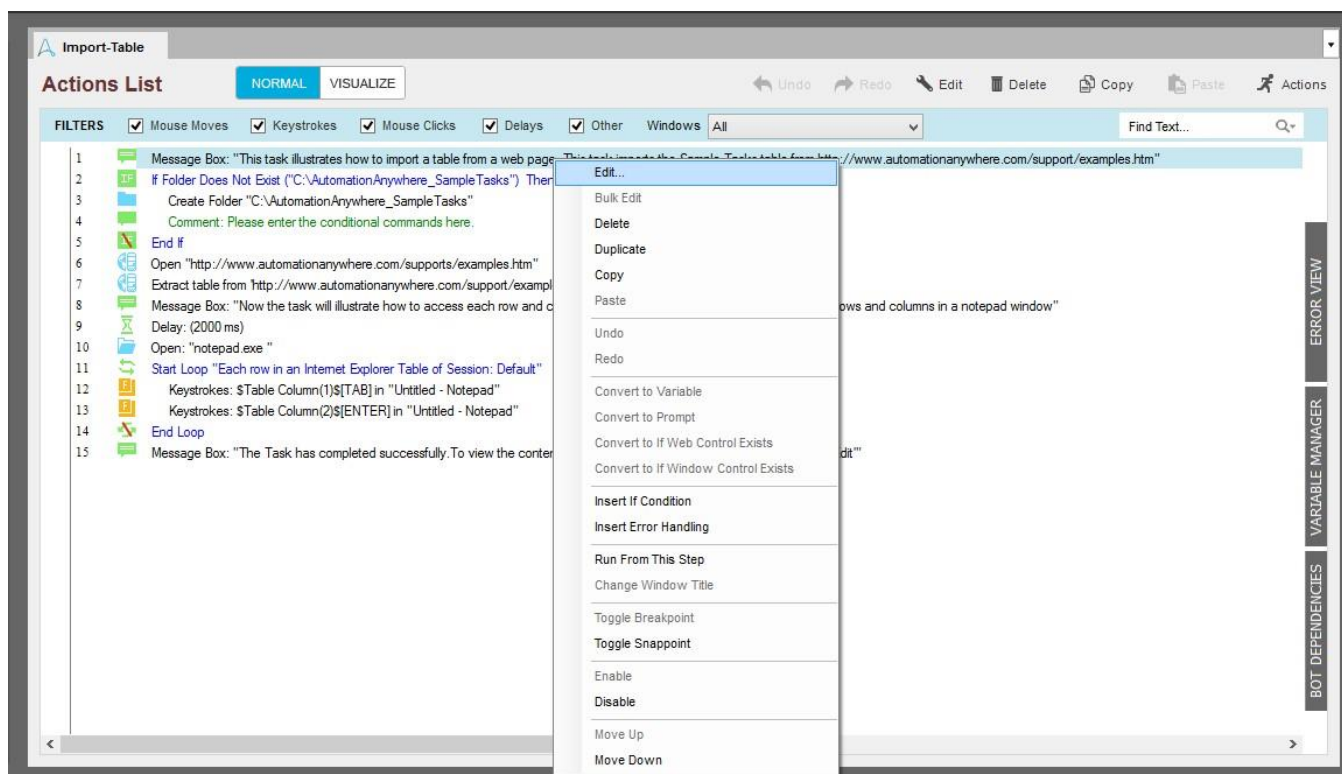
## 関連トピック

- [Actions List を使用する](#)
- [Workbench でフィルターを使用する](#) • [システム変数](#)

Actions List を使用する

Task Action List (タスクアクションリスト) は、オートメーションタスクの構築を行う主な作業領域です。





コマンドリストからドラッグすることでコマンドを挿入できます。コマンドを挿入したら、以下のオプションを使用してコマンドを編集できます。

1. コマンドのパラメーター(設定)を編集するには、コマンドをダブルクリックします。
2. コマンドをコピーするなどの操作を行うには、コマンドを右クリックしてオプションを表示します。
3. [Task Actions List](タスクアクションリスト)バーにはコマンドを操作するボタンがあります。以下のオプションが利用できます。
  - Edit(編集) : コマンド設定ウィンドウを開いて編集できます。
  - Delete(削除) : Task Actions List(タスクアクションリスト)からコマンドを削除します。
  - Copy(コピー) : タスクの別の場所で使用できるようにコマンドをコピーします。
  - Paste(貼り付け) : カーソルを置いた場所にコピーしたコマンドを貼り付けます。
  - Actions(アクション) : [Actions](アクション)ボタンをクリックして以下のいずれかのアクションを選択します。
    - a. Bulk Edit(一括編集) : 複数の Delay(遅延)または Keystroke(キーストローク)コマンドを一括変更します。
    - b. Duplicate(複製) : 選択したコマンドの下にコマンドを複製します。
    - c. Convert to Variable(変数に変換) : Keystroke(キーストローク)コマンドを変数に変換します。
    - d. Convert to Prompt(プロンプトに変換) : Keystroke(キーストローク)コマンドをプロンプトメッセージに変換します。
    - e. Convert to if Web Control Exists(Web Controlがあれば変換) : 指定した Web Control がある場合はコマンドを実行します。
    - f. Convert If Windows Control Exists(Windows Controlがあれば変換) : 指定した Windows Control がある場合はコマンドを実行します。
    - g. Insert If Condition(IF条件を挿入) : 選択したコマンドブロックに IF 条件を挿入します。
    - h. Insert Error Handling(エラーの処理を挿入) : 選択したコマンドブロックに Error Handling(エラー処理)コマンドを挿入します。 i. Change Window Title(ウィンドウタイトルを変更) : ウィンドウタイトル名を 1 つ以上のアプリケーションウィンドウに変更します。
    - j. Run from this Step(このステップから実行) : このコマンドがあった場合にタスクを実行します。
    - k. Enable(有効にする) : コマンドを有効にします。
    - l. Disable(無効にする) : コマンドを無効にします。
    - m. Move Up(上へ移動) : コマンドを Task Action List(タスクアクションリスト)の上部に移動します。
    - n. Move Down(下へ移動) : コマンドを Task Action List(タスクアクションリスト)の下部に移動します。

## 関連トピック

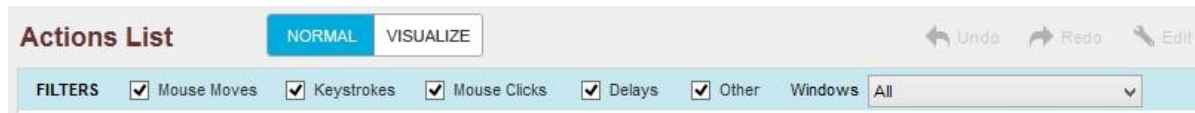
- [Workbench を使用する](#)
- [Workbench でフィルターを使用する](#)



## Workbench でフィルターを使用する

デフォルトでは、自動タスクは時系列に並べられてすべてのコマンドとアクションとともに Automation Anywhere Workbench に表示されます。ただし、TaskBot をより操作しやすくするため、表示形式をカスタマイズできる便利なフィルターを用意しています。フィルターは、大規模なオートメーションを扱うときに特に役立ちます。

フィルターによりタスクが変更されることはありません。フィルターを用いることで、TaskBot 全体を変更しなくても自動化内の特定のコマンドに集中できるようになります。



タスクの特定のコマンドを表示または非表示にするには、Task Actions List の [Filter Bar] (フィルターバー) でフィルターを選択するか選択を解除します。

以下はフィルターをかけられるコマンドです。

- Mouse Moves (マウス動作): エディターからすべてのマウス動作アクションを表示または非表示にします。
- キーストローク: エディターからすべての Insert Keystrokes (キーストロークを挿入) コマンドとアクションを表示または非表示にします。
- Mouse Clicks (マウスクリック): エディターからすべてのマウスクリックアクションを表示または非表示にします。
- Delay (遅延): エディターからすべての Delay コマンドを表示または非表示にします。
- その他: エディターから、Mouse Moves (マウス動作)、Keystrokes (キーストローク)、Mouse Clicks (マウスクリック)、Delay (遅延) 以外のすべてのコマンドを表示または非表示にします。
- ウィンドウ: アプリケーションウィンドウごとにすべてのアクションを表示します。ドロップダウンリストに、タスクで使用されるすべてのアプリケーションウィンドウを表示します。テキスト検索フィールドを使用する

名前、テキスト、変数、その他の項目をタスクの中から検索するには、[Find Text] (テキストを検索) 検索フィールドを使用します。これは、長いタスクを編集するときに役立ちます。

## Windows フィルターを使用する

計算機、メモ帳、エクスプローラーなどの複数のアプリケーションがタスクに含まれる場合、Windows フィルターを使用できます。アプリケーションごとに並べ替えてアクションを表示するときに、Windows フィルターを使用します。

ドロップダウンリストで、[ALL] (すべて)、[NONE] (なし)、またはコマンドを表示させるアプリケーションのタイトルを選択します。

## 関連トピック

- [Task Actions List を使用する](#)

### Bot 依存性を管理する概要

#### 要

Bot Creator は、TaskBot 依存ファイルを管理できます。doc、docx、xls、xlsx、csv、mdb、pkx、atmx、exe、pdf、txt、jpg、png、bmp、xml などの依存ファイルを TaskBot ですべて送信できます。これらは自動的に Control Room にアップロードされ、TaskBot の実行中にデプロイされます。

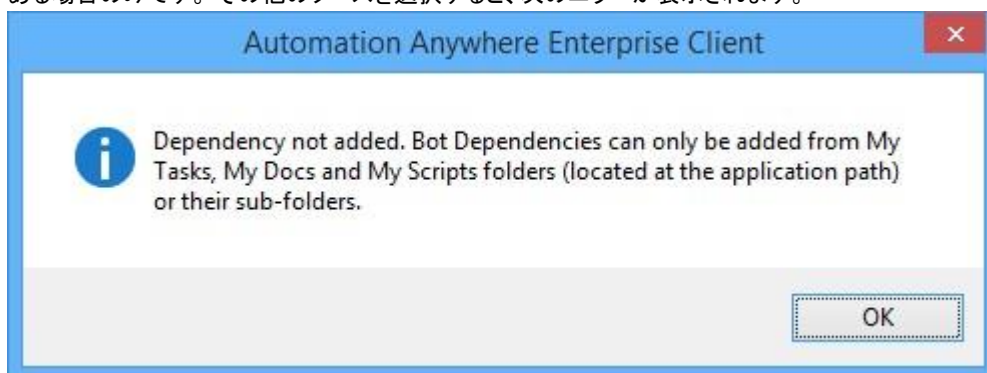
### ボット依存ファイルを管理する

Workbench から Bot Dependencies (ボットの依存関係) オプションを使用して、依存ファイルを管理できます。ここでは、[My Tasks] (マイタスク)、[My Docs] (マイドキュメント)、[My Scripts] (マイスクリプト) の各フォルダーにファイルを追加、コピー/すべてコピー、貼り付け、削除できます。



特定のタスクでファイルを参照(組込)するには、システム変数\$AAApplicationPath\$を使用するようお勧めします。

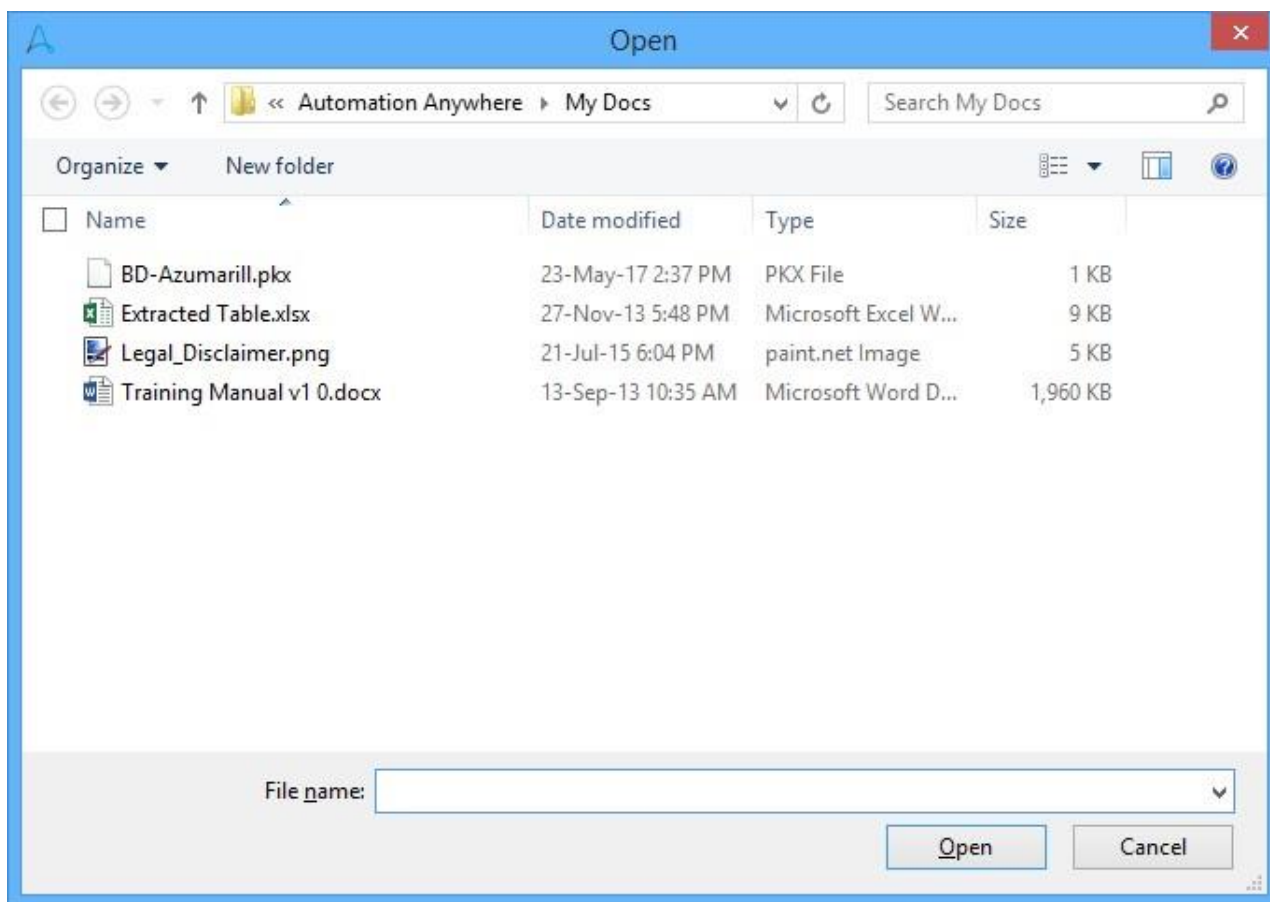
依存ファイルを追加できるのは、そのファイルが「My Tasks」(マイタスク)、「My Docs」(マイドキュメント)、「My Scripts」(マイスクリプト)フォルダーにある場合のみです。その他のソースを選択すると、次のエラーが表示されます。



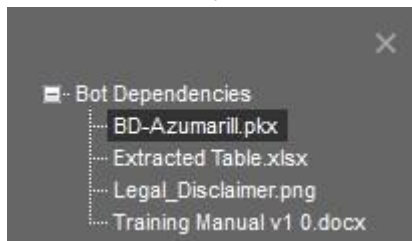
依存ファイルを追加する

[Bot Dependencies] (ボットの依存関係) パネルで依存ファイルをボットに追加するには、

1. [追加] をクリックします
2. 「My Tasks」(マイタスク)、「My Docs」(マイドキュメント)、「My Scripts」(マイスクリプト) フォルダまたはサブフォルダのいずれかから必要なファイルを選択します




3. [開く]をクリックします
4. 次のとおり、[Bot Dependencies] (ボットの依存関係) 下に依存ファイルが追加され、リストされます。

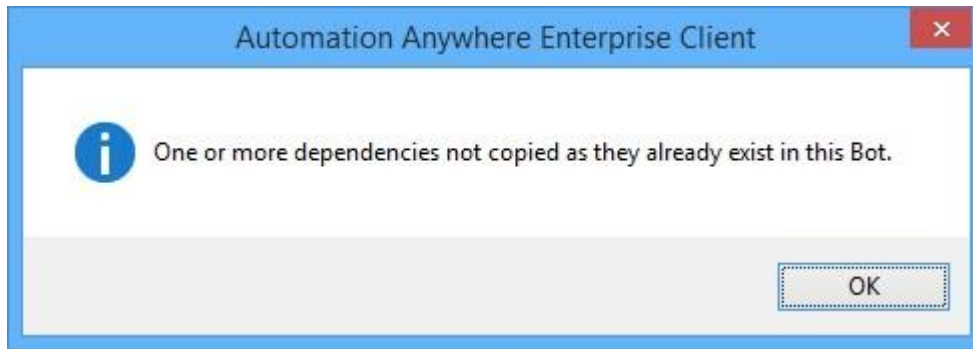


依存ファイルを 1 つまたはすべてコピーしてペーストする

[Bot Dependencies] (ボットの依存関係) パネルで、ボットから別のボットにファイルを 1 つまたはすべてコピーするには、

1. [Bot Dependencies] (ボットの依存関係) 下にリストされた必要なファイルを選択します
2. [コピー] または [すべてコピー] をクリックします
3. 依存ファイルのコピー先とするボットを作成するか、開きます
4. [貼り付け] をクリックします
5. [Bot Dependencies] (ボットの依存関係) 下に依存ファイルがコピーされ、リストされます

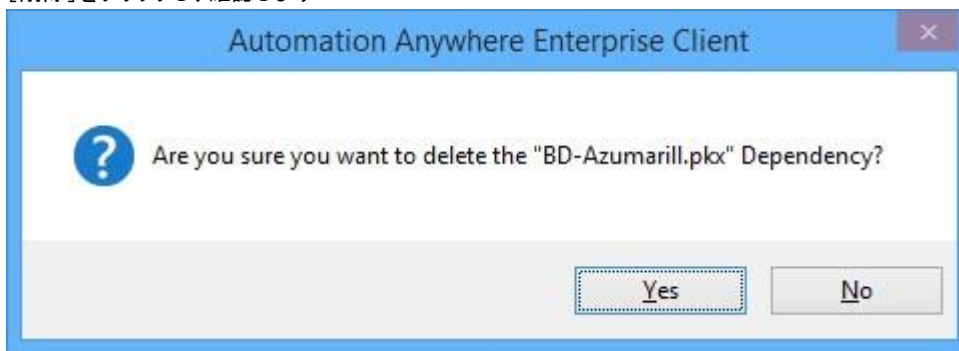
 備考: 依存ファイルがすでにボット内にある場合はコピーできないため、次のエラーメッセージが表示されます。



ファイルを削除する

[Bot Dependencies] (ボットの依存関係) パネルで依存ファイルを削除するには、


1. 該当するファイルを選択します
2. [削除]をクリックし、確認します



3. 依存ファイルのリストから該当するファイルが削除されます。

ボット内の依存ファイルを参照するボット内のファイルを参照(組込)するには、

1. 必要なコマンドを[タスクアクションリスト]にドラッグアンドドロップします
2. 該当する依存ファイルを選択します。

 ヒント: ほかのユーザーが使用できるようタスクをアップロードする場合は、システム変数\$AAApplicationPath\$を使用できます。

依存ファイルをアップロードまたはダウンロードする

Control Room との間ですべての依存ファイルのアップロードとダウンロードが自動的に実行されます。

詳しくは[こちら](#)を参照してください。

Upload
✕

### Upload Task(s) and Dependencies ?

Select the Task(s) and Dependencies you want to Upload.

Name	Date Modified	Client Status	Type	Mode	Remarks
<input checked="" type="checkbox"/> <b>Bot_Dependency</b>	<b>23-May-17 4:14:31 ...</b>	<b>Updated</b>	<b>TaskBot</b>		
<input checked="" type="checkbox"/> Extracted Table	27-Nov-13 5:48:57 PM	New	Microsoft Excel Works...	Referenced	
<input checked="" type="checkbox"/> Legal_Disclaimer	21-Jul-15 6:04:09 PM	New	paint.net Image	Referenced	
<input checked="" type="checkbox"/> Training Manual v1.0	13-Sep-13 10:35:10 AM	New	Microsoft Word Docum...	Referenced	
<input type="checkbox"/> BD-Azumarill	23-May-17 2:37:30 PM	Same	PKX File	Referenced	

Export to CSV
Upload
Cancel


## セクション: Enterprise Client コマンドを使用する

## Active Directory コマンド

Active Directory を管理し、一元管理でシステムのユーザーを作成、変更削除するには、このコマンドを使用します。

### 概要

Active Directory は Microsoft が提供するディレクトリサービスです。この機能は、管理者がグループやさらに大きな組織にわたってユーザーを管理するのに役立ちます。

 ヒント: Active Directory コマンドの全フィールドが変数の使用に対応しています。

Automation Anywhere Enterprise では LDAP (ライトウェイトディレクトリアクセスプロトコル) を使用して Active Directory のユーザーを読み出し、編集します。サーバー名とドメイン名を結合して、Active Directory に接続するために使用される LDAP パスを生成します。

### Active Directory との接続を確立する

Active Directory でユーザーを管理するには、必ず管理者と Active Directory サーバーとの接続を確立します。Active Directory にログインするユーザーは、Active Directory サーバーに接続し、サーバー名、ドメイン名、ユーザー名、パスワードの詳細を閲覧できる権限があることが必要です。

### サブコマンド

Active Directory コマンドには、次のサブコマンドが用意されています。


- [Create User \(ユーザーを作成\)](#) • [Modify User \(ユーザーを変更\)](#) • [Create Group \(グループを作成\)](#)
  - [Modify Group \(グループを変更\)](#)
- [Create Object \(オブジェクトを作成\)](#) • [Modify Object \(オブジェクトを変更\)](#) • [Search \(検索\)](#)
- [Get Property \(プロパティを取得\)](#) サブコマンドを使用する

Active Directory コマンドを挿入するには次の手順を実行します。

- [Create User \(ユーザーを作成\)](#) コマンド

このコマンドにより、Active Directory の接続文字列で指定された場所に新しいユーザーを作成できます。Active Directory - Create User (ユーザーを作成) コマンドを挿入するには次の手順を実行します。

1. [Active Directory - Create User] (ユーザーを作成) コマンドをダブルクリックするか [Task Actions List] (タスクアクションリスト) ペインにドラッグします。Active Directory のメインウィンドウが表示されます。
2. Active Directory との接続を確立するには、ログインユーザー名とログインパスワードを入力するか、ファンクションキー「F2」を押して変数を割り当てます。

 ヒント: セキュリティ強化のために、[Credential Variables] (資格情報変数) のリストから必要な資格情報キーを選択して [Credential Variables] (資格情報変数) \* に入力することもできます。詳しくは [こちら](#) を参照してください。

\*10.3 以降で適用可。

3. [Enter LDAP Path] (LDAP パスを入力) フィールドで親パスを指定します。



## Active Directory ?

**Select Command:**

Create User    
  Create Group    
  Create Object    
  Search  
 Modify User    
  Modify Group    
  Modify Object    
  Get Property

**Enter LDAP Path:**

Parent Path:  ...  
e.g. LDAP://DomainServer/CN=Users;DC=Domain,DC=Com

Login User:      Login Password:

**Enter New User Details:**

User Name:	<input type="text"/>	Password:	<input type="text"/>
First Name:	<input type="text"/>	Last Name: (Optional)	<input type="text"/>
Display Name: (Optional)	<input type="text"/>	Initials: (Optional)	<input type="text"/>
E-Mail: (Optional)	<input type="text"/>	Description: (Optional)	<input type="text"/>
Department: (Optional)	<input type="text"/>	Title: (Optional)	<input type="text"/>

User must change password at next logon    
  User cannot change password  
 Is Active    
  Password never expires

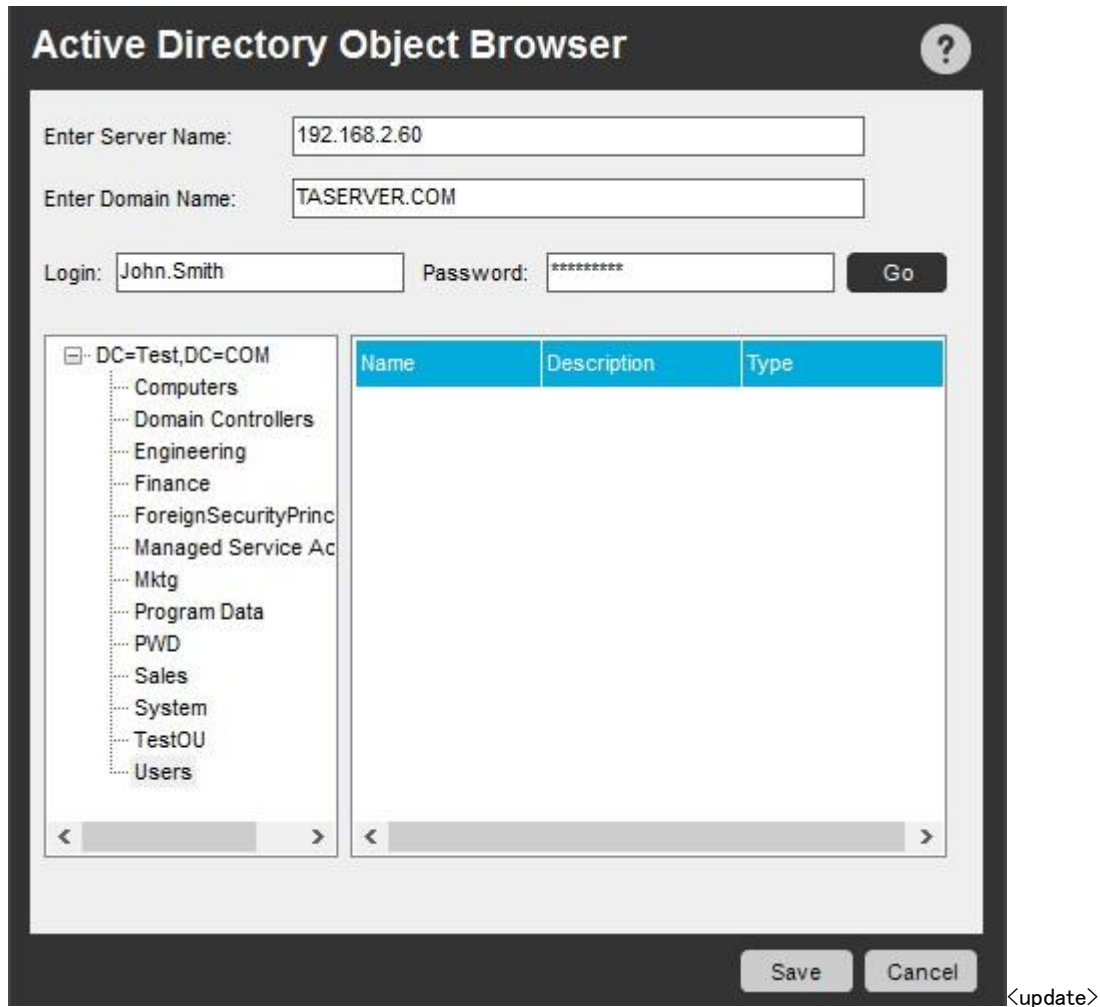
**TIP:** Press F2 to insert variable.

4. 親パスが不明な場合は参照ボタンを使用してパスの場所を検索します。



5. [Active Directory Object Browser] (Active Directory オブジェクトブラウザー) ウィンドウが表示されます。

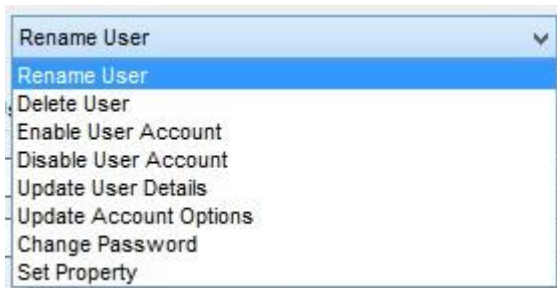


6. 新しいユーザーの詳細を入力します。必要に応じパスワードオプションのチェックボックスにチェックを入れます。
7. [Save] (保存) をクリックして手順を完了します。

- Modify User (ユーザーを変更) コマンド

このコマンドにより、Active Directory のユーザーの変更またはユーザー名の変更ができます。Active Directory - Modify User (ユーザーを変更) コマンドを挿入するには次の手順を実行します。

1. Active Directory - Modify User (ユーザーを変更) コマンドをダブルクリックするか [Task Actions List] (タスクアクションリスト) ペインにドラッグします。Active Directory のメインウィンドウが表示されます。
2. [Select User Action] (ユーザーアクションを選択) ドロップダウンメニューからオプションを選択します。



- A. Rename User (ユーザー名を変更): [Enter Modify User Details] (ユーザーの変更の詳細を入力) のチェックボックスを使用して、ユーザーログオン名やユーザーアカウント名を変更します。
- B. Enable User Account (ユーザーアカウントを有効化): ユーザーアカウントを有効化します。
- C. Disable User Account (ユーザーアカウントを無効化): ユーザーアカウントを無効化します。[Enter Modify User Details] (ユーザーの変更の詳細を入力) セクションから、無効化するユーザー名またはログオン名を選択します。

**Select User Action:**

Select Action:

**Enter Modify User Details:**

User Name     Logon Name

e.g. John Smith

- D. Delete User (ユーザーを削除): Active Directory からユーザーを削除します。[Enter Modify User Details] (ユーザーの変更の詳細を入力) セクションから、削除するユーザー名またはログオン名を選択します。

**Select User Action:**


Select Action:

**Enter Modify User Details:**

User Name     Logon Name

e.g. john.smith123

- E. Update User Details (ユーザーの詳細を更新): ユーザーの詳細を更新するにはこのオプションを使用します。
- F. Update Account Options (アカウントオプションを更新): ユーザーのアカウント属性を設定するにはこのオプションを使用します。次の 4 つの属性から選択します。[User must change password at next login] (ユーザーは次回ログイン時にパスワードを変更する必要があります)、[Is Active] (アクティブ)、[User cannot change password] (ユーザーはパスワードを変更できません)、[Password never expires] (パスワードの期限切れはありません)
- G. Change Password (パスワードを変更): ユーザーのパスワードを変更するにはこのオプションを使用します。
- H. Set Property (プロパティを設定): ユーザーのプロパティに値を割り当て現在の詳細を表示しアップデートするには、このオプションを使用します。

 ヒント: または、変更すべき [User Name] (ユーザー名) が不明の場合は、[Enter LDAP Path] (LDAP パスを入力) セクションの参照ボタンをクリックします。[Active Directory Object Browser] に移動し、リストからユーザーを選択して上記 [User Actions] (ユーザーアクション) のいずれかを実行します。

## Active Directory

**Select Command:**

Create User   
  Create Group   
  Create Object   
  Search  
 Modify User   
  Modify Group   
  Modify Object   
  Get Property

**Enter LDAP Path:**

Parent Path:  ...  
 e.g. LDAP://DomainServer/CN=Users;DC=Domain,DC=Com

Login User:     Login Password:

**Select User Action:**

Select Action:  ▼

**Enter Modify User Details:**

User Name:

New Name:

Rename user logon name  
 Rename user account name

**TIP:** Press F2 to insert variable.

Save    Cancel

- Create Group(グループを作成)コマンド:

このコマンドにより、Active Directory のグループを作成できます。Active Directory - Create Group(グループを作成)コマンドを挿入するには次の手順を実行します。

1. Active Directory - Create Group(グループを作成)コマンドをダブルクリックするか[Task Actions List](タスクアクションリスト)ペインにドラッグします。Active Directory のメインウィンドウが表示されます。
2. [GroupName](グループ名)、[Description](説明)、[Group Scope](グループの範囲)、[Group Type](グループの種類)のオプションを選択します。

## Active Directory ?

**Select Command:**

Create User     
  Create Group     
  Create Object     
  Search  
 Modify User     
  Modify Group     
  Modify Object     
  Get Property

**Enter LDAP Path:**

Parent Path:  ...

e.g. LDAP://DomainServer/CN=Users;DC=Domain,DC=Com

Login User:       Login Password:

**Enter New Group Details:**

Group Name:

Description: (Optional)

Group Scope:     
  Domain Local     
  Global     
  Universal

Group Type:     
  Security     
  Distribution

💡 **TIP:** Press F2 to insert variable.

Modify Group (グループを変更) コマンド:

このコマンドにより、Active Directory のグループを変更できます。Active Directory – Modify Group (グループを変更) コマンドを挿入するには次の手順を実行します。

1. Active Directory – Modify Group (グループを変更) コマンドをダブルクリックするか [Task Actions List] (タスクアクションリスト) ペインにドラッグします。Active Directory のメインウィンドウが表示されます。
2. オプションを選択する: [Rename Group] (グループ名を変更)、[Delete Group] (グループを削除)、[Add Users To Group] (グループにユーザーを追加)、[Remove Users From Group] (グループからユーザーを削除)、[Set Property] (プロパティを設定)
  - A. Rename Group (グループ名を変更): 既存のグループ名を変更するにはこのオプションを使用します。
  - B. Delete Group (グループを削除): 既存のグループを削除するにはこのオプションを使用します。
  - C. Add Users to Group (グループにユーザーを追加): グループにユーザーを追加するにはこのオプションを使用します。ユーザーリストが表示されます。[Add] (追加)、[Remove] (削除)、[Edit] (編集) ボタンを使用して [Add Users to the group] (グループにユーザーを追加) をクリックします。


**Select Group Action:**

Select Action: Add Users To Group

**Enter Modify Group Details:**


Group Name:

User List:		
AA001	LDAP://192.168.2.60/CN=AA001,DC=Test,DC=COM	<input type="button" value="Add"/>
AA002	LDAP://192.168.2.60/CN=AA002,DC=Test,DC=COM	<input type="button" value="Remove"/>
AA003	LDAP://192.168.2.60/CN=AA003,DC=Test,DC=COM	<input type="button" value="Edit"/>

 **TIP:** Press F2 to insert variable.

- a. グループの複数ユーザーを追加/編集/削除: 一人または複数のユーザーを選択して、[Active Directory Object Browser]ウィンドウのグループリストのグループを追加/編集/削除できます。

[Enter user(s)](ユーザーを入力)テキストボックスにユーザー名を入力します。変数が割り当てられている場合、それを入力することもできます。

 **備考:** ユーザー名/変数が複数の場合は「;」(セミコロン)で区切られている必要があります。

## Active Directory Object Browser

Enter Server Name:

Enter Domain Name:


Login:  Password:

	Name	Description	Type
[-] DC=Test,DC=COM			
Computers			
Domain Controllers			
Engineering			
Finance			
ForeignSecurityPrinc			
Managed Service Ac			
Mktg			
Program Data			
PWD			
Sales			
System			
TestOU			
Users			

Enter User(s):


e.g. user1; user2; user3

The above names are Logon Names.


 **TIP:** Press F2 to insert variable.



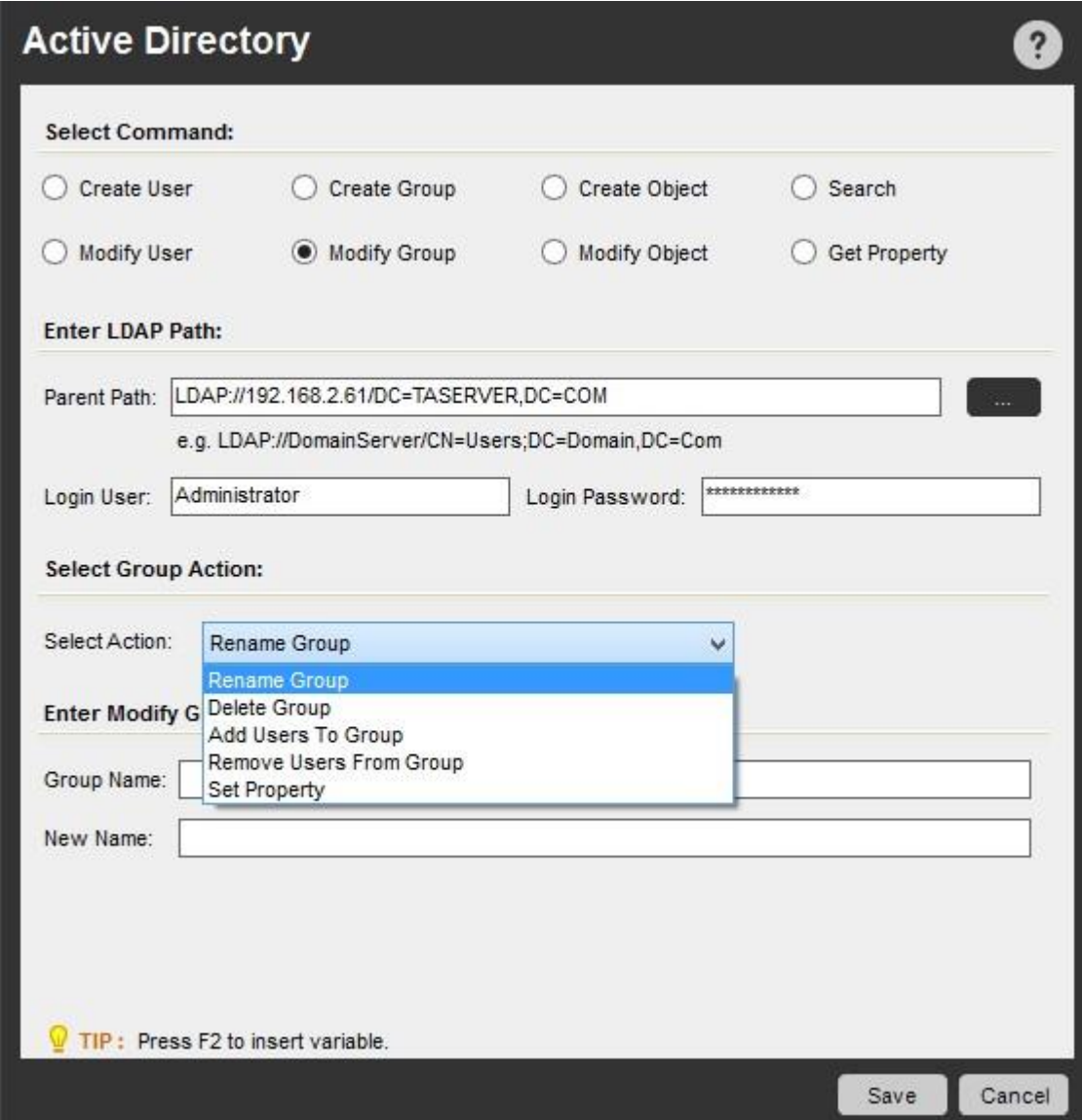
- b. ユーザーとしてログオン名を追加: Active Directory に同じ名前のユーザーが含まれる場合、ユーザー名ではなくログオン名を追加できます。それを実行するには、[Active Directory Object Browser] ウィンドウの [The above names are Logon Names] (上はログオン名) オプションを選択します。変数が割り当てられている場合はそれを挿入することもできます。



- c. ログオン名/ユーザー名を編集: 入力が不正な場合、ログオン名、ユーザー名、LDAP 文字列を編集できます。ユーザーをクリックし、[Active Directory Object Browser] ウィンドウに移動すると必要な変更内容を入力できます。終了後は [Save] (保存) をクリックします。

 備考: [User Name] (ユーザー名) を編集するときに、[Logon Name] (ログオン名) オプションを選択することもできます。

- D. Remove Users from Group (グループからユーザーを削除): グループからユーザーを削除するにはこのオプションを使用します。ユーザーリストが表示されます。[Add] (追加) ボタンと [Remove] (削除) ボタンを使用して [Remove Users] (ユーザーを削除) をクリックします。
- E. Set Property (プロパティを設定): グループのプロパティに値を割り当てるにはこのオプションを使用します。

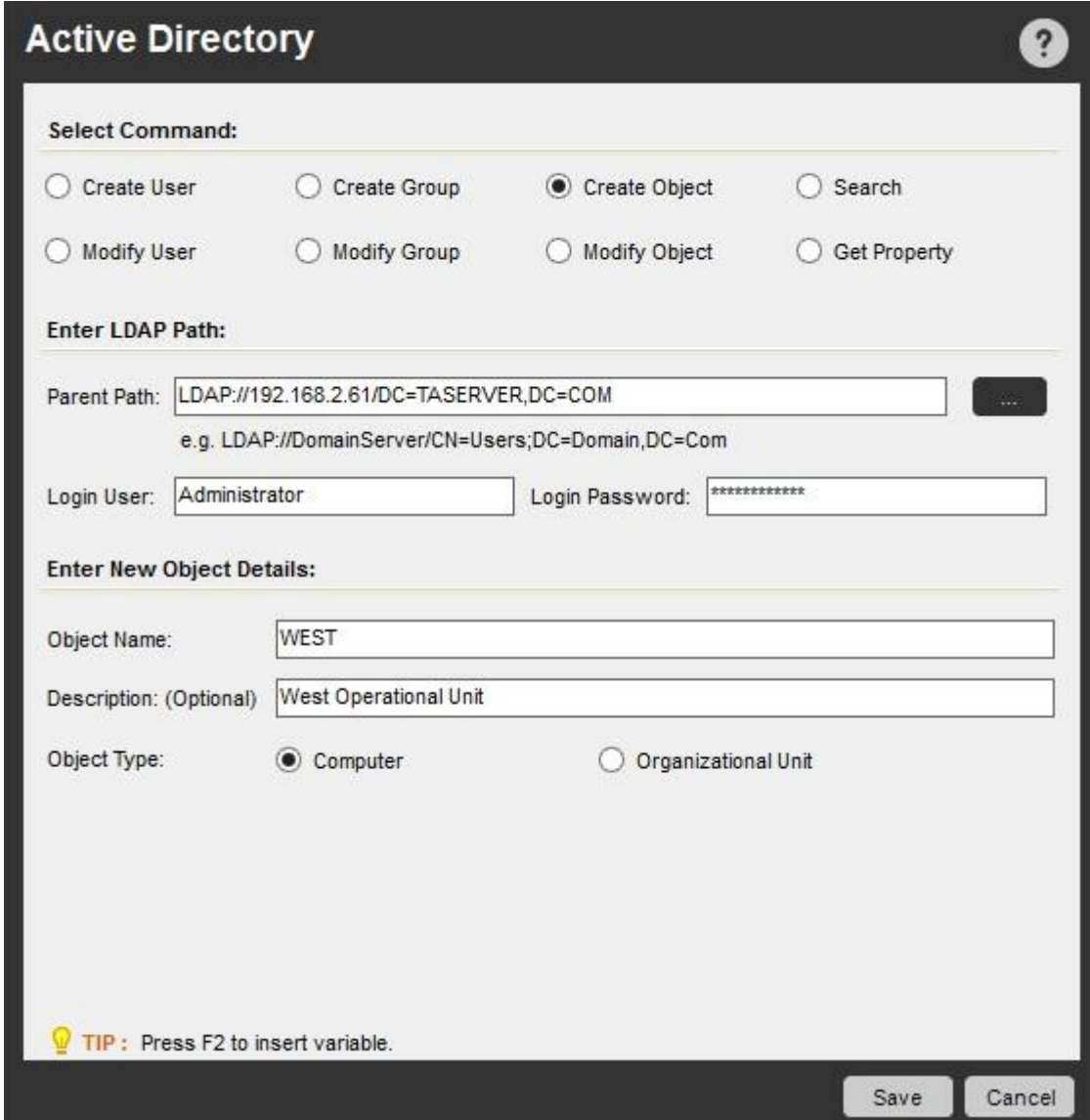


- Create Object (オブジェクトを作成) コマンド:

このコマンドにより、Active Directory に [Computer] (コンピューター) 向けや [Organizational Unit] (組織単位) 向けに新しいオブジェクトを作成できます。Active Directory - Create Object (オブジェクトを作成) コマンドを挿入するには次の手順を実行します。



1. Active Directory – Create Object (オブジェクトを作成) コマンドをダブルクリックするか [Task Actions List] (タスクアクションリスト) ペインにドラッグします。Active Directory のメインウィンドウが表示されます。
2. ラジオボタンを使用して、新しい [Organizational Unit] (組織単位) または新しい [Computer] (コンピューター) を作成するためのオプションを選択します。



**Active Directory** ?

**Select Command:**

Create User   
  Create Group   
  Create Object   
  Search  
 Modify User   
  Modify Group   
  Modify Object   
  Get Property

**Enter LDAP Path:**

Parent Path:  ...

e.g. LDAP://DomainServer/CN=Users;DC=Domain,DC=Com

Login User:     Login Password:

**Enter New Object Details:**

Object Name:

Description: (Optional)

Object Type:   
 Computer   
 Organizational Unit

**TIP:** Press F2 to insert variable.

Save    Cancel

- **Modify Object (オブジェクトを変更) コマンド:**

このコマンドにより、Active Directory のオブジェクトを変更できます。Active Directory – Modify Object (オブジェクトを変更) コマンドを挿入するには次の手順を実行します。

1. Active Directory – Modify Object (オブジェクトを変更) コマンドをダブルクリックするか [Task Actions List] (タスクアクションリスト) ペインにドラッグします。Active Directory のメインウィンドウが表示されます。
2. オプションを選択する: [Rename Object] (オブジェクトの名前を変更)、[Delete Object] (オブジェクトを削除)、[Move Object] (オブジェクトを移動)、[Set Property] (プロパティを設定)
  - A. Rename Object (オブジェクトの名前を変更): 既存のコンピューターまたは組織単位の名前を変更するにはこのオプションを使用します。
  - B. Delete Object (オブジェクトを削除): 既存のコンピューターまたは組織単位を削除するにはこのオプションを使用します。
  - C. Move Object (オブジェクトを移動): 既存のコンピューターまたは組織単位の場所を変更するにはこのオプションを使用します。
  - D. Set Property (プロパティを設定): オブジェクトのプロパティに値を割り当てるにはこのオプションを使用します。

## Active Directory

**Select Command:**

Create User   
  Create Group   
  Create Object   
  Search  
 Modify User   
  Modify Group   
 **Modify Object**   
 Get Property

**Enter LDAP Path:**

Parent Path:  ...

e.g. LDAP://DomainServer/CN=Users;DC=Domain,DC=Com

Login User:     Login Password:

**Select Object Action:**

Select Action: 
 Rename Object  
 Rename Object  
 Delete Object  
 Move Object  
 Set Property

Enter Modify O

Object Name:

New Name:

Object Type:  Computer     Organizational Unit

**TIP:** Press F2 to insert variable.

**Search (検索) コマンド:**

このコマンドにより、Active Directory でグループのユーザーを検索したり、Active Directory でクエリを実行したりできます。Active Directory - Search (検索) コマンドを挿入するには次の手順を実行します。

1. Active Directory - Search (検索) コマンドをダブルクリックするか [Task Actions List] (タスクアクションリスト) ペインにドラッグします。Active Directory のメインウィンドウが表示されます。
2. ドロップダウンウィンドウから次のオプションのいずれかを選択します。
  - A. Get All Users of a group (グループのすべてのユーザーを取得): グループの全ユーザーを検索しリスト変数に保存するにはこのオプションを使用します。リスト変数の戻り値のタイプに応じて、リスト変数にはメンバーのユーザー名または LDAP パスが含まれます。
  - B. Run Query (クエリを実行): Active Directory のクエリを指定し、実行するにはこのオプションを使用します。クエリの結果は、選択したオプションに応じてオブジェクト名または LDAP パスがリスト変数に保存されます。

## Active Directory ?

**Select Command:**

Create User   
  Create Group   
  Create Object   
  Search  
 Modify User   
  Modify Group   
  Modify Object   
  Get Property

**Enter LDAP Path:**

Parent Path:  ...

e.g. LDAP://DomainServer/CN=Users;DC=Domain,DC=Com

Login User:     Login Password:

**Select Search Action:**

Select Action: Get All Users Of a Group ▼

Get All Users Of a Group  
 Run Query

Enter Object De

Object Name:

Return Type:   
 Object Name   
 LDAP Path

Assign Value To Variable:  ▼

💡 **TIP:** Press F2 to insert variable.

💡 ヒント: Active Directory (LDAP) クエリについては、この[リンクを参照できます](#)。

- Get Property (プロパティを取得) コマンド:
 

このコマンドにより、オブジェクト(ユーザー名、グループ名、コンピューター、組織単位)の特定のプロパティ値を取得し変数化することができます。Active Directory - Get Property (プロパティを取得) コマンドを挿入するには次の手順を実行します。

  1. Active Directory - Get Property (プロパティを取得) コマンドをダブルクリックするか [Task Actions List] (タスクアクションリスト) ペインにドラッグします。Active Directory のメインウィンドウが表示されます。
  2. 次のオブジェクトタイプから選択します。[user] (ユーザー)、[group] (グループ)、[computer] (コンピューター)、[organizational unit] (組織単位)

## Active Directory

**Select Command:**

Create User   
  Create Group   
  Create Object   
  Search  
 Modify User   
  Modify Group   
  Modify Object   
  Get Property

**Enter LDAP Path:**

Parent Path:  ...  
e.g. LDAP://DomainServer/CN=Users;DC=Domain,DC=Com

Login User:     Login Password:

**Select Object Type**

Select Action: User ▼

User  
 Group  
 Computer  
 Organizational Unit

Enter Modify Object Name:

Property:

Assign Value To Variable: Select Variable ▼

💡 TIP: Press F2 to insert variable.

### 関連トピック

- [Printer Settings\(プリンター設定\)コマンド](#) • [Services\(サービス\)コマンド](#) • [SNMP コマンド](#)

App Integration(アプリの統合)コマンド

このコマンドを使用してアプリケーションを自動化タスクに統合し、テキストデータをキャプチャします。

#### 概要

Automation Anywhere によって、簡単なドラッグ & ドロップ操作で任意のアプリケーションを容易に自動化タスクに統合できます。App Integration (アプリの統合)コマンドは、Java や Windows のアプリケーションを含む多数のアプリケーションに対応しています。

#### サブコマンド

アプリの統合コマンドには、次のサブコマンドが用意されています。

- Microsoft Internet Explorer や Mozilla Firefox などのブラウザー • DOS コマンドプロンプト • Java アプリケーション
- Java アプレット
- Telnet Unix シェル
- Windows アプリケーション • その他コマンドを使用する

タスクに[App Integration](アプリの統合)コマンドを挿入するには、次の手順を実行します。

1. [App Integration] (アプリの統合) コマンドの 1 つをダブルクリックするか、[Task Actions List] (タスクアクションリスト) ペインまでドラッグします。 [App Integration] (アプリの統合) ウィンドウが表示されます。



2. ドロップダウンウィンドウからアプリケーションタイプを選択します。
3. キャプチャのオプションを選択します。次のオプションを使用してテキストデータを任意のアプリケーションからキャプチャできます。
  - Capture Window (ウィンドウをキャプチャ): アプリケーションウィンドウタイトルを指定します。タスクの実行中、Automation Anywhere はウィンドウを画像としてキャプチャします。
  - Capture Area (範囲をキャプチャ): キャプチャするアプリケーションウィンドウの特定の範囲を指定します。
  - Capture Scrollable Text: (スクロール可能なテキストをキャプチャ): スクロール可能なテキストで範囲を指定しその範囲内のすべてのテキストをキャプチャします。
4. テキストをキャプチャするウィンドウを選択します。
5. または、テキストの範囲を指定し、キャプチャされたテキストを変数に割り当てます。

[App Integration] (アプリの統合) コマンドでは、キャプチャするテキストの範囲を柔軟に指定できます。範囲を指定するには、[Before] (前) と [After] (後) のキーワードを使用します。

例: 次のテキスト文字列において:

```
"Version 5.1 (Build 2600.xpsp_sp3_gdr.090206-1234 : Service Pack 3) Copyright"
```

- [Before] (前) キーワードフィールドに「Version」を指定し、[After] (後) キーワードフィールドに「Copyright」を指定します。
- キャプチャしたテキストをトリミングして前後のスペースを取り除くよう指定することもできます。
- PDF などのドキュメントから通常はコピーできないスクロール可能なテキストをキャプチャするには、このコマンドを使用します。



備考: 非標準 Windows コントロールがサポートされています。

## App Integration

**Step 1 : Select application type**  
Windows Application

**Step 2 : Select option**  
 Capture Window   
 Capture Area   
 Capture Scrollable Text

**Step 3 : Select window**  
Document1 - Word    Refresh

Captured Scroll Area    View Captured Text

**Step 4 : Assign the captured text to a variable when the task runs**

Filter the captured text

Before (Optional)    After (Optional)

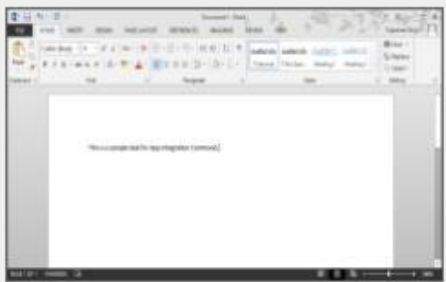
**TIP** : Press F2 to insert variable.    **TIP** : Press F2 to insert variable.

Example :  
To extract \$249 from 'Price: \$249 xyz'  
Specify "Before" = Price: & "After" = xyz

Trim the captured text

Assign the value to an existing variable    Select Variable

**Image Preview :**



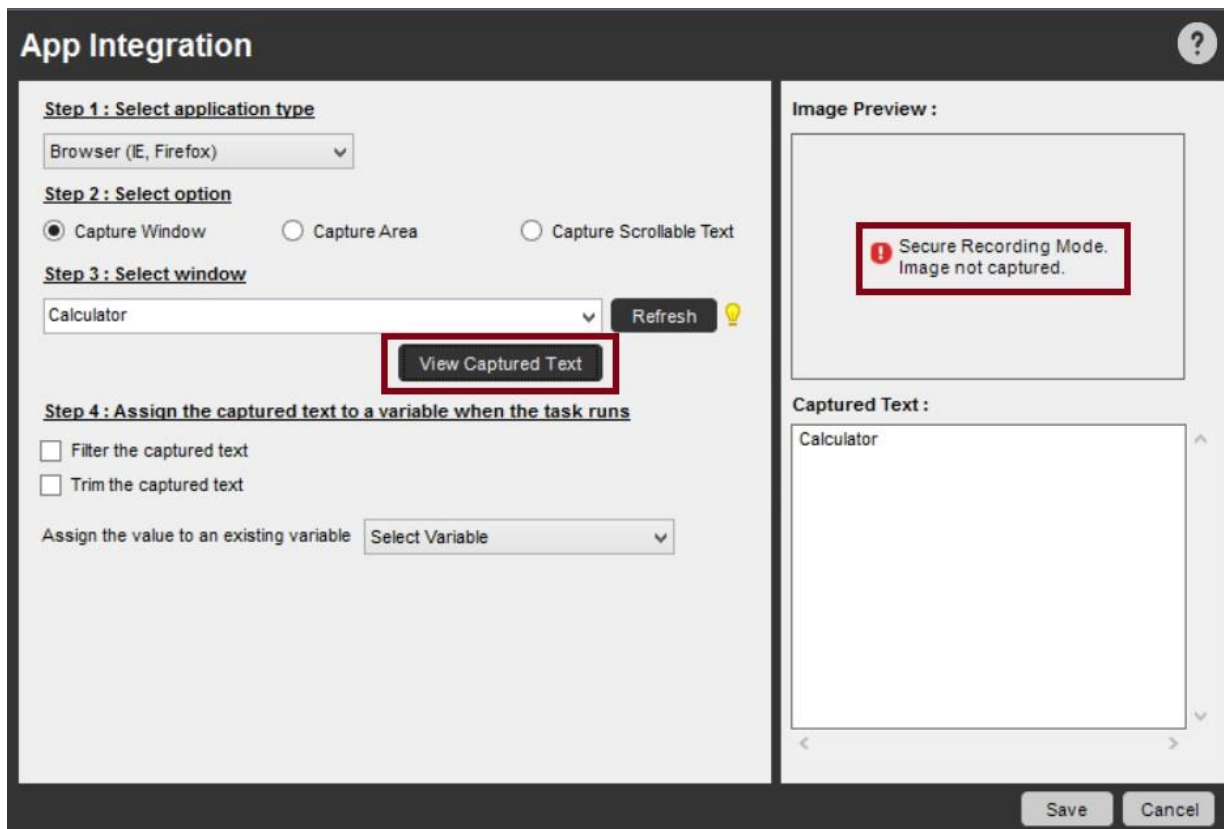
**Captured Text :**

Save    Cancel

セキュアレコーディングが[有効]の場合

Secure Recording mode を有効化する場合、プレビュー向けの画像は撮影されず、以下のエラーメッセージが表示されます。[Secure Recording mode] [Image not captured] (セキュアレコーディングモードです。画像はキャプチャされません) [詳しくはこちらを参照してください。](#)





## 関連トピック

- [App Integration \(アプリの統合\) コマンド](#) - 例 • [Database \(データベース\) コマンド](#)
- [Email Automation \(メールの自動化\) コマンド](#) • [Excel コマンド](#) • [OCR コマンド](#)
- [PDF Integration \(PDF 統合\) コマンド](#)
- [Read from CSV/Text Files \(CSV/テキストファイルから読み取る\) コマンド](#) • [Terminal Emulator \(ターミナルエミュレーター\) コマンド](#) • [XML コマンド](#)

### Clipboard (クリップボード) コマンド

このコマンドを使用すると、Windows のクリップボードアクティビティを自動化できます。

#### 概要

Windows のクリップボードは、さまざまな目的で使われる非常に一般的なアプリケーションです。テキストをクリップボードにコピー (Ctrl+C など) すると、そのテキストを別のアプリケーションに貼り付け (Ctrl+V など) することができます。Automation Anywhere では、\$Clipboard\$ という名前のシステム変数が提供されます。これでクリップボードにコピーしたテキストを取得できます。

#### サブコマンド

Clipboard (クリップボード) コマンドには、次のサブコマンドが用意されています。

- [Clear Clipboard \(クリップボードをクリア\)](#)
- [Assign to Clipboard \(クリップボードに割り当てる\)](#)
- [Assign from Clipboard \(クリップボードから割り当てる\) サブコマンドを使用する](#)

TaskBot/MetaBot Logic に Clipboard (クリップボード) コマンドを挿入するには、次の手順を実行します。

1. Clipboard (クリップボード) コマンドの 1 つをダブルクリックするか、[Task Actions List] ペインまでドラッグします。[Clipboard] (クリップボード) ウィンドウが表示されます。
2. 各フィールドで必要なパラメーターを指定します。
3. [Save] (保存) をクリックして自動化 TaskBot/MetaBot Logic にコマンドを保存します。

Clear Clipboard (クリップボードをクリア) コマンド:

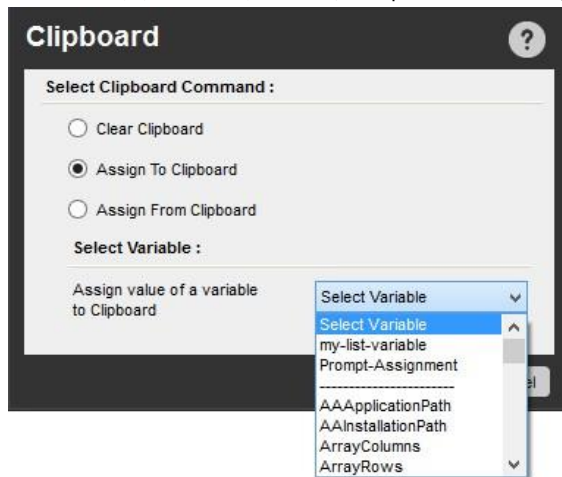


このコマンドを使用すると、クリップボードの内容を消去できます。



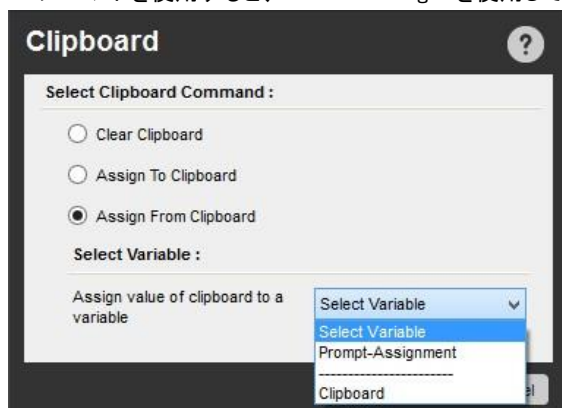
Assign to Clipboard(クリップボードに割り当てる)コマンド:

このコマンドを使用すると、Variable Manager を使用して作成した任意の変数の値をクリップボードに割り当てることができます。ここでこの値にアクセスできます。アクセスするには、\$Clipboard\$システム変数を使用します。



Assign from Clipboard(クリップボードから割り当てる)コマンド:

このコマンドを使用すると、Variable Manager を使用して作成した任意の値型の変数に、クリップボードに含まれる値を割り当てるすることができます。



## 関連トピック

- [Clipboard\(クリップボード\)コマンド- 例](#)
- [Variable Manager\(変数マネージャー\)を使用する](#) • [変数を使用する](#) • [値型変数](#)
- [システム変数](#)
- [Comment\(コメント\)コマンド](#)
- [Error Handling\(エラー処理\)コマンド](#) • [Image Recognition\(画像認識\)コマンド](#)

- [Screen Capture\(スクリーンキャプチャ\)コマンド](#) • [Play Sound\(サウンドを再生\)コマンド](#) • [String Operation\(文字列処理\)コマンド](#) • [Variable Operation\(変数処理\)コマンド](#) [Comment\(コメント\)コマンド](#)

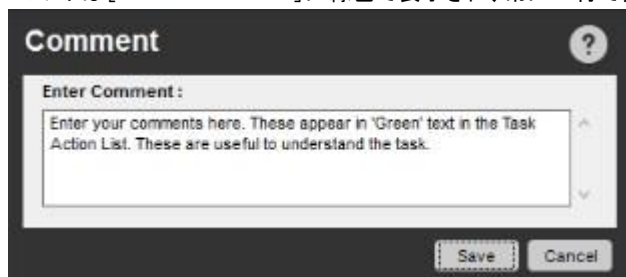
このコマンドを使用して自動化タスクにコメントを挿入し、TaskBot/MetaBot Logic に関する追加情報を提供します。コメントは TaskBot/MetaBot Logic の実行時に無視されます。


コメントは、TaskBot/MetaBot Logic のステップに注釈を付ける場合に便利です。コメントを使用して TaskBot/MetaBot Logic に関する詳細を広範囲に文書化する人もいます。備忘録的に簡単なコメントを設定する人もいます。

コメントを挿入するには、次の手順を実行します。

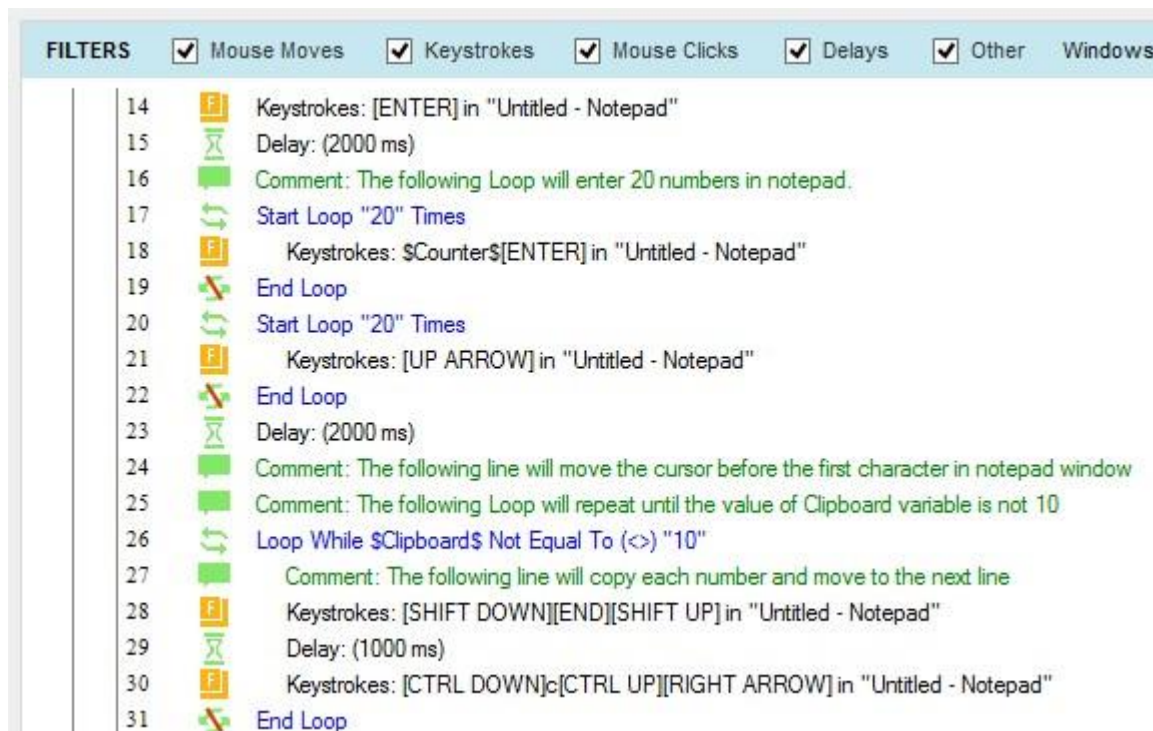
1. TaskBot または MetaBot Logic を Workbench で開きます。
2. コマンドリストで、Comment(コメント)コマンドを [Task Actions List] (タスクアクションリスト) のコメントを表示する位置にドラッグします。または、Comment(コメント)コマンドをダブルクリックして現在の位置に挿入できます。
3. 表示された Comment(コメント)テキストボックスにコメントを入力します。
4. [保存] をクリックします。
5. コメントが TaskBot/MetaBot Logic に挿入されます。このコメントをコピーして複数のコメントを追加できます。また、コメントをドラッグすれば TaskBot/MetaBot Logic 内の別の位置に移動できます。

コメントは [Task Actions List] に緑色で表示され、常に 1 行で保存されます。コメントを保存すると、複数行にわたるコメントが 1 行で表示されます。



 備考: コマンドであっても、コメント行部分は実行されません。

#### コメント例



---

## 関連トピック

- [Comment\(コメント\)コマンド](#) - 例
- [Clipboard\(クリップボード\)コマンド](#)
- [Error Handling\(エラー処理\)コマンド](#)
- [Image Recognition\(画像認識\)コマンド](#)
- [Screen Capture\(スクリーンキャプチャ\)コマンド](#)
- [Play Sound\(サウンドを再生\)コマンド](#)
- [String Operation\(文字列処理\)コマンド](#)
- [Variable Operation\(変数処理\)コマンド](#)

## Database(データベース)コマンド

このコマンドを使用してデータベースを自動化されたタスクに統合し、データを移動またはキャプチャします。

### サブコマンド

アプリの統合コマンドには、次のサブコマンドが用意されています。

- Connect(接続)
- Disconnect(切断)
- SQL Query(SQL クエリ)
- Insert/Update/Delete(挿入/更新/削除) • ストアドプロシージャを実行する概要

Automation Anywhere では、データベースと他のアプリケーション間でデータを転送できます。さまざまな形式のデータをインポートまたはエクスポートすることも、異なる形式にデータを変換することもできます。たとえば、データ移行プロジェクトの実行中にデータの転送や変換が必要になる場合があります。

カスタムのデータベースから Microsoft Excel スプレッドシートに転送したり、1 つのデータベースから事前に定義した別の形式のデータベースにデータを転送することもできます。

制限事項: Microsoft Access 2007 および Access 2010 のユーザーが Database(データベース)コマンドを使用するには、Microsoft Office 12.0 Access Database Engine OLE DB Provider が必要です。

### サブコマンドを使用する

TaskBot/MetaBot Logic に Database(データベース)コマンドを挿入するには、次の手順を実行します。

1. Database(データベース)コマンドの 1 つをダブルクリックするか、[Task Actions List](タスクアクションリスト)ペインまでドラッグします。  
[Database](データベース)ウィンドウが表示されます。
2. 各フィールドに必要なパラメーターを指定します。
3. [Save](保存)をクリックして自動化 TaskBot/MetaBot Logic にコマンドを保存します。

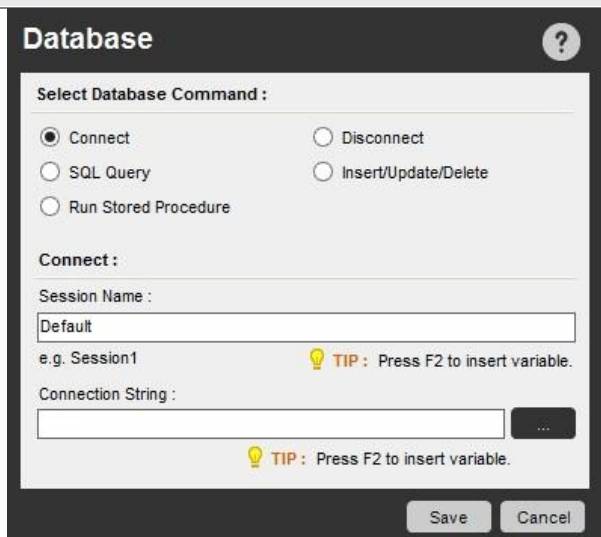
### Connect(接続)コマンド

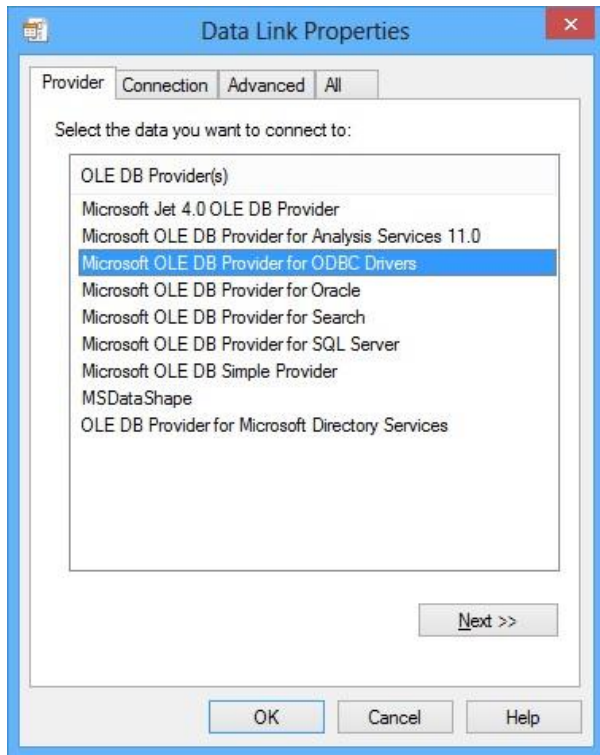
このコマンドを使用し、セッション名と接続文字列を指定してデータベースに接続します。


接続文字列を入力するには、参照ボタンをクリックして[Data Link Properties](データリンクプロパティ)ウィンドウを表示します。データベースのプロバイダーを選択し、データソースの完全なパスを入力します。完了したら、[Save](保存)をクリックします。

接続文字列を作成する代わりに、セキュリティ強化のために「F2」ファンクションキーを押して、接続文字列として「Credential Variable」を挿入することもできます。必要な Credential Key とその属性を選択します。詳しくは[こちら](#)を参照してください。

**ヒント:** Connect(接続)コマンドを使用してターゲットデータベースを選択する場合、[Data Link Properties](データリンクプロパティ)ウィンドウの[Test Connection](接続をテスト)ボタンをクリックして、データベース接続が機能していることを確認します。

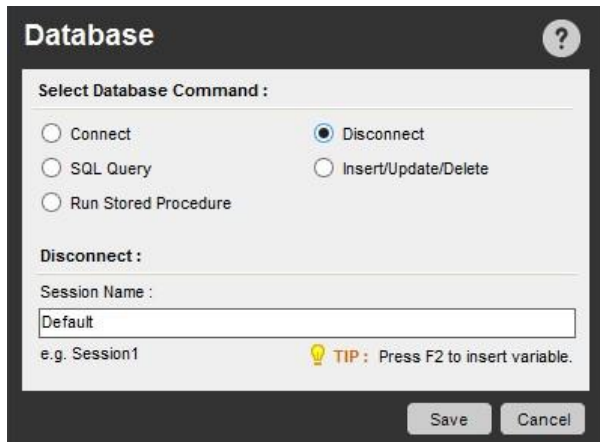




 備考: ポットのセキュリティを強化するために、Credential Manager に接続文字列全体を追加し、対応する Credential Variable を接続文字列として使用することもできます。


#### Disconnect (切断) コマンド

このコマンドを使用してデータベースから切断します。



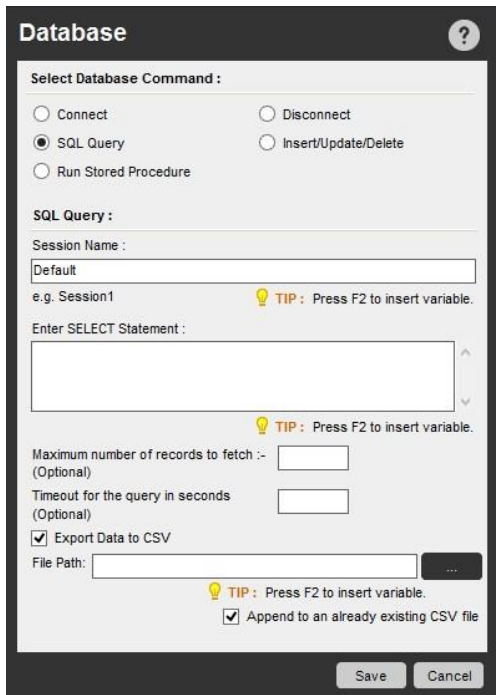
#### SQLQuery (SQL クエリ) コマンド:

このコマンドを使用して、Select (選択) ステートメントで SQL クエリを発行します。

 ヒント: SQL クエリの実行時にワイルドカードを使用する必要がある場合、MSAccess では「\*」、MSSQL では「%」を挿入します。

任意で、次のことを実行できます。

- 取得するレコード数を指定する
- クエリのタイムアウト値を指定する
- データファイルを CSV (コンマ区切り) ファイルとして、指定した場所にエクスポートする。CSV ファイルへのデータエクスポートでは、ANSI、UNICODE、UTF8 エンコードがサポートされます。



**Database** ?

Select Database Command :

Connect                       Disconnect

SQL Query                       Insert/Update/Delete

Run Stored Procedure

**SQL Query :**

Session Name :  
Default  
e.g. Session1                      **TIP :** Press F2 to insert variable.

Enter SELECT Statement :  
  
  
  
  
**TIP :** Press F2 to insert variable.

Maximum number of records to fetch :-   
(Optional)

Timeout for the query in seconds   
(Optional)

Export Data to CSV

File Path:  ...

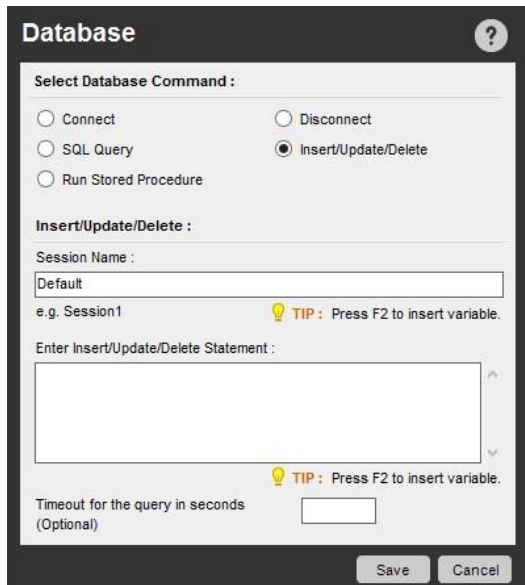
**TIP :** Press F2 to insert variable.

Append to an already existing CSV file

Save Cancel

### Insert/Update/Delete (挿入/更新/削除)コマンド

このコマンドを使用して、Select (選択) ステートメントで挿入、更新、削除の操作を指定します。



**Database** ?

Select Database Command :

Connect                       Disconnect

SQL Query                       Insert/Update/Delete

Run Stored Procedure

**Insert/Update/Delete :**

Session Name :  
Default  
e.g. Session1                      **TIP :** Press F2 to insert variable.

Enter Insert/Update/Delete Statement :  
  
  
  
  
**TIP :** Press F2 to insert variable.

Timeout for the query in seconds   
(Optional)

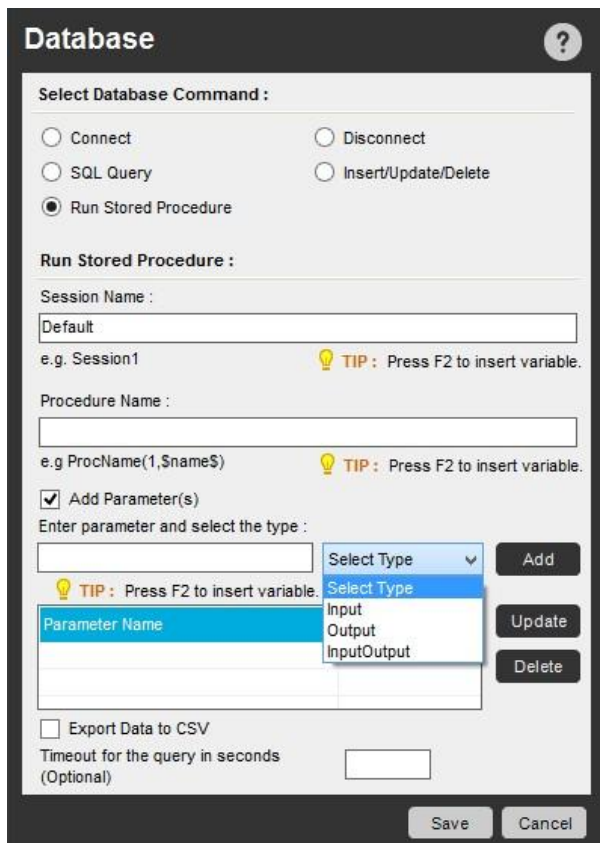
Save Cancel

### ストアードプロシージャコマンドを実行:

このコマンドを使用して、データベースに既に作成されたプロシージャを実行します。パラメーターの [Input] (入力) と [Output] (出力) タイプを指定し、追加と更新ができます。

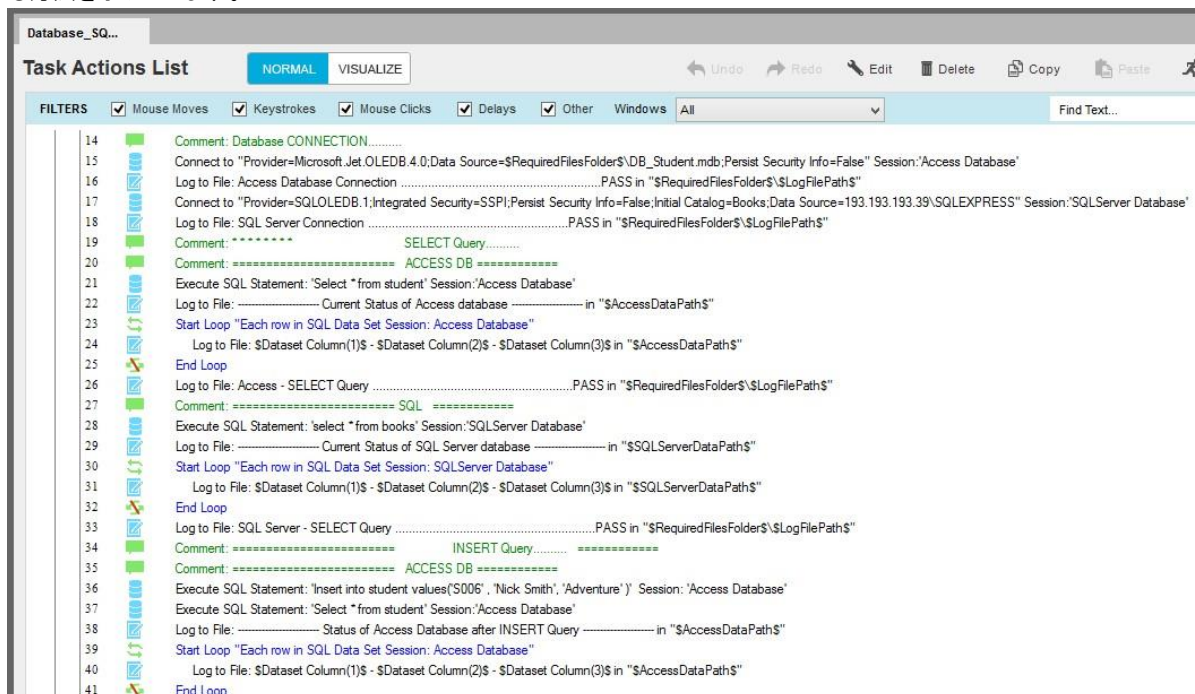
データファイルを指定した場所の CSV ファイルにエクスポートできます。





シナリオ例：データベースからデータを転送する

次のコードスニペットは、TaskBot/MetaBot Logic で Loop (ループ) コマンドを使用し、データベースからターゲットアプリケーションにデータを転送する方法を示しています。



💡 ヒント： Loop (ループ) コマンドを Database (データベース) コマンドと組み合わせて使用し、データベースから別のアプリケーションにデータを転送します。たとえば、「Each row in an SQLQuery dataset (SQL クエリデータセットの各行)」をループできます。



## 関連トピック

- [Database \(データベース\) コマンド](#) - 例
- [App Integration \(アプリの統合\) コマンド](#)
- [Email Automation \(メールの自動化\) コマンド](#)
- [Excel コマンド](#)
- [Loop \(ループ\) コマンド](#)
- [OCR コマンド](#)
- [PDF Integration \(PDF 統合\) コマンド](#)
- [Read from CSV-Text \(CSV テキストから読み取る\) コマンド](#)
- [Terminal Emulator \(ターミナルエミュレーター\) コマンド](#)
- [XML コマンド](#)

## Delay/Wait(遅延/待機)コマンド

Delay(遅延)コマンドを使用して、自動化された Taskbot/MetaBot ロジックの特定の時点に遅延を追加します。または Wait(待機)コマンドを使用すると、自動化された TaskBot/MetaBot Logic に待ち状態を挿入できます。

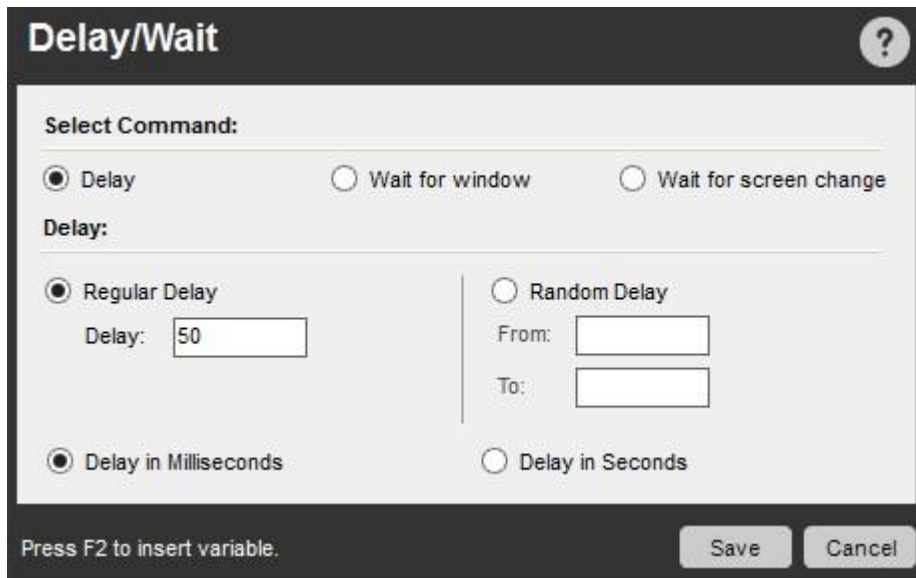
### Delay(遅延)コマンド

- 場合により、次のコマンドに移動する前に一定の時間 TaskBot/MetaBot Logic を待機させることができます。Delay(遅延)コマンドを使用すると、TaskBot/MetaBot Logic を待機させることができ、待機時間の指定もできます。
- Loop(ループ)コマンドは Automation Anywhere で最も強力なコマンドの 1 つです。Loop の使用時、Delay を挿入すると、TaskBot/MetaBot Logic で後続のアクションを実行する際のタイミングを最適化できて便利です。

### Delay(遅延)コマンドを使用する

Delay(遅延)コマンドを挿入するには、次の手順を実行します。

1. Workbench で [TaskBot/MetaBot Logic] を開きます。
2. コマンドリストで、Delay(遅延)コマンドを [Task Actions List](タスクアクションリスト) にドラッグして、TaskBot/MetaBot Logic を次のコマンドに移動する前に遅延させる位置に置きます。または、Delay(遅延)コマンドをダブルクリックして現在の位置に挿入できます。
3. Delay(遅延)コマンドが TaskBot/MetaBot Logic に挿入されます。このコマンドをコピーして複数の遅延を追加できます。また、コマンドをドラッグすれば TaskBot/MetaBot Logic 内の別の位置に遅延を移動することもできます。
4. 任意で遅延時間をミリ秒単位または秒単位に指定します。または、Automation Anywhere で遅延時間の乱数を生成する際に使用する数字の範囲を指定して、ランダム遅延を挿入します。



 備考: [Regular Delay](定期的な遅延) > [Delay](遅延) および [Random Delay](ランダム遅延) > [From]、[To](最小値と最大値) オプションに、変数を割り当てることができます。

### Wait(待機)コマンド

- アプリケーションによっては、スクリーンが変わるか別のウィンドウが開くまでの間、自動化されたアクションの待機が必要となる場合があります。たとえば、後続の一連のアクション(コマンド、マウスクリック、キーストロークなど)を実行する前に、スクリーン(またはアプリケーション内の範囲)の内容が変わるまで待機が必要な場合があります。これは、テキストが選択可能なフォーマットではない多くのアプリケーションで役立ちます。
- この場合、[Capture](キャプチャ) ボタンを使用して範囲をマークできます。画像が画像プレビューに表示され、キャプチャされた部分を確認できます。ただし TaskBot/MetaBot Logic の実行中、サンプル画像は比較用には使用されないことに注意してください。画像が正しくキャプチャされていることを確認するためのみに使用します。TaskBot/MetaBot Logic の実行時、指定したスクリーンまたはウィンドウに対して相対座標を使用して、その範囲のスクリーンショットがキャプチャされます。ここでは、この画像を「画像 A」と呼びます。
- Automation Anywhere は、指定された時間だけ待機した後、ページの画像と「画像 A」の比較を開始します。マークされた長方形のセクションにある画像と画像 A の比較を続け、差異が発生すると、比較が中止されて TaskBot/MetaBot Logic が次のコマンドに進みます。
- ただし、指定された時間内に画像の差異が発生しなかった場合、TaskBot/MetaBot Logic は停止するか、次のコマンドに進みます。

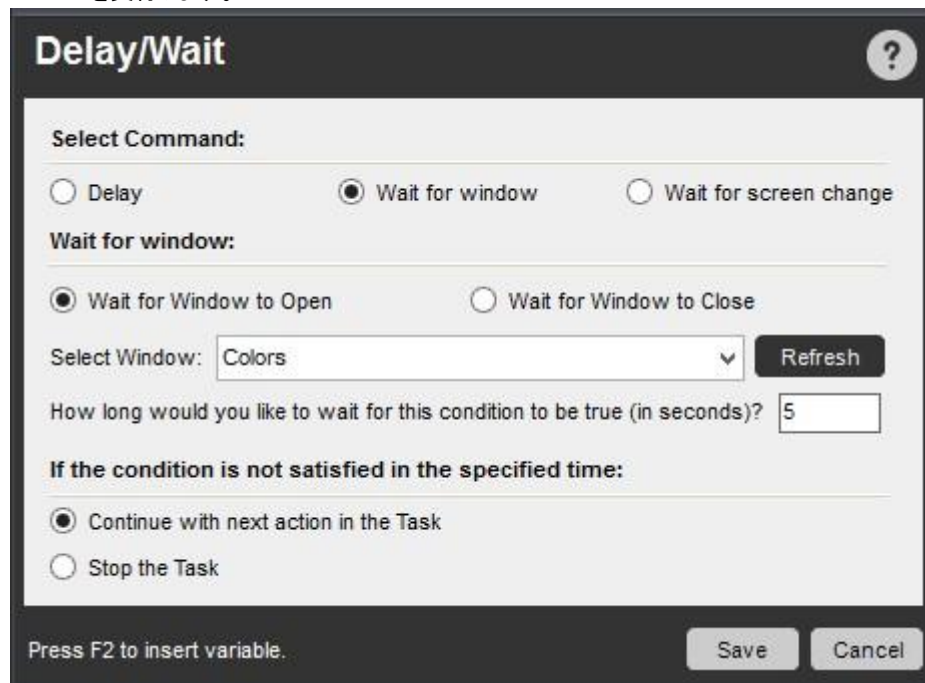
### サブコマンド

Wait(待機)コマンドには、次のサブコマンドがあります。

- Wait for Window(ウィンドウを待機)
- Wait for Screen Change(スクリーンの変更を待機)

Wait for Window(ウィンドウを待機)コマンド

Wait for Window(ウィンドウを待機)コマンドを使用すると、TaskBot/MetaBot Logic は指定されたウィンドウが開くか閉じるまで待機してから次のコマンドを実行します。



**Delay/Wait** [?]

Select Command:

Delay       Wait for window       Wait for screen change

Wait for window:

Wait for Window to Open       Wait for Window to Close

Select Window: Colors [v] Refresh

How long would you like to wait for this condition to be true (in seconds)? 5

If the condition is not satisfied in the specified time:

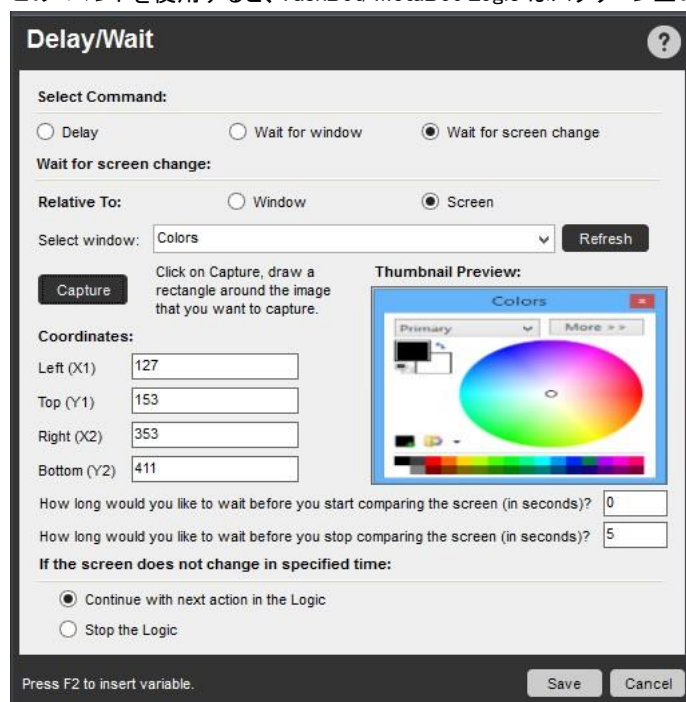
Continue with next action in the Task

Stop the Task

Press F2 to insert variable. Save Cancel

Wait for Screen Change(スクリーンの変更を待機)コマンド

このコマンドを使用すると、TaskBot/MetaBot Logic はスクリーン上の長方形の画像が変更されるまで待機してから次のコマンドを実行します。



**Delay/Wait** [?]

Select Command:

Delay       Wait for window       Wait for screen change

Wait for screen change:

Relative To:  Window       Screen

Select window: Colors [v] Refresh

Capture [button] Click on Capture, draw a rectangle around the image that you want to capture.

Thumbnail Preview: [Image of Colors window with a red capture box]

Coordinates:

Left (X1) 127

Top (Y1) 153

Right (X2) 353

Bottom (Y2) 411

How long would you like to wait before you start comparing the screen (in seconds)? 0


How long would you like to wait before you stop comparing the screen (in seconds)? 5

If the screen does not change in specified time:

Continue with next action in the Logic

Stop the Logic

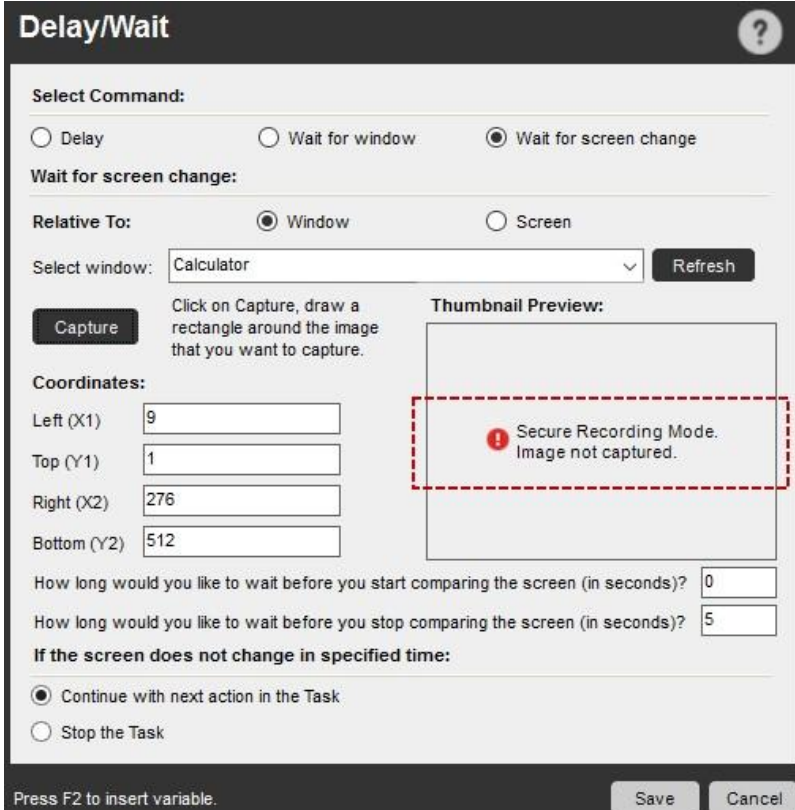
Press F2 to insert variable. Save Cancel

 備考: [Wait for Window](ウィンドウを待機)および[Wait for Screen Change](スクリーンの変更を待機)でウィンドウを選択する際、変数を指定できます。

セキュアレコーディングが[有効]の場合

[Secure Recording Mode] (セキュアレコーディングモード) を有効にした場合、画像がキャプチャされないため、[Thumbnail Preview] (サムネイルプレビュー) に表示されません。詳しくは[こちらを参照してください](#)。

[Secure Recording mode] (セキュアレコーディングモード) が無効になっていた時に画像がキャプチャされ、Control Room 管理者がセキュアレコーディングを有効にしたあと画像を再度キャプチャするようコマンドを編集した場合、コマンドを保存すると画像が削除されます。



**Delay/Wait**

Select Command:

Delay     Wait for window     Wait for screen change

Wait for screen change:

Relative To:     Window     Screen

Select window: Calculator    Refresh

**Capture**    Click on Capture, draw a rectangle around the image that you want to capture.

**Thumbnail Preview:**

Secure Recording Mode. Image not captured.

Coordinates:

Left (X1)    9

Top (Y1)    1

Right (X2)    276

Bottom (Y2)    512

How long would you like to wait before you start comparing the screen (in seconds)?    0

How long would you like to wait before you stop comparing the screen (in seconds)?    5

If the screen does not change in specified time:

Continue with next action in the Task

Stop the Task

Press F2 to insert variable.    Save    Cancel

## 関連トピック

- [Loop \(ループ\) コマンド](#)
- [Pause \(一時停止\) コマンド](#)
- [Run Task \(タスクを実行\) コマンド](#) • [Stop Task \(タスクを停止\) コマンド](#) • [Email Automation \(メールの自動化\) コマンド](#)

このコマンドを使用すると、Automation Anywhere の TaskBot/MetaBot ロジックで、メールメッセージが自動的に管理されます。

### 概要

Email Automation (メールの自動化) コマンドを使用すると、メールサーバー機能を自動化し、受信したメールメッセージの処理を効率的に行うことができます。具体的には、次のアクティビティを自動化できます。

- 受信したメールを管理して、特定のフォルダーに添付ファイルをダウンロードします。
- 迷惑メールを消去します。
- メールサーバーと通信して、メールアクティビティを監視します。
- メールデータ ([Subject] (件名)、[Message] (メッセージ)、[From:] (送信者)、[To:] (送信先)、[CC:]、添付ファイルなど) を、アプリケーション (Excel、Word、Notepad など) またはコンピューター上のフォルダーに抽出します。
- IMAP または POP3 サーバーのどちらかを選択します。
- メールメッセージをダウンロードする際、ステータス ([All] (すべて)、[Read] (既読)、[Unread] (未読)) に基づいて整理します。
- メールメッセージのフォーマットを HTML またはプレーンテキストのいずれかから選択します。


### サブコマンド

Email Automation (メールの自動化) コマンドには、次のサブコマンドが用意されています。

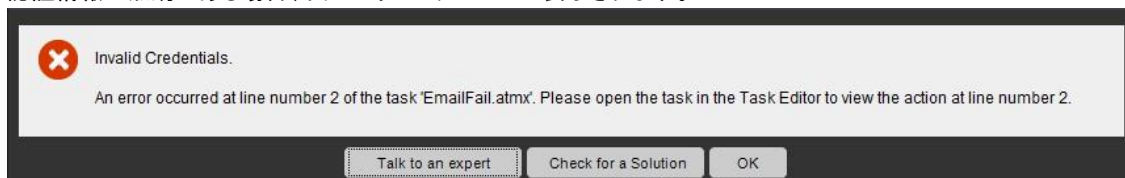
- Get All Messages (すべてのメッセージを取得)
- Delete All Messages (すべてのメッセージを削除) • Delete Message (メッセージを削除) サブコマンドを使用する

TaskBot/MetaBot ロジックに Email Automation (メールの自動化) コマンドを挿入するには、次の手順を実行します。

1. Email Automation (メールの自動化) コマンドの 1 つをダブルクリックするか、[Task Actions List] (タスクアクションリスト) ペインまでドラッグします。Email Automation (メールの自動化) ウィンドウが表示されます。
2. [Email Server Details] (メールサーバーの詳細) フィールドで、メールサーバーの情報を指定します。ホスト名、ユーザー名、パスワードを入力します。

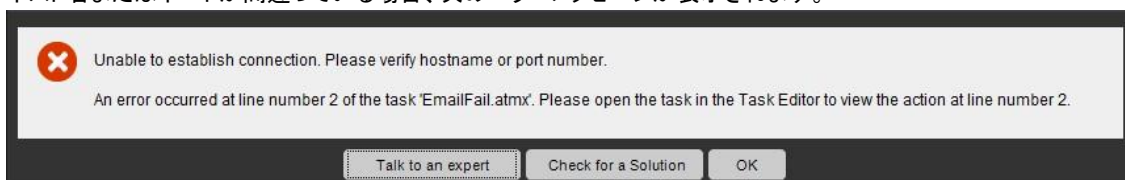
 ヒント: セキュリティ強化のためにファンクションキー「F2」を押して、リストにある Credential Variables\*を入力できます。詳しくは[こちら](#)を参照してください。

認証情報が無効である場合、次のエラーメッセージが表示されます。



安全に接続するために、任意で [Server uses secure connection (SSL)] (サーバーは安全な接続 (SSL) を使用する) チェックボックスにチェックを入れます。

3. サーバーの種類を選択します。メールサーバーの環境に応じて、IMAP と POP3 のどちらかを選択します。ホスト名またはポートが間違っている場合、次のエラーメッセージが表示されます。



4. メールステータスを選択します ([All] (すべて)、[Read] (既読)、[Unread] (未読))。
5. メッセージのフォーマットを選択します。メッセージは HTML またはプレーンテキストのフォーマットでダウンロードできます。
6. 任意でメールデータをダウンロードする場所を指定します。
7. [Save] (保存) をクリックして自動化 TaskBot/MetaBot Logic にコマンドを保存します。

Get All Messages (すべてのメッセージを取得) コマンド

このコマンドを使用すると、すべての受信メールをメールサーバーからコンピューター上の指定したフォルダーにダウンロードできます。

**Email Automation** ?

Select Option :

Get All Messages (Leaves messages on server)  
 Delete All Messages     Delete Message

Email Server Details :

Host Name :   
 e.g. mail.Myisp.com    **TIP** : Press F2 to insert variable.

User Name :   
 e.g. user@Myisp.com    **TIP** : Press F2 to insert variable.

Password :   
**TIP** : Press F2 to insert variable.

Server uses secure connection (SSL)

Server Type :

IMAP     POP3

Port Number :  **Use Default**  
**TIP** : Press F2 to insert variable.

All     Read     Unread

Message Format :  HTML     Plain Text

Save attachment in  
 ...  
 eg. C:\Myfolder\    **TIP** : Press F2 to insert variable.

Save    Cancel

次のスクリーンショットは、POP3 サーバーから HTML フォーマットでメッセージをダウンロードする場合を示しています。

**Email Automation** ?

Select Option :

Get All Messages (Leaves messages on server)  
 Delete All Messages     Delete Message

Email Server Details :

Host Name :   
 e.g. mail.Myisp.com    **TIP** : Press F2 to insert variable.

User Name :   
 e.g. user@Myisp.com    **TIP** : Press F2 to insert variable.

Password :   
**TIP** : Press F2 to insert variable.

Server uses secure connection (SSL)

Server Type :

IMAP     POP3

Port Number :  **Use Default**  
**TIP** : Press F2 to insert variable.

Message Format :  HTML     Plain Text

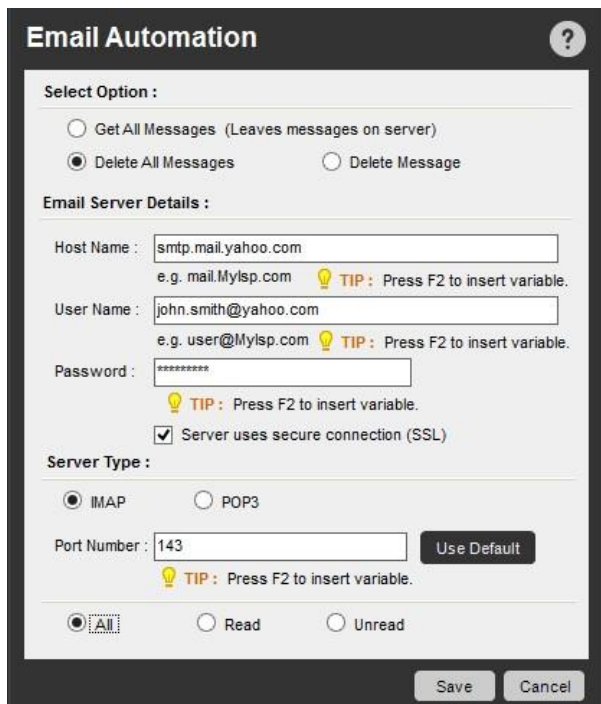
Save attachment in  
 ...  
 eg. C:\Myfolder\    **TIP** : Press F2 to insert variable.

Save    Cancel

Delete All Messages(すべてのメッセージを削除)コマンド

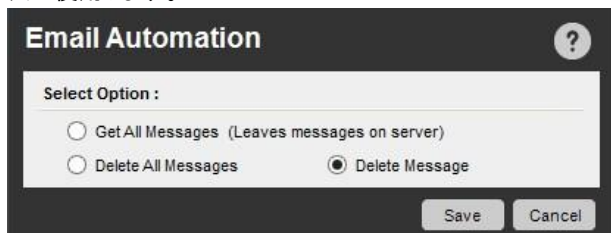
このコマンドを使用すると、メールサーバーからすべてのメールメッセージが削除されます。





#### Delete Message (メッセージを削除)コマンド

このコマンドを使用すると、受信トレイから最新のメールメッセージが削除されます。Loop コマンドを Email Automation (メールの自動化) コマンドと共に使用します。



### 関連トピック

- [Email Automation \(メールの自動化\) コマンド](#) • [サンプル](#) • [Database \(データベース\) コマンド](#) • [Excel コマンド](#)
- [Loop \(ループ\) コマンド](#)
- [PDF Integration \(PDF 統合\) コマンド](#)
- [Read from CSV-Text \(CSV / テキストから読み取る\) コマンド](#)
- [Terminal Emulator \(ターミナルエミュレーター\) コマンド](#) • [XML コマンド](#)

#### Error Handling (エラー処理) コマンド

このコマンドを使用すると、TaskBot/MetaBot ロジックの実行中に発生したエラーを処理でき、TaskBot/MetaBot ロジックのデバッグに役立ちます。概要

Error Handling (エラー処理) コマンドを使用すると、TaskBot/MetaBot ロジックの実行中に発生したエラーを特定できます。

エラーが発生した場合、エラーの後で TaskBot/MetaBot ロジックの実行を継続することも停止することも可能です。

#### サブコマンド

Error Handling (エラー処理) コマンドには、次のサブコマンドが用意されています。

- [Begin Error Handling \(エラーの処理を開始\)](#) • [End Error Handling \(エラーの処理を終了\)](#)



## Error Handling ?

**Select Error Handling Command :**

Begin Error Handling       End Error Handling

**Select Error Handling Action :**

Continue       Stop Task

**Select Error Handling Options :**

Take Snapshot  
 File Path :  ...  
TIP : Press F2 to insert variable.

Run Task  
 Select Task :  ...  
TIP : Press F2 to insert variable.

Log Data into File  
 Log File :  ...  
TIP : Press F2 to insert variable.

Text :  ...  
TIP : Press F2 to insert variable.

Add Timestamp       Append into Log file

Send Email  
 Email :  ...  
TIP : Press F2 to insert variable.

From :  ...  
TIP : Press F2 to insert variable.

Attach Snapshot       Attach Variable

Variable Assignment  
 Specify Variable :      Specify Value :  
 Assign Value :  =   
TIP : Press F2 to insert variable.

Set Task Status :

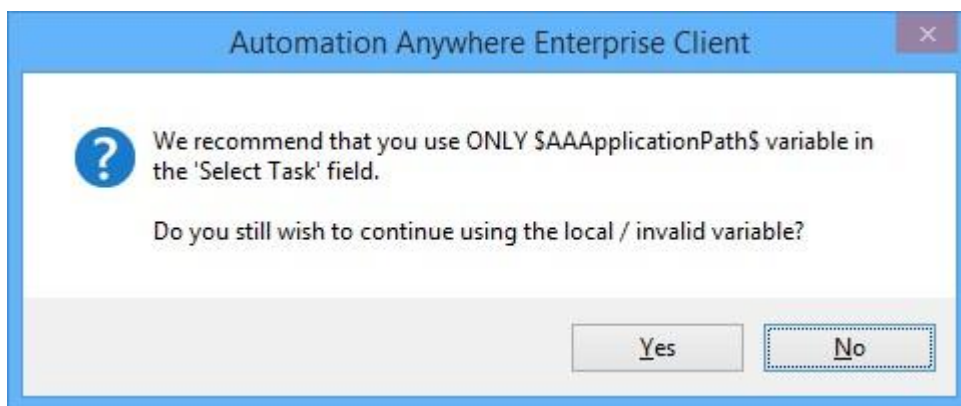
  

### エラーの処理オプション


Automation Anywhere には、エラーの発生時に以下のようにエラーの処理を行うオプションがあります。

1. Take Snapshot(スナップショットを取得) : エラーが発生した場合にスクリーンのスナップショットを取得します。
2. Run Taskbot/MetaBot Logic (TaskBot/MetaBot Logic を実行) : 現在の TaskBot/MetaBot Logic でエラーが発生した場合、別の TaskBot/MetaBot Logic を実行します。

Control Room からデプロイされたタスクの失敗を防ぐには、[Select Task](タスクを選択)フィールドで、変数\$AAApplicationPath\$を使用し、他のユーザー定義変数は使用しないでください。他のユーザー定義変数を使用した場合、次のエラーが表示されます。



3. Log data into file (データのログをファイルに記録): エラーのログをファイルに記録します。
  - たとえば、エラー行番号および説明をログに記録して、システム変数 \$ErrorLineNumber\$ と \$ErrorDescription\$ を使用することができます。
4. Send Email (メールを送信): エラーが発生した時にメールを送信します。[Attach Snapshot] (スナップショットを添付) や [Attach Variable] (変数を添付) を任意で選択できます。[Tools] (ツール) > [Options] (オプション) > [Email Settings] (メール設定) で、メールを設定できます。
  - [Attach Snapshot] (スナップショットを添付) を選択すると、スクリーンのスナップショットがメールに添付されます。
  - [Attach Variable] (変数を添付) を選択すると、すべての変数 (システム変数、ユーザー定義変数) の値を記載したテキストファイルがメールに添付されます。

 備考: 値の入力は動的であるため、システム変数 ExcelCell が添付されることはありません。

5. Variable Assignment (変数の割り当て): エラーの処理アクションに応じて、変数と [Set Task Status Pass] (タスクステータスを成功に設定) または [Set Task Status Fail] (タスクステータスを失敗に設定) に割り当てる値を指定します。
  - これは、タスクの実行を継続し、特定の値を特定の变数に設定する場合に便利です。

これらの 4 つのオプションをすべて使用するか、いずれかを組み合わせて使用します。たとえば、タスクを実行して、データのログをファイルに記録できます。

[Begin Error Handling] (エラーの処理を開始) オプションのいずれかを選択すると、[End Error Handling] (エラーの処理を終了) が自動的に Workbench に挿入されます。ただし、関連するアクションの完了時に [End Error Handling] (エラーの処理を終了) アクションを指定することもできます。

セキュアレコーディングが [有効] の場合

「Secure Recording mode」が [Enable] (有効) の時に、[Take Snapshot] (スナップショットを撮る) オプションをクリックして、コマンドを保存すると、警告が表示されます。

## Error Handling

**Select Error Handling Command :**

Begin Error Handling       End Error Handling

**Select Error Handling Action :**

Continue       Stop Task

**Select Error Handling Options :**

Take Snapshot

File Path :  ...

(Optional) **TIP :** Press F2 to insert variable.

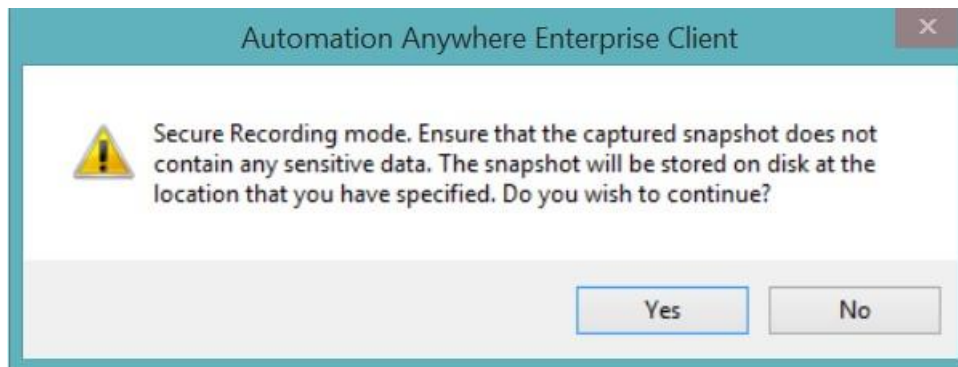
Run Task

Log Data into File

Send Email

Variable Assignment

Set Task Status :  ▾



続行する場合は[Yes](はい)をクリックすると、コマンドが保存されます。[No](いいえ)をクリックすると、コマンドに戻り、そこでコマンドを「キャンセル」できます。詳しくは[こちらを参照してください](#)。

### 関連トピック

- [Variable Manager\(変数マネージャー\)を使用する](#) • [変数を使用する](#) • [値型変数](#)
- [システム変数](#)
- [Variable Operation\(変数処理\)コマンド](#)

### Excel コマンド

このコマンドを使用すると、Microsoft Excel スプレッドシート間でデータを転送できます。

### 概要

Excel コマンドは Automation Anywhere で最も強力なコマンドの 1 つです。Microsoft Excel は現在、世界で最も使用されているアプリケーションの 1 つです。スプレッドシートを使用する必要がある処理のほとんどは、自動化できる反復的なタスクを必要とします。

世界中の会社で多くの Excel 自動化が実際に使用されています。以下は一般的な使用事例の一部です。

- 1 つの Excel スプレッドシートから別の Excel スプレッドシートにデータをコピーする。
- アプリケーションのデータを Excel スプレッドシートに抽出する。

- Web サイトのデータを Excel スプレッドシートに抽出する。
- Excel スプレッドシートから別のアプリケーションにデータを移動する。
- Microsoft Access から Excel にデータを転送する。
- Web サイトのフォームに Excel のデータを転送する。
- Excel の行または列を削除する。
- Excel スプレッドシートにある 2 つの列またはセルを比較する。
- Excel スプレッドシートのデータを並べ替えて、重複する行を削除する。

完全なエンドツーエンドのプロセスの一部として Excel マクロを実行することもできます。

 備考: Excel コマンドは Microsoft Office 2000 以降でのみサポートされます。

### サブコマンド

Excel コマンドには、次のサブコマンドが用意されています。

- [Open Spreadsheet\(スプレッドシートを開く\)](#)
- [Close Spreadsheet\(スプレッドシートを閉じる\)](#) • [Activate Sheet\(シートを有効にする\)](#) • [Get Cell\(セルを取得\)](#) • [Set Cell\(セルを設定\)](#)
- [Go To Cell\(セルに移動\)](#)
- [Run Excel Macro\(Excel マクロを実行\)](#) • [Delete Cells\(セルを削除\)](#)
- [Save Spreadsheet\(スプレッドシートを保存\)](#) • [Find/Replace\(検索/置換\)](#)


### Open Spreadsheet(スプレッドシートを開く)コマンド

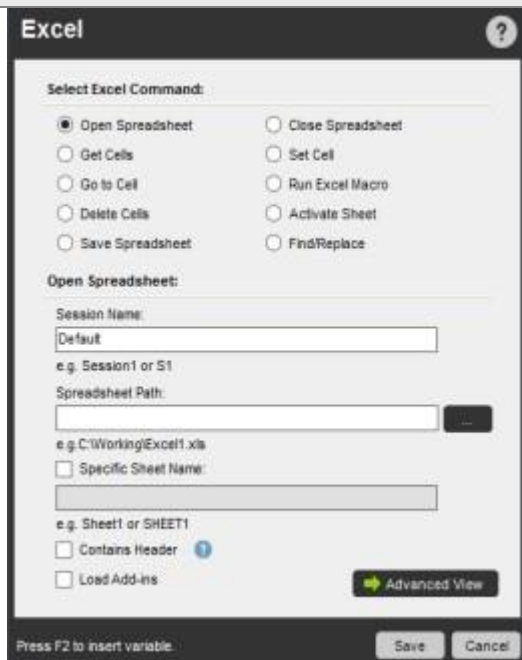
Excel スプレッドシートを開くには、このコマンドを使用します。TaskBot/MetaBot ロジックに大量のスプレッドシートやワークブックの処理が伴う場合は、セッション名、シート名の指定、読み取り専用または編集権限を持つユーザー用のパスワードの指定までできます。見出しのあるスプレッドシートからもデータを取得します。

Contains Header(ヘッダーを含む)オプションを有効にする - 1 番目の行に見出しがあるスプレッドシートのセルからデータを検索/取得できます。Open Spreadsheet(スプレッドシートを開く)でこのオプションを有効にして、特定のセッションに関連するサブコマンドに適用できます。

詳しくは、「[Excel コマンド- Contains Header\(ヘッダーを含む\)](#)」を参照してください。

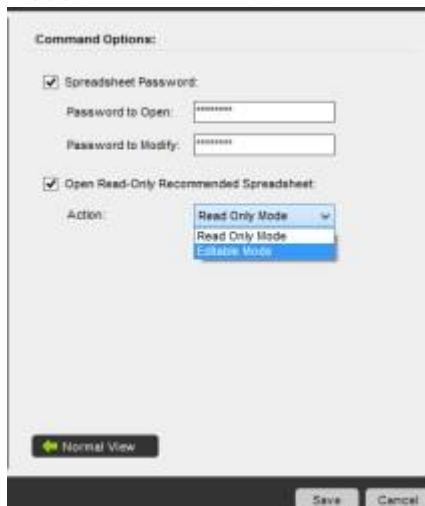
- Excel Cell システム変数 - [Contains Header](ヘッダーを含む)オプション専用であるため、Excel 処理(Get Cells(セルを取得)、Set Cell(セルの設定)、Go to Cell(セルへ移動)、Find/Replace(検索/置換)、Delete Cells(セルの削除))の設定時に使用することをおすすめします。

 備考: 8.1 以前のバージョンで作成された自動化タスクについては、[Contains Header](ヘッダーを含む)は Get Cells コマンドにのみ適用可能でした。そのため、それらのタスクを正しく実行させるために、コマンドを再設定することをおすすめします。




Spreadsheet Password(スプレッドシートのパスワード) - [Password](パスワード)オプションは[Advanced View](詳細表示)で有効にできます。

[Spreadsheet Password] (スプレッドシートのパスワード) オプションを有効にすると、パスワードで保護されたスプレッドシートやワークブックを開いて編集することができます。スプレッドシートを開くパスワードや変更するパスワードを指定します。



パスワードに変数を割り当てることもできます。指定されたパスワードは暗号化されるため安全です。セキュリティ強化のため\*、ファンクションキー「F2」をクリックして、ローカル変数または「Credential Variable」を指定することもできます。詳しくは[こちら](#)を参照してください。

\*バージョン 10.3 以降の Enterprise エディションにのみ適用可能

 備考: [Spreadsheet Password] (スプレッドシートのパスワード) オプションを有効にする時、[Open Read-Only Recommended Spreadsheet]

(読み取り専用が推奨されるスプレッドシートを開く) オプションで表示される [Read Only] (読み取り専用) モードまたは [Editable] (編集可能) モードのどちらかを必ず指定してください。

Open Read-Only Recommended Spreadsheet (読み取り専用が推奨されるスプレッドシートを開く) - [Open Read-Only Recommended Spreadsheet] (読み取り専用が推奨されるスプレッドシートを開く) を単独で選択して、[Read Only] (読み取り専用) モードまたは [Editable] (編集可能) モードでスプレッドシートを開くこともできます。

- たとえば、パスワードで保護されていて読み取り専用であるスプレッドシートについては、[Password to Open] (開くためのパスワード) を指定するとともに、[Read Only] (読み取り専用) モードを選択する必要があります。
- ただし、「開く」ためのパスワードおよび「変更する」ためのパスワードを指定する場合、必要に応じて、[Read Only] (読み取り専用) モードまたは [Editable] (編集可能) モードでスプレッドシートを開くことができます。

Close Spreadsheet (スプレッドシートを閉じる) コマンド

このコマンドは、Open Spreadsheet (スプレッドシートを開く) コマンドを補完するために使用されます。Open Spreadsheet (スプレッドシートを開く) コマンドを使用して開かれたスプレッドシートを閉じます。このコマンドは、Open Spreadsheet (スプレッドシートを開く) コマンドで指定されたセッション名を使用して、スプレッドシートを特定します。



### Activate Sheet(シートを有効にする)コマンド

このコマンドを使用すると、開いているワークブックの特定のスプレッドシートを有効にできます。



**Excel** ?

Select Excel Command:

- Open Spreadsheet
- Close Spreadsheet
- Get Cells
- Set Cell
- Go to Cell
- Run Excel Macro
- Delete Cells
- Activate Sheet
- Save Spreadsheet
- Find/Replace

Activate Spreadsheet:

Session Name:  
  
 e.g. Session1 or S1

Sheet by Index  
  
 e.g. 1 or 3

Sheet by Name  
  
 e.g. Original

Press F2 to insert variable. Save Cancel

### Get Cells(セルを取得)コマンド

このコマンドを使用すると、Active Cell または特定のセルに加えて、Open Spreadsheet(スプレッドシートを開く)コマンドによって開かれたスプレッドシートのセル範囲の値を取得できます。Active Cell または特定のセルの値を取得する時、変数に値を割り当てることができます。



**Excel** ?

Select Excel Command:

- Open Spreadsheet
- Close Spreadsheet
- Get Cells
- Set Cell
- Go to Cell
- Run Excel Macro
- Delete Cells
- Activate Sheet
- Save Spreadsheet
- Find/Replace

Get Cells:

Get Single Cell  Get Multiple Cells

Get All Cells

Session Name:  
  
 e.g. Session1 or S1

Active Cell  
 Specific Cell  
  
 e.g. A5 or B10

Assign value of cell to variable:

Press F2 to insert variable. Save Cancel

複数のセルの値を取得する時、値は \$ExcelColumn(index)\$システム変数を使用します。この変数を後続のコマンドで使用して、たとえば、スプレッドシートの各行をループさせることができます。

### Set Cells(セルを設定)コマンド

このコマンドを使用すると、Open Spreadsheet(スプレッドシートを開く)コマンドによって開かれた Excel スプレッドシートの Active Cell または特定のセルの値を設定できます。変数を使用してセルの値を割り当てることもできます。



**Excel**

Select Excel Command:

Open Spreadsheet     Close Spreadsheet

Get Cells     Set Cell

Go to Cell     Run Excel Macro

Delete Cells     Activate Sheet

Save Spreadsheet     Find/Replace

Set Cell:

Session Name:  
Default  
e.g. Session1 or S1

Active Cell  
 Specific Cell

e.g. A5 or B10

Cell Value:  
Original  
e.g. Original

Press F2 to insert variable.    Save    Cancel

#### Go to Cell(セルに移動)コマンド

特定のセルに移動するには、このコマンドを使用します。移動のオプションには以下のものがあります。

- 1つのセルを Active Cell の右または左に移動する
- 1つのセルを Active Cell の上または下に移動する
- Open Spreadsheet(スプレッドシートを開く)コマンドによって開かれたスプレッドシート内で、行または列の先頭または末尾に移動する

備考: Active Cell では、行/列の末尾は、「データの行/列の末尾」を指しており、スプレッドシートの行/列の末尾を指すものではありません。

**Excel**

Select Excel Command:

Open Spreadsheet     Close Spreadsheet

Get Cells     Set Cell

Go to Cell     Run Excel Macro

Delete Cells     Activate Sheet

Save Spreadsheet     Find/Replace

Go to Cell:

Session Name:  
Default  
e.g. Session1 or S1

Specific Cell

e.g. A5 or B10

One cell to left     One cell to right

One cell above     One cell below

Beginning of the row     End of the row

Beginning of the column     End of the column

Press F2 to insert variable.    Save    Cancel

#### Run Excel Macro(Excel マクロを実行)コマンド

このコマンドを使用すると、Open Spreadsheet(スプレッドシートを開く)コマンドによって開かれた Excel スプレッドシート内に保存されている Excel マクロを実行できます。





**Excel** ?

Select Excel Command:

Open Spreadsheet     Close Spreadsheet  
 Get Cells     Set Cell  
 Go to Cell     Run Excel Macro  
 Delete Cells     Activate Sheet  
 Save Spreadsheet     Find/Replace


Run Excel Macro:

Session Name:  
  
 e.g. Session1 or S1

Macro Name:  
  
 e.g. ConvertData

Macro Arguments (Optional):  
  
 e.g. Arg1,Arg2,Arg3

Press F2 to insert variable.   

 **備考:** Automation Anywhere では、ローカルマクロとグローバルマクロをシームレスに実行できるようになりました。

#### Delete Cells(セルを削除)コマンド

このコマンドを使用すると、Open Spreadsheet(スプレッドシートを開く)コマンドによって開かれた Excel スプレッドシート内の Active cell または特定のセルの値を削除できます。



**Excel** ?

Select Excel Command:

Open Spreadsheet     Close Spreadsheet  
 Get Cells     Set Cell  
 Go to Cell     Run Excel Macro  
 Delete Cells     Activate Sheet  
 Save Spreadsheet     Find/Replace

Delete Cells:

Session Name:  
  
 e.g. Session1 or S1

Active Cell  
 Specific Cell

e.g. A5 or B10

Delete Options

Shift cells left     Shift cells up  
 Entire row     Entire column

Press F2 to insert variable.   

#### Save Spreadsheet(スプレッドシートを保存)コマンド

このコマンドを使用すると、開かれたワークブックのスプレッドシートが保存されます。



**Excel** ?

Select Excel Command:

Open Spreadsheet       Close Spreadsheet  
 Get Cells                       Set Cell  
 Go to Cell                       Run Excel Macro  
 Delete Cells                       Activate Sheet  
 Save Spreadsheet               Find/Replace


Save Spreadsheet:

Session Name:  
  
 e.g. Session1 or S1

Press F2 to insert variable.           

### Find/Replace (検索／置換)コマンド

このコマンドを使用すると、開かれたワークブック内のスプレッドシートのデータを検索して置換できます。特定の検索オプションを使用してセル範囲を指定できます。



**Excel** ?

Select Excel Command:

Open Spreadsheet       Close Spreadsheet  
 Get Cells                       Set Cell  
 Go to Cell                       Run Excel Macro  
 Delete Cells                       Activate Sheet  
 Save Spreadsheet               Find/Replace

Find/Replace:

From:       Till:   
 e.g. A5 or B10

Session Name:  
  
 e.g. Session1 or S1

Find:

Search Options

By Rows                       Match case  
 By Column                       Match entire cell contents

Replace with

Assign cell addresses to variable:

Press F2 to insert variable.           

### Load Add-ins (アドインを読み込む)オプションを使用する

アドインが必要な Excel スプレッドシートを開く時にこのオプションを使用します。

### サブコマンドを使用する

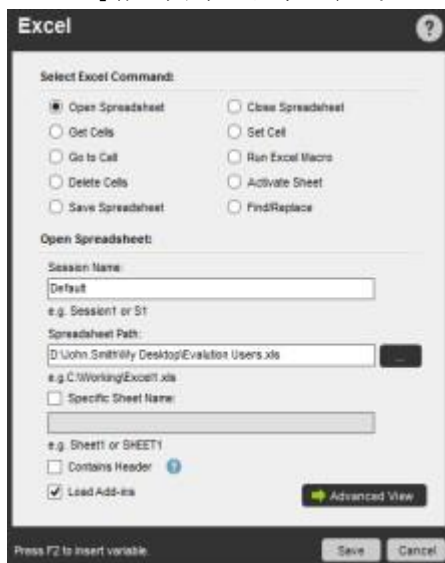
TaskBot/MetaBot ロジックに Excel コマンドを挿入するには、次の手順を実行します。

1. Excel コマンドの 1 つをダブルクリックするか、[Task Actions List] (タスクアクションリスト) ペインまでドラッグします。[Excel] ウィンドウが表示されます。
2. 各フィールドで必要なパラメーターを指定します。
3. [Save] (保存) をクリックして自動化 TaskBot/MetaBot Logic にコマンドを保存します。

Excel のデータをメモ帳にコピーする

Excel から選択したセルの内容 (データ) をメモ帳にコピーするには、次の手順を実行します。

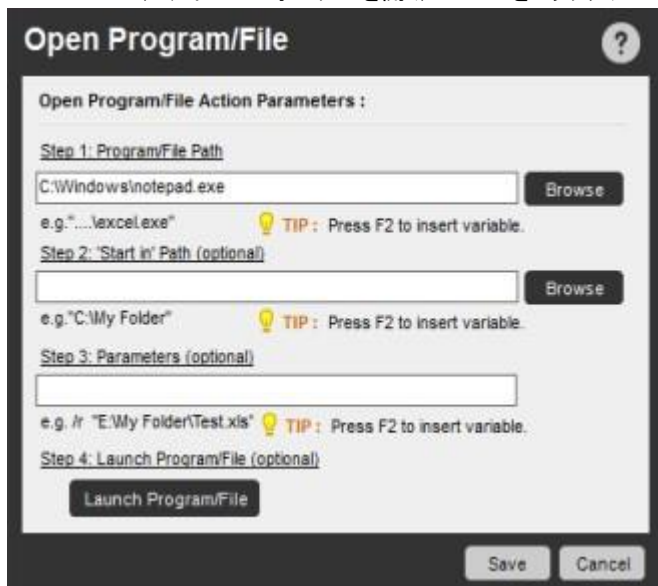
1. Workbench を起動します。
2. [Excel Command] (Excel コマンド) ノードの下にある [Open Spreadsheet] (スプレッドシートを開く) オプションをダブルクリックするか、[Task Actions List] (タスクアクションリスト) ペインにドラッグアンドドロップします。



- a. セッション名およびスプレッドシートのパスを指定します。データが複数のスプレッドシートにわたっている場合には、[Specific Sheet Name] (特定のシート名) オプションを選択します。
  - b. 該当する場合は、[Load Add-in] (アドインを読み込む) オプションも選択します。
  - c. [保存] をクリックします。
3. Excel コマンドの下にある [Get Cell] (セルを取得) オプションをドラッグアンドドロップするかダブルクリックして、セルのデータをコピーします。



- a. スプレッドシートから複数のセルをコピーするには、[Get Multiple Cells] (複数のセルを取得) オプションを選択し、セッション名およびセル範囲を [From Specific Cell] (特定のセルから) および [To Specific Cell] (特定のセルまで) で指定します。
  - b. [Save] (保存) をクリックします。
- 次の手順では、セルのコピー先となるアプリケーションが開かれます。
5. Open File/Folder (ファイル/フォルダーを開く) コマンドをドラッグアンドドロップするかダブルクリックします。



- a. ファイル名を指定するか、**Browse** をクリックして特定のパスを選択します。
  - b. ['Start in' Path] (「開始」パス) を入力したり、[Parameters] (パラメーター) および [Launch Program/File] (プログラム/ファイルを起動) を設定したりすることもできます。
  - c. [Save] (保存) をクリックします。
- この時点で、[Open Spreadsheet] (スプレッドシートを開く) セッションで指定したスプレッドシートの各行がコピーされるように loop を挿入する必要があります。
6. Loop (ループ) コマンドをドラッグアンドドロップするかダブルクリックします。



**Loop**

Select Loop Command :

Start Loop    End Loop    Exit Loop    Continue

Loop For :

Times     List / Select Variable

**TIP** : Press F2 to insert variable.

Condition

Each row in an Excel dataset

Each row in an Internet Explorer Table    Each row in a SQL query dataset

Each file in a folder    Each folder in a folder

Each row in a CSV/Text file    Each node in an XML dataset

Each email message on server

Session Name :


**TIP** : Press F2 to insert variable.

Save   Cancel

a. [Each Row in an Excel Dataset] (Excel データセットの各行) を選択して保存します。

• ここで、コピーされたデータを変数に割り当てます。

7. Insert Keystroke (キーボード操作の挿入) コマンドをドラッグアンドドロップするかダブルクリックします。



**Insert Keystrokes**

Select Window:  Refresh

Keystrokes:

<< Insert >>

Insert Variable:

- Excel Cell
- Excel Cell Column
- Excel Cell Row
- Excel Column**
- Extension
- Filedata Column
- FileName
- FolderName
- Mouse

Encrypt Keystrokes   Delay:  ms

Special Keystrokes: Use this to enter special keystrokes. For all other keystrokes, simply type in the text box above.

Esc	F1	F2	F3	F4	F5	F6	F7	F8	F9	F10	F11	F12
Tab	Insert	Home	Page Up	Print Screen	Backspace	Num Lock						
Caps Lock	Delete	End	Page Down	Pause	[ \$ ]	Scroll Lock						
Shift Down	Ctrl Down	Win Down	Alt Down	Up Arrow	Left Arrow	Enter						
Shift Up	Ctrl Up	Win Up	Alt Up	Down Arrow	Right Arrow	Right Click						
Alt Gr Down	Alt Gr Up											

Press F2 to insert variable.

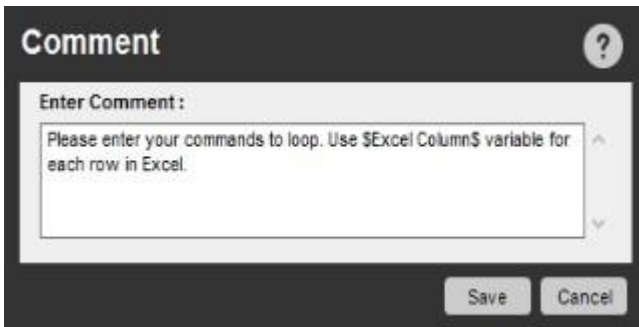
Save   Cancel


a. データのコピー先となるファイルを [Select Window] (ウィンドウを選択) ドロップダウンから選択します。

b. 暗号化を有効にするには、[Encrypt Keystrokes] (キーストロークを暗号化) を選択します。

c. 適切なキーストロークおよび変数を挿入して、[Save] (保存) をクリックします。

8. 以下のコメントを加えて保存します。



 備考: これが loop の終わりを示します。

9. [Close Spreadsheet] (スプレッドシートを閉じる) オプションをドラッグアンドドロップするかダブルクリックします。



- a. [Session Name] (セッション名) を指定します。  
 • 上で作成された TaskBot は次のようになります。



10. TaskBot/MetaBot Logic を保存します。

### 関連トピック

- [Database \(データベース\) コマンド](#)
- [Email Automation \(メールの自動化\) コマンド](#) • [Loop \(ループ\) コマンド](#)
- [OCR コマンド](#)
- [PDF Integration \(PDF 統合\) コマンド](#)
- [Read from CSV-Text \(CSV/テキストから読み取る\) コマンド](#) • [XML コマンド](#)

## Excel コマンド - ヘッダーを含む

Excel 処理を使用して、1 番目の行が見出しとして定義されている Excel スプレッドシートから大量のデータを取得/検索する場合、それぞれの見出しを考慮して行と列を指定する必要があります。

[Contains Header] (ヘッダーを含む) オプションでは、状況に応じてコマンドパラメーターにヘッダーを含めるか除外するかを設定できます。

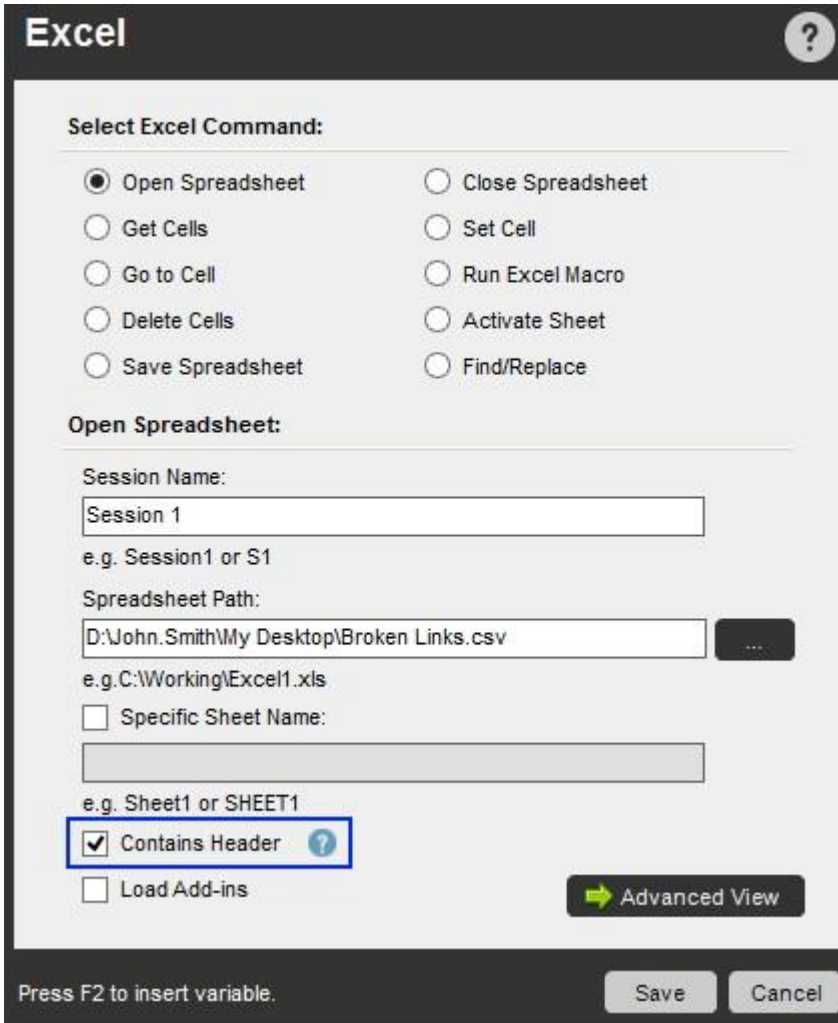
- 見出しのある Excel スプレッドシートのサンプル:

	A	B	C
1	<b>ID</b>	<b>Name</b>	<b>Designation</b>
2	123	John Smith	Product Manager
3	124	Dwane Williams	Support Lead
4	125	Jeremy McCullum	Software Engineer

## Excel 処理における [Contains Headers] (ヘッダーを含む)

[Contains Header] (ヘッダーを含む) では、1 番目の行がヘッダーとして定義されているアクティブなスプレッドシートからデータを検索/取得できます。特定のセッションについて [Open Spreadsheet] (スプレッドシートを開く) でオプションを定義できます。[Open Spreadsheet] (スプレッドシートを開く) での設定に従って、その特定のセッションに対する Excel 処理 (Get Cells、Set Cell (セルの設定)、Go to Cell (セルへ移動)、Find/Replace (検索/置換)、Delete Cell (セルの削除)) に適用されます。

新しい列の挿入/既存の列の削除などの更新によって、対象の Excel で 1 つ以上の列の位置が変わった場合には、対応する自動化 TaskBot/MetaBot ロジックもその変更に対応するために更新される必要があります。[Contains Header] (ヘッダーを含む) を使用すると、TaskBot/MetaBot Logic を有効にして、対象の Excel スプレッドシートにおける列の再配置が自動的にマッピングされます。



**Excel** ?

**Select Excel Command:**

Open Spreadsheet       Close Spreadsheet  
 Get Cells       Set Cell  
 Go to Cell       Run Excel Macro  
 Delete Cells       Activate Sheet  
 Save Spreadsheet       Find/Replace

**Open Spreadsheet:**

Session Name:  
  
 e.g. Session1 or S1

Spreadsheet Path:  
 ...  
 e.g. C:\Working\Excel1.xls

Specific Sheet Name:  
  
 e.g. Sheet1 or SHEET1

Contains Header ?  
 Load Add-ins

**Advanced View**

Press F2 to insert variable.      Save      Cancel


## Excel Cell 変数 - [Contains Header] (ヘッダーを含む) オプションで必須

[Contains Header] (ヘッダーを含む) を設定する時、システム変数 - Excel Cell を使用できます。この変数は、[Contains Header] (ヘッダーを含む) 専用です。



Excel				(This category contains Excel related variables.)
Excel Cell	Excel Cell	String		Use in Excel operation like Set Cell, Delete Cells, Go to Cell when contains header option is set to indicate column name and position of the cell from the header or in the column value.
Excel Cell Column	Excel Cell Column	Column		Returns the column of the Excel on which the operation has been performed.
Excel Cell Row	Excel Cell Row	Row		Returns the row of the Excel on which the operation has been performed.

Excel コマンドの Get Cells(セルの取得)、Set Cell(セルの設定)、Go to Cell(セルへ移動)、Find/Replace(検索/置換)、Delete Cell(セルの削除)の設定時に Excel Cell を使用します。再生中に、その変数によって列名とヘッダーからのセルの位置が示されます。定義されたセルに対して列参照が行われます。たとえば、[Contains Header](ヘッダーを含む)が有効にされている場合、A5 と定義されたセルは、行 A、列 6 を指します。

 備考: 変数で定義された文字列は、完全に一致する必要があります。たとえば、見出しが「Id」の各セル/指定されたセルからデータを検索/取得する場合、システム変数\$Excel Cell(Id,2)\$を使用します。「\$ExcelCell(id,2)\$」または「\$ExcelCell(<space>Id<space>),2\$」のような変数は無効とされます。

この変数を使用する時に[Open Spreadsheet](スプレッドシートを開く)コマンドを設定しなかった場合、再生中にプログラムで次のエラーが発生します - 「Excel Cell 変数を有効にするには、Open Spreadsheet(オープンスプレッドシート)コマンドを設定してください。」変数について詳しくは、「[Excel システム変数](#)」を参照してください。

[Contains Header](ヘッダーを含む)の場所と方法

Excel 処理に[Contains Header](ヘッダーを含む)オプションを適用できます。

1. Open Spreadsheet(スプレッドシートを開く) - [Contains Header](ヘッダーを含む)オプションはここで指定されたセッションに設定されるため、このサブコマンドでコントロールされます。その結果として Excel 処理では、このコマンドで指定されたセッションでオプションが選択されているかどうかを考慮されます。そのために、このコマンドを必ず設定する必要があります。


参照ポイント:

- 自動化の実行時に複数のスプレッドシートを開く場合、プログラムではスプレッドシートの最後のアクションが考慮されます。つまり、セッション 1 で[Contains Header](ヘッダーを含む)が有効にされていて、セッション 2 では有効にされていない場合、その結果のコマンドでは、[Contains Header](ヘッダーを含む)が有効な特定のセッション(この場合はセッション 1)を指定しない限り、[Contains Header](ヘッダーを含む)が有効にされないということになります。
- スプレッドシートでヘッダー名/内容が重複している場合、プログラムでは最初に現れたヘッダー名/内容が考慮されます。
- 無効な値やヘッダー行の不一致がある場合、プログラムの再生中にエラーが発生します。
- 列タイトルにはアルファベットを最大 3 つまで入力できます(例:ABC)。それ以上入力すると、次のエラーが発生します。[Check the value specified in the Column Title. You can input up to 3 alphabets only.](列タイトルに指定した値を確認してください。入力できるアルファベットは 3 つまでです)

2. Get Cells - [Get Single Cell](1 つのセルを取得)または[Get Multiple Cells](複数のセルを取得)パラメーターは、次のように[Specific Cell](特定のセル)、[From Specific Cell](特定のセルから)、[To Specific Cell](特定のセルまで)テキストボックスに Excel Cell 変数を含めます。



変数には、セルの見出しタイトルを入力します。たとえば、セル範囲が A5 から A10 と指定されていた場合、セル A1 にある見出しタイトルを変数に定義します(この場合は「Id」)。


 備考: 8.1 より前のエディションでは、[Contains Header](ヘッダーを含む)は Get Cells(セルを取得)コマンドのみで適用および使用ができました。[Contains Header](ヘッダーを含む)が有効にされた状態でそのバージョンを使用するタスクを再設定する場合、グレー表示になります。現在のエディションでタスクを正しく実行するには、タスクのコマンドを再設定することをおすすめします。

- Set Cell (セルを設定) - Set Cell (セルを設定) コマンドを設定する時、[Contains Header] (ヘッダーを含む) オプションを [Active Cell] (有効なセル) および [Specific Cell] (特定のセル) パラメーターに適用できます。セルの位置が変わっても、指定されたセルの値が正しく設定されます。

ただし、選択したセルがヘッダーセルだった場合は、セルの値をリセットできません。再生中に次のエラーが発生します。[Thespecifiedcellispartoftheheaderrow.Youcannotsetvalueinitas'ContainsHeader'isenabled.] (指定されたセルはヘッダー行の一部です。[Contains Header] (ヘッダーを含む) が有効にされている時は値を設定できません。)

ヘッダータイトルとして定義されているセルの値を設定することもできません。編集モードの時に [Contains Header] (ヘッダーを含む) オプションが有効になっている場合も同様です。

- Go to Cell (セルに移動) - [Contains Header] (ヘッダーを含む) が有効にされている時、特定のセルまたは Active cell に移動できます。Set Cell (セルを設定) で適用される条件はすべてこちらでも適用されます。

 備考: Automation Anywhere の Excel コマンドでは、[Active Cell > End of the row/column] (アクティブセル > 行/列の末尾) は、「データの行/列の末尾」を指しています。スプレッドシートの行/列の末尾を指すものではありません。

- Delete Cells (セルを削除) - [Contains Header] (ヘッダーを含む) でこのコマンドを使用する場合、ヘッダータイトルが定義されているセル (スプレッドシートの 1 番目の行) を削除できません。Active cell または特定のセルのパラメーターを使用して、ヘッダーとして定義されているセルを指定した場合、再生中に次のエラーが発生します。[Thespecifiedcellispartofaheaderrow.Youcannotdeleteit'as'ContainsHeader'is enabled.] (指定されたセルはヘッダー行の一部です。[Contains Header] (ヘッダーを含む) が有効にされている時は削除できません)
- Find/Replace (検索/置換) - [Contains Header] (ヘッダーを含む) についてこのコマンドを使用する場合、行/列でセルの値を検索できますが、内容の置換ができるのは、ヘッダータイトルとして定義されていないセルのみです。ヘッダーとして定義されているセルを指定した場合、再生中に次のエラーが発生します。[Thespecifiedcellispartofaheaderrow.Youcannotreplaceitsvalueas'ContainsHeader'isenabled.] (指定されたセルはヘッダー行の一部です。[Contains Header] (ヘッダーを含む) が有効にされている時はその値を置換できません)

#### 関連トピック

- [Excel コマンド](#)
- [Excel コマンド例](#) • [Excel システム変数](#)

#### Export Dataset (データセットをエクスポート) コマンド

1 つのソースから大量のデータを抽出する場合は、Workbench で MetaBot Logic の Export Dataset (データセットをエクスポート) コマンドを使用します。1 つのコマンドを使用することで、ソースのさまざまなフィールドのデータを読み込んで、Excel スプレッドシートなどの外部ファイルに保存できます。これを使用して、多数のキーストロークやクリックを伴う操作を回避するロジックを作成できます。

#### サポートされているテクノロジーとコントロール

Export Dataset (データセットをエクスポート) コマンドでは、次のテクノロジーがサポートされます。

1. HTML
2. JAVA
3. MSAA
4. .NET
5. Flex

Export Dataset (データセットをエクスポート) コマンドでは、次のコントロールおよびアクションがサポートされます。

1. 固定テキスト (ラベル) - GetProperty
2. テキストボックス - GetProperty
3. ラジオボタン - GetStatus および GetProperty
4. チェックボックス - GetStatus および GetProperty
5. コンボボックス - GetProperty, GetTotalItems, GetSelectedIndex, GetSelectedText
6. リスト - GetProperty, GetTotalItems, GetSelectedIndex, GetSelectedText
7. ボタン - LeftClick (左クリック)

アプリケーションからデータをエクスポートする

Workbench -> [Commands] (コマンド) で、Export Dataset (データセットをエクスポート) コマンドを設定できます。

1. 必要なアプリケーションを使用してスクリーンを作成します。詳しくは[こちら](#)を参照してください。
2. 必要なパラメーターのスクリーンを設定します。詳しくは[こちら](#)を参照してください。



ヒント: オブジェクトが表示されない場合や、識別できないテキストや数字が表示される場合は、スクリーンの構成時にそのオブジェクトのエイリアスを指定することをお勧めします。詳しくは[こちら](#)を参照してください。

3. Logic Editor で、[Commands] (コマンド) リストから Export Dataset (データセットをエクスポート) を選択します。
4. 変数、テキスト、コントロールの組み合わせを使用して詳細入力を開始します。フィールドに入力しないと次に移動できません。



備考: 自動化の実行用に選択されていないオブジェクトはすべてデフォルトで [Value] (値) 列が無効にされます。

[Value] (値) パラメーターの編集を有効にするには、[Read] (読み取る) を選択します。

### Export Dataset

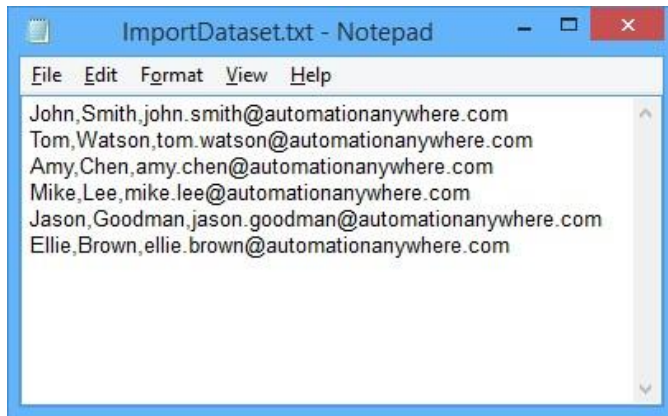
Select 'Read' to extract object value during automation execution [Show Selected](#)

#	Entry Name	Type	Value	Read
1	Order #	StaticText	\$Order-no\$	<input checked="" type="checkbox"/>
2	Inventory Status	StaticText	\$Inventory-Status\$	<input checked="" type="checkbox"/>
3	Payment Status	StaticText	\$Payment-Status\$	<input checked="" type="checkbox"/>
4	Vendor	StaticText	\$Vendor-Name\$	<input checked="" type="checkbox"/>
5	Vendor Address	StaticText	\$Vendor-Address\$	<input checked="" type="checkbox"/>
6	Date	StaticText	\$Date\$	<input checked="" type="checkbox"/>
7	Due Date	StaticText	\$Due-Date\$	<input checked="" type="checkbox"/>
8	Total	TextBox	\$Total\$	<input checked="" type="checkbox"/>
9	Balance	TextBox	\$Balance\$	<input checked="" type="checkbox"/>
10	Sub-Total	TextBox	\$Sub-Total\$	<input checked="" type="checkbox"/>
11	Phone	TextBox	\$Phone-no\$	<input checked="" type="checkbox"/>
12	Contact	TextBox	\$Contact-Name\$	<input checked="" type="checkbox"/>
13	Search	StaticText		<input type="checkbox"/>
14	Order #	TextBox		<input type="checkbox"/>
15	All	TextBox		<input type="checkbox"/>
16	All	TextBox		<input type="checkbox"/>
17	NAMELESS	TextBox		<input type="checkbox"/>
18	Unfulfilled, Unpaid	TextBox		<input type="checkbox"/>
19	NAMELESS	TextBox		<input type="checkbox"/>
20	Order #	StaticText		<input type="checkbox"/>

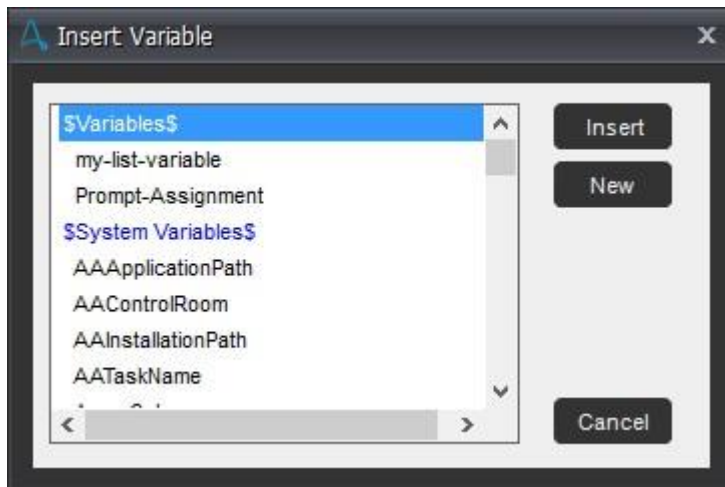
Click 'Unlock' icon to change the execution order

Press F2 to insert variable.

- 変数の直接の割り当て ([Value] (値) への割り当て) または間接の割り当て (次に示すようにテキスト文書からの値の割り当て) のいずれかを使用できます。



- 挿入しても表示されない場合、変数を作成することもできます。[Value] (値) フィールドで F2 を押し、[Insert Variable] (変数を挿入) ダイアログを開きます。[New] (新規) をクリックして変数を作成します。







- Export Dataset (データセットをエクスポート) では、値型変数、ランダム型変数、配列型変数、リスト型変数がサポートされます。



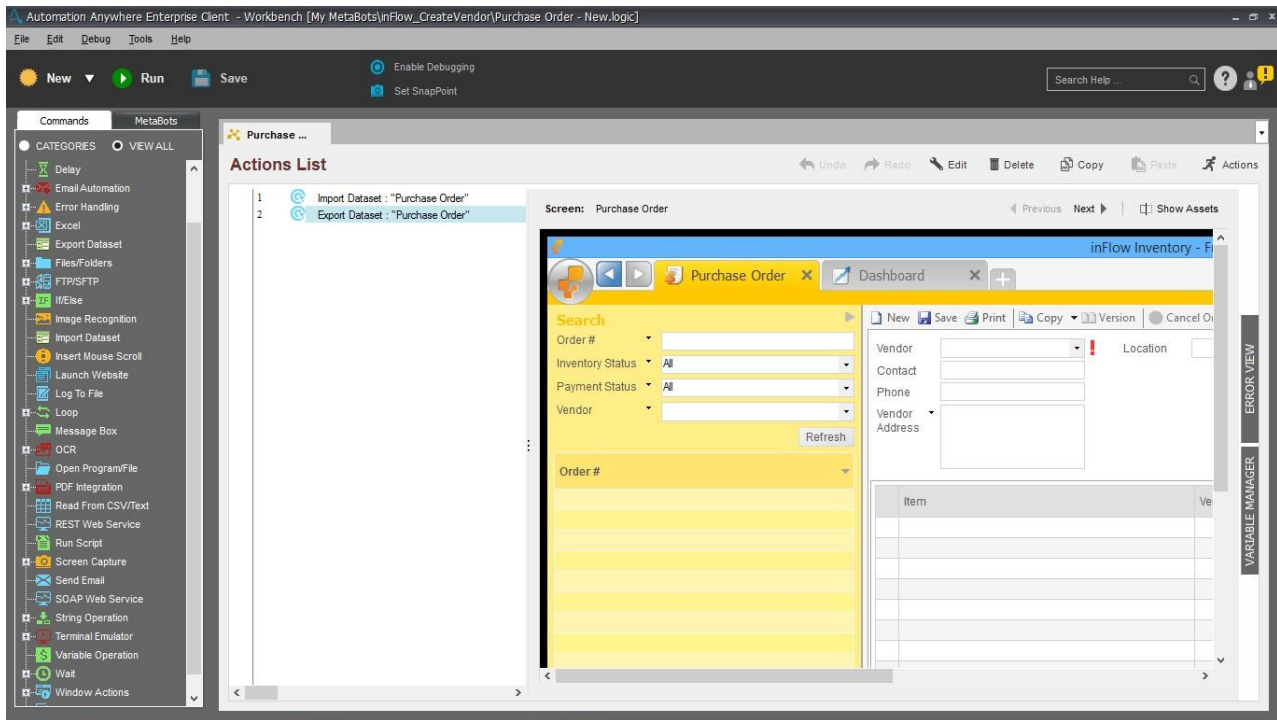
ヒント: 1 つの「エントリ名」に対して複数回入力される「値」をエクスポートするには配列型変数を定義します。詳しくは [こちら](#) を参照してください。

- [Properties] (プロパティ) ウィンドウを使用してオブジェクトの値を挿入することもできます。[Values] (値) フィールドをダブルクリックして起動します。

#	Entry Name	Type	Value	Read										
1	Contact	StaticText	\$Name\$	<input checked="" type="checkbox"/>										
2	 Contact			<input checked="" type="checkbox"/>										
3	Select Action :	GetProperty		<input checked="" type="checkbox"/>										
4	Property Name :	Name		<input checked="" type="checkbox"/>										
5	Select Variable :	Name		<input checked="" type="checkbox"/>										
6	Advanced Options													
	Wait for the object to exist:	15	seconds											
	<input checked="" type="checkbox"/> Show Object Properties													
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>Name</th> <th>Value</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>Object ID</td> <td>label13</td> </tr> <tr> <td>Name</td> <td>Contact</td> </tr> <tr> <td>Value</td> <td></td> </tr> <tr> <td>Class</td> <td>WindowsForms10.S...</td> </tr> </tbody> </table>		Name	Value	Object ID	label13	Name	Contact	Value		Class	WindowsForms10.S...		
Name	Value													
Object ID	label13													
Name	Contact													
Value														
Class	WindowsForms10.S...													
	 TIP : Press F2 to insert variable		Update											

- i. [Select Action] (アクションの選択)でロジックの実行中に必要なアクションを選択します。これは必要に応じて変更できます。
  - ii. [Property Name] (プロパティ名)を選択します。
  - iii. 該当する変数を選択します。
  - iv. [Advanced Options] (詳細オプション)で次を指定します。
    - a. Wait for the object to exist (オブジェクトが表示されるまでの待機時間)。これは必要に応じて変更できます。
    - b. 任意で、コマンドの実行で使用する[Object Properties] (オブジェクトのプロパティ)を表示します。
  - v. 編集モードの場合は[Save] (保存)または[Update] (更新)を選択します。
- デフォルトでは、すべてのフィールドが表示されます。値を挿入するフィールドを選択し、それらを保存した後に編集モードで開くと、そのフィールドのみが表示されます。すべてを表示するには、[Show All] (すべてを表示)をクリックします。
  - 自動化の実行時にオブジェクトの値が入力されるシーケンスを変更することもできます。これを行うには、 をクリックする必要があります。これがデフォルトの状態です。シーケンスをロックするには、 をクリックします。ロックするとシーケンスは変更されなくなります。
  - 表示されるデータは[Type] (タイプ)別にフィルターし、[Type] (タイプ)列と[Entry] (入力)列で並べ替えることができます。
5. ロジックにより Export Dataset (データセットをエクスポート)コマンドがイベントデータに反映されます。





## 6. 保存します。



ヒント: [Save] (保存) ボタンは、[Play] (再生) 用に選択されたすべてのオブジェクト値が入力されるまで無効です。

更新されることが多いアプリケーションについては、Export Dataset (データセットをエクスポート) コマンドで使用するスクリーンを較正することをおすすめします。これは、実行中の MetaBot に影響する場合があります。

### File and Folder (ファイルとフォルダー) コマンド

File (ファイル) コマンドと Folder (フォルダー) コマンドを使用して、ファイルやフォルダーの操作に伴う共通の処理を自動化します。

#### 概要

最近では、ほとんどの職業においてファイルやフォルダーをコンピューターシステム上で管理、操作することが求められています。これらの面倒なタスクを自動化することで、組織の効率化につながります。また、自動化によりヒューマンエラーも削減できます。

File (ファイル) コマンドと Folder (フォルダー) コマンドにより、ファイルやフォルダーを作成、開く、コピー、移動、名前を変更、削除、管理の各操作を簡単に自動化できます。

また、File (ファイル) コマンドと Folder (フォルダー) コマンドを使用して、サイズおよび作成日や更新日に基づきファイルやフォルダーを操作する高度な処理を行うことも可能です。

#### サブコマンドを使用する

##### Open File (ファイルを開く) コマンド

既存のファイルを開くには、このコマンドを使用します。

The screenshot shows the 'File/Folders' dialog box. Under 'Files or Folders Command:', the 'File' radio button is selected. Under 'Select Command:', the 'Open File' radio button is selected. The 'Open File Name' field contains the text 'e.g. C:\MyDoc\MyFile.doc' and a 'Browse' button is to its right. A tip icon and text 'TIP: Press F2 to insert variable.' are located below the field. 'Save' and 'Cancel' buttons are at the bottom.

Open Folder(フォルダーを開く)コマンド

既存のフォルダーを開くには、このコマンドを使用します。

The screenshot shows the 'File/Folders' dialog box. Under 'Files or Folders Command:', the 'Folder' radio button is selected. Under 'Select Command:', the 'Open Folder' radio button is selected. The 'Folder' field contains the text 'e.g. C:\MyFolder' and a 'Browse' button is to its right. A tip icon and text 'TIP: Press F2 to insert variable.' are located below the field. 'Save' and 'Cancel' buttons are at the bottom.

Copy Files(ファイルをコピー)コマンド

既存のファイルをコピーするには、このコマンドを使用します。



### File/Folders

**Files or Folders Command:**

File       Folder

**Select Command:**

Copy Files       Rename Files  
 Delete Files       Create File  
 Zip Files       Unzip Files  
 Print File       Print Multiple Files  
 Open File       Create File Shortcut

**Source File(s) :**  
   
 e.g. C:\MyDoc\\*.doc      **TIP :** Press F2 to insert variable.

**Destination File(s) / Folder :**  
   
 e.g. C:\Backup\  
 e.g. C:\Backup\\*.doc

Overwrite Files/Folders

**Command Options :**

--Select Size--    0    KB

**Created Date** ▼

in last     days  
**TIP :** Press F2 to insert variable.

between     Date Format : "MM/DD/YY"  
**TIP :** Press F2 to insert variable.

before     Date Format : "MM/DD/YY"  
**TIP :** Press F2 to insert variable.

Copy Folder(フォルダーをコピー)コマンド

既存のフォルダーをコピーするには、このコマンドを使用します。

### File/Folders

**Files or Folders Command:**

File       Folder

**Select Command:**

Copy Folder       Rename Folder  
 Delete Folder       Create Folder  
 Open Folder       Create Folder Shortcut

**Source Folder :**  
   
 e.g. C:\MyDoc      **TIP :** Press F2 to insert variable.

**Destination Folder :**  
   
 e.g. C:\Backup\      **TIP :** Press F2 to insert variable.

Overwrite Files/Folders

**Command Options :**

--Select Size--    0    KB

**Created Date** ▼

in last     days  
**TIP :** Press F2 to insert variable.

between     Date Format : "MM/DD/YY"  
**TIP :** Press F2 to insert variable.

before     Date Format : "MM/DD/YY"  
**TIP :** Press F2 to insert variable.

Rename Files(ファイル名を変更)コマンド

既存のファイル名を変更するには、このコマンドを使用します。

### File/Folders

**Files or Folders Command:**

File       Folder

**Select Command:**

Copy Files       Rename Files  
 Delete Files       Create File  
 Zip Files       Unzip Files  
 Print File       Print Multiple Files  
 Open File       Create File Shortcut

**File(s):**  
  
 e.g. C:\MyDoc\\*.doc      **TIP:** Press F2 to insert variable.

**Browse**

**New File Name**  
  
 e.g. \*.bak      **TIP:** Press F2 to insert variable.

**Command Options :**

--Select Size--      0      KB

**Created Date** ▼

in last       days  
**TIP:** Press F2 to insert variable.

between        
**TIP:** Press F2 to insert variable.  
 Date Format : "MM/DD/YYYY"  
**TIP:** Press F2 to insert variable.

before        
**TIP:** Press F2 to insert variable.  
 Date Format : "MM/DD/YYYY"  
**TIP:** Press F2 to insert variable.

**Normal View**

**Save**      **Cancel**

Rename Folder (フォルダー名を変更) コマンド

既存のフォルダー名を変更するには、このコマンドを使用します。

### File/Folders

**Files or Folders Command:**

File       Folder

**Select Command:**

Copy Folder       Rename Folder  
 Delete Folder       Create Folder  
 Open Folder       Create Folder Shortcut

**Folder:**  
  
 e.g. C:\MyDoc      **TIP:** Press F2 to insert variable.

**Browse**

**New Folder Name**  
  
 e.g. NewDocuments      **TIP:** Press F2 to insert variable.

**Command Options :**

--Select Size--      0      KB

**Created Date** ▼

in last       days  
**TIP:** Press F2 to insert variable.

between        
**TIP:** Press F2 to insert variable.  
 Date Format : "MM/DD/YYYY"  
**TIP:** Press F2 to insert variable.

before        
**TIP:** Press F2 to insert variable.  
 Date Format : "MM/DD/YYYY"  
**TIP:** Press F2 to insert variable.

**Normal View**

**Save**      **Cancel**

Delete Files (ファイルを削除) コマンド

既存のファイルを削除するには、このコマンドを使用します。

### File/Folders

**Files or Folders Command:**

File       Folder

**Select Command:**

Copy Files       Rename Files  
 Delete Files       Create File  
 Zip Files       Unzip Files  
 Print File       Print Multiple Files  
 Open File       Create File Shortcut

**File(s) Name :**

**Browse**

e.g. C:\MyDoc\\*.doc      **TIP : Press F2 to insert variable.**

**Command Options :**

Atleast  KB

**Modified Date**

in last  days  
**TIP : Press F2 to insert variable.**

between  Date Format : "MM/DD/YYYY"  
**TIP : Press F2 to insert variable.**

before  Date Format : "MM/DD/YYYY"  
**TIP : Press F2 to insert variable.**

**Normal View**

**Save** **Cancel**

**Delete Folder(フォルダーを削除)コマンド**

既存のフォルダーを削除するには、このコマンドを使用します。

### File/Folders

**Files or Folders Command:**

File       Folder

**Select Command:**

Copy Folder       Rename Folder  
 Delete Folder       Create Folder  
 Open Folder       Create Folder Shortcut

**Folder :**

**Browse**

e.g. C:\MyDoc      **TIP : Press F2 to insert variable.**

**Command Options :**

--Select Size--  KB

**Modified Date**

in last  days  
**TIP : Press F2 to insert variable.**

between  Date Format : "MM/DD/YYYY"  
**TIP : Press F2 to insert variable.**

before  Date Format : "MM/DD/YYYY"  
**TIP : Press F2 to insert variable.**

**Normal View**

**Save** **Cancel**

**Create File(ファイルを作成)コマンド**

新しいファイルを作成するには、このコマンドを使用します。

The screenshot shows the 'File/Folders' dialog box. Under 'Files or Folders Command:', the 'File' radio button is selected. Under 'Select Command:', the 'Create File' radio button is selected. The 'New File Name' field is empty, with a 'Browse' button to its right. Below the field, the text 'e.g. C:\MyDoc\MyFile.doc' is shown. A tip icon and text 'TIP: Press F2 to insert variable.' are present. An 'Overwrite Files/Folders' checkbox is unchecked. 'Save' and 'Cancel' buttons are at the bottom.

Create Folder(フォルダーを作成)コマンド

新しいフォルダーを作成するには、このコマンドを使用します。

The screenshot shows the 'File/Folders' dialog box. Under 'Files or Folders Command:', the 'Folder' radio button is selected. Under 'Select Command:', the 'Create Folder' radio button is selected. The 'New Folder' field is empty, with a 'Browse' button to its right. Below the field, the text 'e.g. C:\MyDoc\MyNewFolder' is shown. A tip icon and text 'TIP: Press F2 to insert variable.' are present. An 'Overwrite Files/Folders' checkbox is unchecked. 'Save' and 'Cancel' buttons are at the bottom.

Zip Files (ファイルを圧縮)コマンド

複数のファイルを ZIP ファイルに圧縮するには、このコマンドを使用します。

### File/Folders

Files or Folders Command:

File       Folder

Select Command:

Copy Files       Rename Files  
 Delete Files       Create File  
 Zip Files       Unzip Files  
 Print File       Print Multiple Files  
 Open File       Create File Shortcut

Specify File(s) to Compress :

e.g. C:\MyFolder\ 💡 TIP: Press F2 to insert variable.

File Type : (Optional) 💡 TIP: Press F2 to insert variable.

eg. \*.doc OR \*.doc;a\*.txt

Note : Specify multiple File Type separated with ; (semicolon)

Specify Destination Zip File :

e.g. C:\Myfile\file.zip 💡 TIP: Press F2 to insert variable.

Command Options :

Update only if newer

Action :

Compression :

Password Protection :

Password :

#### Unzip Files(ファイルを解凍)コマンド

圧縮した複数のファイルを解凍、抽出するには、このコマンドを使用します。

### File/Folders

Files or Folders Command:

File       Folder

Select Command:

Copy Files       Rename Files  
 Delete Files       Create File  
 Zip Files       Unzip Files  
 Print File       Print Multiple Files  
 Open File       Create File Shortcut

Specify Zip File Name to Extract :

e.g. C:\Myfile\testzip.zip 💡 TIP: Press F2 to insert variable.

Extract Zip File to Folder :

e.g. C:\Myfile\ 💡 TIP: Press F2 to insert variable.

Overwrite Files/Folders

Command Options :

Password Protection :

Password :

#### Print File(ファイルを印刷)コマンド

ファイルを印刷するには、このコマンドを使用します。



### File/Folders

**Files or Folders Command:**

File       Folder

**Select Command:**

Copy Files       Rename Files  
 Delete Files       Create File  
 Zip Files       Unzip Files  
 Print File       Print Multiple Files  
 Open File       Create File Shortcut

**File Name :**  
  
 e.g. C:\MyDoc\File1.doc      **TIP :** Press F2 to insert variable.

**Command Options :**

--Select Size--      0      KB

**Modified Date**     

in last       days  
**TIP :** Press F2 to insert variable.

between       Date Format : "MM/DD/YY"  
**TIP :** Press F2 to insert variable.

before       Date Format : "MM/DD/YY"  
**TIP :** Press F2 to insert variable.

**Normal View**

Save      Cancel

Print Multiple Files in a Folder(フォルダー内の複数のファイルを印刷)コマンド

フォルダー内にあるすべてのファイルを印刷するには、このコマンドを使用します。

### File/Folders

**Files or Folders Command:**

File       Folder

**Select Command:**

Copy Files       Rename Files  
 Delete Files       Create File  
 Zip Files       Unzip Files  
 Print File       Print Multiple Files  
 Open File       Create File Shortcut

**Folder Name :**  
  
 e.g. C:\MyDoc      **TIP :** Press F2 to insert variable.

**File Type :** (Optional)      **TIP :** Press F2 to insert variable.  
 eg. \*.doc OR \*.doc;a\*.txt  
 Note : Specify multiple File Type separated with ; (semicolon)

Include Subfolders

**Command Options :**

--Select Size--      0      KB

**Modified Date**     

in last       days  
**TIP :** Press F2 to insert variable.

between       Date Format : "MM/DD/YY"  
**TIP :** Press F2 to insert variable.

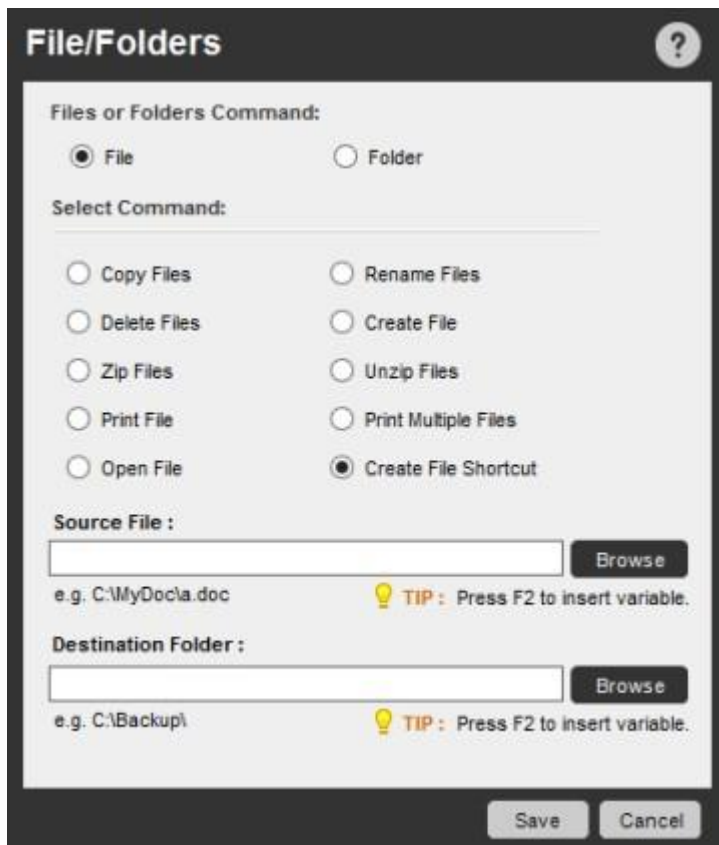
before       Date Format : "MM/DD/YY"  
**TIP :** Press F2 to insert variable.

**Normal View**

Save      Cancel

Create File Shortcut(ファイルのショートカットを作成)コマンド

ファイルを開くショートカットを作成するには、このコマンドを使用します。たとえばユーザーのデスクトップ上に、ファイルのショートカットを作成できます。



**File/Folders** ?

Files or Folders Command:

File       Folder

Select Command:

Copy Files       Rename Files  
 Delete Files       Create File  
 Zip Files       Unzip Files  
 Print File       Print Multiple Files  
 Open File       Create File Shortcut

Source File :

**Browse**

e.g. C:\MyDoc\\*.doc      💡 TIP : Press F2 to insert variable.

Destination Folder :

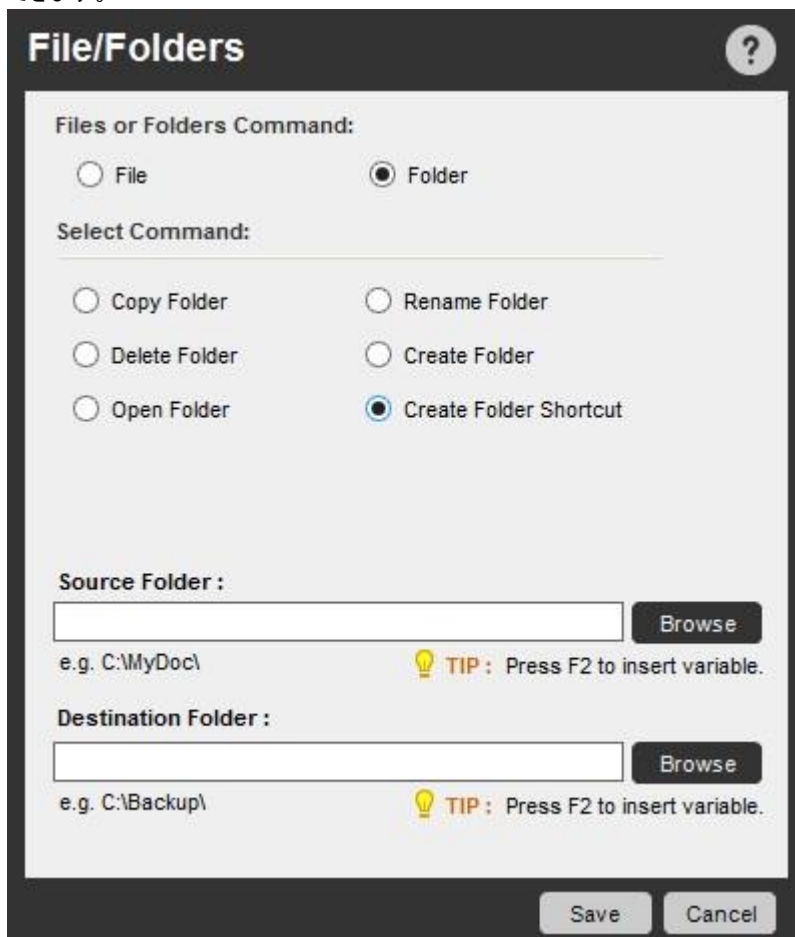
**Browse**

e.g. C:\Backup\      💡 TIP : Press F2 to insert variable.

**Save**   **Cancel**

Create Folder Shortcut(フォルダーのショートカットを作成)コマンド

フォルダーを開くショートカットを作成するには、このコマンドを使用します。たとえばユーザーのデスクトップ上に、フォルダーのショートカットを作成できます。



**File/Folders** ?

Files or Folders Command:

File       Folder

Select Command:

Copy Folder       Rename Folder  
 Delete Folder       Create Folder  
 Open Folder       Create Folder Shortcut

Source Folder :

**Browse**

e.g. C:\MyDoc\      💡 TIP : Press F2 to insert variable.

Destination Folder :

**Browse**

e.g. C:\Backup\      💡 TIP : Press F2 to insert variable.

**Save**   **Cancel**



## 関連トピック

- [Log-to-File\(ファイルにログ\)コマンド](#)
- [Manage Windows Controls\(ウィンドウズコントロールを管理\)コマンド](#) • [Open Proram/File\(プログラム/ファイルを開く\)コマンド](#) • [System\(システム\)コマンド](#)
- [Window Actions\(ウィンドウアクション\)コマンド](#)

### FTP/SFTP コマンド

Automation Anywhere の FTP/SFTP コマンドを使用して、任意の FTP TaskBot/MetaBot Logic を自動化できます。

FTP(ファイル転送プロトコル)は、インターネットなどの TCP ベースのネットワークを介して、あるホストから別のホストへファイルを転送するために使用される標準ネットワークプロトコルです。

**⚠ 重要:** SSH1 プロトコル上で動作する SFTP は、SFTP でのサポートが終了したため現在推奨されていません。

Automation Anywhere の FTP/SFTP コマンドを使用して、次のプロセスを自動化できます。

- FTP を使用してファイルをアップロード、ダウンロードする
- Web サイトをバックアップする
- Secure FTP を使用してセキュアにリモートファイル転送を行う

### FTP/SFTP ?

Select FTP Command :

<input checked="" type="radio"/> Connect	<input type="radio"/> Disconnect
<input type="radio"/> Put Files	<input type="radio"/> Put Folder
<input type="radio"/> Get Files	<input type="radio"/> Get Folder
<input type="radio"/> Delete Files	<input type="radio"/> Delete Folder
<input type="radio"/> Rename Files	<input type="radio"/> Change Folder
<input type="radio"/> Create Folder	

Connection Details :

FTP Server :

💡 TIP : Press F2 to insert variable.

User Name :   Anonymous Login

💡 TIP : Press F2 to insert variable

Secure FTP  
 Key File Authentication


Password :

💡 TIP : Press F2 to insert variable

Port Number :

Select Private Key File :

FTP/SFTP コマンドでは、作成、更新時に基づいてファイルやフォルダーを操作するための [Advanced View] (詳細表示) オプションを利用できます。

 ヒント: このコマンドを使用するには、クライアントマシンに Visual Studio 2015 の Visual C++再頒布可能パッケージがインストールされていること

を確認してください。再頒布可能パッケージは、Microsoft の Web サイトからダウンロードできます:

<https://www.microsoft.com/enin/download/details.aspx?id=48145>


FTP/SFTP コマンドを使用する

TaskBot/MetaBot Logic に FTP/SFTP コマンドを挿入するには、次の手順を実行します。

1. FTP/SFTP コマンドの 1 つをダブルクリックするか、Task Actions List ペインまでドラッグします。[FTP]ウィンドウが表示されます。
2. 各フィールドに必要なパラメーターを指定します。
3. [Save] (保存) をクリックして自動化 TaskBot/MetaBot Logic にコマンドを保存します。

FTP/SFTP コマンドには次のオプションが含まれます。

1. Connect(接続): FTP/SFTP サーバーに接続します。FTP/SFTP サーバー名、ユーザー名、パスワードを指定します。[Username](ユーザー名)および[Password](パスワード)フィールドでは、変数を使用できます。

 ヒント: より安全な認証情報を使用するには、ファンクションキー「F2」押して、変数リストから「Credential Variables」\*を挿入します。

\*バージョン 10.2 以降で対応

次のいずれかのオプションを選択することもできます。

- Anonymous login (匿名ログイン)
- Secure FTP – Secure FTP を使用するには、このオプションを選択します。同時に Key File Authentication も選択できます。
- Key File Authentication\*– SFTP 接続で秘密鍵ファイルを使用するには、このオプションを選択します。対応する公開鍵が FTP サーバーに登録されていることを確認してください。



備考: Key File Authentication および SFTP の Normal User Authentication は、Windows Server には対応していません。

## FTP/SFTP ?

**Select FTP Command :**

<input checked="" type="radio"/> Connect	<input type="radio"/> Disconnect
<input type="radio"/> Put Files	<input type="radio"/> Put Folder
<input type="radio"/> Get Files	<input type="radio"/> Get Folder
<input type="radio"/> Delete Files	<input type="radio"/> Delete Folder
<input type="radio"/> Rename Files	<input type="radio"/> Change Folder
<input type="radio"/> Create Folder	

**Connection Details :**

FTP Server :

💡 TIP : Press F2 to insert variable.

User Name :

💡 TIP : Press F2 to insert variable

Anonymous Login

Secure FTP

Key File Authentication

Password (Optional) :

💡 TIP : Press F2 to insert variable

Port Number :

Select Private Key File :  
 ...

Test Connection
➔ Advanced View

Save
Cancel

接続をテストして、すべてのパラメーターが機能することを確認します。

- [Advanced View] (詳細表示) - 詳細接続オプションを設定するために使用します。ここでは、再接続の試行回数、試行の間隔、転送モード、転送タイプ、デフォルトのディレクトリパスを指定できます。

?

**FTP Advanced Options :**

---

Reconnect if failed to connect

Attempts :


Time between attempts :

Transfer Mode :  Passive  Active

Transfer Type :  Binary  ASCII

Default Directory :

← Normal View

 備考: [Transfer Mode] (転送モード)、[Transfer Type] (転送タイプ)、[Directory] (ディレクトリ)の各オプションは、FTP 接続をお使いの場合のみ使用できます。

2. Disconnect (切断): FTP/SFTP への接続を終了します。
3. Put Files (ファイルを格納): フォルダーから 1 つ以上のファイルをアップロードします。
4. Get Files (ファイルを取得): FTP/SFTP フォルダーから 1 つ以上のファイルをローカルマシンにダウンロードします。  
また FTP/SFTP コマンドは、作成日や更新日に基づいてファイル进行操作する詳細な処理を実現します。
5. Put Folder (フォルダーを格納): フォルダー全体をローカルマシンから FTP/SFTP サーバーにアップロードします。ワイルドカード文字を使用して、特定の種類のファイルのみをアップロードするようにフィルターを指定できます。
6. Get Folder (フォルダーを取得): フォルダー全体を FTP/SFTP サーバーからローカルマシンにアップロードします。ワイルドカード文字を使用して、特定の種類のファイルのみをダウンロードするようにフィルターを指定できます。  
また FTP/SFTP コマンドは、作成日や更新日に基づいてフォルダー进行操作する詳細な処理を実現します。
7. Delete Files (ファイルを削除): FTP/SFTP フォルダーから 1 つ以上のファイルを削除します。
8. Rename Files (ファイル名を変更): FTP/SFTP フォルダー内の 1 つ以上のファイル名を変更します。
9. Create Folder (フォルダーを作成): FTP/SFTP サーバー上にフォルダーを作成します。
10. Delete Folder (フォルダーを削除): FTP/SFTP サーバーから、すべてのサブフォルダーとファイルを含むフォルダーを削除します。
11. Change Folder (フォルダーを変更): FTP/SFTP サーバー上にある別のフォルダーに移動します。FTP/SFTP サーバー上にある複数のディレクトリにファイルをアップロードまたはダウンロードする場合にこのオプションを使用します。

---

---

## 関連トピック

- [Internet Connection\(インターネット接続\)コマンド](#) • [Launch Website\(Web サイト起動\)コマンド](#) • [Send Email\(メールを送信\)コマンド](#)
- [Web Recorder\(Web レコーダー\)コマンド](#) • [Web Service\(Web サービス\)コマンド](#)

IF/ELSE コマンドこのコマンドを使用して、自動化された TaskBot/MetaBot Logic に条件ロジックやアクションを追加します。

#### サブコマンド

IF/ELSE コマンドには、次のサブコマンドが用意されています。

- File Exists/File Does Not Exist(ファイルが存在します/ファイルが存在しません)
- Folder Exists/Folder Does Not Exist(フォルダーが存在します/フォルダーが存在しません)
- Window Exists/Window Does Not Exist(ウィンドウが存在します/ウィンドウが存在しません)
- Application Running/Application Not Running(アプリケーション実行中/アプリケーション停止中)
- Script Successful/Script Unsuccessful(スクリプト成功/スクリプト失敗)
- TaskBot/MetaBot Logic Successful/Unsuccessful( TaskBot/MetaBot Logic 成功/失敗)
- Ping Successful/Ping Unsuccessful(Ping 成功/Ping 失敗)
- Variable(変数)
- File Size(ファイルサイズ)
- File Date(ファイル日付)
- Web Control(Web コントロール)
- Image Recognition(画像認識)
- Service Running/Service Not Running(サービス実行中/サービス停止中)
- Windows Control(ウィンドウコントロール)
- Else If
- Else
- End If

#### 概要

Automation Anywhere の最も強力な機能の 1 つは、IF/ELSE コマンドです。特定の条件が存在する場合は、サブコマンドを使用してアクションを実行できます。多くの条件サブコマンドを使用する場合は、別のアクションを実行する前に、条件が true になるまで待機する時間を指定できます。

#### サブコマンドを使用する

TaskBot/MetaBot Logic に IF/ELSE コマンドを挿入するには、次の手順を実行します。

1. IF/ELSE コマンドの 1 つをダブルクリックするか、TaskBot/MetaBot Logic の Actions List ペインまでドラッグします。[IF/ELSE] ウィンドウが表示されます。
2. 各フィールドで必要なパラメーターを指定します。
3. [Save](保存)をクリックして自動化 TaskBot/MetaBot Logic にコマンドを保存します。

#### File Exists/File Does Not Exist(ファイルが存在します/ファイルが存在しません)コマンド

ファイルが存在するかどうかに基づいてアクションを実行するには、これらのコマンドを使用します。たとえば、データファイルが存在する場合、そのファイルを書式設定してデータベースにアップロードできます。

## If ?

**Select If Command :**

If     
  Else If     
  Else     
  End If

**Select Condition :**

<input checked="" type="radio"/> File exists	<input type="radio"/> File does not exist
<input type="radio"/> Folder exists	<input type="radio"/> Folder does not exist
<input type="radio"/> Window exists	<input type="radio"/> Window does not exist
<input type="radio"/> Application running	<input type="radio"/> Application not running
<input type="radio"/> Script successful	<input type="radio"/> Script unsuccessful
<input type="radio"/> Task successful	<input type="radio"/> Task unsuccessful
<input type="radio"/> Ping successful	<input type="radio"/> Ping unsuccessful
<input type="radio"/> Variable	<input type="radio"/> Web Control
<input type="radio"/> File date	<input type="radio"/> File size
<input type="radio"/> Service running	<input type="radio"/> Service not running
<input type="radio"/> Image Recognition	<input type="radio"/> Windows Control
<input type="radio"/> Object Properties	

Select File

💡 **TIP :** Press F2 to insert variable.

How long would you like to wait for this condition to be true (in seconds)?

Folder Exists/Folder Does Not Exist(フォルダーが存在します/フォルダーが存在しません)コマンドフォルダーが存在するかどうかに基づいてアクションを実行するには、これらのコマンドを使用します。



## If ?

**Select If Command :**

If     
  Else If     
  Else     
  End If

**Select Condition :**

<input type="radio"/> File exists	<input type="radio"/> File does not exist
<input checked="" type="radio"/> Folder exists	<input type="radio"/> Folder does not exist
<input type="radio"/> Window exists	<input type="radio"/> Window does not exist
<input type="radio"/> Application running	<input type="radio"/> Application not running
<input type="radio"/> Script successful	<input type="radio"/> Script unsuccessful
<input type="radio"/> Task successful	<input type="radio"/> Task unsuccessful
<input type="radio"/> Ping successful	<input type="radio"/> Ping unsuccessful
<input type="radio"/> Variable	<input type="radio"/> Web Control
<input type="radio"/> File date	<input type="radio"/> File size
<input type="radio"/> Service running	<input type="radio"/> Service not running
<input type="radio"/> Image Recognition	<input type="radio"/> Windows Control
<input type="radio"/> Object Properties	

Select Folder  Browse

💡 **TIP:** Press F2 to insert variable.

How long would you like to wait for this condition to be true (in seconds)?

Save
Cancel

Window Exists/Window Does Not Exist(ウィンドウが存在します/ウィンドウが存在しません)コマンドこれらのコマンドを使用して、次の操作を実行します。

- 特定のアプリケーションが開いていることを確認します。
- エラーが発生していないかどうかを確認します。
- ファイルのダウンロードが完了したかどうかを確認します。

## If ?

**Select If Command :**

If     
  Else If     
  Else     
  End If

**Select Condition :**

<input type="radio"/> File exists	<input type="radio"/> File does not exist
<input type="radio"/> Folder exists	<input type="radio"/> Folder does not exist
<input checked="" type="radio"/> Window exists	<input type="radio"/> Window does not exist
<input type="radio"/> Application running	<input type="radio"/> Application not running
<input type="radio"/> Script successful	<input type="radio"/> Script unsuccessful
<input type="radio"/> Task successful	<input type="radio"/> Task unsuccessful
<input type="radio"/> Ping successful	<input type="radio"/> Ping unsuccessful
<input type="radio"/> Variable	<input type="radio"/> Web Control
<input type="radio"/> File date	<input type="radio"/> File size
<input type="radio"/> Service running	<input type="radio"/> Service not running
<input type="radio"/> Image Recognition	<input type="radio"/> Windows Control
<input type="radio"/> Object Properties	

Select Title  Refresh

Show child and hidden windows.

How long would you like to wait for this condition to be true (in seconds)?

これらは Automation Anywhere で最も使用されるコマンドです。

Application Running/Application Not Running(アプリケーション実行中/アプリケーション停止中)コマンド

アプリケーションが実行中かどうかに基づいてアクションを実行するには、これらのコマンドを使用します。バックグラウンドで実行中のプログラムがある場合でも、このコマンドを使用してアクションを実行できます。

## If ?

---

**Select If Command :**

If     
  Else If     
  Else     
  End If

---

**Select Condition :**

<input type="radio"/> File exists	<input type="radio"/> File does not exist
<input type="radio"/> Folder exists	<input type="radio"/> Folder does not exist
<input type="radio"/> Window exists	<input type="radio"/> Window does not exist
<input checked="" type="radio"/> Application running	<input type="radio"/> Application not running
<input type="radio"/> Script successful	<input type="radio"/> Script unsuccessful
<input type="radio"/> Task successful	<input type="radio"/> Task unsuccessful
<input type="radio"/> Ping successful	<input type="radio"/> Ping unsuccessful
<input type="radio"/> Variable	<input type="radio"/> Web Control
<input type="radio"/> File date	<input type="radio"/> File size
<input type="radio"/> Service running	<input type="radio"/> Service not running
<input type="radio"/> Image Recognition	<input type="radio"/> Windows Control
<input type="radio"/> Object Properties	

Select Application  Browse

**TIP:** Press F2 to insert variable.

How long would you like to wait for this condition to be true (in seconds)?

Save
Cancel

Script Successful/Script Unsuccessful (スクリプト成功/スクリプト失敗)コマンド

サードパーティーのスクリプトを自動化 TaskBot/MetaBot Logic と統合するには、これらのコマンドを使用します。スクリプトの実行後に戻りコードが発行されると、Automation Anywhere はスクリプトの実行が成功したかどうかを判断します。

開発済みのスクリプトについては、このコマンドを使用してお使いの自動化 TaskBot/MetaBot Logic と統合できます。

## If ?

**Select If Command :**

If     
  Else If     
  Else     
  End If

**Select Condition :**

<input type="radio"/> File exists	<input type="radio"/> File does not exist
<input type="radio"/> Folder exists	<input type="radio"/> Folder does not exist
<input type="radio"/> Window exists	<input type="radio"/> Window does not exist
<input type="radio"/> Application running	<input type="radio"/> Application not running
<input checked="" type="radio"/> Script successful	<input type="radio"/> Script unsuccessful
<input type="radio"/> Task successful	<input type="radio"/> Task unsuccessful
<input type="radio"/> Ping successful	<input type="radio"/> Ping unsuccessful
<input type="radio"/> Variable	<input type="radio"/> Web Control
<input type="radio"/> File date	<input type="radio"/> File size
<input type="radio"/> Service running	<input type="radio"/> Service not running
<input type="radio"/> Image Recognition	<input type="radio"/> Windows Control
<input type="radio"/> Object Properties	

Select Script File  Browse

💡 **TIP :** Press F2 to insert variable.

Parameters (Optional)

💡 **TIP :** Press F2 to insert variable.

Save
Cancel

TaskBot/MetaBot Logic Successful/Unsuccessful(TaskBot/MetaBot Logic 成功/失敗)コマンド

Automation Anywhere の TaskBot/MetaBot Logic を複数回連続して実行するには、これらのコマンドを使用します。このコマンドは、選択した TaskBot/MetaBot Logic を実行し、戻りコードに応じて、実行が成功したかどうかを判断し、その結果に基づいて適切なアクションを実行します。

たとえば、Web サイトを監視する TaskBot/MetaBot Logic が正常に実行された場合、Web サイトは作動していて、アクションは必要ないことを意味します。TaskBot/MetaBot Logic の実行に失敗した場合は、Web サイトがダウンしていて、アクションが必要であることを意味します。

**If** ?

Select If Command :

If     
  Else If     
  Else     
  End If

Select Condition :

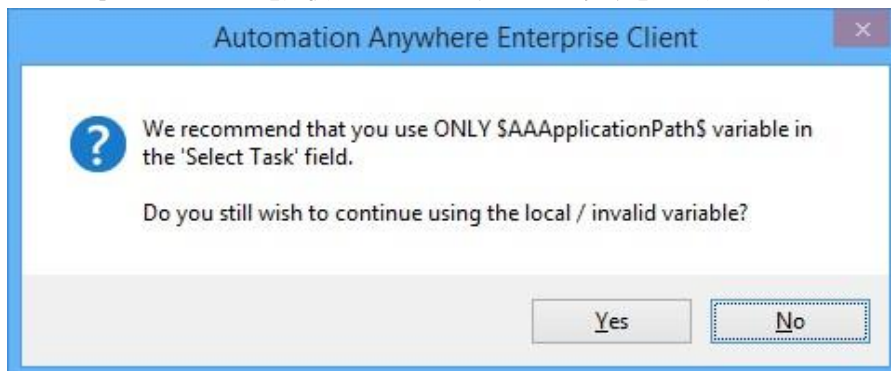
<input type="radio"/> File exists	<input type="radio"/> File does not exist
<input type="radio"/> Folder exists	<input type="radio"/> Folder does not exist
<input type="radio"/> Window exists	<input type="radio"/> Window does not exist
<input type="radio"/> Application running	<input type="radio"/> Application not running
<input type="radio"/> Script successful	<input type="radio"/> Script unsuccessful
<input checked="" type="radio"/> Task successful	<input type="radio"/> Task unsuccessful
<input type="radio"/> Ping successful	<input type="radio"/> Ping unsuccessful
<input type="radio"/> Variable	<input type="radio"/> Web Control
<input type="radio"/> File date	<input type="radio"/> File size
<input type="radio"/> Service running	<input type="radio"/> Service not running
<input type="radio"/> Image Recognition	<input type="radio"/> Windows Control
<input type="radio"/> Object Properties	

Select Task File

TIP : Press F2 to insert variable.

Control Room からデプロイされたタスクの失敗を防ぐには、ユーザー定義変数ではなく変数\$AAApplicationPath\$を使用してください。[Select Task File] (タスクファイルを選択) フィールドにそれ以外の変数を追加すると、次のエラーが表示されます。



Ping Successful/Ping Unsuccessful (Ping 成功/Ping 失敗) コマンド

マシンやサーバーが実行中かどうかを確認し、その結果に基づいて適切なアクションを実行するには、このコマンドを使用します。

## If ?

**Select If Command :**

If     
  Else If     
  Else     
  End If

**Select Condition :**

<input type="radio"/> File exists	<input type="radio"/> File does not exist
<input type="radio"/> Folder exists	<input type="radio"/> Folder does not exist
<input type="radio"/> Window exists	<input type="radio"/> Window does not exist
<input type="radio"/> Application running	<input type="radio"/> Application not running
<input type="radio"/> Script successful	<input type="radio"/> Script unsuccessful
<input type="radio"/> Task successful	<input type="radio"/> Task unsuccessful
<input checked="" type="radio"/> Ping successful	<input type="radio"/> Ping unsuccessful
<input type="radio"/> Variable	<input type="radio"/> Web Control
<input type="radio"/> File date	<input type="radio"/> File size
<input type="radio"/> Service running	<input type="radio"/> Service not running
<input type="radio"/> Image Recognition	<input type="radio"/> Windows Control
<input type="radio"/> Object Properties	

IP Address / Machine Name

**TIP :** Press F2 to insert variable.

How long would you like to wait for this condition to be true (in seconds)?

Variable (変数) コマンド

このコマンドは単純に見えますが、おそらく最も強力な条件コマンドです。このコマンドを使用して何百ものチェックを実行できます。



## If ?

**Select If Command :**

If     
  Else If     
  Else     
  End If

**Select Condition :**

<input type="radio"/> File exists	<input type="radio"/> File does not exist
<input type="radio"/> Folder exists	<input type="radio"/> Folder does not exist
<input type="radio"/> Window exists	<input type="radio"/> Window does not exist
<input type="radio"/> Application running	<input type="radio"/> Application not running
<input type="radio"/> Script successful	<input type="radio"/> Script unsuccessful
<input type="radio"/> Task successful	<input type="radio"/> Task unsuccessful
<input type="radio"/> Ping successful	<input type="radio"/> Ping unsuccessful
<input checked="" type="radio"/> Variable	<input type="radio"/> Web Control
<input type="radio"/> File date	<input type="radio"/> File size
<input type="radio"/> Service running	<input type="radio"/> Service not running
<input type="radio"/> Image Recognition	<input type="radio"/> Windows Control
<input type="radio"/> Object Properties	

IF Condition  Edit

Save Cancel

たとえば、アプリケーションまたは Web サイトからデータをコピーし、コピーしたデータが特定のテキスト文字列と一致することを確認できます。数値文字列を確認したり、変数や固定値より大きい小さいかを確認したりすることもできます。

IF Variable (IF 変数) コマンド\*で「AND」または「OR」条件を使用する

Variable (変数) サブコマンドと組み合わせて「AND」または「OR」条件を含める必要がある場合は、[条件を追加] オプションを使用します。これで 1 つのパラメーター内に「AND」または「OR」条件をすべて含めることができ、Automation Anywhere の以前のバージョンのように条件ごとに別々のパラメーターを指定する必要がなくなります。

Variable :

💡 **TIP:** Press F2 to insert variable.

Operator :

Value :  Fix

Variable

[Add more conditions](#)

💡 **TIP:** Press F2 to insert variable.

Save Cancel



「OR」条件には「いずれかが一致」オプション、「AND」条件には「すべて一致」オプションを有効にします(下の画像を参照)

**Select Condition :**

Match Any       Match All


**Specify Conditions :**

+ Add    🗑 Delete

<input type="checkbox"/> Variable	Operator	Value Type	Value / Variable
<input type="checkbox"/> Trial_Period	Select Operator ▼	Fixed ▼	14
<input type="checkbox"/> Trial_Run	Select Operator ▼	Variable ▼	Trial_Run

💡 **TIP :** Press F2 to insert variable.

Save
Cancel

 **備考:** 1つのパラメーターに「Match Any」(いずれかが一致)と「Match All」(すべて一致)の両方を含めることはできません。

。

TaskBot/MetaBot ロジック内で個別に指定する必要があります。

#### File Size (ファイルサイズ) コマンド

ファイルが指定したサイズよりも大きいか、小さいか、同じかを確認するには、このコマンドを使用します。

## If ?

**Select If Command :**

If    
  Else If    
  Else    
  End If

**Select Condition :**

<input type="radio"/> File exists	<input type="radio"/> File does not exist
<input type="radio"/> Folder exists	<input type="radio"/> Folder does not exist
<input type="radio"/> Window exists	<input type="radio"/> Window does not exist
<input type="radio"/> Application running	<input type="radio"/> Application not running
<input type="radio"/> Script successful	<input type="radio"/> Script unsuccessful
<input type="radio"/> Task successful	<input type="radio"/> Task unsuccessful
<input type="radio"/> Ping successful	<input type="radio"/> Ping unsuccessful
<input type="radio"/> Variable	<input type="radio"/> Web Control
<input type="radio"/> File date	<input checked="" type="radio"/> File size
<input type="radio"/> Service running	<input type="radio"/> Service not running
<input type="radio"/> Image Recognition	<input type="radio"/> Windows Control
<input type="radio"/> Object Properties	

IF Condition  Edit

How long would you like to wait for this condition to be true (in seconds)?

Save
Cancel

**File Date(ファイル日付)コマンド**

ファイルが作成された、または最後に更新された日時を確認するには、このコマンドを使用します。「between」(の間)または「before」(前)キーワードを使用して、日付範囲を指定できます。日数または hh:mm:ss 形式の時間スケジュールを使用して、範囲を指定することもできます。

## If ?

**Select If Command :**

If    
  Else If    
  Else    
  End If

**Select Condition :**

<input type="radio"/> File exists	<input type="radio"/> File does not exist
<input type="radio"/> Folder exists	<input type="radio"/> Folder does not exist
<input type="radio"/> Window exists	<input type="radio"/> Window does not exist
<input type="radio"/> Application running	<input type="radio"/> Application not running
<input type="radio"/> Script successful	<input type="radio"/> Script unsuccessful
<input type="radio"/> Task successful	<input type="radio"/> Task unsuccessful
<input type="radio"/> Ping successful	<input type="radio"/> Ping unsuccessful
<input type="radio"/> Variable	<input type="radio"/> Web Control
<input checked="" type="radio"/> File date	<input type="radio"/> File size
<input type="radio"/> Service running	<input type="radio"/> Service not running
<input type="radio"/> Image Recognition	<input type="radio"/> Windows Control
<input type="radio"/> Object Properties	

IF Condition  Edit

How long would you like to wait for this condition to be true (in seconds)?

Save
Cancel

### Web Control(Web コントロール)コマンド

Web ページ上に特定の Web コントロールが存在するかを確認するには、このコマンドを使用します。たとえば、TaskBot/MetaBot Logic を使用してリンク、テキストボックス、ドロップダウンメニューがあるかどうかを確認できます。

このコマンドは、Web Recorder を使用して作成した TaskBot/MetaBot Logic の編集時に使用します。

**備考:** バージョン 8.1.2 にアップグレードしていて、パラメーターを「Select Page」(ページを選択)に変更済みの場合、コントロールを再キャプチャする必要があります。詳しくは「[Web Recorder\(Web レコーダー\)コマンドで Web のみのタスクを編集する](#)」を参照してください。

## If ?

**Select If Command :**

If     
  Else If     
  Else     
  End If

**Select Condition :**

<input type="radio"/> File exists	<input type="radio"/> File does not exist
<input type="radio"/> Folder exists	<input type="radio"/> Folder does not exist
<input type="radio"/> Window exists	<input type="radio"/> Window does not exist
<input type="radio"/> Application running	<input type="radio"/> Application not running
<input type="radio"/> Script successful	<input type="radio"/> Script unsuccessful
<input type="radio"/> Task successful	<input type="radio"/> Task unsuccessful
<input type="radio"/> Ping successful	<input type="radio"/> Ping unsuccessful
<input type="radio"/> Variable	<input checked="" type="radio"/> Web Control
<input type="radio"/> File date	<input type="radio"/> File size
<input type="radio"/> Service running	<input type="radio"/> Service not running
<input type="radio"/> Image Recognition	<input type="radio"/> Windows Control
<input type="radio"/> Object Properties	

IF Condition  Edit

How long would you like to wait for this condition to be true (in seconds)?

Save
Cancel

### Image Recognition (画像認識) コマンド

画像が別の画像内に存在するかを確認するには、このコマンドを使用します。Automation Anywhere は、ファイルに保存された画像や TaskBot/MetaBot Logic の実行時にウィンドウからキャプチャされた画像を認識します。IF コマンドが True を返す最小の 'percentage match' (マッチ割合) を指定することもできます。また Image Recognition (画像認識) は、より大きな画像内に見つかった画像をクリックできる強力なツールとしても機能します。

**If** ?

Select If Command :

If     Else If     Else     End If

Select Condition :

<input type="radio"/> File exists	<input type="radio"/> File does not exist
<input type="radio"/> Folder exists	<input type="radio"/> Folder does not exist
<input type="radio"/> Window exists	<input type="radio"/> Window does not exist
<input type="radio"/> Application running	<input type="radio"/> Application not running
<input type="radio"/> Script successful	<input type="radio"/> Script unsuccessful
<input type="radio"/> Task successful	<input type="radio"/> Task unsuccessful
<input type="radio"/> Ping successful	<input type="radio"/> Ping unsuccessful
<input type="radio"/> Variable	<input type="radio"/> Web Control
<input type="radio"/> File date	<input type="radio"/> File size
<input type="radio"/> Service running	<input type="radio"/> Service not running
<input checked="" type="radio"/> Image Recognition	<input type="radio"/> Windows Control
<input type="radio"/> Object Properties	

IF Condition  Edit

Save Cancel

Service Running/Service Not Running(サービス実行中/サービス停止中)コマンド特定のサービスが実行中かを確認するには、このコマンドを使用します。


**If** ?

Select If Command :

If     Else If     Else     End If

Select Condition :

<input type="radio"/> File exists	<input type="radio"/> File does not exist
<input type="radio"/> Folder exists	<input type="radio"/> Folder does not exist
<input type="radio"/> Window exists	<input type="radio"/> Window does not exist
<input type="radio"/> Application running	<input type="radio"/> Application not running
<input type="radio"/> Script successful	<input type="radio"/> Script unsuccessful
<input type="radio"/> Task successful	<input type="radio"/> Task unsuccessful
<input type="radio"/> Ping successful	<input type="radio"/> Ping unsuccessful
<input type="radio"/> Variable	<input type="radio"/> Web Control
<input type="radio"/> File date	<input type="radio"/> File size
<input type="radio"/> Service running	<input checked="" type="radio"/> Service not running
<input type="radio"/> Image Recognition	<input type="radio"/> Windows Control
<input type="radio"/> Object Properties	

Select Service         

Windows Control(ウィンドウコントロール)コマンド

特定のコントロールがアクティブウィンドウ内に存在するかを確認するには、このコマンドを使用します。たとえば、コマンドボタン、リストボックスアイテム、テキストボックス、メニュータブがあるかを確認できます。

### If ?

**Select If Command :**

If     
  Else If     
  Else     
  End If

**Select Condition :**

<input type="radio"/> File exists	<input type="radio"/> File does not exist
<input type="radio"/> Folder exists	<input type="radio"/> Folder does not exist
<input type="radio"/> Window exists	<input type="radio"/> Window does not exist
<input type="radio"/> Application running	<input type="radio"/> Application not running
<input type="radio"/> Script successful	<input type="radio"/> Script unsuccessful
<input type="radio"/> Task successful	<input type="radio"/> Task unsuccessful
<input type="radio"/> Ping successful	<input type="radio"/> Ping unsuccessful
<input type="radio"/> Variable	<input type="radio"/> Web Control
<input type="radio"/> File date	<input type="radio"/> File size
<input type="radio"/> Service running	<input type="radio"/> Service not running
<input type="radio"/> Image Recognition	<input checked="" type="radio"/> Windows Control
<input type="radio"/> Object Properties	

IF Condition  Edit

#### 条件の待機時間を設定する

ほとんどの条件コマンドでは、条件が True になるまでの待機時間を設定できます。

たとえば、特定のウィンドウが存在する場合のみ、あるアクションを実行するとします。ウィンドウが開くのに、5 秒~5 分かかかる可能性があるとしても。当然ながら、ウィンドウが 30 秒で表示された場合に、5 分間も待たされるのは望ましくありません。Automation Anywhere は、次のモデルによってこの問題を解決します。

IF コマンドを使用して、[IF]と[Window does not exist](ウィンドウが存在しません)を選択し、ウィンドウが表示されるまでの最大待機時間を秒単位で入力します。(この場合は 5 分、つまり 300 秒) Automation Anywhere は、ウィンドウが表示されたかどうかを確認します。

ウィンドウが 30 秒で表示された場合、Automation Anywhere は、IF 条件で指定したコマンドの実行をすぐに開始します。

「希望の待機時間」フィールドを空白のままにするか、「0(ゼロ)」と入力した場合、Automation Anywhere は、すぐに条件が存在するかを確認し、アクションを実行します。

条件が存在しない場合、これらのアクションはスキップされ、ENDIF 以降のアクションが実行されます。

 **備考:** 「Secure Recording mode」を有効にした場合、値や画像はキャプチャされません。詳しくは[こちら](#)を参照してください。

#### 関連トピック

- [Loop\(ループ\)コマンド](#)



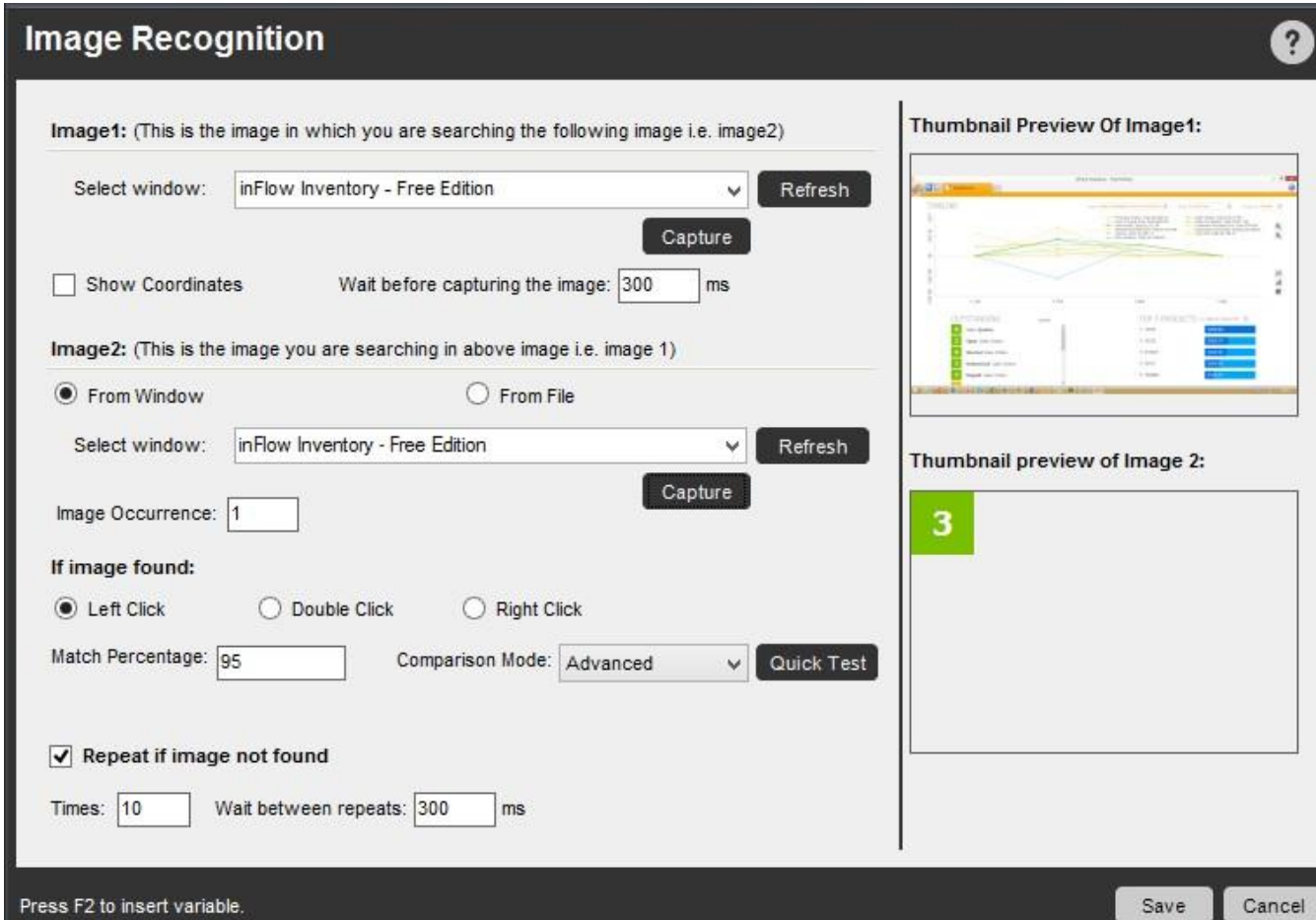
## Image Recognition (画像認識) コマンド

Image Recognition (画像認識) コマンドでは、TaskBot/MetaBot Logic をアプリケーションやインターフェイスで操作するための視覚的なアプローチが行えます。

ソース画像の中から目的の画像をすばやく検索し、視覚的要素を使用するアプリケーションを自動化するには、このコマンドを使用します。HiDPI デ스플레이を使用して、さまざまなサイズの多様な画像をキャプチャ、処理できます。

画像認識を使用するもう 1 つの大きな利点は、たとえば Web ページ上のある場所から別の場所に移動された画像を検索できる点です。

また、アプリケーションに自動化できる UI 要素がない場合、画像ベースのオートメーションを使用できるという利点もあります。たとえば、アプリケーションが Citrix で公開されている場合や RDP からアクセスされる場合、またはレガシアプリケーションのようにオブジェクト検知の信頼性が低い場合に、Image Recognition (画像認識) コマンドを使用できます。



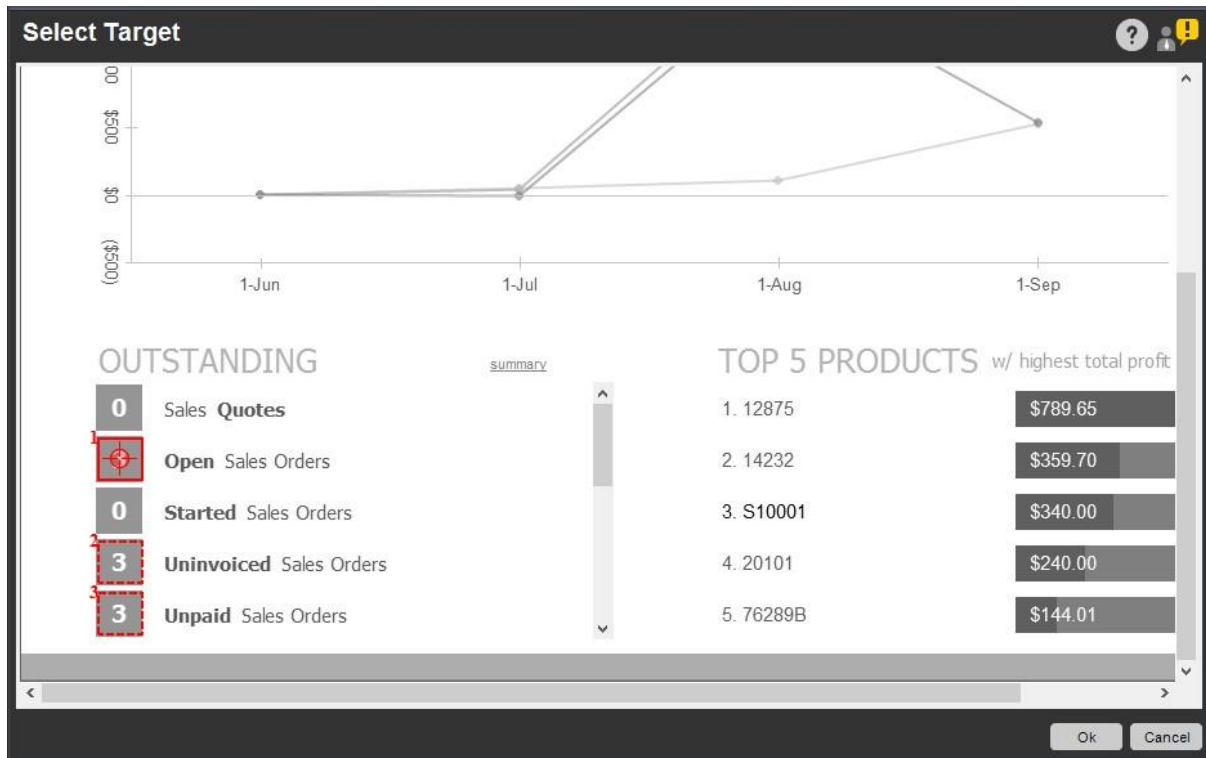
## Image Recognition (画像認識) コマンドを使用する

Image Recognition (画像認識) コマンドを使用するには、次の手順を実行します。


1. フォルダー、またはアプリケーションのウィンドウからキャプチャした画像の中から画像ファイルを選択します。画像は単独のものでも、実行時に動的にキャプチャされた別の画像内に含まれているものでも構いません。
2. [Show Coordinates] (座標を表示) を選択して、ウィンドウ内の対象画像の座標を表示します。
3. 読み込みに時間がかかる可能性があるウィンドウから対象画像をキャプチャする場合、[Wait before capturing the image] (画像をキャプチャするまでの待機時間) テキストボックスに待機時間を (ミリ秒単位で) 指定します。
4. 再生中にクリックする画像を [Image 2] (画像 2) で選択またはキャプチャします。画像は開いているウィンドウからキャプチャまたはファイルから選択できます。

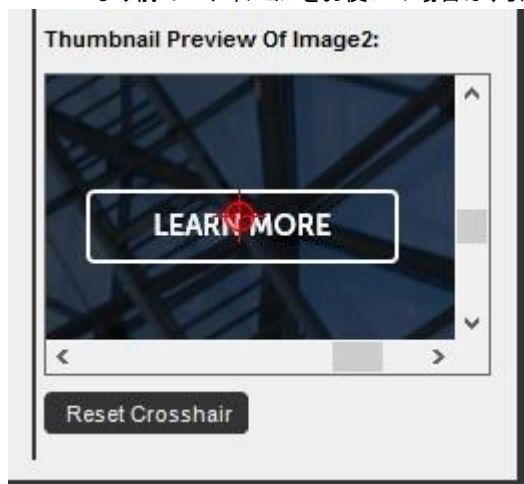
ウィンドウのコマンドを使用する場合、クリック位置を画像との相対で指定することもできます。これは、対象画像がぼやけている場合、背景にノイズがある場合、対象画像が複数回表示されている場合に便利です。


- Image Recognition (画像認識) コマンドによって、認識が難しい画像が特定されるため、容易に識別できる画像を選択し、その画像との相対でクリック位置を指定できます。




相対クリックオプションは、AAE Enterprise Client エディション 11.0 以降でのみ選択可能です。

- AAE 11.0 より前のエディションをお使いの場合は、引き続き  (相対クリックオプションのない十字形)を使用することになります。



 備考: IF/ELSE コマンドと組み合わせて使用する場合、十字形を表示するには「画像が見つかったらクリックする」オプションを選択します。

 ヒント: 十字形をデフォルトの位置(画像の中心)に戻すには、[Reset Crosshair](十字形をリセット)をクリックします。

- 画像をキャプチャしたら、実行中に画像が見つかった際にクリックする場所に「十字形」を配置します。



左上端の数字は、対象画面に画像が複数回表示されることを示します。連続した画像は、点線で囲まれ、上部にシーケンス番号が表示されます。





ヒント: 大きな画像の場合、スクロールして、必要な位置に「十字形」を配置できます。

5. 対象画像が複数回見つかる場合は、[Image Occurrence] (画像の出現回数)を選択します。画面上にその画像が何回表示されるかわからない場合は、変数を使用できます。変数を使用する際は必ず、数値を取る変数を割り当ててください。
6. 大きな画像の中に画像が見つかった場合、左クリック、ダブルクリック、右クリックの3つのいずれかを選択します。
7. 実行時に画像を見つけるには、[Match Percentage] (一致率)、[Tolerance] (トレランス)、[Comparison Mode] (比較モード)の各オプションを指定します。


- 一致率: 一致率 100%とは、2つの画像間でピクセルの不一致が一切ないことを意味します。一致率 20%とは、2つの画像間で一致していないピクセルが最大 20%あっても、両画像は一致しているとみなされることを意味します。一致しないが類似度の高い画像同士に使用します。
- トレランス: 0%トレランスとは、比較するピクセルの RGB 値が完全に一致する必要があることを意味します。同様に、20%トレランスでは、比較するピクセルの RGB 値の差が+20%~-20%の場合に、一致しているとみなします。
  - [Match Percentage] (一致率)は、Image1 と Image2 の間で許容される全体的な不一致の程度を定義します。[Tolerance] (トレランス)は、比較中の2つのピクセル間で許容される不一致の程度を定義します。
  - RGB 色空間では、赤、緑、青に8ビットずつ割り当てられ、それぞれの色を0~255の整数値で表現します。
  - たとえばトレランスを使用する場合: Case1 - 20%トレランスによる不一致 a. Case1 - 20%トレランスによる不一致 -

Image1 ピクセル	250	240	238
値:	190	240	238
Image2 ピクセル値:	b. Case2 -		
	20%トレランスによる一致 -		

Image1 ピクセル	255	255	250
値: Image2 ピクセル値:	220	230	200

Case1 では、2つの画像は明らかに不一致です。2つの画像の R 値の差は、トレランスの範囲を10を超えています(255の20%は約50で、250-190>50)。Case2 では、2つの画像の R 値、G 値、B 値の差がいずれもトレランスの範囲内にあるため、画像同士は一致しているとみなされます。

- 比較モード: 次のいずれかの比較モードを選択します。
  - a. Advanced: デフォルトの比較モードです。他のモードと比較してより正確で、画面解像度/ズームやアプリケーションのスケールリングが変わる可能性がある場合により良好な結果が得られるため、このモードを選択することを推奨します。

 備考: AAE Client のバージョン 10.x で作成したボットを現在のバージョンに移行した場合、以前選択した比較モードが自動的に Advanced に変更されることはありません。Advanced がデフォルトの比較モードになるのは、現在のバージョンで作成したボットのみです。

- b. 通常モード: ピクセルの RGB コンポーネントをソースと比較します。処理速度を気にせず、複雑なシナリオにおける完全な色一致が必要な場合は、このモードを使用します。
  - c. グレースケールモード: 比較を実行する前に、ピクセルを適切なレベルのグレースケールに変換します。色よりもテストの速度を優先する場合は、このモードを使用します。
  - d. しきい値が設定された Monochrome mode: 比較を実行する前に、ピクセルを黒または白に変換します。RGB やグレースケールピクセルを黒または白に変換する際に、しきい値を使用します(ピクセル値がしきい値よりも小さい場合は黒、大きい場合は白)。マルチカラーの背景の中からマルチカラーの文字を識別する場合は、このモードを使用します。
- クイックテスト: 出力が要求どおりであることをすばやく確認するには、[Quick Test] (クイックテスト) ボタンを使用します。これにより、テスト全体を実行する必要がなくなります。

Quick Test

- a. 「クイックテスト」は実際のテストと同様に、一致率、トレランスモードおよび比較モードで提供されるパラメーターを含みます。
- b. TaskBot/MetaBot ロジックで変数を使用されている場合は、「クイックテスト」は実行できません。
- c. 「クイックテスト」はバージョン 7.5 以降でのみ利用できる機能のため、それ以前のバージョン(7.5より前)で作成されたタスクで実行するには、画像を再度キャプチャする必要があります。



### ヒントとテクニック:

- デフォルトの画像ビューアでプレビュー表示するには、Image1 をクリックします。
- より早く画像認識を行うには、特定の色(たとえば灰色)がスクリーン全体を占めている場合、(左上角に表示されている)Image2 の開始ピクセルがその色を含んでいないことを確認します。
- より早く画像認識を行うには、認識する Image2 をできるだけ小さい画像にします。
- Delay を有効に使用します。
- クイックテストが実行できない場合 [トラブルシューティング](#)を参照してください。

Secure Recording Mode を有効にする

セキュアレコーディングは、タスクの自動化中に機密データがキャプチャされないように Control Room 管理者が有効にします。詳しくは[こちら](#)を参照してください。

Secure Recording Mode を有効にした場合、コマンドが次の動作をします。

1. オートメーションを作成する - オートメーション中に画像をキャプチャすると、Image1 と Image2 の両方の画像がプレビュー表示されます。

- コマンドを保存すると、Image1 は保存されず、Image2 は表示されなくなります。

2. オートメーションを編集する - コマンドを編集モードで開くと、Image1 と Image2 のいずれの画像もプレビュー表示されません。



## Image Recognition

**Image1:** (This is the image in which you are searching the following image i.e. image2)

Select window:

Show Coordinates      Wait before capturing the image:  ms

**Image2:** (This is the image you are searching in above image i.e. image 1)

From Window       From File

Select window:

Image Occurrence:

**If image found:**

Left Click       Double Click       Right Click

Match Percentage:       Comparison Mode:

Tolerance:

Repeat if image not found

Times:       Wait between repeats:  ms

Press F2 to insert variable.

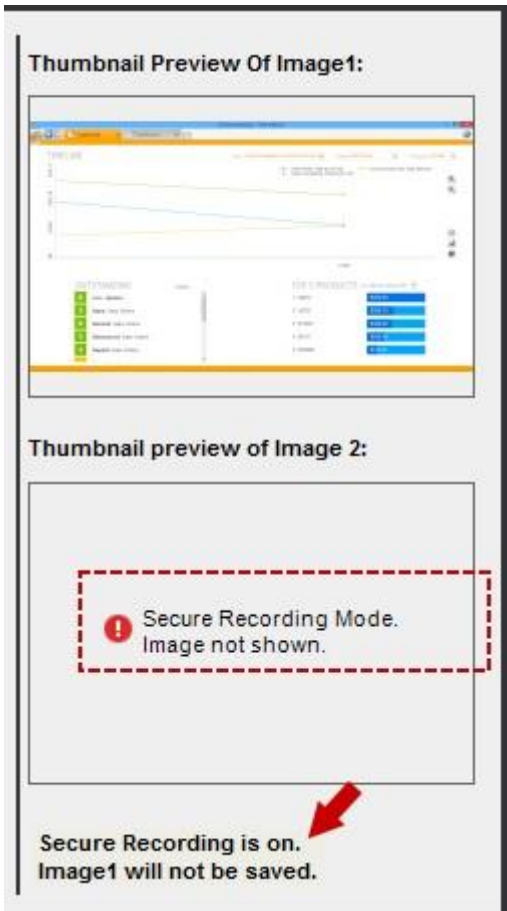
**Thumbnail Preview Of Image1:**

! Secure Recording Mode. Image not captured.

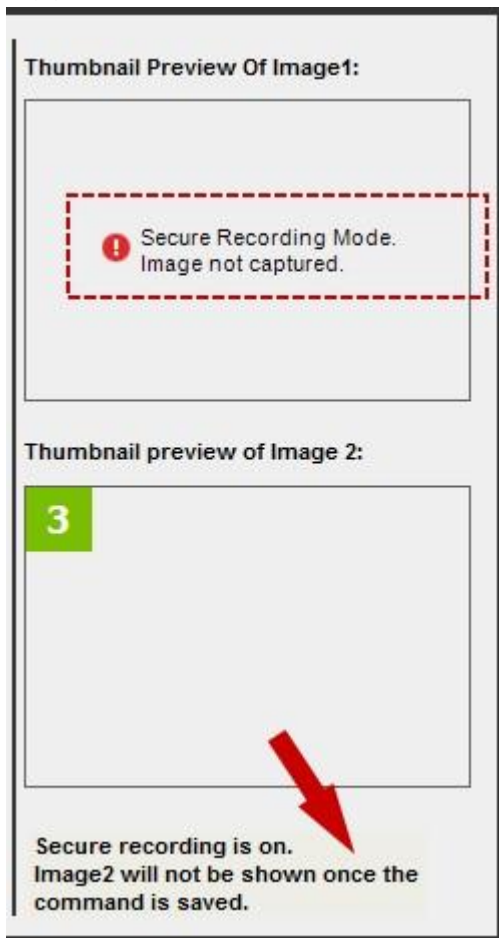
**Thumbnail preview of Image 2:**

! Secure Recording Mode. Image not shown.

- Image1 を再キャプチャすると、プレビュー画面に表示されますが、保存はされません。Image2 は表示されません。



- Image2 を直接、再キャプチャすると、その画像のみがプレビュー画面に表示されます。ただし、コマンドを保存すると、画像は表示されなくなります。



- 2つの画像を再キャプチャし、コマンドを保存すると、Image1 は保存されず、Image2 はプレビュー画面に表示されません。オートメーションの作成中にコマンドを保存する場合と同様です。
- Image2 について[From File] (ファイルから) オプションを選択した場合、コマンドの保存後は画像を検索できなくなります。

## 関連トピック

- [Error Handling \(エラー処理\) コマンド](#)
- [File and Folder \(ファイルとフォルダー\) コマンド](#) • [IF/ELSE コマンド](#)
- [Loop \(ループ\) コマンド](#)
- [Variable Operation \(変数処理\) コマンド](#)

### Import Dataset (データセットをインポート) コマンド

1つのソースから大量のデータを挿入する場合は、Workbench で MetaBot ロジックの Import Dataset (データセットをインポート) コマンドを使用します。1つのコマンドを使用して、Excel スプレッドシートなどの外部ファイルから、さまざまなフィールドにデータを挿入できます。これを使用して、多数のキーストロークやクリックを伴う操作を回避するロジックを作成できます。

### サポートされているテクノロジーとコントロール

Import Dataset (データセットをインポート) コマンドでは、次のテクノロジーがサポートされます。

1. HTML
2. JAVA
3. MSAA
4. .NET

## 5. Flex

Import Dataset (データセットをインポート) コマンドでは、次のコントロールおよびアクションがサポートされます。

1. 固定テキスト (ラベル) – GetProperty (プロパティを取得)、Click (クリック)、LeftClick (左クリック)、RightClick (右クリック)、DoubleClick (ダブルクリック)
2. テキストボックス – SetText (テキストを設定)、AppendText (テキストを追加)、Click (クリック)、LeftClick (左クリック)、RightClick (右クリック)、DoubleClick (ダブルクリック)
3. ラジオボタン – Select (選択)、LeftClick (左クリック)、RightClick (右クリック)、DoubleClick (ダブルクリック)
4. チェックボックス – Check (チェック)、Uncheck (チェックを外す)、Toggle (切り替え)、LeftClick (左クリック)、RightClick (右クリック)、DoubleClick (ダブルクリック)
5. コンボボックス – SelectItemByText (テキストごとに項目を選択)、SelectItemByIndex (インデックスごとに項目を選択)、LeftClick (左クリック)、RightClick (右クリック)、DoubleClick (ダブルクリック)、Expand (拡張)
6. リストビュー – SelectItemByText (テキストごとに項目を選択)、SelectItemByIndex (インデックスごとに項目を選択)、LeftClick (左クリック)、RightClick (右クリック)、DoubleClick (ダブルクリック)
7. ボタン – LeftClick (左クリック)

アプリケーションにデータをインポートする

Workbench → [Commands] (コマンド) で、Import Dataset (データセットをインポート) コマンドを設定できます。

1. 必要なアプリケーションを使用してスクリーンを作成します。詳しくは[こちら](#)を参照してください。
2. 必要なパラメーターのスクリーンを設定します。詳しくは[こちら](#)を参照してください。



ヒント: オブジェクトが表示されない場合や、識別できないテキストや数字が表示される場合は、スクリーンの構成時にそのオブジェクトのエイリアスを指定することをお勧めします。詳しくは[こちら](#)を参照してください。


3. Logic Editor で、[Commands] (コマンド) リストから [Import Dataset] (データセットをインポート) を選択します。
4. 変数、テキスト、コントロールの組み合わせを使用して詳細入力を開始します。フィールドに入力しないと次に移動できません。



備考: オートメーションの実行用に選択されていないオブジェクトはすべてデフォルトで無効にされます。これらのオブジェクトに値を入力するには、[Write] (入力) 列のチェックボックスをクリックします。



### Import Dataset

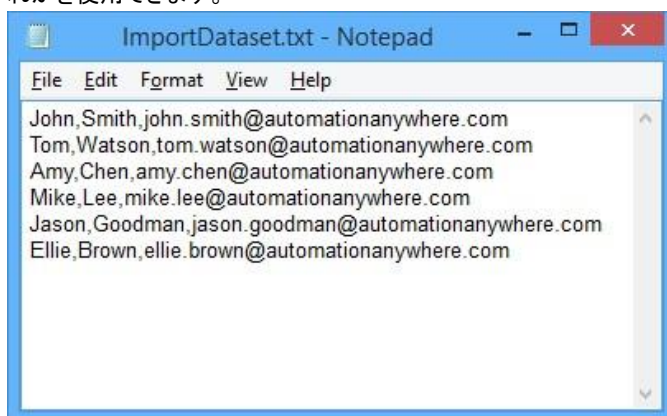
Select 'Write' to fill object value during automation execution [Show Selected](#) 

#	Entry Name	Type	Value	Write
1	Vendor	TextBox	\$Excel Column(1)\$	<input checked="" type="checkbox"/>
2	Contact Name	TextBox	\$Excel Column(2)\$	<input checked="" type="checkbox"/>
3	Phone	TextBox	\$Excel Column(3)\$	<input checked="" type="checkbox"/>
4	Website	TextBox	\$Excel Column(4)\$	<input checked="" type="checkbox"/>
5	Fax	TextBox	\$Excel Column(5)\$	<input checked="" type="checkbox"/>
6	NAMELESS	TextBox		<input type="checkbox"/>
7	NAMELESS	TextBox		<input type="checkbox"/>
8	NAMELESS	TextBox		<input type="checkbox"/>
9	Credit	TextBox	\$0.00	<input type="checkbox"/>
10	Balance	TextBox	\$0.00	<input type="checkbox"/>
11	Currency	ComboBox	US Dollar (\$)	<input type="checkbox"/>
12	Currency	TextBox	US Dollar (\$)	<input type="checkbox"/>
13	Currency	ListView		<input type="checkbox"/>
14	Carrier	ComboBox		<input type="checkbox"/>
15	Carrier	TextBox		<input type="checkbox"/>
16	Carrier	ListView		<input type="checkbox"/>
17	Emergency Phone	TextBox		<input type="checkbox"/>
18	NAMELESS	TextBox		<input type="checkbox"/>
19	Email	TextBox		<input type="checkbox"/>
20	Alternate Contact 3	TextBox		<input type="checkbox"/>

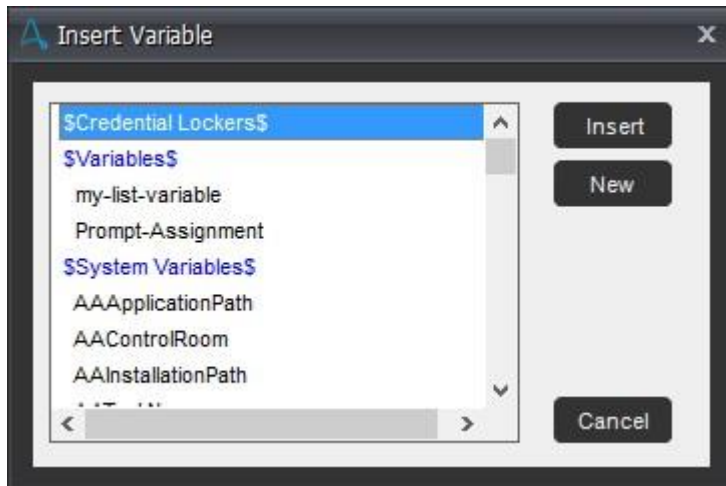
Click 'Unlock' icon to change the execution order

Press F2 to insert variable. Save Cancel

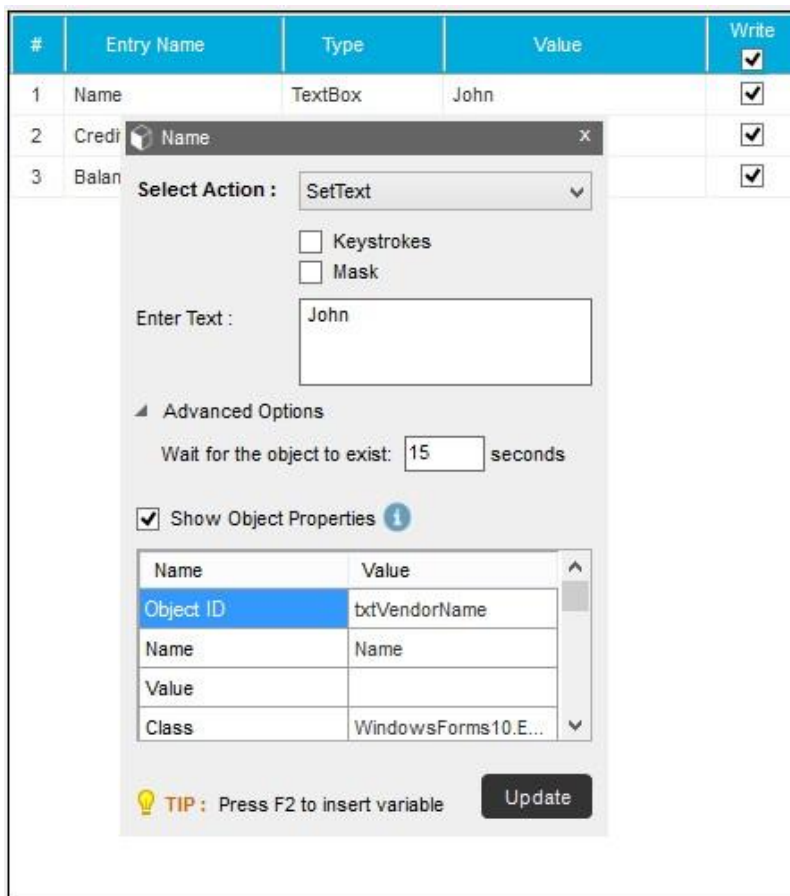
- 変数の直接の割り当て([Value](値)への割り当て)または間接の割り当て(次に示すようにテキスト文書からの値の割り当て)のいずれかを使用できます。





- 情報やその他の機密データを使用する変数には Credential Variable を使用します。[変数の挿入]の[\$CredentialVariables\$]の下にリストされている必要な変数を選択します。詳しくは「[Credential Variables を割り当てる](#)」を参照してください。
- 挿入しても表示されない場合、変数を作成することもできます。[Value](値)フィールドで F2 を押し、[Insert Variable](変数を挿入)ダイアログを開きます。[New](新規)をクリックして変数を作成します。



- [Properties] (プロパティ) ウィンドウを使用してオブジェクトの値を挿入することもできます。検索条件などプロパティを追加して設定するには、対応するオブジェクトの行の上でダブルクリックして、プロパティを更新します。

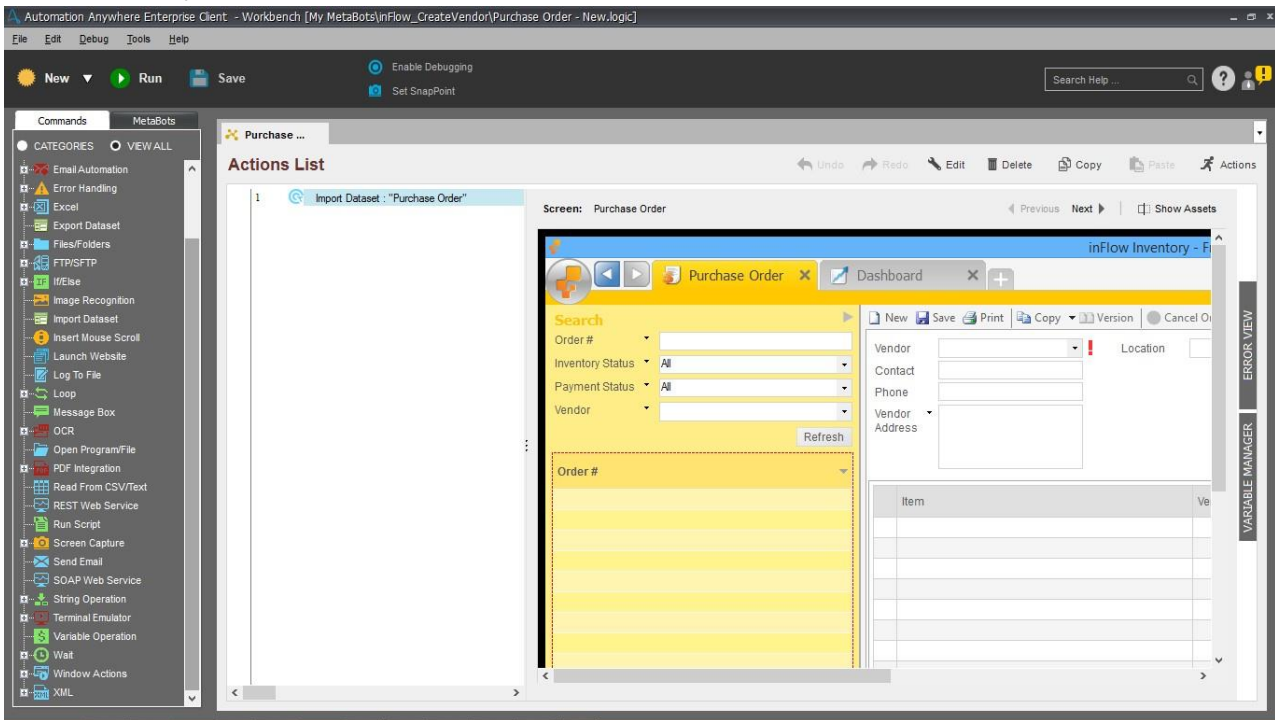


- [Select Action] (アクションの選択) でロジックの実行中に必要なアクションを選択します。これは必要に応じて変更できます。
  - 任意で、Insert Keystrokes (キーストロークを挿入)、キーストロークの Mask (隠す) を選択します。
  - [Enter Text] (テキストを入力) に必要なテキストを入力します。
  - [Advanced Options] (詳細オプション) で次を指定します。
    - Wait for the object to exist (オブジェクトが表示されるまでの待機時間)。これは必要に応じて変更できます。
    - 任意で、コマンドの実行で使用する [Object Properties] (オブジェクトのプロパティ) を表示します。
  - 編集モードの場合は [Save] (保存) または [Update] (更新) を選択します。
- デフォルトでは、すべてのフィールドが表示されます。値を挿入するフィールドを選択し、それらを保存した後に編集モードで開くと、そのフィールドのみが表示されます。すべてを表示するには、[Show All] (すべてを表示) をクリックします。
  - 自動化の実行時にオブジェクトの値が入力されるシーケンスを変更することもできます。これを行うには、 をクリックする必要があります。

あります。これがデフォルトの状態です。シーケンスをロックするには、 をクリックします。ロックするとシーケンスは変更されなくなります。

- 表示されるデータは[Type] (タイプ) 別にフィルターし、[Type] (タイプ) 列と[Entry] (入力) 列と並べ替えることができます。

5. ロジックにより、Import Dataset (データセットをインポート) コマンドがイベントデータに反映されます。




6. 保存します。




ヒント: [Save] (保存) ボタンは、[Write] (書き込み) 用に選択されたすべてのオブジェクト値が入力されるまで無効です。

更新されることが多いアプリケーションについては、Import Dataset (データセットをインポート) コマンドで使用するスクリーンを較正することをおすすめします。これは、実行中の MetaBot に影響する場合があります。

 備考: OCR モード、IR モード、混在モードでフォームに入力できます。

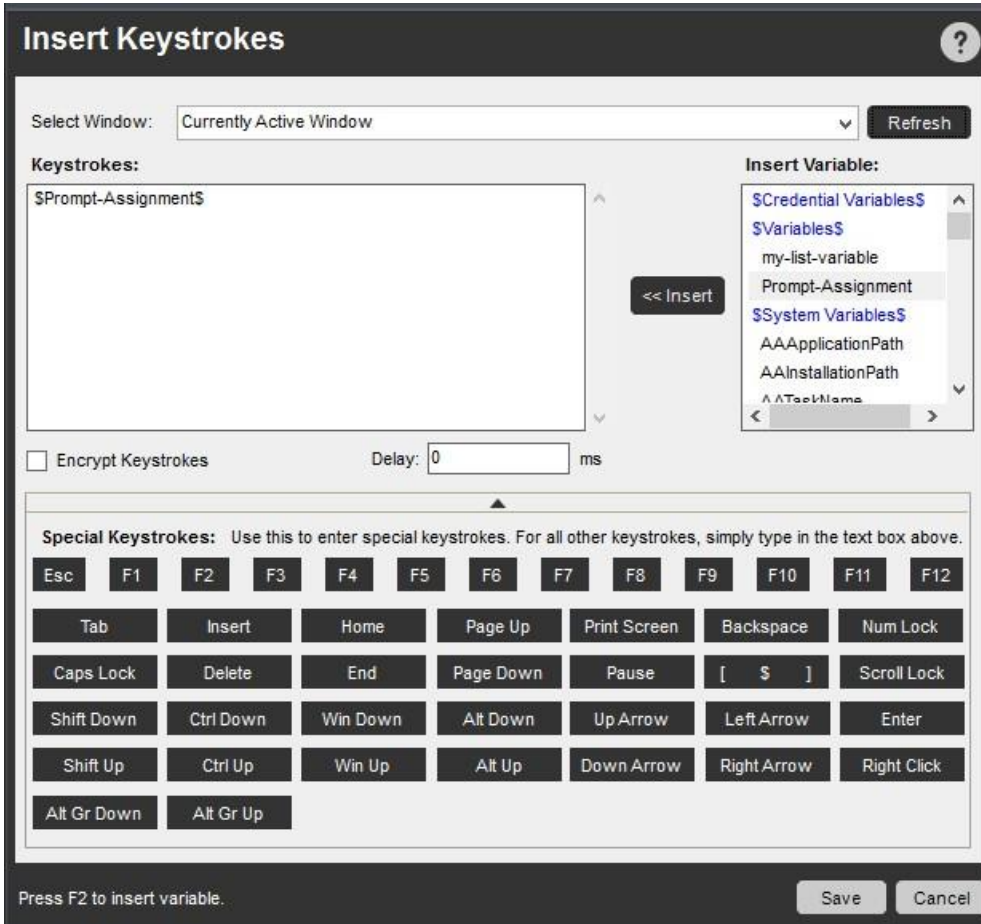
## Keystrokes (キーストロークを挿入) コマンド

オートメーション TaskBot/MetaBot Logic を使用してアプリケーションでキーストロークの入力を自動化するには、このコマンドを使用します。


 備考: サポートされている地域設定 - 英語、ドイツ語、フランス語、イタリア語、スペイン語

キーストロークを挿入するには、次の手順を実行します。

1. TaskBot または MetaBot Logic を Workbench で開きます。
2. Insert Keystrokes (キーストロークを挿入) コマンドをダブルクリックするか、[Task Actions List] (タスクアクションリスト) ペインまでドラッグします。[Insert Keystrokes] ウィンドウが表示されます。




3. [Select Window] (ウィンドウを選択) ドロップダウンリストから、キーストロークを入力するアプリケーションのタイトルを選択します。

 備考: 「F2」ファンクションキーを押して、ここに変数を挿入できます。ユーザー(ローカル)変数またはセキュリティ強化のために Credential Variable のいずれかを選択して挿入できます。

Credential Variable を使用するメリットについては、[こちら](#)を参照してください。

TaskBot/MetaBot Logic ですでに参照したアプリケーションは、ドロップダウンリストの先頭に表示されます。現在開いているアプリケーションは、リスト内の点線の下に表示されます。

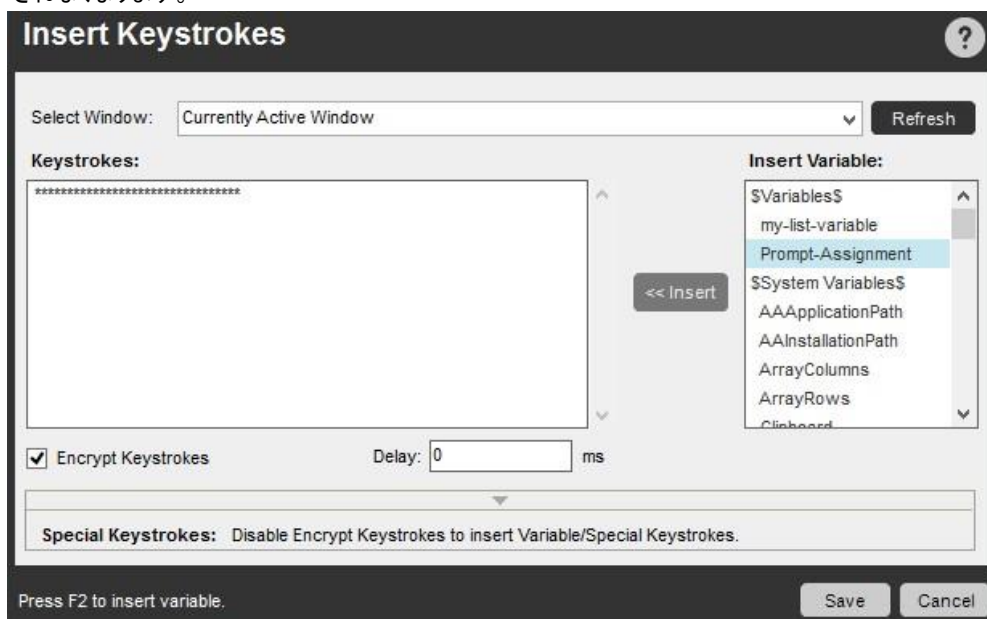
 ヒント: Insert Keystrokes (キーストロークを挿入) コマンドを使用する前に、アプリケーションのウィンドウが開いていることを確認します。アプリケーションが [Select Window] (ウィンドウを選択) ドロップダウンリストに表示されない場合は、アプリケーションを開き、[Insert Keystrokes] (キーストロークを挿入) の [Select Window] (ウィンドウを選択) ドロップダウンリストで [Refresh] (更新) ボタンをクリックします。

4. [Keystrokes] (キーストローク) テキストボックスに、TaskBot/MetaBot Logic の実行時に挿入するテキストを入力(または切り取り/貼り付け)します。

[Control] (コントロール)、[Shift] (シフト)、[Tab] (タブ) などの特別なキーストロークを挿入するには、[Special Keystrokes] (特別なキーストローク) ボックス内の該当するボタンをクリックします。

## Insert

- たとえば、TaskBot/MetaBot Logic でアプリケーションに[Ctrl+C]を入力する場合、[Ctrl Down]をクリック、「c」を入力、[Ctrl Up]をクリックします。[Keystrokes] (キーストローク) ウィンドウ内の次のコマンドとテキストが表示されます。[CTRL DOWN]c[CTRL UP]。同様に、[Ctrl+Shift+a]を入力する場合、[Ctrl Down]、[Shift Down]をクリック、「a」を入力、[Shift Up]、[Ctrl Up]をクリックします。
5. 無許可ユーザーによる TaskBot/MetaBot Logic の改ざんを防ぐには、[Keystroke Encryption] (キーストロークを暗号化) オプションを使用します。このオプションを使用すると、Insert Keystrokes (キーストロークを挿入) コマンドを使用して入力した機密情報やパスワードが表示されなくなります。



6. 必要に応じて、このコマンドに Delay を追加できます。

 備考: デフォルトの Delay は 0 (ゼロ) ミリ秒です。

Delay に変数を関連づけることもできます。

Delay :  ms

7. [Save] (保存) をクリックします。

### ワイルドカードを使用する

[Select Window] (ウィンドウを選択) テキストボックスで、ウィンドウのタイトルの始めか最後にワイルドカード文字(\*)を入力できます。これはたとえば、ウィンドウのタイトルが変わる可能性がある場合に役立ちます。たとえば、開いたドキュメントの名前を反映してウィンドウのタイトルが変更された場合にも TaskBot/MetaBot Logic の実行時にウィンドウが選択されるようにするには、「Microsoft Excel\*」、「\*Excel」、「\*Excel\*」と入力します。ただし、ウィンドウの正確なタイトルがわかっている場合は、アクションが常にそのウィンドウのみで実行されるように、完全なタイトルを入力することを推奨します。

## 関連トピック

- [Insert Mouse Click \(マウスクリックを挿入\) コマンド](#) • [Insert Mouse Move \(マウス動作を挿入\) コマンド](#)
- [Insert Mouse Scroll \(マウススクロールを挿入\) コマンド](#)  
[Mouse Click \(マウスクリックを挿入\) コマンド](#)

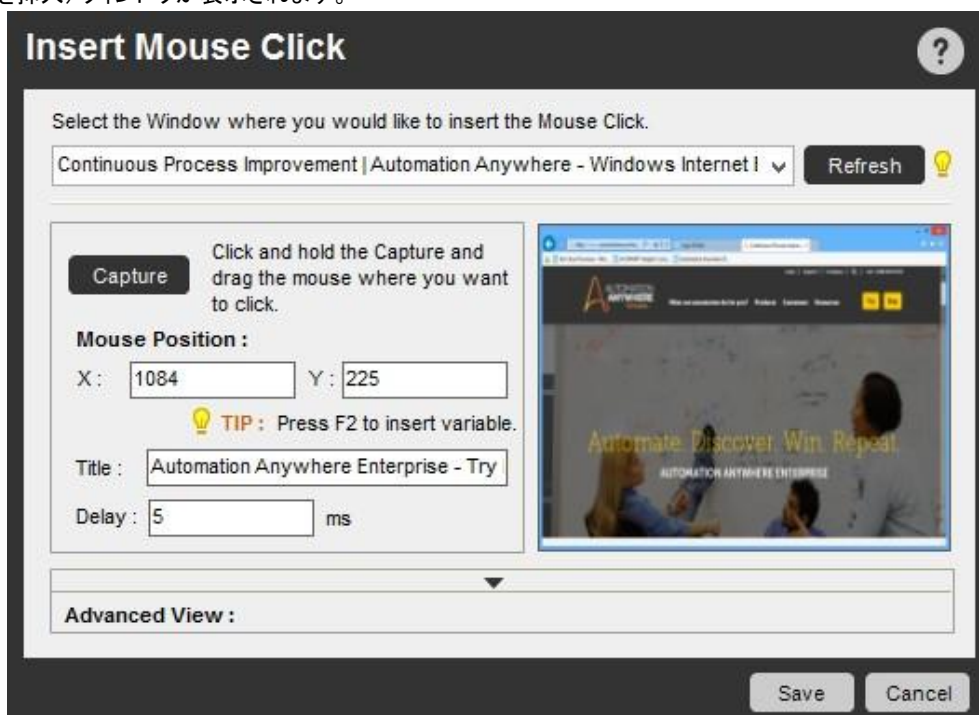
オートメーションの TaskBot/MetaBot Logic でマウスクリックを自動化するには、このコマンドを使用します。

Mouse Click (マウスクリック) コマンドを挿入するには、次の手順を実行します。

1. マウスクリックを入力するアプリケーションを開きます。




- Automation Anywhere の [Task List] (タスクリスト) で TaskBot/MetaBot Logic を選択し、[Edit] (編集) をクリックします。
- Workbench で、Insert Mouse Click (マウスクリックを挿入) コマンドをドラッグするか、ダブルクリックします。[Insert Mouse Click] (マウスクリックを挿入) ウィンドウが表示されます。



4. 上部のドロップダウンリストに、開いているアプリケーションがすべて表示されます。マウスクリックを入力するアプリケーションを選択します。選択したウィンドウの小さなグラフィック画像が表示されます。

ドロップダウンリストにアプリケーションが表示されない場合は、アプリケーションが開いていることを確認し、[Refresh] (更新) ボタンをクリックします。
5. タイトルが変わるアプリケーションの場合：アプリケーションウィンドウのタイトルが後に変わる可能性がある場合、指定するウィンドウのタイトルの最初か最後にワイルドカード文字(\*)を入力できます。これにより、TaskBot/MetaBot Logic の実行時にアプリケーションを確実に見つけることができます。

たとえば、Microsoft Excel アプリケーションを確実に見つけるには、「Microsoft Excel\*」、「\*Excel」、「\*Excel\*」と入力します。

 **備考：** アプリケーションのタイトルが絶対に変わらないと思われる場合は、TaskBot/MetaBot Logic が正しいアプリケーションウィンドウを確実に参照するように、正確な名前を指定します。

6. [Capture] (キャプチャ) をクリックします。Automation Anywhere は、手順 4 で選択したウィンドウをアクティブにします。ウィンドウ上で、マウスクリックを挿入する位置をクリックします。任意で、[Advanced View] (詳細ビュー) をクリックして、次のオプションを設定することもできます。

  - クリックするマウスボタンを選択します。[Left Button] (左ボタン)、[Middle Button] (中央ボタン)、または [Right Button] (右ボタン)。
  - クリックの種類を選択します。[Click] (クリック)、[Double Click] (ダブルクリック)、[Button Down] (ボタンダウン)、または [Button Up] (ボタンアップ)。
  - [Relative To Screen] (スクリーンとの相対) または [Window] (ウィンドウ) を選択します。解像度が異なるスクリーン (デュアルモニターなど) を操作する場合は、[Window] (ウィンドウ) オプションを使用します。
7. [保存] をクリックします。


セキュアレコーディングが [有効] の場合

 **備考：** 「Secure Recording mode」を有効にした場合、値や画像はキャプチャされません。詳しくは [こちらを参照してください](#)。


Insert

### Insert Mouse Click

Select the Window where you would like to insert the Mouse Click.

Calculator  

**Capture** Click and hold the Capture and drag the mouse where you want to click.

**Mouse Position :**  
X :  Y :   
 **TIP :** Press F2 to insert variable.

Title :

Delay :  ms

**Advanced View :**

Secure Recording Mode.  
Image not Captured.

#### 関連トピック

- [Insert Keystrokes \(キーストロークを挿入\) コマンド](#)
- [Insert Mouse Move \(マウス動作を挿入\) コマンド](#)
- [Insert Mouse Scroll \(マウススクロールを挿入\) コマンド](#)



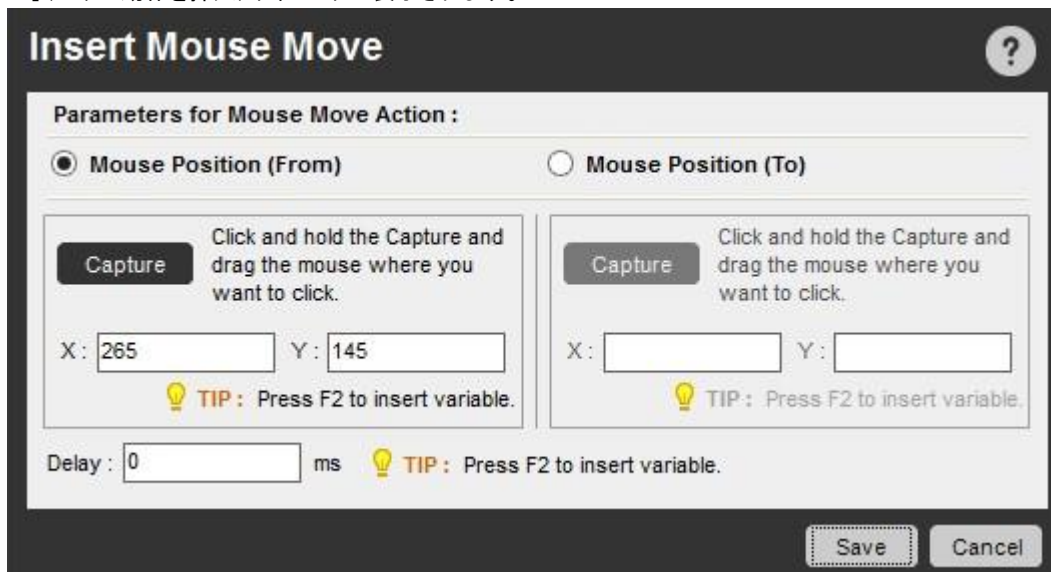
## Mouse Move(マウス動作を挿入)コマンド

ある地点から別の地点へのマウスの移動を自動化するには、Insert Mouse Move(マウス動作を挿入)コマンドを使用します。

Mouse Move(マウス動作)コマンドは、たとえば Windows の[スタート]メニューで、ある項目の上にマウスを移動すると新しいサブメニューを表示するなど、メニュー内の移動を自動化する際に役立ちます。マウスクリックを挿入する際、クリックする場所にマウスを移動させる必要はありません。

マウスのカーソル動作を記録するには、次の手順を実行します。

1. マウス動作を挿入するアプリケーションを開きます。
2. TaskBot または MetaBot Logic を Workbench で開きます。
3. [Task Actions List] (タスクアクションリスト)で、その後にマウス動作を挿入するアクションを選択します。
4. [Commands] (コマンド)リストで、Insert Mouse Move(マウス動作を挿入)コマンドをダブルクリックするか、ドラッグします。[Insert Mouse Move](マウス動作を挿入)ウィンドウが表示されます。



5. [Mouse Position (From)](マウス移動元)を選択し、[Capture](キャプチャ)ボタンをクリックして、マウス動作を挿入します。または、[Mouse Position (From)](マウス移動元)の X、Y 座標に数値を指定するか、F2 キーを押して変数を挿入することもできます。
6. [Capture](キャプチャ)をクリックすると、Automation Anywhere はアプリケーションでアクティブなウィンドウに切り替わります。
7. アクティブなウィンドウで、マウスの左ボタンをクリックして、マウス動作の開始地点にカーソルをドラッグします。マウスボタンを離します。この手順により、マウス動作の開始地点に関する必要な情報が自動的にキャプチャされます。
8. [Insert Mouse Move](マウス動作を挿入)ウィンドウで、[Mouse Position (To)](マウス移動先)を選択し、[Capture](キャプチャ)をクリックします。または、[Mouse Position (To)](マウス移動先)の X、Y 座標に数値を指定するか、F2 キーを押して既存の変数を挿入することもできます。クリックした内容がテーブルではない場合は、黄色のプロンプトバーが赤色に変わります。
9. [Capture](キャプチャ)をクリックすると、Automation Anywhere はアプリケーションでアクティブなウィンドウに切り替わります。
10. アクティブなウィンドウで、マウスの左ボタンをクリックして、マウス動作の終了地点にカーソルをドラッグします。マウスボタンを離します。
11. オプションで、ミリ秒単位で Delay を追加します。
12. [保存]をクリックします。

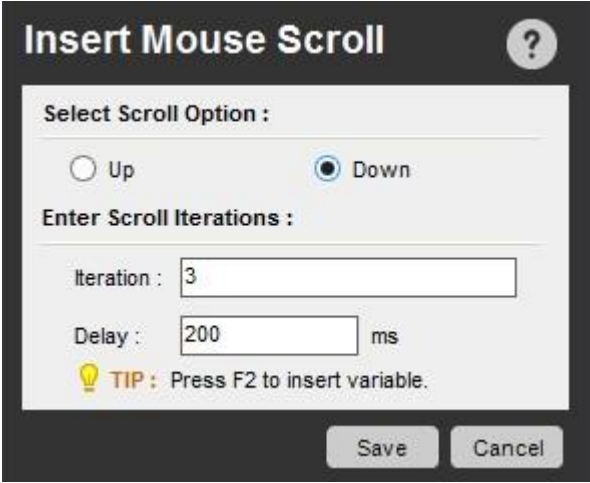
## 関連トピック

- [Insert Keystrokes\(キーストロークを挿入\)コマンド](#) • [Insert Mouse Click\(マウスクリックを挿入\)コマンド](#)
- [Insert Mouse Scroll\(マウススクロールを挿入\)コマンド](#)

## Insert

### Insert Mouse Scroll(マウススクロールを挿入)コマンド

マウススクロールの動作を自動化するには、このコマンドを使用します。このコマンドは Insert Mouse Click(マウスクリックを挿入)コマンドと組み合わせて使用します。



Mouse Scroll(マウススクロール)コマンドを挿入するには、次の手順を実行します。

1. マウススクロールの動作を挿入するアプリケーションウィンドウを選択します。
2. TaskBot または MetaBot Logic を Workbench で開きます。
3. Insert Mouse Scroll(マウススクロールを挿入)コマンドをダブルクリックするか、[Task Actions List](タスクアクションリスト)内の必要な位置までドラッグします。[Insert Mouse Scroll](マウススクロールを挿入)ウィンドウが表示されます。
4. スクロール方向のオプションとして、[Up](上)か[Down](下)を選択します。
5. 反復回数を入力します。
6. 必要な Delay 時間を指定します。
7. [保存]をクリックします。マウススクロールアクションが TaskBot/MetaBot ロジックに挿入されます。

---

## 関連トピック

- [Insert Keystrokes\(キーストロークを挿入\)コマンド](#)
- [Insert Mouse Click\(マウスクリックを挿入\)コマンド](#)
- [Insert Mouse Move\(マウス動作を挿入\)コマンド](#)

## Internet Connection(インターネット接続)コマンド

ダイヤルアップ接続を使用して、タスクを自動的にインターネットに接続するには、このコマンドを使用します。

Internet Connection(インターネット接続)コマンドを使用するタスクに Internet Connection(インターネット接続)コマンドを挿入するには、次の手順を実行します。

1. [Internet Connection](インターネット接続)コマンドをダブルクリックするか、[Task Actions List](タスクアクションリスト)ペインまでドラッグします。[Internet Connection](インターネット接続)ウィンドウが表示されます。
2. ドロップダウンリストからダイヤルアップ接続を選択します。
3. 接続が失敗した場合に再試行するかどうかを指定します。接続を試行する回数と、試行間の時間間隔を指定できます。
4. [Save](保存)をクリックして、自動化タスクにコマンドを保存します。

ダイヤルアップ接続を切断する Disconnect(切断)コマンドをタスクに挿入することもできます。



エラーメッセージドロップダウンリストで接続を選択または指定しない場合、プログラムによりエラーが表示されます。

 備考: このコマンドでは、ダイヤルアップ接続のみ使用できます。

## 関連トピック

- [FTP/SFTP コマンド](#)
- [Launch Website\(Web サイト起動\)コマンド](#)
  - [Send Email\(メールを送信\)コマンド](#)
  - [Web Recorder\(Web レコーダー\)コマンド](#)
  - [Web Service\(Web サービス\)コマンド](#)
- [Launch Website\(Web サイト起動\)コマンド](#)

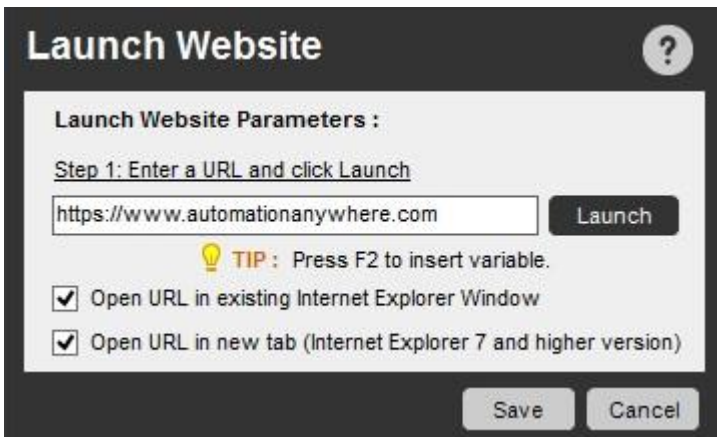
このコマンドを使用すると、自動化された TaskBot や MetaBot のロジック内で Web サイトが開きます。

Launch Website(Web サイト起動)コマンドを使用する

TaskBot/MetaBot ロジックで Web サイトを開くには、次の手順を実行します。

1. TaskBot または MetaBot Logic を Workbench で開きます。
2. [Web サイト起動]コマンドをダブルクリックするか[タスクアクションリスト]にドラッグします。[Web サイト起動]ウィンドウが表示されます。
3. 起動する Web サイトの URL を指定します。
4. [起動]をクリックします。

5. Web サイトのタイトルを選択します。タイトルが表示されていない場合は、[リフレッシュ]をクリックします。
6. コマンドを保存します。



**Launch Website** ?

**Launch Website Parameters :**

Step 1: Enter a URL and click Launch

https://www.automationanywhere.com **Launch**

**TIP:** Press F2 to insert variable.

Open URL in existing Internet Explorer Window

Open URL in new tab (Internet Explorer 7 and higher version)

**Save** **Cancel**

### 関連トピック

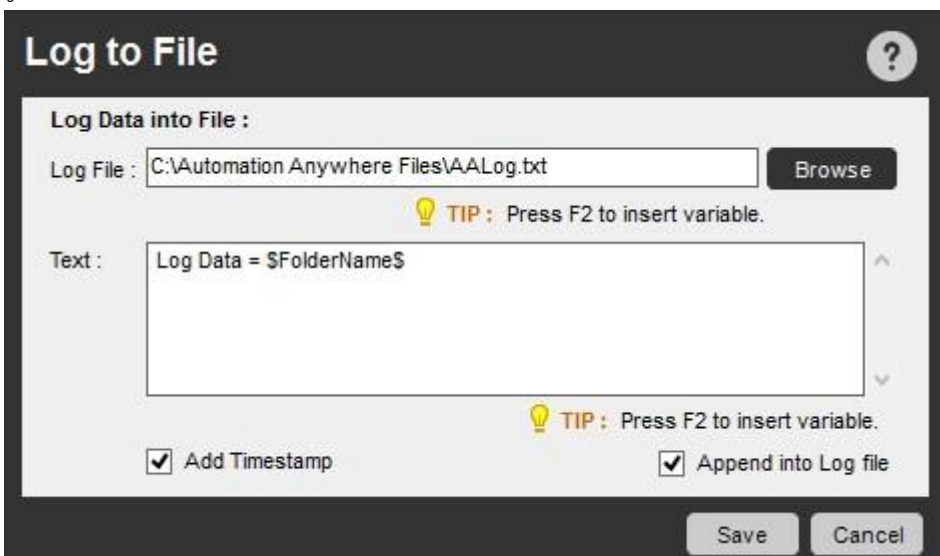
- [FTP/SFTP コマンド](#)
- [Internet Connection\(インターネット接続\)コマンド](#) • [Send Email\(メールを送信\)コマンド](#)
- [Web Recorder\(Web レコーダー\)コマンド](#) • [Web Service\(Web サービス\)コマンド](#) [Log-to-File\(ファイルにログ\)コマンド](#)

Log to File(ファイルにログ)コマンドを使用すると、ログファイルを作成し、そのファイルに TaskBot/MetaBot ロジックの実行中に TaskBot/MetaBot ロジック情報を保存できます。

#### 概要

詳細な TaskBot/MetaBot ロジック情報のログ作成は、自動化 TaskBot/MetaBot ロジックの最適化とデバッグで重要となる側面です。Automation Anywhere では、TaskBot/MetaBot ロジックの実行中に発生するイベントに関する有用なデータの詰まったログファイルを簡単に作成することができます。

ログファイルは.csv や.txt を含むいくつかのファイル形式で保存できます。ログファイルは ANSI、Unicode、UTF8 のオプションでエンコードされます。



**Log to File** ?

**Log Data into File :**

Log File : C:\Automation Anywhere Files\AAALog.txt **Browse**

**TIP:** Press F2 to insert variable.

Text : Log Data = \$FolderName\$

**TIP:** Press F2 to insert variable.

Add Timestamp  Append into Log file

**Save** **Cancel**

	A
1	(27-11-2013 16:42:29) my-value-1
2	(27-11-2013 16:44:13) D:\AA001\My Documents\Automation Anywhere Files
3	

Log to File(ファイルにログ)コマンドでは、以下を実行できます。

- 特に、TaskBot/MetaBot に複雑な条件やループを持つコマンドが組み込まれている場合に、TaskBot/MetaBot が正常に実行されたことを確認します。
- すでにログファイルが存在しなくなっている場合、新しいログファイルを作成します。
- ログファイルに書き込むカスタムテキストを指定します。
- ログファイルにタイムスタンプを追加します。
- ログファイルを変数として使用します。

## 関連トピック

- [File and Folder\(ファイルとフォルダー\)コマンド](#)
  - [Window Actions\(ウインドウアクション\)コマンド](#)
  - [Loop\(ループ\)コマンド](#)

このコマンドを使用すると、自動化 TaskBot/MetaBot ロジック内にループ構造を作成し、TaskBot/MetaBot ロジックの反復を自動化できます。

### 概要

Loop(ループ)コマンドは Automation Anywhere で最も強力なコマンドの 1 つです。次の 4 種類のループ構造が提供されています。

- Start Loop(ループ開始) • End Loop(ループ終了) • Exit Loop(ループ退出)
- Continue Loop(ループ継続) サブコマンド

LOOP(ループ)コマンドには、次のサブコマンドが用意されています。

- Start Loop(ループ開始) • Times(回数)
  - List(リスト)
- Condition(条件)
- Excel データセットの各行
- Internet Explorer テーブルの各行 • SQL クエリデータセットの各行 • フォルダー内の各ファイル
- フォルダー内の各フォルダー
- CSV またはテキストファイルの各行
- サーバーの各メールメッセージ • XML データセットの各ノード • End Loop(ループ終了)
  - Exit Loop(ループ退出)
- Continue Loop(ループ継続) サブコマンドを使用する

TaskBot/MetaBot ロジックに Loop(ループ)コマンドを挿入するには、次の手順を実行します。

1. Loop(ループ)コマンドの 1 つをダブルクリックするか、Task Actions List ペインまでドラッグします。[ループ]ウインドウが表示されます。
2. 各フィールドで必要なパラメーターを指定します。
3. [Save](保存)をクリックして自動化 TaskBot/MetaBot Logic にコマンドを保存します。

Start Loop(ループ開始)コマンド次のコマンドは Start

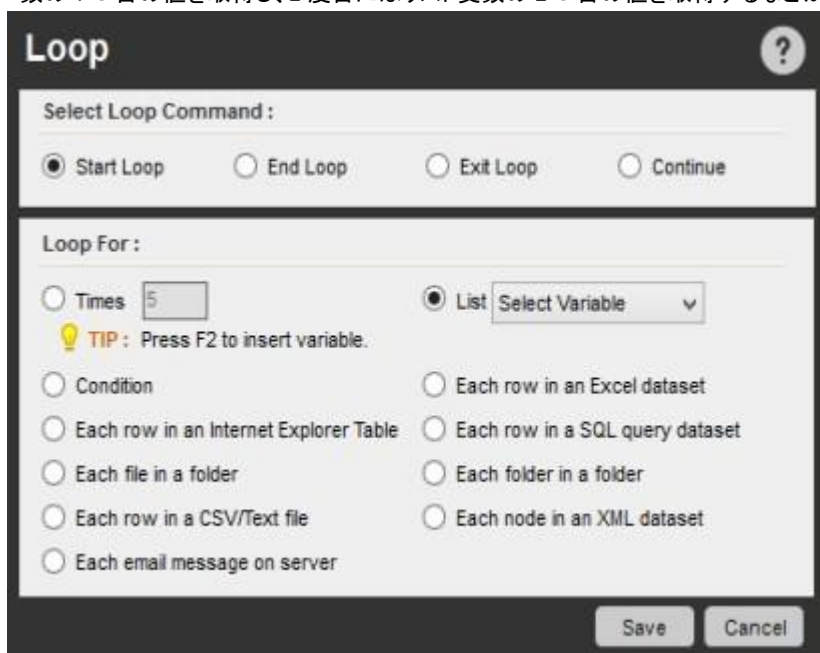
Loop(ループ開始)コマンドです。

1. Times(回数) : このコマンドを使用すると、回数を指定してループを実行できます。このコマンドでは、Start Loop(ループ開始)コマンドから End

Loop(ループ終了)コマンドまでのアクションを指定した回数だけループします。たとえば、所定のアクションを 5 回繰り返す場合、Start Loop(ループ開始)コマンドと End Loop(ループ終了)コマンドの間にそのアクションを配置し、「5」と指定します。



2. List(リスト) : このコマンドは、TaskBot/MetaBot ロジックをループさせる必要のある回数がない場合に使用します。複数の値を含むリスト変数がある場合、List(リスト)コマンドを使用すると、リスト末尾に達するまでリスト全体を通してループを実行します。このコマンドを使用すると、リスト末尾に達するまで必要な回数のみ、Start Loop(ループ開始)コマンドから End Loop(ループ終了)コマンド間でのブロック内に記載したアクションを繰り返すことができます。ループ内ではリスト変数の値にアクセスできます。たとえば、ループの初回実行時にはリスト変数の 1 つ目の値を取得し、2 度目にはリスト変数の 2 つ目の値を取得するなどが可能です。



3. 条件 : このコマンドを使用すると、既存の条件に基づいてアクションを実行できます。たとえば、ファイルが存在するかどうかに基づいて一連のアクションを繰り返すことができます。チェックボックスを選択すると、反復を終了する条件を確認できます。

条件が真になるまでの「待機」時間を任意で追加できます。



### Loop

Select Loop Command :

Start Loop   
  End Loop   
  Exit Loop   
  Continue

---

Loop For :

Times    
  List

**TIP** : Press F2 to insert variable.

Condition   
  Each row in an Excel dataset  
 Each row in an Internet Explorer Table   
  Each row in a SQL query dataset  
 Each file in a folder   
  Each folder in a folder  
 Each row in a CSV/Text file   
  Each node in an XML dataset  
 Each email message on server

Save Cancel

### Loop While

Select Condition :

File exists   
  File does not exist  
 Folder exists   
  Folder does not exist  
 Window exists   
  Window does not exist  
 Application running   
  Application not running  
 Ping successful   
  Ping unsuccessful  
 Variable   
  Web Control  
 File date   
  File size  
 Service running   
  Service not running  
 Image Recognition   
  Windows Control  
 Object Properties

Select File

**TIP** : Press F2 to insert variable.

How long would you like to wait for this condition to be true (in seconds)?

Check the condition at the end of the iteration

Save Cancel

Loop While > Variable (条件を指定して条件に適合する間のみループを実行 > 変数) コマンドで AND または OR 演算子を使用する

Variable (変数) サブコマンドと組み合わせて「AND」または「OR」条件を含める必要がある場合は、[条件を追加] オプションを使用します。これに必要な「AND」と「OR」の条件をすべて 1 つのパラメーター内に組み込むことができ、条件ごとに別々のパラメーターを指定する必要がなくなります。



「OR」条件には「いずれかが一致」オプション、「AND」条件には「すべて一致」オプションを有効にします(下の画像を参照)

Variable	Operator	Value Type	Value / Variable
<input type="checkbox"/> Trial_Period	Select Operator	Fixed	14
<input type="checkbox"/> Trial_Run	Select Operator	Variable	Trial_Run

備考: 「いずれかが一致」と「すべて一致」の両方を含めることはできません。TaskBot/MetaBot ロジック内で個別に指定する必要があります。

同様の条件が IF Variable (IF 変数) コマンドでも適用されます。詳しくは、「[IF/ELSE \(複数条件分岐\) コマンド](#)」を参照してください。

- Excel データセットの各行: このコマンドは、Excel コマンドの複数のセルを取得サブコマンドと組み合わせて使用します。Excel のセル範囲を Excel > Get Cells > Get Multiple Cells で取得したとき、該当する範囲の行と列がこのシステム変数内に保存されます:\$Excel Column\$。



**Loop**

Select Loop Command :

Start Loop     End Loop     Exit Loop     Continue

Loop For :

Times      List

**TIP:** Press F2 to insert variable.

Condition     Each row in an Excel dataset

Each row in an Internet Explorer Table     Each row in a SQL query dataset

Each file in a folder     Each folder in a folder

Each row in a CSV/Text file     Each node in an XML dataset

Each email message on server

Session Name :

**TIP:** Press F2 to insert variable.

Save    Cancel

たとえば、Excel から列を 5 つ含むセル範囲を取得する場合、`$Excel Column(1)$`、`$Excel Column(2)$`、`$Excel Column(3)$`、`$Excel Column(4)$`、`$Excel Column(5)$`を呼び出してこのテーブル内の 5 列にアクセスできます。Excel のスプレッドシート間で、または Excel から他のアプリケーションにデータを移すとき、このコマンドは非常に役立ちます。

- Internet Explorer テーブルの各行: このコマンドは、Web Recorder(Web レコーダー)コマンドのテーブルを抽出サブコマンドと組み合わせて使用します。Web Recorder のテーブルを抽出コマンドを使用してテーブルを抽出するとき、そのテーブルの行と列はこのシステム変数内に保存されます:`$TableColumn$`。たとえば、列を 5 つ含むテーブルを抽出する場合、`$Table Column(1)$`、`$Table Column(2)$`、`$Table Column(3)$`、`$Table Column(4)$`、`$Table Column(5)$`を呼び出してこの 5 列にアクセスできます。他の Web ページや Excel のスプレッドシートなどの他のアプリケーションに Web ページのテーブルのデータを移すとき、このコマンドは非常に役立ちます。
- SQL クエリデータセットの各行: このコマンドは Database(データベース)コマンドと組み合わせて使用します。Automation Anywhere データベース SQL クエリコマンドを使用して SQL クエリを発行するとき、この SQL クエリで設定された結果が次のシステム変数に保存されます:`$DatasetColumn$`。

たとえば、データベースで 5 列を含むデータを検索する SQL クエリを発行するとします。`$Dataset Column(1)$`、`$Dataset Column(2)$`、`$Dataset Column(3)$`、`$Dataset Column(4)$`、`$Dataset Column(5)$`を呼び出して、この結果セット内の 5 列にアクセスできます。他の Web ページや Excel のスプレッドシートといった他のアプリケーションにデータベースのデータを移すとき、このコマンドは非常に役立ちます。

- フォルダー内の各ファイル: このコマンドを使用すると、フォルダー内のすべてのファイルに対してアクションを実行できます。フォルダーに含まれるファイルの数は、変化する場合があります。フォルダーを指定すると、フォルダー内のすべてのファイルについてループを実行できます。

次のシステム変数を使用すると、該当するファイルとフォルダーの情報を取得できます。

- `$FileName$`- この変数を使用すると、ファイルの名前を取得できます。
- `$Extension$`- この変数を使用すると、ファイルの拡張子を取得できます。
- `$CurrentDirectory$`- この変数を使用すると、ファイルが保存されているフォルダーへのパスを取得できます。

ループコマンド外でこれらのシステム変数を使用した場合、空の値が返されます。

- フォルダー内の各フォルダー: このコマンドを使用すると、1 つまたは複数のフォルダーに対してアクションを実行できます。ループ内でフォルダー名にアクセスするとき、このシステム変数を使用します:`$FolderName$`。
- CSV またはテキストファイルの各行: このコマンドを使用すると、CSV またはテキストファイル内に含まれる行ごとにループを実行できます。
- サーバーの各メッセージでループを実行: このコマンドを使用すると、メールサーバーに存在しているメッセージごとにアクションを実行できます。件名、本文、宛先、Cc、添付などのメール属性を保存するとき、このコマンドを使用できます。
- XML データセットの各ノード: このコマンドを使用すると、XML データセットの各ノードにループを実行し、複数のノードから値を取得できます。

#### End Loop(ループ終了)コマンド

このコマンドを使用すると、ループを終了できます。選択したループタイプに合わせ、Start Loop(ループ開始)コマンドから End Loop(ループ終了)コマンドまでの間に記載したアクションを繰り返すことができます。

Start Loop(ループ開始)コマンドを挿入すると、End Loop(ループ終了)コマンドも挿入されます。End Loop(ループ終了)を誤って削除した場合は、改めてコマンドを挿入できます。

#### Exit Loop(ループ退出)コマンド

このコマンドを使用すると、特定のアクションまたは条件が発生したとき、ループから抜けることができます。Exit Loop(ループ退出)コマンドは、Start Loop(ループ開始)コマンドと End Loop(ループ終了)コマンドの間のみ配置できます。

#### Continue Loop(ループ継続)コマンド

このコマンドを使用すると、特定のアクションまたは条件が発生したとき、次のループの反復を続行します。Continue Loop(ループ継続)コマンドに達すると、End Loop(ループ終了)までのコマンドがスキップされ、次のループの反復が実行されます。


---

### 関連トピック

- [If Else\(複数条件分岐\)コマンド](#)

## Manage Windows Controls(ウィンドウズコントロールを管理)コマンド

このコマンドを使用すると、ボタン、リストボックスアイテム、テキストボックス、メニュータブ、コンボボックス、チェックボックス、テーブルなど、Windows コントロールのプロパティをキャプチャできます。

 備考: [セキュアコーディングモード]を有効にすると、値はキャプチャされません。詳しくは[こちら](#)を参照してください。


このコマンドを使用すると、これらのコントロールに対してアクションを実行したり、キャプチャしたプロパティを変数に割り当てたりすることができます。

実行するアクションを同時に記録する目的でも、このコマンドを使用できます。

次のリストは、ユーザーがキャプチャできる Windows コントロールと実行可能なアクションを示しています。

### コントロール - アクション

1. ボタン - Click(クリック)、テキストを取得
2. 編集(テキストボックス) - テキストを取得、テキストを設定、テキストを追加、リンクをクリック

 備考: [テキストを設定]や[テキストを追加]の使用時に変数を挿入できます。テキストを暗号化する必要がある場合は、Credential Variables を使用することによって、セキュリティを強化できます。詳しくは[こちら](#)を参照してください。

3. RadioButton(ラジオボタン) - ラジオボタンのステータスを取得、ラジオボタンを選択
4. Checkbox(チェックボックス) - チェックボックスのステータスを設定、チェックボックスのステータスを取得
5. ComboBox(コンボボックス) / Drop Down(ドロップダウン) - アイテムの合計を取得、選択したインデックスを取得、選択したアイテムを取得、インデックス別にアイテムを選択、テキスト別にアイテムを選択
6. テキストを取得 - リンクをクリック、すべての子の名前を取得、すべての子の値を取得、値のテキストを取得、名前のテキストを取得
7. Tab(タブ) / TabItem(タブアイテム) - アイテムの合計を取得、選択したインデックスを取得、選択したアイテムを取得、インデックス別にタブを選択、テキスト別にタブを選択
8. List(リスト) / ListItem(リストアイテム) - アイテムの合計を取得、選択したインデックスを取得、選択したアイテムを取得、インデックス別にアイテムを選択、テキスト別にアイテムを選択
9. Menu(メニュー) / MenuBar(メニューバー) / MenuItem(メニューアイテム) - アイテムの合計を取得、インデックス別にテキストを取得、テキスト別にインデックスを取得、インデックス別にアイテムをクリック、テキスト別にアイテムをクリック
10. Tree(ツリー) / Tree Item(ツリーアイテム) - アイテムの合計を取得、選択したインデックスを取得、選択したアイテムを取得、インデックス別にアイテムを選択、テキスト別にアイテムを選択
11. Table(テーブル) - CSV 形式でエクスポート、インデックス別にセルを取得、テキスト別にセルを取得、行の合計、列の合計、インデックス別にセルを設定、テキスト別にセルを設定

次のアクションは、すべての Windows コントロールに共通です。

- 左マウスクリック
- 右マウスクリック
- ダブルクリック

## Manage Windows Controls

**Select Option :**

Enterprise | Automation Anywhere - Windows Ir Refresh

**Capture** Click and hold the Capture button and drag the mouse on the control that you want to capture.

---

**Control Properties :**

Control Type : LINK  
 Name : Buy NOW Call for pricing  
 Value : https://www.automationanywhere.com/buy  
 Location : X=990,Y=711,Width=263,Height=40

Wait for the control to exist (in seconds) :

Capture a control of a specific type

**Select Action :**

Click on Link ▼

特定タイプのコントロールを取得する

[特定タイプのコントロールを取得する]チェックボックスを使用すると、キャプチャするコントロールリストから選択できます。このオプションを使用した場合、このコントロールのみがキャプチャされます。このオプションは、複数の異種属性を持つ特定のコントロールをクリックしたとき発生し得るエラーを回避するのに役立ちます。

## Manage Windows Controls

**Select Option :**

Enterprise | Automation Anywhere - Windows Ir Refresh

**Capture** Click and hold the Capture button and drag the mouse on the control that you want to capture.

---

**Control Properties :**

Control Type : LINK  
 Name : Buy NOW Call for pricing  
 Value : https://www.automationanywhere.com/buy  
 Location : X=990,Y=711,Width=263,Height=40

Wait for the control to exist (in seconds) :

Capture a control of a specific type


**Select Action :**

Click on Link ▼

Get Text ▼

- Get Text ▲
- Command Button
- Drop Down
- List Box
- Text Box
- Radio Button
- Check Box
- Status Bar ▼

キャプチャされたコントロールは、[コントロールプロパティ]下に表示され、[コントロールタイプ]、[名前]、[値]、[場所] (座標)が表示されます。

 備考: Automation Anywhere では、標準の Windows コントロールのみを使用するアクションを実行できます。お使いのアプリケーションに、カスタマイズされたコントロールが含まれる場合、Automation Anywhere ではキャプチャできない場合があります。

#### Web コントロールをキャプチャする

Web コントロールをキャプチャするには、必ず Web レコーダーコマンドの Web コントロールを管理サブコマンドを使用し、Manage Windows Controls (ウィンドウズコントロールを管理) コマンドは使用しません。Internet Explorer コントロールは、Web コントロールを管理コマンドで認識されます。

---

#### 関連トピック

- [Log-to-File\(ファイルにログ\)コマンド](#)
- [Window Actions\(ウィンドウアクション\)コマンド](#)

## Message Box (メッセージボックス) コマンド

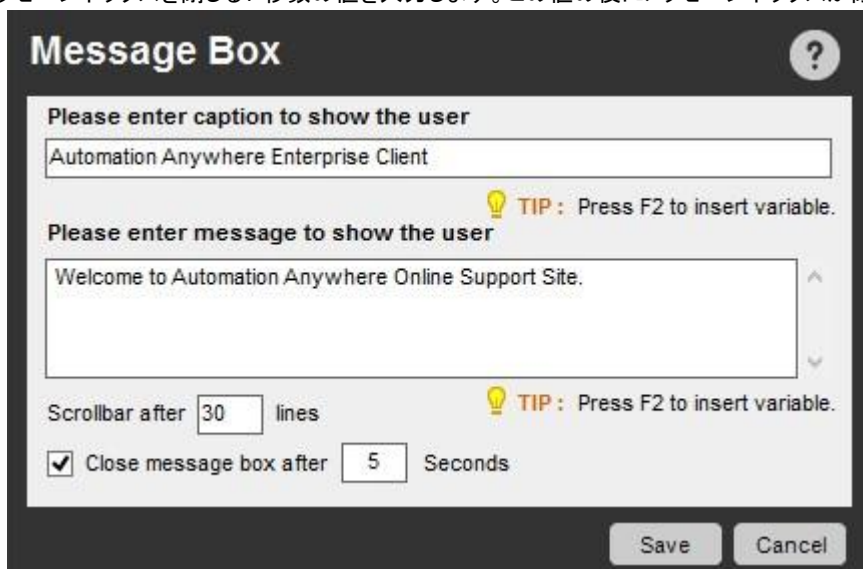
このコマンドを使用すると、自動化された TaskBot/MetaBot ロジックにメッセージボックスを挿入できます。

### 概要

Message Box (メッセージボックス) コマンドでは、TaskBot/MetaBot ロジックにメッセージボックスを挿入して、TaskBot/MetaBot ロジック実行時にユーザーにメッセージを表示できます。メッセージボックスのカスタムキャプションを指定できます。

メッセージボックス内にある次のコンポーネントを指定できます。

- キャプション: メッセージボックスのキャプション名を入力します。
- メッセージ: ダイアログボックスにメッセージを入力します。
- スクロールバー: メッセージにスクロールバーを挿入します。スクロールバーに表示されるメッセージの最小長は 10 行です。
- メッセージボックスを閉じる: 秒数の値を入力します。この値の後にメッセージボックスが閉じられます。



一般的な使用事例: メッセージボックスは、TaskBot/MetaBot ロジックの実行終了時に、ユーザーにメッセージを発行するのに役立ちます。たとえば、Web 形式の TaskBot/MetaBot ロジックで実行が完了するとき、次のように伝えるメッセージを発行できます。「Web フォーム入力完了」

## 関連トピック

- [Prompt \(プロンプト\) コマンド](#)

### Object Cloning (オブジェクトクローニング) コマンド

Automation Anywhere には、アプリケーションに特化したテクノロジーを使用するタスクを作成および再生する Object Cloning (オブジェクトクローニング) コマンドが用意されています。

Object Cloning (オブジェクトクローニング) コマンドは、Flex、Silverlight、Java、HTML などのテクノロジーを使用するウィンドウ内のオブジェクトをキャプチャするとき、特に役立ちます。

このコマンドを使用すると、デスクトップおよび Web ベースのアプリケーションからオブジェクト、その座標および画像をキャプチャできます。そして、キャプチャしたオブジェクトに対して実行できるアクションを選択できます。

 備考: Object Cloning (オブジェクトクローニング) コマンドは、Internet Explorer、Chrome、Mozilla Firefox、Edge\* をサポートしています。

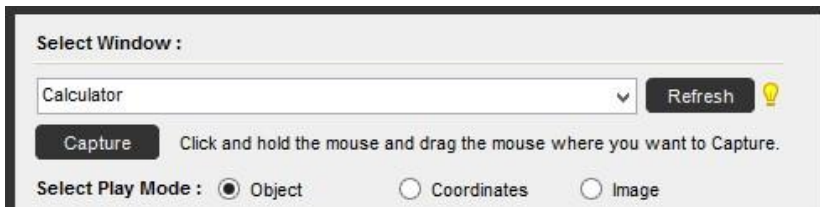
\*Microsoft Windows 10 の自動化に適用可能






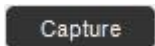
1 つのウィンドウを選択するオブジェクトとそのパラメーター(座標や画像など)をキャプチャするには、自動化するアプリケーションを起動し、次の手順を実行します。


1. オブジェクトをキャプチャするウィンドウを 1 つまたは複数、選択します。



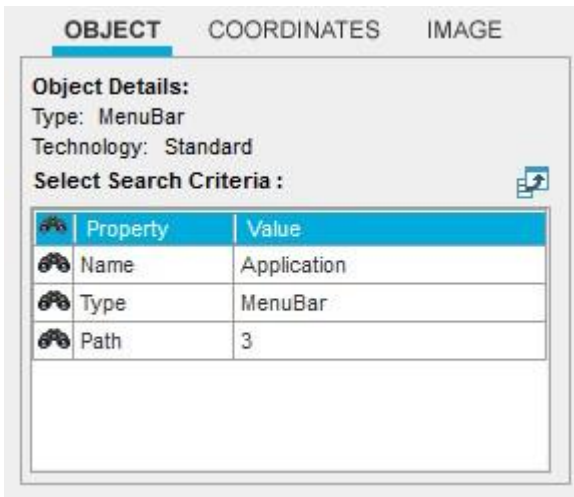
 ヒント: ドロップダウンリストに表示されていない場合、[リフレッシュ]をクリックします。


2. [Capture](キャプチャ)をクリックし、マウスを長押ししたまま、キャプチャするオブジェクトにドラッグします。



 備考: 選択したオブジェクトは赤い枠線で強調表示されます。

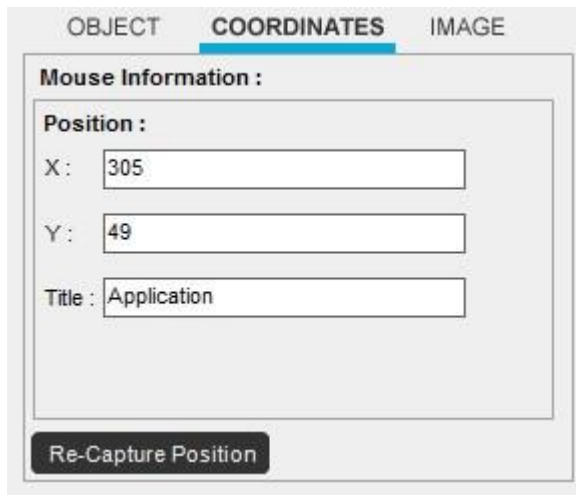
- オブジェクトがキャプチャされ、[オブジェクト]タブに表示されます



 備考: このコマンドでは、オブジェクトの座標と画像が同時にキャプチャされます。


再生モードを選択する

座標: オブジェクトが固定位置に配置されている場合、[再生モードを選択]でこのオプションを使用します。



画像: 画像が静止画像の場合、このオプションを使用します。




 ヒント: キャプチャした座標または画像に矛盾がある場合は、[位置を再キャプチャ]または[画像を再キャプチャ]をクリックします。

Re-Capture Position / Re-Capture Image


実行するアクションを選択する

オブジェクトをパラメーターごとキャプチャした後で、タスク実行時に実行する必要があるアクションを選択できます。

 **備考:** キャプチャするオブジェクトまたはオブジェクトの座標に応じて、[実行する選択済みアクション]は異なります。

各ユーザーが選択できるオプション例は、以下のとおりです。

- 名前を取得- 通常はテキストボックス、ボタン、ラベルに適用可能
  - Get All Children Name(子の名前をすべて取得)
  - Get Value(値を取得)
- Get All Children Value(子の値をすべて取得)
- クリックアクション- 左クリック、右クリック、ダブルクリック
  - テキストを追加/テキストを設定/テキストを取得

 **ヒント:** [テキストを設定]と[テキストを追加]アクションを使用する場合、変数を使用することもできます。テキストを暗号化する必要がある場合は、「F2」ファンクションキーを使用して Credential Variable を挿入することで、セキュリティを強化できます。詳しくはこちらを参照してください。

- Get Cell(セルを取得)/Set Cell(セルを設定)
  - Set Cell by Index(インデックス別にセルを設定)
  - Set Cell by Text(テキスト別にセルを設定)
- Get Cell Text by Index(インデックス別にセルのテキストを取得)
  - Get Cell Index by Text(テキスト別にセルのインデックスを取得)
  - Get Total Columns(列の合計を取得)
- Get Total Rows(行の合計を取得)
  - CSV にエクスポートする
- プロパティを取得- これを使用すると、複数のコントロールのオブジェクトプロパティをキャプチャできます(Silverlight、Flex、Web アプリケーション)。キャプチャしたオブジェクトプロパティの値を変数に割り当てます。

### Object Cloning ?

**Select Window :**

Currently Active Window Refresh 

**Capture** Click and hold the mouse and drag the mouse where you want to Capture.

**Select Play Mode :**  Object  Coordinates  Image

**OBJECT** COORDINATES IMAGE **Select Action :**

**Object Details:**

Type: Table  
Technology: Advanced

**Select Search Criteria :**

	Property	Value
	Object ID	listview
	Type	Table
	Path	1 1 1 1 1 1 1 1

**Select Action To Perform :**

Get Property

**Select Property :**

Object ID

**Assign To Variable :**

Var-Get\_Property

Wait for the object to exist:  seconds


 **TIP :**  
Double click on a property to edit. Press F2 to insert a variable.

**Save** **Cancel**

- プロパティを取得アクションでキャプチャできるプロパティは次のとおりです。


Action  
Class  
Description  
Height  
Index  
Left  
Name  
Object ID  
Parent  
Path  
State(s)  
Top  
Type  
Value  
Width

検索条件を編集するオブジェクトのプロパティを変更する場合は、[検索条件]オプションを使用して変更できます。

- [検索条件を拡張]アイコン(  )をクリックします。
  - [オブジェクトクローニング - 検索条件]ウィンドウがポップアップ表示されます。



- [プロパティ]の前の列で検索条件アイコン(  )を追加または削除して検索条件を変更します。

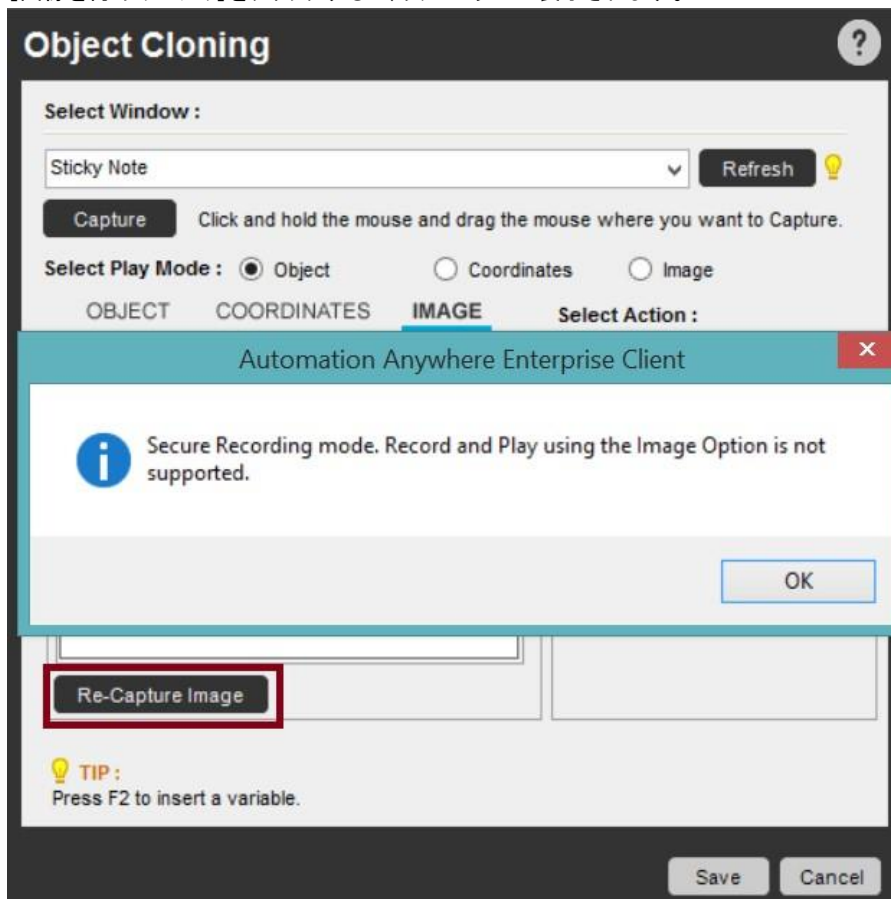
 備考: プロパティ「パス」の検索条件は設定できません。

セキュアレコーディングを有効にする

「Secure Recording mode」を有効にした場合、値や画像はキャプチャされません。 [詳しくはこちらを参照してください。](#)



[画像を再キャプチャ]をクリックすると、次のエラーが表示されます。



#### Edge ブラウザーの自動化 - 既知の動作

1. ブラウザーを使用して自動化する場合は、Edge アプリケーションを開いておく必要があります。このため、パラメーターとしての URL で Open Program Files(プログラムファイルを開く)コマンドを使用するか、デフォルトのブラウザとして Edge を使用するかを選択できます。
2. 自動化が Internet Explorer に記録されている場合、Edge では再生されません。

## 関連トピック

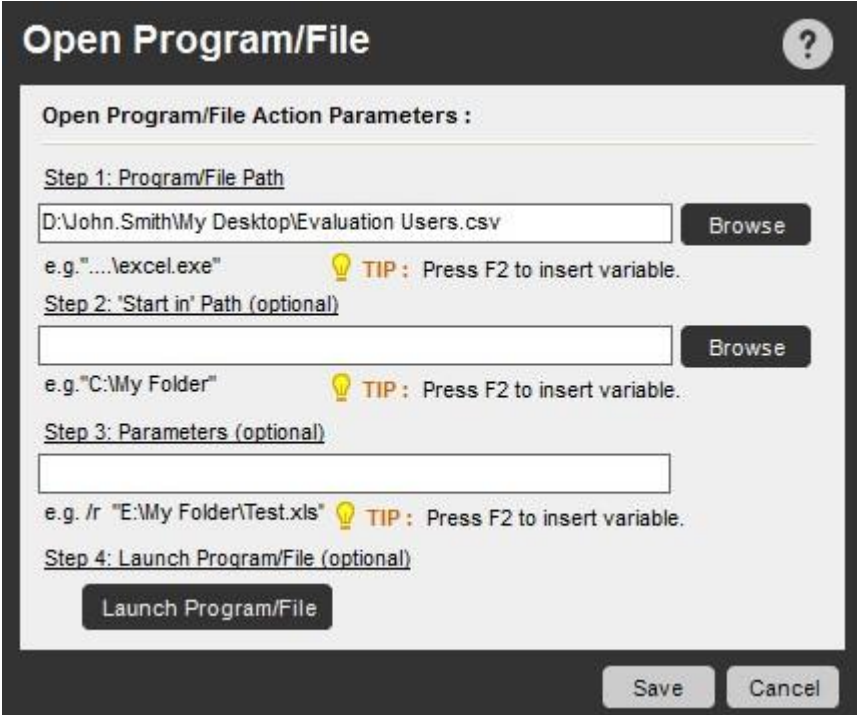
- [プラグイン設定を使用する](#)
- [Java 設定を使用する](#) • [IF/ELSE コマンド](#)
- [Loop-While \(条件に適合する間のみループを実行\)コマンド](#)

Open Proram/File (プログラム/ファイルを開く)コマンド

プログラムを自動的に起動したり、ファイルを開いたりするには、このコマンドを使用します。

Open Proram/File (プログラム/ファイルを開く)コマンドを使用すると、TaskBot/ MetaBot Logic で次のアクションを実行できます。

- プログラムにコマンドラインのパラメーターが必要な場合、そのパラメーターを[パラメーター]テキストボックスに入力できます。
- 必要に応じ、['Start in' Path] (「開始」パス)テキストボックスにプログラムのディレクトリパスを入力します。Automation Anywhere は、このパスの有効性を確認します。
- TaskBot/ MetaBot Logic に現在のウィンドウタイトルを挿入できます。
- ファイルパスに変数を組み込むこともできます。



## 関連トピック

- [File and Folder \(ファイルとフォルダー\)コマンド](#) • [Log-to-File \(ファイルにログ\)コマンド](#)
- [Manage Windows Controls \(ウィンドウズコントロールを管理\)コマンド](#)
  - [System \(システム\)コマンド](#)
- [Window Actions \(ウィンドウアクション\)コマンド](#)

Pause (一時停止)コマンド

自動化されたタスクを実行中に特定のポイントで一時停止するには、このコマンドを使用します。

概要



タスクに一時停止を挿入すると、タスクの実行が完了する前に情報を入力または修正できます。

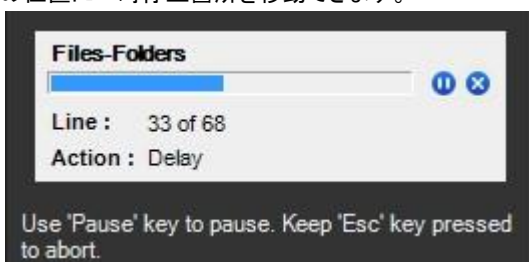
タスクの実行中に属性のステータスを確認する必要がある場合は、タスクに一時停止を挿入します。これはタスクをテストしデバッグする優れた方法です。

タスクが一時停止すると、[再開]ボタンが表示されます。[再開]ボタンをクリックすると、タスクの実行が再び継続されます。

Pause(一時停止)コマンドを使用する

Pause コマンドを挿入するには、次の手順を実行します。

1. Workbench でタスクを開きます。
2. コマンドリストで、[タスク]の下にある Pause コマンドを[Task Actions List]で実行中に一時停止させる位置にドラッグします。または、Pause コマンドをダブルクリックして現在の位置に挿入できます。
3. Pause コマンドがタスクに挿入されます。このコマンドをコピーして複数の一時停止を追加できます。または、コマンドをドラッグしてタスク内の別の位置に一時停止箇所を移動できます。




## 関連トピック

- [Delay/Wait\(待機\)コマンド](#)
- [Run Task\(タスクを実行\)コマンド](#) • [Stop Task\(タスクを停止\)コマンド](#)

PDF Integration(PDF 統合)コマンド概要

Automation Anywhere PDF Integration(PDF を統合)コマンドでは、一段上のプロセス自動化を実現できます。PDF ファイルは Web やメール、大小さまざまな規模と形態の企業で多用されています。これらのドキュメントの操作や、データベース、Web サイト、またはその他のリポジトリへのアップロードに伴う日常的タスクの自動化が、非常に重要となっています。

すべてのサブコマンドに既存の出力ファイルを上書きするオプションが用意されています。[上書き]チェックボックスにチェックマークを入れた場合、ファイル名があると、該当するファイルが上書きされます。

 ヒント: 変数をサポートするフィールドは多いため、コマンドと一緒に変数を使用するようお勧めします。

サブコマンド

PDF Integration(PDF 統合)コマンドには、次のサブコマンドが用意されています。

- PDF to Image(PDF を画像変換)
- Extract Form Fields(Form Field を抽出) • Extract Text(テキストを抽出)
- Merge Documents(ドキュメントを結合) • Split Document(ドキュメントを分割)
- Encrypt Document(ドキュメントを暗号化)
- Decrypt Document(ドキュメントの暗号化を解除)サブコマンドを使用する

TaskBot/MetaBot Logic に PDF Integration(PDF 統合)コマンドを挿入するには、次の手順を実行します。


1. PDF Integration(PDF を統合)コマンドの 1 つをダブルクリックするか、[Task Actions List](タスクアクションリスト)ペインまでドラッグします。PDF Integration(PDF を統合)ウィンドウが表示されます。
2. 各フィールドで必要なパラメーターを指定します。
3. [Save](保存)をクリックして自動化 TaskBot/MetaBot Logic にコマンドを保存します。



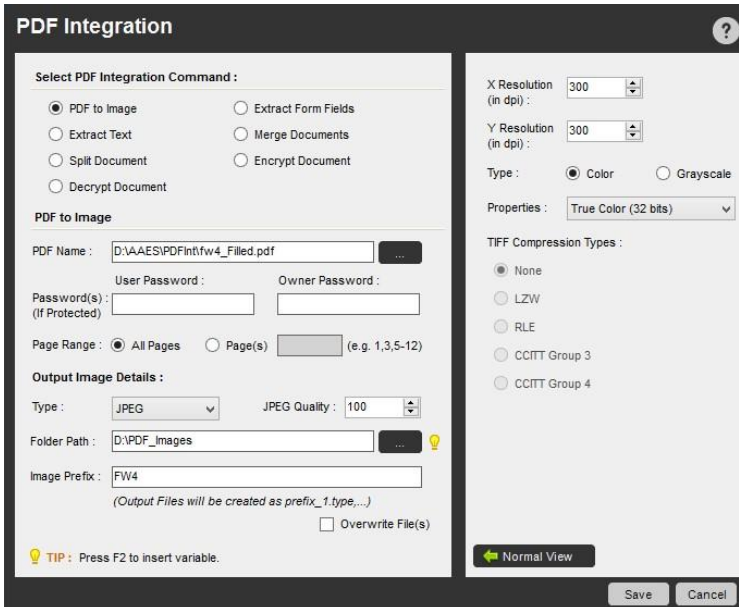
## PDF to Image (PDF を画像変換) コマンド

PDF ファイルに含まれるページごとに別々の画像を作成するには、このコマンドを使用します。次の手順を実行します。

1. [参照] ボタンを使用して PDF ファイルを選択します。暗号化された PDF の場合、ユーザーまたは所有者にパスワードを提供します。

 \*  
ヒント: セキュリティ強化のため、機能キー「F2」でユーザー名やパスワードに対応する Credential Variable の挿入を選択できます。  
詳しくは [こちら](#) を参照してください。  
**\*バージョン 10.3 以降の Enterprise エディションで利用可能**

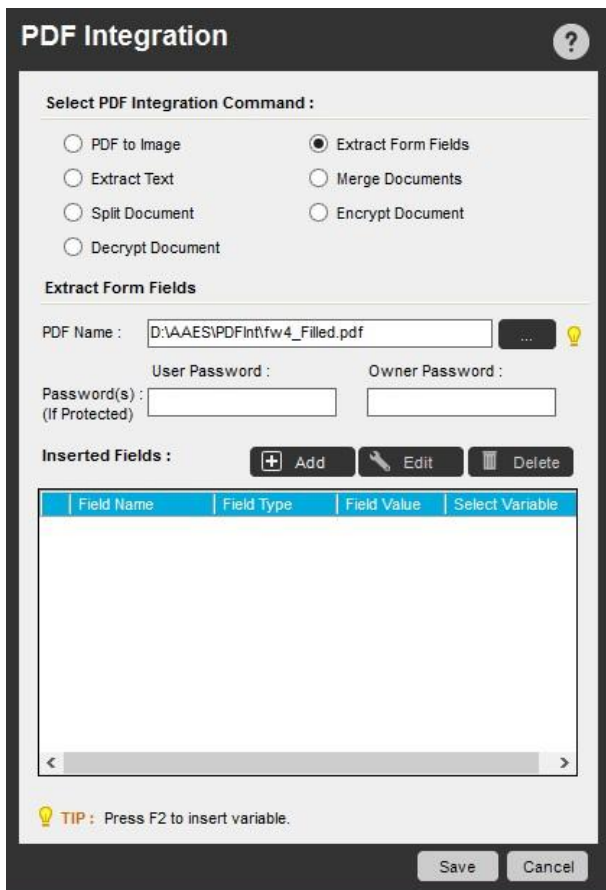
2. 画像に変換するページについて各ページ範囲を指定します。
3. [Output Image Details] (出力画像の詳細) セクションに以下のとおり必要事項を入力します。
  - a. タイプ: ドロップダウンリストで出力タイプを選択します。次のタイプが用意されています。TIFF、BMP、JPG、GIF、PNG、WMF、EMF、EXIF。JPG 出力の場合、[JPEG Quality] (JPEG 品質) を指定します。
  - b. Folder Path (フォルダーパス): 画像を保存するフォルダーを指定します。
  - c. Image Prefix (画像のプレフィックス): 画像ファイルのプレフィックスとして画像名を指定します。ファイルにサフィックスが追加され、インデックス番号が付きます。
4. [Advanced View] (詳細ビュー) セクションを使用します。
  - a. 出力画像の [X Resolution] (X 解像度)、[Y Resolution] (Y 解像度)、[Color] (色) を修正します。デフォルトの解像度は 200dpi です。
  - b. 出力画像タイプ (カラーまたはグレースケール) を選択します。
  - c. カラープロパティを選択します。デフォルトは [True Color (32 bits)] (True Color (32 ビット)) です。
  - d. TIFF ファイルの場合、TIFF 圧縮タイプを選択します。



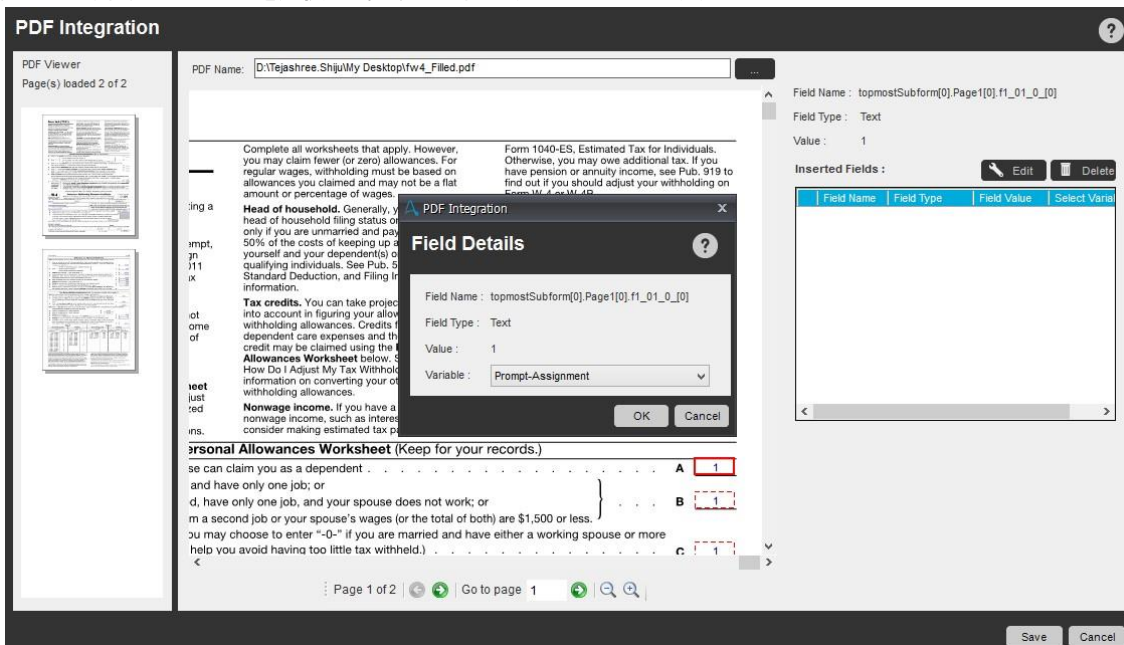
## Extract Form Fields (Form Field を抽出) コマンド

すべてのフォームフィールドデータと選択したテキストを抽出し、変数にパスするには、このコマンドを使用します。次の手順を実行します。

1. 該当する PDF ファイルを選択し、[Add] (追加) ボタンをクリックします。PDF Viewer のウィンドウが表示され、フィールドがすべて点の付いた赤いボックスとして表示されます。



2. [Add Field] (フィールドを追加) を右クリックして選択すると、赤い実線で描かれたボックスが表示されます。
3. [Field Form] (フィールドフォーム) が表示され、ここではフィールドに変数が割り当てられています。[OK] をクリックすると、[Inserted Fields] (挿入されたフィールド) の右側のテーブルに、挿入されたフィールドが表示されます。
4. 必要に応じ、特定のテキストを選択して変数内に格納することもできます。



5. [Save] (保存) をクリックすると、コマンドに挿入されたフィールドが表示されます。[Add] (追加)、[Edit] (編集)、[Delete] (削除) ボタンを使用してこれらを修正します。
6. コマンドを保存します。挿入されたフィールドの値は、TaskBot/MetaBot Logic の実行時に変数内に格納されます。

Extract Text (テキストを抽出) コマンド

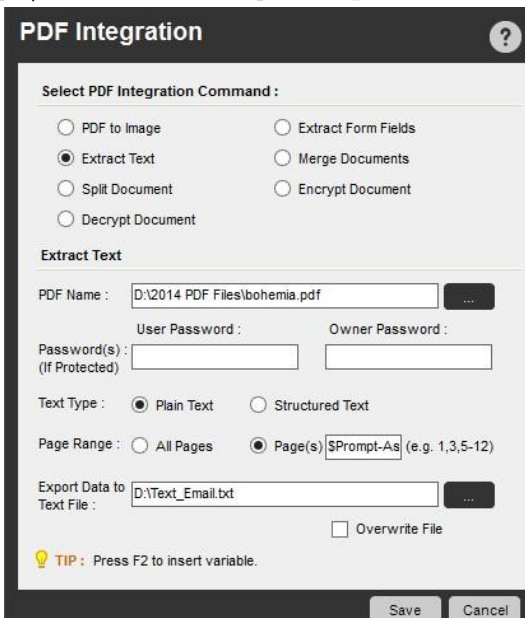
PDF からテキストを抽出してテキストファイルを作成するには、このコマンドを使用します。次の手順を実行します。

1. [参照]ボタンを使用して PDF ファイルを選択します。暗号化された PDF ファイルのパスワードを入力します。



ヒント：セキュリティ強化のため、Credential Variable の挿入を選択できます。

2. 次のようなテキストタイプを選択します。
  - Plain Text (プレーンテキスト)：PDF ファイル全体の単純なコピーやペーストと同様
  - Structured Text (構造化テキスト)：元の PDF ファイルのフォーマット設定を保存
3. ページ範囲を指定します。
4. [Export Data To Text File] (データをテキストファイルにエクスポート)の場合、.txt 拡張子の付いた出力ファイル名を指定します。



**PDF Integration**

Select PDF Integration Command :

PDF to Image       Extract Form Fields  
 Extract Text       Merge Documents  
 Split Document       Encrypt Document  
 Decrypt Document

**Extract Text**

PDF Name : D:\2014 PDF Files\bohemia.pdf

User Password :      Owner Password :

Password(s) :      (If Protected)

Text Type :  Plain Text     Structured Text

Page Range :  All Pages     Page(s) \$Prompt-As (e.g. 1,3,5-12)

Export Data to Text File : D:\Text\_Email.txt

Overwrite File

TIP : Press F2 to insert variable.

Save    Cancel

#### Merge Documents (ドキュメントを結合)コマンド

選択した PDF ドキュメントを 1 つの PDF ファイルに結合するには、このコマンドを使用します。暗号化された PDF と暗号化されていない PDF の両方がサポートされています。次の手順を実行します。

1. 結合する PDF ファイルを選択し、[Add] (追加)ボタンをクリックします。暗号化された PDF の場合、ユーザーまたは所有者のパスワードを指定する必要があります。
2. 追加する PDF ファイルごとに、[Pages to Include] (対象ページ)を指定します。ファイルをすべて追加した後で、各 PDF ファイルを選択することにより、対象ページを修正できます。
3. 結合後の PDF ファイルへの出力ファイルパスを指定します。

### PDF Integration

Select PDF Integration Command :

PDF to Image       Extract Form Fields  
 Extract Text       Merge Documents  
 Split Document       Encrypt Document  
 Decrypt Document

**Merge Documents**

File Name	Page(s)
<input type="checkbox"/> D:\2013 PDF Files\bohemia.pdf	1-3
<input type="checkbox"/> D:\2013 PDF Files\fw4_Filled.pdf	\$my-list-variable\$
<input type="checkbox"/> D:\2013 PDF Files\merge.pdf	All Pages

Pages to Include :  All Pages    Page(s)  (e.g. 1,3,5-12)

Output File Path :

Overwrite File

**TIP** : Press F2 to insert variable.

#### Split Document (ドキュメントを分割) コマンド

PDF ファイルを分割するには、このコマンドを使用します。次の手順を実行します。

- 分割する PDF ファイルを選択し、暗号化ファイルの場合は、ユーザーまたは所有者のパスワードを入力します。
- 次のような [Output File Creation] (出力ファイルの作成) オプションを指定します。
  - Pages Per File (ファイルあたりのページ数) : 新しい出力ファイルにそれぞれ何ページ含めるか (分割後の 1 ファイルあたり 5 ページなど) を指定します。
  - Single File With Page Range (ページ範囲が指定された 1 ファイル) : 指定されたページ番号を含む出力ファイル 1 件を作成するには、このオプションを選択します。
  - Blank Page As A Separator (空白ページを区切りとして使用) : このオプションを選択すると、PDF ドキュメント内の空白ページが表示されるたびに新しい出力ファイルが作成されます。
  - Bookmark Level Per File (ファイルあたりのブックマークレベル) : PDF に含まれるブックマークのレベルに応じてファイルが分割されます。レベルが 3 つある場合は、ドロップダウンにオプションとして [Level1] (レベル 1)、[Level2] (レベル 2)、[Level3] (レベル 3) と表示されます。適切なブックマークのレベルを選択して PDF を分割します。
- Specify Output File Details (出力ファイルの詳細を指定) :
  - Folder Path (フォルダパス) : すべての出力ファイルを保存するフォルダの場所を指定します。
  - File Prefix (ファイルのプレフィックス) : 各出力ファイルに使用できるように、.pdf 拡張子を付けたファイル名を指定します (サフィックスとしてインデックス番号も付与)。

**Select PDF Integration Command :**

PDF to Image       Extract Form Fields  
 Extract Text       Merge Documents  
 Split Document       Encrypt Document  
 Decrypt Document

**Split Document**

PDF Name :  ...

User Password :       Owner Password :

Password(s) :  (If Protected)

**Output File Creation Options :**

Pages Per File :   
 Single File With Selected Pages :  (e.g. 1,3,5-12)  
 Blank Page As A Separator  
 Bookmark Level Per File :

**Output File Details :**

Folder Path :  ...

File Prefix :   
(Output Files will be created as prefix\_1.pdf,...)

Overwrite File(s)

**TIP :** Press F2 to insert variable.

Save Cancel

#### Encrypt Document (ドキュメントを暗号化) コマンド

PDFドキュメントを暗号化し、ユーザーに権限を与えるには、このコマンドを使用します。次の手順を実行します。

1. 暗号化する PDF を選択し、暗号化ファイルのユーザー用、所有者用のパスワードを設定します。
2. 暗号化ドキュメントに関し、ユーザーに適用する権限を 1 つまたは複数選択します。
3. 暗号化レベル (RC4 40 ビット、RC4 128 ビット、または AES 128 ビット) を選択します。
4. .pdf 拡張子の付いた出力ファイルの名前を指定します。

**PDF Integration** ?

**Select PDF Integration Command :**

PDF to Image       Extract Form Fields  
 Extract Text       Merge Documents  
 Split Document       Encrypt Document  
 Decrypt Document

**Encrypt Document**

PDF to Encrypt :  ...

User Password :       Owner Password :

Set Password(s) :

**Select User Permissions to Apply :**

Print       Form Fill       Annotation  
 Modify       Document Assembly       Accessibility  
 Copy

**Select Encryption Level :**

RC4 40-bit       RC4 128-bit       AES 128-bit

Save Encrypted PDF as :  ...

Overwrite File

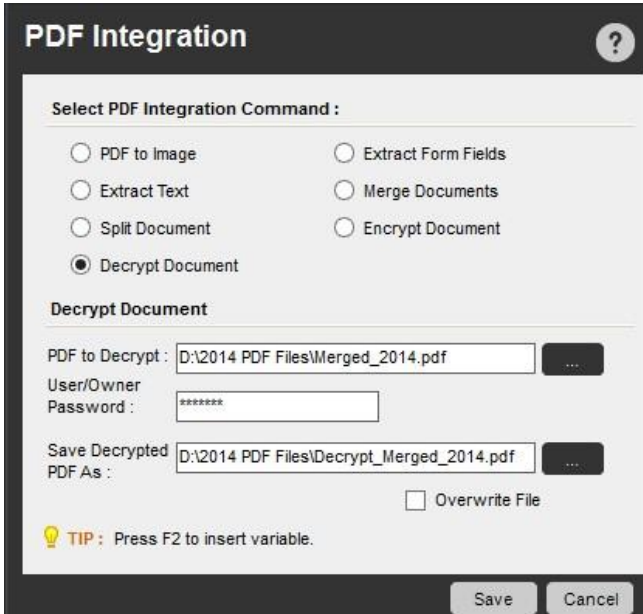
**TIP :** Press F2 to insert variable.

Save Cancel

#### Decrypt Document (ドキュメントの暗号化を解除) コマンド

以前に暗号化された PDF ドキュメントの暗号化を解除するには、このコマンドを使用します。次の手順を実行します。

1. 暗号化を解除する暗号化 PDF ドキュメントを 1 つ選択し、該当するユーザーまたは所有者用パスワードを入力します。
2. 暗号化解除後の PDF を保存するため、.pdf 拡張子の付いた出力ファイル名を指定します。暗号化解除後のファイルでは、パスワード保護がなくなっています。元の暗号化ファイルに付与されていた権限は、パスワード保護以外すべてそのまま残ります。この結果、ドキュメントのセキュリティ制限がすべて、新しく作成される暗号化解除後のファイルにも継承されます。



## 関連トピック

- [Database \(データベース\) コマンド](#)
- [Email Automation \(メールの自動化\) コマンド](#) • [Excel コマンド](#)
- [Loop \(ループ\) コマンド](#)
- [OCR コマンド](#)
- [Printer Settings \(プリンター設定\) コマンド](#)
- [Read from CSV-Text \(CSV/テキストから読み取る\) コマンド](#) • [XML コマンド](#)

## PGP コマンド

セキュリティ上の理由から、ファイルの暗号化と暗号化解除を自動化するには、PGP (Pretty Good Privacy) コマンドを使用します。

### 概要

PGP コマンドでは、ファイルの暗号化と暗号化解除のプロセスを自動化できます。

このコマンドでは、次のとおり、対称 (パスフレーズ) と非対称 (公開 / 秘密キー) の両方の暗号化タイプがサポートされています。

- PGP Passphrase (PGP パスフレーズ): 暗号化や暗号化解除にパスフレーズが必要となります。
- PGP Public/Private Key (PGP 公開 / 秘密キー): 暗号化や暗号化解除に PGP 公開 / 秘密キーファイルが必要となります。

### サブコマンド

- [Encrypt Files \(ファイルを暗号化\)](#)
  - [Decrypt Files \(ファイルの暗号化を解除\)](#) • [Create Keys \(キーを作成\)](#) サブコマンドを使用するタスクに PGP コマンドを挿入するには、次の手順を実行します。
1. PGP コマンドの 1 つをダブルクリックするか、[Task Actions List] (タスクアクションリスト) ペインまでドラッグします。[PGP] ウィンドウが表示されます。
  2. 各フィールドで必要なパラメーターを指定します。




3. [Save] (保存) をクリックして、自動化タスクにコマンドを保存します。

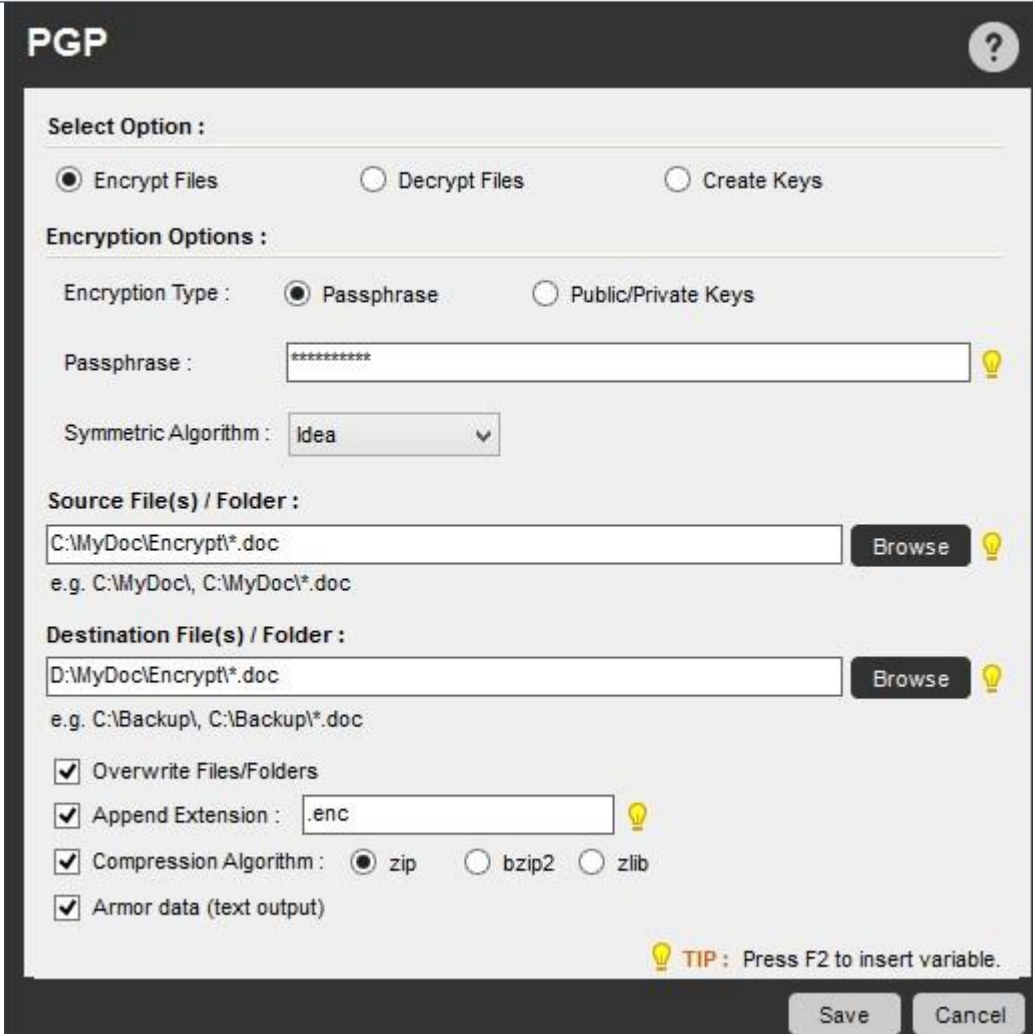
#### Encrypt Files (ファイルを暗号化) コマンド


暗号化方式を使用して 1 つまたは複数のファイルを暗号化するには、このコマンドを使用します。暗号化方式の選択肢は、Passphrase または Public/Private Key です。

ファイルを暗号化するには、次の手順を実行します。

1. [encryption type] (暗号化タイプ) で [Passphrase] (パスフレーズ) を選択し、pass phrase を入力します。あるいは、暗号化の種類として [Public/Private Key] (公開 / 秘密キー) を選択します。このタイプでは [Public Key File] (公開キーファイル) のパスを選択または指定します。必要に応じて公開キーを作成します。

 備考: その他のオプションはすべて、いずれの暗号化タイプでも同じです。



 ヒント: セキュリティ強化のため、機能キー「F2」で Passphrase に対応する Credential Variable<sup>\*</sup> の挿入を選択できます。詳しくは [こちら](#) を参照してください。

<sup>\*</sup>バージョン 10.3 以降の Enterprise エディションで利用可能

2. 対称アルゴリズムを選択します。このアルゴリズムのオプションは次のとおりです。
  - Idea
  - TripleDES • CAST5
  - Blowfish • AES128 • AES192 • AES256
  - Twofish256
3. ソースファイルのパスを選択または指定します。
4. 操作後のファイルのパスを選択または指定します。
5. 必要に応じ、ファイルまたはフォルダーを上書きするオプションを確認します。



6. 必要に応じ、操作後のファイルに拡張子を追加します。例:.enc。
7. 次の圧縮アルゴリズムのいずれかを使用し、暗号化ファイルを圧縮します。
  - Zip
  - Bzip2 • Zlib
8. 必要に応じ、ASCII Armor 出力を有効にするため、Armor データ(テキスト出力)オプションを確認します。

💡 ヒント: ソースまたは操作後のファイルのパスとして、フォルダー内の複数のファイルを選択するには、「\*.\*」または「\*.txt」を使用します。

#### Decrypt Files (ファイルの暗号化を解除) コマンド

以前に暗号化された 1 つまたは複数のファイルの暗号化を解除するには、このコマンドを使用します。暗号化の種類として Passphrase または Public/Private Key (公開/秘密鍵) で暗号化されたファイルの暗号化を解除できます。

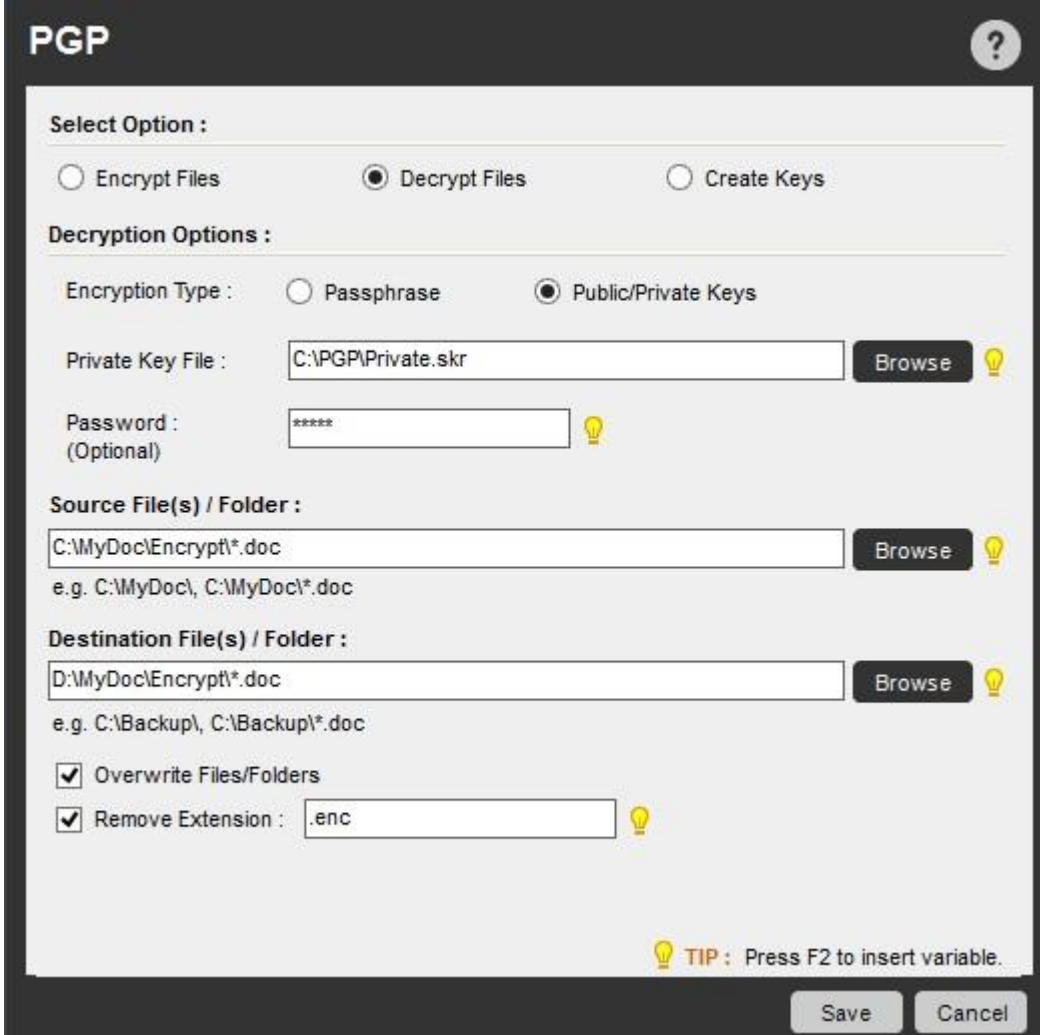
ファイルの暗号化を解除するには、次の手順を実行します。

1. 特定の Passphrase が要求される [Passphrase encryption type] (パスフレーズ暗号化タイプ) を選択します。

あるいは、暗号化の種類として [Public/Private Key] (公開/秘密キー) を選択します。このタイプでは、秘密キーファイルの場所を選択または指定します。パスワード保護が施された秘密キーを使用しているときは、パスワードを入力します。

💡 ヒント: セキュリティ強化のために、機能キー「F2」で資格情報変数を使用することを選択できます。関連する資格情報キーを選択し、パスワードにその属性を選択します。

その他のオプションはすべて、いずれの暗号化タイプでも同じです。

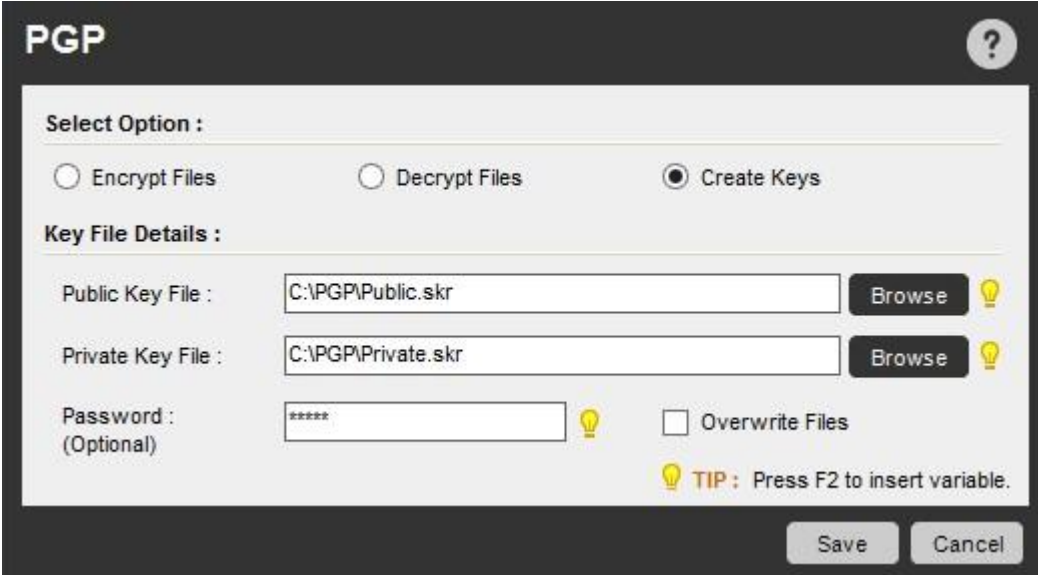


2. 暗号化解除の Passphrase を入力します。
3. 暗号化を解除するソースファイルのパスの場所を選択または指定します。
4. 操作後のファイルのパスを選択または指定します。

5. 必要に応じ、ファイルまたはフォルダーを上書きするオプションを確認します。
6. 必要に応じ、[Remove extension] (拡張子を削除) オプションを選択します。


#### Create Keys (キーを作成) コマンド

公開および暗号化された秘密キーを作成するには、このコマンドを使用します。キーを暗号化するパスワードを指定すると、キーのセキュリティを強化できます。



新しいキーを作成するには、次の手順を実行します。

1. [Create Keys] (キーを作成) オプションを選択します。
2. 公開キーファイルの場所を選択または指定します。
3. 秘密キーファイルの場所を選択または指定します。
4. 任意で、キーファイルを暗号化するパスワードを指定します。

 ヒント: セキュリティ強化のために、機能キー「F2」で資格情報変数を使用することを選択できます。関連する資格情報キーを選択し、パスワードにその属性を選択します。

5. 必要に応じ、[Overwrite Files] (ファイルを上書き) オプションを選択します。

## Play Sound(サウンドを再生)コマンド

自動化したタスクに音声を入力し、再生するには、このコマンドを使用します。

### サブコマンド

Play Sound(サウンドを再生)コマンドには、次のサブコマンドが用意されています。

- Play Beep(ビーブ音を再生)
- Play Media File(メディアファイルを再生)概要

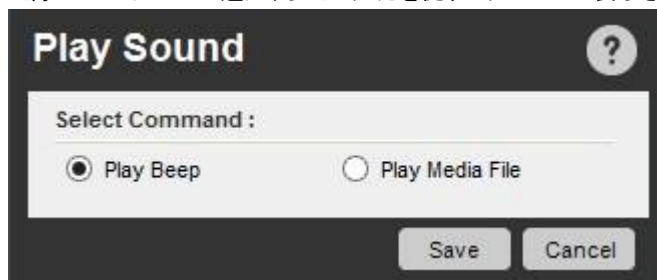
自動化したタスクに Play Sound(サウンドを再生)コマンドを挿入すると、特定のコマンドの実行前または実行後にビーブ音やその他のメディアファイルを再生できます。

サブコマンドを使用するタスクに Play Sound(サウンドを再生)コマンドを挿入するには、次の手順を実行します。

1. Play Sound コマンドの 1 つをダブルクリックするか、[Task Actions List](タスクアクションリスト)ペインまでドラッグします。[Play Sound]ウィンドウが表示されます。
2. 各フィールドで必要なパラメーターを指定します。
3. [Save](保存)をクリックして、自動化タスクにコマンドを保存します。

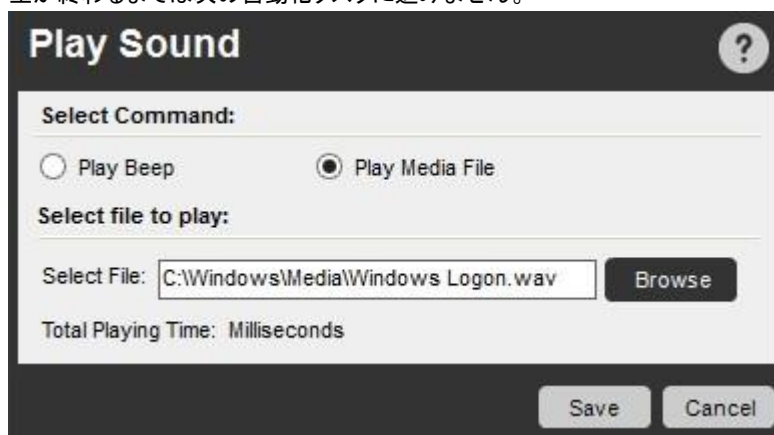
### Play Beep(ビーブ音を再生)コマンド

タスク中に Play Beep(ビーブ音を再生)コマンドを検出したとき、ビーブ音を再生するには、このコマンドを使用します。特定のアクションが実行された際のユーザーへの通知、または入力を促すメッセージが表示された際の通知に、ビーブ音を使用できます。



### Play Media File(メディアファイルを再生)コマンド

自動化タスク中にメディアファイルを再生するには、このコマンドを使用します。タスクでメディアファイルを再生する場合、そのメディアファイルの再生が終わるまでは次の自動化タスクに進みません。



## 関連トピック

- [Clipboard\(クリップボード\)コマンド](#) • [Comment\(コメント\)コマンド](#) • [Error Handling\(エラー処理\)コマンド](#) • [Image Recognition\(画像認識\)コマンド](#) • [Prompt\(プロンプト\)コマンド](#)
- [Screen Capture\(スクリーンキャプチャ\)コマンド](#) • [String Operation\(文字列処理\)コマンド](#) • [Variable Operation\(変数処理\)コマンド](#)

## Printer Settings(プリンター設定)コマンド

タスク内でプリンター設定を自動化するには、このコマンドを使用します。

### 概要

IT スタッフが担当する手動操作で最も多いアクティビティの 1 つが、個人やグループのプリンター設定管理です。Printer Settings(プリンター設定)コマンドを使用すると、このようなタスクの多くを自動化できます。

### サブコマンド

Printer(プリンター)コマンドには、プリンター設定管理用に次のサブコマンドが用意されています。

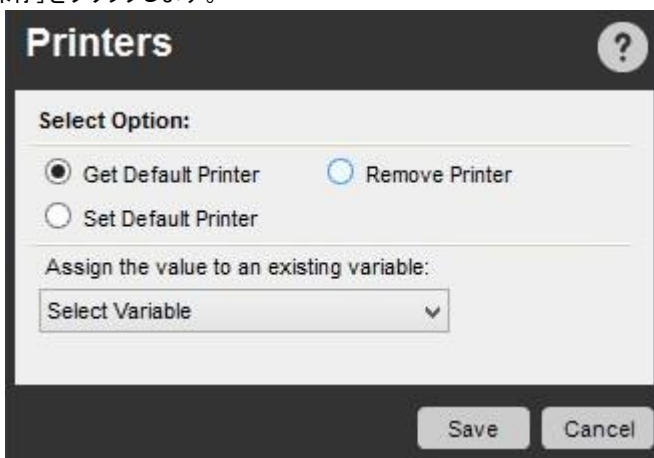
- Get Default Printer(デフォルトのプリンターを取得) • Set Default Printer(デフォルトのプリンターを設定) • Remove Printer(プリンターを削除) サブコマンドを使用するタスクに Printer(プリンター)コマンドを挿入するには、次の手順を実行します。

1. Printers(プリンター)コマンドの 1 つをダブルクリックするか、[Task Actions List](タスクアクションリスト)ペインまでドラッグします。[Printers](プリンター)ウィンドウが表示されます。
2. 各フィールドで必要なパラメーターを指定します。
3. [Save](保存)をクリックして、自動化タスクにコマンドを保存します。

### Get Default Printer(デフォルトのプリンターを取得)コマンド

自動化されたタスクでデフォルトのプリンターを取得するには、次の手順を実行します。

1. [Workbench]を開きます。
2. Get Default Printer(デフォルトのプリンターを取得)コマンドをダブルクリックします。
3. [保存]をクリックします。



### Set Default Printer(デフォルトのプリンターを設定)コマンド

自動化されたタスクでデフォルトのプリンターを変更するには、次の手順を実行します。

1. [Workbench]を開きます。
2. Set Default Printer(デフォルトのプリンターを設定)コマンドをダブルクリックします。
3. インストールされているプリンターの一覧からプリンターを選択します。
4. [保存]をクリックします。

### Remove Printer(プリンターを削除)コマンド

自動化されたタスクでプリンターを削除するには、次の手順を実行します。

1. [Workbench]を開きます。
2. Remove Printer(プリンターを削除)コマンドをダブルクリックします。

3. インストールされているプリンターの一覧からプリンターを選択します。
  4. Run Script(スクリプトを実行)コマンドをクリックします。
  5. [保存]をクリックします。
- 
- 

#### 関連トピック

- [Active Directory コマンド](#)
- [System\(システム\)コマンド](#) • [SNMP コマンド](#)



## Prompt(プロンプト)コマンド

自動化されたタスクの実行中にユーザー入力を要求するユーザープロンプトを挿入するには、このコマンドを使用します。

### 概要

一部のインタラクティブなタスクでは、ユーザー入力が必要となります。Prompt(プロンプト)コマンドを使用すると、自動化されたタスクの実行中に必要に応じて値を入力する、ファイルやフォルダーを開く、yes(はい)か no(いいえ)を選択するなどの入力を 1 つまたは複数要求できます。

### サブコマンド

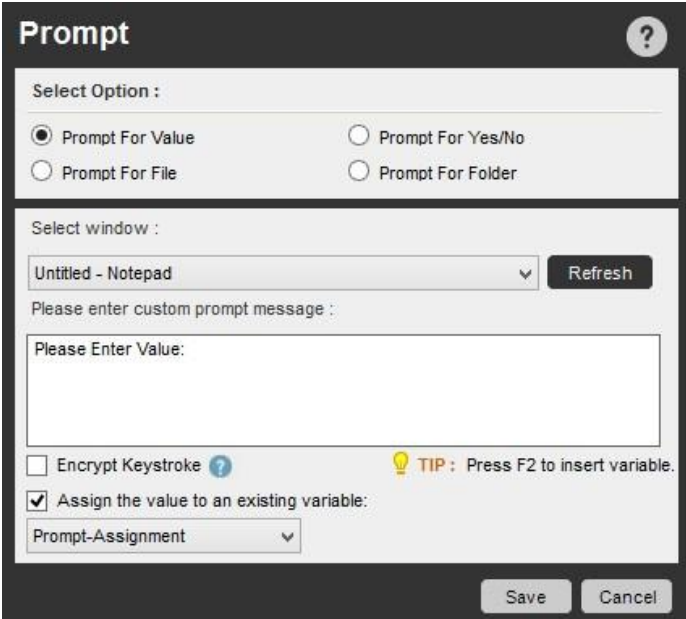
Prompt(プロンプト)コマンドには、次のサブコマンドが用意されています。

- Prompt for Value(値の入力を促すプロンプト)
- Prompt for File(ファイルの指定を促すプロンプト)
- Prompt for Folder(フォルダーの指定を促すプロンプト)
- Prompt for Yes/No(はい/いいえの選択を促すプロンプト) サブコマンドを使用するタスクにプロンプトコマンドを挿入するには、次の手順を実行します。
  1. Prompt(プロンプト)コマンドの 1 つをダブルクリックするか、[Task Actions List](タスクアクションリスト) ペインまでドラッグします。[Prompt](プロンプト) ウィンドウが表示されます。
  2. 各フィールドで必要なパラメーターを指定します。
  3. [Save](保存) をクリックして、自動化タスクにコマンドを保存します。

### Prompt for Value(値の入力を促すプロンプト)コマンド

値が頻繁に変化するタスクでは、このコマンドを使用します。たとえば、オンラインフォームと連動するタスクでは、タスク実行時にユーザーが確実に正しい値を入力することができます。

さらに、タスク再生中にユーザーが入力する値を変数に割り当てることもできます。この変数をタスク内の別の部分で使用すると、再度ユーザー操作を要求せずに済む場合もあります。



[Encrypt Keystrokes](キーストロークを暗号化) オプションを有効にすると、タスク再生中にユーザーにパスワード入力を促し、そのキーストロークを暗号化できます。ただし、有効にしている場合、値を変数に割り当てることはできません。

#### Prompt for File(ファイルの指定を促すプロンプト)コマンド

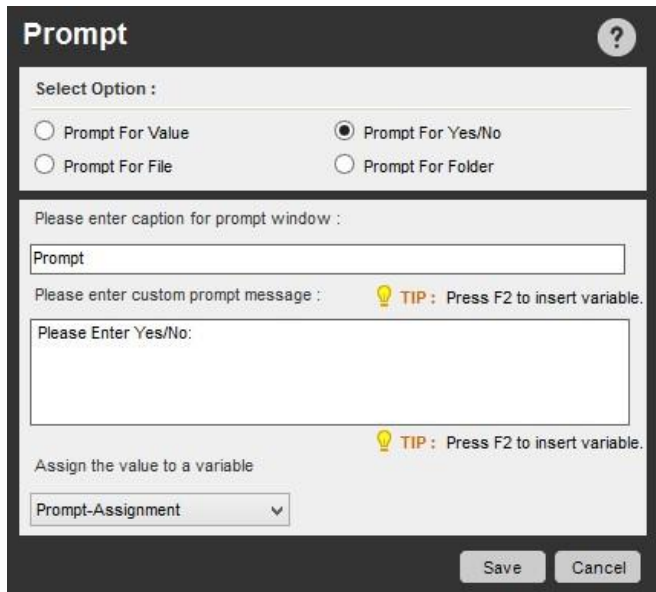
ユーザーに1フォルダー内のファイルを1つまたは複数指定するよう促すには、このコマンドを使用します。選択したファイルの値は、リスト変数に割り当てることができます。プロンプトウィンドウのキャプションを設定することもできます。

#### Prompt for Folder(フォルダーの指定を促すプロンプト)コマンド

ユーザーにひとつのフォルダーの指定を促すには、このコマンドを使用します。選択したフォルダーの値は、値変数に割り当てることができます。プロンプトウィンドウのキャプションを設定できます。

#### IF コマンド

ユーザーに対し、タスク実行中に質問に対する応答(Yes(はい)または No(いいえ))を選択するよう促すには、このコマンドを使用します。再生中に選択した値は、値変数に割り当てることができます。



---

### 関連トピック

- [Message Box \(メッセージボックス\) コマンド](#) • [Variable Operation \(変数処理\) コマンド](#) • [変数を使用するタイミングを知る](#)

#### Read from CSV/Text (CSV/テキストから読み取る) コマンド概要

このコマンドを使用すると、CSV ファイルやテキストファイルのデータを読み取り、ANSI、UNICODE、または UTF8 でエンコードするプロセスを自動化できます。

次の操作を実行できます。

- CSV ファイルから記号区切りリストデータやタブ区切りデータを読み取ります。
- CSV ファイルまたはテキストファイル内の複数の行を読み取ります。
- エンコードオプション、ANSI、UNICODE、UTF8 を使用します。

#### CSV

[Comma] (コンマ)、[Tab] (タブ) または [Regional List Separator] (地域別リスト区切り記号) の delimiter を使用して CSV ファイルからデータを読み取るには、このオプションを使用します。

### Read From CSV/Text

CSV/Text File Details:

CSV  Text

Select File :  ...

**TIP** : Press F2 to insert variable.

Delimiter :   Contains Header

Trim :  Leading Space(s)  Trailing Space(s)

Encoding :

Session Name :   
e.g. Session1 or S1 **TIP** : Press F2 to insert variable.

Save Cancel

Delimiter: 次のいずれかの delimiter オプションを選択できます。


Delimiter :  ▼

Trim :

Encoding :

- Comma
- Comma
- Tab
- Regional List Separator

1. コンマ: コンマを delimiter として指定するには、このオプションを使用します。
2. Regional List Separator (地域別リスト区切り記号): [Regional Settings] (地域設定) の定義どおりに delimiter を指定するには、このオプションを使用します。区切り文字の値は、[コントロールパネル]>[地域]>[追加の設定]で更新できます。例: 地域設定値が [German] (ドイツ) に設定されている場合、セミコロン (;) がリスト区切り文字として使用されます。

 備考: AAE ではイギリス、ドイツ、フランス、イタリア、スペインのデフォルトの地域別リスト区切り文字をサポートしています。

3. タブ: タブを使用して CSV ファイルのフィールドを分離している場合には、このオプションを使用して delimiter を指定します。

Contains Header (ヘッダーを含む): 1 行目がヘッダーとして定義された CSV ファイルの場合は、このオプションを使用します。

Text (テキスト)

このコマンドを使用すると、Newline (改行)、Comma (コンマ)、Tab (タブ) または Other (その他) の delimiter を使用してデータが読み取られます。

### Read From CSV/Text

CSV/Text File Details:

CSV  Text

Select File :  ...

**TIP** : Press F2 to insert variable.

Delimiter :  Newline  Comma  Tab  Other

Trim :  Leading Space(s)  Trailing Space(s)

Session Name :   
e.g. Session1 or S1 **TIP** : Press F2 to insert variable.

Save Cancel

1. Newline(改行): ファイル内のテキストが改行で区切られている場合は、このオプションを使用します。
2. コンマ: ファイル内のテキストがコンマで区切られている場合は、このオプションを使用します。
3. タブ: ファイル内のテキストがタブで区切られている場合は、このオプションを使用します。
4. その他: ファイル内のテキストが、以上のオプション以外で区切られている場合は、このオプションを使用します。

#### その他のオプション

1. Trim(トリム): CSV ファイルやテキストファイルに含まれる先頭や末尾のスペースをトリミングするには、このオプションを使用します。
2. Session Name(セッション名): 現在のセッションを特定するには、このオプションを使用します。セッションとして変数を割り当てることを選択できます。

### 関連トピック

- [Database\(データベース\)コマンド](#)
- [Email Automation\(メールの自動化\)コマンド](#)
  - [Excel コマンド](#) • [OCR コマンド](#)
- [PDF Integration\(PDF 統合\)コマンド](#) • [XML コマンド](#)

#### REST Web Service (REST Web サービス)コマンド

通常、Web サービスは SOAP と関連付けられています。ただし、REST Web サービスが主流になりつつあることから、Automation Anywhere ではこれらの REST Web サービスのテストがサポートされるようになりました。REST とは、REpresentational State Transfer の略で、このアーキテクチャを使用して Web サービスを実現します。REST では、GET、PUT、POST、DELETE の HTTP メソッドがサポートされます。

#### メソッド

1. [GET メソッド](#)
2. [POST メソッド](#)
3. [PUT メソッド](#)
4. [DELETE メソッド](#)

#### 1. GET メソッド

GET メソッドは、Request-URI によって特定された情報(エンティティ形式)を取得します。

以下の手順は、GET メソッドの例です。

- i. URI: 接続先の REST Web サービスの URI を指定します。
- ii. Method(メソッド): ドロップダウンから GET メソッドを選択します。




ヒント: Tab キーを使用すると、[Request](リクエスト)と[Parameter](パラメーター)のサブタブが自動的に入力されます。

#### iii. Request(リクエスト):

- URI Header (URI ヘッダー): 以下のキーと値のペアが表示されます。
- HTTPS: HTTPS 接続が使用されている場合は True になります。

- Server URL(サーバーURL): Web サービスがテストされているメインホストまたはサーバーを示します。
- Port No(ポート番号): Web サービスへの接続に使用されているポート番号が表示されます。
- URLPath(URLパス): 特定の Web サービスの相対 URL が表示されます。

### REST Web Service ?

URI:

e.g. http://www.domainname.com/resource/path/search?param1=value& param2=value2

Method:

REQUEST	PARAMETER	RESPONSE										
<b>URI Header</b>												
Header	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 50%;">Key</th> <th style="width: 50%;">Value</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>HTTPS</td> <td>False</td> </tr> <tr> <td>Server URL</td> <td>192.168.2.23</td> </tr> <tr> <td>Port No</td> <td>9090</td> </tr> <tr> <td>URL Path</td> <td>/RestOrderService/OrderService.sv...</td> </tr> </tbody> </table>		Key	Value	HTTPS	False	Server URL	192.168.2.23	Port No	9090	URL Path	/RestOrderService/OrderService.sv...
Key	Value											
HTTPS	False											
Server URL	192.168.2.23											
Port No	9090											
URL Path	/RestOrderService/OrderService.sv...											

#### Header(ヘッダー)

ヘッダーのキーと値のペアが表示されます(該当する場合)。アクションボタンを使用すると、これらのヘッダーのキーと値のペアをカスタマイズできます。

#### アクション

1. Add(追加): キーと値を Web サービスのリクエストに追加できます。記録されたリクエストに追加のフィールドやパラメーターがある場合に使用します。

**ヒント:** ユーザーが手動で追加できます。その後、コマンドの再生中に変更が反映されます。

2. Delete(削除): リクエストヘッダーから特定のキーと値を選択して削除できます。特定のキーと値に変更があったことがわかっている場合に使用します。その後、コマンドの再生中に変更が反映されます。



## REST Web Service

URI :  ^  
 e.g. http://www.domainname.com/resource/path/search?param1=value& param2=value2

Method : GET v

**REQUEST**    PARAMETER    RESPONSE

URI Header

**Header**

Key	Value
<input type="text"/>	<input type="text"/>

Add

Delete

Send Request

Press F2 to insert variable.

Save    Cancel

[Send Request] (リクエストを送信) ボタンを使用してリクエストを送信します。この操作によって [Response] (応答) が自動的に入力されます。これを変数に保存できるため、処理が簡単になります。



ヒント: セキュリティ強化のため、機能キー「F2」で Credential Variable の挿入を選択できます。詳しくは [こちら](#) を参照してください。

### パラメーター

URL: 現在の Web サービスのリクエスト URL パラメーターが、キーと値のペアとともに表示されます。

1. Add (追加): URL/POST パラメーターと値を、記録されたリクエストに追加できます。リクエストに追加のフィールドやパラメーターがある場合に使用します。

ユーザーが手動で追加できます。[Send Request] (リクエストを送信) がクリックされたとき、またはコマンドの再生時に、変更内容が URI に反映されます。

2. Delete (削除): 削除する特定の POST または URL のパラメーターを選択します。[DELETE] (削除) ボタンをクリックします。特定の POST または URL のパラメーターに変更があったことがわかっている場合に使用します。



## REST Web Service

URI :  ^  
v  
 e.g. http://www.domainname.com/resource/path/search?param1=value& param2=value2

Method :  v

REQUEST    **PARAMETER**    RESPONSE

URL	Parameter	Value	Encode?
Post	type	json	<input type="checkbox"/>

Authorization

Press F2 to insert variable.

POST Parameter (POST パラメーター) : 現在のリクエストの POST パラメーターが表示されます。POST メソッドまたは PUT メソッドに適用されます。

Authorization (認証) : REST Web サービスでは、HTTP Basic、Windows AD、デフォルトのネットワーク資格情報の認証タイプがサポートされています。

## REST Web Service

URI :

e.g. http://www.domainname.com/resource/path/search?param1=value& param2=value2

Method :

REQUEST    **PARAMETER**    RESPONSE

Key	Value
Domain	\$domain\$
Username	\$username\$
Password	*****


Send Request

Press F2 to insert variable.    Save    Cancel

認証タイプに基づいて、[Domain] (ドメイン)、[Username] (ユーザー名)、[Password] (パスワード)などの認証パラメーターを追加します。

- 「ログイン済み」の Active Directory (AD) ユーザーの資格情報を認証に使用するには、すべてのフィールドを空白のままにします。ログイン済みのユーザーの AD ドメインが認証用に考慮されます。
- 特定の Active Directory ユーザーの資格情報を認証に使用するには、[Domain] (ドメイン)、[Username] (ユーザー名)、[Password] (パスワード)を入力します。
- HTTP Basic 認証を使用するには、[Domain] (ドメイン) フィールドを空白にし、[Username] (ユーザー名) と [Password] (パスワード) を入力します。

認証フィールドに、直接値、ユーザー定義の変数、資格情報変数を割り当てるよう選択できます。

 備考：認証パラメーターを入力する際は、サービスがその認証タイプをサポートしていることを確認してください。

[Send Request] (リクエストを送信) をクリックすると、[Response] (応答) が自動的に入力されます。

 ヒント：応答は、次回以降の処理用に変数に保存してください。

Response (応答)

ウェブサービスの応答では、XML と JSON の両方のフォーマットがサポートされています。

- Header (ヘッダー)：リクエストの応答ヘッダーのキーと値の詳細が表示されます。

## REST Web Service ?

URI :  ^  
v  
 e.g. http://www.domainname.com/resource/path/search?param1=value& param2=value2

Method :  v

REQUEST
PARAMETER
RESPONSE

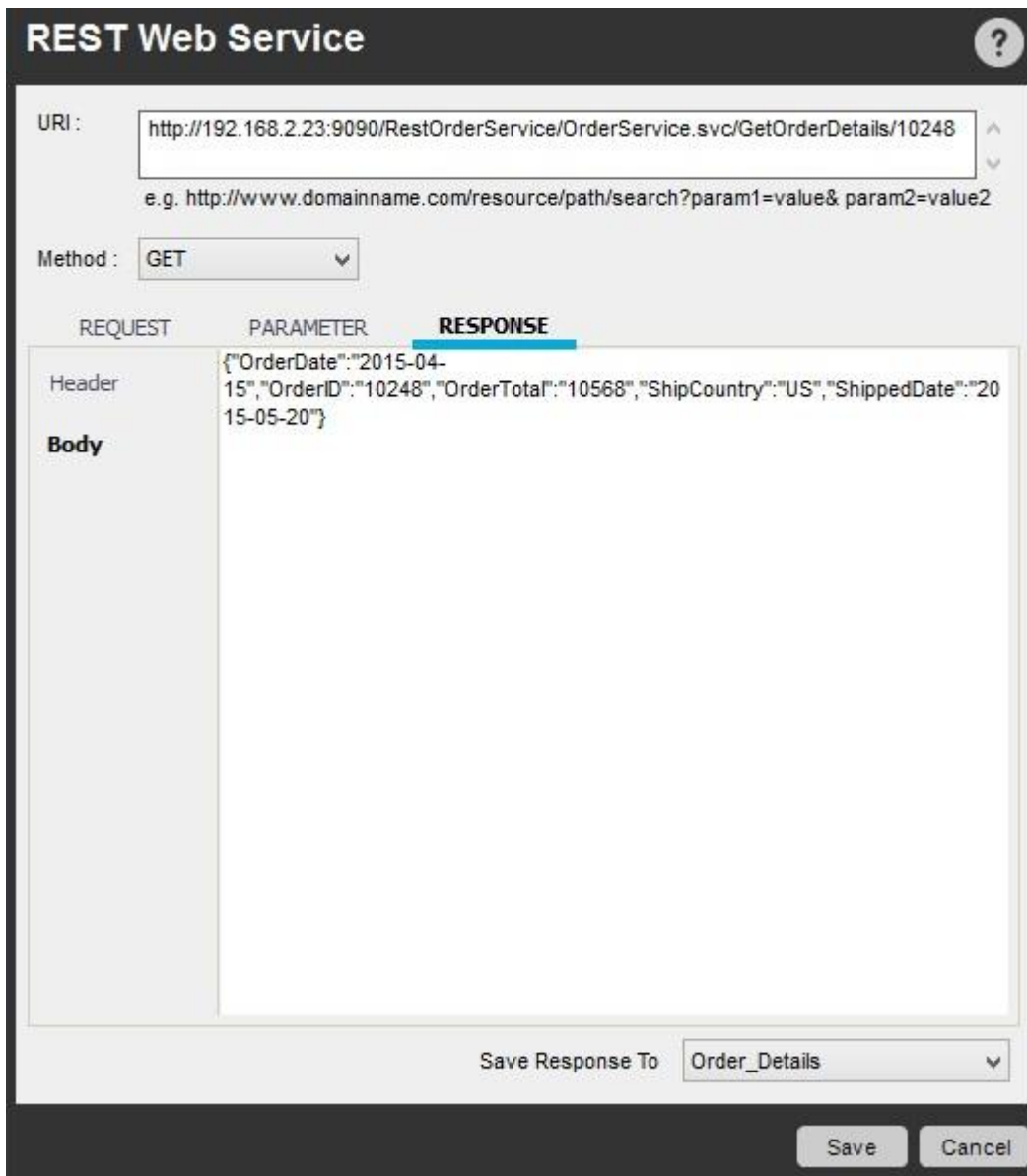
**Header**

Body

Key	Value
Response	HTTP/1.1 200 OK
Connection	close
Content-Length	111
Content-Type	application/json; charset=utf-8
Date	Thu, 30 Apr 2015 06:53:19 GMT
Server	Microsoft-IIS/8.0
X-Powered-By	ASP.NET

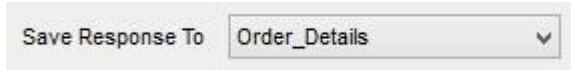
Save Response To  v

2. Body(本文): 選択したリクエストの応答の本文が表示されます。



この応答本文は、REST Web サービスの GET メソッドのテスト用に、適切な変数に保存してください。

3. [Save Response To] (応答の保存先) : ドロップダウンから変数を選択します。応答全体が、選択した変数に保存されます。



4. コマンドを保存すると、再生中に応答が変数に保存されます。

## 2. POST メソッド

POST メソッドは、サーバーがリクエストに含められたエンティティを受け入れ、特定された Web リソースの新しい下位リソースとするリクエストとして使用されます。

REST Web Service (REST Web サービス) コマンドでは、次の 3 つのコンテンツタイプ、application/JSON、application/XML、デフォルトのフォーマット (x-www-form-urlencoded) がサポートされています。

1. リクエストの POST 先である URI を入力します。
2. [POST] メソッドを選択します。

[Request Header] (ヘッダーをリクエスト) に、コンテンツタイプがドロップダウンで表示されます。デフォルトでは、テキストフォーマットが表示されています。

## REST Web Service

URI :

e.g. http://www.domainname.com/resource/path/search?param1=value& param2=value2

Method :

**REQUEST**    PARAMETER    RESPONSE

URI Header

**Header**

Key	Value
Content-Type	application/xml
	application/x-www-form-urlencoded
	application/json
	application/xml

Add

Delete

Send Request

Press F2 to insert variable.

Save    Cancel

- コンテンツタイプがデフォルトのフォーマットの場合は、[Parameter] (パラメーター) タブで [Add] (追加) ボタンを使用してキーと値のペアを追加します。

## REST Web Service

URI :  ^  
 v  
 e.g. http://www.domainname.com/resource/path/search?param1=value& param2=value2

Method :  v

REQUEST    **PARAMETER**    RESPONSE

URL	Parameter	Value	Encode?
Post  Authorization	Title	Great Expectations	<input type="checkbox"/>
	Author	Charles Dickens	<input type="checkbox"/>
	Publisher	Penguin Books	<input type="checkbox"/>
	Edition	Paperback 2015	<input type="checkbox"/>
	Submit	Add	<input type="checkbox"/>

Add  
Delete

Send Request

Press F2 to insert variable.

Save    Cancel

- [Send Request] (リクエストを送信) ボタンをクリックします。
- コンテンツタイプが JSON または XML の場合は、入力しやすいよう POST パラメーターに複数行のテキストボックスが表示されます。以下がその例です。

REQUEST    PARAMETER    RESPONSE

URI Header	Key	Value
Header	Content-Type	application/json

Add  
Delete

## REST Web Service

URI :  ^  
v  
 e.g. http://www.domainname.com/resource/path/search?param1=value& param2=value2

Method :  v

REQUEST	PARAMETER	RESPONSE
URL		{ "OrderDate": "2015-04-15", "OrderID": "1010", "OrderTotal": "10568", "ShipCountry": "United States", "ShippedDate": "2015-05-20" }
Post		
Authorization		

Press F2 to insert variable.

6. [Response Header and Body] (応答ヘッダーと本文) で、作成された応答を検証できます。
7. [Save Response To ] (応答の保存先) : ドロップダウンから変数を選択します。応答本文全体が、選択した変数に保存されます。



## REST Web Service

URI :  ^  
v  
 e.g. http://www.domainname.com/resource/path/search?param1=value& param2=value2

Method :  v

REQUEST    PARAMETER    **RESPONSE**

Header	Key	Value
Body	Response	HTTP/1.1 400 BadRequest
	Connection	close
	Content-Length	1797
	Content-Type	text/html
	Date	Thu, 30 Apr 2015 07:40:36 GMT
	Server	Microsoft-IIS/8.0
	X-Powered-By	ASP.NET

Save Response To  v

8. コマンドを保存すると、実行時に値が自動的に URI に POST されます。

### 3. PUT メソッド

PUT メソッドは、特定の Web サービス URI のデータを更新する際に使用します。更新のキーと値のペアに基づいて、別の URI パラメーターを渡すときにも使用できます。つまり、リクエストヘッダーで PUT メソッドを使用して、キーと値のペアで記録を更新できます。

1. URI を入力します。
2. PUT メソッドを選択します。
3. [URLParameters] (URL パラメーター) で、以下の例のように値を変更します。

## REST Web Service ?

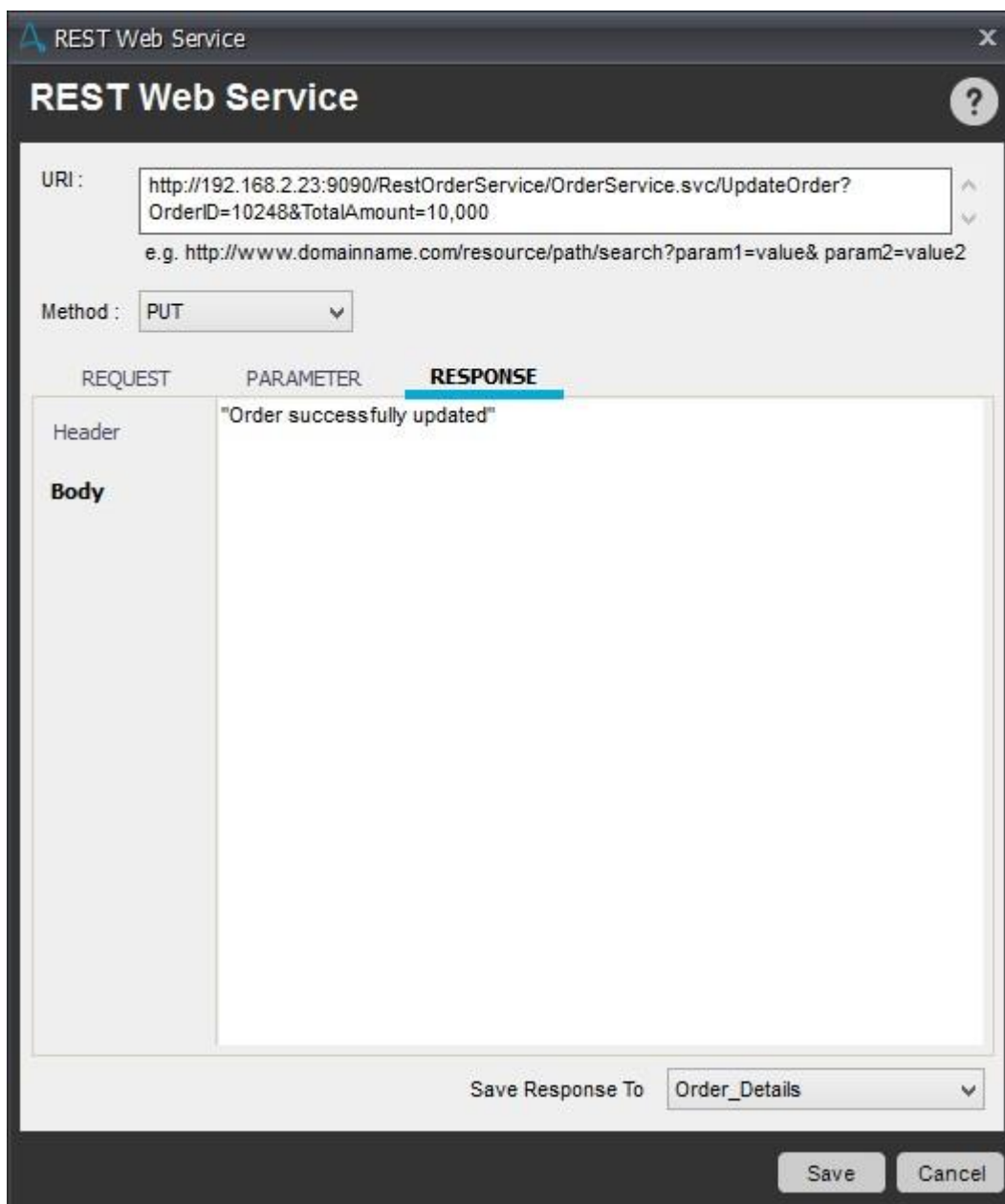
URI :   
e.g. http://www.domainname.com/resource/path/search?param1=value& param2=value2

Method :

REQUEST	PARAMETER	RESPONSE									
<b>URL</b> Post Authorization	<table border="1"> <thead> <tr> <th>Parameter</th> <th>Value</th> <th>Encode?</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>OrderID</td> <td>99999</td> <td><input type="checkbox"/></td> </tr> <tr> <td>TotalAmount</td> <td>10,000</td> <td><input type="checkbox"/></td> </tr> </tbody> </table>	Parameter	Value	Encode?	OrderID	99999	<input type="checkbox"/>	TotalAmount	10,000	<input type="checkbox"/>	<input type="button" value="Add"/> <input type="button" value="Delete"/>
	Parameter	Value	Encode?								
	OrderID	99999	<input type="checkbox"/>								
TotalAmount	10,000	<input type="checkbox"/>									
<input type="button" value="Send Request"/>											

Press F2 to insert variable.

4. [Send Request] (リクエストを送信) ボタンをクリックします。
5. HTTP/1.1 200 OK の応答が、更新された Body パラメーターとともに表示されます。



6. 応答を変数に保存し、[Save] (保存) をクリックします。

#### 4. DELETE メソッド

DELETE メソッドは、元のサーバーに Request-URI で指定したリソースを削除するようリクエストします。

以下の URI の例では、適切なパラメーターを渡し、記録を削除するようリクエストを送っています。

1. URI を入力します。
2. DELETE メソッドを選択します。
3. 削除する URL パラメーターを追加します。

## REST Web Service

URI :  ^  
v  
 e.g. http://www.domainname.com/resource/path/search?param1=value& param2=value2

Method :  v

REQUEST    **PARAMETER**    RESPONSE

URL	Parameter	Value	Encode?
Post	BookID	GE/CD/PB2015	<input type="checkbox"/>

Authorization

Press F2 to insert variable.

4. [Send Request] (リクエストを送信) ボタンをクリックします。
5. 応答が成功として表示されると、記録が正常に削除されます。

#### F2を使用した REST Web サービスの変数のサポート

- URL のパラメーター化: [Request - Header] (リクエスト - ヘッダー) タブの値に変数を使用できます。
  - パラメーター: URL 値、POST 値、認証値を含む [Parameter] (パラメーター) タブの値に、変数を使用できます。
- 以下は、REST Web サービスの POST パラメーター化の使用例を示しています。

## REST Web Service

URI :

e.g. http://www.domainname.com/resource/path/search?param1=value& param2=value2

Method :

REQUEST    **PARAMETER**    RESPONSE

URL	Parameter	Value	Encode?
Post  Authorization	Title	\$BookTitle\$	<input type="checkbox"/>
	Author	\$Author\$	<input type="checkbox"/>
	Name	\$Book_Details\$	<input type="checkbox"/>
	Copyright	\$CopyrightYear\$	<input type="checkbox"/>
	Submit	Add	<input type="checkbox"/>

Buttons: Add, Delete

Send Request

Press F2 to insert variable.

Buttons: Save, Cancel


 備考：変数を使用した POST パラメーターを使用しています。

1. [Send Request] (リクエストを送信) をクリックすると、[Set Variable From] (次の変数を設定) に変数の値が表示されます。


## Set variable(s) value

Name	Value
\$Book_Details\$	LeapBound
\$Author\$	Jennifer Ward
\$BookTitle\$	Parenting Tips
\$CopyrightYear\$	2010

Buttons: Get output, Cancel

 備考: リクエストヘッダーまたは POST パラメーターで、Credential Variable が使用されている場合は、[Send Request] (リクエストを送信) をクリックしても、[Set Variable Value] (変数の値を設定) のリストに Credential Variable は表示されません。ただし、出力の生成にその値が使用されます。  
Credential Variable が変数リストから除外されたことを知らせるメッセージが表示されます。

2. ここで、[Get Output] (出力を取得) をクリックして応答を取得します。

 備考: REST Web サービスがプロキシサーバーを使用している場合は、[Tools] (ツール) > [Options] (オプション) > [Advanced Settings] (詳細設定) を開きます。

## 関連トピック

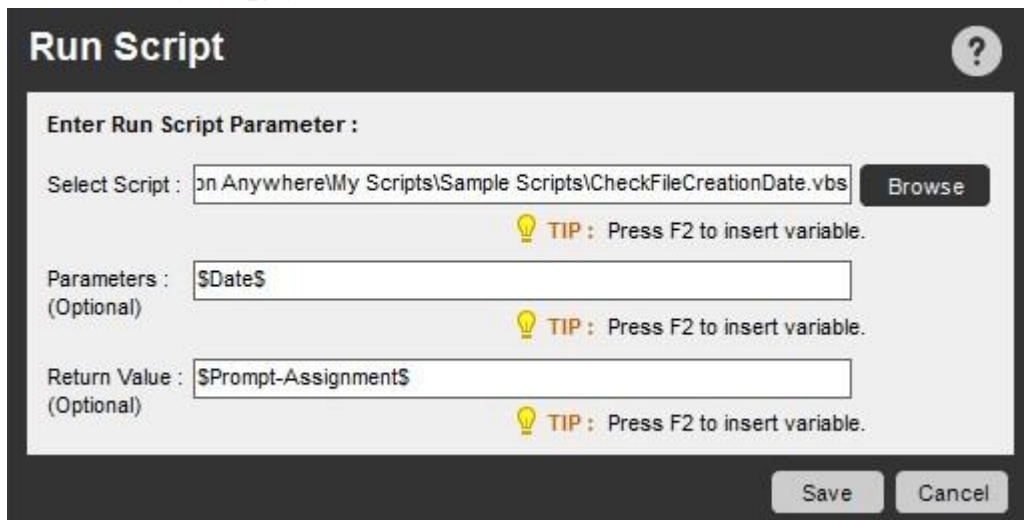
- [SOAP Web Services \(SOAP Web サービス\) コマンド](#)

Run Script (スクリプトを実行) コマンド概要

このコマンドを使用して、TaskBot/MetaBot Logic からさまざまなスクリプトを実行できます。

次のような場合に、Run Script (スクリプトを実行) コマンドを使用します。

- TaskBot/MetaBot Logic で VB Script (\*.vbs) または JScript (\*.js) を実行する。
- パラメーターをスクリプトに渡す。
- スクリプトで戻り値を指定する。



## 関連トピック

- [Run Task \(タスクを実行\) コマンド](#)
- [Variable Operation \(変数処理\) コマンド](#)

Run Task (タスクを実行) コマンド概要

Run Task (タスクを実行) コマンドを使用すると、大規模なタスク内から複数の小さなタスクを実行できます。1 つのタスクを作成し、そのタスク内から別のタスクを順次実行できます。これは、ネスト化されたタスクと呼ばれます。

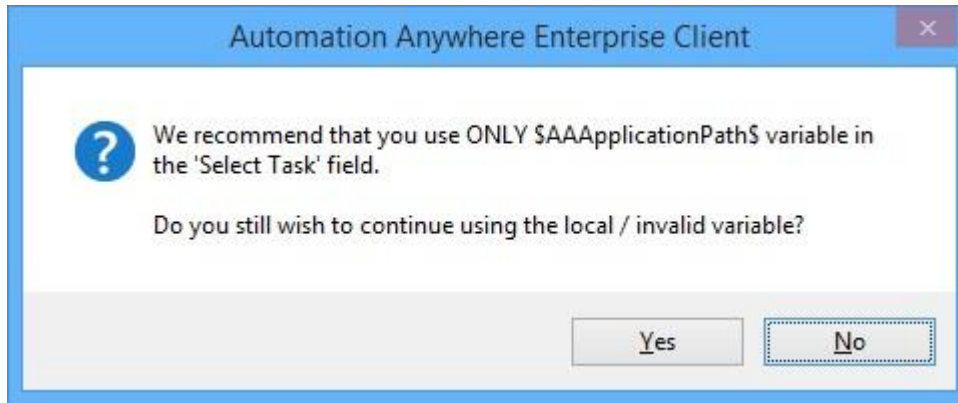
このコマンドを使用すると、スケジュール設定がより簡単になります。1 つのマスタータスクに複数のタスクを埋め込むことができ、スケジュール設定が必要なのはマスタータスクだけになります。これにより、小さなタスクをそれぞれスケジュール設定する必要がなくなります。

Run Task (タスクを実行) コマンドを使用するタスクに Run Task (タスクを実行) コマンドを挿入するには、次の手順を実行します。

1. Run Task (タスクを実行) コマンドをダブルクリックするか Task Actions List ペインにドラッグします。[Run Task] (タスクを実行) ウィンドウが表示されます。
2. [Browse] (参照) を使用するか、変数を使用してパスを指定して、タスクを選択します。

**ヒント:** ファイルパスに変数を使用する場合は、システム変数 \$AAAApplicationPath\$ のみを使用することをおすすめします。ローカルで定義された変数または他のシステム変数を使用すると、その変数を使用したサブタスクが Control Room にアップロードされません。[Upload Dependencies] (アップロードの依存関係) ダイアログボックスの [Remarks] (備考) 列に、「Variabilized Path」と表示されます。「[タスクと依存関係をアップロード/ダウンロードする](#)」をご覧ください。

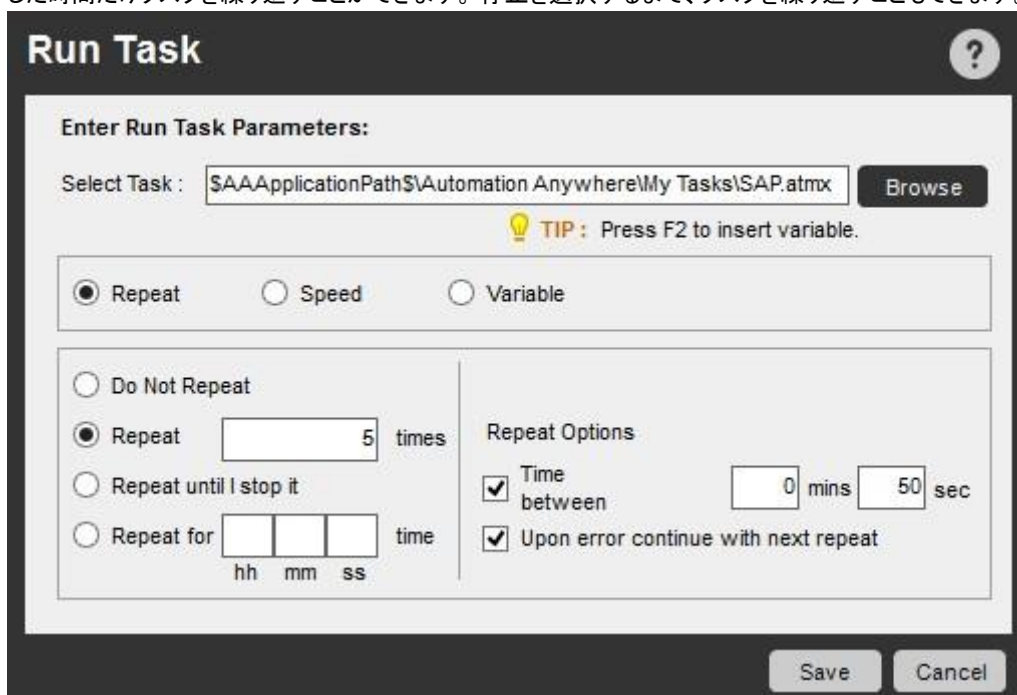
- また、ローカル変数または無効の変数を表示すると、次のメッセージが表示されます。



- デフォルトオプションの [No] (いいえ) を選択すると、コマンドは保存されません。コマンドを保存するには、[Yes] (はい) を選択します。

**備考:** 10.5.0 より前のバージョンで作成された Run Task (タスクを実行) コマンドで、パスに \$AAAApplicationPath\$ 以外の変数が割り当てられている場合は、更新して保存する必要があります。

3. [Repeat] (繰り返し)、[Speed] (速度)、[Variable] (変数) のいずれかのオプションを選択します。
  - Repeat (繰り返し): 選択したタスクを複数回実行するには、[Repeat] (繰り返し) オプションを使用します。指定した回数、または指定した時間だけタスクを繰り返すことができます。停止を選択するまで、タスクを繰り返すこともできます。



- Speed (速度): タスクの再生速度を設定するには、[Speed] (速度) オプションを使用します。次の 3 つの速度を使用できます。標準 (記録と同じ速度)、高速、ターボアクション再生 (マウス動作は削除されます)。



## Run Task ?

Enter Run Task Parameters:

Select Task :


💡 TIP : Press F2 to insert variable.

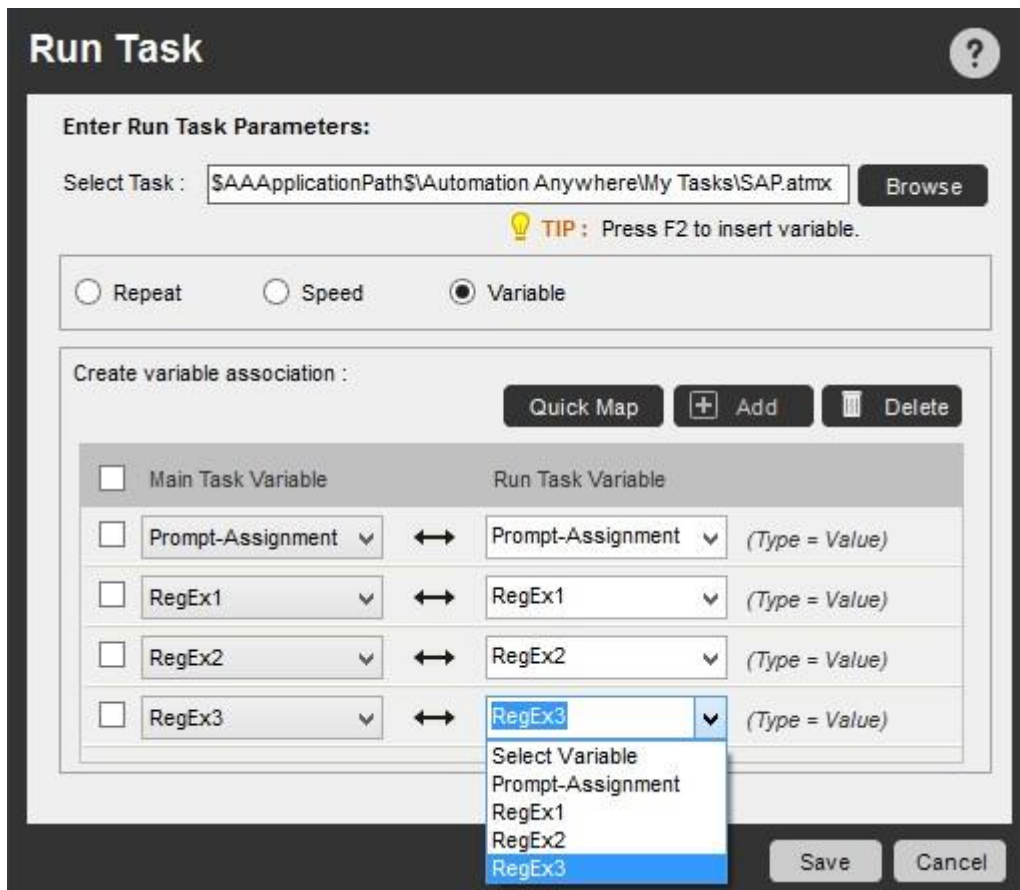
Repeat   
  Speed   
  Variable


Replay Speed :  Standard Replay (as recorded)  
 High-Speed Replay (faster)  
 Turbo-Action Replay (fastest,no mouse moves)

- Variable(変数): マスタータスクの[Main Master Variable](メインタスク変数)からサブタスクの[Run Task Variable](タスク実行変数)へ変数を渡す(関連付ける)際にこのオプションを使用します。[Add](追加)または[Delete](削除)ボタンを使用して、変数を追加または削除します。
- [Run Task Variable](タスク実行変数)に変数を挿入する: Run Task のマッピング変数を指定するには、既存の変数リストから変数を選択するか、新しい変数を入力します。
- 変数のクイックマッピング\*: [Quik Map](クイックマッピング)では、同じ命名法を持つ多数の変数が、タスクをまたいで関連付けられるようにします。  
\*バージョン 7.5.2 以降で対応前のバージョン(7.5.1 以前)で、タスクをまたいでマッピングされた変数は再マッピングする必要があります。また、参照を使用して他のタスクを選択すると、現在のマッピングが失われます。「Workflow Variables(ワークフロー変数)」のマッピングも、同様の方法で使用できます。

 備考: 同様の変数が見つからない場合、クイックマッピングは無効になります。



 備考: Regular Expression (正規表現)としてマークされた値型変数を渡すことができます。詳しくは、「[値型変数](#)」を参照してください。

4. [Save] (保存) をクリックします。

#### ユースケース シナリオ

T1 という名前のタスクには `firstname` という変数が宣言されており、'John' という値を持っています。Run Task (タスクを実行) コマンドを使用することで、T2 という別のタスクが呼び出され、`firstname` が引数として渡されます。そこで、T2 のタスクで `firstname` という値は 'Michael' に変わります。T1 のタスクで Run Task (タスクを実行) コマンドが終了すると、`firstname` という変数には 'Michael' という値を含みます。

#### 関連トピック

- [Run Script \(スクリプトを実行\) コマンド](#)
- [Stop Task \(タスクを停止\) コマンド](#) • [Pause \(一時停止\) コマンド](#)

#### Screen Capture (スクリーンキャプチャ) コマンド

スクリーンショットをキャプチャするプロセスを自動化するには、このコマンドを使用します。

#### 概要

自動化タスクの一部として、すべてのコンピュータースクリーンまたは開いているアクティブウィンドウをキャプチャできます。

#### サブコマンド

Screen Capture (スクリーンキャプチャ) コマンドには、次のサブコマンドがあります。

- [Capture Desktop \(デスクトップをキャプチャ\)](#) • [Capture Window \(ウィンドウをキャプチャ\)](#)

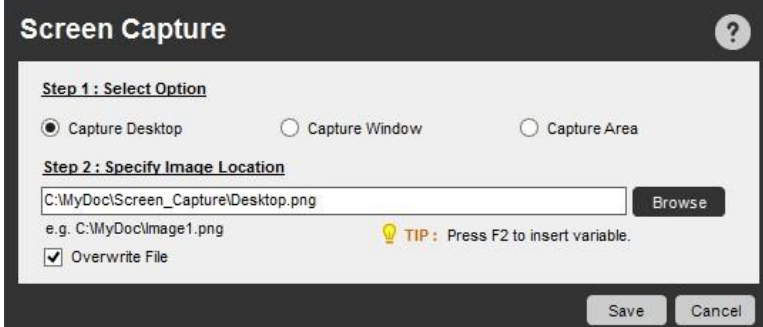
チャ) • Capture Area (領域をキャプチャ) サ  
ブコマンドを使用する

TaskBot/MetaBot Logic に Screen Capture (スクリーンキャプチャ) コマンドを挿入するには、次の手順を実行します。

1. Screen Capture (スクリーンキャプチャ) コマンドの 1 つをダブルクリックするか、[Task Actions List] (タスクアクションリスト) ペインまでドラッグします。[Screen Capture] (スクリーンキャプチャ) ウィンドウが表示されます。
2. 各フィールドに必要なパラメーターを指定します。
3. [Save] (保存) をクリックして自動化 TaskBot/MetaBot Logic にコマンドを保存します。

Capture Desktop (デスクトップをキャプチャ) コマンド

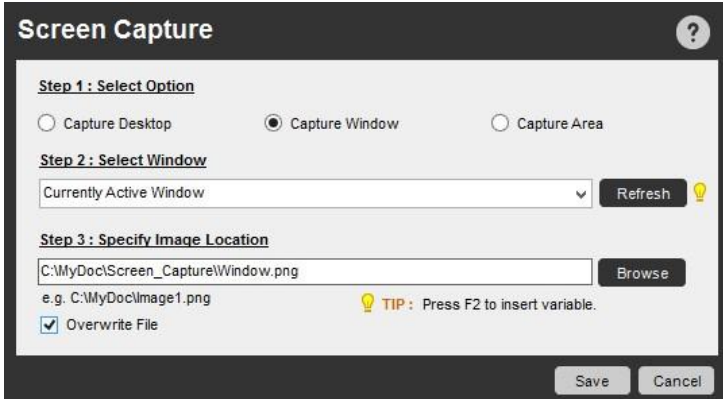
コンピューターのデスクトップ全体をキャプチャするには、このコマンドを使用します。画像はユーザーが指定した場所に保存されます。画像はさまざまな形式でキャプチャできます。



Capture Window (ウィンドウをキャプチャ) コマンド

開いているアプリケーションウィンドウの画像をキャプチャするには、このコマンドを使用します。ドロップダウンリストの名前をクリックして、ウィンドウを選択します。

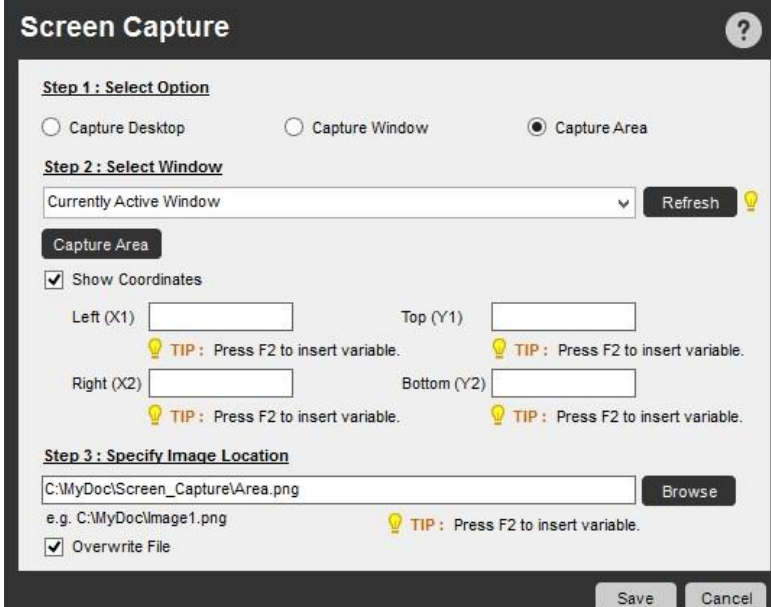
画像はユーザーが指定した場所に保存されます。画像はさまざまな形式でキャプチャできます。



Capture Area (領域をキャプチャ) コマンド

スクリーンの領域をキャプチャするには、このコマンドを使用します。アプリケーションウィンドウを選択してキャプチャする領域上にマウスをドラッグし、領域を選択します。

画像はユーザーが指定した場所に保存されます。画像はさまざまな形式でキャプチャできます。



**Screen Capture** ?

**Step 1 : Select Option**

Capture Desktop     Capture Window     Capture Area

**Step 2 : Select Window**

Currently Active Window [v] Refresh ?

**Capture Area**

Show Coordinates

Left (X1) [ ]    Top (Y1) [ ]  
 ? TIP : Press F2 to insert variable.    ? TIP : Press F2 to insert variable.

Right (X2) [ ]    Bottom (Y2) [ ]  
 ? TIP : Press F2 to insert variable.    ? TIP : Press F2 to insert variable.

**Step 3 : Specify Image Location**

C:\MyDoc\Screen\_Capture\Area.png [v] Browse

e.g. C:\MyDoc\Image1.png    ? TIP : Press F2 to insert variable.

Overwrite File

Save Cancel

古い既存の画像を上書きするには、[Overwrite File] (ファイルを上書き) オプションを使用します。

ワイルドカードを使用する

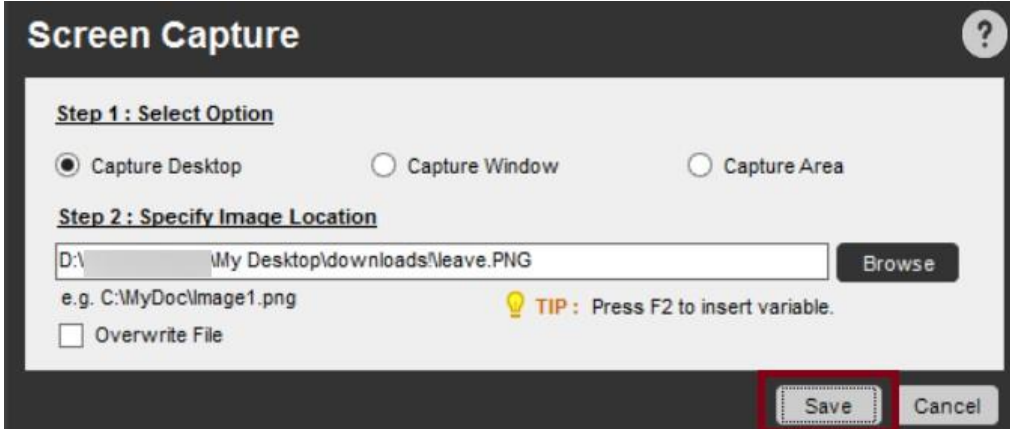
ウィンドウタイトルを選択する際に、アスタリスク(\*)記号を使用してワイルドカードを指定できます。たとえば、ワイルドカードを使用して、タイトルに「Untitled」という単語を含むウィンドウをキャプチャできます。

また、ウィンドウタイトルに「Untitled」という単語の前後に任意のテキストを含むウィンドウをキャプチャする必要がある場合もあります。これを指定するには、\*Untitled\* をウィンドウタイトルに使用します。この場合、Automation Anywhere は正確なウィンドウタイトル(「Untitled」)を検索しません。見つからなければ、Automation Anywhere はタイトルに「Untitled」という語が含まれるウィンドウを検索します。

ウィンドウタイトルの最初または最後にワイルドカード文字(\*)を使用できます。

セキュアレコーディングが[有効]の場合

「Secure Recording mode」を有効にした場合、値や画像はキャプチャされません。詳しくは[こちら](#)を参照してください。



**Screen Capture** ?

**Step 1 : Select Option**

Capture Desktop     Capture Window     Capture Area

**Step 2 : Specify Image Location**

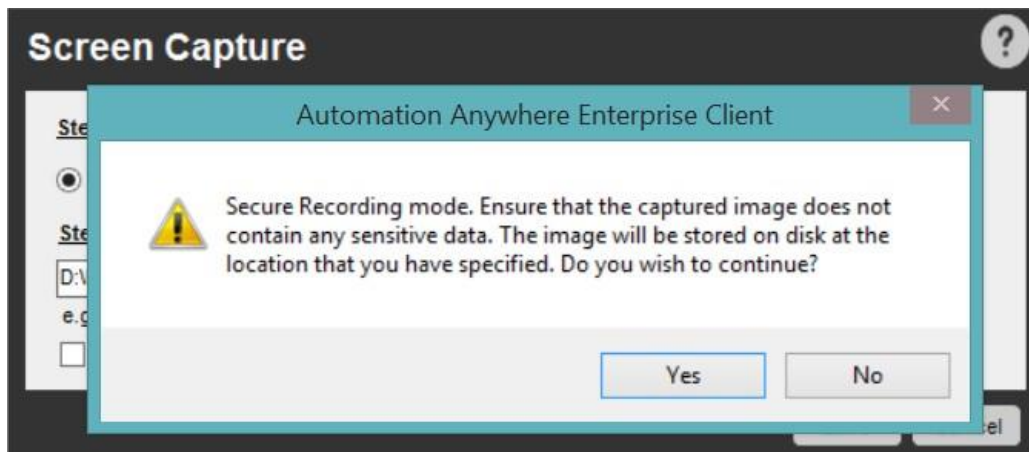
D:\My Desktop\downloads\leave.PNG [v] Browse

e.g. C:\MyDoc\Image1.png    ? TIP : Press F2 to insert variable.

Overwrite File

Save Cancel

[Secure Recording Mode] (セキュアレコーディングモード) を有効にしてコマンドを保存しようとする、次の警告メッセージが表示されます。



続行する場合は[Yes] (はい)をクリックすると、コマンドが保存されます。中止する場合は、[No] (いいえ)をクリックします。コマンドに戻り、コマンドを[Cancel] (キャンセル)できます。

---

#### 関連トピック

- [Clipboard \(クリップボード\) コマンド](#)
  - [Comment \(コメント\) コマンド](#)
- [Error Handling \(エラー処理\) コマンド](#)
- [Image Recognition \(画像認識\) コマンド](#)
  - [Play Sound \(サウンドを再生\) コマンド](#)
- [String Operation \(文字列処理\) コマンド](#)
  - [Variable Operation \(変数処理\) コマンド](#)

## Send Email(メールを送信)コマンド概要

メールプロセスの自動化は、Automation Anywhere の最も有効な使用方法の 1 つです。反復的なメール送信によって、最も生産性の高い組織の業務が滞る可能性があります。

Send Email(メールを送信)コマンドを使用して、次の操作を実行できます。

- 複数のメールを一括送信します。各メールアドレスの間にセミコロンを使用します。
- メールに添付ファイルを付けます。• メールを HTML 形式に設定します。

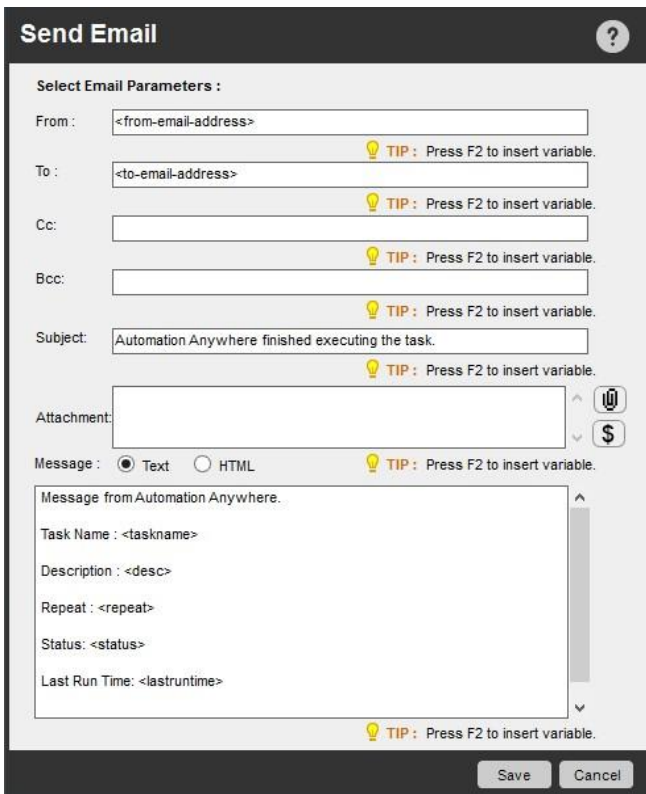
## Send Email(メールを送信)コマンドを使用する


TaskBot/MetaBot Logic からメールを送信するには、次の手順を実行します。

1. [Tools](ツール)メニューをクリックし、[Options](オプション)を選択します。[Email Settings](メール設定)で、[Host Name](ホスト名)と[Port](ポート)を入力します。
  - Host(ホスト): SMTP ホストを使用すると、Automation Anywhere からメールを送信できます。この情報は、メールプロバイダーかメールプログラムの構成設定から取得できます。
  - Port(ポート): この設定では、Automation Anywhere がメールの送信に使用する TCP/IP ポートを定義します (デフォルトのポートは 25 です)。

詳しくは、「[メール通知を設定する](#)」を参照してください。

2. Send Email(メールを送信)コマンドをダブルクリックするか、Workbench の[Task Actions List](タスクアクションリスト)までドラッグします。[Send Email](メールを送信)ウィンドウが表示されます。

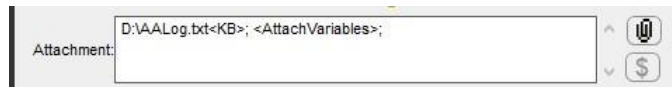



3. [From](送信元)、[To](送信先)、[CC]、および[BCC]にメールアドレスを入力します。
4. [Subject](件名)を入力します。
5. メールと一緒に送信するファイルを添付します。
  - 任意のファイルタイプを添付する場合は、[Attach](添付)ボタンをクリックします。  

  - すべての変数の値を添付する場合は、[Variables](変数)ボタン\*をクリックします。

\*バージョン 8.1 以降で対応



これにより、TaskBot/MetaBot Logic で使用されるすべての変数(システム変数およびユーザー定義変数)の値をリストしたテキストファイルが追加されます。



 備考: 値の入力は動的であるため、システム変数 ExcelCell が添付されることはありません。

6. メールの形式にテキストまたは HTML のいずれかを選択します。
7. メッセージボックスにメッセージを入力します。
8. コマンドを保存します。

---

### 関連トピック

- [FTP/SFTP コマンド](#)
- [Internet Connection\(インターネット接続\)コマンド](#)
  - [Launch Website\(Web サイト起動\)コマンド](#) • [Web Recorder\(Web レコーダー\)コマンド](#) • [Web Service\(Web サービス\)コマンド](#)



## Services (サービス) コマンド

Windows およびアプリケーションサービスを自動化するには、このコマンドを使用します。

### 概要

Services (サービス) コマンドを使用して、サービスを開始、停止、一時停止、再開したり、使用可能なサービスのステータスを取得したりすることができます。

### サブコマンド

Services (サービス) コマンドには、次のサブコマンドが用意されています。

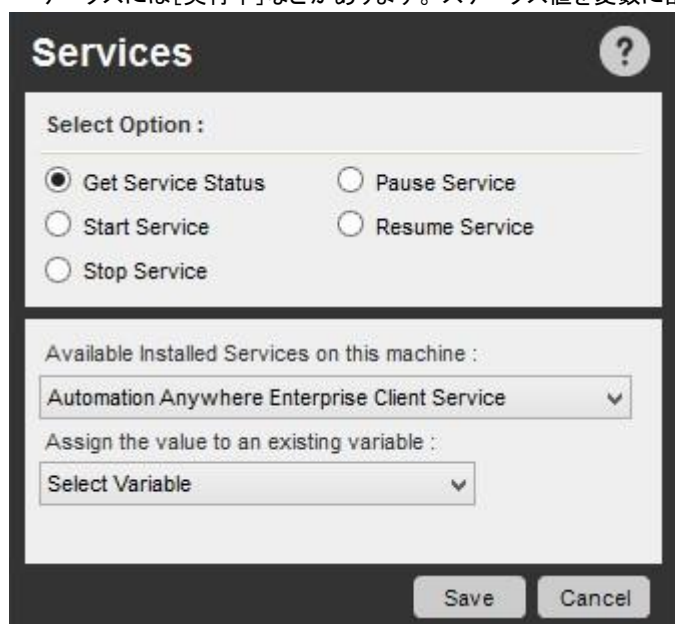
- Get Service Status (サービスステータスを取得)
  - Start Service (サービス開始) • Stop Service (サービス停止)

- Pause Service (サービスを一時停止) • Resume Service (サービス再開) サブコマンドを使用するタスクにサービスコマンドを挿入するには、次の手順を実行します。

1. Services (サービス) コマンドの 1 つをダブルクリックするか、[Task Actions List] (タスクアクションリスト) ペインまでドラッグします。[Services] (サービス) ウィンドウが表示されます。
2. 各フィールドで必要なパラメーターを指定します。
3. [Save] (保存) をクリックして、自動化タスクにコマンドを保存します。

### Get Service Status (サービスステータスを取得) コマンド

Windows またはアプリケーションサービスの現在のステータスを取得するには、このコマンドを使用します。たとえば、Windows Audio サービスのステータスには [実行中] があります。ステータス値を変数に割り当てることができます。



### Start Service (サービス開始) コマンド

タスクを実行する際に Windows またはアプリケーションサービスを開始するには、このコマンドを使用します。

### Stop Service (サービス停止) コマンド

現在実行中の Windows またはアプリケーションサービスを停止するには、このコマンドを使用します。

### Pause Service (サービスを一時停止) コマンド

現在実行中の Windows またはアプリケーションサービスを一時停止するには、このコマンドを使用します。

### Resume Service (サービス再開) コマンド

Pause Service (サービスを一時停止) コマンドを使用して前に一時停止した Windows またはアプリケーションサービスを再開するには、このコマンドを使用します。

---

---

#### 関連トピック

- [Active Directory コマンド](#)
- [Printer Settings \(プリンター設定\) コマンド](#) • [SNMP コマンド](#)

## SNMP コマンド

ネットワークの管理を自動化するには、このコマンドを使用します。

### 概要

簡易ネットワーク管理プロトコル(SNMP)は、1 つまたは複数のコンピューター上のネットワーク管理コンポーネントや複数のネットワークデバイス上の管理対象コンポーネントを検索するために使用されます。

Automation Anywhere の SNMP コマンドで強力なネットワーク管理を実現できます。このコマンドを使用すると、SNMP エージェントソフトウェアで構成されたネットワークデバイスを簡単に監視できます。サーバー、ワークステーション、プリンター、ルーター、ブリッジ、ハブなどのネットワークデバイスと動的ホスト構成プロトコル(DHCP)や Windows インターネットネームサービス(WINS)などのサービスを監視できます。

### サブコマンド

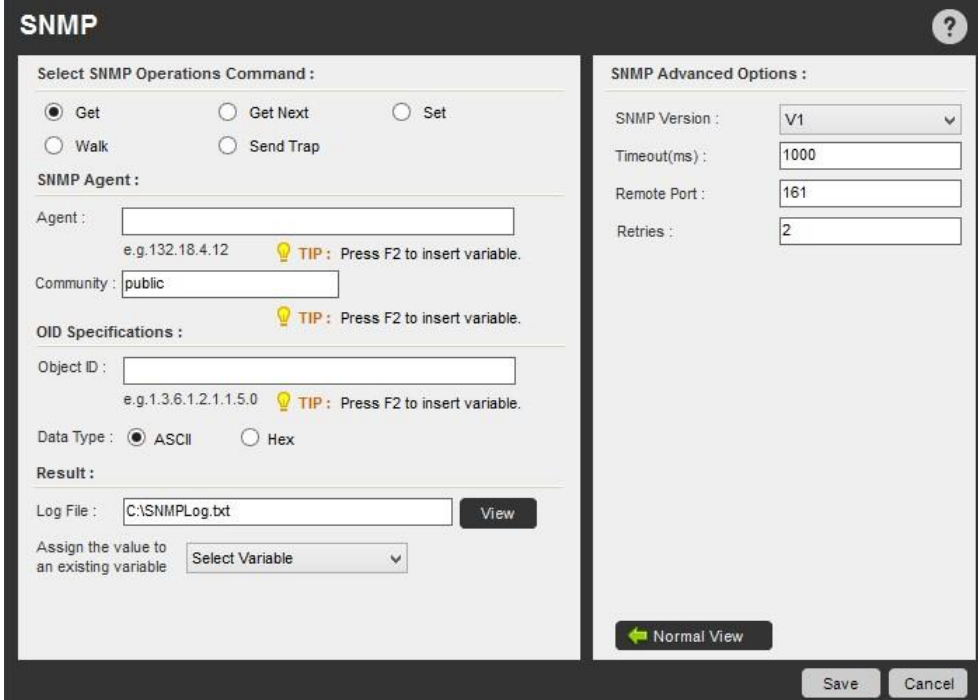
SNMP コマンドには、次のサブコマンドがあります。

- Get(取得)
- Get Next(次を取得) • Set(設定)
- Walk(ウォーク)
- Send Trap(トラップを送信) サブコマンドを使用するタスクにサービスコマンドを挿入するには、次の手順を実行します。

1. SNMP コマンドの 1 つをダブルクリックするか、[Task Actions List](タスクアクションリスト)ペインまでドラッグします。[SNMP]ウィンドウが表示されます。
2. 各フィールドで必要なパラメーターを指定します。
3. [Save](保存)をクリックして、自動化タスクにコマンドを保存します。

### SNMP Get(取得)コマンド

SNMP エージェントからデータを取得するには、このコマンドを使用します。



### SNMP Set(設定)コマンド

SNMP エージェントでデータを変更するには、このコマンドを使用します。

### SNMP

**Select SNMP Operations Command :**

Get       Get Next       Set  
 Walk       Send Trap

**SNMP Agent :**

Agent :

e.g.132.18.4.12    💡 TIP : Press F2 to insert variable.

Community :

💡 TIP : Press F2 to insert variable.

**OID Specifications :**

Object ID :

e.g.1.3.6.1.2.1.1.5.0    💡 TIP : Press F2 to insert variable.

Value Type :

Set Value :

💡 TIP : Press F2 to insert variable.

Result :

Log File :

**SNMP Advanced Options :**

SNMP Version :

Timeout(ms) :

Remote Port :

Retries :

備考：OID 仕様を指定する場合は、[Value Type] (値のタイプ) を選択します。

Value Type :

Set Value :

Result :

Log File :

Integer

Gauge

TimeTicks

IP

ObjectID

OctetByteString

OctetDecimalByteString

NULL

#### SNMP Get Next (次を取得) コマンド

管理オブジェクトの階層全体を参照するには、この拡張要求コマンドを使用します。

### SNMP

**Select SNMP Operations Command :**

Get       Get Next       Set  
 Walk       Send Trap

**SNMP Agent :**

Agent :

e.g.132.18.4.12    💡 TIP : Press F2 to insert variable.

Community :

💡 TIP : Press F2 to insert variable.

**OID Specifications :**

Object ID :

e.g.1.3.6.1.2.1.1.5.0    💡 TIP : Press F2 to insert variable.

Data Type :  ASCII     Hex

Result :

Log File :

Assign the value to an existing variable

**SNMP Advanced Options :**

SNMP Version :

Timeout(ms) :

Remote Port :

Retries :

#### SNMP Walk (ウォーク) コマンド

SNMP GET-NEXT (次を取得) 要求を使用して管理値のサブツリーを取得するには、このコマンドを使用します。

[All] (すべて) または [Within] (範囲内) の [Walk Type] (ウォークタイプ) を指定できます。

### SNMP

**Select SNMP Operations Command :**

Get       Get Next       Set  
 Walk       Send Trap

**SNMP Agent :**

Agent :   
e.g.132.18.4.12    TIP : Press F2 to insert variable.

Community :

**OID Specifications :**    TIP : Press F2 to insert variable.

Object ID :   
e.g.1.3.6.1.2.1.1.5.0    TIP : Press F2 to insert variable.

Data Type :  ASCII     Hex

Walk Type :  All     Within

**Result :**

Log File :  View

Assign the value to an existing variable:

**SNMP Advanced Options :**

SNMP Version :

Timeout(ms) :

Remote Port :

Retries :

← Normal View

Save    Cancel

#### SNMP Trap(トラップ)コマンド

SNMP エージェントから SNMP マネージャーにトラップメッセージを送信するには、このコマンドを使用します。これらのメッセージは、システムの再起動など特定のイベントが発生すると SNMP エージェントによって送信されます。

### SNMP

**Select SNMP Operations Command :**

Get       Get Next       Set  
 Walk       Send Trap

**SNMP Agent :**

Agent :   
e.g.132.18.4.12    TIP : Press F2 to insert variable.

Community :

**OID Specifications :**    TIP : Press F2 to insert variable.

Object ID :   
e.g.1.3.6.1.2.1.1.5.0    TIP : Press F2 to insert variable.

Trap Type :

Trap Specific Number :

**Result :**

Log File :  View

**SNMP Advanced Options :**

SNMP Version :

Timeout(ms) :

Remote Port :

Retries :

← Normal View

Save    Cancel

**備考:** トラップを設定する場合は、指定された[Trap Type](トラップタイプ)を選択します。

Trap Type :

- Select Trap Type
- Cold Start
- Warm Start
- Link Down
- Link Up
- Authentication Fail
- EGP Neighbour Loss
- Enterprise Specific

Trap Specific Number :

**Result :**

Log File :

SNMP コマンドの表示を使用する通常の表示を使用する通常の  
SNMP コマンド表示を使用するには、次の手順を実行します。

1. Select an SNMP Operations Command (SNMP 操作コマンドを選択する): コマンド (Get (取得)、Get Next (次を取得)、Set (設定)、Walk (ウォーク)、または Send Trap (トラップを送信)) を選択します。
2. SNMP Agent (SNMP エージェント): エージェントおよびコミュニティの詳細を指定します。
  - Agent (エージェント): IP アドレスまたはホスト名を指定します。
  - Community (コミュニティ): コミュニティの文字列を指定します。この文字列は、ネットワークエレメントへの読み取り専用アクセスに使用されます。
3. OID Specifications (OID の仕様): SNMP マネージャーが要求するオブジェクト ID を指定します (Get (取得)、Set (設定) など)。
  - Object ID (オブジェクト ID): IP アドレスまたはホスト名を指定します。
  - Data Type (データタイプ): [ASCII] または [Hex] (16 進数) から選択します。
  - Set value (値を設定): メッセージタイプが [Set] (設定) の場合に値を設定します。
  - Walk Type (ウォークタイプ): メッセージタイプが [Walk] (ウォーク) の場合に、[All] (すべて) または [Within] (範囲内) から [Walk Type] (ウォークタイプ) を選択します。[Within] (範囲内) タイプの場合、特定の OID の下にあるサブツリーのすべての変数がクエリーされます。[All] (すべて) を使用すると、特定のツリータイプ構造に指定された OID と等しい変数が表示されます。
  - Trap type (トラップタイプ): 以下からトラップタイプを選択します。
    - a. Cold start (コールドスタート): SNMP エージェントが構成テーブルを初期化すると発生します。
    - b. Warm start (ウォームスタート): SNMP エージェントが構成テーブルを再度初期化すると発生します。
    - c. Link Down (リンクダウン): SNMP エージェントのネットワークアダプター状態がアップからダウンに変わると発生します。
    - d. Link Up (リンクアップ): SNMP エージェントのネットワークアダプター状態がダウンからアップに変わると発生します。
    - e. Authentication Fail (認証失敗): SNMP エージェントが無効なコミュニティ名の SNMP マネージャーからメッセージを受信すると発生します。
    - f. EGP Neighbor loss (EGP ネイバーロス): SNMP エージェントがエクステリアゲートウェイプロトコル (EGP) ピアと通信できない場合に発生します。
    - g. Enterprise specific (企業固有): 固有のエラー条件およびエラーコードがシステムに定義されている場合に発生します。ユーザーは、このオプションについて [Trap Specific Number] (トラップ固有の番号) を指定する必要があります。
4. Result (結果):
  - Log File (ログファイル): 選択したログファイルに SNMP ログデータを表示します。
  - Assign the value to an existing variable (既存の変数に値を割り当て): 変数値を指定します。

Advanced View (詳細ビュー) を使用する

[Advanced View] (詳細ビュー) ボタンをクリックすると、追加の SNMP オプションが表示されます。SNMP の詳細オプションは次のとおりです。

- SNMP Version (SNMP バージョン): デバイスバージョン (V1、V2、または V3) を選択します。
- Timeout (ms) (タイムアウト (ミリ秒)): エラーを生成するまでのアクションの応答時間をミリ秒単位で指定します。
- Remote Port (リモートポート): Get リクエストに使用する TCP/IP ポートを指定します。デフォルトは 161 です。
- Retries (再試行): メッセージを再試行する回数を指定します。

V3 では認証レベルを選択することで、(V1 と V2 に比べて) より安全な環境を実現できます。このオプションの内容は次のとおりです

**SNMP Advanced Options :**

SNMP Version :

Timeout(ms) :

Remote Port :

Retries :



Authentication Level :

Authentication Method :

Password :

Privacy Method :

Private Key :

- Authentication Level(認証レベル) : [None](なし)、[Authentication Only](認証のみ)、[Authentication with privacy](認証とプライバシー) から選択します。
- Authentication Method(認証方法) : [MD5]または[SHA]のいずれかを選択します。  
 備考: 選択した認証レベルが[None](なし)以外の場合にのみ適用できます。[Password](パスワード)を入力する必要もあります。
- Password(パスワード) : デバイスに接続するためのパスワードを入力します。
- Privacy Method(プライバシー方式) : プライバシー方式として[DES]または[AES]のいずれかを選択します。このプライバシー方式では、プログラムが暗号化されると同様にパスワードがプライベートキーで保護されます。  
 備考: 選択した認証レベルが[Authentication with privacy](認証とプライバシー)の場合にのみ適用できます。
- Private Key(プライベートキー) : 選択した認証レベルが[Authentication with privacy](認証とプライバシー)の場合に生成されるプライベートキーを入力します。

---

### 関連トピック

- [Active Directory コマンド](#)
- [Services\(サービス\)コマンド](#)
- [Printer Settings\(プリンター設定\)コマンド](#)



## Stop Task (タスクを停止) コマンド

自動化タスクの実行を停止するには、このコマンドを使用します。

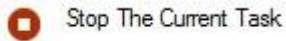
### 概要

タスクアクションに [Stop Task] (タスクを停止) コマンドを挿入することにより、任意の時点でオートメーションタスクを停止できます。たとえば、100 MB より大きいファイルがあった場合など、特定の条件を満たした場合にタスクを停止できます。

Stop Task (タスクを停止) コマンドを使用するタスクにプロンプトコマンドを挿入するには、次の手順を実行します。

1. Workbench でタスクを開きます。
2. [Stop Task] (タスクを停止) コマンドをダブルクリックするか、[Task Actions List] (タスクアクションリスト) ペインまでドラッグします。
3. [Stop Task] (タスクを停止) コマンドの場所を変更するには、単純にそのコマンドを切り取って貼り付けるか、自動化タスク内の別の場所にドラッグします。

Automation Anywhere では、[Task Actions List] (タスクアクションリスト) で現在選択されている行の上に Stop Task (タスクを停止) コマンドが挿入されます。



---

### 関連トピック

- [Run Task \(タスクを実行\) コマンド](#)
- [Run Script \(スクリプトを実行\) コマンド](#)

## String Operation (文字列処理) コマンド

このコマンドを使用すると、テキスト文字列を操作したり、文字列の一部を抽出して変数内に格納したりすることができます。

### 概要

文字列処理は、業務プロセスを自動化する際に非常に役立ちます。たとえば、メール、Web サイト、またはアプリケーションウィンドウからテキストブロックの一部を抽出する場合などです。

文字列をキャプチャした後で操作することもできます。具体的なフレーズを検索したり、2 つの文字列を比較したり、文字列を大文字または小文字に変換したり、文字列の長さを取得したりすることができます。

### サブコマンド

String Operation (文字列処理) コマンドには、次のサブコマンドが用意されています。

- [Before-After \(前 - 後\)](#) • [Compare \(比較\)](#)
  - [Find \(検索\)](#) • [Join \(結合\)](#)
- [Length \(長さ\)](#)
- [Lower Case \(小文字\)](#) • [Replace \(置換\)](#)
  - [Reverse \(反転\)](#) • [Split \(分割\)](#)
- [Sub-String \(サブストリング\)](#) • [Trim \(トリム\)](#)
- [Upper Case \(大文字\)](#) サブコマンドを使用する

TaskBot/MetaBot Logic に [String Operation] (文字列処理) コマンドを挿入するには、次の手順を実行します。

1. [String Operation] (文字列処理) コマンドの 1 つをダブルクリックするか、[Task Actions List] (タスクアクションリスト) ペインまでドラッグします。  
[String Operation] (文字列処理) ウィンドウが表示されます。
2. 各フィールドで必要なパラメーターを指定します。
3. [Save] (保存) をクリックして自動化 TaskBot/MetaBot Logic にコマンドを保存します。

### Before-After (前 - 後) コマンド

このコマンドを使用すると、[Before] (前) および [After] (後) のキーワードを使用して一定範囲のテキストを抽出対象として指定できます。

F2 ファンクションキーを使用して、[Enter] (入力) 変数と [Tab] (タブ) 変数を挿入できます。これらの変数は、[Before] (前) と [After] (後) のキーワードに挟まれた指定文字列の区切り文字として機能します。

「Before-After」(前 - 後) の文字列コマンドの絞り込みには、「OR」または「AND」論理演算子を使用できます。

- 「AND」演算子を使用すると、「前」と「後」の条件を確実に一致させることができます。
  - たとえば、[Before] (前) に何か文字列を入力し、それが検出されなかった場合、検索は中止されます。プログラムは「After」(後) の文字列入力の検索は行いません。
- 「Before」(前) または「After」(後) 条件のどちらかを満たすようにするには「OR」演算子を使用します。
  - たとえば、「Before」(前) に入力した文字列が見つからない場合、プログラムは引き続き「After」(後) の文字列入力を検索します。

 備考: デフォルトの論理演算子は「OR」です。

### String Operation

Select Operation: **Before-After** Note: Returns the sub string enclosed by 'Before' and 'After' strings.

Source String:

**Before (Optional)**  **Occurrence(Optional)**

**Logical Operator** **OR**

**After (Optional)**  **Occurrence(Optional)**

Example: TIP: Press F2 to insert variable. TIP: Press F2 to insert variable.  
 To extract \$249 from 'Price: \$249 xyz', Specify "Before" = Price; "After" = xyz

No. of characters to be extracted   Trim the extracted text  Remove Enter from the extracted text

If no match found, return  Source String  Empty (Null) String

Assign the output to variable:

**Save** **Cancel**

例：テキスト文字列「NameofApplicantJamesSmithApplicantLocation」の「JamesSmith」のみをコピーするとします。[Before] (前)に「Applicant」を指定し、[Occurrence] (出現)を 1 にします。同様に[After] (後)に「Applicant」を指定し、[Occurrence] (出現)を 1 にします。これは文字列の先頭からは 2 回目の出現ですが、[Before] (前)キーワードの後では 1 回目の出現です。

抽出文字数を指定することもできます。これは[Before] (前)キーワードの後の 1 文字目から数えます。抽出する文字列をトリムして前後のスペースを削除することもできます。また、文字列を変数に保存できます。

#### ヒント:

- [Before/After] (前/後)コマンドを使用するとき、キーボードのスペースバーを用いて、文字列間の区切り文字としてスペースを入力します。
- 場合によっては、Web サイトから抽出される内容は Enter 記号 (小さい四角形) で区切られます。これは CSV ファイルで見られます。

#### Compare (比較)コマンド

文字列を指定して文字列を比較するには、このコマンドを使用します。「Match Case」(大文字と小文字を区別)オプションを選択するとさらに検索の絞り込みができます。True または False の値が返されます。返された値を変数に割り当てできます。

### String Operation

Select Operation: **Compare** Note: Compares String1 with String2 and returns TRUE/FALSE.

String1:

**String2:**   Match Case

Assign the output to variable:

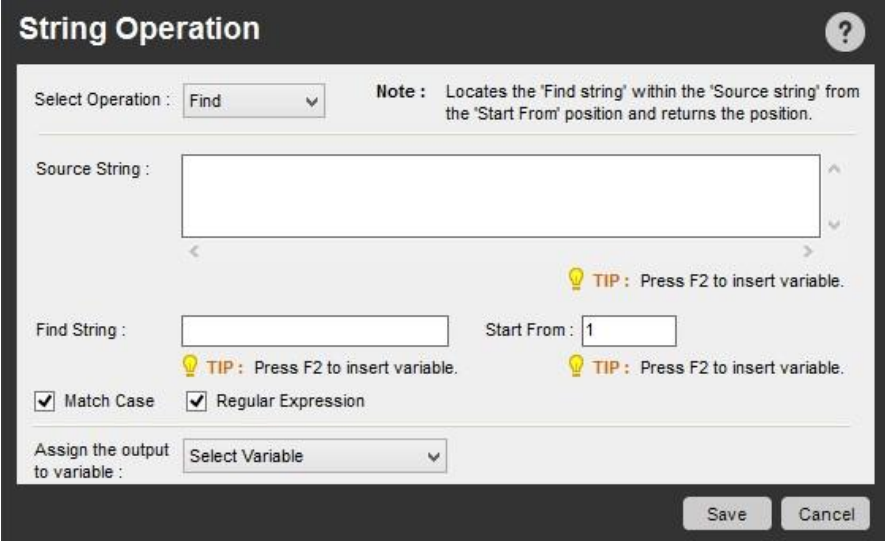
**Save** **Cancel**

#### Find (検索)コマンド

[Start] (開始) パラメーターを指定してソース文字列の中から一部の文字列を見つけるには、このコマンドを使用します。

指定する文字列が正規表現の場合は、用意されたチェックボックスを選択します。[Find String] (検索文字列) フィールドに正規表現を入力しま

す。また、[Start From] (開始位置) に文字数を指定したり、[Match Case] (大文字と小文字を区別) や [Regular Expression] (正規表現) を選択することによって、検索パラメーターを絞り込みます。



**String Operation** ?

Select Operation : Find Note : Locates the 'Find string' within the 'Source string' from the 'Start From' position and returns the position.

Source String :

Find String :  Start From : 1

Match Case  Regular Expression

Assign the output to variable :

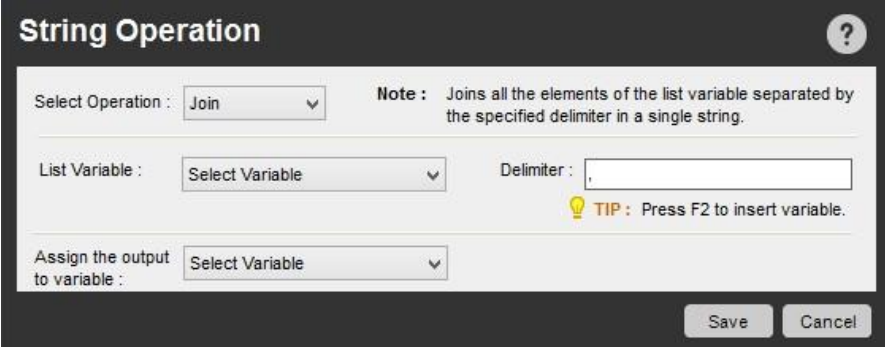
TIP : Press F2 to insert variable.

Save Cancel

たとえば、ソースの中からメールアドレスをすべて検索するには、正規表現として以下のように指定します。 `\b[A-Z0-9._%]+@[A-Z0-9.-]+\.[A-Z]{2,4}\b`

#### Join (結合) コマンド

ソース文字列および delimiter を定義することによってリスト変数のすべての個別要素を結合するには、このコマンドを使用します。



**String Operation** ?

Select Operation : Join Note : Joins all the elements of the list variable separated by the specified delimiter in a single string.

List Variable :  Delimiter :

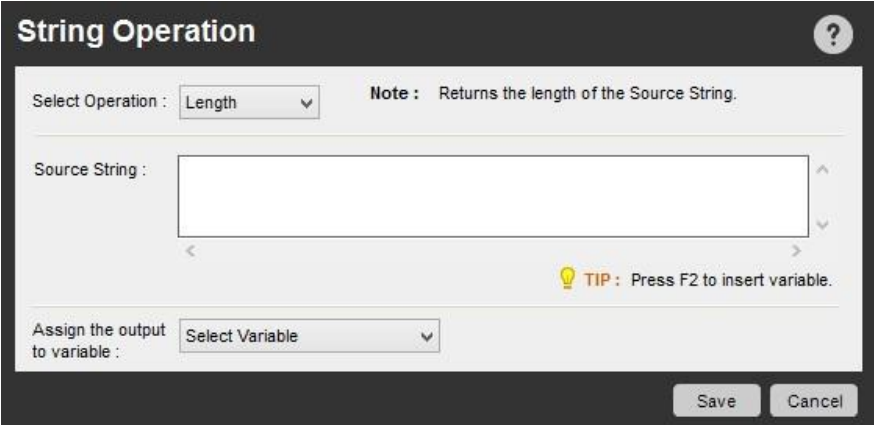
Assign the output to variable :

TIP : Press F2 to insert variable.

Save Cancel

#### Length (長さ) コマンド

ソース文字列を指定して文字列の長さを求めるには、このコマンドを使用します。



**String Operation** ?

Select Operation : Length Note : Returns the length of the Source String.

Source String :

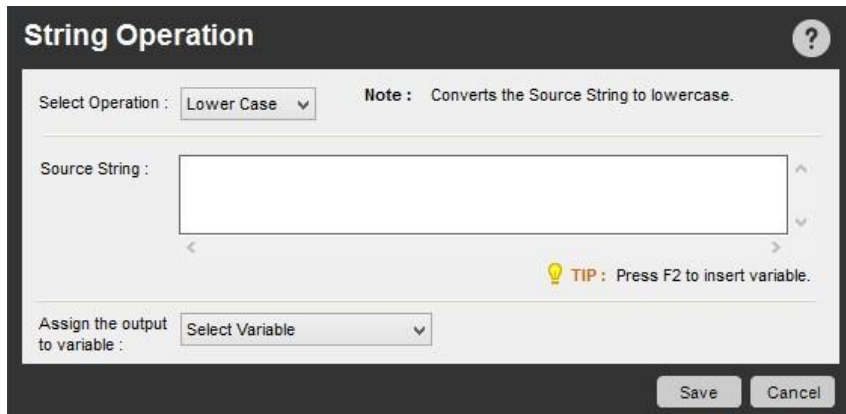
Assign the output to variable :

TIP : Press F2 to insert variable.

Save Cancel

#### Lower Case (小文字) コマンド

ソース文字列を小文字に変換するには、このコマンドを使用します。



**String Operation** ?

Select Operation : Lower Case Note : Converts the Source String to lowercase.

Source String :

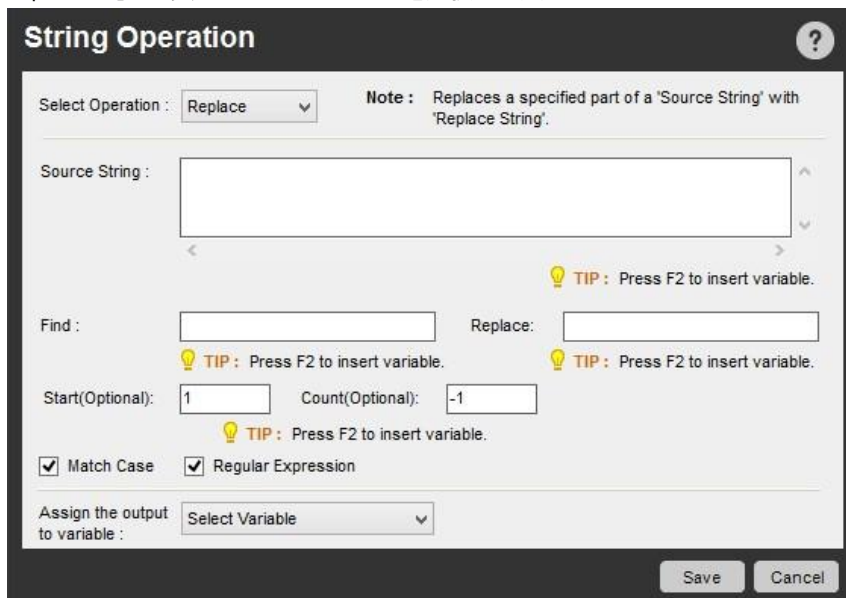
TIP : Press F2 to insert variable.

Assign the output to variable : Select Variable

Save Cancel

### Replace (置換) コマンド

ソース文字列の一部を指定された置換文字列に置換するには、このコマンドを使用します。オプションで、[Start] (開始) に文字列の開始位置を指定し、置換する回数を [Count] (回数) に指定します。[Find String] (検索文字列) フィールドに正規表現を入力する場合は、[Regular Expression] (正規表現) チェックボックスを選択します。



**String Operation** ?

Select Operation : Replace Note : Replaces a specified part of a 'Source String' with 'Replace String'.

Source String :

TIP : Press F2 to insert variable.

Find :  Replace :

TIP : Press F2 to insert variable. TIP : Press F2 to insert variable.

Start(Optional): 1 Count(Optional): -1

TIP : Press F2 to insert variable.

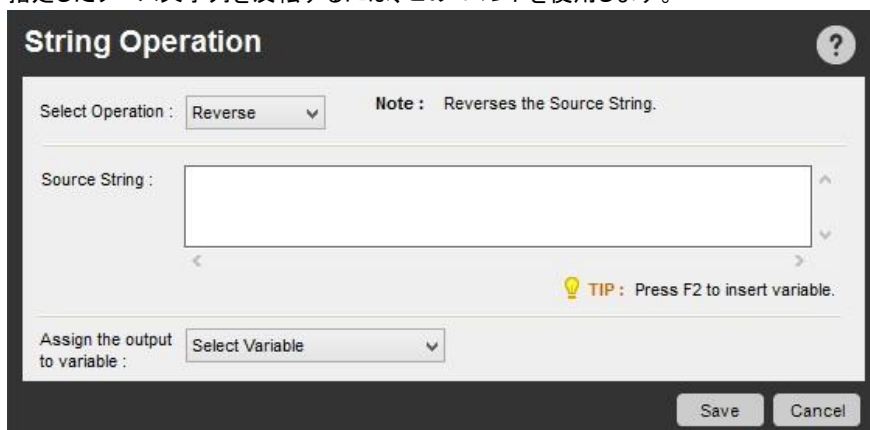
Match Case  Regular Expression

Assign the output to variable : Select Variable

Save Cancel

### Reverse (反転) コマンド

指定したソース文字列を反転するには、このコマンドを使用します。



**String Operation** ?

Select Operation : Reverse Note : Reverses the Source String.

Source String :

TIP : Press F2 to insert variable.

Assign the output to variable : Select Variable

Save Cancel

### Split (分割) コマンド

ソース文字列を分割するには、このコマンドを使用します。[Delimiter] (区切り文字) を指定し、[Limit] (制限) 内で考慮する delimiter の数を任意で指定します。[Match Case] (大文字と小文字を区別) を選択することによって、範囲を絞り込みます。結果は、リスト変数に保存されます。

### String Operation

Select Operation : **Split** Note : Splits the Source String by the Delimiter and the resultant elements are stored in the list variable.

Source String :

Delimiter :  Limit(Optional) :   Match Case

Assign the output to variable :

Save Cancel

#### Sub String(部分文字列)コマンド

文字列の一部を取得するには、このコマンドを使用します。ソース文字列と、[Start From](開始位置)や任意で[Length](長さ)などのパラメーターを指定します。

### String Operation

Select Operation : **Sub String** Note : Returns a sub string from the Source String, starting from 'Start From' upto 'Length' number of characters.

Source String :

Start From :  Length :  (Optional)

Assign the output to variable :

Save Cancel

#### Trim(トリム)コマンド

指定したソース文字列から空白やスペースをトリムするには、このコマンドを使用します。

### String Operation

Select Operation : **Trim** Note : Trims blanks/whitespaces.

Source String :

Trim Options :  Trim From Left  Trim From Right

Assign the output to variable :

Save Cancel

#### Upper Case(大文字)コマンド

ソース文字列を大文字に変換するには、このコマンドを使用します。

### String Operation ?

Select Operation :  **Note :** Converts the Source String to uppercase.

Source String :

 **TIP :** Press F2 to insert variable.

Assign the output to variable :

---

### 関連トピック

- [Variable Operation\(変数処理\)コマンド](#)



## System(システム)コマンド

コンピューターシステムに関する反復タスクを自動化するには、このコマンドを使用します。

### 概要

コンピューターシステムに関する特定の反復タスクおよびルーチンタスクを自動化して、時間とエネルギーを節約することができます。このトピックでは、Automation Anywhere で次のようなコマンドを使用する方法について説明します。

### サブコマンド

- Lock the computer(コンピューターをロック) • Log off(ログオフ)
- Shutdown the computer(コンピューターをシャットダウン) • Restart the computer(コンピューターを再起動)サブコマンドを使用するタスクに[System](システム)コマンドを挿入するには、次の手順を実行します。

1. [System](システム)コマンドの1つをダブルクリックするか、[Task Actions List](タスクアクションリスト)ペインまでドラッグします。[System](システム)ウィンドウが表示されます。
2. 各フィールドで必要なパラメーターを指定します。
3. [Save](保存)をクリックして、自動化タスクにコマンドを保存します。



### Lock the computer(コンピューターをロック)コマンド

コンピューターを自動的にロックするには、このコマンドを使用します。通常このコマンドはタスクの最後に使用し、システムに誰も残っていない場合に安全のために実行します。

### Logoff(ログオフ)コマンド


コンピューターから自動的にログオフするには、このコマンドを使用します。通常このコマンドはタスクの最後に使用し、システムに誰も残っていない場合に安全のために実行します。

### Shutdown(シャットダウン)コマンド

就業時間の終了時などにコンピューターをオフにするには、このコマンドを使用します。


- [Shutdown](シャットダウン)コマンドを利用するとエネルギーが節約できます。
- 環境についての意識を高めるために、Automation Anywhere では、[Shutdown](シャットダウン)コマンドの横にある[System](システム)ウィンドウで示すように、緑色の葉のアイコンで省エネアクションを強調しています。



 備考: [Shutdown](シャットダウン)コマンドは、自動化タスクの最後にのみ挿入する必要があります。そうでない場合、タスクの他のコマンドを実行できません。

### Restart(再起動)コマンド

コンピューターを自動的に再起動するには、このコマンドを使用します。

 備考: [Restart](再起動)コマンドは、自動化タスクの最後にのみ挿入する必要があります。そうでない場合、タスクの他のコマンドを実行できません。

## 関連トピック

- File and Folder(ファイルとフォルダー)コマンド
  - Log-to-File(ファイルにログ)コマンド
- Manage Windows Controls(ウィンドウズコントロールを管理)コマンド
  - Open Program/File(プログラム/ファイルを開く)コマンド
  - Window Actions(ウィンドウアクション)コマンド

## Terminal Emulator(ターミナルエミュレーター)コマンド

Terminal Emulator(TE)(ターミナルエミュレーター)コマンドを使用して、リモートターミナルの DOS ベースのデフォルトアクションにアクセスして制御します。

### 概要

Terminal Emulator(ターミナルエミュレーター)コマンドを使用して、リモートターミナルの DOS ベースのデフォルトアクションにアクセスして制御します。DOS コマンド(`dir`, `ipconfig`, `copy`, `recover` など)を発行します。また、TaskBot と MetaBot Logic 間でアプリケーションの正確な状態を転送して、自動化ロジックを最適化します。


### サブコマンド

Terminal Emulator(ターミナルエミュレーター)コマンドには、次のサブコマンドが用意されています。

- [Connect\(接続\)](#)
- [Disconnect\(切断\)](#)
- [Send Text\(テキストを送信\)](#) • [Get Text\(テキストを取得\)](#)
- [Set Field\(フィールドを設定\)](#) • [Get Field\(フィールドを取得\)](#)
- [Get All Fields\(すべてのフィールドを取得\)](#)
- [Wait\(待機\)](#)
- [Control\(コントロール\)](#) サブコマンドを使用する

TaskBot/MetaBot Logic に Terminal Emulator(ターミナルエミュレーター)コマンドを挿入するには、次の手順を実行します。

1. Terminal Emulator(ターミナルエミュレーター)コマンドの 1 つをダブルクリックするか、[Task Actions List] ペインまでドラッグします。
2. [Session Name](セッション名), [Host Name](ホスト名), [Port](ポート), [Terminal Type](ターミナルのタイプ), [Terminal Prompt](ターミナルのプロンプト)の各フィールドに必要なパラメーターを指定します。


 ヒント: セキュリティ強化のために、[Host Name](ホスト名)には Credential Variable(資格情報変数)を挿入することを選択できます。詳しくは[こちら](#)を参照してください。

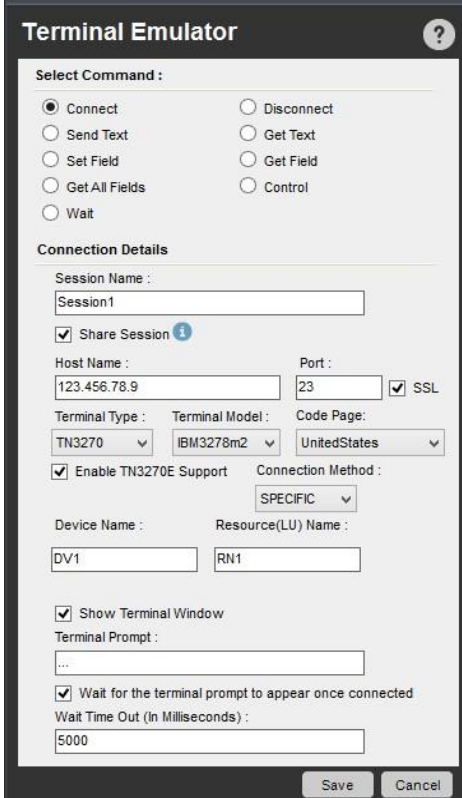
3. [保存]をクリックします。

### Connect(接続)コマンド

ターミナルにリモート接続するには、このコマンドを使用します。ターミナルの接続詳細を指定します。次のタイプのターミナルに接続できます。


- ANSI • VT100 • TN3270 • TN5250

 備考: デフォルトで選択されているターミナルは、ANSI です。



#### Share Session(セッションを共有)\*

自動化ロジックを最適化するには、[Share Session](セッションを共有)オプションを有効にします。それにより、「アプリケーションの正確な状態を別の TaskBot/MetaBot Logic に」転送するために必要な柔軟性を備えるように、大きな TaskBot/MetaBot Logic をトリミングすることができます。これを行うには、Run Task(タスクを実行)コマンドを使用します。

 備考: TaskBot と MetaBot Logic の間では、Terminal Emulator(ターミナルエミュレーター)コマンドセッションの状態のみを共有できます。既存の状態は、後続の TaskBot(サブタスク)/MetaBot Logic のすべての Terminal Emulator(ターミナルエミュレーター)サブコマンドに継承されます。

このオプションについての詳細は、「[タスク間でセッションを共有する](#)」を参照してください。

TN ターミナル - オプション安全な接続を有効にする

る

「SSL」を選択/有効にすると、ターミナルタイプ「TN3270」と「TN5250」の安全な接続が保証されます。デフォルトの[Port](ポート)は同様に「992」になります。

- ターミナルタイプ TN3270: [Enable TN3270 Support](TN3270 のサポートを有効化)を選択すると、[Connection Method](接続方法)を選択できます。ここでは、[Generic](汎用)か[Specific](専用)のいずれかを選択できます。次の操作を実行できます。
  - a. [Generic](汎用)の接続方法を選択すると、[Device Name](デバイス名)を入力できます。
  - b. [Specific](専用)の接続方法を選択すると、[Device Name](デバイス名)と[Resource (LU) Name](リソース(LU)名)を入力できます。

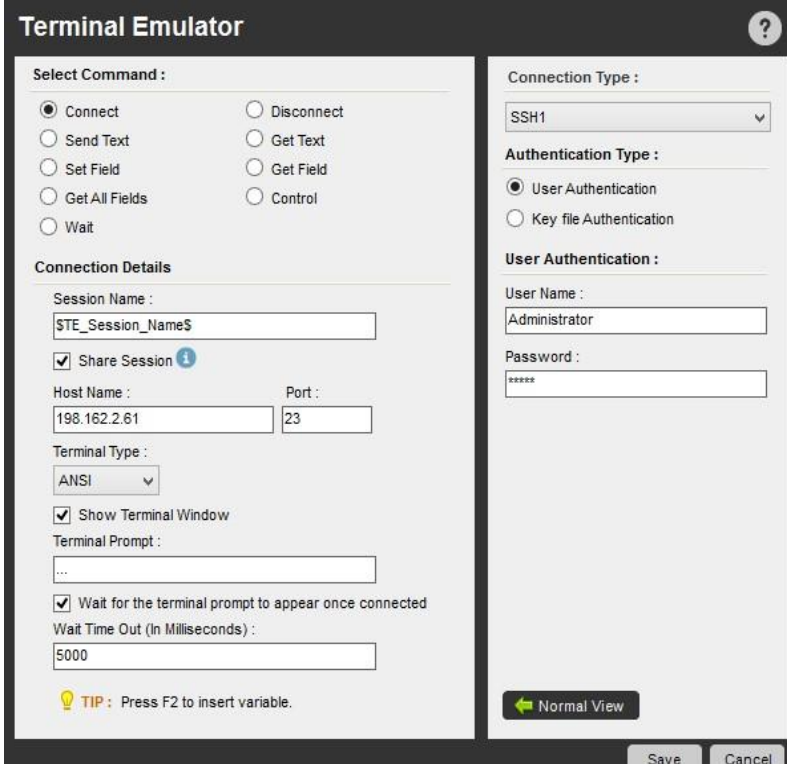
 備考: TN5250 のサポートを有効にすると、[Device Name](デバイス名)と[Resource (LU) Name](リソース(LU)名)のみを入力できます。

ターミナルタイプ TN3270 と TN5250 では、[Terminal Model](ターミナルモデル)と[Code Page](コードページ)を選択することもできます。

- [Terminal Model](ターミナルモデル)オプションを使用すると、コマンド UI に一覧表示される IBM 3477 や IBM 3278 などのさまざまなターミナルワークステーションやディスプレイに接続できます。
- [Code Page](コードページ)では、German 273 や Iceland 871 のようなターミナルのエンコードタイプを設定できます。

Advancedビュー

ターミナルタイプ ANSI と VT100 を選択すると、Advanced ビューを利用できます。3 つのプロトコル、すなわち Telnet, SSH1, SSH2 のいずれかを指定します。



 備考: デフォルトの接続タイプは Telnet です。

SSH1 と SSH2 の場合は、ターミナルの接続に使用する認証タイプを指定します。

次の認証モードを使用できます。

- User Authentication (ユーザー認証): ユーザー名とパスワードを指定します。
- Key file Authentication (キーファイル認証): キーファイルの場所を選択します。\*

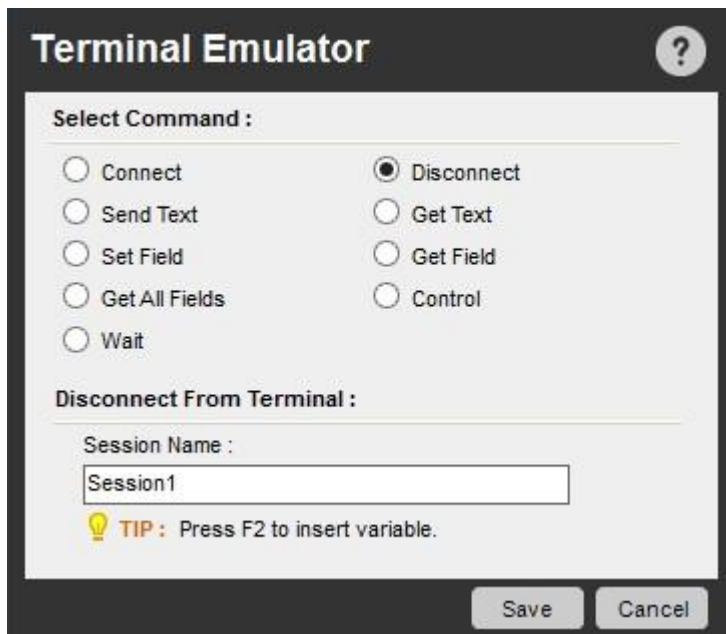
\* SSH.COM ファイル形式のみがサポートされます。

 備考: [SSH2]の接続タイプを使用する場合は、[User Name] (ユーザー名)の入力が必須になります。ここでは、[User Name] (ユーザー名)フィールドと[Password] (パスワード)フィールドに Credential Variable (資格情報変数)を挿入することを選択できます。



Disconnect (切断) コマンド

既存のターミナル接続から切断するには、このコマンドを使用します。



### Send Text(テキストを送信)コマンド

テキストを指定して端末に送信するには、このコマンドを使用します。[Encrypt Text](テキストを暗号化)チェックボックスをオンにすると、暗号化されたテキストを送信することもできます。

暗号化されたテキストを送信した後にキーを送信するには、ドロップダウンリストから必要なキーを選択します。



### Get Text(テキストを取得)コマンド

ターミナルのテキストを受信するには、このコマンドを使用します。次のオプションを選択できます。

- Last Line(最後の行)
- All Lines(すべての行)
- Line From-To(行の範囲を指定)
- Lines With Column Range(行の列範囲を指定)



**Terminal Emulator** ?

Select Command :

Connect       Disconnect  
 Send Text       Get Text  
 Set Field       Get Field  
 Get All Fields       Control  
 Wait

Get Text From Terminal :

Session Name :

Get Text :

Start Row :       Start Column :

End Row :       End Column :

Assign the value to an existing variable :

 **TIP:** Press F2 to insert variable

Save Cancel

Set Field(フィールドを設定)

ターミナルタイプ TN3270 と TN5250 の索引または名前でフィールドを設定するには、このコマンドを使用します。このようなターミナルタイプのフィールドを通してデータを設定すると、自動化が強化されます。



**Terminal Emulator** ?

Select Command :

Connect       Disconnect  
 Send Text       Get Text  
 Set Field       Get Field  
 Get All Fields       Control  
 Wait

Set Field

Session Name :

Select Field :  By Index       By Name

Field Index :

Encrypt Text  
 Text :

Send a key after sending the above text

 **TIP:** Press F2 to insert variable.

Save Cancel

Get Field(フィールドを取得)



索引または名前でフィールド値を取得して、ターミナルタイプ TN3270 と TN5250 の変数に割り当てるには、このコマンドを使用します。



**Terminal Emulator** [?]

Select Command :

Connect                       Disconnect  
 Send Text                         Get Text  
 Set Field                          Get Field  
 Get All Fields                    Control  
 Wait

**Get Field**

Session Name :

Select Field :  By Index    By Name

Field Name :

Assign the value to an existing variable :

**TIP** : Press F2 to insert variable.

Save    Cancel

Get All Fields(すべてのフィールドを取得)

すべてのフィールドの値を取得し、ターミナルタイプ TN3270 と TN5250 の配列変数に割り当てるには、このコマンドを使用します。



**Terminal Emulator** [?]

Select Command :

Connect                       Disconnect  
 Send Text                         Get Text  
 Set Field                          Get Field  
 Get All Fields                    Control  
 Wait

**Get All Fields**

Session Name :

Assign the value to an existing array variable :

**TIP** : Press F2 to insert variable.

Save    Cancel

Wait(待機)コマンド

Wait(待機)コマンドを挿入するには、このコマンドを使用します。Wait(待機)コマンドを挿入すると、ターミナルのステータスに基づいて、自動化された TaskBot/MetaBot ロジックで別のアクションを自動化して実行できます。



**Terminal Emulator** ?

Select Command :

Connect       Disconnect  
 Send Text       Get Text  
 Set Field       Get Field  
 Get All Fields       Control  
 Wait

Wait For Terminal Event :

Session Name :

Terminal Event :  
 ▼

Text :

Wait Time Out (In Milliseconds) :

💡 TIP : Press F2 to insert variable.

Save Cancel

以下のオプションがあります。

- Wait till text appears (テキストが表示されるまで待機)
- Wait till text disappears (テキストが消えるまで待機)
- Wait till cursor moves to position (カーソルが位置に移動するまで待機)
- Wait till cursor moves out of position (カーソルが位置を外れるまで待機)
- Wait till screen gets blank (スクリーンに何も表示されなくなるまで待機)
- Wait till screen contain text (スクリーンにテキストが表示されるまで待機)
- Wait till terminal prompt appears (Terminal prompt が表示されるまで待機)
- Wait till terminal Ready State (ターミナルが準備完了状態になるまで待機)
- Control (コントロール) コマンド

ターミナルの表示方法をコントロールするには、このコマンドを使用します。



**Terminal Emulator** ?

Select Command :

Connect       Disconnect  
 Send Text       Get Text  
 Set Field       Get Field  
 Get All Fields       Control  
 Wait

Control Terminal :

Session Name :

Select TerminalAction :  
 ▼

💡 TIP : Press F2 to insert variable.

Save Cancel

以下のオプションがあります。

- Show Terminal(ターミナルを表示) • Hide Terminal(ターミナルを非表示) • Clear Terminal(ターミナルをクリア)
  - Set Cursor Position(カーソル位置を設定)
- 
- 

#### 関連トピック

- [Database\(データベース\)コマンド](#) • [Email Automation\(メールの自動化\)コマンド](#) • [Excel コマンド](#) • [OCR コマンド](#)
- [PDF Integration\(PDF 統合\)コマンド](#) • [Read from CSV/Text\(CSV/テキストから読み込み\)コマンド](#) • [XML コマンド](#)

## TaskBot/MetaBot Logic 間でセッションを共有する

数百ものタスクを同時に実行する必要があり、その中でコマンドが反復して使用されているとします。たとえば、異なるタスクで何度も同じアプリケーションに接続する必要があるなど、面倒な場合があります。1つのタスクでこの操作を実現できるオプションを使用すると、長期的に自動化ロジックをより最適化することができます。

これを実現するために設計されているのが[Share Session] (セッションを共有) オプションです。同時に発生している TaskBot/MetaBot Logic とアプリケーションの正確な状態をやり取りする場合に、Terminal Emulator (ターミナルエミュレーター) コマンドで[Share Session] (セッションを共有) オプションを使用できます。

### [Share Session] (セッションを共有) の使用方法

共通のスレッドによって接続された TaskBot/MetaBot Logic の階層を作成できます ([Share Session] (セッションの共有))。

- Run Task (タスクを実行) コマンドを使用し、[Share Session] (セッションを共有) オプションが有効化/選択されたアプリケーションに接続する [Main Task] (メインタスク) を作成します。
- 必要なデータ/情報を取得する、その他の [Sub Tasks] (サブタスク) を呼び出します。

実際には、サブタスクでアプリケーション (この場合はターミナル) から切断することはありません。メインタスクからサブタスクに対してアプリケーションの正確な状態をやり取りします。これにより、次のことが確実にになります。

- 容量の大きい TaskBot/MetaBot Logic から、接続と切断の反復的なコマンドが削減されます。
- そのため、同じ結果がより早く得られます。

例: セッションを共有し、メインフレームターミナルにインストールされたアプリケーションのデータにアクセスして取得するここで、仮説的な例を引用して[Share Session] (セッションを共有) 機能について説明します。

さまざまなアプリケーションがインストールされたメインフレームターミナルにアクセスできると仮定します。通常は、ターミナルに接続する個別のセッションを使用して各アプリケーションにアクセスします。そのため、各 TaskBot/MetaBot Logic は (以前のデータセッションをクリアするための) 接続や切断といった反復的なコマンドで構成されます。


有効な [Share Session] (セッションを共有) オプションを使用すると、TaskBot/MetaBot Logic 間で既存のセッション状態を実際に共有できます。

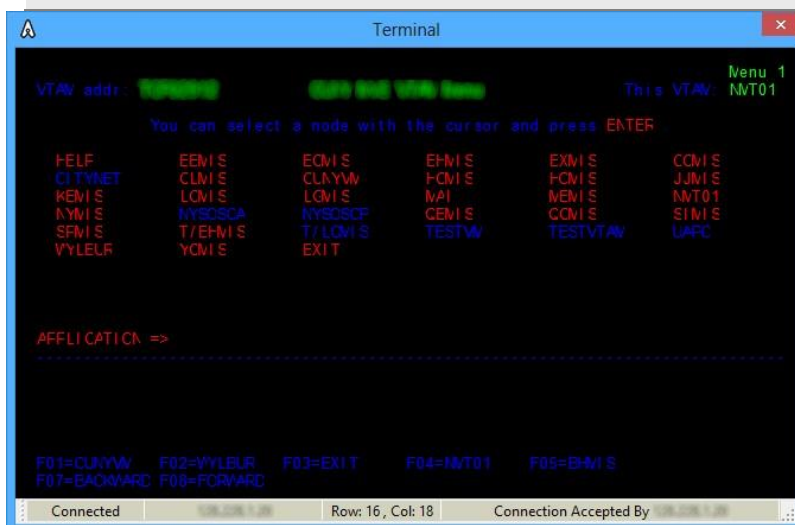
理想としては、他のサブタスク (TE\_BMIS および TE\_CMIS) を呼び出すメインタスク (TE\_Share\_Main など) を作成します。これらのサブタスクは、さまざまなアプリケーションから必要なデータや情報を取得します。

1. メインタスク (TE\_Share\_Main) で、Terminal Emulator の Connect (接続) サブコマンドを使用してメインフレームターミナルに接続します。[Share Session] (セッションを共有) を有効にします。



- 最初のサブタスク(TE\_BMIS)を呼び出すために、Run Task コマンドを含めます。このタスクが Send Text(テキストを送信)や Set Field(フィールドを設定)などのいくつかのサブコマンドを使用していることを確認します。

 備考: セッションの共有が有効になっているため、BMIS アプリケーションはメインタスク(TE\_Share\_Main)で接続されている同じターミナルで起動します。



- Get Text(テキストを取得)コマンドと Get Field(フィールドを取得)コマンドを使用して、必要な情報を取得します。



**Terminal Emulator** ?

Select Command :

Connect                       Disconnect  
 Send Text                             Get Text  
 Set Field                               Get Field  
 Get All Fields                         Control  
 Wait

Get Text From Terminal :

Session Name :  
te-main-session

Get Text :  
Last Line

Start Row :                      Start Column :  
1                                      1

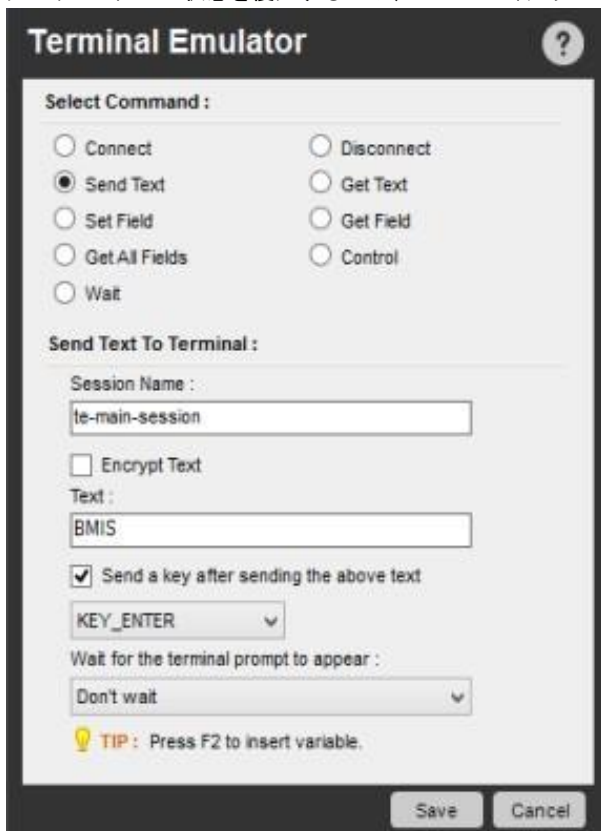
End Row :                        End Column :  
1                                      1

Assign the value to an existing variable :  
\$Prompt-Assignment\$

**TIP** : Press F2 to insert variable.

Save    Cancel

4. 元のターミナルの状態を復元するには、Send Text(テキストを送信)コマンドを使用します。



**Terminal Emulator** ?

Select Command :

Connect                       Disconnect  
 Send Text                             Get Text  
 Set Field                               Get Field  
 Get All Fields                         Control  
 Wait

Send Text To Terminal :

Session Name :  
te-main-session

Encrypt Text

Text :  
BMIS

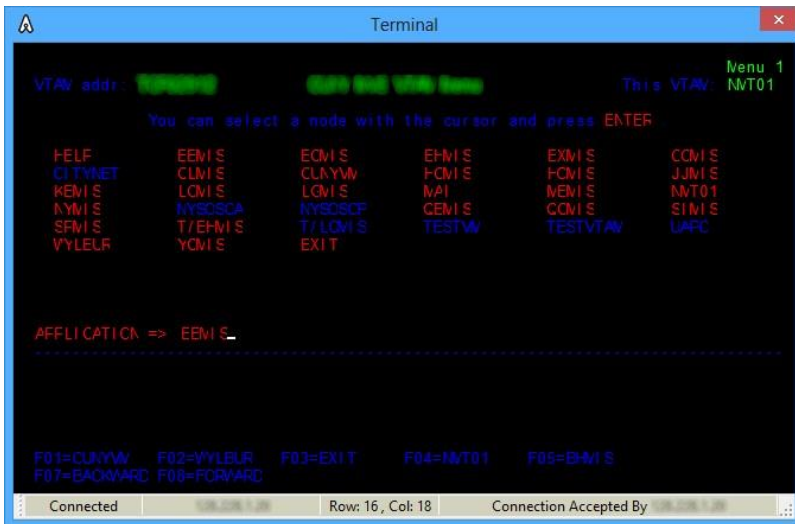
Send a key after sending the above text  
KEY\_ENTER

Wait for the terminal prompt to appear :  
Don't wait

**TIP** : Press F2 to insert variable.

Save    Cancel

5. サブタスクはここで終了し、メインタスクにコントロールが渡されます。



- 次のサブタスク(TE\_CMI S)で、同様の手順を使用します。つまり、[Share Session](セッションを共有)オプションと接続してから、Send Text(テキストを送信)および Set Field(フィールドを設定)サブコマンドを使用し、Get Text(テキストを取得)および Get Field(フィールドを取得)サブコマンドを使用して情報を取得します。Send Text(テキストを送信)コマンドを使用してメインタスクに戻り、ターミナルを元の状態に復元します。
- 6. 必要なだけサブタスクを作成し、セッションの共有を使用してメインタスクに戻ります。
- 7. Disconnect(切断)サブコマンドを追加して、メインタスクのセッションを終了します。



#### Variable Operation(変数処理)コマンド

TaskBot/MetaBot Logic に変数を割り当てるにはこのコマンドを使用します。

#### 概要

Variable Operation(変数処理)コマンドは、ユーザーが指定した変数(ユーザー変数)を割り当てたり、再初期化したりすることができるように設計されています。


割り当てや再初期化は使用した変数のタイプやソースに従います。これらは TaskBot/MetaBot Logic の実行中に適用されるため、ユーザーはユーザー変数を再利用できるようになります。

Variable Operation(変数処理)コマンドを使用する


Variable Operation(変数処理)コマンドを使用するには、次の手順を実行します。

1. [User Variables](ユーザー変数)または[System Variables](システム変数)を選択します。
  - ユーザー変数:
    - a. ユーザー変数を選択して、定義した既存のユーザー変数の値を指定します。

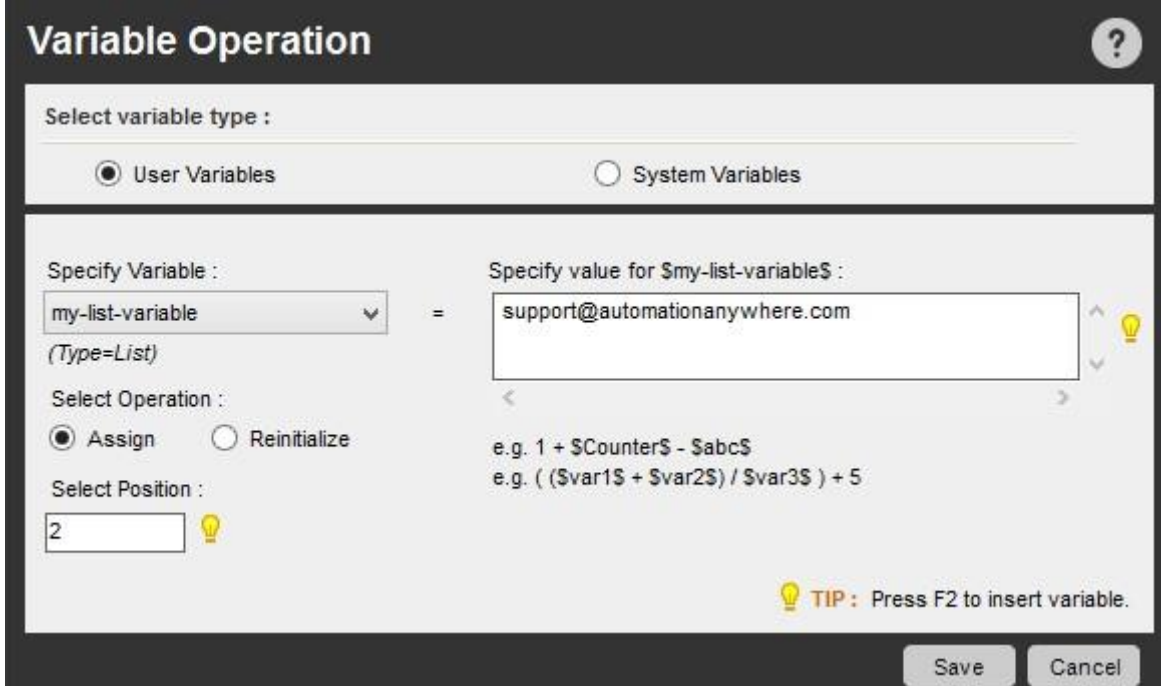


 備考: 英語、ドイツ語、フランス語、イタリア語、スペイン語の設定がサポートされるため、これらの言語で値を指定できます。

- b. 値を割り当てます。変数に値を割り当てることができます「等しい」演算子の右辺は通常の演算になります。たとえば、次のように指定できます。 $\$var1\$ = (\$var2\$ + \$var5\$ - 10) / 5$ .

 ヒント: 演算子「(」、「)」、「/」、「\*」、「+」、「-」がサポートされています。左右の括弧が優先され、その中の演算は左から右に行われます。

例: 式  $(\$Var1\$ + 5) * (\$Var2\$ - 10)$  では、最初の式  $(\$Var1\$ + 5)$  の計算が行われ、次に  $(\$Var2\$ - 10)$  が行われます。両方の結果が乗算され、等号の左側に指定された変数に割り当てられます。



**Variable Operation** ?

Select variable type :


User Variables  System Variables

Specify Variable : my-list-variable (Type=List) = Specify value for \$my-list-variable\$ : support@automationanywhere.com

Select Operation :  Assign  Reinitialize

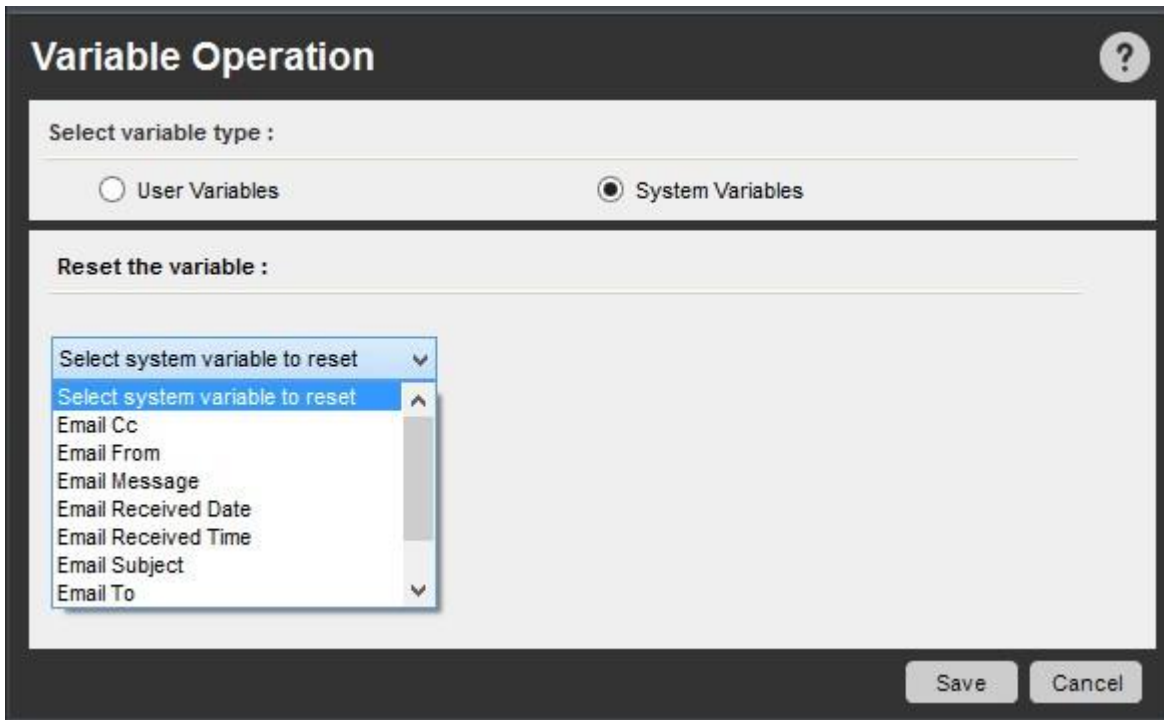
Select Position : 2

e.g.  $1 + \$Counter\$ - \$abc\$$   
e.g.  $(\$var1\$ + \$var2\$) / \$var3\$ + 5$

 TIP: Press F2 to insert variable.

Save Cancel

- システム変数: このオプションを使用すると、次のいずれかのシステム変数をリセットできます。
  - a. Error Description(エラーの説明)
  - b. Error Line Number(エラー行番号)
  - c. Email From(メール送信者)
  - d. Email To(メール受信者)
  - e. Email Cc(Cc メール受信者)
  - f. Email Subject(メールの件名)
  - g. Email Message(メール本文)



## 関連トピック

- [Variable Manager\(変数マネージャー\)を使用する](#) • [変数を使用する](#)
- [ユーザー\(ローカル\)変数](#)
- [システム変数](#)
- [Comment\(コメント\)コマンド](#)
- [Error Handling\(エラー処理\)コマンド](#)
- [Image Recognition\(画像認識\)コマンド](#) • [Play Sound\(サウンドを再生\)コマンド](#)
- [Screen Capture\(スクリーンキャプチャ\)コマンド](#)
  - [String Operation\(文字列処理\)コマンド](#)

### Web Recorder(Web レコーダー)コマンド

このコマンドを使用すると、Web Recorder を使用して構築した自動化タスクを編集および拡張できます。

#### 概要

Web Recorder は、インターネット関連のタスクアクションを自動化するのに役立ちます。Web Recorder(Web レコーダー)コマンドを使用すると、Web からのデータの抽出、データのダウンロード、Web サイトのテスト、ソースコードの抽出などのタスクを記録できます。

#### サブコマンド

Web Recorder(Web レコーダー)コマンドには、次のサブコマンドが用意されています。

- [ブラウザセッションでウェブサイトを開いたり閉じたりする](#) • [Web コントロールを管理する](#) • [データをダウンロードする](#)
- [Web から追加データを抽出する](#)


- Web サイトをテストして破損リンクを見つける • URL に移動する
- Web サイトのソースコードを抽出する • キャプションで検索する
- 元の場所に戻移動する • JavaScript を実行するサブコマンドを使用する

タスクに Web Recorder(Web レコーダー)コマンドを挿入するには、次の手順を実行します。

1. Web Recorder(Web レコーダー)コマンドの 1 つをダブルクリックするか、Task Actions List ペインまでドラッグします。Web Recorder(Web レコーダー)のウィンドウが表示されます。
2. 各フィールドに必要なパラメーターを指定します。
3. [Save](保存)をクリックして、自動化タスクにコマンドを保存します。

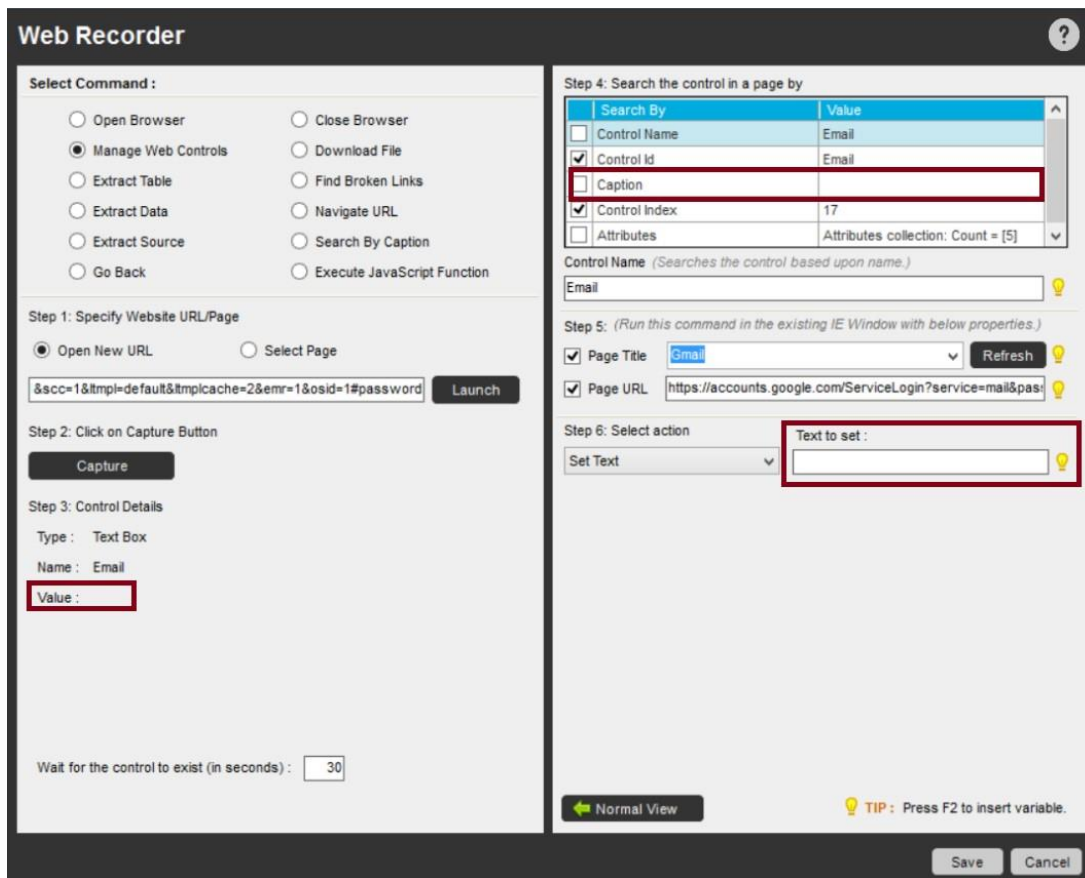
特定のサブコマンドの使用についての詳細はこちらを参照してください。「[Web Recorder\(Web レコーダー\)コマンドで Web のみのタスクを編集する](#)」



 備考: 最初に次の順序で検索することをおすすめします。By Caption(キャプションにより)、By Attributes(属性により)、By Index(インデックスにより)。

セキュアレコーディングが[有効]の場合

[Secure Recording mode](セキュアレコーディングモード)を有効にした場合: 値、キャプション、デフォルトのテキストはキャプチャされません。また、「Extract Data」(データを抽出)と「Extract Multiple Data」(複数のデータを抽出)の場合も値はキャプチャされません。 [詳しくはこちらを参照してください。](#)



## 関連トピック

- [Web Recorder\(Web レコーダー\)コマンドでタスクを編集する](#) • [FTP/SFTP コマンド](#)
- [Internet Connection\(インターネット接続\)コマンド](#)
- [Launch Website\(Web サイト起動\)コマンド](#) • [Send Email\(メールを送信\)コマンド](#) • [Web Service\( Web サービス\)コマンド](#) SOAP Web Services(SOAP Web サービス)コマンド

SOAP Web Service(SOAP Web サービス)コマンドを使用して、インターネット経由で SOA(サービス指向アーキテクチャ)を実装します。これにより、アプリケーションやプラットフォームのタイプに関係なく、複数のクライアントが Web を介して Web サービスを使用できるようになります。

### 概要

Web Service(Web サービス)コマンドは、インターネット経由で情報にアクセスしたりやり取りするために使用されます。このコマンドを使用すると、次の操作を実行できます。

- 再利用可能なアプリケーションコンポーネントをサービスとして使用できます。たとえば、通貨の換算、天気予報、言語の翻訳などです。
- 基礎となるインフラストラクチャの要件に関係なく、さまざまな既存アプリケーションおよびプラットフォームに接続できます。

Automation Anywhere Web Service は、クライアント/アプリケーションと Web の間に完全な両極性を確立し、WSDL(Web サービス記述言語)、SOAP(Simple Object Access Protocol)、UDDI(Universal Description Discovery and Integration)などの XML ベースのオープンスタンダードをサポートしています。

### Web Service(Web サービス)コマンドを使用する

新しい Web サービスを作成するには、次の手順を実行します。

1. TaskBot または MetaBot Logic を Workbench で開きます。
2. [Web Service](Web サービス)コマンドをダブルクリックするか、[Task Actions List](タスクアクションリスト)までドラッグします。

### Web Service

**Step 1: Enter complete URI**

et/country.asmx/GetCountryByCurrencyCode?CurrencyCode= **Build URI**

e.g. http://www.domainname.com/Service.asmx/Operation1?param1=value1 & param2=value2

Authentication details (For secure web services only)

Username :

Password :

Domain Name :

Client Certificate :  **Browse**

Enter Header Parameter(s)

Name :  Value :  **Add**

Name	Value
CountryCode	\$CountryCode\$

**Update** **Delete**

**Step 2: Click to test the output data** **Test Output**

**Step 3: Provide output details**

Save as XML (Optional) :  **Browse**

Whole Response  Selected Response

Assign the returned value to an existing variable :  **▼**

**TIP:** Press F2 to insert variable.

**Save** **Cancel**

3. Enter complete URI (完全な URI を入力) : Web サービスに使用する完全な URI (Uniform Resource Identifier) を入力します。
4. Authentication Details (認証の詳細) : 安全対策がとられた Web サービスを使用する必要がある場合は、ユーザー名、パスワード、ドメイン名、クライアント証明書といった認証の詳細情報を入力します。

**ヒント:** [Username] (ユーザー名) フィールドと [Password] (パスワード) フィールドでファンクションキー [F2] を使用すると、セキュリティを強化するために Credential Variables (資格情報変数)\* を選択できます。詳しくは [こちら](#) を参照してください。

\*バージョン 10.3 以降の Enterprise エディションで利用可能

5. Enter Header Parameter(s) (ヘッダーパラメーターを入力) : \*2 段階認証を使用する Web サービスを自動化するには、HTTP ヘッダーパラメーターを指定します。パラメーターに変数 (ローカル変数または資格情報変数) を割り当て、変数に割り当てられたトークンを 1 つのサービスのヘッダーから別のヘッダーに渡すことができるようにするなど、さまざまな Web サービスの動的相関をサポートします。また、既存のパラメーターを更新または削除します。

\*バージョン 8.1 以降で対応

6. Build Web Service URI (Web サービス URI を構築) : 任意で、カスタマイズされた WSDLURI を構築するには、[Build URI] (URI を構築) ボタンをクリックします。[Build Web Service URI] (Web サービス URI を構築) ウィンドウで、サービス、操作、およびパラメーターの入力を指定します。

- サービス、操作、パラメーターの詳細を選択 : 接続が確立されると、サービスと操作のフィールドが自動的に入力されます。選択した操作にパラメーターがある場合、表の [Name] (名前)、[Type] (タイプ)、および [Value] (値) にパラメーターが入力されます。

特定の操作のパラメーターを [Add] (追加)、[Update] (更新)、または [Delete] (削除) することができます。

### Build Web Service URI

**Step 1: Enter WSDL URI**

e.g. http://www.domainname.com/Service.asmx?WSDL

**Step 2: Click Connect to get services, operations and parameters**

**Step 3: Select a Service**

**Step 4: Select an Operation**

**Step 5: Enter Parameter Details (if any)**

Operation Parameter(s)

Name:  Value:

Name	Type	Value
CurrencyCode	string	

Raw Data Parameter(s)

**TIP:** Press F2 to insert variable.

- Raw Data Parameter(s) (生データパラメーター): 入力を XML 形式で指定するには、このオプションを有効にします。

#### Raw Data Parameter(s):

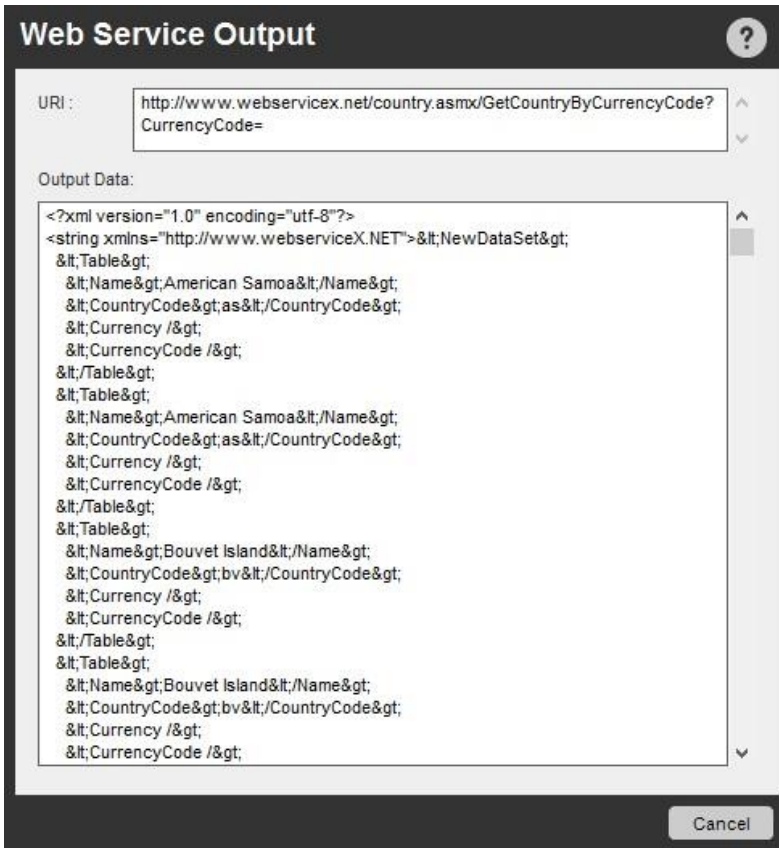
Please copy and paste body request data here.

```
<soapenv:Envelope
xmlns:soapenv="http://schemas.xmlsoap.org/soap/envelope/"
xmlns:tem="http://tempuri.org/">
<soapenv:Header/>
<soapenv:Body>
<tem:Add>
<!--Optional-->
<tem:Num1>$Calculation($Counter$,1)$</tem:Num1>
<!--Optional-->
<tem:Num2>$Calculation($Counter$,2)$</tem:Num2>
</tem:Add>
</soapenv:Body>
</soapenv:Envelope>
```

**Note:** Only support with post methods



7. Test Output(テスト出力) : [Test Output](テスト出力)ボタンをクリックすることにより、出力データをテストします。指定された URI からの出力データをテストできます。



8. Provide Output details(出力の詳細を表示): 出力データを保存するファイルを指定します。出力は、出力全体または部分的な値として抽出できます。これを補助するために、次の2つのオプションが提供されています。
- Whole Response(応答全体) : このオプションを選択すると、応答全体をキャプチャして選択した変数に保存できます。
  - Selected Response(選択した応答) : このオプションを選択すると、部分的な応答のみが XPath 形式で Web サービスからキャプチャされます。キャプチャした値を変数に保存できます。
    - Select/View Response(応答を選択/表示) : XMLビューアを開くには、このリンクをクリックします。応答の本文から適切なノードを選択します。XML パスは自動的に作成されます。この出力を変数に保存します。これにより、別の要求のヘッダーパラメーターに渡すことができます。これは、2つの Web サービスを相互に関連付ける場合に特に便利です。

### 関連トピック

- [Advanced Settings\(詳細設定\)を使用する](#) • [FTP/SFTP コマンド](#)
- [Internet Connection\(インターネット接続\)コマンド](#)
- [Launch Website\(Web サイト起動\)コマンド](#) • [Send Email\(メールを送信\)コマンド](#)
- [Web Recorder\(Web レコーダー\)コマンド](#)




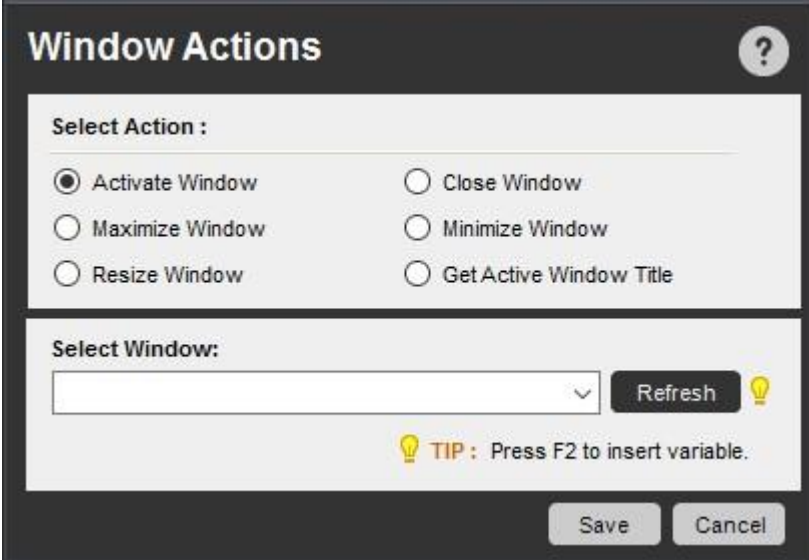
## Window Actions(ウィンドウアクション)コマンド

このコマンドを使用して、アプリケーションウィンドウの最小化、最大化、終了など、Windows ベースのアクションを自動化します。

### Activate Window(ウィンドウをアクティブ化)

すでに実行されているアプリケーションをアクティブにする必要がある場合は、このコマンドを使用します。[Select Window](ウィンドウを選択)ドロップダウンからアクティブにするウィンドウを指定します。

 ヒント: 実行中にもかかわらず必要なアプリケーションが使用できない場合は、[Refresh](更新)をクリックして呼び出します。



### Close Window(ウィンドウを閉じる)

このコマンドを使用して、TaskBot/MetaBot Logic の実行中にアクティブなウィンドウを閉じます。

### Maximize Window(ウィンドウを最大化)

TaskBot/MetaBot Logic の実行中にアクティブなウィンドウを最大化するには、このコマンドを使用します。

### Maximize Window(ウィンドウを最小化)

このコマンドを使用して、TaskBot/MetaBot Logic の実行中にアクティブなウィンドウを最小化します。

### Re-size Window(ウィンドウサイズを変更)

このコマンドを使用して、TaskBot/MetaBot Logic の実行中にアクティブなウィンドウのサイズを変更します。[Capture](キャプチャ)ボタンをクリックして、変更後のウィンドウサイズを指定します。

### Window Actions

**Select Action :**


Activate Window       Close Window  
 Maximize Window       Minimize Window  
 Resize Window       Get Active Window Title

**Select Window:**

Document1 - Word  

Click on Capture, draw a rectangle to retrieve the dimensions of the window.

Top :       Height :   
 Left :       Width :

 **TIP :** Press F2 to insert variable.

Get Active Window Title(アクティブなウィンドウのタイトルを取得)

このコマンドを使用して、TaskBot/MetaBot Logic の実行中に、アクティブなウィンドウのタイトルを変数に割り当てます。

### Window Actions

**Select Action :**

Activate Window       Close Window  
 Maximize Window       Minimize Window  
 Resize Window       Get Active Window Title

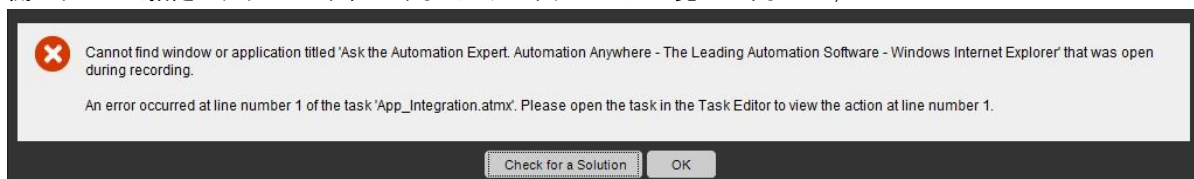
**Assign to variable :**

Select Variable

一般的なエラー

[Window Actions Command] (ウィンドウアクションコマンド) > [Activate Window] (ウィンドウをアクティブ化)を使用するときに、以下のエラーが発生することがあります。

Cannot Find Window or Application titled <window title> that was open during recording. (レコーディング中に開かれていた指定のタイトルのウィンドウまたはアプリケーションが見つかりません)



考えられる理由

TaskBot/MetaBot Logic を記録しているときに開いていたウィンドウまたはアプリケーションが閉じられた。ウィンドウまたはアプリケーションが存在しなくなった。

考えられる解決策

ウィンドウまたはアプリケーションを開くか起動して、TaskBot/MetaBot Logic を実行します。

ウィンドウまたはアプリケーションが対象のフォルダーまたはパスに存在するかどうか確認します。

---

### 関連トピック

- [File and Folder\(ファイルとフォルダー\)コマンド](#)
- [Log-to-File\(ファイルにログ\)コマンド](#)
- [Manage Windows Controls\(ウィンドウズコントロールを管理\)コマンド](#)
- [Open Program/File\(プログラム/ファイルを開く\)コマンド](#)
- [System\(システム\)コマンド](#)

## XML コマンド

このコマンドを使用して、Web サービスとクラウドコンピューティングアプリケーションから生成された XML 情報を処理します。

### 概要

XML コマンドは、XML ドキュメントのツリー構造に基づいて、セッション、ノード編集、XPath 式の実行をサポートします。このコマンドを使用すると、自動化された TaskBot/MetaBot Logic はツリーを移動し、さまざまな基準に基づいて選択を行うことができます。

XML コマンドを使用すると、XML 形式のデータをキャプチャして、指定した場所に保存できます。

### サブコマンド

XML コマンドには、次のサブコマンドが用意されています。

- Start XMLSession (XML セッションを開始)
- End XMLSession (XML セッションを終了)
- Insert Node (ノードを挿入)
- Delete Node/Attribute (ノード/属性を削除)
- Update Nodes (ノードを更新)
- Validate XMLDocument (XML ドキュメントを検証)
- Get Node(s) (ノードを取得)
- Save Session Data (セッションデータを保存)
- Execute XPath Function (XPath 関数を実行)

サブコマンドを使用する

TaskBot/MetaBot Logic に XML コマンドを挿入するには、次の手順を実行します。

1. XML コマンドの 1 つをダブルクリックするか、Task Actions List ペインまでドラッグします。[XML] ウィンドウが表示されます。
2. 各フィールドで必要なパラメーターを指定します。
3. [Save] (保存) をクリックして自動化 TaskBot/MetaBot Logic にコマンドを保存します。

### Start XMLSession (XML セッションを開始) コマンド

このコマンドを使用して、セッション名とデータソース (ファイルやテキスト) を指定します。

**XML** ?

Select XML Command :

Start XML Session       End XML Session  
 Insert Node                       Delete Node/Attribute  
 Update Node(s)                       Validate XML Document  
 Get Node(s)                           Save Session Data  
 Execute XPath Function

**Start XML Session**

Session Name :  
Default

Data Source :  
 File       Text

Text :

**TIP** : Press F2 to insert variable.

Save Cancel

End XMLSession(XMLセッションを終了)コマンド

このコマンドを使用して、Start XMLSession(XMLセッションを開始)コマンドを補完し、開いているXMLセッションを閉じます。

**XML** ?

Select XML Command :

Start XML Session       End XML Session  
 Insert Node                       Delete Node/Attribute  
 Update Node(s)                       Validate XML Document  
 Get Node(s)                           Save Session Data  
 Execute XPath Function

**End XML Session**

Session Name :  
Default

**TIP** : Press F2 to insert variable.

Save Cancel

Insert Node(ノードを挿入)コマンド

このコマンドを使用して、指定した属性と名前空間を持つノードを挿入します。ノードの場所は、XPath 式の位置に基づきます。

### XML

**Select XML Command :**

Start XML Session       End XML Session  
 **Insert Node**                       Delete Node/Attribute  
 Update Node(s)                       Validate XML Document  
 Get Node(s)                               Save Session Data  
 Execute XPath Function

**Insert Node :**

Session Name :

XPath Expression :

Node Name :       Node Value :

If node name present then :

Insert node location :

Default namespace (optional) :

**Attributes(optional) :**

Name  Value

Name	Value

**Namespace(optional) :**

Prefix :  Namespace URI :

Prefix	Namespace URI

TIP : Press F2 to insert variable.

#### Delete Node/Attribute(ノード/属性を削除)コマンド

XPath 値を指定した結果として、このコマンドを使用して XML ファイルからノードまたは属性を削除します。

### XML

**Select XML Command :**

Start XML Session       End XML Session  
 Insert Node                       **Delete Node/Attribute**  
 Update Node(s)                       Validate XML Document  
 Get Node(s)                               Save Session Data  
 Execute XPath Function

**Delete Node/Attribute :**

Session Name :

XPath Expression :

Attribute(optional) :

TIP : Press F2 to insert variable.

#### Update Nodes(ノードを更新)コマンド

このコマンドを使用して、セッション内のノードを XPath 式に指定された位置に更新します。

**XML** ?

Select XML Command :

Start XML Session       End XML Session  
 Insert Node                 Delete Node/Attribute  
 Update Node(s)             Validate XML Document  
 Get Node(s)                 Save Session Data  
 Execute XPath Function

Update Node(s) :

Session Name :  
Default

XPath Expression :  
\_\_\_\_\_

New Value :  
\_\_\_\_\_

Update Attribute(s)

Name \_\_\_\_\_ Value \_\_\_\_\_ Add

Name	Value

Update Delete

**TIP** : Press F2 to insert variable.

Save Cancel

#### Validate XMLDocument(XMLドキュメントを検証)コマンド

このコマンドを使用して、XMLスキーマファイル(.xsd)または内部文書型定義(DTD)を使用したセッションデータを検証します。また、セッションデータが整形形式であるかどうかを検証することもできます。

**XML** ?

Select XML Command :

Start XML Session       End XML Session  
 Insert Node                 Delete Node/Attribute  
 Update Node(s)             Validate XML Document  
 Get Node(s)                 Save Session Data  
 Execute XPath Function

Validate XML Document :

Session Name :  
Default

Select Validation type :  
 XML Schema (.xsd)    Internal DTD    Well Formed

Schema Files :  
 \_\_\_\_\_ Add  
 \_\_\_\_\_ Delete

Assign the output (VALID or INVALID) to variable : Select Variable

**TIP** : Press F2 to insert variable.

Save Cancel

検証ステップの出力(VALID/INVALID)を変数に格納することができます。検証中にエラーが発生した場合は、以下の名前のシステム変数に格納されます。\$ErrorLineNumber\$と\$ErrorDescription\$。

#### Get Node(s)(ノードを取得)コマンド

これらのコマンドを使用して、セッションデータのノードまたは属性の値を取得します。





- Get Single Node (1つのノードを取得): 1つのノードまたは属性の値を、セッションデータから XPath 式で指定された位置に取得します。この値は変数に割り当てられます。
- Get Multiple Nodes (複数のノードを取得): テキスト値、XPath 式、指定された属性名を使用し、指定された XPath 式に基づいて、セッションデータ内の複数のノードから値を取得します。

この値はシステム変数 `$XMLDataNode(Nodename)$` に割り当てられ、Loop (ループ) コマンドと組み合わせて使用できます。たとえば、Loop を挿入して、XML データセット内の各ノードを検索できます。

#### Save Session Data (セッションデータを保存) コマンド

このコマンドを使用して、セッションデータを変数に保存します。データを指定した場所に保存することもできます。



#### Execute XPath Function (XPath 関数を実行) コマンド

このコマンドを使用して、XPath 関数を実行し、その結果を変数に格納します。



---

### 関連トピック

- [Database\(データベース\)コマンド](#) • [Email Automation\(メールの自動化\)コマンド](#) • [Excel コマンド](#)
- [Loop\(ループ\)コマンド](#) • [OCRコマンド](#)
- [PDF Integration\(PDF 統合\)コマンド](#) • [Read from CSV-Text\(CSV/テキストから読み取る\)コマンド](#)

## セクション: Enterprise Client で変数を使用する

## 変数を使用するタイミングを知る

このトピックでは、自動化タスクの各変数を活用できるタイミングについて説明しています。

自動化タスクを構築するとき、生成されるスクリプトでは、変数を使用して、フィールドやデータポイントの値をトラッキングまたは変更できます。たとえば CSV ファイルのデータ式でループを構築する場合、変数を使用して、最初の行をコピーし、コピー内容を別のアプリケーションにペーストして、次の行に移動することなどが可能です。

ユーザーがタスク内で実行するアクションはすべて、変数の使用をサポートできます。以下は、このようなアクションにより可能な例の一部です。


- 複数のウィンドウを選択する
- 複数のプログラムを開く
- ファイル、フォルダー、キーストローク、スプレッドシート、ループなどを操作する以下は、変数の特殊な使用例からの 2 つの例です。
- [実行中のタスク間で変数をパスする](#)
- [IF/ELSE \(複数条件分岐\) コマンドと Loop \(ループ\) コマンドで変数を使用する](#)

---

## 関連トピック

- [変数の種類を理解する](#)
- [Variable Manager \(変数マネージャー\) を使用する](#)
  - [新しい変数を作成する](#)
- [タスクに変数を割り当てる](#)
- [変数を再初期化する](#)
- [システム変数をリセットする](#)
- [テキストファイルから変数を読み込む](#)
- [変数を監視する](#)
- [実行中のタスク間で変数を渡す](#)

このオプションを使用すると、タスクからタスクへと個々の変数の値を渡すことができます。1 つ目の実行中タスクの変数の値は、2 つ目のタスクの変数の入力となります。この機能は、タスクが入れ子型で実行されるとき重要となります。

 ヒント: 同じタイプの変数を両方のタスクで定義する必要があります。

実行中のタスク間で変数を渡すには、次の手順を実行します。

1. タスクを実行コマンドを選択し、[Variable] オプションを選択します。
2. [Create variable association] (変数の関連付けを作成) フィールドで、以後の「Run Task」(タスクを実行) 変数にパスする [Main Task] (メインタスク) のリストの変数を選択します。

## Run Task ?

Enter Run Task Parameters:

Select Task :

💡 TIP : Press F2 to insert variable.

Repeat   
  Speed   
  Variable

Create variable association :

<input type="checkbox"/> Main Task Variable		Run Task Variable	
<input type="checkbox"/> Prompt-Assignment	↔	Prompt-Assignment	(Type = Value)
<input type="checkbox"/> singlevalue1	↔	String1	(Type = Value)

### 関連トピック

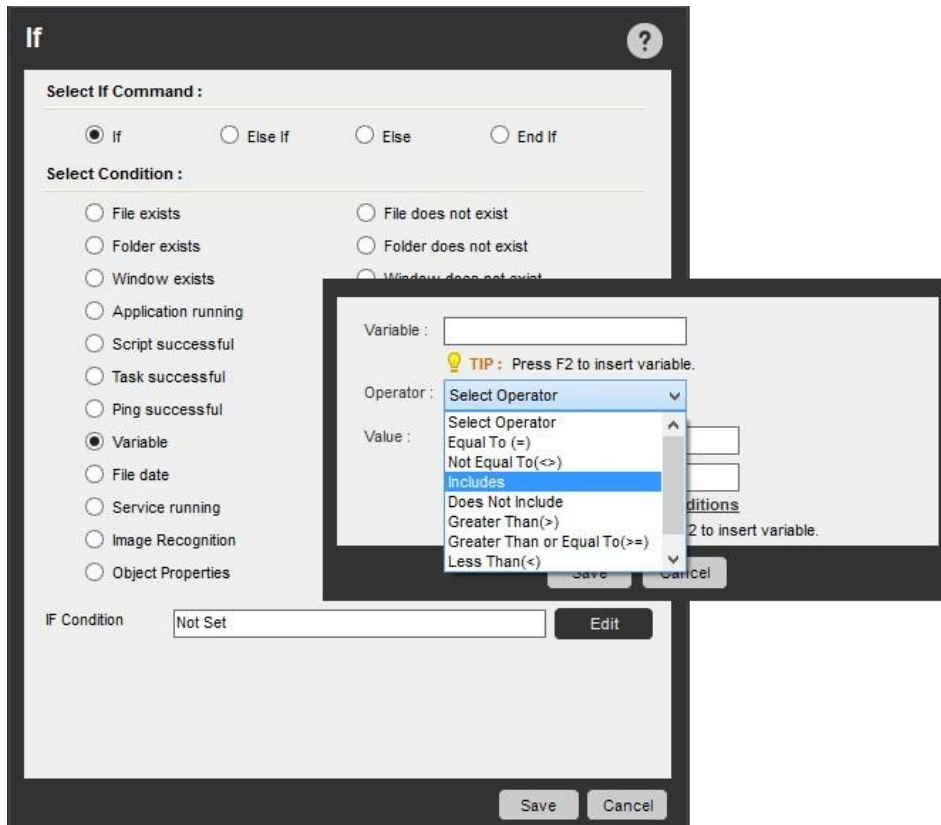
- [IF/ELSE コマンドと Loop \(ループ\) コマンドで変数を使用する](#)

IF/ELSE コマンドと Loop (ループ) コマンドで変数を使用する

IF/ELSE コマンドと Loop (ループ) コマンドにより、変数が使用できるようになります。これで変数に関して特定の条件が満たされるまで、ループを実行できます。

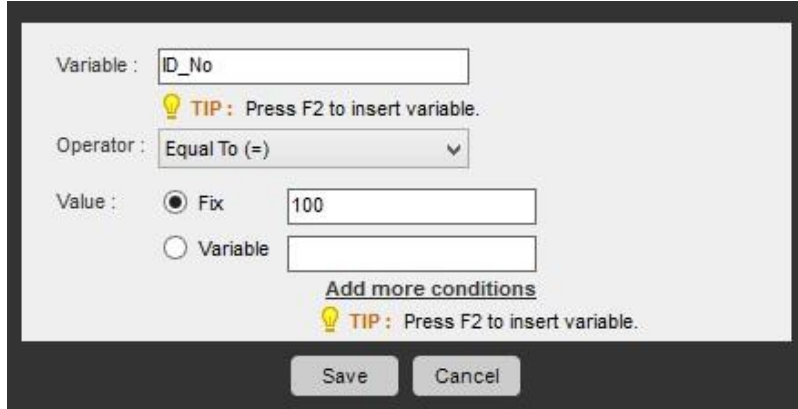
変数で IF/ELSE コマンドを使用する

If/Else 条件を挿入する間に、使用する変数を選択します (例を参照)。



### 変数で Loop(ループ)コマンドを使用する

Loop 条件を挿入する間に、条件が満たされるまでループ内で使用する変数を選択します(例を参照)。



### 関連トピック

- [実行中のタスク間で変数を渡す](#)

#### 変数の種類

このトピックでは、自動化タスクを構築する際に定義して使用できる変数の種類について説明します。

Automation Anywhere のタスクには、基本的に 3 種類の変数、すなわち ユーザー(ローカル)変数、システム変数、Credential Variable(資格情報変数)があります。

すべての Automation Anywhere コマンドでは、電球💡記号が表示されているフィールドで変数がサポートされています。

F2 ファンクションキーを使用すると、選択可能な変数のリストが表示されます。

#### ユーザー(ローカル)変数

ユーザー変数は、通常、自動化ユーザーによって定義され、特定のタスクまたは一連のタスクに使用されます。ユーザー変数の目的は、Excel のスプレッドシートで使用されるように、単一の値の保持から複数の値の保持までさまざまです。

新しいオートメーションタスクでは、2 つの変数があらかじめ定義されています。

- my-list-variable (タイプ: リスト)
- Prompt-Assignment (タイプ: 値)

ユーザー (ローカル) 変数を作成したら、タスクを実行する際にその変数の再初期化または割り当てを行うことができます。


#### システム変数

システム変数は、Automation Anywhere が指定する事前定義された変数です。システム変数は、すべての自動化タスクで使用できます。

#### Credential Variable

#### バージョン 10.2.1 以降の Enterprise エディションでのみ利用可能

Credential Variable は、タスクを作成するクライアントユーザー (BotCreator) が資格情報の入力が必要なコマンドで使用できる、特別なカテゴリーの変数です。

 備考: Credential Variable は、選択コマンドでのみオプションで使用できます。

これらの資格情報は、一連の「属性値」を構成する「Credential Key」の形式で Control Room 管理者によって定義され、一元管理された場所 (Credential Vault) に安全に保管されます。

詳しくは [こちら](#) を参照してください。

ユーザー変数やシステム変数とは異なり、Credential Variable (資格情報変数) は Variable Manager (変数マネージャー) に表示されません。Credential Variable (資格情報変数) をサポートするコマンドを使用してタスクを作成する際に、[Insert Variable] (変数を挿入) ウィンドウに表示されます。Credential Variable (資格情報変数) をサポートするコマンドのリストについては、「[Credential Variable を割り当てる](#)」を参照してください。

---

### 関連トピック

- [Variable Manager \(変数マネージャー\) を使用する](#)
  - [新しい変数を作成する](#)
- [タスクに変数を割り当てる](#) • [変数を再初期化する](#)
- [システム変数をリセットする](#)
- [テキストファイルから変数を読み込む](#) • [変数を監視する](#)
- [Credential Variable を割り当てる](#)

#### ユーザー定義変数

Automation Anywhere により、自動化の要件にしたがって変数を作成できます。これは 2 つのカテゴリーに分けられます。


1. Analytics Variables (分析変数) は、分析用にデータを収集するために Bot creator が定義する変数です。このような変数には、変数を作成するときに分析用のマークが付けられます。これらの変数は、Analytics Variables (分析変数) のそれぞれの TaskBot に対して Variable Manager に表示されます。
2. Local Variables (ローカル変数) は、特定のタスク用に Bot creator が定義する変数です。これらの変数は、Local Variables (ローカル変数) のそれぞれの TaskBot と MetaBot ロジックに対して Variable Manager に表示されます。



ユーザー変数にはそれぞれソースがあります。このソースは、直接の割り当てから、テキストファイル、Excel や CSV ファイル、またはデータベースなどのファイルから読み込む値までさまざまです。

ユーザー定義変数の種類：

- **Value**(値) – 単独の値を保持する。
- **List**(リスト) – 複数の値を一次元(1 X n)で保持する。
- **Array**(配列) – 複数の値を二次元(n X n)で保持する。
- **Random**(ランダム) – タスク実行中、システムで定義された文字列または数値を保持する。

 備考: 分析変数とローカル変数は、Bot 作成権限がある場合にのみ作成できます。

## 関連トピック

- [Variable Manager\(変数マネージャー\)を使用する](#) • [新しいユーザー変数を作成する](#) • [タスクに変数を割り当てる](#) • [変数を再初期化する](#)
- [システム変数をリセットする](#)

## 値型変数


### 値型変数を使用する時と理由

単一のデータポイントを保持し複数の場所で使用する場合、値型変数が使用できます。この「プレースホルダ」値は文字または数字のデータを表します。

作成された変数は、いくつかの Workbench コマンドに挿入して使用できます。変数の値を変更すると、この値は TaskBot/MetaBot Logic が実行したすべての後続のコマンドに反映されます。


値型変数は次のようにマークできます。

1. Log to Analytics(分析にログ) – データ分析のため Bot Insight ダッシュボードにデータをアップロードします。これはデフォルトで有効になっています。

 備考: オートメーションが以前のバージョンから Enterprise Client 11 に移行された場合、変数を編集して手動でオプションを選択できます。そうした変数はデフォルトで分析用に選択されることはありません。

2. Regular Expression – ファイル、フォルダー、ウィンドウタイトルのコマンドでパターンベースの検索を必要とするオートメーションの変数に使用します。



 備考: • [Value] (値) テキストボックスにはテキストの最初の行のみ入力できます。

- 変数の Regular Expression はワイルドカードをサポートするコマンドで使用できます。たとえば、regular expression はファイル/フォルダーの特定のサブコマンド(複数のファイル/フォルダーのコピー、削除、Zip 圧縮、印刷)で使用できます。

regular expression で変数をサポートするコマンドのリストについては、「Regular Expression をサポートするコマンド」セクションを参照してください。

## 値型変数を作成する方法

値型変数を作成する方法は次の 2 つです: 直接の割り当てを使用する、またはファイルを使用する。

### 直接の割り当て

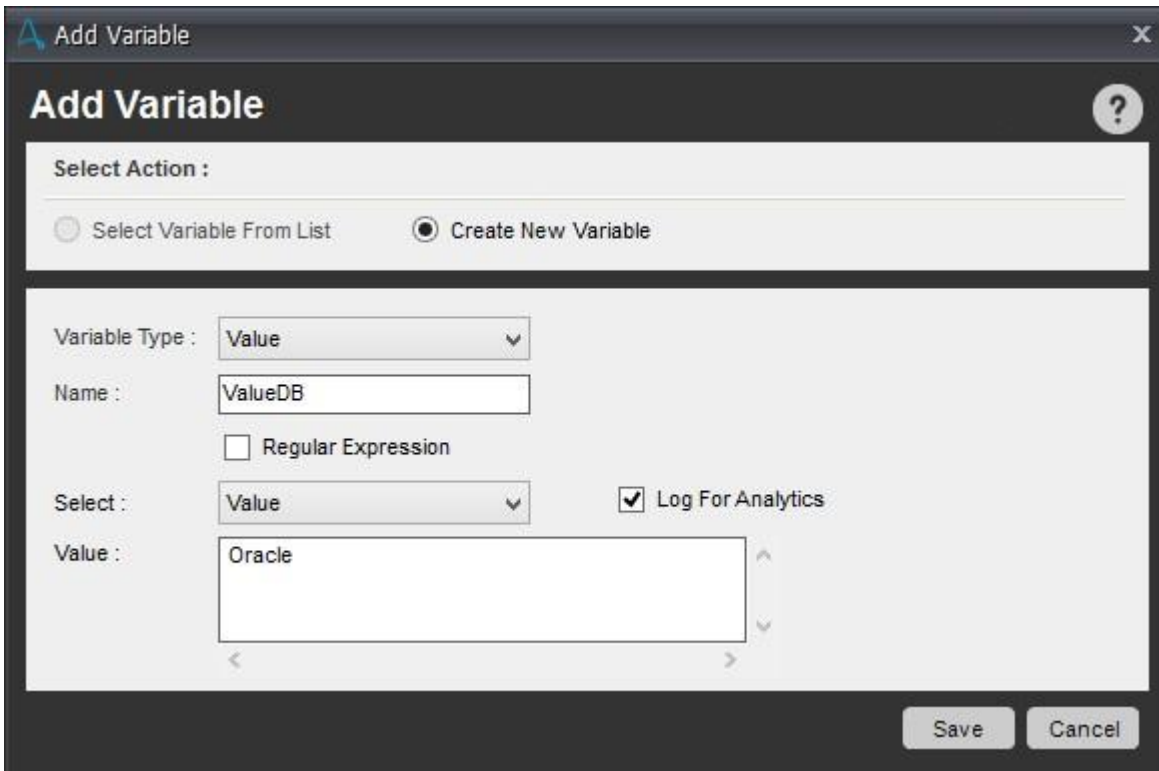
直接の割り当てを使用して値型変数を作成します。これは、値が一般的に知られており、タスクのさまざまなコマンドで繰り返し取得する必要がある場合に使用します。これによりタスクの柔軟性が高まり、簡単に使用できるようになります。直接の割り当てを使用して値型変数を作成するには、次の手順を実行します。

1. Workbench で、上部または右側のタブにある Variable Manager アイコンをクリックします。
2. [追加] ボタンをクリックします。[変数を追加] ウィンドウが、[新しい変数を作成] オプションが選択されている状態で表示されます。
3. タイプに [Value] (値) を選択します。通常、これがデフォルトで選択されます。
4. 変数の名前を入力します。名前はアルファベット文字で始まり、スペースを含めることはできません。
5. [値] ラジオボタンを選択します。これはデフォルトです。
6. 初期値を指定します。指定できる値は文字または数字です。
7. [保存] をクリックします。

保存された変数は Variable Manager の [ローカル変数] セクションに表示されます。

### 値型変数の例:

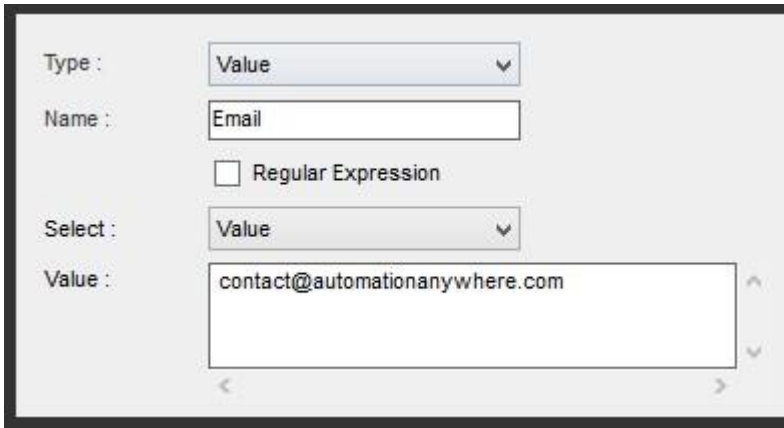
- 名前: ValueDB、値: Oracle



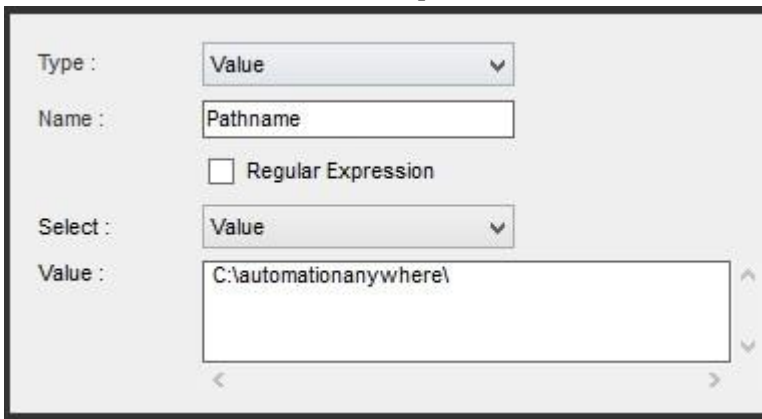
The screenshot shows the 'Add Variable' dialog box with the following configuration:

- Select Action:**  Create New Variable
- Variable Type:** Value
- Name:** ValueDB
- Regular Expression
- Select:** Value
- Log For Analytics
- Value:** Oracle

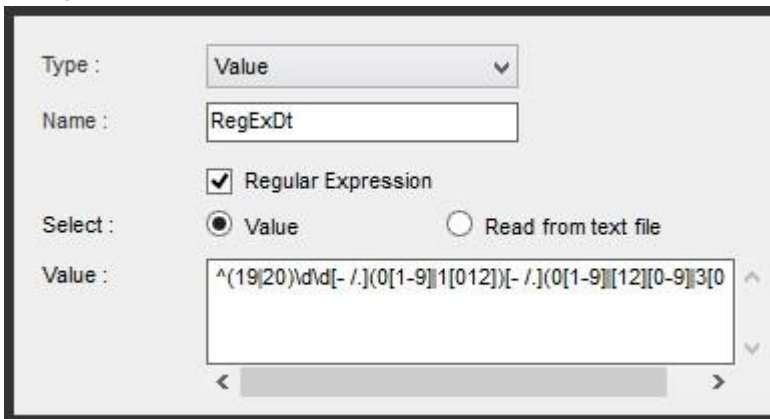
- 名前: email、値: contact@automationanywhere.com



- 名前: Pathname、値: C:\Automationanywhere\



- 名前: RegExDt、値:  $^(19|20)\d\d[- /.](0[1-9]|1[012])[- /.](0[1-9]|1[12][0-9]|3[01])\$$



値型変数に使用できる名前の一般的な例には次が含まれます。

Pathname、CounterValue、DatabaseName、email、など。

### ファイルの割り当て

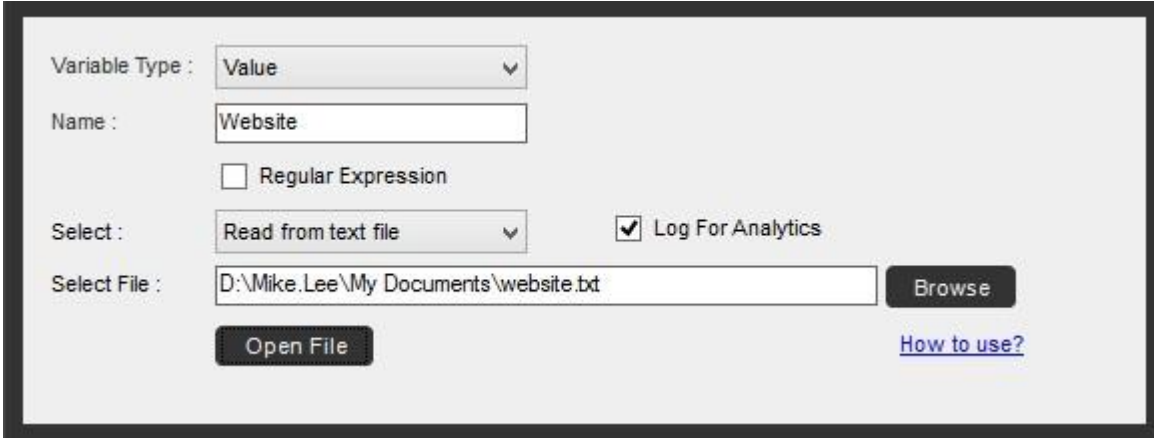
テキストファイルに含まれる変数の値をタスク実行中に取得する必要がある場合は、ファイルの割り当てを使用して値型変数を作成します。

タスクでは、ファイルを読み取り、変数の値を変更できます。またファイルの各データポイントの値は再び割り当てられます。

ファイルの割り当てを使用して値型変数を作成するには、次の手順を実行します。

1. 値を割り当てるために使用するテキストファイルを決定します。テキストファイル内に変数名が存在し、その名前に続けて「=」演算子が記載されていることを確認します。これにより値が正しく割り当てられるようになります。例: 変数名: Website テキストファイルのコンテンツ: website = automationanywhere.com
2. Workbench で、上部または右側のタブにある Variable Manager アイコンをクリックします。
3. [追加] ボタンをクリックします。[変数を追加] ウィンドウが、[新しい変数を作成] オプションが選択されている状態で表示されます。

4. タイプに[Value] (値) を選択します。通常、これがデフォルトで選択されます。
5. 変数の名前を入力します。名前はアルファベット文字で始まり、スペースを含めることはできません。
6. [テキストファイルから読み込む]ラジオボタンを選択します。
7. [ファイルを選択]で、目的のファイルを選択するか、必要なテキストファイルへのファイルパスを入力します。[ファイルを開く]ボタンを使用して、選択したテキストファイルを表示します。



8. [保存]をクリックします。

保存された変数は Variable Manager の[ローカル変数]セクションに表示されます。

---

### regular expression をサポートするコマンド

- [Delay/Wait \(延期／待機\)](#)
- [File/Folder \(ファイル／フォルダー\)](#) • [Image Recognition \(画像認識\)](#)
- [Insert Keystrokes \(キーストロークを挿入\)](#) • [Insert Mouse Click \(マウスクリックを挿入\)](#)
- [Manage Window Controls \(ウィンドウコントロールを管理\)](#)
- [OCR](#)
- [Screen Capture \(スクリーンキャプチャ\)](#) • [Window Actions \(ウィンドウアクション\)](#)

---

### 関連トピック • リ

[スト型変数 • 配](#)

[列型変数 • ラ](#)

[ンダム変数](#)

- [事前定義された変数](#)

### リスト型変数

#### リスト型変数を使用する時と理由

複数の値を 1 つずつ取得する必要があるとき、リスト型変数を使用できます。これは基本的にデータの一次元のプレースホルダです。リスト変数がよく使用されるのは次のような状況です。

- 複数の受信者にメールを送る
- 1 つのループ内で異なる値を渡す • 複数の Web アドレスを検索する

この値は文字または数字のデータを表します。

作成された変数は、いくつかの Workbench コマンドに挿入して使用できます。変数の値を変更すると、この値はタスクを実行したすべての後続のコマンドに反映されます。

## リスト型変数を作成する方法

リスト型変数を作成する方法は 2 つあります。具体的には、直接の割り当てを使用する方法またはファイルの割り当てを使用する方法で作成できます。

### 直接の割り当て

変数の値が固定値で、タスク実行中に 1 つずつ取得する必要がある場合は、直接の割り当てを使用してリスト型変数を作成します。

直接の割り当てを使用してリスト型変数を作成するには、次の手順を実行します。

1. Workbench で、上部または右側のタブにある Variable Manager アイコンをクリックします。
2. [追加] ボタンをクリックします。[変数を追加] ウィンドウが、[新しい変数を作成] オプションが選択されている状態で表示されます。
3. [タイプ] で [リスト] を選択します。
4. 変数の名前を入力します。名前はアルファベット文字で始まり、スペースを含めることはできません。
5. [値] ラジオボタンを選択します。これはデフォルトです。
6. 所定のフィールドにリスト型変数を指定します。指定できる値は文字または数字です。
7. [リストに追加] ボタンをクリックします。
8. リストが完了するまで手順 5 と 6 を繰り返します。
9. [保存] をクリックします。

[ランダムにする] チェックボックスを使用すると、タスク実行時に値をランダムに呼び出すことができます。

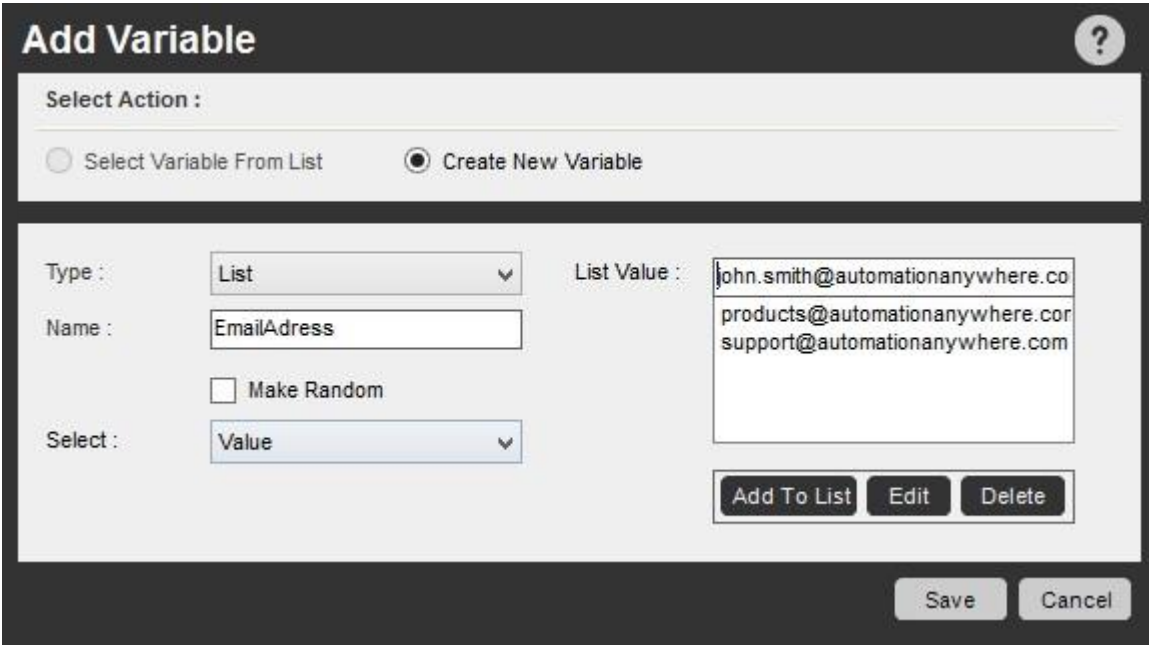
このオプションのチェックが外れたままにしておくと、入力した順に値が取得されます。

保存された変数は Variable Manager の [ローカル変数] セクションに表示されます。

リスト型変数の例:

Name: EmailAddress 値: products@automationanywhere.com、support@automationanywhere.com、

john.smith@automationanywhere.com



### ファイルの割り当て

テキストファイルに含まれる変数の値をタスク実行中に取得する必要がある場合は、ファイルの割り当てを使用してリスト型変数を作成します。

テキストファイルを使用してリスト型変数を決めます。Loop (ループ) コマンドを使用すると、値のリストを簡単に処理できます。

一般的な使用事例: テキストファイルにデータを抽出する

ファイルの割り当てを使用してリスト型タイプの変数を作成するには、次の手順を実行します。

1. 値を割り当てるために使用するテキストファイルを決めます。

テキストファイル内に変数名が記載されており、その名前に続けて「=」演算子と値のリスト(値間をコンマで区切る)が記載されていることを確認します。

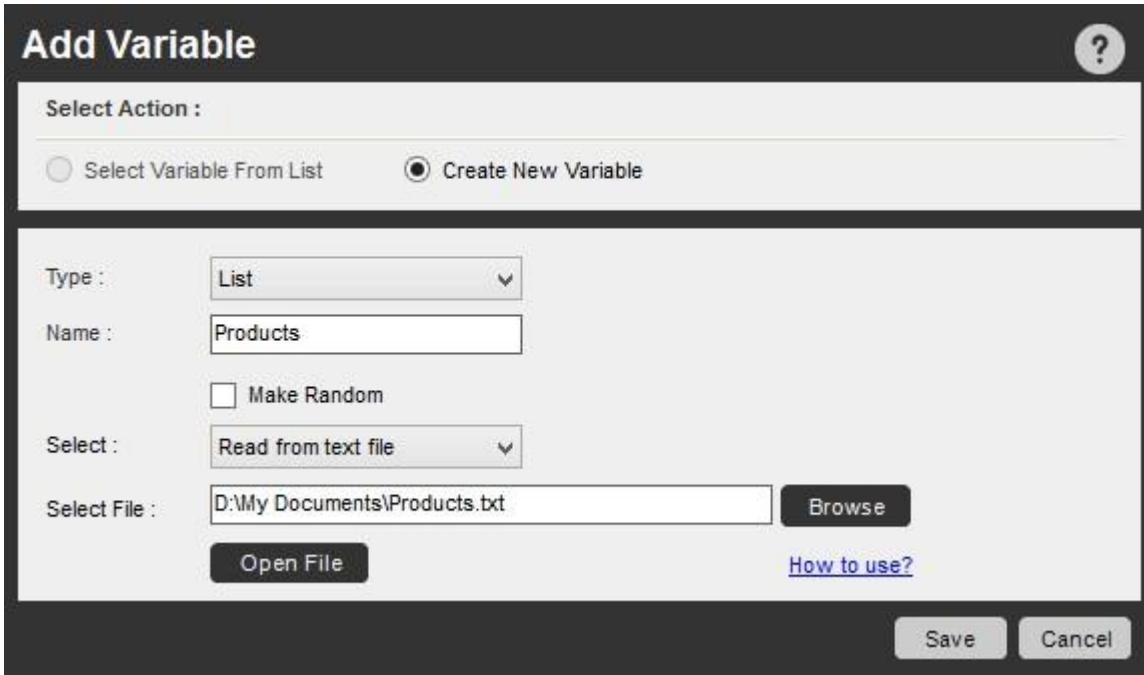
値のリストを含むテキストファイルの例: 変数名: products こ

の products.txt ファイルには以下が含まれています。

```
products = automation, testing, PI, SAP-automation, ERP-automation
```

2. Workbench で、上部または右側のタブにある Variable Manager アイコンをクリックします。
3. [追加]ボタンをクリックします。[変数を追加]ウィンドウが、[新しい変数を作成]オプションが選択されている状態で表示されます。
4. [タイプ]で[リスト]を選択します。
5. 変数の名前を入力します。名前はアルファベット文字で始まり、スペースを含めることはできません。
6. [テキストファイルから読み込む]ラジオボタンを選択します。
7. [ファイルを選択]で、目的のファイルを選択するか、必要なテキストファイルへのファイルパスを入力します。[ファイルを開く]ボタンを使用して、選択したテキストファイルを表示します。
8. [保存]をクリックします。

保存された変数は Variable Manager の[ローカル変数]セクションに表示されます。



#### 関連トピック • 値

[型変数 • 配列](#)

[型変数 • ラン](#)

[ダム変数](#)

- [事前定義されたユーザー変数配列型変数](#)

#### 配列型変数を使用する時と理由

配列変数とは、行と列で構成される 1 つの表に複数の値が入る二次元変数です。配列を使用すると、実行プロセスで取得する必要があるデータのステージング領域を格段に作成しやすくなります。

配列変数がよく使用されるのは次のような状況です。

- Web サイトからのデータ抽出
- Excel またはデータベースからの多数の行のデータ抽出
- レガシーシステム、ERP システムなどのアプリケーション間でのデータの読み取りまたは書き込み • Excel からデータベースへの異なるフィールドでの注文書の記入

この値は文字または数字のデータを表します。

作成された変数は、いくつかの Workbench コマンドに挿入して使用できます。

**💡 ヒント:** Loop (ループ) コマンドを使用すると配列変数の処理が非常に簡単になります。詳しい方法は「[Loop \(ループ\) コマンドで配列変数を使用する方法](#)」を参照してください。

変数の値を変更すると、この値はタスクを実行したすべての後続のコマンドに反映されます。

## 配列型変数を作成する方法

配列型変数を作成するには次の 4 通りの方法があります。

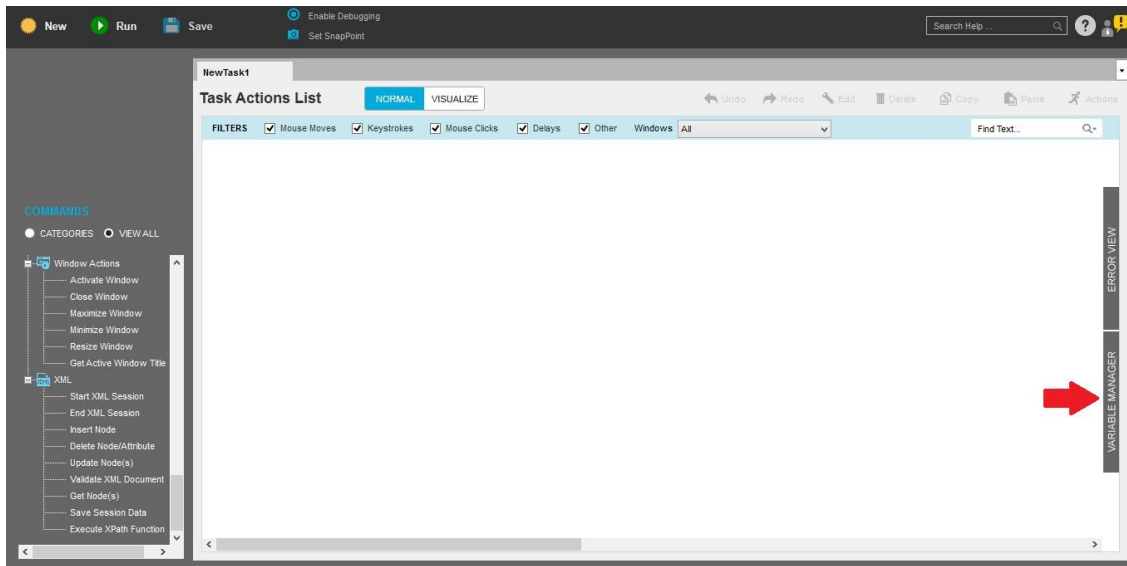
- [直接の割り当てを使用する](#) • [テキストファイルを使用する](#)
- [Excel ファイルまたは CSV ファイルを使用する](#) • [データベースを使用する](#)

### 直接の割り当て

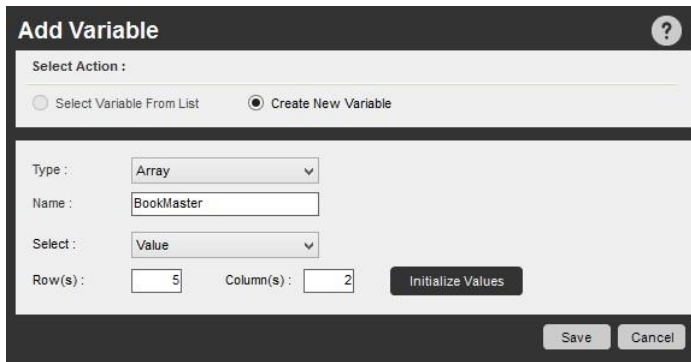
変数の値を変数に直接割り当てる場合、直接の割り当てを使用して配列型変数を作成します。

直接の割り当てを使用して配列タイプの変数を作成するには、次の手順を実行します。

1. Workbench で、右側にある Variable Manager のタブをクリックします。



2. [追加] ボタンをクリックします。[Create New Variable] (新しい変数を作成) オプションが選択されている状態で [Add Variable] (変数を追加) ウィンドウが表示されます。
3. [Type] (タイプ) で [Array] (配列) を選択します。
4. 変数の名前を入力します。名前はアルファベット文字で始め、スペースを含めることはできません。
5. 配列の作成方法を選択します。デフォルトの選択は [Value] (値) です。これは、この変数の値を直接決めるという意味です。
6. 表示されているフィールドの行と列の数字を指定します。デフォルト値は 1 X 1 です。



**Add Variable** [?]

Select Action :

Select Variable From List  Create New Variable

Type : Array

Name : BookMaster

Select : Value

Row(s) : 5 Column(s) : 2 **Initialize Values**

Save Cancel

7. [Initialize Values] (値を初期化) ボタンをクリックします。ステップ 6 で示された行と列に基づき、[Array Value Details] (配列値の詳細) ウィンドウが表示されます。



**Array Value**

	1	2
1	McGraw Hill	750
2	Science Fiction	1252
3	Autobiography	1200
4	Pop Culture	
5		

Add Row Add Column **TIP:** Double click on any cell to update the value of that cell

Delete Row Delete Column

Save Cancel

8. 各セルに値を入力します。
9. [Save] (保存) ボタンをクリックし、値を保存します。
10. もう一度 [Save] (保存) ボタンをクリックし、配列変数を保存します。

[Add Row] (行を追加)、[Add Column] (列を追加)、[Delete Row] (行を削除)、[Delete Column] (列を削除) ボタンを使用し、配列の次元を変更できます。

保存された変数は Variable Manager の [ローカル変数] セクションに表示されます。

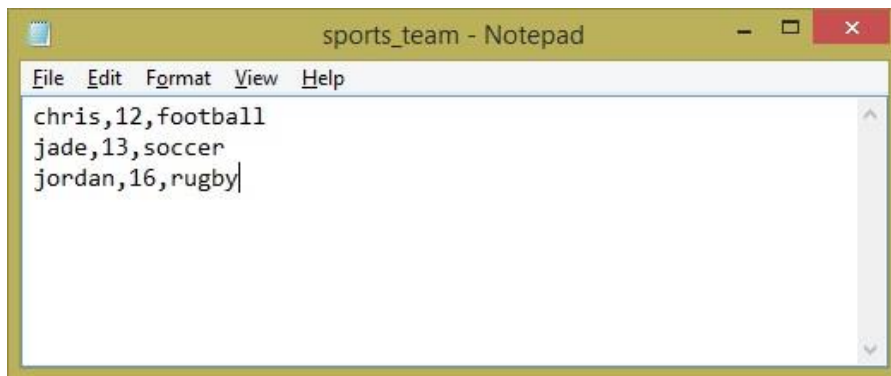
### テキストファイルの割り当て

タスクの実行中に特定のテキストファイルから配列変数の値を読み取る場合には、テキストファイルの割り当てを使用して配列タイプの変数を作成します。このテキストファイルを使用して配列変数を決めます。

テキストファイルの割り当てを使用して配列タイプの変数を作成するには、次の手順を実行します。

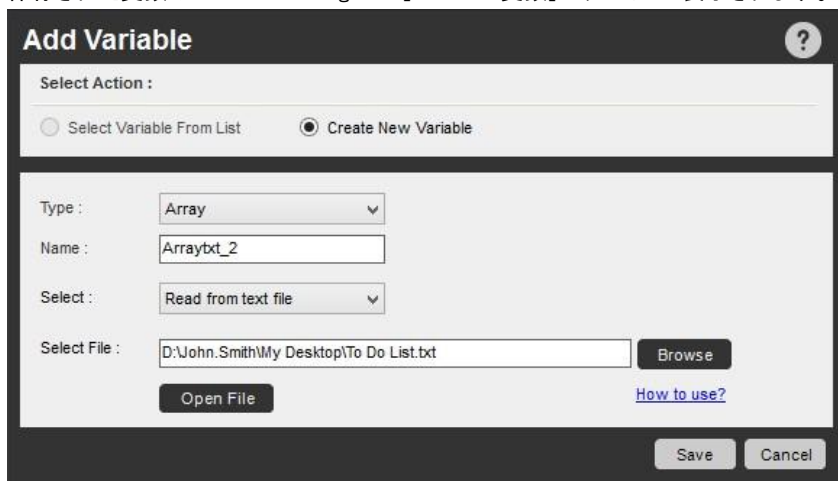
- 変数の割り当てに使用するテキストファイルを決めます。
  - 行の場合には、新しい行にデータを入力します。
  - 列の場合にはコンマで区切った値を使用します。
  - 例: sports\_team.txt





2. Workbench で、右側にある Variable Manager のタブをクリックします。
3. [追加]ボタンをクリックします。[Create New Variable] (新しい変数を作成) オプションが選択されている状態で [Add Variable] (変数を追加) ウィンドウが表示されます。
4. [Type] (タイプ) で [Array] (配列) を選択します。
5. 変数の名前を入力します。名前はアルファベット文字で始まり、スペースを含めることはできません。
6. ドロップダウンから [Read from text file] (テキストファイルから読み出す) を選択します。
7. [ファイルを選択] で、目的のファイルを選択するか、必要なテキストファイルへのファイルパスを入力します。[Open File] (ファイルを開く) ボタンを使用して、選択したテキストファイルを表示するか、変更します。
8. [保存] をクリックします。

保存された変数は Variable Manager の [ローカル変数] セクションに表示されます。



## ExcelファイルまたはCSVファイルの割り当て

Automation Anywhere の Web Recorder (Web レコーダー) コマンドと Excel コマンドはデータを Excel 形式と CSV 形式で抽出します。これらのファイルを使用して、データの入力や操作をして計算や解析操作をするために使用される配列変数が作成できます。


Automation Anywhere には、サブセットやデータの一部のセクションを取得するさまざまなオプションがあります。

Excel または CSV ファイルから変数の値を取得するには、Excel または CSV ファイルの割り当てを使用して配列タイプの変数を作成します。

Excel または CSV ファイルの割り当てを使用して配列タイプ変数を作成するには、次の手順を実行します。

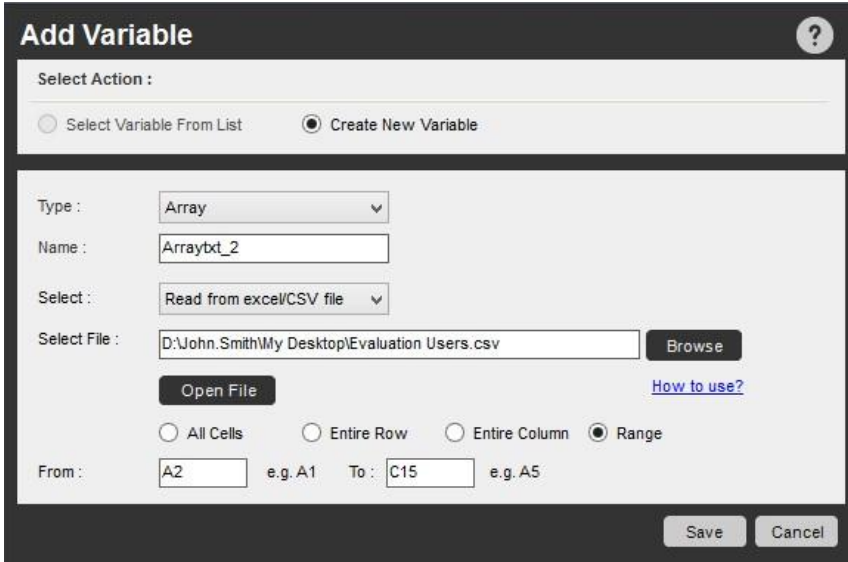
1. Workbench で、右側にある Variable Manager のタブをクリックします。
2. [追加]ボタンをクリックします。[Create New Variable] (新しい変数を作成) オプションが選択されている状態で [Add Variable] (変数を追加) ウィンドウが表示されます。
3. [Type] (タイプ) で [Array] (配列) を選択します。
4. 変数の名前を入力します。名前はアルファベット文字で始め、スペースを含めることはできません。
5. ドロップダウンから [Read from Excel/CSV file] (Excel/CSV ファイルから読み取る) を選択します。
6. 必要なファイルを参照し選択します。
7. ファイルの指定場所から値を読み取るオプションを選択します。次の中から選択できます。

- All Cells(すべてのセル)
- Entire Row(すべての行)
- Entire Column(すべての列)
- Range(範囲)

 備考: [Range] (範囲)を選択した場合、[From] (始点)と[To] (終点)を指定します。[Open File] (ファイルを開く) ボタンを使用すると、選択したテキストファイルの表示や変更ができます。

8. [保存]をクリックします。

保存された変数は Variable Manager の[ローカル変数]セクションに表示されます。



## データベースを使用する

データベースクエリの結果から取得した値で配列変数を定義できます。配列変数は、実行中のクエリの結果によって決定される次元で作成されません。

データベースクエリを使用して配列タイプの変数を作成するには、次の手順を実行します。

1. Workbench で、右側にある Variable Manager のタブをクリックします。
2. [追加]ボタンをクリックします。[Create New Variable] (新しい変数を作成) オプションが選択されている状態で [Add Variable] (変数を追加) ウィンドウが表示されます。
3. [Type] (タイプ) で [Array] (配列) を選択します。
4. 変数の名前を入力します。名前はアルファベット文字で始め、スペースを含めることはできません。
5. ドロップダウンから [Read from database] (データベースから読み取る) を選択します。
6. [Browse] (参照) を使用してデータベース接続文字列の詳細を指定します。[Browse] (参照) をクリックすると [Data Link properties] (データリンクのプロパティ) ダイアログボックスが開きます。それを使用して、選択したデータベースの有効な接続文字列をテストし作成します。
7. [Enter Select Query] (選択クエリを入力) にデータベースクエリ全体を入力します。
8. [保存]をクリックします。

保存された変数は Variable Manager の[ローカル変数]セクションに表示されます。

### Add Variable ?

Select Action :

Select Variable From List     Create New Variable

---

Type :

Name :

Select :

Connection String :

Enter Select Query :  [How to use?](#)

さまざまなソースからデータを読み取ることで配列変数を作成したら、Loop(ループ)コマンドを使用して、自動化タスクで容易にそれら进行处理できます。詳細は[こちら](#)をクリックしてください。

## ランダム変数

2タイプのランダム変数を作成できます。文字列と数値です。

ランダムで反復的な文字列や数値の集合を作成する必要がある場合には、ランダム変数が便利です。これらの値は、タスクを実行するときに生成されます。

一般的な使用事例:

- 文字列: フィールドまたはフォームに入力するテストデータを作成する
- 数値: バッチで ID ナンバーを作成する

作成された変数は、いくつかの Workbench コマンドに挿入して使用できます。

---

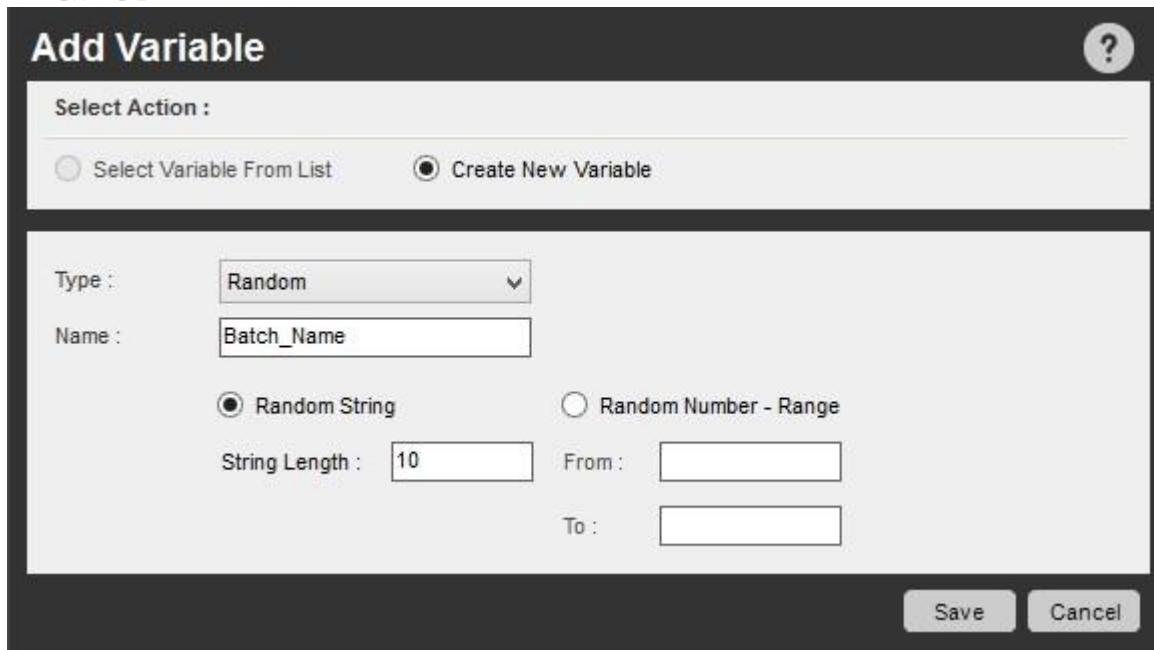
## ランダム型変数を作成する方法

---

### ランダム文字列変数を作成する

ランダム文字列変数を作成するには、次の手順を実行します。

1. Workbench で、上部または右側のタブにある Variable Manager アイコンをクリックします。
2. [追加]ボタンをクリックします。[変数を追加]ウィンドウが、[新しい変数を作成]オプションが選択されている状態で表示されます。
3. Random(ランダム)タイプを選択する。
4. 変数の名前を入力します。名前はアルファベット文字で始まり、スペースを含めることはできません。
5. [Random String](ランダム文字列)ラジオボタンを選択します。これはデフォルトです。
6. 表示されたフィールドで文字列の長さを指定します。値は 255 以下にする必要があります。
7. [保存]をクリックします。



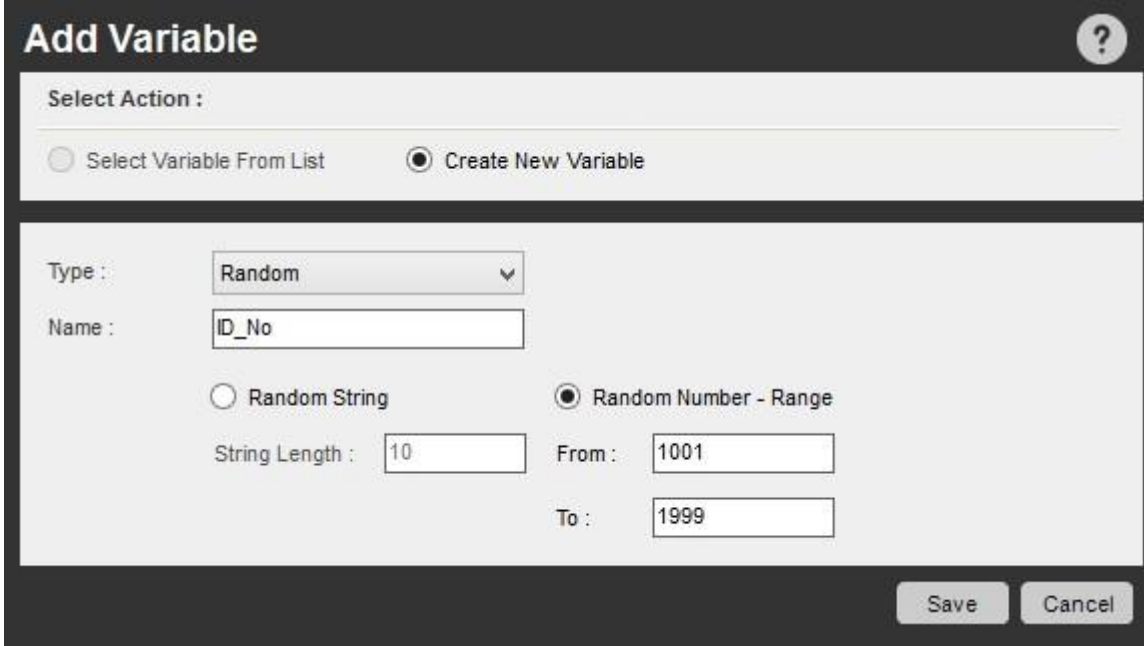
---

### ランダム数値変数を作成する

ランダム数値変数を作成するには、次の手順を実行します。

1. Workbench で、上部または右側のタブにある Variable Manager アイコンをクリックします。
2. [追加]ボタンをクリックします。[変数を追加]ウィンドウが、[新しい変数を作成]オプションが選択されている状態で表示されます。
3. Random(ランダム)タイプを選択する。
4. 変数の名前を入力します。名前はアルファベット文字で始まり、スペースを含めることはできません。
5. [Random Number - Range](ランダム数値 - 範囲)ラジオボタンを選択します。
6. 範囲の[From](下限)と[To](上限)を指定します。

7. [保存]をクリックします。



関連トピック・[値](#)

[型変数](#)・[配列](#)

[型変数](#)・[リスト](#)

[型変数](#)

・ [事前定義された変数](#)

事前定義されたユーザー変数

Automation Anywhere では、お客様用に事前定義済みのユーザー変数を 2 つ用意しています。

my-list-variable (タイプ: リスト)

この変数によって、値の一覧用のコンテナが与えられます。詳しくは、「[リスト型変数](#)」を参照してください

Prompt-Assignment (タイプ: 値)

この変数によって、1 つの値用のコンテナが与えられます。詳しくは、「[値型変数](#)」を参照してください。

「F2」キーを押すと、これらの変数をすばやく使用できます。



#### 関連トピック

- [値型変数](#)
- [リスト型変数](#) • [配列型変数](#) • [ランダム変数](#)
- [削除された変数を復元する](#)


#### 削除された変数を復元する

事前定義されたユーザー変数(以下のリストを参照)を1つ以上削除した場合は、それらを復元できます。以下が含まれます。

- my-list-variable(タイプ: リスト) • Prompt-Assignment(タイプ: 値)

これらの変数のいずれかまたは両方を復元するには、次の手順を実行します。

1. Variable Manager を開きます。
2. [Add] (追加) ボタンをクリックすると、[Add Variable] (変数を追加) ウィンドウが表示されます。
3. [Select Variable from List] (リストから変数を選択) のラジオボタンをクリックします。
4. 復元する事前定義された変数の横のボックスをクリックし、[Save] (保存) をクリックします。


 備考: 作成後に削除したユーザー変数は復元できません。

#### 関連トピック

- [値型変数](#)
- [リスト型変数](#) • [配列型変数](#) • [ランダム変数](#)
- [事前定義されたユーザー変数](#)

## システム変数

Automation Anywhere には、事前に定義された強力なシステム変数が用意されています。これを使用して、共通プロセスを自動化することができます。

 備考: システム変数は、コマンドの実行時に入力されます。

システム変数タイプは次のとおりです。

- **Date/Time:** システム関連の日付と時間の変数。
- **Loop:** [Loop] (ループ) コマンドとともに使用すると役立ちます。
- **Excel:** Excel を自動化するのに役立ちます。
- **Email:** メールを自動化するのに役立ちます。#
- **Trigger:** トリガーとともに使用すると役立ちます。
- **PDF:** [PDF] コマンドとともに使用すると役立ちます。\*
- **System:** 特定のクライアントマシンに固有の変数。

システム変数をタスクで使用すると、タスクの実行時に進捗を確認できます。詳しくは、「[変数を監視する](#)」を参照してください。

---

## 関連トピック

- [変数を使用するタイミングを知る](#)
- [Variable Manager \(変数マネージャー\) を使用する](#)
- [新しいユーザー変数を作成する](#)
- [タスクに変数を割り当てる](#)
- [変数を再初期化する](#)



## 日付と時間のシステム変数

一連の Date and Time System Variables (日付と時間のシステム変数) を使用して、自動化タスクの実行時にシステムの現在の日時を挿入または監視できます。

Caption	Name	Return Value	Description
[-] Date/Time			(This category contains Date/Time variables.)
Year	Year	Integer	Returns Year. e.g. if date is 02/23/04, it returns 2004.
Month	Month	Integer	Returns System Month. e.g. if date is 02/23/04, it returns 2.
Day	Day	Integer	Returns System Day. e.g. if date is 02/23/04, it returns 23.
Date	Date	Date	Returns System Date in mm/dd/yyyy HH:mm:ss format.
Hour	Hour	Integer	Returns System Hour. e.g. if time is 17:33:49, it returns 17.
Minute	Minute	Integer	Returns System Minute. e.g. if time is 17:33:49, it returns 33.
Second	Second	Integer	Returns System Second. e.g. if time is 17:33:49, it returns 49.
Millisecond	Millisecond	Integer	Returns System Millisecond. e.g. if time is 17:33:49:10, it returns 10.
[+] Loop			(This category contains Loop related variables.)
[+] Excel			(This category contains Excel related variables.)
[+] Email			(This category contains Email related variables.)
[+] Trigger			(This category contains Trigger related variables.)
[+] PDF			(This category contains PDF related variables.)
[+] System			(This category contains System related variables.)

## ユースケース シナリオ

日付／時刻変数を使用して、さまざまな時点を追跡してログに記録し、実行しているプロセスの正常性またはエラーを監視できます。

システム変数とその説明を表示するには、次の手順を実行します。

1. Workbench で、上部または右側のタブにある Variable Manager アイコンをクリックします。
2. [Show System Variables] (システム変数を表示) リンクをクリックします。

日付／時刻変数を挿入するには、次の手順を実行します。

1. Workbench でタスクペインに Variable Operation (変数処理) コマンドをドラッグアンドドロップします。
2. [System Variables] (システム変数) ラジオボタンを選択します。
3. ドロップダウンメニューで、挿入するシステム変数を選択します。
4. [保存] をクリックします。

テーブルにリストされるオプションを使用して、日付／時刻変数を管理します。テーブルには、日付／時刻システム変数の名前、戻り値、アクションが表示されます。

日付変数の場合、[System Variables] (システム変数) ウィンドウを使用して日付変数に返される形式を変更できます。次の手順を実行します。

1. Workbench で、上部または右側のタブにある Variable Manager アイコンをクリックします。
2. [Show System Variables] (システム変数を表示) リンクをクリックします。
3. 変数の [Date/Time] (日付／時刻) リストから [Date] (日付) 変数を選択し、[...] ボタンをクリックします。
4. [Select Date Format] (日付形式を選択) ポップアップウィンドウから日付の形式を選択します。

**System Variables** ?

Caption	Name	Return Value	Description
[-] Date/Time			(This category contains Date/Time variables.)
Year	Year	Integer	Returns Year. e.g. if date is 02/23/04, it returns 2004.
Month	Month	Integer	Returns System Month. e.g. if date is 02/23/04, it returns 2.
Day	Day	Integer	Returns System Day. e.g. if date is 02/23/04, it returns 23.
Date	Date	Date	Returns System Date in mm/dd/yyyy HH:mm:ss format. <span style="float: right;">...</span>
Hour	Hour	Integer	
Minute	Minute	Integer	
Second	Second	Integer	
Millisecond	Millisecond	Integer	
[+] Loop			
[+] Excel			
[+] Email			
[+] Trigger			
[+] PDF			
[+] System			

Select Date Format

Date format: mm/dd/yyyy HH:mm:ss

- mm/dd/yyyy HH:mm:ss
- mm/dd/yyyy HH:mm
- dd/mm/yyyy
- dd/mm/yyyy hh:mm:ss AM/PM
- dd/mm/yyyy hh:mm AM/PM
- dd/mm/yyyy HH:mm:ss
- dd/mm/yyyy HH:mm
- m/dd/yyyy

OK

例:

A. 次のコマンドは、現在の日付、曜日、年のパスをログファイルに保存します。エラーや特定の重要な情報をファイルにログ記録する時に、日付スタンプを含めることは重要です。

1. [Log To File](ファイルにログ)コマンドをドラッグアンドドロップします。
2. F2 ファンクションキーを使用して、\$Date\$、\$Day\$、\$Year\$の変数を挿入します。

コマンド: Log to File: Date:\$Date\$Day:\$Day\$Year:\$Year\$ in "C:\Variable Operation.txt"

B. 次のコマンドは、現在の時間、分、秒をログファイルに保存します。これで、分析用のログにタイムスタンプが追加されます。

2. [Log To File](ファイルにログ)コマンドをドラッグアンドドロップします。
3. F2 ファンクションキーを使用して、\$Hour\$、\$Minute\$、\$Seconds\$の変数を挿入します。

コマンド: Log to File: Hour:\$Hour\$Minute:\$Minute\$Seconds:\$Second\$ in "C:\Variable Operation.txt"

## 関連トピック

### システム変数

- [ユーザー\(ローカル\)変数](#)
- [Log to File\(ファイルにログ\)コマンド](#)

### システム変数 - Loop(ループ)

Loop(ループ)システム変数は、Loop(ループ)コマンドを補う形で、定義されたループの範囲内で機能します。ほとんどの Loop 変数は、ループ外で使用されるとき、値を取りません。下表の変数オプションを使用すると、Loop(ループ)コマンドを管理できます。

Caption	Name	Return Value	Description
+	Date/Time		(This category contains Date/Time variables.)
-	Loop		(This category contains Loop related variables.)
	Counter	Integer	Use in Loop. Returns current count value.
	FileName	String	Use in Loop for each file in a folder command. Returns file name.
	FolderName	String	Use in Loop for each folder in a folder command. Returns folder name.
	CurrentDirectory	String	Use in Loop for each File/Folder in a Folder command. Returns path of folder.
	Extension	String	Use in Loop for each file in a folder command. Returns file extension.
	Dataset Column	Record	Use in Loop for each record in dataset. Returns single record of datasource.
	Table Column	Row	Use in Loop for each row in a Table. Returns single row of Table.
	Excel Column	Row	Use in Loop for each row in Excel. Returns single row of excel.
	Error Line Number	Integer	Returns Automation Anywhere task error line number.
	Error Description	String	Returns Automation Anywhere task error line description.
	Filedata Column	String	Use in Loop for each record in CSV/Text file. Returns single node of File.
	XML Data Node	String	Use in Loop for each node in XML file. Returns single node of File.
+	Excel		(This category contains Excel related variables.)
+	Email		(This category contains Email related variables.)

### 例 1:

Start Loop "Each File In Folder D:\My Desktop\JAVA" コメント: ループするコマンドを入力してください。 ループ内の各ファイル名に対し、\$filename\$. \$extension\$変数を使用します。

End Loop(ループ終了)

Start Loop "Each row in an Internet Explorer Table of Session: Default"

コメント: ループするコマンドを入力してください。 テーブル内の各行に対し、\$TableColumn\$変数を使用します。

End Loop(ループ終了)

### 例 2:

- コメント: ----- XML セッションを開始する -----
- XML : Start XML Session using existing file "D:\My Desktop\XML Files\Bookstore - 1.xml"Session:Session1
- コメント: -----Get Multiple Nodes, I have set Xpath Xpression as Book [1]は、初回出現のみを意味する -----
- XML: Get Multiple Nodes text value from XPath expression "//book[1]/author". セッション:セッション1
- コメント: ----- 「XML データセットの各ノード」にループを使用する -----
- ループ開始 各ノードは XML データセットセッションへ: セッション1"
- コメント: ----- システム変数「XMLData Node (Node Name)」(XML データノード(ノード名))を使用して[Message](メッセージ)ボックスにノードの値をプリントする -----
- メッセージボックス: "\$XMLData Node(author)\$"
- End Loop(ループ終了)
- コメント: ----- Get Multiple Nodes, I have set Xpath Xpression as "Lang"は、すべての出現回を意味する -----
- XML: Get Multiple Nodes attributes name "lang" from XPath expression "//book/title ". セッション:セッション1
- コメント: ----- 「XML データセットの各ノード」にループを使用する -----
- ループ開始 各ノードは XML データセットセッションへ: セッション1"
- コメント: -----システム変数「XMLData Node (Node Name)」(XML データノード(ノード名))を使用して[Message](メッセージ)ボックスにノードの値をプリントする -----
- メッセージボックス: "\$XMLData Node(lang)\$"
- End Loop(ループ終了)

- 関連トピック
- [Loop \(ループ\) コマンド](#)
  - [を使用する](#)
  - [システム変数](#)
  - [ユーザー \(ローカル\) 変数](#)

## Excel システム変数

Excel システム変数を使用して、Excel 自動化プロセスを管理できます。これらの変数は Excel コマンドの範囲に固有のもので

Caption	Name	Return Value	Description
+	Date/Time		(This category contains Date/Time variables.)
+	Loop		(This category contains Loop related variables.)
-	Excel		(This category contains Excel related variables.)
	Excel Cell	String	Use in Excel operation like Set Cell, Delete Cells, Go to Cell when contains header option is set to indicate column name and position of the cell from the header or in the column value.
	Excel Cell Column	Column	Returns the column of the Excel on which the operation has been performed.
	Excel Cell Row	Row	Returns the row of the Excel on which the operation has been performed.
+	Email		(This category contains Email related variables.)
+	Trigger		(This category contains Trigger related variables.)
+	PDF		(This category contains PDF related variables.)
+	System		(This category contains System related variables.)

### Excel関連のシステム変数

- Excel Cell(Excel セル) - Excel コマンドのスプレッドシートを[開く]のセッションで「ヘッダーを含む」が有効にされている時、列名およびヘッダーからのセルの位置を示します。Get Cells(セルを取得)、Set Cells(セルを設定)、Go to Cell(セルに移動)、Delete Cells(セルを削除)、Find/Replace(検索/置換)といった Excel 処理に適用されます。
- Excel Cell Column(Excel セル列) - 処理が実行された Excel の列を返します。
- Excel Cell Row(Excel セル行) - 処理が実行された Excel のセルを返します。

### 関連トピック

- [Excel コマンド](#)
- [Excel コマンド- ヘッダーを含む](#) • [システム変数](#)
- [ユーザー\(ローカル\)変数](#)

### メールシステム変数

メールの自動化タスク内でメールシステム変数を使用すると、メールの自動化のループ処理を管理できます。これらの変数は、サーバーの各メールメッセージに対するループ処理の範囲に固有のもので

## System Variables

Caption	Name	Return Value	Description
☒ Date/Time			(This category contains Date/Time variables.)
☒ Loop			(This category contains Loop related variables.)
☒ Excel			(This category contains Excel related variables.)
☒ Email			(This category contains Email related variables.)
Email From	Email From	String	Use in Loop for each email in server. Returns email From address.
Email To	Email To	String	Use in Loop for each email in server. Returns email To address.
Email Cc	Email Cc	String	Use in Loop for each email in server. Returns email Cc address.
Email Subject	Email Subject	String	Use in Loop for each email in server. Returns email Subject.
Email Message	Email Message	String	Use in Loop for each email in server. Returns email Content.
Email Received Date	Email Received Date	String	Use in Loop for each email in server. Returns email Received Date.
Email Received Time	Email Received Time	String	Use in Loop for each email in server. Returns email Received Time.
☒ Trigger			(This category contains Trigger related variables.)
☒ PDF			(This category contains PDF related variables.)
☒ System			(This category contains System related variables.)

OK

下記のテーブルにあるメール変数のオプションを使用して、メールの自動化を管理します。

 備考: **Loop**(ループ)コマンド: [Each Email Message on Mail Server](メールサーバーの各メールメッセージ)にのみ適用可能です。

Loop/Email Automation(Loop/メールの自動化)コマンドを使用する時(下記の例を参照)、タスクのコメントでこれらのシステム定義変数の使用方法が確認できます。

例 1:

1. Start Loop "Each message on server: mail.automationanywhere.com, User Name: https://support.automationanywhere.com, ServerType: IMAP, Message Format: HTML"
2. コメント: ループするコマンドを入力してください。サーバーの各メールについてメール自動化のための変数を使用します(例: \$Email From\$, \$Email To\$など)
3. End Loop(ループ終了)

下記の例では、受信トレイからメールを抽出してテキストファイルで保存します。この種類のタスクはスケジュールを設定して、オフラインでメールを取得できます。

1. Start Loop "5" Times
2. コメント: ループするコマンドを入力してください。
3. Start Loop "Each message on server: imap.gmail.com, User Name: admin1, SSL, ServerType: IMAP, Message Format: HTML"
4. コメント: ループするコマンドを入力してください。サーバーの各メールについてシステム変数を使用します(例: \$Email From\$, \$Email To\$など)
5. Log to File: \$Email From\$ John in "D:\Desktop\1.txt"
6. メッセージボックス: "\$Email Subject\$ \$Email From\$"
7. Variable Operation(変数処理): Reset: \$Email From\$
8. メッセージボックス: "\$Email Subject\$"
9. Variable Operation(変数処理): Reset: \$Email Subject\$
10. End Loop(ループ終了)
11. End Loop(ループ終了)

この例にある変数は、Variable Operation (System Variable)(変数処理(システム変数))コマンドを使用してリセットできます。ドロップダウンメニューにリセットのオプションがすべて表示されます。

### 関連トピック

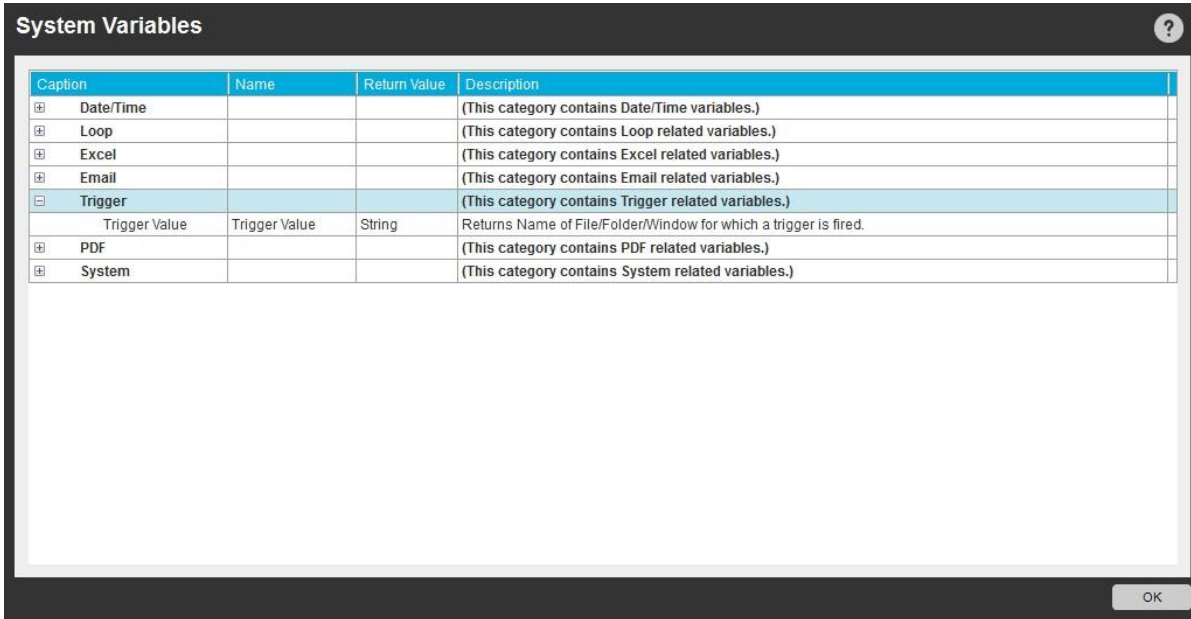
- [Email Automation\(メールの自動化\)コマンドを使用する](#) • [システム変数](#)

- ユーザー(ローカル)変数



## トリガー変数

トリガーで起動される自動化タスクを操作する際は、いつでもトリガーシステム変数を使用できます。トリガー値は、トリガーイベントのタイプに基づいて決定されます。



Caption	Name	Return Value	Description
+	Date/Time		(This category contains Date/Time variables.)
+	Loop		(This category contains Loop related variables.)
+	Excel		(This category contains Excel related variables.)
+	Email		(This category contains Email related variables.)
-	Trigger		(This category contains Trigger related variables.)
	Trigger Value	String	Returns Name of File/Folder/Window for which a trigger is fired.
+	PDF		(This category contains PDF related variables.)
+	System		(This category contains System related variables.)

トリガー変数を使用すると、1つの自動化タスクで複数のトリガーイベントを使用する場合に特に便利です。この変数は、トリガーイベントのファイル名、フォルダー、ウィンドウ、サービスの名前に関する情報を提供します。

他の用途の場合、このシステム変数には値は含まれません。

次の表に、トリガー変数の戻り値と説明を示します。

Name (名前)	Return Value (戻り値)	Description (説明)
Trigger Value (トリガー値)	String (文字列)	実行されたトリガーのタイプに応じて、トリガーが起動されるファイル/フォルダー/ウィンドウ/サービスの名前を返します。

### 関連トピック

- [Trigger\(トリガー\)を使用する](#) • [システム変数](#)
- [ユーザー\(ローカル\)変数](#)

### PDF システム変数

PDF システム変数と PDF Integration (PDF を統合) コマンドは組み合わせて使用できます。

Caption	Name	Return Value	Description
Date/Time			(This category contains Date/Time variables.)
Loop			(This category contains Loop related variables.)
Excel			(This category contains Excel related variables.)
Email			(This category contains Email related variables.)
Trigger			(This category contains Trigger related variables.)
PDF			(This category contains PDF related variables.)
PDFFileName	PDF FileName	String	Returns PDF file name for given file without .pdf extension.
PDFTitle	PDF Title	String	Returns PDF title for given file.
PDFAuthor	PDF Author	String	Returns PDF author name for given file.
PDFSubject	PDF Subject	String	Returns PDF subject for given file.
System			(This category contains System related variables.)

次表には PDF システム変数の名前、戻り値、説明が示されています。

Name (名前)	Return Value (戻り値)	Description (説明)
PDF ファイル名	String (文字列)	.pdf 拡張子を除く指定のファイルの PDF ファイル名が返されます。
PDF タイトル	String (文字列)	指定のファイルに関する PDF のタイトルを返します。
PDF 作成者	String (文字列)	指定のファイルに関する PDF の作成者名を返します。
PDF サブジェクト	String (文字列)	指定のファイルに関する PDF の主題を返します。

例:

PDF Integration (PDF を統合):

「D:\PDF\fw4.pdf」を「D:\PDFImages\」フォルダー下の「\$PDFTitle\$」として画像変換

## 関連トピック

- システム変数
- ユーザー(ローカル)変数
- PDF Integration (PDF 統合) コマンド

システム変数 - システム設定 / パラメーターに固有

システム関連のシステム変数を使用して、特定のコンピューターに関連する自動化タスクにパラメーターを含めることができます。変数は、RAM、CPU/RAM の使用量、RAM の合計量などの実際のシステム設定やパラメーターを返します。

Caption	Name	Return Value	Description
<b>System</b>			<b>(This category contains System related variables.)</b>
Machine	Machine	String	Returns Machine Name.
Clipboard	Clipboard	String	Returns Clipboard text data.
System	System (Name)	String	Name = { "Path", "PATHEXT", "USERDOMAIN", "PROCESSOR_ARCHITECTURE", "ProgramW6432", "PUBLIC", "APPDATA", "windir", "LOCALAPPDATA", "CommonProgramW6432", "USERDNSDOMAIN", "OneDrive", "USERPROFILE", "ProgramFiles", "PROCESSOR_LEVEL", "FP_NO_HOST_CHECK", "HOMEPATH", "COMPUTERNAME", "VISUALSVN_SERVER", "PROCESSOR_ARCHITECTURE", "USERNAME", "NUMBER_OF_PROCESSORS", "PROCESSOR_IDENTIFIER", "TMP", "SystemRoot", "ComSpec", "LOGONSERVER", "TEMP", "ProgramFiles(x86)", "CommonProgramFiles", "JAVA_HOME", "USERDOMAIN_ROAMINGPROFILE", "PROCESSOR_REVISION", "CommonProgramFiles(x86)", "ALLUSERSPROFILE", "SystemDrive", "PSModulePath", "OS", "ProgramData", "HOMEDRIVE" }
AAApplicationPath	Application Path	String	Returns Product Application Path.
AAInstallationPath	Installation Path	String	Returns Product Installation Path.
AATaskName	Task Name	String	Returns complete path and name of the task being executed.
AAControlRoom	Control Room URL	String	Returns URL of the connected Control Room.
CPUUsage	CPU Usage	Percentage	Returns percentage CPU usage.
RAMUsage	RAM Usage	Integer	Returns RAM usage in MB.
TotalRAM	Total RAM	Integer	Returns total amount of RAM in MB.

一般的な使用事例: これらの変数は、たとえばロードテストといった、活動中にシステムのパフォーマンスを追跡する必要がある場合に役立ちます。

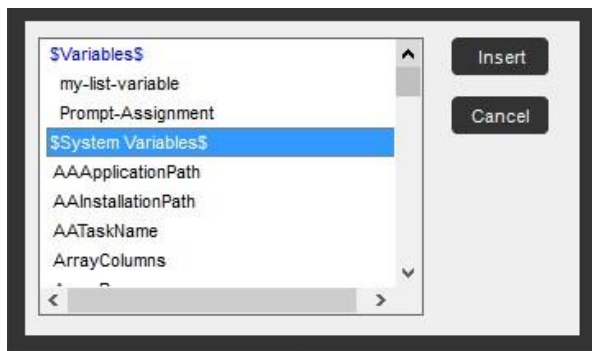
次の表に、システム変数の説明と可能な用途を示します。

Variable( 変数)	Description( 説明)	例
Machine	マシン名を返します。	[Log to File] (ファイルにログ) コマンドで使用して、Bot が実行されたマシンの名前を記録できます。
Clipboard	クリップボードテキストデータを返します。	[Clipboard] (クリップボード) コマンドで使用してテキストをコピーしたり、[Message] (メッセージ) コマンドで使用してクリップボードにコピーされたテキストを表示することができます。
System	システム名を返します。	[Log to File] (ファイルにログ) コマンドで使用して、Bot が実行されたシステムの名前を記録できます。
AAApplicationPath	製品のアプリケーションパスを返します。	[Run Task] (タスクを実行) コマンドで使用して、アプリケーションパスからタスクを選択できます。
AAInstallationPath	製品のインストールパスを返します。	[Message] (メッセージ) コマンドで使用して AAE Client のインストールパスを表示したり、[Log to File] (ファイルにログ) コマンドで使用してそのパスを記録することができます。
AATaskName	パスと一緒に実行されているタスクの名前を返します。	[Comment/Message] (コメント / メッセージ) コマンドで使用して、アプリケーションパスとタスクの名前を表示できます。
AATaskExecutor	クライアントまたは Control Room からタスクを実行したユーザーの名前を返します。	通知で使用して、自動化を実行したユーザーと実行場所を確認できます。
AAControlroom	Bot が接続されている Control Room の URL を返します。	Email Automation(メールの自動化) コマンドで使用すると、Bot Runner の接続先 Control Room の URL を送信できます。
CPUUsage	CPU 使用率の統計をパーセント(%) で返します。	Log to File(ファイルにログ) コマンドで使用すると、ボット(タスク) 内の特定の処理を実行したときの CPU の使用率に関するデータをログに記録できます。
RAMUsage	RAM 使用率の統計を MB 単位で返します。	Log to File(ファイルにログ) コマンドで使用すると、ボット(タスク) 内の特定の処理を実行したときの RAM の使用率に関するデータをログに記録できます。
TotalRAM	RAM の合計容量を MB 単位で返します。	Log to File(ファイルにログ) コマンドで使用すると、システムで利用可能な RAM の合計量に関するデータをログに記録できます。
OSName	オペレーティングシステムの名前を返します。	Log to File(ファイルにログ) コマンドで使用すると、ボット(タスク) が実行されたシステムで使用されているオペレーティングシステム(OS) の名前をログに記録できます。
ArrayRows	選択した配列変数の行数を返します。	配列変数の行数に基づいた変数条件とともに If コマンドで使用できます。
ArrayColumns	選択した配列変数の列数を返します。	配列変数の列数に基づいた変数条件とともに If コマンドで使用できます。
WorkItem	選択したキューの個々の属性に関するデータを読み取り専用形式で返します。	選択したキューの属性を読み取る場合は、Insert Work Item(作業項目を挿入) コマンドでのみ使用できます。

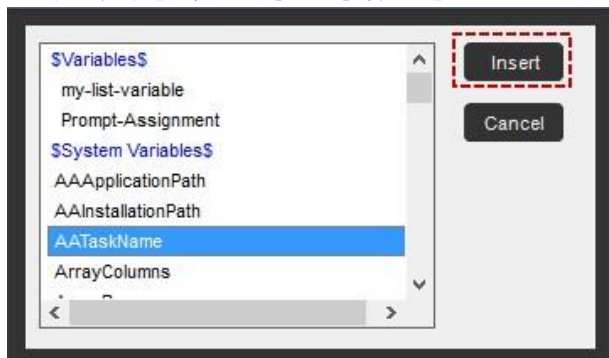
備考: システム変数を選択すると、特定のシステム変数を選択できるメニューが表示されます(以下の手順を参照してください)。


#### システム関連変数を選択する手順:

1. F2 キーを押すと、[Insert Variable] (変数の挿入) ウィンドウが表示されます。



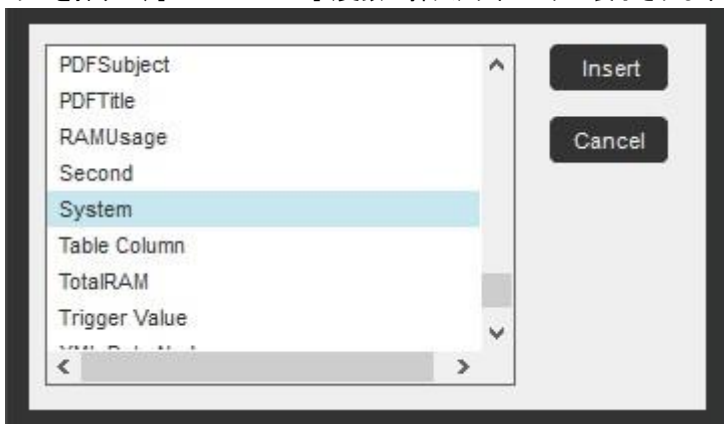
2. 必要な変数を選択して、[Insert] (挿入)をクリックします。



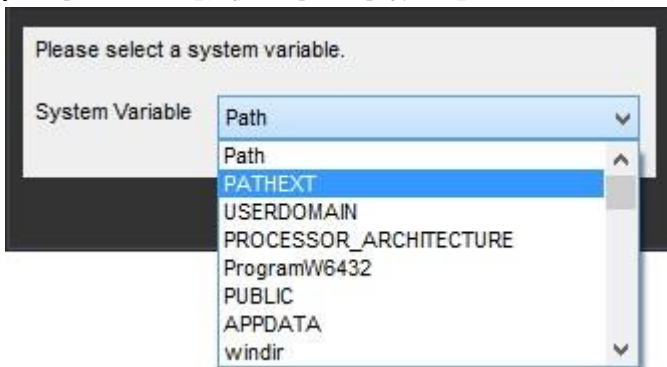
 備考: システム関連変数とシステム変数を混同しないでください。システム関連変数からシステムを選択する方法については、次のセクションを参照してください。

システム関連変数からシステムを選択する手順:

1. F2 キーを押すと、[Insert Variable] (変数の挿入) ウィンドウが表示されます。



2. [System] (システム) を選択して [Insert] (挿入) をクリックすると、システム変数オプションを選択するためのポップアップウィンドウが開きます。



3. [OK] をクリックして、システム変数を挿入します。

## エラーのトラブルシューティング

エラー: メッセージボックスで \$CPUUsage\$変数を使用したときにエラーメッセージが表示された場合は、次のアクションを実行して、システムのカウンターをリセットする必要があります。

コマンドプロンプトを開き、次の 2 つのコマンドを入力します。

```
cd\windows\system32 [enter] lodctr  
/R [enter]
```

---

### 例

タスクの実行可能ファイル(EXE)を作成するときは、EXE のパスを使用してファイルをログに記録したり、フォルダーにあるファイルを参照したりできます。この場合、AAApplicationPath 変数を使用して、EXE が格納されている場所から EXE のパスを選択します。これにより、EXE に静的パスを使用する必要がなくなります。

1. 次のコマンドは、現在のアプリケーションのパスをログファイルに保存します。Log to File(ファイルにログ)コマンドをタスクにドラッグアンドドロップして、F2 キーを押し\$AAApplicationPath\$変数を挿入します。

```
Log to File:Automation Anywhere Application Path:$AAApplicationPath$ in "C:\Variable Operation.txt"
```

2. 次のコマンドは、現在の RAM と CPU の使用率をログファイルに保存します。Log to File(ファイルにログ)コマンドをタスクにドラッグアンドドロップして、F2 キーを押し\$RAMUsage\$と\$CPUUsage\$変数を挿入します。

```
Log to File: CPU Usage:$CPUUsage$RAM Usage:$RAMUsage$ in "C:\Variable Operation.txt"
```

3. 次のコマンドは、現在のタスクのパスをログファイルに保存します。Log to File(ファイルにログ)コマンドをタスクにドラッグアンドドロップして、F2 キーを押し\$AATaskName\$変数を挿入します。

```
Log to File:Automation Anywhere Application Path:$AATaskName$ in "C:\Variable Operation.txt"
```

---

### 関連トピック

- [Log to File\(ファイルにログ\)コマンド](#) • [システム変数](#)
- [ユーザー\(ローカル\)変数](#)

変数を操作する

これらのトピックでは、変数を作成および変更する方法、自動化タスクにおいて変数に対してさまざまなアクションを実行する方法について説明しています。

---

### このセクションの内容

- [Variable Manager\(変数マネージャー\)を使用する](#) • [新しいユーザー変数を作成する](#) • [タスクに変数を追加する](#) • [変数を編集する](#) • [変数をコピーする](#)
- [変数を削除する](#)
- [Variable Operation\(変数処理\): 割り当てる](#)
- [Variable Operation\(変数処理\): 再初期化](#) • [システム変数をリセットする](#)
- [外部ファイルから変数を読み込む](#) • [変数を監視する](#)
- [変数を使用してファイルのタイムスタンプを作成する](#) • [VB スクリプトに変数を渡す](#)

Variable Manager(変数マネージャー)を使用する

Variable Manager(変数マネージャー)では、特定のタスクに定義されたローカル変数を表示します。Variable Manager(変数マネージャー)を使用して、自動化タスク内で変数を追加、変更、コピーすることができます。

Workbench で、側面にある[Variable Manager]タブをクリックします。



Variable Manager を使用して、変数に関する以下のアクションを実行します。

- Copy: コピー
- Copy All: すべてコピー
- Paste: 貼り付け
- Add: 新しい変数を追加 • Edit: 変数を編集
- Delete: 変数を削除

[Show System Variables] (システム変数を表示)リンクをクリックすると、各タスクで利用できるすべてのシステム変数が Variable Manager に表示されます。

[Queue Category] (キューカテゴリ)リンクをクリックすると、[Select Queue Category] (キューカテゴリを選択)フォームが起動し、接続している Control Room のキュー所有者によって追加されたすべてのキューカテゴリを選択できます。詳しくは、[Queue Orchestration](#) (キュー結合)コマンドを参照してください。

[Variable Manager]を初めて使用する場合、Automation Anywhere では 2 つの事前定義されたユーザー変数が使用できます。

my-list-variable (タイプ: リスト)

この変数によって、値の一覧用のコンテナが与えられます。

Prompt-Assignment (タイプ: 値)

この変数によって、1 つの値用のコンテナが与えられます。



- 変数の種類
- 新しいユーザー変数を作成する • タスクに変数を割り当てる • 変数を再初期化する • システム変数をリセットする • 外部ファイルから変数を読み込む • 変数を監視する

## 新しい変数を作成する

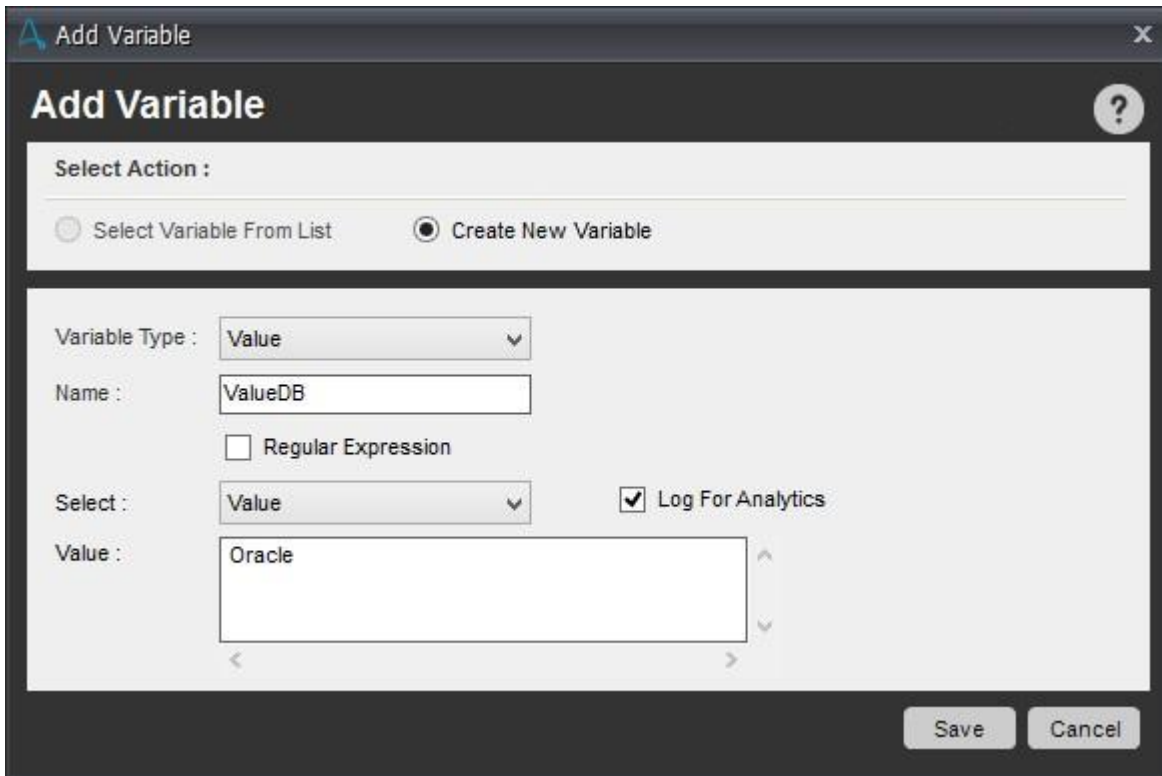
Variable Manager から自動化の新しい変数を作成できます。

新しいユーザー変数を作成するには、次の手順を実行します。


1. [Workbench]->[Variable Manager]パネルに移動します。
2. 下部の[Add] (追加) ボタンをクリックするか、既存の変数を右クリックして[Add] (追加) を選択します。



2. [Add Variable] (変数を追加) ウィンドウでは[Create New Variable] (新しい変数を作成) オプションがデフォルトで選択されます。
3. 変数タイプを選択します。詳しくは[こちら](#)を参照してください。



4. 名前を入力し、変数の値を決定する方法を選択します。

 備考: デフォルトで、変数には分析用のマークが付けられます。データ分析で変数を使用しない場合は、オプション[Log For Analytics](分析用にログを記録)をオフにします。変数がローカル変数として保存されます。

#### 変数の使用に関する重要事項

- 変数名を囲む\$記号は、内側のテキストを変数として扱う必要があることを示しています。
- タスクを実行すると、Automation Anywhere により変数名が変数の実際の値と置き換わります。
- 電球アイコンが付いたすべてのコマンドフィールドで変数がサポートされています。変数を挿入する場合は、F2 ファンクションキーを使用して選択可能なすべてのユーザー変数とシステム変数を一覧表示できます。
- 変数値は、[Variable Watch](#) (変数監視) 機能を使用して、選択した変数のランタイム値が表示されるデバッグモードで確認できます。

作成した変数は、ほとんどの Automation Anywhere コマンドを使用して、タスク内で使用できるようになります。以下の例は、Excel コマンドにセルの値を設定する変数の挿入方法を示しています。

## Excel ?

Select Excel Command :

<input type="radio"/> Open Spreadsheet	<input type="radio"/> Close Spreadsheet
<input type="radio"/> Get Cells	<input checked="" type="radio"/> Set Cell
<input type="radio"/> Go to Cell	<input type="radio"/> Run Excel Macro
<input type="radio"/> Delete Cells	<input type="radio"/> Activate Sheet
<input type="radio"/> Save Spreadsheet	<input type="radio"/> Find/Replace

**Set Cell :**

Session Name :

e.g. Session1 or S1 💡 TIP : Press F2 to insert variable.

Active Cell

Specific Cell

e.g. A5 or B10 💡 TIP : Press F2 to insert variable.

Cell Value :

e.g. Original 💡 TIP : Press F2 to insert variable.

### 関連トピック

- [Variable Manager\(変数マネージャー\)を使用する](#) • [変数を編集する](#) • [変数をコピーする](#) • [変数を削除する](#)
- [タスクに変数を割り当てる](#) • [変数を再初期化する](#)
- [システム変数をリセットする](#)
- [外部ファイルから変数を読み込む](#) • [変数を監視する](#)

### 変数を編集する

作成した変数はすべて編集または変更できます。さらに、事前定義された変数を編集できます。

変数を編集するには、次の手順を実行します。

1. 編集する変数を選択します。
2. [Edit](編集)ボタンをクリックするか、変数を右クリックして[Edit](編集)を選択します。[Edit Value](変数を編集)ウィンドウが表示されます。
3. 必要に応じて変数フィールドを変更します。変数のタイプや名前、値の定め方を変更できます。
4. [保存]をクリックします。

**Edit Variable** ?

Type : Array

Name : arrdb

Select : Value

Row(s) : 1 Column(s) : 1

Initialize Values

Save Cancel

## 関連トピック

- [Variable Manager \(変数マネージャー\) を使用する](#) • [新しいユーザー変数を作成する](#)
  - [変数をコピーする](#) • [変数を削除する](#)
- [タスクに変数を割り当てる](#) • [変数を再初期化する](#)
- [システム変数をリセットする](#)
- [外部ファイルから変数を読み込む](#) • [変数を監視する](#)

### 変数をコピーする

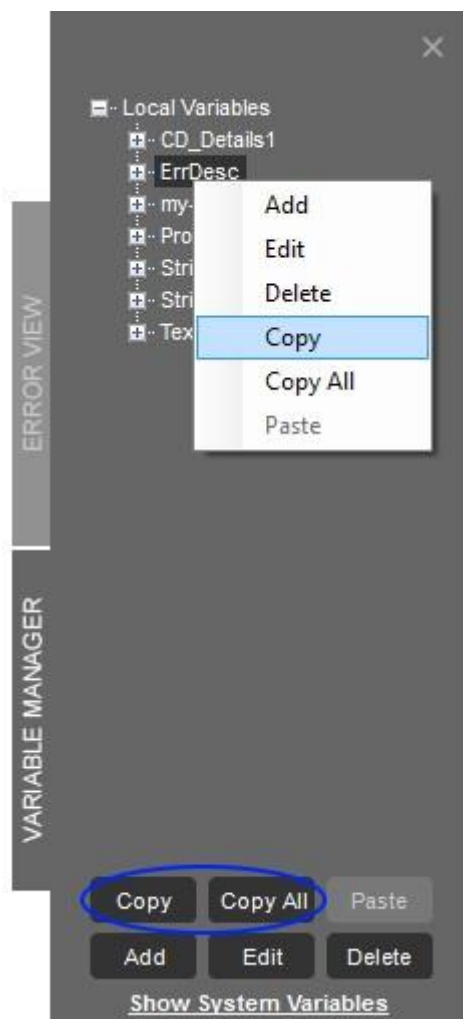
タスクの変数を別のタスクで使用する場合は、Variable Manager の [Copy] (コピー) / [Copy All] (すべてをコピー) を使用します。


[Copy All] (すべてをコピー) を選択すると、デフォルト変数 Prompt-Assignment と my-list-variable を上書きするかどうか確認が求められます。

変数をコピーするには、次の手順を実行します。

1. コピーする変数を選択します。
2. [Copy] (コピー) ボタンをクリックするか、変数を右クリックして [Copy] (コピー) を選択します。[Copy All] (すべてをコピー) をクリックするか、右クリックして [Copy All] (すべてをコピー) を選択することもできます。[Copy] (コピー) ボタンは該当する変数が選択された場合にのみ有効になります。
3. 変数の挿入先となる別のタスクを選択、または開きます。
4. [Paste] (貼り付け) をクリックします。

新しいタスクの [Paste] (貼り付け) ボタンは、先に変数がコピーされた場合にのみ有効になります。




 備考: AAE を利用すると、タスクコマンドをコピーする際に、新しい TaskBot に変数を簡単にコピーできます。新しいタスクで変数とコマンドを再作成する必要がないため便利です。コピー対象の変数が TaskBot に存在する場合、これらの変数の値と型は上書きされます。\*バージョン 11.0

LTS 以降の Enterprise エディションに対応

#### 関連トピック

- [Variable Manager\(変数マネージャー\)を使用する](#) • [新しいユーザー変数を作成する](#)
- [変数を編集する](#) • [変数を削除する](#)
- [タスクに変数を割り当てる](#) • [変数を再初期化する](#) • [システム変数をリセットする](#)
- [外部ファイルから変数を読み込む](#) • [変数を監視する](#)


## 変数を削除する

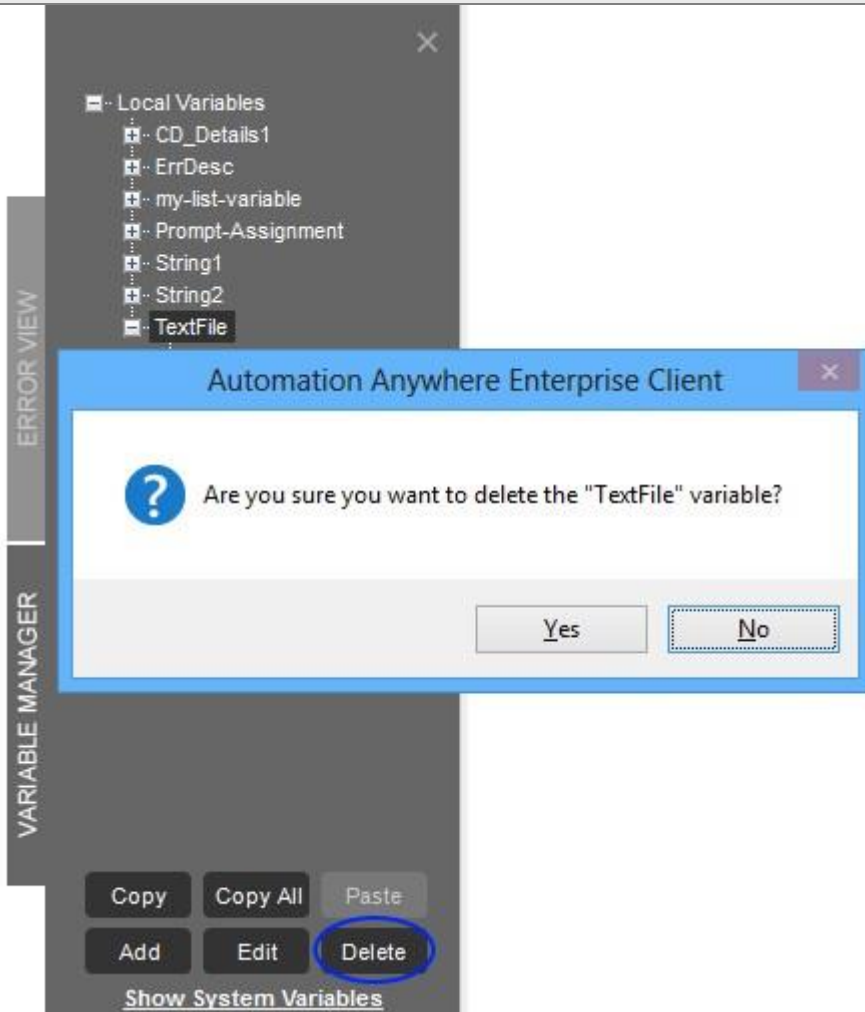
変数が古くなり削除する必要がある場合は、Variable Manager を使用して削除できます。

[Copy All] (すべてコピー) を使用してすべての変数を別のタスクにコピーする場合、その新しいタスクで冗長または不要となるいくつかの変数を削除する必要が出てくる場合があります。

変数を削除するには、次の手順を実行します。

1. 削除する変数を選択します。
2. [Delete] (削除) ボタンをクリックするか、変数を右クリックして [Delete] (削除) を選択します。
3. 確認メッセージが表示されたら、[Yes] (はい) をクリックします。

 備考: 一度に 1 つの変数のみ削除できます。



## 関連トピック

- [Variable Manager \(変数マネージャー\) を使用する](#) • [新しいユーザー変数を作成する](#)
  - [変数を編集する](#) • [変数をコピーする](#)
- [タスクに変数を割り当てる](#) • [変数を再初期化する](#)
- [システム変数をリセットする](#)



- [外部ファイルから変数を読み込む](#) • [変数を監視するタスクに変数を追加する](#)

Workbench で使用できる多くのコマンドでは、タスクに変数を挿入できます。Insert Keystrokes(キーストロークを挿入)のように、コマンドによってはタスクで変数を選択し挿入するよう促すものもあります。

他に変数を挿入できるコマンドフィールドについては、F2 ファンクションキーを使用してください。挿入に使用できるすべてのユーザー変数とシステム変数が表示されます。

---

#### 関連トピック

- [タスクに変数を割り当てる](#)
- [新しいユーザー変数を作成する](#) • [変数を編集する](#) • [変数を監視する](#)

## タスクで変数を割り当てる

変数を定義したら、自動化タスクでその処理を実行できます。Variable Operation (変数処理) コマンドによって、ユーザー変数の割り当てと再初期化ができます。割り当てとは、1つの値を変数に付けることです。この処理によって、ユーザーは定義した変数をタスクの実行時に再利用できます。

割り当ては3つのタイプ、Value (値)、List (リスト)、Array (配列) の変数に対して実行できます。リストと配列では、割り当てはそのリストまたは配列内の指定の場所に適用されます。

以下では、ユーザー変数のタイプとソース (サブタイプ)、および割り当て処理がそれらに適用できるかどうかを示します。

### 値変数を割り当てる

Value (値) タイプの変数に値を割り当てるには、次の手順を実行します。

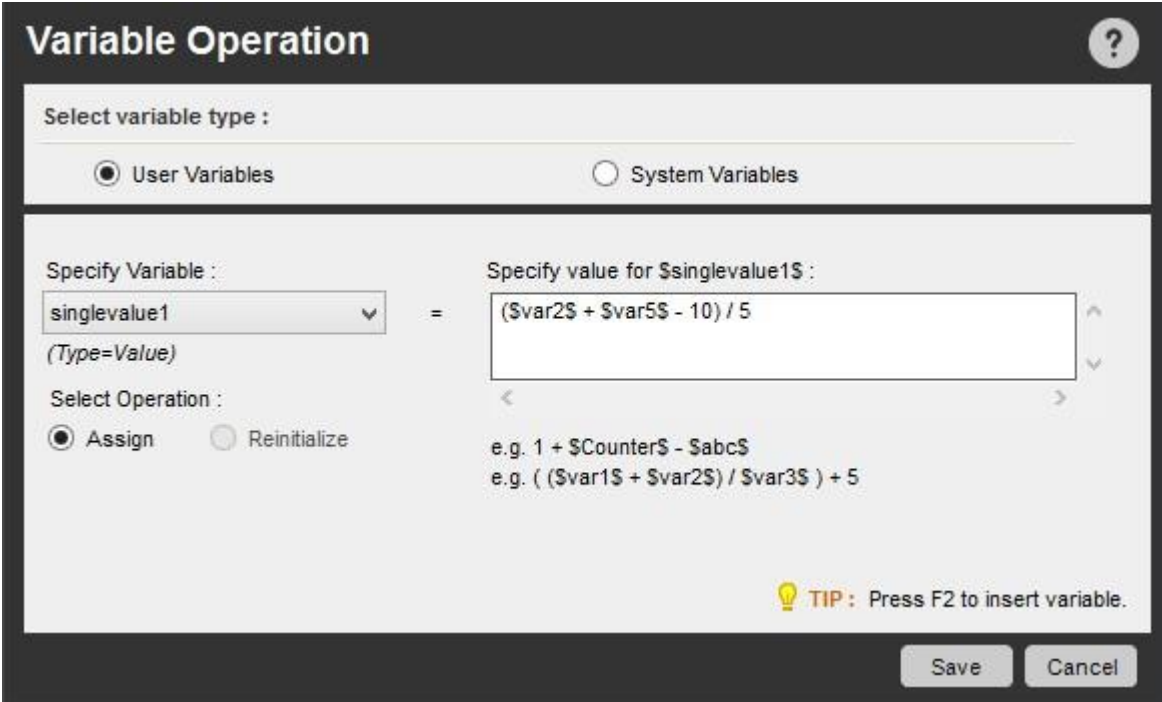
1. Workbench でタスクに Variable Operation (変数処理) コマンドをドラッグアンドドロップします。
2. [User Variables] (ユーザー変数) オプションを選択します。
3. [Specify Variable] (変数を指定) の下で、タスクに定義されたすべてのユーザー変数のリストから変数を選択します。変数のタイプとソースが表示されます。
4. [Assign] (割り当てる) 処理ラジオボタンを選択します。
5. [Specify value] (値を指定) フィールドに値を1つ入力するか、F2 ファンクションキーを押して別の変数を1つ挿入します。

割り当ての右側には通常の任意の処理を入れることができます。

例: `singlevalue1 = ($var2$ + $var5$ - 10) / 5` 使用可能演算子

: (, ), /, \*, +, -

処理の順序: 括弧は優先的に処理されます。括弧内の処理は左から右に向かって行われます。



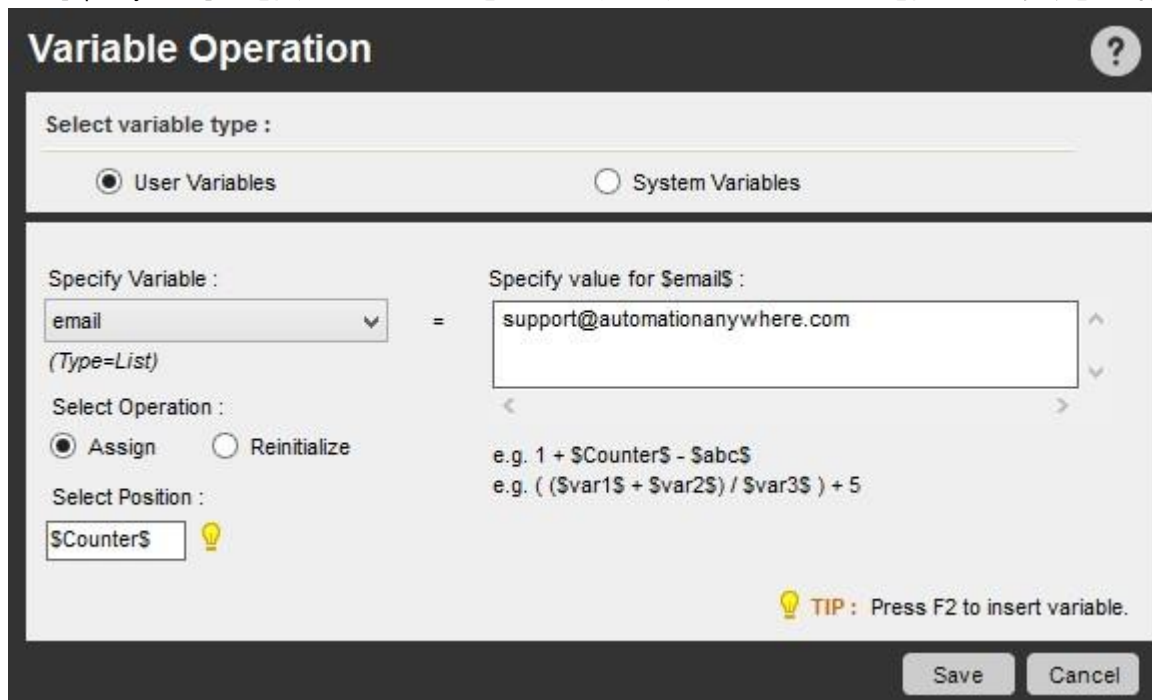
### リスト変数を割り当てる

リストタイプの変数に値を割り当てる場合、その値の場所を指定する必要があります。以前その場所にあった値は上書きされます。

リストタイプの変数に値を割り当てるには、次の手順を実行します。

1. Workbench でタスクに Variable Operation (変数処理) コマンドをドラッグアンドドロップします。
2. [User Variables] (ユーザー変数) オプションを選択します。
3. [Specify Variable] (変数を指定) の下で、タスクに定義されたすべてのユーザー変数のリストから変数を選択します。変数のタイプとソースが表示されます。

4. [Assign] (割り当てる) 処理ラジオボタンを選択します。
5. リスト変数については[Select Position] (場所を選択) が表示されます。この値の場所を指定します。例: \$Counter\$
6. F2 ファンクションキーを押して変数を選択することで他の変数を指定して、ここに挿入することもできます。
7. [Specify value] (値を指定) フィールドに値を 1 つ入力するか、F2 ファンクションキーを押して別の変数を 1 つ挿入します。



#### 配列変数を割り当てる

配列タイプの変数に値を割り当てる場合、その値の場所を指定する必要があります。以前これらの場所にあった値は上書きされます。

リストから選択する変数のタイプに応じて、配列変数のソースは、Excel または CSV ファイル、データベース、テキストファイルのいずれかとなります。

配列タイプの変数に値を割り当てるには、次の手順を実行します。

以下の例では、タスクで定義された別の変数から場所(2,2)の配列変数を割り当てます。

1. Workbench でタスクに Variable Operation (変数処理) コマンドをドラッグアンドドロップします。
2. [User Variables] (ユーザー変数) オプションを選択します。
3. [Specify Variable] (変数を指定) の下で、タスクに定義されたすべてのユーザー変数のリストから変数を選択します。変数のタイプとソースが表示されます。
4. [Assign] (割り当てる) 処理ラジオボタンを選択します。
5. 配列変数については、[Row] (行) と [Column] (列) の [Select Position] (場所を選択) フィールドが表示されます。これらの値で場所を指定します。たとえば、Row (行) 2 と Column (列) 2 などです。
6. F2 ファンクションキーを押すか、変数を選択する形で、他の変数を指定してこちらに挿入することもできます。
7. [Specify value] (値を指定) フィールドに複数の値を入力するか、F2 ファンクションキーを押して他の変数を 1 つ挿入します。

## Variable Operation ?

Select variable type :

User Variables       System Variables

---

Specify Variable :      Specify value for \$arrdb(2, column)\$ :

arrdb      =      1 + \$array1(2,2)\$  
 (Type=Array)

Select Operation :

Assign       Reinitialize

Select Position :

Row      Column

2      2

e.g. 1 + \$Counter\$ - \$abc\$  
 e.g. ( (\$var1\$ + \$var2\$) / \$var3\$ ) + 5

💡 TIP : Press F2 to insert variable.

Save      Cancel

Variable Operation(変数処理) : 値を丸める

Workbench で Variable Operation(変数処理)コマンドを使用する場合、値が丸められていることに注意してください。

たとえば、Variable Operation(変数処理)コマンドを使用して「01.20」の値を次の名前の変数に割り当てます: Temp。メッセージボックスに表示される値は 1.2 となり、値の前後のゼロが削除されます。

例: 例 1 タイプ: List(リスト)、ソース: テキストの例から

読み取る

1. コメント: テキストファイル変数からのリスト読み取りが 5 エントリあるため、このループは 5 回実行されます。
2. コメント: 変数リストタイプを作成: ソース=この RDlsttxt、すなわち 11,21,31,41,51 を持つテキストファイルから読み取ります。
3. Start Loop "List Variable \$RDlsttxt\$"
4. コメント: メッセージボックスにリスト変数の値と他の変数の値が追加で表示されます。ここでは \$row\$=10 です。
5. Variable Operation: \$RDlsttxt\$ + \$row\$ To \$Prompt-Assignment\$
6. Message Box: "\$Prompt-Assignment\$"
7. End Loop

例 2 タイプ: 配列ソース: Excel から読

み取る

1. コメント: 配列変数を使用して既存の Excel ファイルから読み取ります。
2. Connect to "\$ConnectStr\$" Session:'Default'
3. コメント: ArrayRows はシステム定義の変数で、ユーザー定義の配列の行全体を取得するために使用します。
4. コメント: ArrayExl はユーザー定義の配列変数で、「ReadfromExcelfile」(Excel ファイルから読み取る)のソースを使用します。この例では、タイトルと価格が記載されている書籍とゲームのリストを使用します。このリストは VariableManager で初期化されます。
5. Variable Operation: \$ArrayRows(\$ArrayExl\$)\$ To \$Row\$
6. Start Loop "\$Row\$" Times
7. コメント: ウェブサイトから抽出した CSV のヘッダータイトルをスキップするには次の If 条件を使用します。
8. If \$Counter\$ Equal To (=) "1" Then
9. Continue
10. End If

11. Execute SQL Statement: 'Insert into Ebaykids (BookTitle,cost) values ("{\$ArrayExl(\$Counter\$,1)\$"},'{\$ArrayExl(\$Counter\$,2)\$}') Session: 'Default'
12. End Loop
13. Open "http://www.ebay.com/"
14. コメント:WebRecorder を使用して、哲学に関する書籍を CSV ファイルに抽出します。
15. Set text 'philosophy books' into \_nkw in the webpage 'Electronics, Cars, Fashion, Collectibles, Coupons and More Online Shopping | eBay'
16. Click on 'Search' Command Button in the webpage 'Electronics, Cars, Fashion, Collectibles, Coupons and More Online Shopping | eBay'
17. Loop While Web Control Exists (Other HTML Control : Next ) in the webpage 'philosophy books | eBay'
18. Extract Multiple Data from Webpage to \$filePath\$ from the web page: philosophy books | eBay
19. Click on 'Next' Other HTML Control in the webpage 'philosophy books | eBay' 20.End Loop
- 21.Extract Multiple Data from Webpage to \$filePath\$ from the web page: philosophy books | eBay

## 関連トピック • [Variable Manager\(変数マネージャー\)](#) を使

### 用する


- [新しいユーザー変数を作成する](#)
- [変数を編集する](#) • [変数をコピーする](#)
- [変数を削除する](#) • [変数を再初期化する](#) • [システム変数をリセットする](#)
- [外部ファイルから変数を読み込む](#) • [変数を監視する](#)

### Credential Variable を割り当てる

自動化タスクの再生に必要な機密情報を安全に保存するために、Control Room 管理者は「属性」値で構成される「Credential Key」を作成します。これらの認証情報は、BotCreator(タスクを作成する Client ユーザー)によって、認証情報の入力が必要なさまざまなコマンドで「Credential Variable」として使用されます。

これらの変数の特殊なカテゴリーは、Control Room 管理者が排他的アクセス権限を持つ「Credential Vault」に一元的に保管されます。詳しくは[こちら](#)を参照してください。

Bot Creator はタスクを作成する際に、認証情報の入力が必要でそれらをサポートしているコマンドフィールドに対して、Credential Variable を割り当てることができます。このトピックの[「コマンドリスト」](#)を参照してください。

 **備考:** タスクの作成と再生時に Credential Variable にアクセスするには、Bot Creator がオンラインである (Control Room に接続されている) 必要があります。

### Credential Variable を使用する

コマンドに必要な Credential Variable を入力する方法は、変数の割り当てと同様です。「F2」ファンクションキーを押します。再生中に認証情報の値がコマンドで取得されます。

変数の割り当てを開始する前に、次の点に留意してください。

- BotCreator が実行できるのはコマンドへの Credential Variable の挿入のみです。BotCreator に追加権限や更新権限はありません。
- Credential Variable は [Insert Variable] (変数を挿入) ウィンドウからのみ表示およびアクセスできます。
- コマンドフィールドと Credential Variable のリストには Credential Key の名前のみが表示されます。属性値は表示されません。タスクの編集またはデバッグ中にも表示されません。
- Bulk Edit は同じ Credential Variable で構成されるコマンドでのみ許可されます。
- Credential Variable は読み取り専用です。この値は編集できません。別の変数(ローカル/システム変数)や文字列は追加できません。別の変数を挿入するには最初に Credential Variable を削除する必要があります。
- Credential Variable を削除するには、「バックスペース」キーをダブルクリックまたは押してから、[Delete] (削除) を選択します。

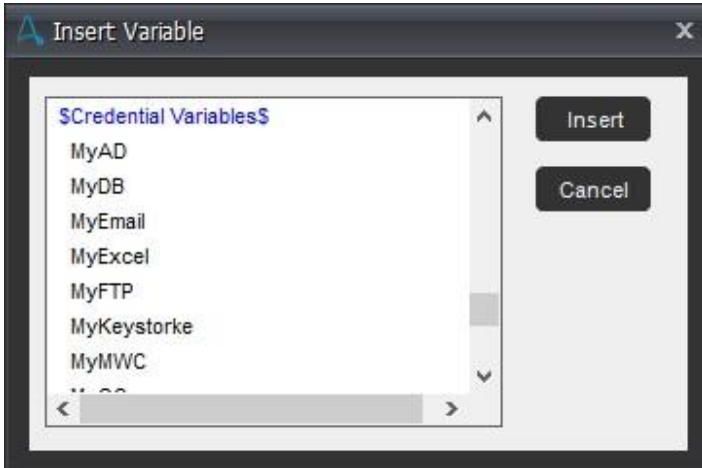
- 変数をコピーして張り付けると文字列に変換されます。変数名を手動入力しても、文字列に変換されます。

**重要:** 10.3 より古いバージョンから移行したユーザーが既存のタスクに Credential Variable を挿入すると、以前のパラメーターが削除されることにご注意ください。

Credential Variable を割り当てる手順

Credential Variable をサポートするコマンドフィールドに変数を割り当てるには、以下の手順に従います。

- Credential Variable を追加するには、F2 を押して、[Insert Variable] (変数を挿入) ウィンドウで必要な Credential Key を選択します。



- 必要な属性を選択します。



- 次に示すように、コマンドに認証情報が割り当てられます。

- ここでは「MyFTP」が Credential Key で、「HostName」と「UserName」は属性です。

備考: [Password] (パスワード) フィールドは暗号化されて表示されます。

Credential Variable をサポートするコマンド以下のコマンドは

Credential Variable の使用をサポートしています。

1. Active Directory
2. Citrix Automation (Citrix の自動化)
3. Database (データベース)
4. Email Automation (メールの自動化)
5. Excel
6. FTP/SFTP
7. Insert Keystrokes (キーストロークを挿入)
8. Manage Windows Controls (ウインドウコントロールを管理)
9. Object Cloning
10. PDF Integration (PDF 統合)
11. PGP
12. REST Web Service (REST Web サービス)
13. SAP Integration (SAP 統合)
14. SOAP Web Services (SOAP Web サービス)
15. Web Recorder



関連トピック • 変数の種類を

理解する

- Active Directory コマンド • Database(データベース)コマンド
- Email Automation(メールの自動化)コマンド • Excel コマンド
- FTP/SFTP コマンド • Insert Keystrokes(キーストロークを挿入)コマンド • Manage Windows Controls(ウィンドウズコントロールを管理)コマンド • Object Cloning(オブジェクトクローニング)コマンド
- PDF Integration(PDF 統合)コマンド • PGP コマンド • REST Web Service(REST Web サービス)コマンド • SOAP Web Services(SOAP Web サービス)コマンド • Web Recorder(Web レコーダー)コマンド

変数を再初期化する

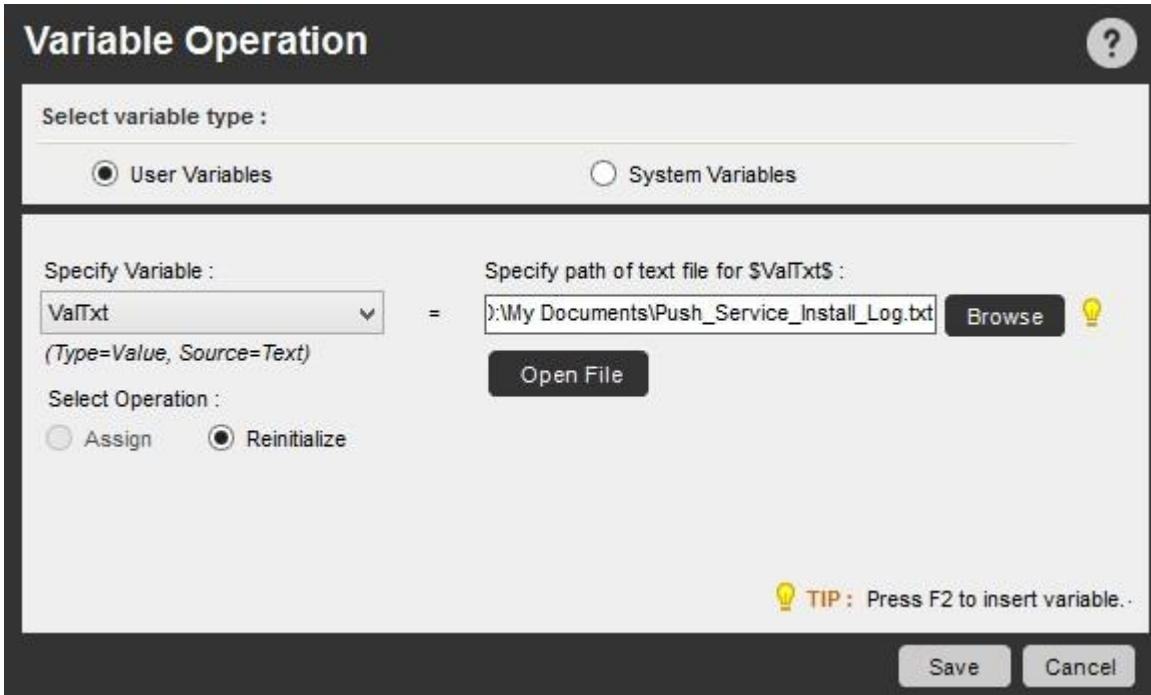
ユーザー変数を作成し、自動化タスク内で使用する場合は、使用する前に毎回、再初期化する必要があります。

以下を含め、あらゆるタイプのユーザー変数を再初期化できます。

- 値変数(txt タイプからの読み取りのみ) • リスト変数 • 配列変数
- ランダム変数

値変数を再初期化する値型変数を再初期化するには、次の手順を実行します。

1. Workbench でタスクに Variable Operation(変数処理)コマンドをドラッグアンドドロップします。
2. [User Variables](ユーザー変数)オプションを選択します。
3. [Specify Variable](変数を指定)で、再初期化する変数を選択します。
4. [Reinitialize](再初期化)ラジオボタンを選択します。
5. [Specify value](値を指定)フィールドで、変数で値を再初期化するため、新しいテキストファイルを参照、選択します。
6. [保存]をクリックします。この変数の以前の値が上書きされます。

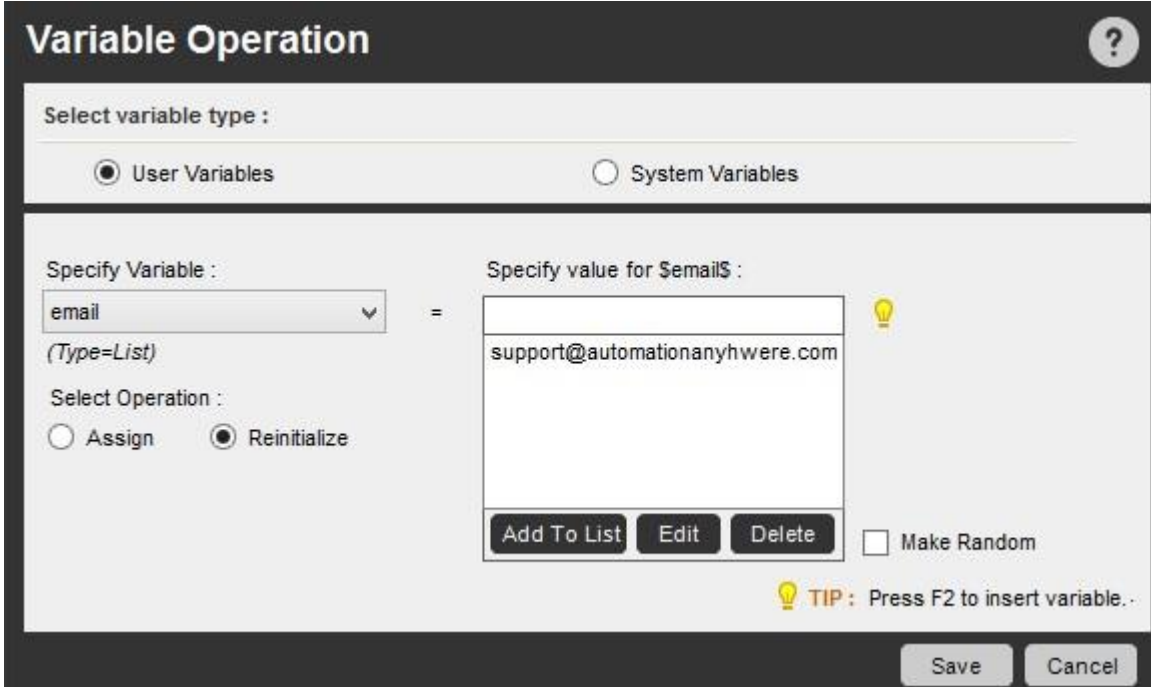


リスト変数を再初期化するリスト型変数を再初期化するには、次の手順を実行します。

1. Workbench でタスクに Variable Operation(変数処理)コマンドをドラッグアンドドロップします。
2. [User Variables](ユーザー変数)オプションを選択します。

3. [Specify Variable](変数を指定)で、再初期化する変数を選択します。
4. [Reinitialize](再初期化)ラジオボタンを選択します。
5. [Specify value](値を指定)フィールドで、新しい値を入力するか、新しいテキストファイルを参照して指定します。
6. [保存]をクリックします。

指定された新しい値のみが割り当てられます。この変数の以前の値が上書きされます。



#### 配列変数を再初期化する

配列変数の再初期化には、いくつかのオプションが用意されています。

配列型変数を再初期化するには、次の手順を実行します。

1. Workbench でタスクに Variable Operation(変数処理)コマンドをドラッグアンドドロップします。
2. [User Variables](ユーザー変数)オプションを選択します。
3. [Specify Variable](変数を指定)で、タスクに定義されたユーザー変数のリストから配列変数を選択します。変数のタイプとソースが表示されます。
4. [Reinitialize](再初期化)ラジオボタンを選択します。
5. 新しい次元を指定します。たとえば、行 2 と列 2 などです。F2 ファンクションキーを押すか、変数を選択する形で、他の変数を指定してこちらに挿入することもできます。
6. [Specify value](値を指定)フィールドに複数の値を入力するか、F2 ファンクションキーを押して他の変数を 1 つ挿入します。
7. [保存]をクリックします。

### Variable Operation

Select variable type :

User Variables       System Variables

Specify Variable :  
Employee  
(Type=Array)

Specify new dimensions for \$Employee\$ :  
10 X 5  
Row(s)      Column(s)

Select Operation :  
 Assign       Reinitialize

Initialize Values

TIP : Press F2 to insert variable.

Save      Cancel

#### 制限と使用ルール

- 行と列が数値の場合は、[Initialize Values] (値を初期化) ボタンを使用して、新しい値を挿入できます。この場合、配列の構造と値がすべて再定義されます。
- Excel のソース型を持つ配列では、行、列、範囲の全体またはすべてのセルを再初期化できます。
- Excel または CSV ファイルのソース型を持つ配列では、再初期化するにはパスを指定する必要があります。

### Variable Operation

Select variable type :

User Variables       System Variables

Specify Variable :  
Employee\_HR  
(Type=Array, Source=Excel)

Specify path of excel / csv for \$Employee\_HR\$ :  
D:\My Documents\Master Output File.csv      Browse

Open File

Select Operation :  
 Assign       Reinitialize

Get All       Range  
 Entire Row       Entire Column

From : A10      e.g. A1      To : A20      e.g. A5

TIP : Press F2 to insert variable.

Save      Cancel

- [Open File] (ファイルを開く) オプションは、有効なファイルパスを指定した場合にのみ有効になります。
- データベースのソース型を持つ配列では、SQL クエリを使用して新しいデータベースへの接続プロパティを指定できます。

## Variable Operation ?

Select variable type :

User Variables       System Variables

---

Specify Variable :      Specify database for \$arrdb\$ :

arrdb      =      Provider=MSDASQL.1;Persist Security Info=Fa Browse

*(Type=Array, Source=Database)*      Connection String

Select Operation :

Assign       Reinitialize

Employee\_Name, Employee\_ID from Employee

Enter Select Query

**TIP:** Press F2 to insert variable. .

Save Cancel

### ランダム変数を再初期化する

ランダム変数を再初期化するには、次の手順を実行します。

1. Workbench でタスクに Variable Operation (変数処理) コマンドをドラッグアンドドロップします。
2. [User Variables] (ユーザー変数) オプションを選択します。
3. [Specify Variable] (変数を指定) で、再初期化する変数を選択します。
4. [Reinitialize] (再初期化) ラジオボタンを選択します。
5. [Specify value] (値を指定) フィールドで、数値の範囲または文字列の新しい値を指定します。
6. [保存] をクリックします。この変数の以前の値が上書きされます。

## Variable Operation ?

Select variable type :

User Variables       System Variables

---

Specify Variable :      Specify number range for \$ID\_No\$ :

ID\_No      =      1       100

*(Type=Random, Source=Number Range)*      From      To

Select Operation :

Assign       Reinitialize

**TIP:** Press F2 to insert variable. .

Save Cancel

### 使用事例

例 1:

タイプ: リストソース: 再初期化のテキストから読み込み

1. コメント: 変数タイプを初期化する: List (リスト)、ソース: この RDlsttxt=https://support.automationanywhere.com,testing@gmail.com, sales@automationanywhere.com,buynow@automationanywhere.com のあるテキストファイルから読み込み
2. Variable Operation: Reinitialize \$RDlsttxt\$
3. Start Loop "List Variable \$RDlsttxt\$"
4. コメント: リストが読み込むテキストファイルの変数が 4 つあるため、このループは 4 回実行されます。
5. コメント: 次のコマンドによって、上のテキストファイルから読み込んだリスト(リスト変数)のアドレスにメールを送信します。
6. Send Email: Subject "Automation Anywhere finished executing the task." with Attachment(s).
7. Message Box: "Email to '\$RDlsttxt\$' has been sent sucessfully."
8. End Loop

例 2: タイプ: 配列ソース: Excel から読

み取る

1. コメント: 配列ソースを初期化する: Excel ファイル(ArrayExl)と、ウェブサイトから抽出された CSV ファイルから読み込み
2. Variable Operation: Reinitialize \$ArrayExl\$
3. Variable Operation: \$ArrayRows(\$ArrayExl\$)\$ To \$Row\$
4. Start Loop "\$Row\$" Times
5. If \$Counter\$ Equal To (=) "1" Then
6. コメント: ウェブサイトから抽出した CSV のヘッダータイトルをスキップする
7. Continue
8. End If
9. Execute SQL Statement: 'Insert into Ebayphilosophy (BookTitle,cost) values ("ArrayExl (\$Counter\$,1)\$", '\$ArrayExl (\$Counter\$,2)\$')' Session: 'Default'
10. End Loop

---

関連トピック • [Variable Manager\(変数マネージャー\)を使](#)

[用する](#)

- [新しいユーザー変数を作成する](#)
- [変数を編集する](#) • [変数をコピーする](#)
- [変数を削除する](#) • [タスクに変数を割り当てる](#) • [システム変数をリセットする](#) • [外部ファイルから変数を読み込む](#) • [変数を監視する](#)

## システム変数をリセットする

システム変数を使用するとき、タスクの実行中に値をリセットするオプションを利用できる場合があります。

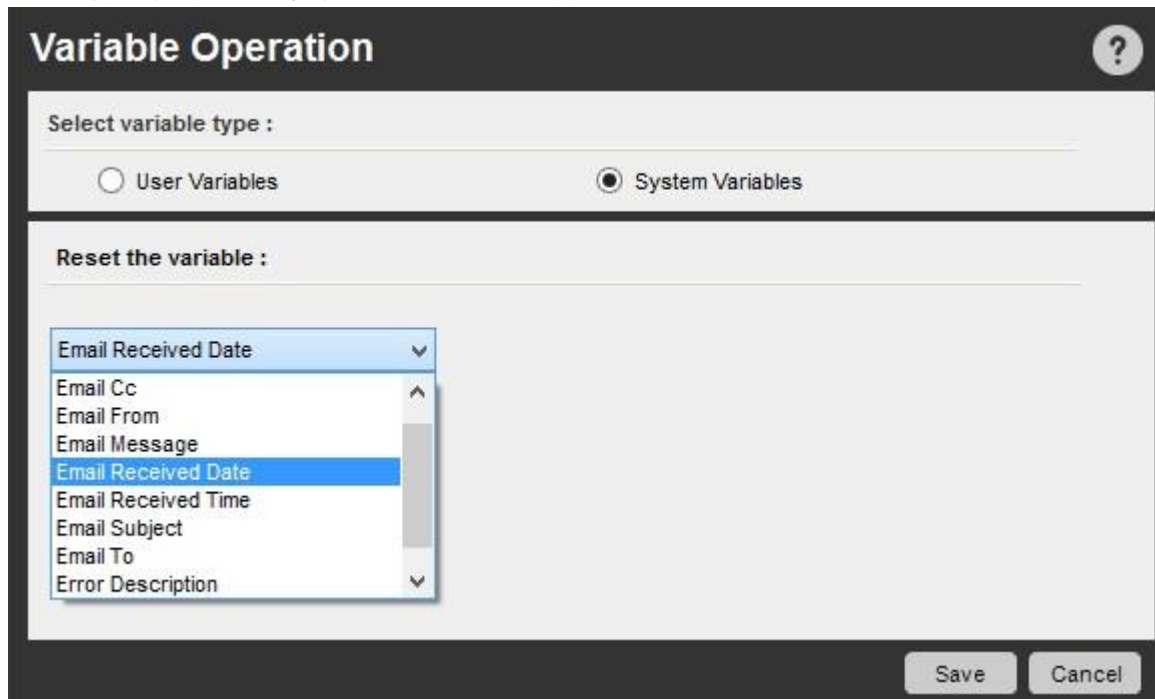
リセットできるシステム変数は次のとおりです。

- Error Description (エラーの説明)
- Error Line Number (エラー行番号)
- Email From (メール送信者)
- Email To (メール受信者)
- Email Cc (Cc メール受信者)
- Email Subject (メールの件名)
- Email Message (メール本文)

システム変数をリセットするには、次の手順を実行します。

1. Task Editor でタスクに Variable Operation (変数処理) コマンドをドラッグアンドドロップします。
2. [System Variables] (システム変数) ラジオボタンを選択します。
3. リセットするシステム変数を選択します。
4. [保存] をクリックします。

タスクの実行時に、システム変数の値がリセットされます。



## 関連トピック

- [Variable Manager \(変数マネージャー\) を使用する](#) • [新しいユーザー変数を作成する](#) • [変数を編集する](#)
- [変数をコピーする](#) • [変数を削除する](#)
- [タスクに変数を割り当てる](#) • [変数を再初期化する](#)



- 外部ファイルから変数を読み込む
- 変数を監視する外部ファイルから変数を読み込む

変数作成時に変数の値を指定しない場合、Automation Anywhere では CSV、Excel、テキスト、データベースなどの外部ファイルを使用して変数の値を設定できます。

テキストファイルから読み込むテキストファイルの変数値を読み取るには、次の手順を実行します。

- Variable Manager 下部の [Add] (追加) ボタンをクリックするか、既存の変数を右クリックして [Add] (追加) を選択すると、[Add Variable] (変数を追加) ウィンドウが呼び出されます。

備考: [Add Variable] (変数を追加) ウィンドウでは [Create New Variable] (新しい変数を作成) オプションがデフォルトで選択されています。

- 目的の変数型を選択し、名前を入力して、ドロップダウンから [Read from Text File] (テキストファイルから読み取る) オプションを選択します。

変数に値を割り当てるとき、Automation Anywhere でテキストファイルが確実に正しく読み取られるようにするには、次のガイドラインに従います。

- 1 つのテキストファイル内の別々の行 (改行には ENTER キーを使用) に、<variable>=<value> のペアが複数存在できます。
- 値型変数の場合、1 つの値のみが割り当てられる必要があります。
- 例: myvar=value1 (この myvar は変数です)。
- 例: my-list-var= value1,value2,value3
- タスクを実行する前に必ず Variable Manager でテキストファイルを指定します。
- リスト型変数の場合、変数のコンマ区切り値を定義できます。
- 変数名では大文字と小文字が区別されません。

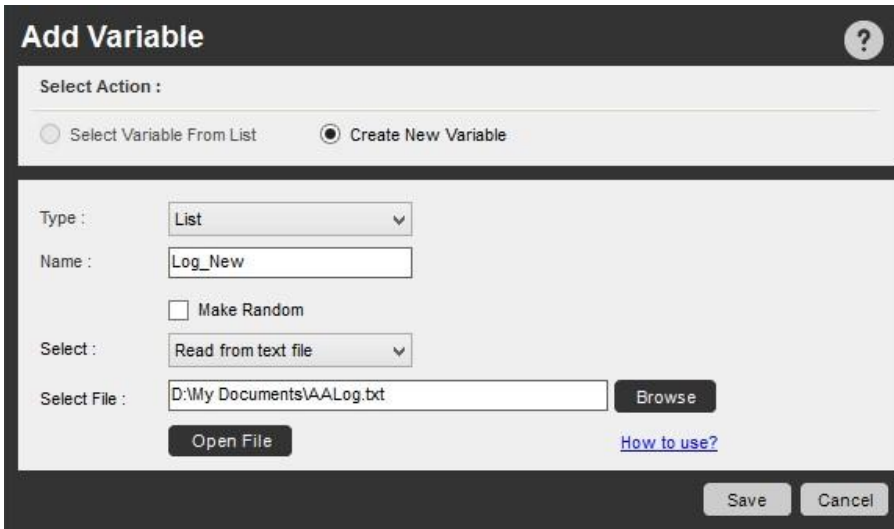
例: 異なる <variable>=<value> ペアの含まれるテキストファイル:

Age=12,13,16,21

Games=Football,Soccer,Rugby

username=my-username

パスワードフィールドが削除されました。

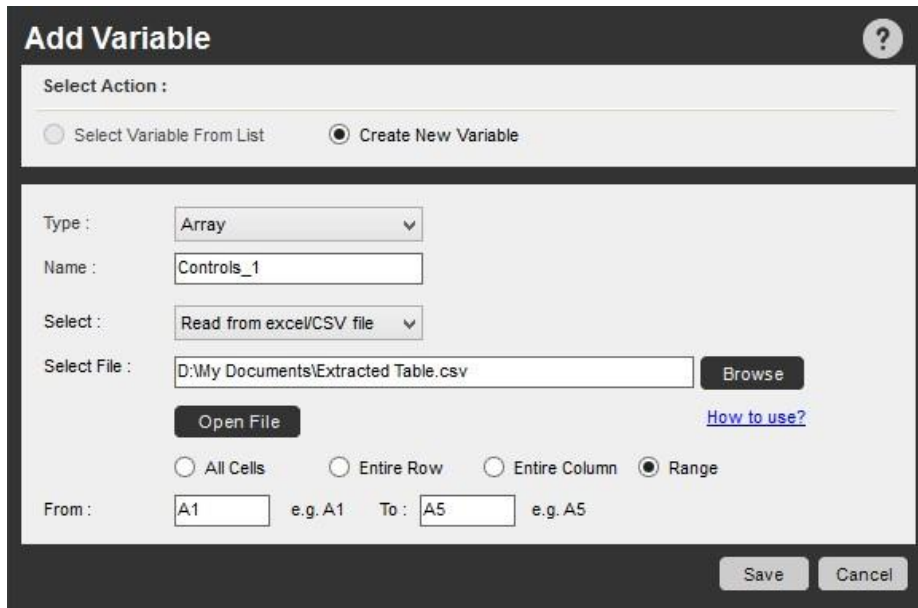


Excel ファイルから読み取る

配列変数を作成し、その値を Excel ファイルから読み取るよう指定すると、次のデータを読み取ることができます。

- 行全体
- 列全体
- ユーザーが [From] (下限) フィールドと [To] (上限) フィールドを使用して指定するセル範囲





**Add Variable** [?]

Select Action :  
 Select Variable From List  Create New Variable

Type : Array

Name : Controls\_1

Select : Read from excel/CSV file

Select File : D:\My Documents\Extracted Table.csv Browse

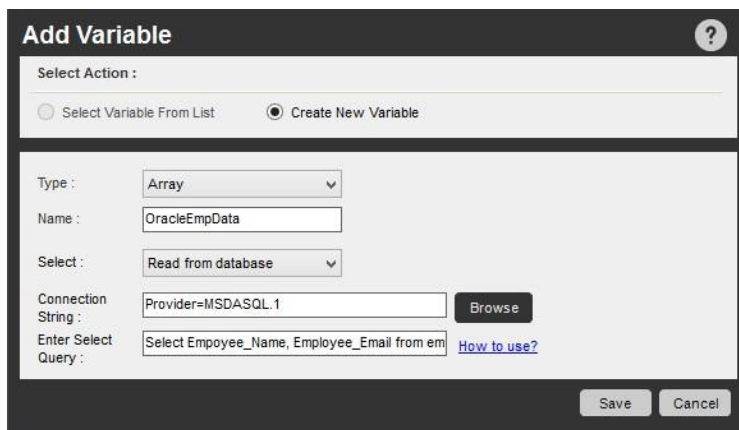
Open File [How to use?](#)

All Cells  Entire Row  Entire Column  Range

From : A1 e.g. A1 To : A5 e.g. A5

Save Cancel

データベースから読み込むデータベースファイルから値を読み取るには、接続文字列と SELECT クエリを指定する必要があります



**Add Variable** [?]

Select Action :  
 Select Variable From List  Create New Variable

Type : Array


Name : OracleEmpData

Select : Read from database

Connection String : Provider=MSDASQL.1 Browse

Enter Select Query : Select Employee\_Name, Employee\_Email from em [How to use?](#)

Save Cancel

 備考：データベースからの変数読み取りは、配列型変数のみ対象です。詳しくはこちらを参照してください。

### 変数を監視する

このトピックでは、Automation Anywhere Variable Watch (変数監視) 機能を使用して、自動化タスクの実行中に変数を監視する方法について説明します。

タスク内の変数の進捗状況を追跡するために、Automation Anywhere では変数の変化を監視する方法が用意されています。これにより、変数の進捗がより簡単に把握できます。これは、デバッグモードを使用しているときに有効になる「Variable Watch Table」機能を使用することにより実現できます。

Variable Watch Table は、タスクの実行中に現在の変数値を表示し、そのタスクに定義されているすべてのタイプの変数(ユーザー変数とシステム変数)に適用されます。

### Variable Watch Table を使用する

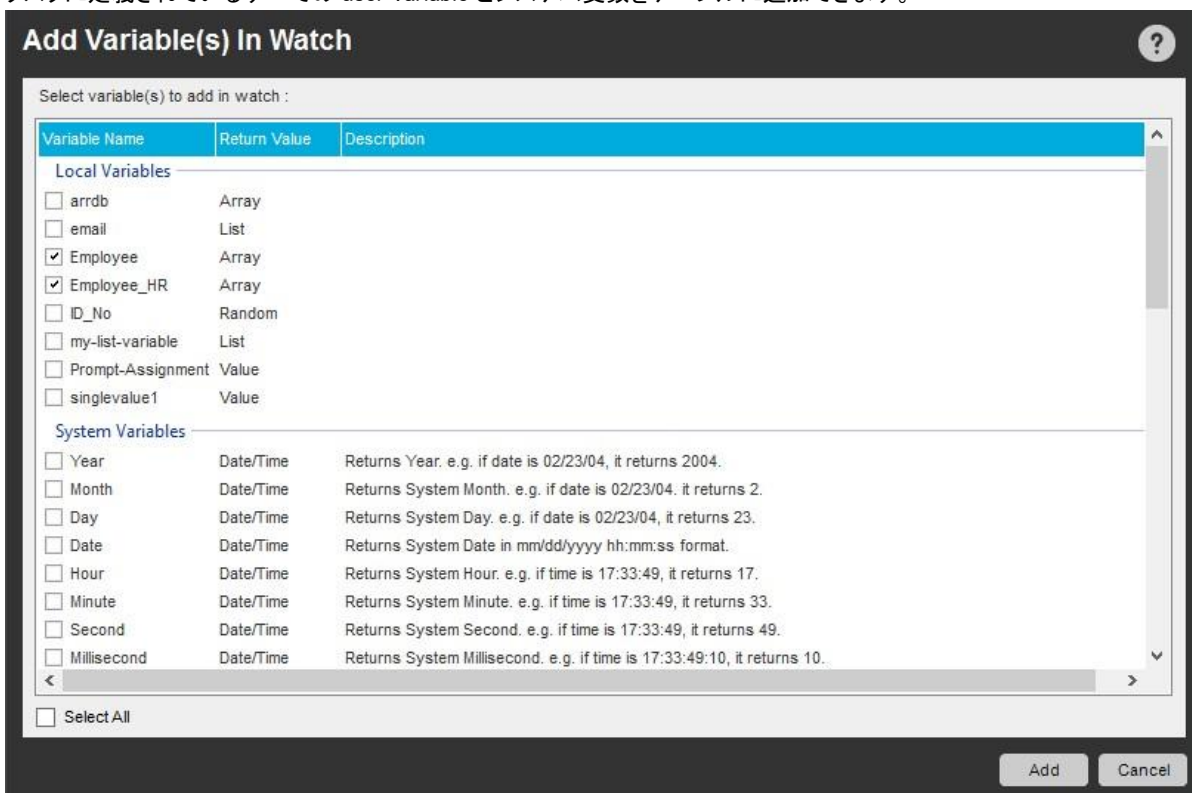
Variable Watch Table を使用するには、Workbench の上部にある [Enable Debugging] (デバッグを有効化) ボタンをクリックします。タスクが特定のステップを実行すると、Variable Watch Table がポップアップし、実際の変数値(またはその変数に含まれるもの)が表示されます。



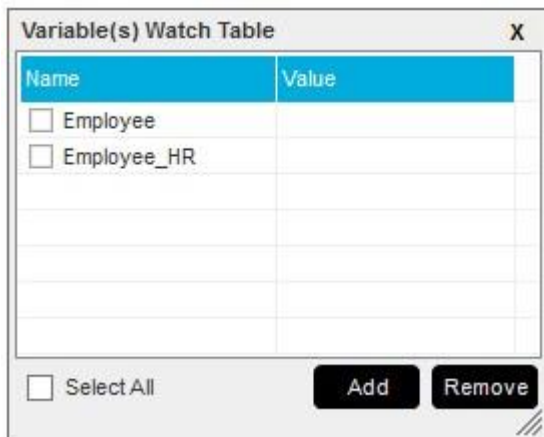
最初は、Variable Watch Table は空の状態です。[Add] (追加) ボタンを使用して、追跡する変数を含めます。



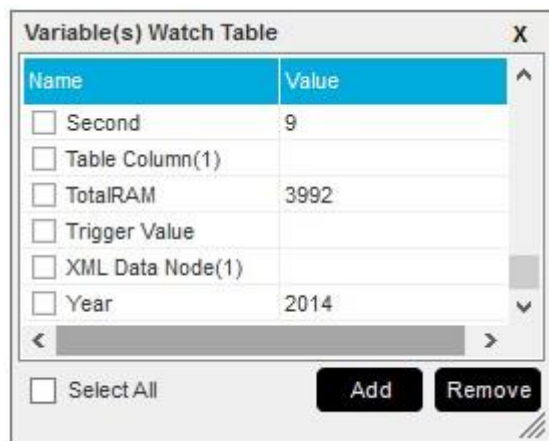
[Add Variables in Watch] (Watch に変数を追加) ウィンドウが表示されたら、監視する変数を選択して [Add] (追加) ボタンをクリックします。タスクに定義されているすべての user variable とシステム変数をテーブルに追加できます。



以下に示すように、Variable Watch Table には、監視対象として選択したすべての変数が含まれます。タスクの実行に伴い、値が入力され、変更されます。



配列変数の場合、Variable Watch Table には列や行の値が表示されます。たとえば、テーブルの左の列 (Name) に(1,1)と表示されます。



The screenshot shows a dialog box titled "Variable(s) Watch Table" with a close button (X) in the top right corner. It contains a table with two columns: "Name" and "Value". The table has several rows, each with a checkbox in the "Name" column. The values in the "Value" column are: 9, 3992, and 2014. Below the table, there is a "Select All" checkbox, an "Add" button, and a "Remove" button.

Name	Value
<input type="checkbox"/> Second	9
<input type="checkbox"/> Table Column(1)	
<input type="checkbox"/> TotalRAM	3992
<input type="checkbox"/> Trigger Value	
<input type="checkbox"/> XML Data Node(1)	
<input type="checkbox"/> Year	2014

#### 関連トピック

- [Variable Manager\(変数マネージャー\)を使用する](#)
  - [新しいユーザー変数を作成する](#) • [変数を編集する](#) • [変数をコピーする](#) • [変数を削除する](#)
- [タスクに変数を割り当てる](#) • [変数を再初期化する](#)
- [システム変数をリセットする](#)
- [外部ファイルから変数を読み込む](#)

変数を使用してファイルのタイムスタンプを作成する

タイムスタンプはオートメーションタスクで使用する役に立つツールで、特別なイベントが発生した際に追跡できます。

ファイルでタイムスタンプを作成する場合、次のシステム変数が利用できます。

- Year(年)
- Month(月) • Day(日)
- Hour(時間) • Minute(分) • Second(秒) • Date  
(日付)

これらの変数を組み合わせて、独自のタイムスタンプのフォーマットを作成できます。

日時タイムスタンプを作成するには、次の手順を実行します。

1. Variable Manager を起動します。
2. [Show System Variables](システム変数を表示)をクリックします。
3. [Date/Time](日時)変数を選択して、変数の組み合わせを使用します。

ファイル名と日付変数を使用する

ファイル名に日付を追加するために[Date](日付)変数を使用する場合、日付のフォーマットにスラッシュ(/)は使用できません。Microsoft Windows ではファイル名にスラッシュを使用することを禁止しています。

例:

1. 文字列「ABC」の最後に追加する年、月、日のタイムスタンプを作成するには、次のように入力します。ABC\$Year\$\$Month\$\$Day\$ この例では次のようになります: ABC2013521
2. 前の例に最新の日時が入った完全なタイムスタンプを作成するには、次のように入力します。  
ABC\$Year\$\$Month\$\$Day\$\$Hour\$\$Minute\$\$Second\$  
この例では次のようになります: ABC201352107:03:03
3. 明確にするには、変数の間にテキスト文字を挿入できます。  
たとえば「ABC2013-5-21」を表示するには、次のように入力します。ABC\$Year\$-\$Month\$-\$Day\$

---

## 関連トピック

- [Variable Manager\(変数マネージャー\)を使用する](#) • [新しいユーザー変数を作成する](#) • [変数を編集する](#) • [変数をコピーする](#) • [変数を削除する](#)
- [タスクに変数を割り当てる](#) • [変数を再初期化する](#)
- [システム変数をリセットする](#)
- [外部ファイルから変数を読み込む](#)

VB スクリプトに変数を渡す

場合によっては、タスクやプロセスを遂行する VB(Visual Basic)スクリプトの実行を優先するニーズもあります。Automation Anywhere を組み合わせると、VB スクリプトの実行を非常にパワフルなものにすることができます。Run Script(スクリプトを実行)コマンドを使用すると、このようなスクリプトを自動化できます。

使用事例: • Web サイトのファイルからデータを  
取得する • 日付と時間を計算する

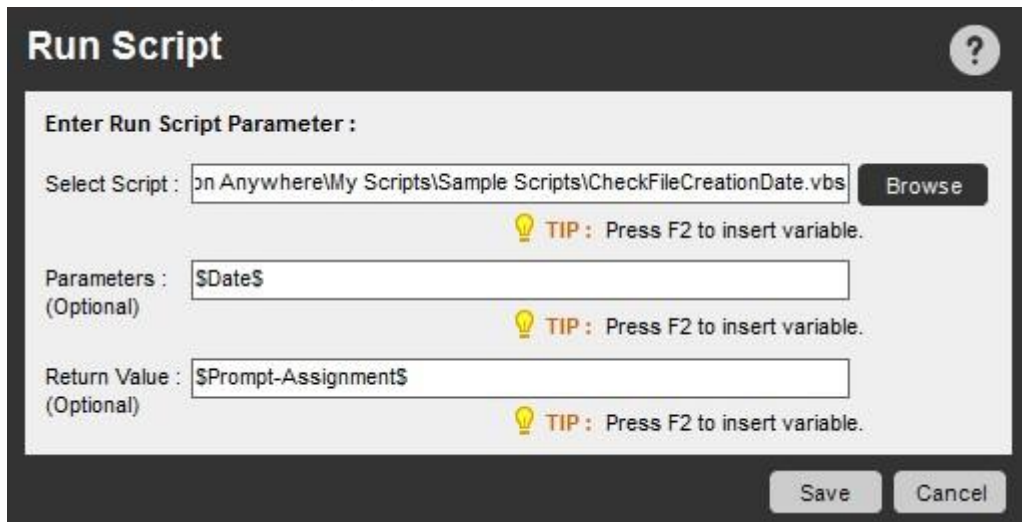
[パラメーター]フィールドに変数内の値を渡すには、スクリプトを実行コマンドを使用します。[戻り値]フィールドの出力を取得できます。

VB スクリプトに値を渡し、結果を取得するには、次のようなコマンドが必要となります。

1. VB スクリプトで値を渡す: WScript.Arguments.Item(0)
2. VB スクリプトで値を返す: WScript.StdOut.WriteLine "Variable"

戻り値を取得するために“Variable”の二重引用符(“)を付ける必要はありません。

値と値の間はスペースで区切ります。



## 関連トピック

- [変数を操作する](#)
- [変数の種類](#) Loop  
(ループ)コマンドで  
配列変数を使用する  
方法

配列型変数を作成すると、Loop(ループ)コマンドを使用してそれらを自動化されたタスクで処理できます。

直接の割り当て配列変数を使用する

1. [Workbench]を開きます。
2. [Tools](ツール) > [Variable Manager]で[Direct Assignment](直接の割り当て)を使用して、配列変数を作成します(\$Student\_Data\$と呼びます)。
3. [Loop](ループ)コマンドをダブルクリックし、[Times](回数)オプションを選択します。
4. F2 キーを押して\$ArrayRow\$変数を挿入し、配列変数として\$Student\_Data\$を選択します。
5. 値変数(\$row\$と呼びます)を作成して、行から取得されたデータを保存します。
6. [Variable Operation](変数処理)コマンドをダブルクリックし、F2 キーを押して[Specify value](値を指定)の下にある\$Counter\$変数を選択します。
7. もう一度[Loop](ループ)コマンドをダブルクリックし、[Times](回数)オプションを選択します。
8. F2 キーを押して\$ArrayColumn\$変数を挿入し、配列変数として\$Student\_Data\$を選択します。
9. Message(メッセージ)コマンドをダブルクリックし、F2 キーを押して\$Student\_Data\$変数を挿入します。[Array variable option](配列変数オプション)ダイアログボックスが表示されます。F2 キーを押して、[Row Value](行の値)で[\$row\$]変数を選択し、[Column Value](列の値)で[\$Counter\$]変数を選択します。
10. [OK]をクリックして値を保存し、[Save](保存)をクリックしてメッセージを保存します。

Read from Text File 配列変数を使用する

1. [Workbench]を開きます。
2. [Tools](ツール) > [Variable Manager]で[Read from Text File](テキストファイルから読み込む)オプションを使用して、配列変数を作成します(\$Sports\_team\$と呼びます)。
3. [Loop](ループ)コマンドをダブルクリックし、[Times](回数)オプションを選択します。
4. F2 キーを押して\$ArrayRow\$変数を挿入し、配列変数として\$Sports\_team\$を選択します。

5. 値変数(\$row\$と呼びます)を作成して、行から取得されたデータを保存します。
6. [Variable Operation] (変数処理)コマンドをダブルクリックし、F2 キーを押して[Specify value] (値を指定)の下にある\$Counter\$変数を選択します。
7. もう一度[Loop] (ループ)コマンドをダブルクリックし、[Times] (回数)オプションを選択します。
8. F2 キーを押して\$arrayColumn\$変数を挿入し、配列変数として\$Sports\_team を選択します。
9. Message (メッセージ)コマンドをダブルクリックし、F2 キーを押して\$Sports\_team 変数を挿入します。[Array variable option] (配列変数オプション)ダイアログボックスが表示されます。F2 キーを押して、[Row Value] (行の値)で[\$row\$]変数を選択し、[Column Value] (列の値)で[\$Counter\$]変数を選択します。
10. [OK]をクリックして値を保存し、[Save] (保存)をクリックしてメッセージを保存します。

#### Read from CSV/Exce 配列変数を使用する

1. [Workbench]を開きます。
2. [Tools] (ツール) > [Variable Manager] で [Read from CSV/Excel](#) (CSV/Excel から読み込む) オプションを使用して、配列変数を作成します (\$Employee\_Data\$と呼びます)。
3. [Loop] (ループ)コマンドをダブルクリックし、[Times] (回数)オプションを選択します。
4. F2 キーを押して\$arrayRow\$変数を挿入し、配列変数として\$Employee\_Data\$を選択します。
5. 値変数(\$row\$と呼びます)を作成して、行から取得されたデータを保存します。
6. [Variable Operation] (変数処理)コマンドをダブルクリックし、F2 キーを押して[Specify value] (値を指定)の下にある\$Counter\$変数を選択します。
7. もう一度[Loop] (ループ)コマンドをダブルクリックし、[Times] (回数)オプションを選択します。
8. F2 キーを押して\$arrayColumn\$変数を挿入し、配列変数として\$Employee\_Data\$を選択します。
9. Message (メッセージ)コマンドをダブルクリックし、F2 キーを押して\$Employee\_Data\$変数を挿入します。[Array variable option] (配列変数オプション)ダイアログボックスが表示されます。F2 キーを押して、[Row Value] (行の値)で[\$row\$]変数を選択し、[Column Value] (列の値)で[\$Counter\$]変数を選択します。
10. [OK]をクリックして値を保存し、[Save] (保存)をクリックしてメッセージを保存します。

#### Read from Database 配列変数を使用する

1. [Workbench]を開きます。
2. [Tools] (ツール) > [Variable Manager] で [Read from Database](#) (データベースから読み込む) オプションを使用して、配列変数を作成します (\$Employee\$と呼びます)。
3. [Loop] (ループ)コマンドをダブルクリックし、[Condition] (条件)オプションを選択します。
4. [Loop While] (条件式を満たすまでループ処理を繰り返す)ダイアログボックスで、[Variable] (変数)オプションを選択します。



**Loop While** ?

Select Condition :

- File exists
- Folder exists
- Window exists
- Application running
- Ping successful
- Variable
- File date
- Service running
- Image Recognition
- Object Properties
- File does not exist
- Folder does not exist
- Window does not exist
- Application not running
- Ping unsuccessful
- Web Control
- File size
- Service not running
- Windows Control

Loop Condition:

Check the condition at the end of the iteration

5. [Edit] (編集) をクリックして、[Loop Condition] (Loop 条件) を選択します。
6. 適切な変数、演算子、値を選択します。参考のため、次の画像をご覧ください。

Variable :

**TIP** : Press F2 to insert variable.

Operator :

Value :  Fix

Variable

[Add more conditions](#)

**TIP** : Press F2 to insert variable.

7. 変数の値を表示するには、[Message Box] (メッセージボックス) を使用できます。

システム設定変数 - AATaskExecutor

#### EnterpriseEdition11 以降で対応

Bot Creator は、システム変数をオートメーションに追加できます。この変数を使用すると、オートメーションがクライアントと Control Room のどちらから実行されたかについて、TaskBot の実行元を特定のユーザーに通知できます。

この変数は、Control Room 管理者が Control Room で Task Executor 設定を有効にしている場合にのみ使用できます。

システム変数は、Workbench のコマンドラインで F2 ファンクションキーを使用して TaskBot/MetaBot Logic で設定できます。

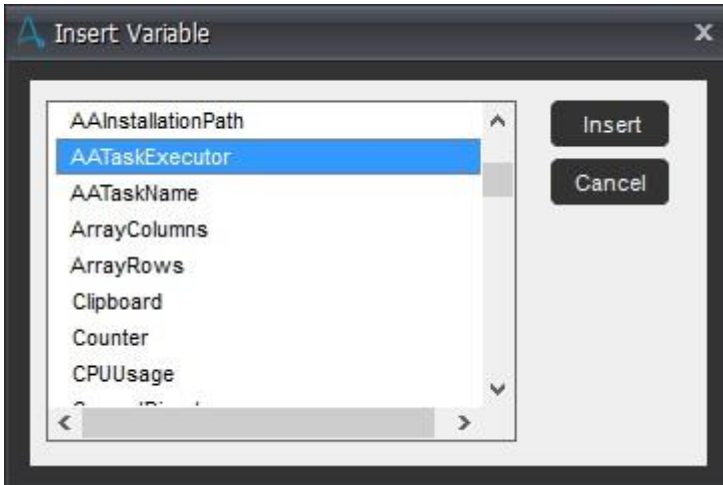
#### AATaskExecutor 変数を挿入する

変数を挿入するには、次の手順を実行します。

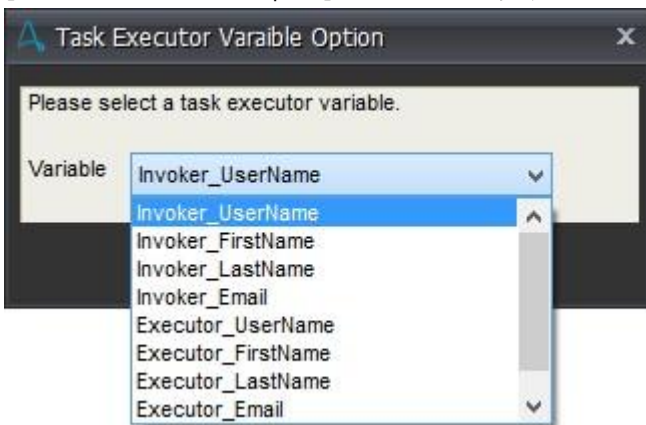
1. [WorkBench]-><command>に移動します ([Message Box] (メッセージボックス) など)。
2. F2 を押します。
3. [Insert Variable] (変数を挿入) ウィンドウが開きます。



4. 次のように変数 AATaskExecutor を選択します。



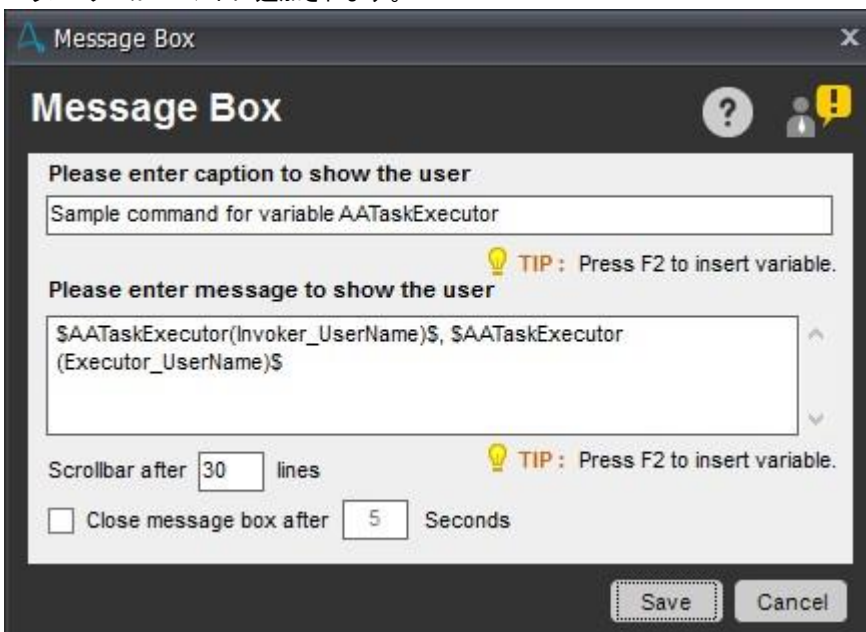
5. [Insert] (挿入) をクリックします。  
6. [Task Executor Variable Option] (Task Executor 変数オプション) ウィンドウが開きます。



7. 必要なパラメーターを選択します。パラメーターの説明については、以下の「[パラメーター](#)」のセクションを参照してください。  
8. [OK] をクリックします。

 備考: コマンドにカンマ(,)を使用して複数のパラメーターを追加できます。


9. パラメーターがコマンドに追加されます。



### Task Executor のパラメーター

次の表に、パラメーターの説明を示します。

パラメーター	Description( 説明)
Invoker_Username	自動化を実行または展開するユーザーの名前
Invoker_Firstname	自動化を実行または展開するユーザーの名
Invoker_Lastname	自動化を実行または展開するユーザーの姓
Invoker_Email	自動化を実行または展開するユーザーのメール ID
Executor_Username	自動化が実行されるマシンのユーザーの名前( Bot Creator または Bot Runner)
Executor_Firstname	自動化が実行されるマシンのユーザーの名( Bot Creator または Bot Runner)
Executor_Lastname	自動化が実行されるマシンのユーザーの姓( Bot Creator または Bot Runner)
Executor_Email	自動化が実行されるマシンのユーザーのメール ID( Bot Creator または Bot Runner)
Execution_Type	自動化実行のタイプ( 次のいずれか) <ul style="list-style-type: none"> <li>• Control Room から実行</li> <li>• Control Room からスケジュールを設定</li> <li>• スケジュールの種類 - 1 回、毎日、毎週、毎月実行 • API を使用してデプロイ</li> </ul>

 備考: ユーザー名、名、姓、メール ID は、クライアントが接続されている Control Room で利用可能なデータに基づいています。

## セクション: Enterprise Client をカスタマイズする

ログイン設定を使用する

**\*バージョン 9.0 以降に適用されます。**

ログイン設定では、スケジュールの設定されたタスクや自動化されたタスクの実行でできるように、Windows の資格情報を保存できます。

**!** 9.0 以前のバージョンを使用している場合は、自動ログインオプションによって無人のコンピューター上でタスクを実行できます。詳しくは[こちらを参照してください](#)。

この設定は次の種類のアクティビティと併せて使用できます。

- タスクをスケジュールする • レポートを実行する
- ワークフローを実行する • トリガーするサポート対象のオペレーティングシステム

自動ログインのための Windows ログイン設定は、以下のオペレーティングシステムに対応しています。

- Windows 2000 • Windows 2003 • Windows 7 • Windows 8

自動ログインでのログイン設定の動作

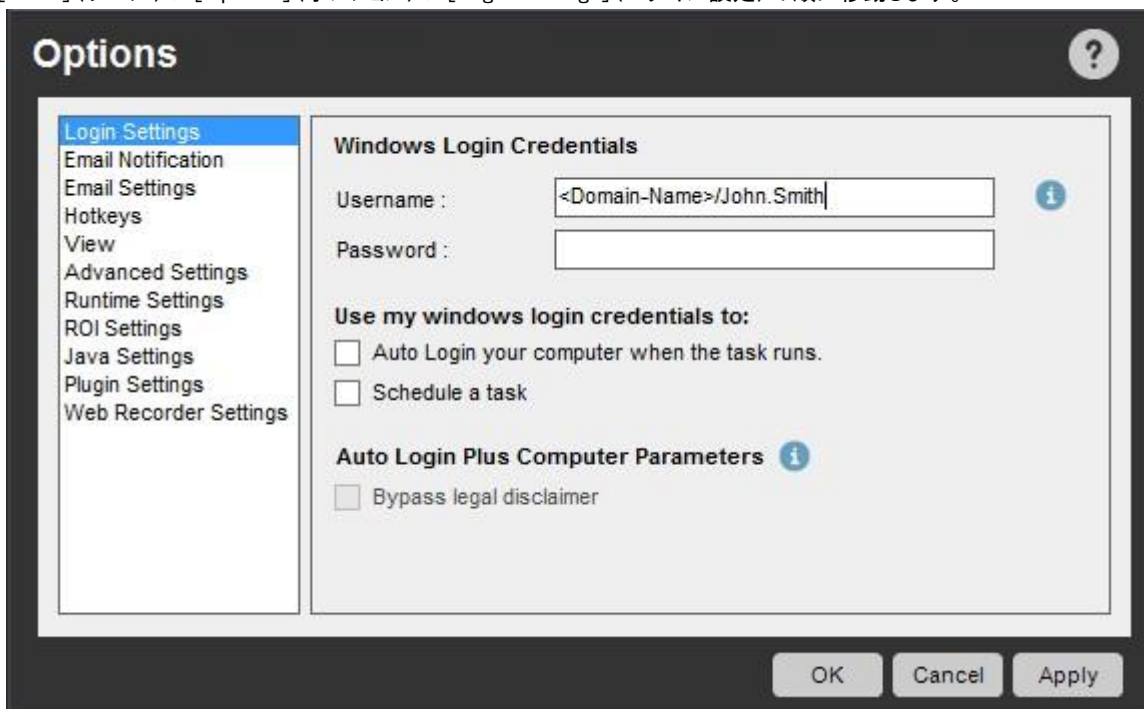
ログイン設定を使用して、コンピューターに自動ログインして自動化されたタスクを実行するためのユーザー名とパスワードを設定します。自動ログインは次のように動作します。

- 自動ログインはコンピューターがロックされているか、またはユーザーがログオフしているかを確認します。
- コンピューターがロックされている、休止状態、またはスタンバイモードの場合、自動ログインでは、提供されているユーザー名とパスワードを使用してロックを解除し、ログインが行われます。
- 自動プロセスを実行します。
- タスク完了（正常またはエラーで完了）後、プログラムにより、コンピューターは元の状態に復帰します。

タスクの実行中に以下のアクションが発生した場合、Automation Anywhere はログオフするかコンピューターをロックできます。

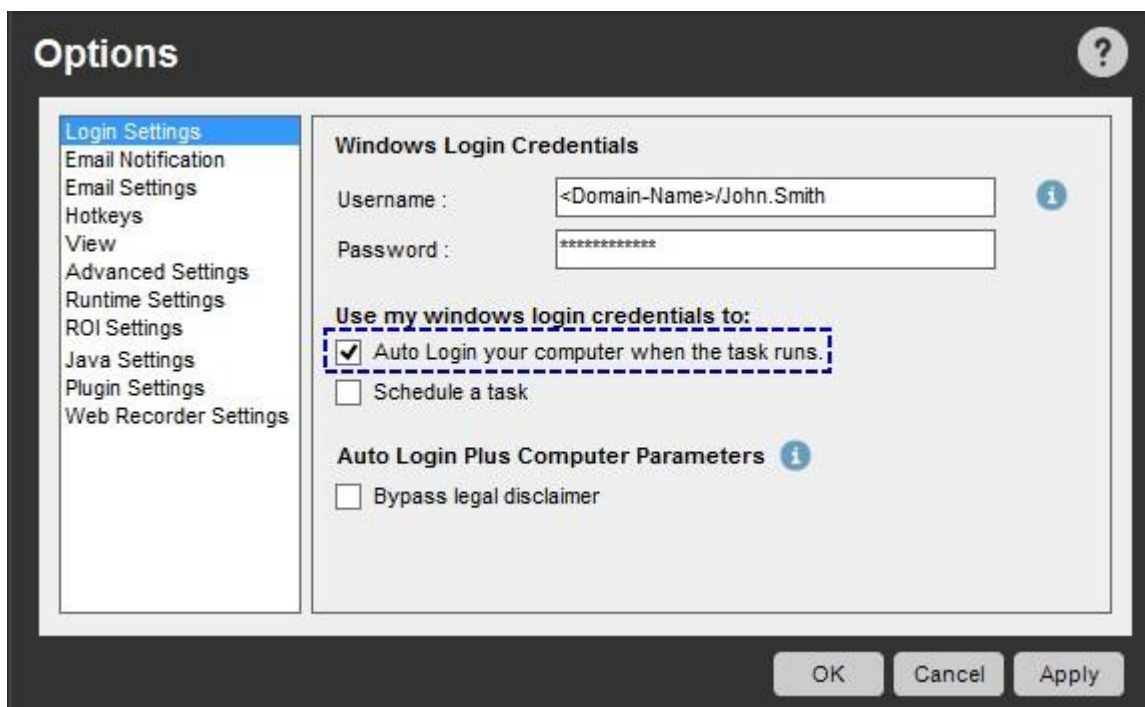
- タスクの停止キー（デフォルトでは Esc キー）がキーボードで押された • [Pause]（一時停止）キーがキーボードで押された • タスクの実行中にエラーが発生した自動ログインオプションを有効にして自動化されたタスクを実行するには、以下に示す手順に従います。

1. [Tools] (ツール) > [Options] (オプション) > [Login Settings] (ログイン設定) の順に移動します。




(Enterprise エディション 9.0 の画像)

2. Windows のユーザー名とパスワードを [Windows Login Credentials] (Windows ログイン資格情報) に入力します。
3. 自動ログインを設定するチェックボックスを選択します。これにより、すべてのタスクに自動ログインが適用されます。



(Enterprise エディション 9.0 の画像)

 備考: 自動ログイン機能を使用するタスクでは対話的コマンド(ユーザーにを求めるコマンド)は使用しないようにします。

スケジュールタスクでログイン設定を使用する

ログイン資格情報を保存して、自動化されたタスクのスケジュールを設定できます。これにより、「[スケジューラを使用してタスクをスケジュールする](#)」場合に再び資格情報を入力する必要がなくなります。

1. [Tools](ツール) > [Options](オプション) > [Login Settings](ログイン設定)の順に移動します。
2. Windows のユーザー名とパスワードを[Windows Login Credentials](Windows ログイン資格情報)に入力します。
3. 自動化されたタスクにスケジュールを設定する場合は、[Schedule a task](タスクをスケジュールする)チェックボックスを選択します。



(Enterprise エディション 9.0 の画像)

4. スケジュールの設定されたタスクで自動ログインを有効にするには、[Auto Login your computer when the task runs](タスクの実行時にコンピューターに自動ログインする)チェックボックスも必ず選択します。



(Enterprise エディション 9.0 の画像)



ヒント: スケジュールと組み合わせて使用するとき自動ログインが正常に動作するよう、ドメイン名を入力することをお勧めします。

Bypass Legal Disclaimer(免責事項をスキップ)を有効にする \*

\*EnterpriseEdition7.5 以降で設定できます。

詳細は「<https://support.automationanywhere.com>」にお問い合わせください。



厳格なセキュリティ対策が要求されている環境で操作している場合、特定のタスクを実行するための自動ログインが実行できないことがあります。このようなときには、自動ログインを有効にするために、「Bypass Legal Disclaimer」(免責事項をスキップ)機能を有効にする必要がある場合があります。





この機能は、[Auto Login your computer when the task runs] (タスクの実行時にコンピューターに自動ログインする) オプションを選択したときに使用できます。セキュリティ対策をスキップして自動的にログインするには、[Bypass legal disclaimer] (免責事項をスキップ) を有効にします。

**⚠️ 注意事項:** この機能を有効にするときには、十分に注意してください。この機能を使用する唯一の責任はユーザーにあり、Automation Anywhere はこの機能の誤使用や生じた結果に対して責任を負いません。

## 関連トピック

- [詳細設定を使用する](#)
- [Email Notifications \(メール通知\) を設定する](#) • [Client の Hotkey を定義する](#)
- [View \(表示\) オプションを設定する](#)
- [ランタイム設定を使用する](#)
- [ROI Settings \(ROI\) 設定を使用する](#)
- [タスクリストビューをカスタマイズする](#)

自動ログインオプションを使用する

自動ログイン機能を利用すると、無人のコンピューターでタスクを実行できます。自動ログインはコンピューターのロックを解除し、自動化タスクを実行します。その後、コンピューターの状態を元に戻します。

次の種類のアクティビティと併せて使用できます。

- [タスクをスケジュールする](#) • [レポートを実行する](#)
- [ワークフローを実行する](#) • [トリガーする自動ログインの仕組み](#)

自動化タスクが実行されると、自動ログインが次のように作動します。

- 自動ログインはコンピューターがロックされているか、またはユーザーがログオフしているかを確認します。
- コンピューターがロックされている、休止状態、またはスタンバイモードの場合、自動ログインでは、提供されているユーザー名とパスワードを使用してロックを解除し、ログインが行われます。
- 自動プロセスを実行します。
- タスク完了 (正常またはエラーで完了) 後、プログラムにより、コンピューターは元の状態に復帰します。



**備考:** 自動ログインの詳細設定を利用し、自動ログインにセキュリティ機能を追加する

タスクの実行中に以下のアクションが発生した場合、Automation Anywhere はログオフするかコンピューターをロックできます。

- [タスクの停止キー \(デフォルトでは Esc キー\) がキーボードで押された](#) • [\[Pause\] \(一時停止\) キーがキーボードで押された](#) • [タスクの実行中にエラーが発生した自動ログインを使用するタスクのスケジュールを設定する](#)

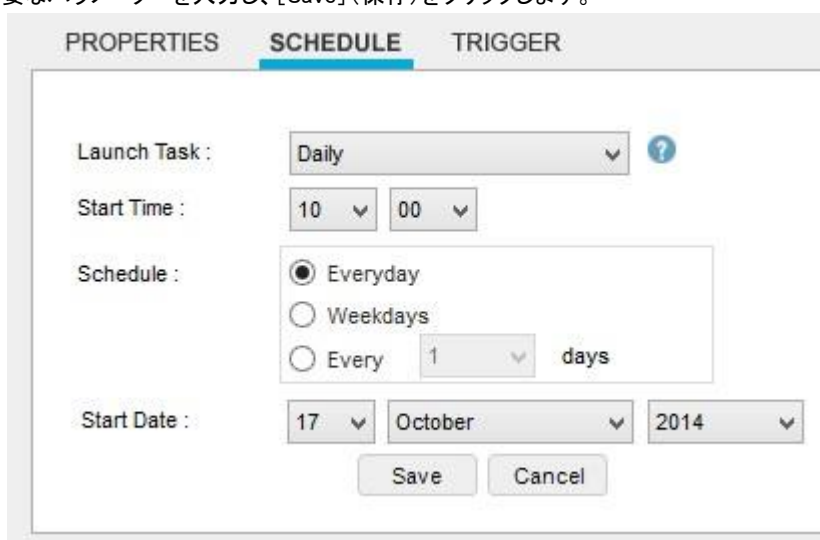
タスクの実行スケジュールを設定するとき、[Auto-Login] (自動ログイン) オプションを有効にできます。

1. [Tools] (ツール) > [Options] (オプション) > [Auto-Login] (自動ログイン)
2. 自動ログインを設定するチェックボックスを選択します。これにより、すべてのタスクに自動ログインが適用されます。



(Enterprise エディション 8.2 の画像)

3. タスクを選択し、[Schedule] (スケジュール) タブに進みます。
4. 必要なパラメーターを入力し、[Save] (保存) をクリックします。



5. [Login to Schedule Task] (ログインしてタスクのスケジュールを設定する) ウィンドウでユーザー名とパスワードを入力します。[保存] をクリックします。



## Schedule Task

Please enter your Windows username and password

Username:

Password:

Confirm Password:

Always use above credentials to schedule and run task(s)

Enable Auto Login (recommended) i


Note:  
For security reasons, Automation Anywhere Enterprise requires the password to precisely schedule and run the task(s) only for the above user.

You can change schedule and Auto Login settings and credentials from Tools --> Options --> Login Settings

Save Cancel

詳しくは、「[タスクのスケジュールを設定する](#)」を参照してください。

- 自動ログインをオフにするには、[Tools] (ツール) > [Options] (オプション) をクリックします。[Auto-Login] (自動ログイン) オプションの下で [Enable Auto-Login your computer when the task runs] (タスクの実行時にコンピューターの自動ログインを有効にする) チェックボックスの選択を解除します。
- タスクの実行中にエラーが発生した場合、他のタスクが処理を待っているかどうかに関係なく、コンピューターが前の状態に戻されます。

 備考: 自動ログイン機能を使用するタスクでは対話的コマンド(ユーザーに入力を求めるコマンド)は使用しないようにします。

Bypass Legal Disclaimer(免責事項をスキップ)を有効にする \*

\*EnterpriseEdition7.5 以降で設定できます。詳細は「<https://support.automationanywhere.com>」にお問い合わせください。

### Options

**Auto Login Settings**

Auto Login your computer when the task runs.

Username :

Password :

**Auto Login Plus Computer Parameters**

Bypass legal disclaimer  

**Note:**  
Auto Login Plus allows the task to run even if your computer is locked or logged off and automatically bypass the legal disclaimer (if present). After unlocking or login, Automation Anywhere will run your task and then restore the previous state of your computer.

First time user? We recommend that you re-start the computer.

厳格なセキュリティ対策が要求されている環境で操作している場合、特定のタスクを実行するための自動ログインが実行できないことがあります。このようなときには、自動ログインを有効にするために、「Bypass Legal Disclaimer」(免責事項をスキップ) 機能を有効にする必要がある場合があります。



この機能は、[Auto Login your computer when the task runs] (タスクの実行時にコンピューターに自動ログインする) オプションを選択したときに使用できます。セキュリティ対策をスキップして自動的にログインするには、[Bypass legal disclaimer] (免責事項をスキップ) を有効にします。

**⚠ 重要:** この機能を有効にするときには、十分に注意してください。この機能を使用する唯一の責任はユーザーにあり、Automation Anywhereはこの機能の誤使用や生じた結果に対して責任を負いません。

サポート対象のオペレーティングシステム

自動ログインは、以下のオペレーティングシステムに対応しています。

- Windows 2000 • Windows 2003 • Windows 7 • Windows 8

---

## 関連トピック


- [詳細設定を使用する](#)
- [Email Notifications \(メール通知\) を設定する](#) • [Client の Hotkey を定義する](#)
- [View \(表示\) オプションを設定する](#)
- [ランタイム設定を使用する](#)
- [ROI Settings \(ROI\) 設定を使用する](#)
- [タスクリストビューをカスタマイズする](#)

Email Notifications (メール通知) を設定する

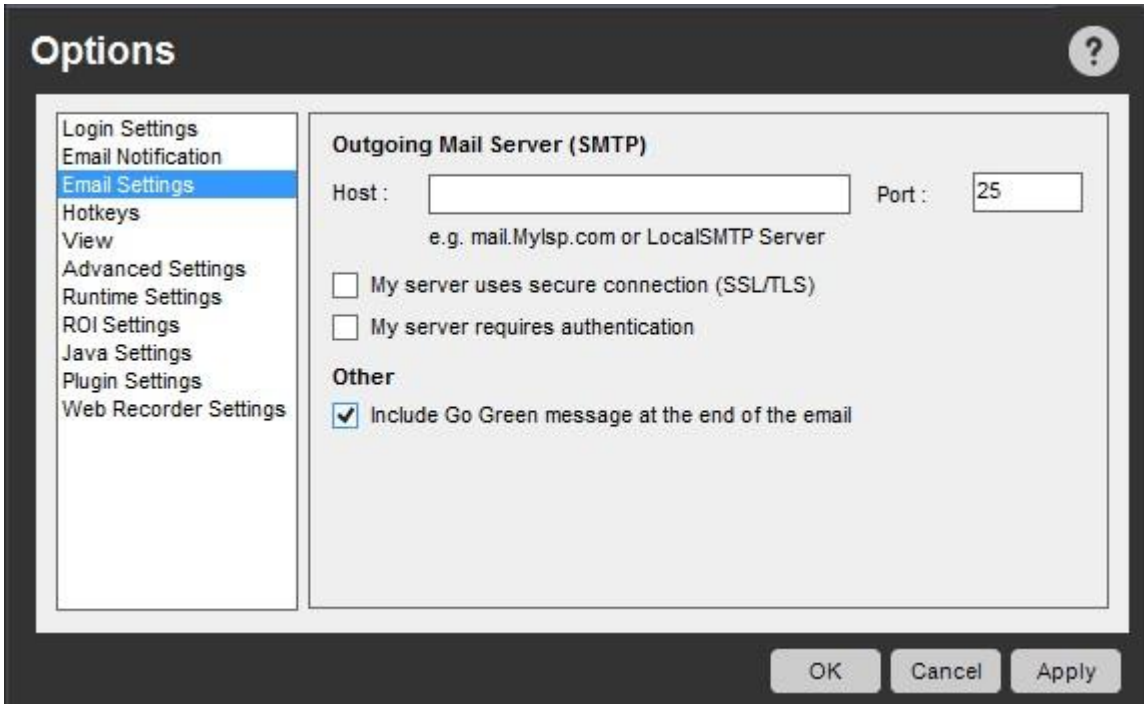
Automation Anywhere クライアントを使用すると、実行後に TaskBot/MetaBot Logic のステータスをメールで通知できます。

メール通知を有効にするには、必ず最初にメール設定を行います。そのためには次の手順に従います。

1. Automation Anywhere メインウィンドウで、[Tools] (ツール) -> [Options] (オプション) をクリックします。

 **備考:** [Properties] (プロパティ) タブ -> [Notification] (通知) をクリックして、メール通知設定を行うこともできます。

2. [Email Settings] (メール設定) をクリックします。



3. [Outgoing Mail Server (SMTP)] (送信メールサーバー (SMTP)) の下にある次のフィールドを設定します。

- Host (ホスト) - SMTP ホストを使用すると、インターネット経由で Automation Anywhere クライアントからメールを送信できます。この情報は、インターネットメールプロバイダーまたはメールプログラムの設定セクションから取得できます。
- Port (ポート) - この設定では、Automation Anywhere がメールの送信に使用する TCP/IP ポートを定義します。デフォルトのポートは 25 です。これは SMTP メール送信のインターネット標準です。
- Username (ユーザー名) - 送信メールサーバーでユーザー名とパスワードが必要な場合、このフィールドにユーザー名を指定します。
- Password (パスワード) - 送信メールサーバーでユーザー名とパスワードが必要な場合、このフィールドにパスワードを指定します。

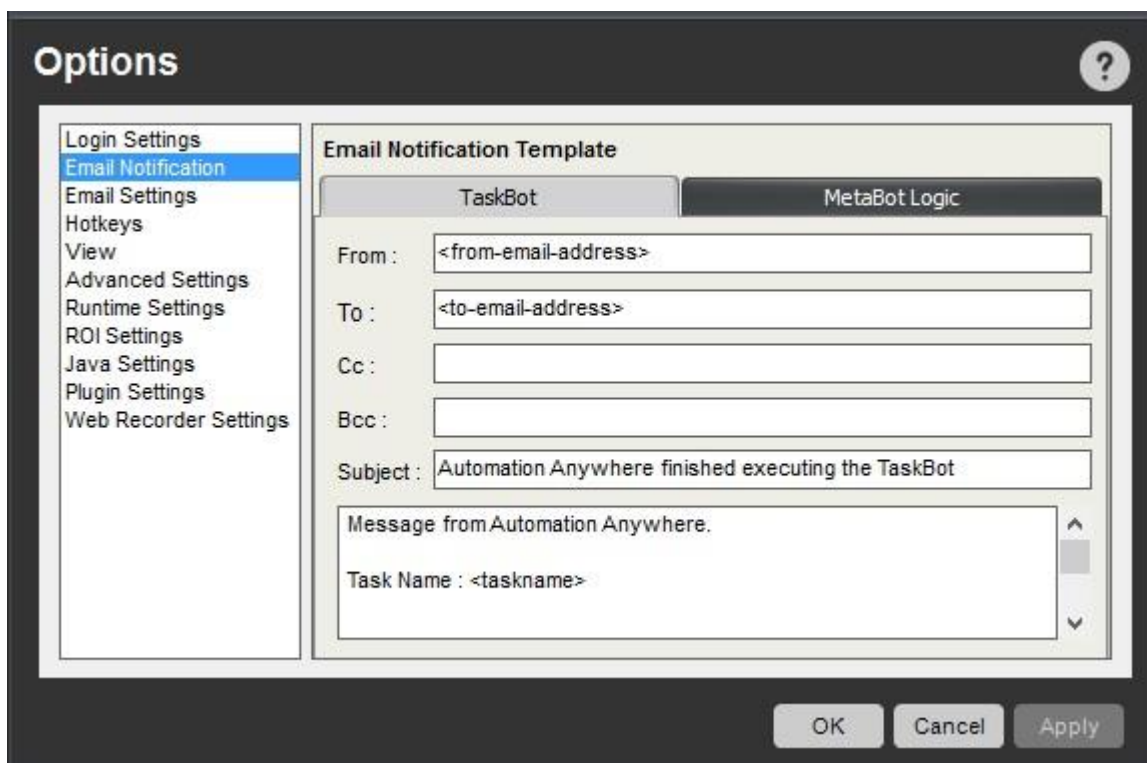


Go Green !

- Other (その他) - Automation Anywhere は環境問題に関心があり、それに関するメッセージを広めようとしています。環境キャンペーンの一環として、各メール通知の最後にメッセージが含まれています。送信メールに Go Green キャンペーンメッセージを含めないようする場合は、このオプションを選択解除できます。

メール通知オプションの設定手順は、次のとおりです。

1. [Email Notification] (メール通知) をクリックして、通知内容を設定します。[From] (送信元) および [To] (送信先) のメールアドレスと 1 つまたは複数の通知先メールアドレスを入力します。
2. また、メールの件名と本文も入力します。



**ヒント:**

1. 変数<taskname>/<logicname>を使用して、TaskBot/MetaBot Logic の名前を必ず含めるようにします。
2. TaskBot/MetaBot Logic の更新とともにメールアドレスを 1 つだけ通知するよう計画する場合は、[Tools](ツール) -> [Options](オプション) -> [Email Notification](メール通知)を使用して 1 回だけ設定します。ただし、異なる TaskBot/MetaBot Logic で異なるメールアドレスにステータスメールを送信する場合は、各 TaskBot/MetaBot Logic 内でメールアドレスを指定します。

### 関連トピック

- [自動ログインオプションを使用する](#) • [Client の Hotkey を定義する](#)
- [View\(表示\)オプションを設定する](#)
- [Advanced Settings\(詳細設定\)を使用する](#) • [ランタイム設定を使用する](#)
- [ROI Settings \(ROI\) 設定を使用する](#)
- [タスクリストビューをカスタマイズする](#)

#### Client の Hotkey を定義する

Hotkey を定義して時間を短縮し、キーストロークやマウスによるエラーを削減できます。

Automation Anywhere を使用して Hotkey を定義する次の処理に対する Hotkey を定義できません。

- 記録を開始 • 記録を停止
- 実行しているタスクを停止

これらのアクションには、デフォルトで Hotkey が定義されています。これらのアクションにキーボードの異なるキーを選択するには、[Hotkey...]ボタンを押して、リストからキーの組み合わせを選択します。

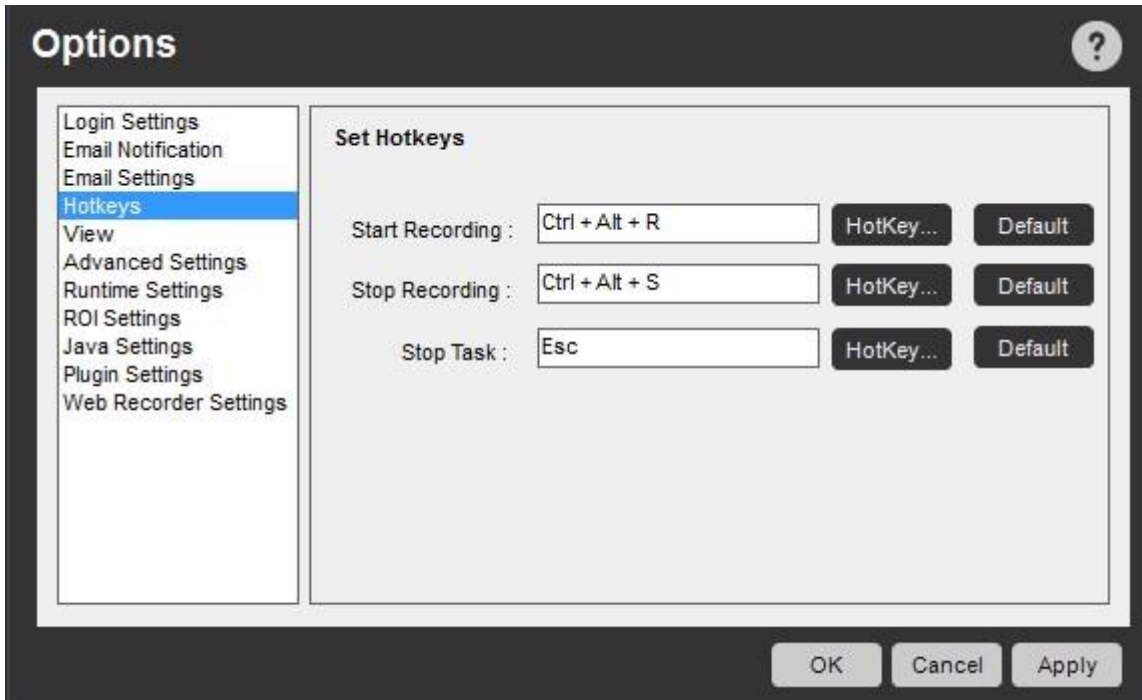
アクションをデフォルトにリセットするには、[Default](デフォルト)ボタンを押します。


 **備考:** Hotkey を使用する場合、Windows システムトレイで Automation Anywhere が実行していることを確認してください。


新しい Hotkey を設定する新しい Hotkey を設定するには、次の手順を実行します。

1. Automation Anywhere メインウィンドウで、[Tools] (ツール) -> [Options] (オプション) をクリックします。
2. [Options] (オプション) ウィンドウで、[Hotkeys] をクリックします。
3. [Hotkeys] ボタンをクリックして、[Start Recording] (記録を開始)、[Stop recording] (記録を停止)、[Stop Task] (タスクを停止) の Hotkey を設定します。

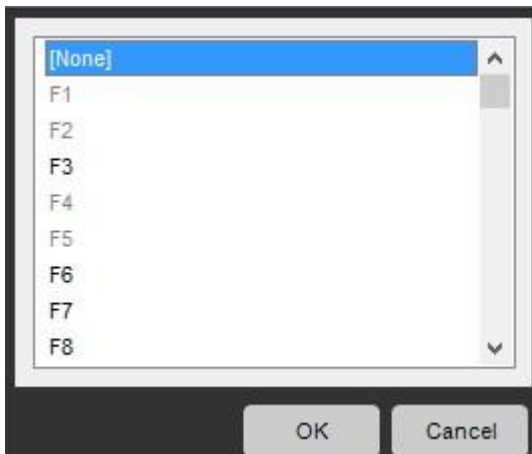
HotKey...



 備考: [Hotkeys] ボタンを押して Hotkey を変更できます。選択したキーをデフォルトとして設定することもできます。

または、[Properties] (プロパティ) タブ->[Hotkey]->  を選択して、選択したタスクに Hotkey を設定することもできます。

4. リストからアクションとキーの組み合わせを選択します。



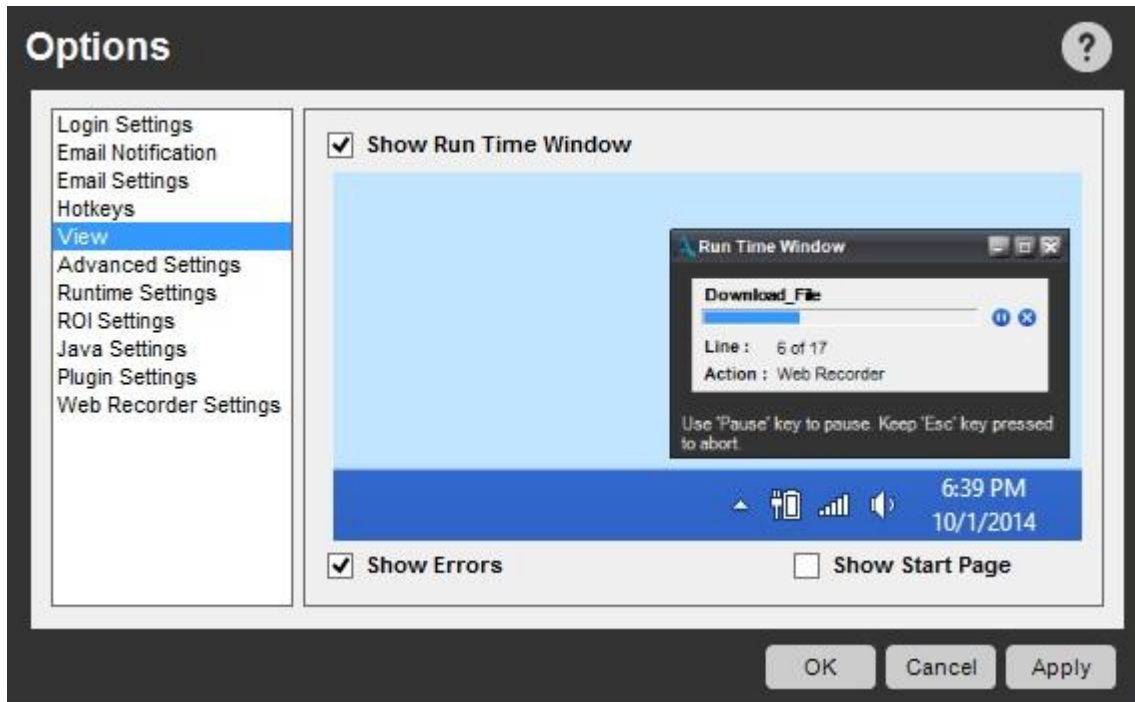
5. [OK] をクリックします。

## 関連トピック

- [自動ログインオプションを使用する](#)
- [Email Notifications\(メール通知\)を設定する](#) • [View\(表示\)オプションを設定する](#)
- [Advanced Settings\(詳細設定\)を使用する](#) • [ランタイム設定を使用する](#)
- [ROI Settings \(ROI\) 設定を使用する](#)
- [タスクリストビューをカスタマイズする](#)

View(表示)オプションを設定する

表示オプションでは、特定のオプションを表示する方法を管理するのに必要なものが提供されます。たとえば、ランタイムウィンドウを表示し、実行時にタスクで発生したエラーをタブで示すようにカスタマイズすることができます。



(Enterprise エディション 9.0 の画像)

[Tools](ツール)>[Options](オプション)>[View](表示)からオプションを設定します。

1. Show Run Time Window(ランタイムウィンドウを表示): タスクの実行中に Automation Anywhere のスクリーンの右下に表示される [Run Status] (実行ステータス) ウィンドウを表示または非表示にします。
2. Show Errors(エラーを表示): タスクの実行中に Automation Anywhere で発生したエラーを表示または非表示にします。
3. Show Start Page(スタートページを表示): クライアントを起動するときに、Automation Anywhere のスタートページを表示または非表示にします。

## 関連トピック

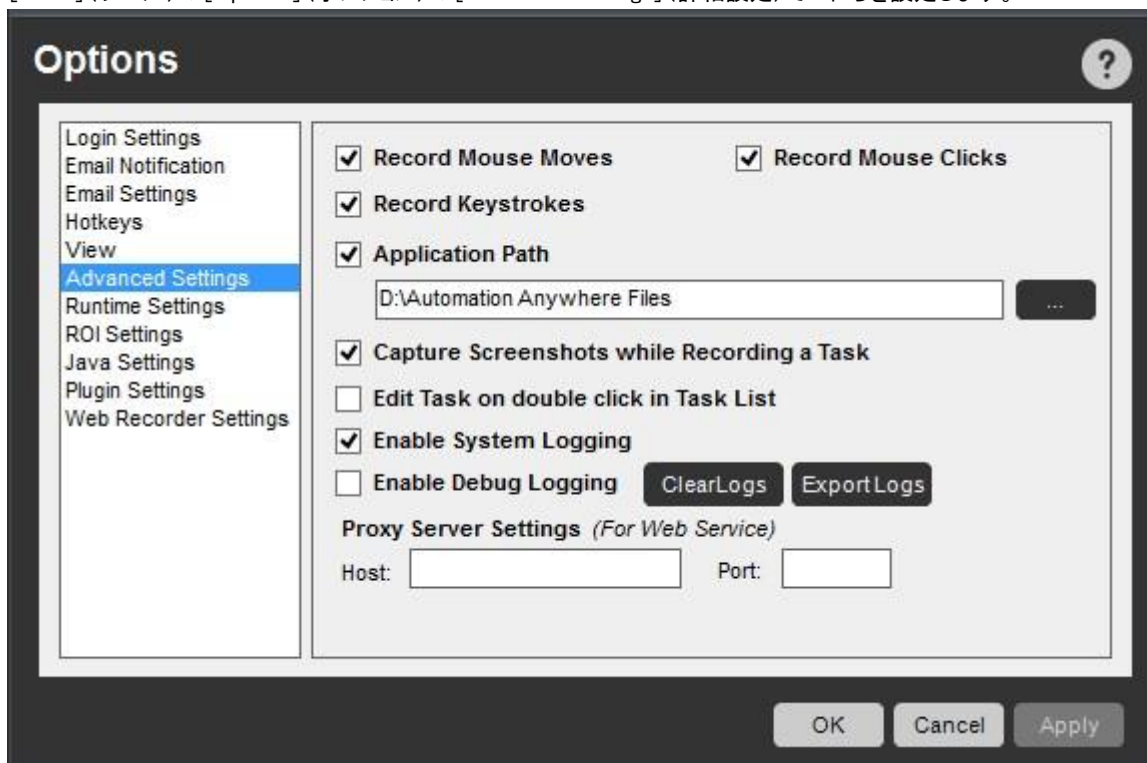
- [自動ログインオプションを使用する](#)
- [Email Notifications\(メール通知\)を設定する](#) • [Client の Hotkey を定義する](#)
- [Advanced Settings\(詳細設定\)を使用する](#) • [ランタイム設定を使用する](#)
- [ROI Settings \(ROI\) 設定を使用する](#)
- [タスクリストビューをカスタマイズする](#)

Advanced Settings(詳細設定)を使用する



詳細設定オプションを使用すると、タスクを記録するときにマウスの動作やクリック、キーストローク、スクリーンショットの取得などを管理する方法をカスタマイズできるようになります。

[Tools] (ツール) → [Options] (オプション) → [Advanced Settings] (詳細設定) でこれらを設定します。



#### 記録オプションに関するオプション

1. Record Mouse Moves (マウス動作を記録) - タスクの記録中にマウスの動作の記録を止めるには、このオプションをクリアします。一部のマウスの動作には、アプリケーションメニューを記録するときなど、アプリケーション特有の意味があります。この場合は、このオプションを有効にしておきます。
2. Record Mouse Clicks (マウスクリックを記録) - タスクの記録中にマウスのクリックの記録を止めるには、このオプションをクリアします。
4. Record Keystrokes (キーストロークを記録) - タスクの記録中にキーストロークの記録を止めるには、このオプションをクリアします。
5. Capture Screen-shots While Recording (記録中にスクリーンショットをキャプチャ) - タスクの記録中にスクリーンショットをキャプチャして画像を表示するには、このオプションを使用します。この機能について詳しくは、「[SnapPoint を使用する](#)」を参照してください。

#### アプリケーションの場所に関するオプション

Application Path (アプリケーションパス) - 別のアプリケーションパスを指定します。デフォルトのアプリケーションパスは、[マイドキュメント] の Automation Anywhere Files フォルダです。

アプリケーションパスには、ローカルドライブかネットワークパスが指定できます。ネットワークパスがドライブに割り当てられていることもあります。

アプリケーションパスを設定するときに、以下を確認してください。

1. アプリケーションパスは一意である必要があります。複数のユーザーで共有しないでください。
2. アプリケーションパスには常にアクセスできる必要があります。
3. ユーザーは、アプリケーションパスへの読み書き権限が必要です。

この場所を変更すると、タスクはすべて新しい場所に保存されます。新しいパスは、Automation Anywhere クライアントを再起動すると有効になります。

 **備考:** ・ アプリケーションパスを変更した後、トリガー、Hotkey、スケジュール設定されたタスクはすべて通常どおり動作します。

- ・ ただし、ドメイン名が変更になった場合は、アプリケーションパスを手動で更新する必要があります。
- ・ ネットワークドライブが指定されている場合は、タスクの速度はネットワーク速度に左右されます。

#### 編集とログ記録のオプション




1. Edit Task on double click in Task List (タスクリストからダブルクリックでタスクを編集) - デフォルトでは、タスクをダブルクリックするとタスクを起動または実行します。ダブルクリックするとタスクを編集するようにデフォルト設定を変更するには、このオプションを有効にします。
2. Enable System Logging (システムログ記録を有効化) - この機能について詳しくは、「[システムログを表示する](#)」を参照してください。
3. Enable Debug Logging (デバッグログ記録を有効化) - Automation Anywhere とそのサービスで発生したエラーをデバッグするために、タスク実行中のログ記録を有効にできます。このオプションを有効にすると、アプリケーションのステータスバーに [Debug logging enabled] (デバッグログ記録有効) と表示されます。
  - デバッグログ記録を有効にすると、デバッグログ、情報ログ、警告ログ、エラーログ、Fatal レベルのログが保存されます。
  - デバッグログ記録を無効にすると、最近発生した警告ログと情報ログの最大 256 行のバッファデータと共にエラーログと Fatal レベルのログのみが保存されます。

 備考: デフォルトで、[Exception logs] (例外ログ) は常に有効です。

4. Clear Logs (ログをクリア) - すべてのアプリケーションログを削除します。ただし、実行中のアプリケーションのログはクリアされません。

アプリケーションログをクリアするには、

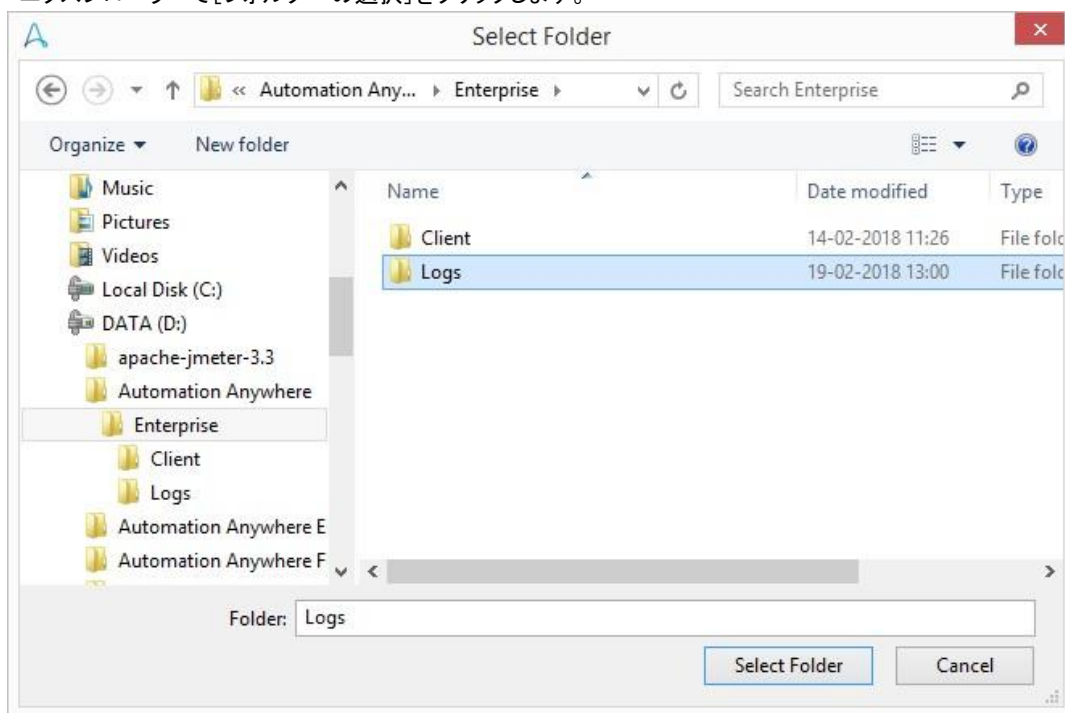
1. 実行中のアプリケーションをすべて終了します。
2. <Application Path>\LogFiles フォルダー内のすべてのファイルを手動で削除します。

 備考: [Clear Logs] (ログをクリア) ボタンでは、すべてのユーザーに共通のサービスログは削除されません。サービスログを削除するには、<public documents>\Automation Anywhere Client Files\LogFiles から手動で削除する必要があります。

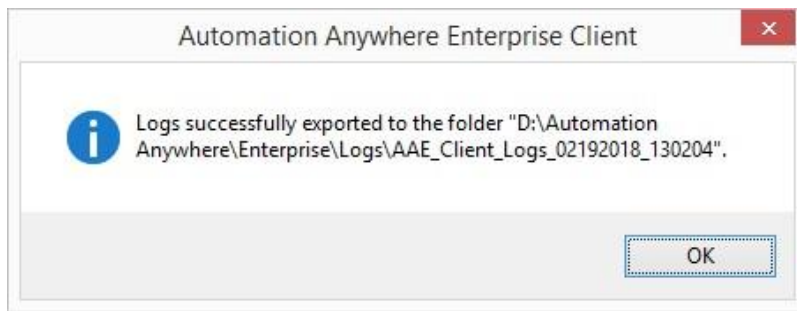
5. Export Logs (ログをエクスポート) - すべてのログを新規フォルダー AAE\_Client\_Logs\_<date>\_<time> にエクスポートします。

このフォルダーにログをエクスポートするには、

1. 新規フォルダーを作成して選択するか、既存フォルダーを選択します。
2. エクスプローラーで [フォルダーの選択] をクリックします。



3. これにより Application Logs (アプリケーションログ) と Service Logs (サービスログ) の 2 つのサブフォルダーが自動的に作成され、このフォルダーにエクスポートされたログが保存されます。



 備考: [Clear Logs] (ログをクリア) オプションを使用しても、[Export Logs] (ログをエクスポート) を使用して保存されたアプリケーションログとサービスログは削除されません。

#### プロキシサーバーのオプション

1. Proxy Server Settings (For Web Service) (プロキシサーバー設定 (Web サービス用)) - これらは、Web Service (Web サービス) コマンドにのみ適用されます。お使いの環境でプロキシサーバーを利用している場合は、ホスト名/IP アドレスとポート番号を指定します。

### 関連トピック

- [自動ログインオプションを使用する](#) • [Web Recorder の設定を設定する](#)
- [Email Notifications \(メール通知\) を設定する](#) • [Client の Hotkey を定義する](#)
- [View \(表示\) オプションを設定する](#)
- [ランタイム設定を使用する](#)
- [ROI Settings \(ROI\) 設定を使用する](#)
- [タスクリビューをカスタマイズする](#)

#### デバッグログを有効にする

デバッグログを有効にする機能を使用して Automation Anywhere のサポートチームに送信できるログを収集し、問題のトラブルシューティングなど、AAE Client の問題を調査する際に役立てることができます。

デバッグログを有効にすると、AAE Client の次のアプリケーションおよびサービスのデバッグログが保存されます。

- メイン
- WorkBench • プレーヤー
- クライアントサービス
- スケジューラーサービス • MetaBot Designer • EventWatcher
- FipsDataMigration • Terminal Emulator
- 自動ログインサービス • プロキシサーバーデバッグログを有効にするには、次の手順を実行します。

1. AAE Client の [Options] (オプション) スクリーンで、[Tools] (ツール) > [Options] (オプション) > [Advanced Settings] (詳細設定) をクリックします。
2. [Enable Debug Logging] (デバッグログを有効にする) チェックボックスをオンにします。

デフォルトでは、エラーと致命的な問題のログが有効になっています。[Enable Debug Logging] (デバッグログを有効にする) オプションを選択すると、ステータスバーに太字の赤色で「Debug logging enabled」(デバッグログ記録有効) というメッセージが表示されます。

ログをエクスポートする方法については、「[詳細設定を使用する](#)」の「ログをエクスポート」を参照してください。クライアントアプリケーションのログは、Application Logs (アプリケーションログ) サブフォルダー、サービスのログは Service Logs (サービスログ) サブフォルダーで確認できます。これらは <Log file folder selected by you>\AAE\_Client\_Logs\_<date>\_<time> フォルダーにあります。

Application Log のパス: <Application Path>\LogFiles

Service Log のパス: 共通フォルダーパス\Automation Anywhere Client Files\LogFiles

備考: デフォルトでは、1 MB のログファイルがそれぞれ最大 10 個保存されます。この制限を超えると、既存のログエントリが上書きされます。

アプリケーションとサービスのログ構成ファイルが異なる場合は、[Enable Debug Logging] (デバッグログを有効にする) チェックボックスが不確定な状態で表示され、ステータスバーに「Debug logging enabled」(デバッグログ記録有効) というメッセージが表示されます。

次の表に、デバッグログを有効または無効にした場合の [Enable Debug Logging] (デバッグログを有効にする) チェックボックスのさまざまな状態を示します。

サービス	アプリケーション	[Enable Debug Logging] (デバッグログを有効にする) チェックボックスの状態	Description(説明)
デバッグログは有効	デバッグログは有効	<input checked="" type="checkbox"/> Enable Debug Logging	デバッグログが有効な場合、チェックボックスはオンになります。
デバッグログは無効	デバッグログは有効	<input type="checkbox"/> Enable Debug Logging	アプリケーションとサービスのデバッグログの状態が異なる場合、またはログ設定ファイルが編集された場合、チェックボックスは不確定になります。
デバッグログは有効	デバッグログは無効	<input type="checkbox"/> Enable Debug Logging	アプリケーションとサービスのデバッグログの状態が異なる場合、またはログ設定ファイルが編集された場合、チェックボックスは不確定になります。
デバッグログは無効	デバッグログは無効	<input type="checkbox"/> Enable Debug Logging	アプリケーションとサービスの両方でデバッグログが有効になっていない場合、チェックボックスはオフになります。

備考: デバッグログファイルが誤って削除された場合、クライアントアプリケーションの起動時または [Options] (オプション) スクリーンでの更新時にデフォルト設定を使用して新しいファイルが作成されます。

デバッグログファイルが破損している場合、ファイル名 <origFileName>\_Date\_Time\_backup.xml で既存のファイルをバックアップし、アプリケーションの起動時または [Options] (オプション) スクリーンを開いたときにデフォルトのログファイルに置き換わります。

ログをクリアする方法については、「[詳細設定を使用する](#)」の「ログをクリアする」を参照してください。

自動ログインの場合は以前のログと設定メカニズムが継承されるため、Automation.Autologin.Settings.XML ファイルでデバッグログを手動で設定する必要があります。詳しくは、「[自動ログインのデバッグログを有効にする](#)」(下ページ)を参照してください。

自動ログインのデバッグログを有効にするデバッグログを有効にするには、次の手順を実行します


- Windows エクスプローラーで、C:\Users\Public\Documents\Automation Autologin/<yourusername>を参照します。
- Automation.Autologin.Settings.XML ファイルを編集します。
- <log><debug>true</debug></log>を<AutoLogin>XML 要素内に含めて XML ファイルを保存します。
- 編集した Automation.Autologin.Settings.XML ファイルを C:\Users\Public\Documents\Automation Autologin にコピーします。
- C:\Users\Public\Documents\Automation Autologin にデバッグログを保存する LogFiles という名前のフォルダーを作成します。

```
1 <?xml version="1.0" encoding="UTF-8"?>
2 <configuration>
3 <AutoLogin>
4 <machinestatus>
5 <beforelaststatus>SessionLock</beforelaststatus>
6 <laststatus>SessionUnlock</laststatus>
7 <currentstatus>SessionUnlock</currentstatus>
8 </machinestatus>
9 <legalnotice>
0 <bypass>false</bypass>
1 </legalnotice>
2 <log>
3 <debug>true</debug>
4 </log>
5 </AutoLogin>
6 </configuration>
```

## Java 設定を使用する


Java アプリケーションの自動化(記録と再生)を有効にするには Java プラグインが必要です。プラグイン設定オプションを使ってプラグインをインストールできます。詳しくはこちらを参照してください。

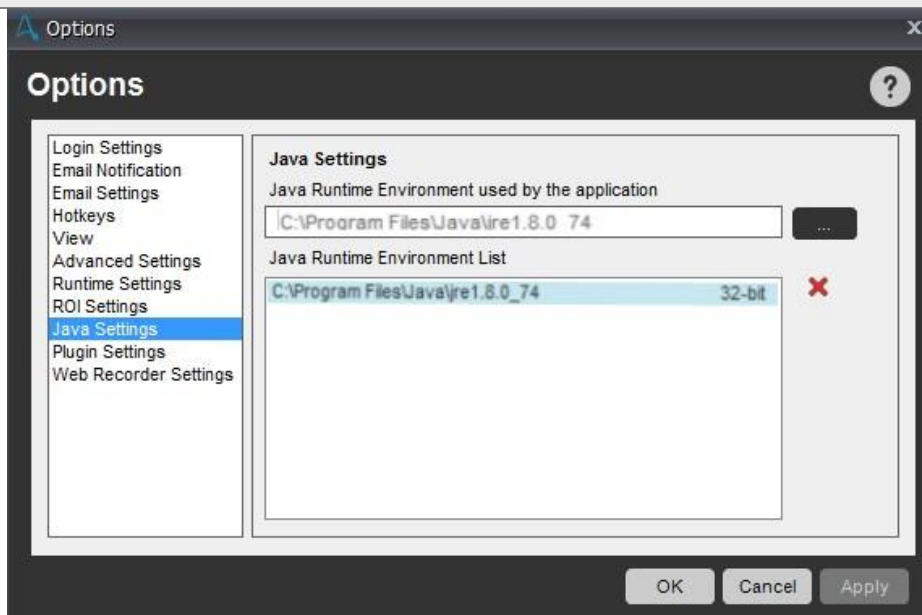
特定の JRE にプラグインを追加するときのみ、プラグイン設定から Java プラグインをインストールして、Java 設定オプションを使用することをお勧めします。JRE 設定を設定できるようにするには、管理者モードで Automation Anywhere を起動する必要があります。


 備考: AAE 10 SP2 以降では、AAE が動的な Java アプリケーション(パッケージ化された JRE から実行されるスタンドアロン Java アプリケーション)の自動化をサポートする場合、AAE Java プラグインをインストールしなくても、デスクトップ(スタンドアロン)の Java アプリケーション(JRE 6 以降のバージョンで実行)をオートメーションできます。Web ベースの Java アプリケーションを自動化するには、引き続き AAE Java プラグインが必要です。

## Java 設定を適用する

[Tools](ツール)->[Options](オプション)->[Java Settings](Java 設定)をクリックして設定します。

 備考: 実行中の Java アプリケーションがある場合、すべて終了します。



 ヒント: 32 ビットと 64 ビットの両方を Web ベースのタスクの記録に使用する場合は、両方の JRE 設定を指定します。その後、このオプションを使用して記録する際に 32 と 64 間で切り替えます。

1. 参照ボタンをクリックして、その場所から適切な JRE ファイルを選択します。



2. ラジオボタンを使用し、32 または 64 ビット設定を選択します。[OK]をクリックします。

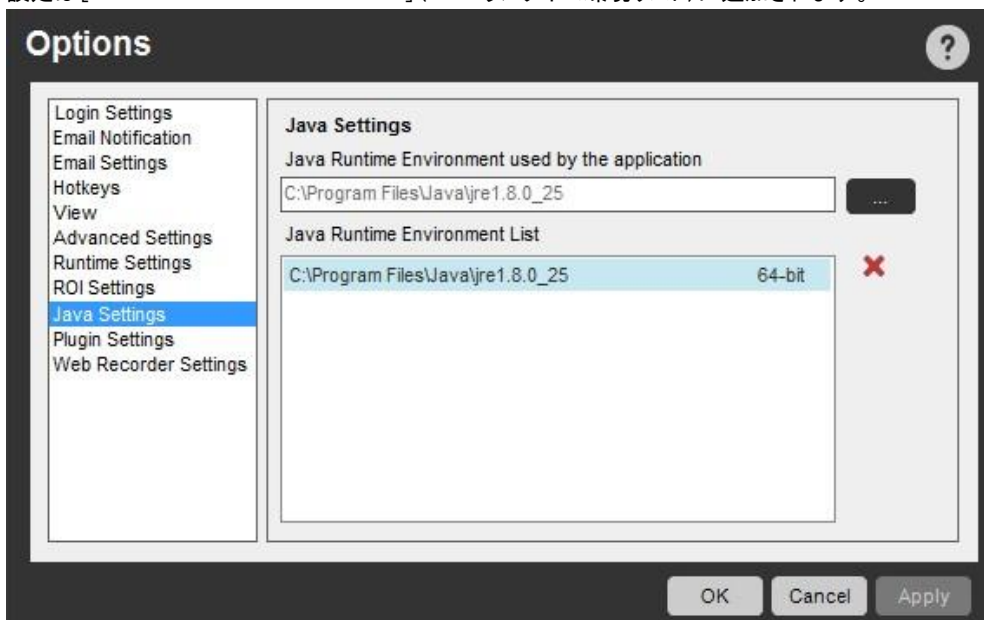


3. オプションウィンドウが呼び出されます。[Apply](適用)をクリックします。
4. 表示されたファイルを指定の JRE フォルダーにコピーするか確認する必要があります。







5. 設定は[Java Runtime Environment List] (Java ランタイム環境リスト)に追加されます。



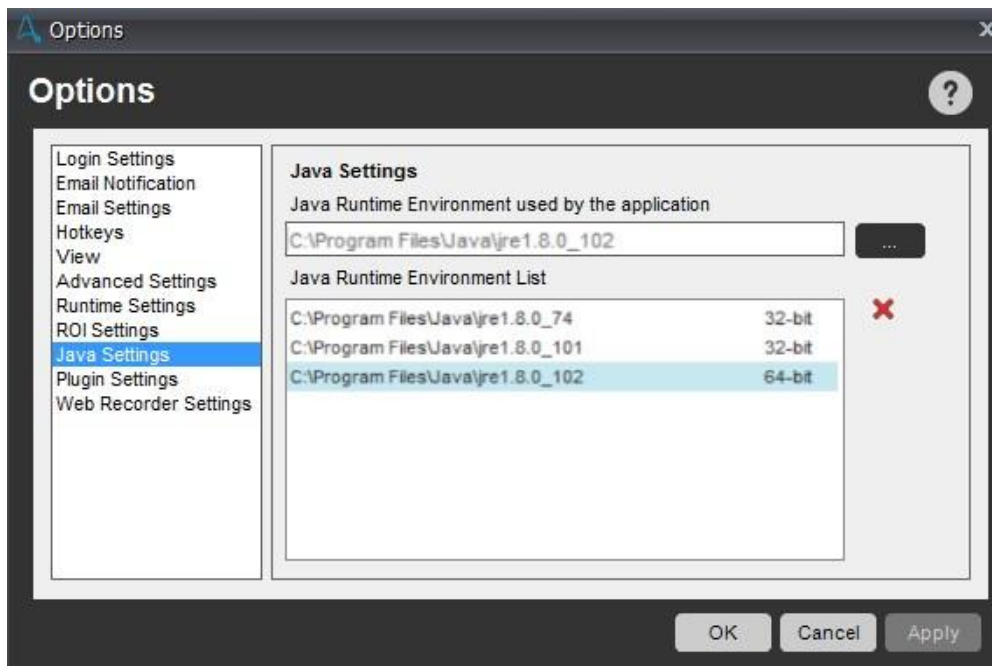
6. [OK]をクリックします。


 ヒント: リストから設定を削除する場合は、[delete] (削除) アイコンをクリックします。



 備考: 削除を行うには管理者モードである必要があります。

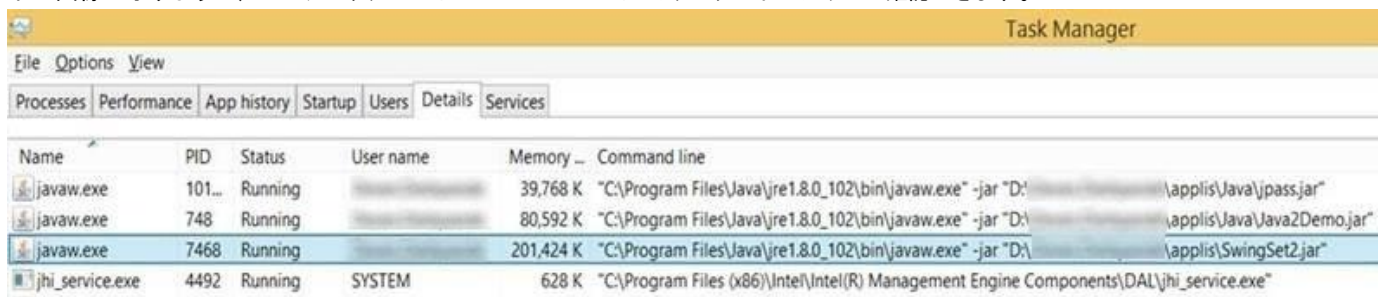
異なる JRE で動作する複数の Java アプリケーションを自動化する場合は、必ずこれらの JRE をすべて Java 設定に追加するようにしてください。



 **備考:** Java アプリケーションを記録するときに、上のリストから正しい JRE を選択していることを確認し、[Apply] (適用) をクリックします。AAE と

Java アプリケーションを再起動します。


下の画像に示すように、Java アプリケーションの JRE バージョンはタスクマネージャーで確認できます。




詳しくは、「[Java プラグインのインストールと設定](#)」を参照してください。


Java プラグインのインストールと設定

Java アプリケーションの自動化を有効にするには Java プラグインが必要です。プラグイン設定でプラグインをインストールできます。ただし、Java アプリケーションを使用するプロセスを Client で自動化できるようにするには、Java 設定でカスタム Java Runtime Environment (JRE) を設定する必要があります。

 **備考:** AAE 10 SP2 以降では、AAE が動的な Java アプリケーション (パッケージ化された JRE から実行されるスタンドアロン Java アプリケーション) の自動化をサポートする場合、AAE Java プラグインをインストールしなくても、デスクトップ (スタンドアロン) の Java アプリケーション (JRE 6 以降のバージョンで実行) をオートメーションできます。Web ベースの Java アプリケーションを自動化するには、引き続き AAE Java プラグインが必要です。

Java プラグインは、プラグイン設定でインストールできます。詳しくは[こちら](#)を参照してください。

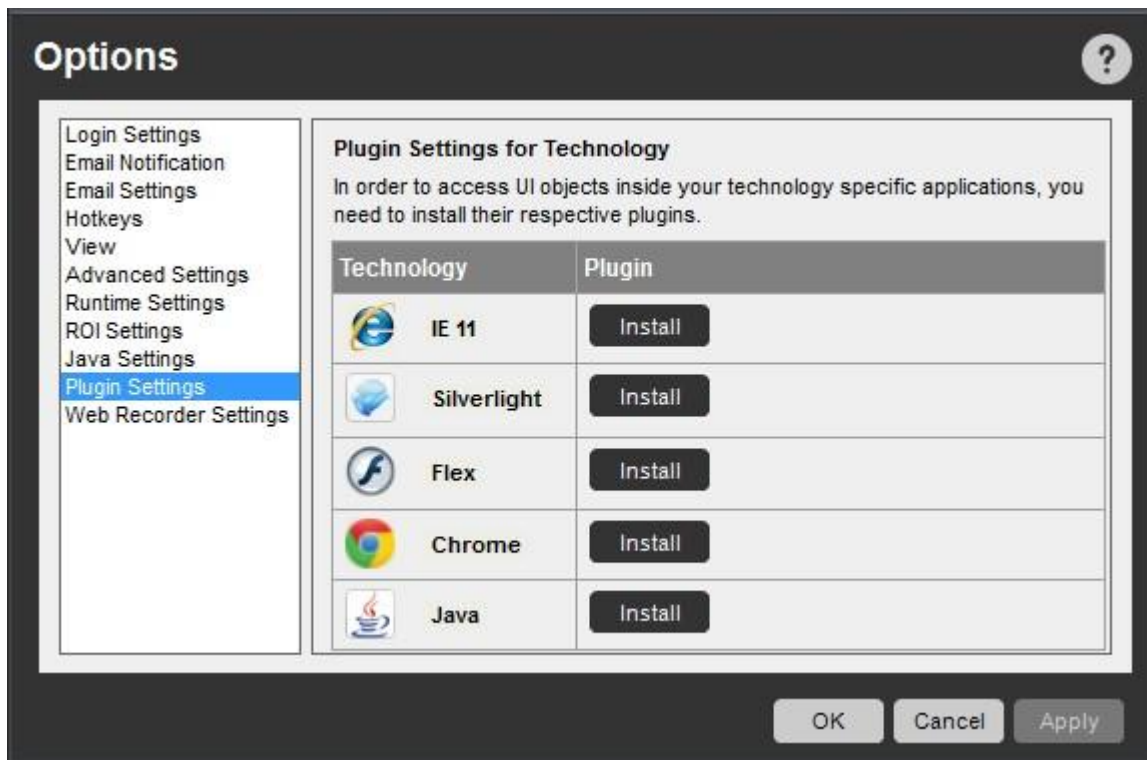
 **ヒント:** Java プラグインをインストールする際は、[プラグイン設定] を使用し、カスタム JRE を設定する場合は、[Java 設定] のみを使用するようお勧めします。

 **備考:** Java プラグインをインストールし、JRE 設定を設定するには、管理者モードで Automation Anywhere を起動する必要があります。

Java プラグインをインストールする

サイレントインストールの場合、ユーザーインターフェイス (プラグイン設定) かコマンドラインでプラグインをインストールできます。詳しくは、[プラグイン設定](#)に関する記事を参照してください。

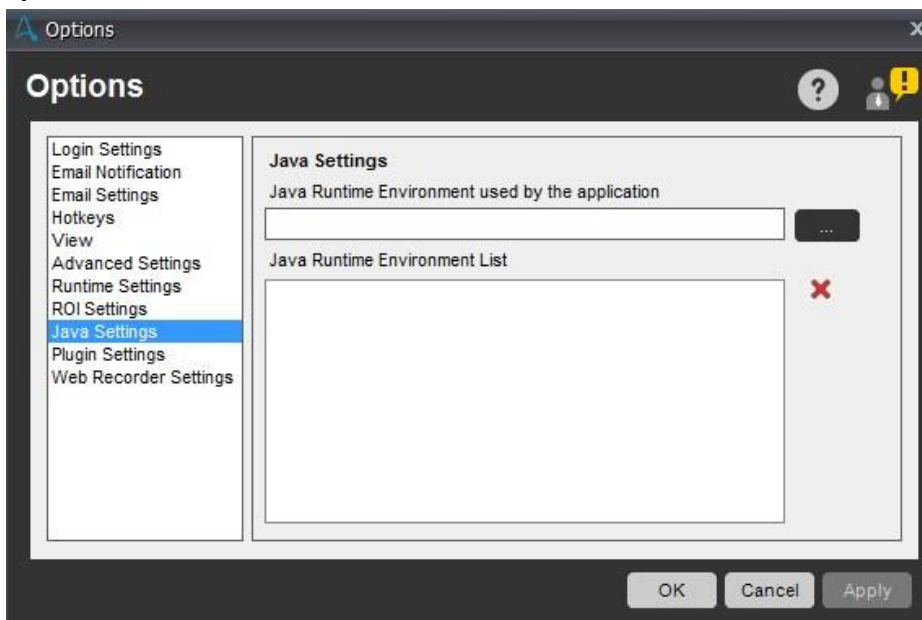




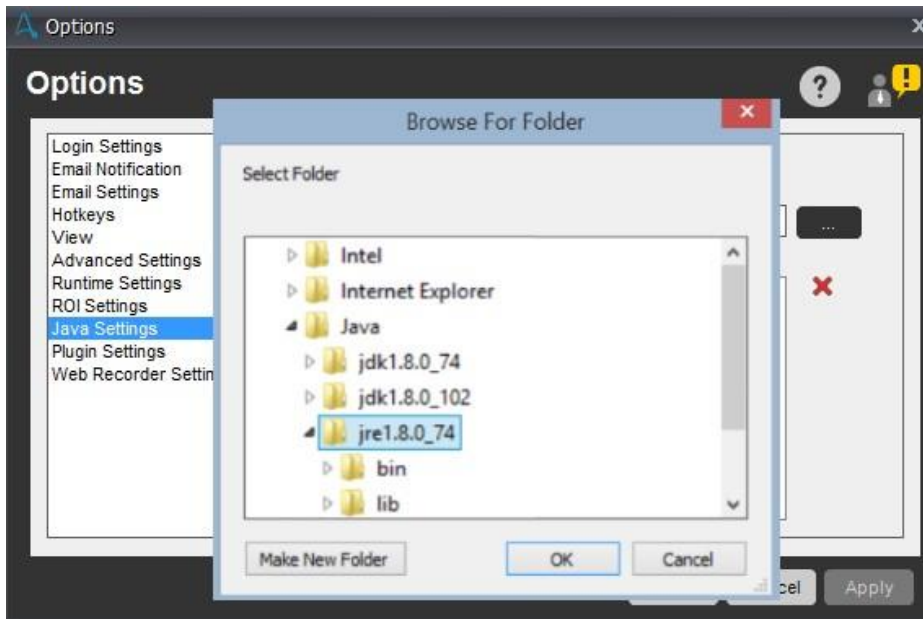
AAE Client 用に[Java 設定]を設定する

[Java 設定]を設定する手順は以下のとおりです。

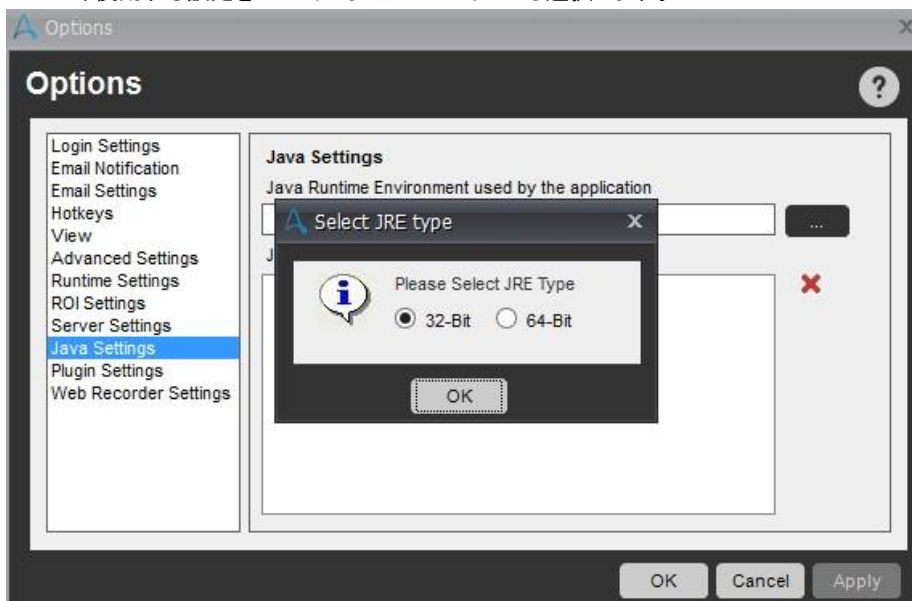
1. Client を搭載したマシンに Java がインストールされていることを確認します。
2. Client が管理者モードで開かれていることを確認します(右クリック>[管理者として実行])。
3. Java アプリケーション(デスクトップまたは Web)の記録を開始する前に、Client の[ツール]>[オプション]>[Java 設定]で設定値を設定します



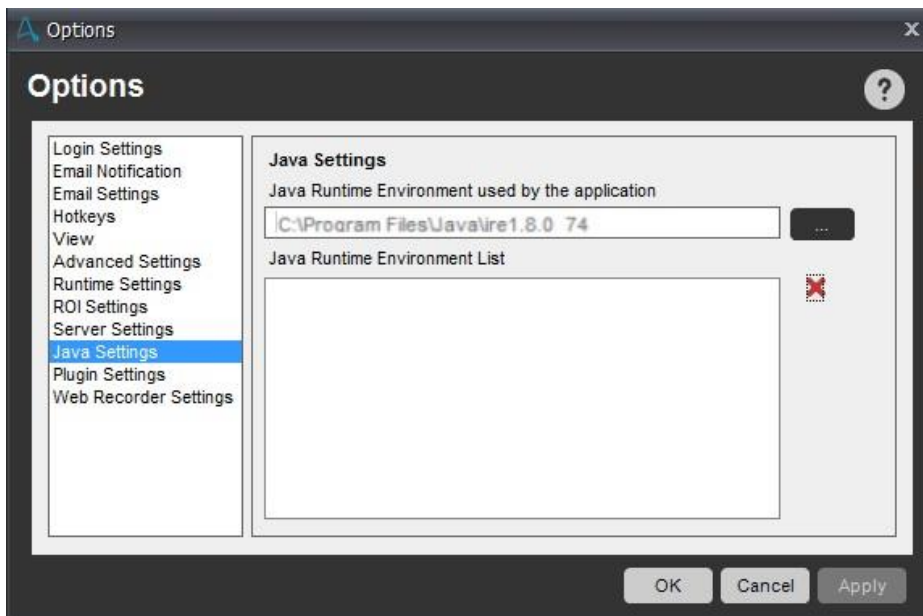
4. [Java 設定]で JRE を閲覧します([プログラムファイル]>[Java]の順に開きます)



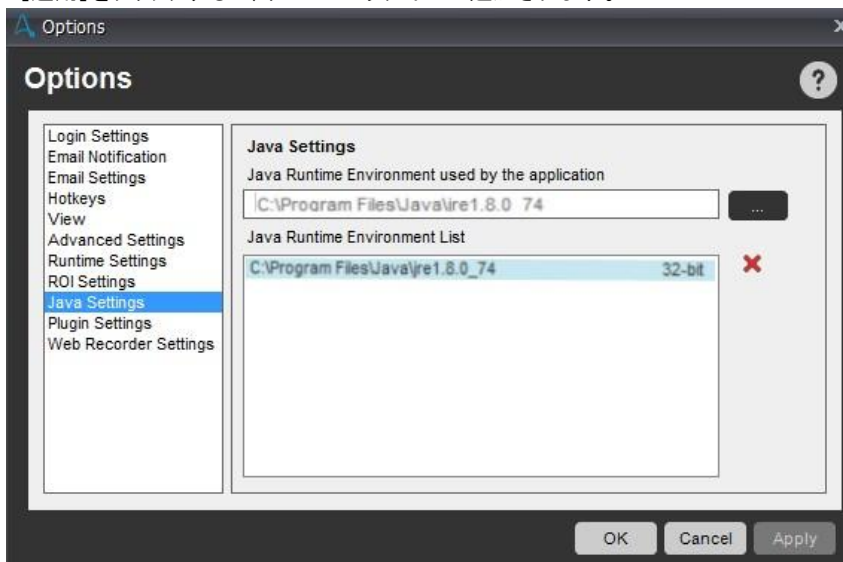
5. 32 ビット JRE で Java アプリケーションを操作する場合は、プログラムファイル(x86)、Java、JRE のいずれかで JRE を選択し、32 ビットラジオオプションを選択します。64 ビット JRE で Java アプリケーションを操作する場合は、プログラムファイル、Java、JRE のいずれかで JRE を選択し、64 ビットラジオオプションを選択します。
6. [OK]をクリックします。
7. ここで、使用する設定を 32 ビットまたは 64 ビットから選択します。



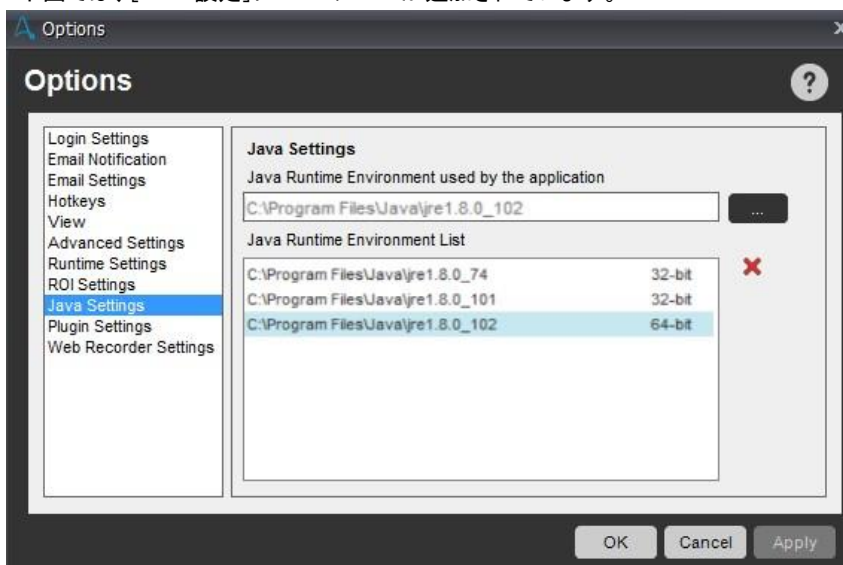
8. [OK]をクリックします。




9. [適用]をクリックすると、リストにプラグインが追加されます。



10. 複数の Java アプリケーション(異なる JRE バージョンを使用)を自動化する場合は、これらの JRE をすべて Java 設定に追加してください。下図では、[Java 設定]に 3 つの JRE が追加されています。



11. [終了]の後、Client を再起動します。

 備考: 必ず Client アプリケーションと Java アプリケーションの両方を、通常どおりか[管理者として実行]で開きます。ただし、両方を同じモードにする必要があります。

12. Java のデスクトップまたは Web アプリを開きます




```

Administrator: C:\Windows\System32\cmd.exe
Microsoft Windows [Version 6.0.6002]
Copyright (c) 2006 Microsoft Corporation. All rights reserved.

C:\Windows\system32>cd /


C:\>cd "C:\Program Files\Java\jre6\bin"

C:\Program Files\Java\jre6\bin>java -jar "D:\SwingSet2.jar"
  
```

 備考: ツールで 32 ビット Java 設定が使用されている場合、必ず Java アプリでも 32 ビット JRE を使用します。Java アプリが 64 ビット JRE を使用している場合、ツールでも 64 ビット Java を使用する必要があります。

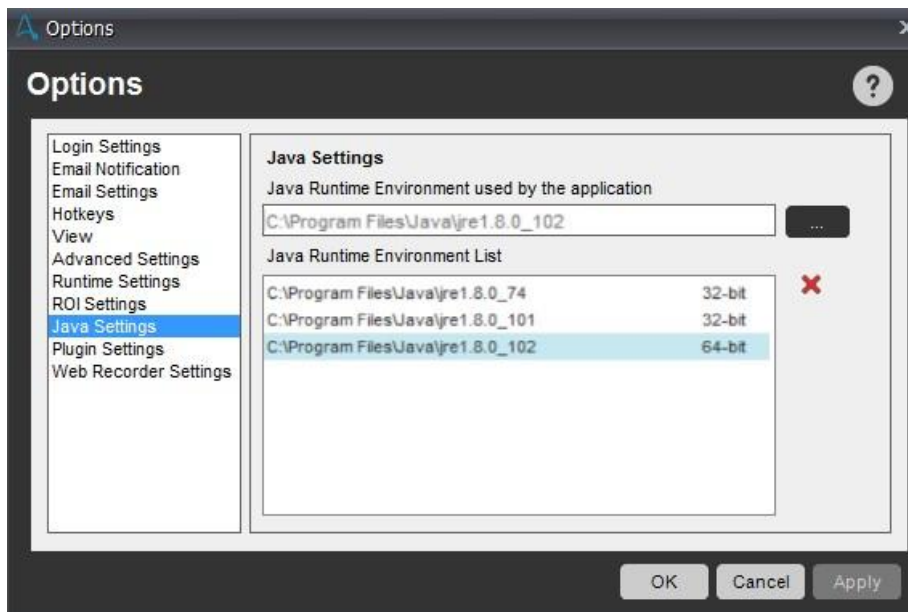
Java デスクトップアプリ専用: コマンドラインからの外部操作で、32 ビットまたは 64 ビットの Java のデスクトップアプリケーションを開くことができます(さらに、同じ速度の別のバージョンの JRE(1.6 と 1.7)で Java アプリケーションを開くこともできます)。

13. 上述の手順を終えてから、Java アプリケーションの記録を開始を選択します。[Java アクセシビリティ]の適切なコントロールを記録できます (Client のコマンドエディターの [Java アクセシビリティ]でテクノロジーを確認できます)。
14. すべての設定値が上述どおり適合している場合、再生テストが再生されます。
15. Java テストの実行形式ファイルを作成し、Java の組み込まれた新しいマシンで実行する場合、利用可能な JRE 設定がないため、必要なファイルの追加を許可するよう求めるメッセージがプレーヤーに表示されます。[はい]と答えると、必要なファイルが `Java\JRE*\lib\EXT` と `Java\JRE*\bin` に配置されます。テストが失敗または停止します。ここで実行形式ファイルを再生すると、正常に機能します。

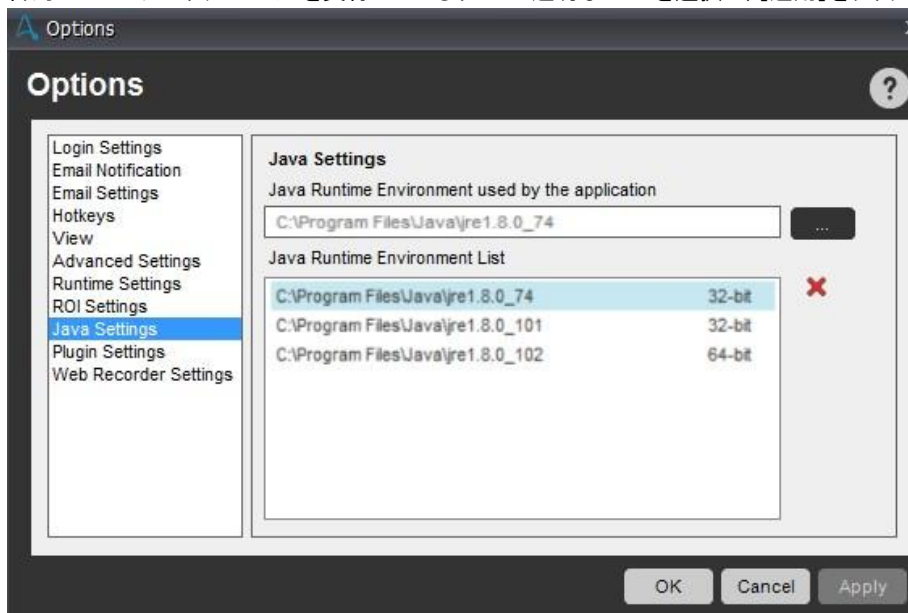
 備考: これは Automation Anywhere Enterprise のインストールの有無とは無関係にマシンに適用されます。

よくあるご質問

1. Java 設定を追加または変更できない理由は何ですか？  
Client の [管理者として実行]を開いて試します。
2. Java アプリケーションで使用されている JRE を特定するには、どうしたらよいですか？  
[タスクマネージャー]で Java.exe か Javaw.exe を検索し、[移動先]を右クリックして、使用中の JRE バージョンとビット数を確認します。または [スタート]>[すべてのプログラム]>[アクセサリ]>[システムツール]>[システム情報]>[ソフトウェア環境]>[実行中のタスク]に移動し、Java.exe か Javaw.exe を探します。もう一度 JRE の [パス]を確認します
3. Java コントロールの記録やキャプチャはできませんか？  
Java コントロールの記録やキャプチャを行う前に、必ず [Java 設定]で正しい JRE を選択しておきます。
  - Client の [ツール]>[オプション]で [Java 設定]を開きます



- 目的の Java アプリケーションを実行しているリストで適切な JRE を選択し、[適用]をクリックします。



- Java アプリケーションで使用されている JRE バージョンをチェックするには、タスクマネージャーを開き、[Command Line] (コマンドライン) 列を追加します

Task Manager					
File Options View					
Processes Performance App history Startup Users Details Services					
Name	PID	Status	User name	Memory	Command line
javaw.exe	101...	Running		39,768 K	"C:\Program Files\Java\jre1.8.0_102\bin\javaw.exe" -jar "D:\...\applis\Java\jpass.jar"
javaw.exe	748	Running		80,592 K	"C:\Program Files\Java\jre1.8.0_102\bin\javaw.exe" -jar "D:\...\applis\Java\Java2Demo.jar"
javaw.exe	7468	Running		201,424 K	"C:\Program Files\Java\jre1.8.0_102\bin\javaw.exe" -jar "D:\...\applis\SwingSet2.jar"
jhi_service.exe	4492	Running	SYSTEM	628 K	"C:\Program Files (x86)\Intel\Intel(R) Management Engine Components\DAL\jhi_service.exe"

- Client を再起動します。
  - 以上で Java を記録できるようになります
4. 依然として Java コントロールをきちんと記録できません。新しい JRE バージョンにアップデートすると、Java の [記録して再生] が失敗する理由は何ですか？
- この問題は 32 ビットの JRE でのみ発生します。プログラムファイル (x86) \Java\JRE\*\lib\EXT に移動して「access-bridge-32.jar」を削除します
- プログラムファイル (x86) \Java\JRE\*\bin に移動して、JavaAccessBridge-32.dll、JAWTAccessBridge-32.dll、WindowsAccessBridge-32.dll を削除します。

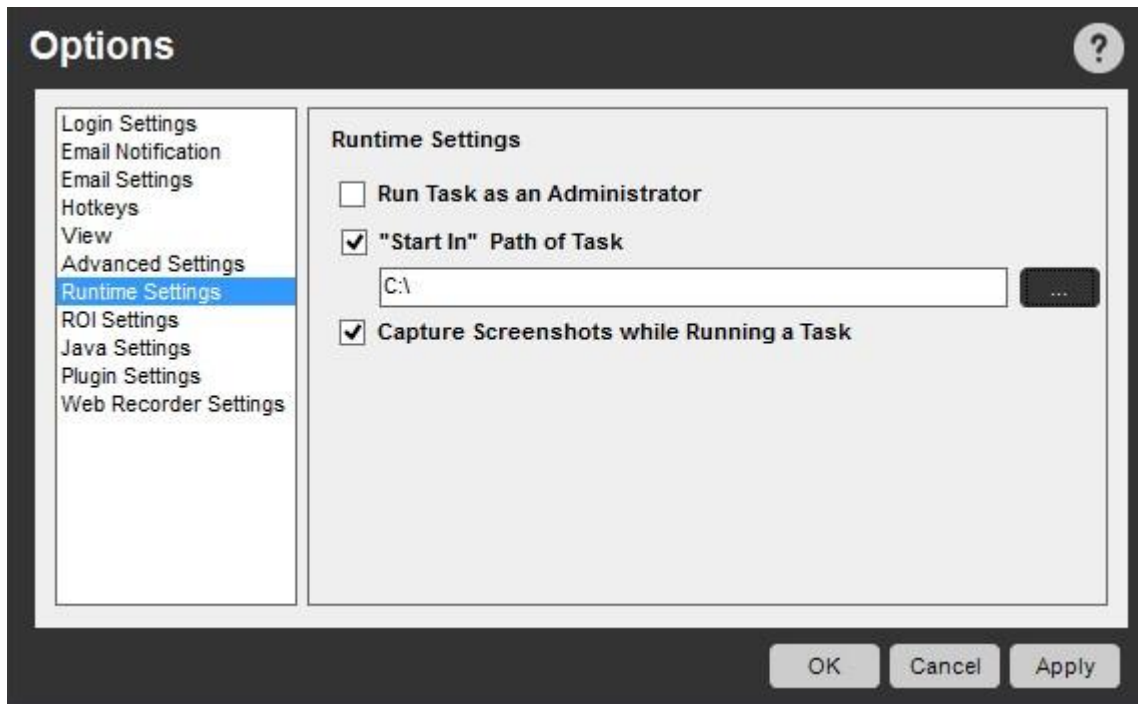
- ここで Client の[管理者として実行]を開いて 32 ビット用の Java 設定を削除し、設定しなおします。
  - Client を再起動します。[記録して再生]が正常に実行されます
5. 設定値がすべて正しいにもかかわらず、[記録して再生]が正常に機能しません。  
設定値がお使いの Java アプリ、32 または 64 ビットの JRE と適合していることを確認します。  
32 ビットの JRE を操作する場合、Java 設定でそのように設定されていること、逆の場合は逆に設定されていることを確認します。  
上の設定が正しい場合は次のとおり対応します。
- Client および Java アプリケーションを終了します。
  - [管理者として実行]か[通常どおり]のどちらか 1 つの「モード」で両方を開きなおします。• [記録して再生]を開始すると、Client が正常に機能します。
6. すべての設定値とモードが正しいにもかかわらず、プレーヤーで Java テストが再生されません。  
プレーヤーの場合、必ず [ツール]>[オプション]>[ランタイム設定]>[管理者としてタスクを実行]チェックボックスを要件として使用します。
- Client および Java アプリが通常どおり開かれている場合は、[管理者としてタスクを実行]のチェックを外します。
  - Java アプリが[管理者として実行]で開かれている場合、[管理者としてタスクを実行]を選択し、再生します。
  - [実行形式ファイルを作成]機能で作成した Java のテスト用の.exe ファイルにも同じことが当てはまります。
7. Java アプリケーションを自動化すると、次のエラーが表示されます。  
該当する Java アプリケーションを再起動し、自動化タスクを再実行します。
8. その他のよくある質問:[http://java.com/en/download/faq/win8\\_faq.xml](http://java.com/en/download/faq/win8_faq.xml)




## ランタイム設定を使用する

Automation Anywhere のランタイム設定では、思い通りに作動させられるよう、自動化タスクの実行方法をカスタマイズできます。タスクの記録後、設定を確認し、調整してください。自動化タスクの実行を開始したときに、ランタイム設定が適用されます。

設定: 概要



 **備考:** UAC(ユーザーアカウント制御)が有効になっている Windows 7 以降に適用されます。他のオペレーティングシステムや UAC が有効になっていない場合、この設定をオフにします。詳しくは、「[ユーザーアクセス制御の設定](#)」を参照してください。

### Run Task as an Administrator(管理者としてタスクを実行)

Windows プロンプトでプロセスの実行許可を求める重要なタスクを実行するとき、この設定を使用します。この設定をオンにすると、タスクを実行する前に、コンピューターの管理者のユーザー名とパスワードの入力が求められます。

### "Start In" Path of Task(タスクの「Start In」パス)

Log-to-File(ファイルにログ)コマンドに特定のパスが指定されていないとき、またはタスクの実行にファイルまたはフォルダーのパスが必要になる他のコマンドに特定のパスが指定されていないとき、この設定を使用します。

タスクが実行されると、この設定フィールドに指定されている場所に新しいフォルダーが作成されます。この設定の適用後、新しく作成されたファイルとフォルダーがすべてこのパスの場所に置かれます。

### Internet Explorer のタイムアウト


インターネットにはさまざまな接続速度があります。そのため、Web ページを読み込むタスクを適切に実行するには調整が必要になります。

この設定を利用し、ローカルのインターネットの接続速度や Web ページを完全に読み込むために必要な時間に基づいてタイムアウト値を調整します。

たとえば、遅いダイヤルアップ接続を使用していてタスクの実行中にタイムアウトエラーが頻繁に発生する場合、この設定を調整し、タイムアウト期間を延ばします。

### Capture Screen-shots while Running a Task(タスクの実行中にスクリーンショットをキャプチャする)

この設定を利用し、タスク実行として視覚的ログ(スクリーンショット)をキャプチャします。チェックボックスの選択を解除することで、この設定をオフにできます。

 **ヒント:** この設定をオフにすることで、パフォーマンスの改善や、ハードドライブのメモリの解放が可能です。

視覚的ログのキャプチャについては、「[SnapPoint を使用する](#)」を参照してください。



---

---


### 関連トピック

- [自動ログインオプションを使用する](#)
- [Email Notifications \(メール通知\)を設定する](#) • [Client の Hotkey を定義する](#)
- [Advanced Settings \(詳細設定\)を使用する](#)
- [ROI Settings \(ROI\) 設定を使用する](#) • [View \(表示\) オプションを設定する](#) • [タスクリストビューをカスタマイズする](#)

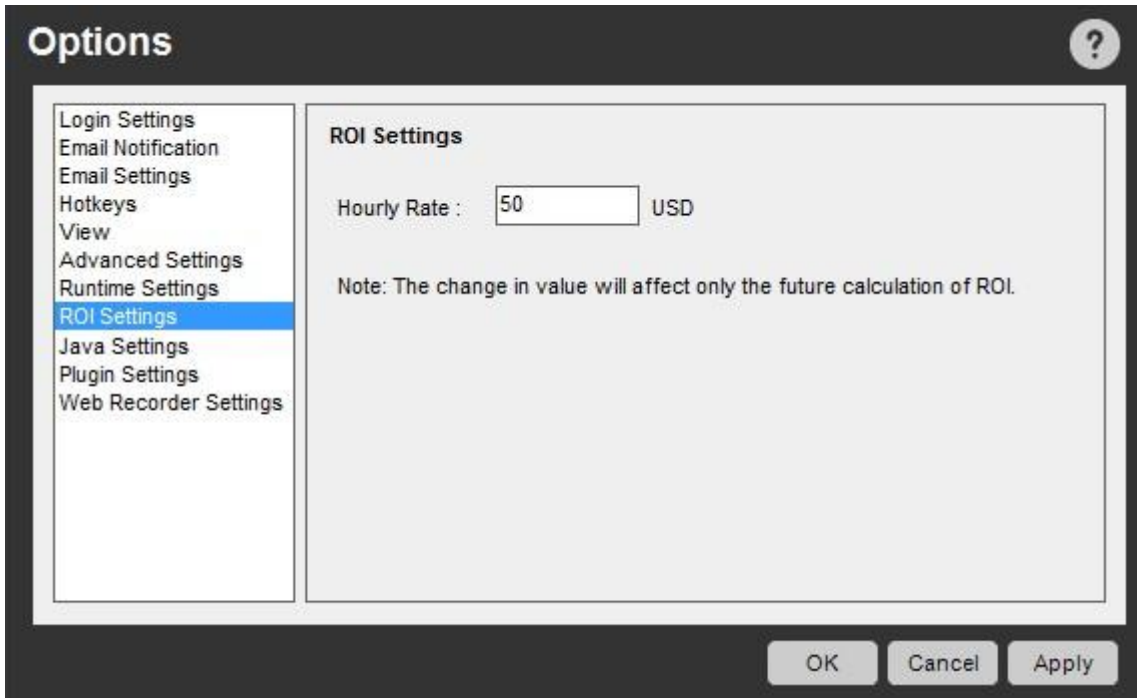
## ROI 設定を使用する

Automation Anywhere によって、タスクの自動化から得られる投資収益率 (ROI) が計算されます。

ROI は、自動化したタスクを実行すると計算される節約金額 (米ドル) の累積です。

 備考: ROI 計算は、1 時間単位の時間、実行時間、デバッグ時間、アラートアシスタント時間、ドキュメンテーション時間、トレーニング時間、ナレッジキャプチャのコストに基づきます。

- [Tools] (ツール) → [Options] (オプション) → [ROI Settings] (ROI 設定) の順にクリックし、1 時間あたりのレートを変更します。この値の変更は、変更後の ROI 計算に反映されます。



(Enterprise エディション 9.0 の画像)

## 関連トピック

- [自動ログインオプションを使用する](#)
- [Email Notifications \(メール通知\) を設定する](#) • [Client の Hotkey を定義する](#)
- [Advanced Settings \(詳細設定\) を使用する](#) • [ランタイム設定を使用する](#)
- [View \(表示\) オプションを設定する](#)
- [タスクリストビューをカスタマイズする](#)

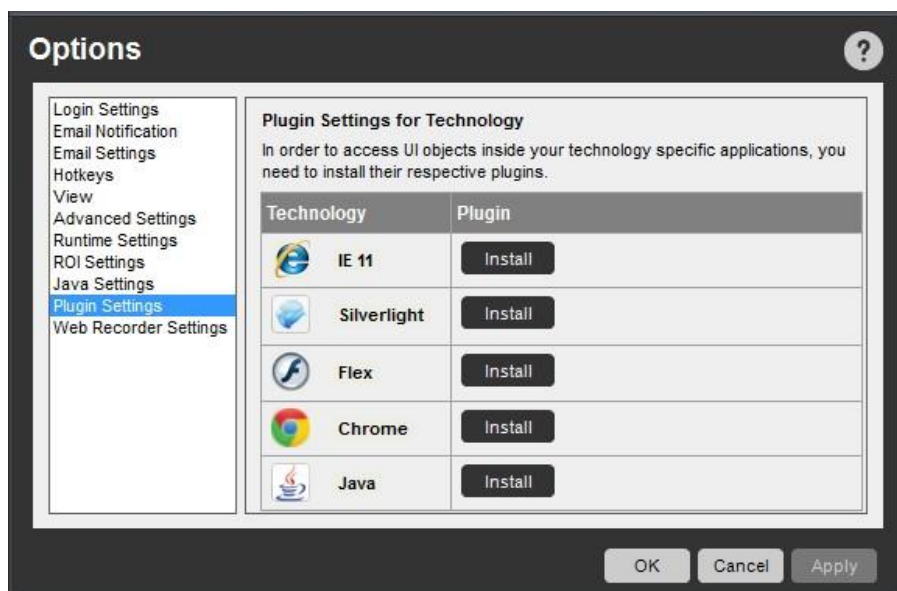
## プラグイン設定を使用する

Automation Anywhere では、テクノロジー固有のアプリケーションで UI オブジェクトへのアクセスを可能にするプラグインをインストール/再インストールできます。

この機能は、次を記録し、実行するときに活用できます:

- Internet Explorer 11、Chrome、Edge の Web ベースタスク
- Silverlight、Flex、Java テクノロジーを使用するアプリケーション

これらのプラグインをインストールするには、[Tools] (ツール) → [Options] (オプション) → [Plugin Settings] (プラグイン設定) の順に進みます。



[Options] (オプション)メニューからのインストールが便利です。プラグインがインストールされているかどうかを確認できるのみならず、クライアントのインストール中にプラグインをインストールできなかった場合に任意でインストールできます。

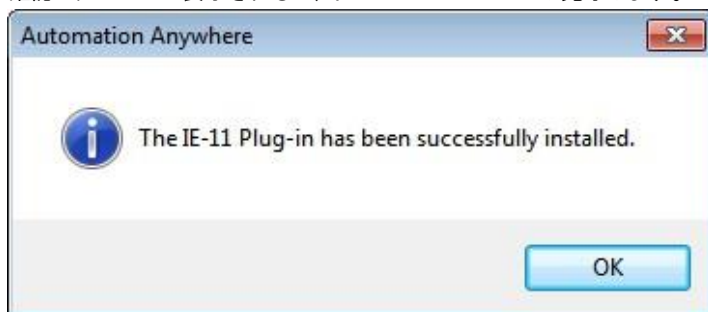
#### Internet Explorer 11 プラグインをインストールする


Internet Explorer 11 で Web Recorder タスクを記録し、実行する場合、プラグインをインストールする必要があります。

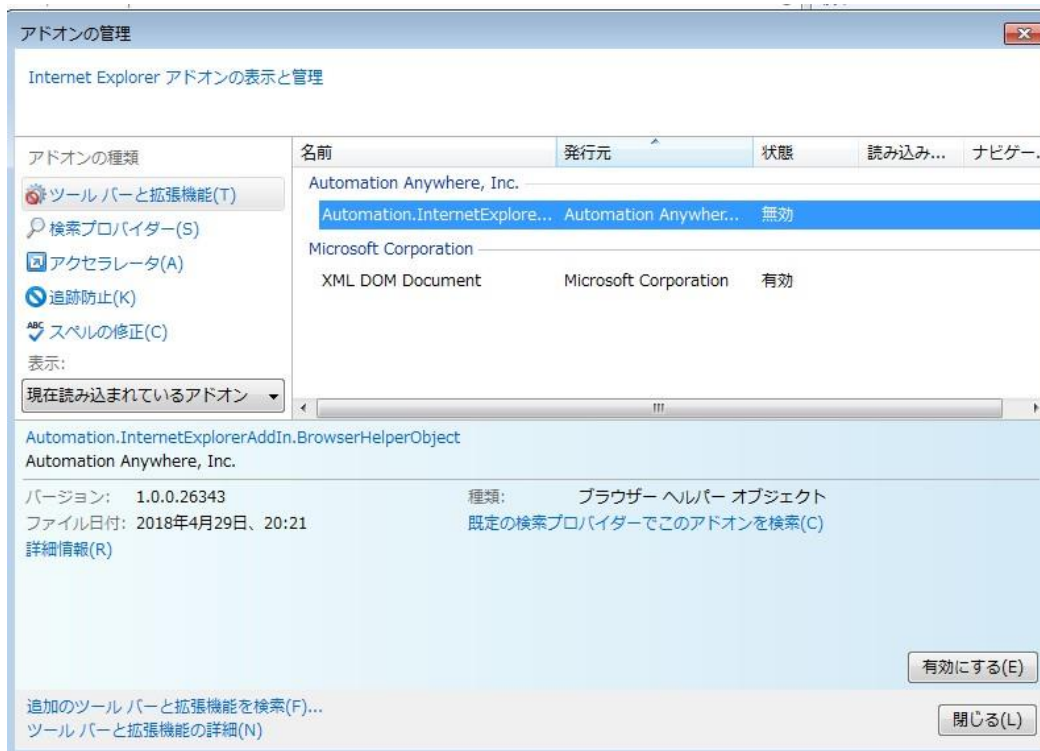
1. IE 11 プラグインをインストールするには、[Tools] (ツール)→[Options] (オプション)→[Plugin] (プラグイン)の順に進みます。
2. IE 11 に対応する列で[Install] (インストール)をクリックします。



- 確認メッセージが表示されると、インストールプロセスは完了します。



 備考: ブラウザーの[ツール]→[アドオンの管理]で IE 11 プラグインがインストールされているかどうかを確認できます。



### インストールの前提条件

[管理者として実行]モードで Automation Anywhere を実行することをお勧めします。

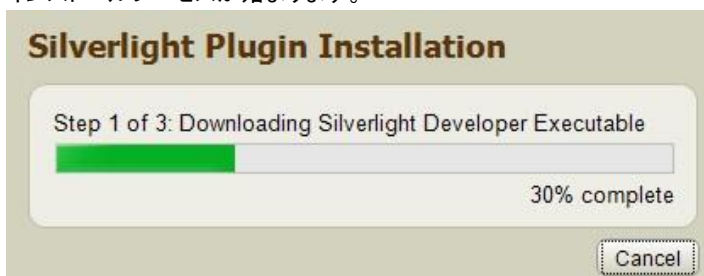
Windows Server 2012 をお使いの場合、次の点にご留意ください。

- IE の高度なセキュリティを「オフ」にしてください。
- IE の [拡張保護モードを有効にする] のチェックを外してください。(IE で [設定]->[インターネット オプション]->[詳細設定] タブ->[セキュリティ] の順に進みます。)

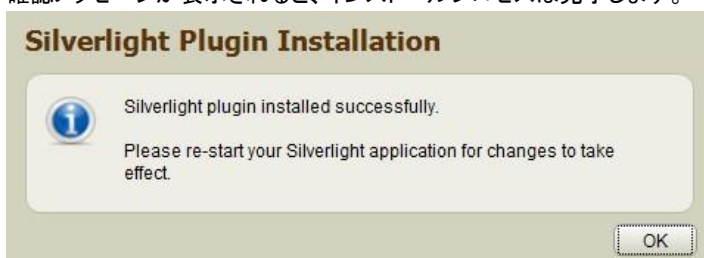
### Silverlight プラグインをインストールする

Silverlight を使用するアプリケーションのタスクを記録し、そのタスクを実行するためには、関連プラグインをインストールする必要があります。クライアントで管理者モードになっていなければ管理者モードに切り替えてから、以下のステップを順に行います。

1. [Tools] (ツール)->[Options] (オプション)->[Plugin Settings] (プラグイン設定)に進みます。
  2. [Silverlight]に対応する列で[Install] (インストール)をクリックします。
- インストールプロセスが始まります。



- 確認メッセージが表示されると、インストールプロセスは完了します。



### Flex プラグインをインストールする

Flex を使用するアプリケーションのタスクを記録し、そのタスクを実行するためには、関連プラグインをインストールする必要があります。クライアントで管理者モードになっていなければ管理者モードに切り替えてから、以下のステップを順に行います。

1. [Tools] (ツール) → [Options] (オプション) → [Plugin Settings] (プラグイン設定) に進みます。
2. [Flex] に対応する列で [Install] (インストール) をクリックします。
  - インストールプロセスが始まります。



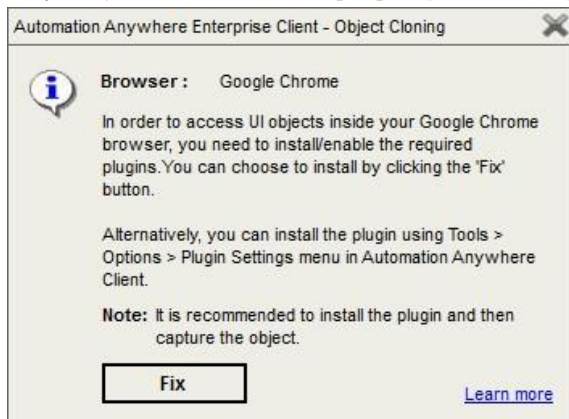
- 確認メッセージが表示されると、インストールプロセスは完了します。



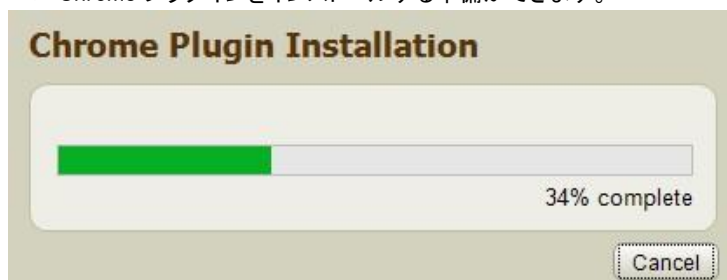
#### Chrome プラグインをインストールする

Object Cloning (オブジェクトクローニング) コマンドの使用時、Google Chrome でオブジェクトをキャプチャするには、Chrome プラグインをインストールし、有効にする必要があります。このプラグインは 2 通りの方法でインストールできます。

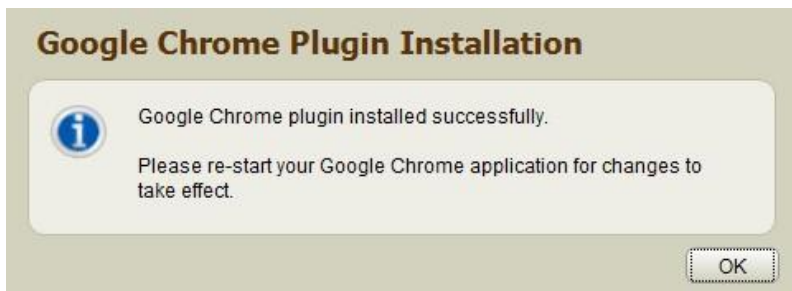
1. Automation Anywhere Enterprise Client をインストール中。詳しくはインストールガイドをご覧ください。
2. 記録中に表示されるウィンドウで [Fix] (修復) オプションを使用する。



3. [Tools] (ツール) → [Options] (オプション) → [Plugin Settings] (プラグイン設定) メニューに進み、[Install] (インストール) をクリックします。
  - Chrome プラグインをインストールする準備ができます。



- 確認メッセージが表示されると、インストールプロセスは完了します。



**ヒント:** Chrome に Automation Anywhere Enterprise 拡張を追加するには、[Open Folder] (フォルダーを開く) オプションを使用し、ブラウザーに拡張をドラッグアンドドロップするか、[Fix] (修復) を使用します。

コマンドラインサイレントモードでコマンドラインを使用して Chrome プラグインをインストールすることもできます

1. 管理者モードでコマンドウィンドウを起動します。
2. アプリケーションのインストールパスに進みます。
3. 必要なパラメーターを以下のように入力します。

```
"C:\Program Files (x86)\Automation Anywhere Enterprise\Client\AAPuginInstallation.exe" /chrome /silent
```

**備考:** 上の例に示すように、指定するパラメーターの前にスペースを入れておくことが重要です。

**ヒント:** silent パラメーターは、プラグインをサイレントモードでインストールします。これによりシステムからのメッセージが表示されなくなります。

#### Java プラグインをインストールする

Java テクノロジーを利用するアプリケーションの自動化 (記録と再生) を実行するには、Java プラグインをインストールする必要があります。ユーザーインターフェイスまたはコマンドラインを使用してプラグインをインストールできます。

**備考:** AAE 10 SP2 以降では、AAE が動的な Java アプリケーション (パッケージ化された JRE から実行されるスタンドアロン Java アプリケーション) の自動化をサポートする場合、AAE Java プラグインをインストールしなくても、デスクトップ (スタンドアロン) の Java アプリケーション (JRE 6 以降のバージョンで実行) をオートメーションできます。ただし、Web ベースの Java アプリケーションを自動化するには、引き続き AAE Java プラグインが必要です。

#### ユーザーインターフェイス

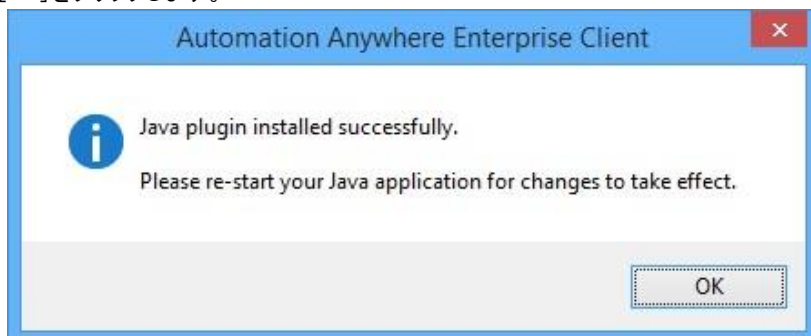
1. 管理者モードでアプリケーションを実行します。
2. [Tools] (ツール) → [Options] (オプション) → [Plugin Settings] (プラグイン設定) に進みます。
3. Java の [Install] (インストール) をクリックします。

Install

- Java プラグインがインストールされます。

**備考:** インストールされているすべての JRE が自動的に構成され、Java 設定に一覧表示されます。「[Java 設定](#)」を参照してください。

4. [OK] をクリックします。






## コマンドライン


コマンドラインを使用し、Java プラグインをインストール、再インストール、アンインストールできます。サイレントモードでプラグインをインストールすることもできます。

コマンドラインからインストール、再インストール、アンインストールするには、

1. 管理者モードでコマンドウィンドウを起動します。
2. アプリケーションのインストールパスに進みます。
3. 必要なパラメーターを以下のように入力します。

```
C:\Program Files(x86)\Automation Anywhere\Enterprise\Client> AAPluginInstallation.exe /java /install /silent /"C:\Program Files\Java\jre1.8.0_112"
```

 備考: 上の例に示すように、指定するパラメーターの前にスペースを入れておくことが重要です。

 ヒント: silent パラメーターは、プラグインをサイレントモードでインストールします。これによりシステムからのメッセージが表示されなくなります。

## パラメーター


1. /install - Java プラグインをインストールします。
2. /uninstall - Java プラグインをアンインストールします。
3. /reinstall - Java プラグインを再インストールします。
4. /silent - Java プラグインをサイレントモードでインストール、アンインストール、再インストールします。
5. /jrePath - ユーザーが Java プラグインをインストールする際の JRE のパスです。

## Edge プラグインをインストールする

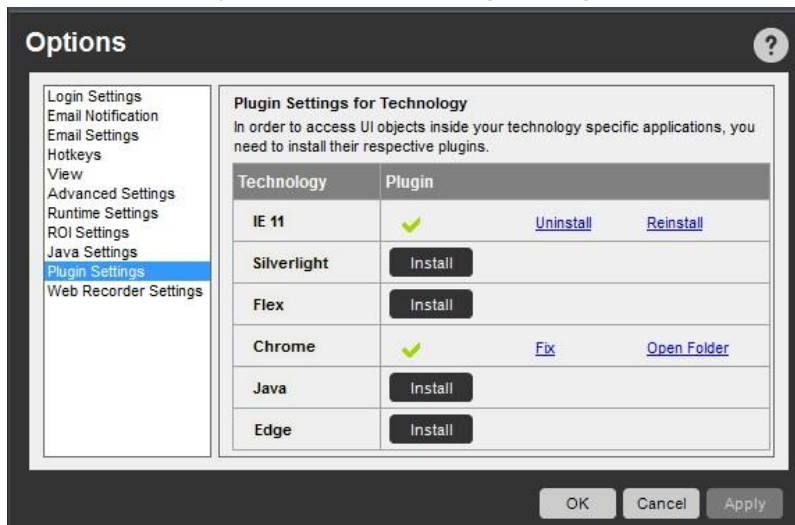
Microsoft Windows 10 が実行されているコンピューターでのみ利用できます。

Microsoft Windows 10 の Web ベース自動化の記録を有効にするために、次の 3 つのいずれかの方法で Edge プラグインをインストールできます。

1. Client をインストールしているとき
2. Client の [Tools] (ツール) メニューから
3. コマンドラインから

 重要: プラグインをインストールするには、コンピューター上で開いているあらゆる Edge ブラウザーセッションを閉じる必要があります。

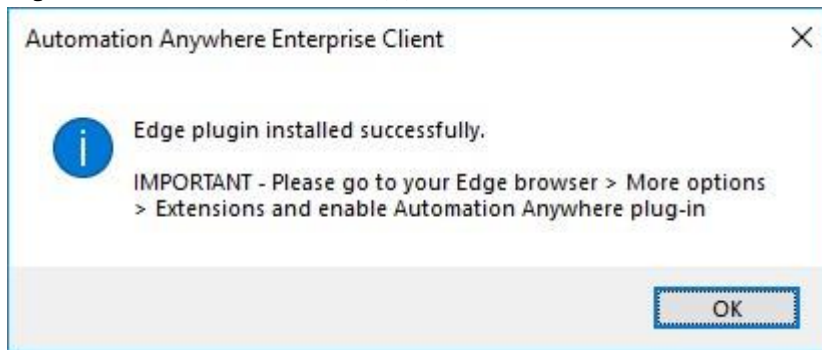
1. AAE Client のインストール時に、プラグインをインストールできます。詳しくは『Client インストールガイド』をご覧ください。
2. [Tools] (ツール) メニューの AAE Client オプションから:
  - a. 管理者モードでアプリケーションを実行します。
  - b. [Tools] (ツール) → [Options] (オプション) → [Plugin Settings] (プラグイン設定) の順に進みます。



- c. Edge の  をクリックする



- d. Edge プラグインがインストールされます。



- e. Edge ブラウザーの設定から拡張機能を有効にしてください。



Edge ブラウザーの拡張機能追加については、[Microsoft リンク](#)をご覧ください。


- f. プラグインを有効にすると、拡張ペインにプラグインが表示されます。




### 3. コマンドラインから:

- 管理者モードでコマンドプロンプトを実行します。
- アプリケーションのインストールパスに進みます。
- 必要なパラメーターを以下のように入力します。

```
C:\Program Files (x86)\Automation Anywhere\Enterprise\Client> AAPuginInstallation.exe /edge /install /silent
```

 備考: コマンドラインを利用してプラグインを再インストールすることもできます。インストールの代わりに再インストールのパラメーターを使用します。

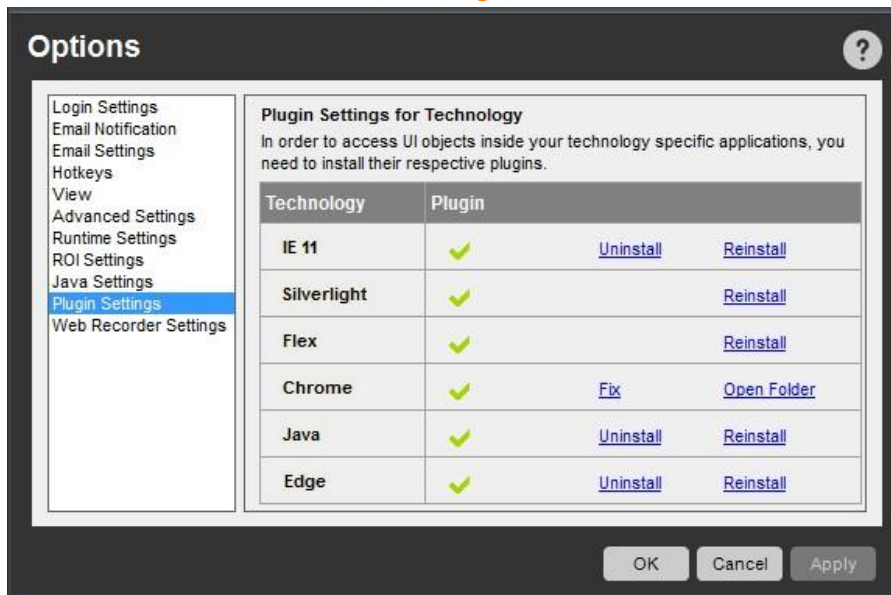
 ヒント: silent パラメーターは、プラグインをサイレントモードでインストールします。これによりシステムからのメッセージが表示されなくなります。

#### パラメーター

1. /install - Edge プラグインをインストールします。
2. /uninstall - Edge プラグインをアンインストールします。
3. /reinstall - Edge プラグインを再インストールします。
4. /silent - Edge プラグインをサイレントモードでインストール、アンインストール、再インストールします。プラグインの再インストールとアンインストール


後にプラグインを再インストールまたはアンインストールすることになった場合、[Plugin Settings] (プラグイン設定) の [Reinstall] (再インストール) または [Uninstall] (アンインストール) をクリックします。\*

\*アンインストールと再インストールは、IE11、Edge、Java プラグインでのみオプションとして利用できます。



プラグインをアンインストールするには、次の手順に従います。

1. IE-11 - [Plugin] (プラグイン) 列にある [Uninstall] (アンインストール) リンクを使用します (上の画像を参照)。
2. Silverlight - [コントロール パネル] → [アンインストール] から Microsoft Silverlight プログラムをアンインストールするか、プログラムを変更します。
3. Flex - [コントロール パネル] → [アンインストール] から Adobe Flash Player xx NPAPI をアンインストールするか、プログラムを変更します。

 備考: AAE には、Silverlight プラグインと Flex/Flash プラグインをアンインストールする手段がありません。他のアプリケーションで使用されている可能性があるためです。

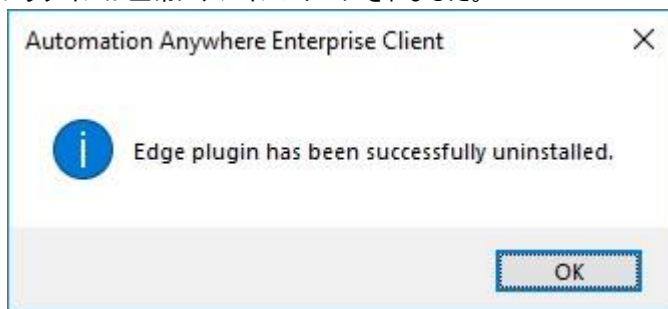
4. Chrome - [Chrome] → [拡張機能] ページから Chrome プラグインをアンインストールします。

 備考: AAE では、[Tools] (ツール) → [Options] (オプション) → [Plugin] (プラグイン) からこのプラグインをアンインストールできません。

5. Java - [Plugin] (プラグイン) 列にある [Uninstall] (アンインストール) リンクを使用し (上の画像をご覧ください)、下記の手順に従います。
  1. [コントロール パネル] → [簡単操作] → [コンピューターの簡単操作センター] → [コンピューターを画面なしで使用します] で [Enable Java Access Bridge] (Java アクセブリッジの有効化) チェックボックスの選択を解除します。
  2. Automation.JavaAccessBridge64.dll と WindowsAccessBridge-32.dll という 2 つのファイルを AAE Client のインストール場所から削除します。
6. Edge - 3 つの方法のいずれかを利用して Edge をアンインストールできます。
  - a. [Plugin] (プラグイン) 列にある [Uninstall] (アンインストール) リンクを使用する
  - b. Edge ブラウザーの拡張機能にあるアンインストールオプションを使用する



- プラグインが正常にアンインストールされました。



c. コマンドラインを使用する:

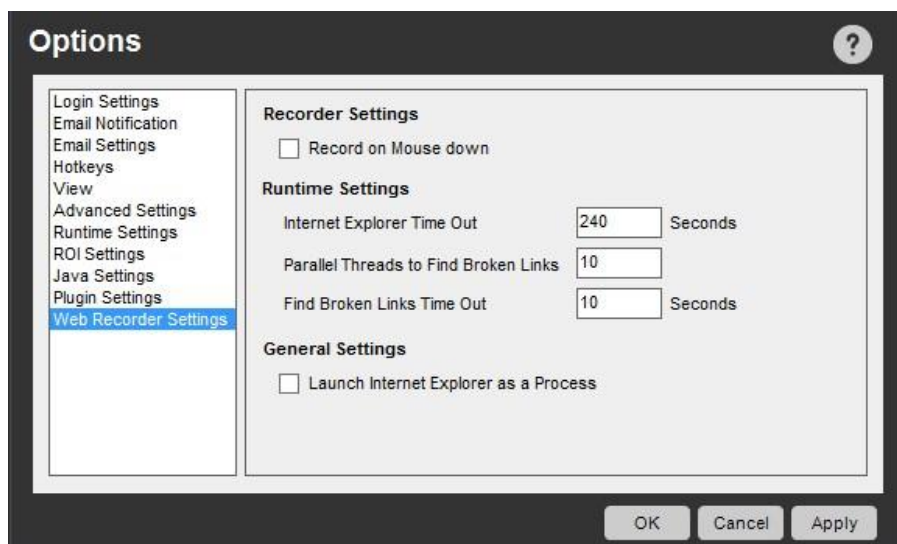
- 管理者モードでコマンドプロンプトを実行します。
- アプリケーションのインストールパスに進みます。
- 必要なパラメーターを以下のように入力します。

```
C:\Program Files (x86)\Automation Anywhere\Enterprise\Client> AAPluginInstallation.exe /edge /uninstall
```

Web Recorder の設定を設定する

バージョン 9.0 以降で対応

Automation Anywhere で Web 対応のタスクを自動化するには、[Tools] (ツール) > [Options] (オプション) > [Web Recorder Settings] (Web Recorder 設定) で [Web Recorder] 設定を指定します。



### 記録時

1. Record on Mouse Down (マウスボタンを押すときに記録) - マウスボタンを押すとき(スクロール中など)を使用して Web Recorder でタスクを記録する場合はこのオプションを選択します。

### 再生時間

1. Internet Explorer Time Out (Internet Explorer のタイムアウト) - 必要なページがアップロードされるまで Internet Explorer ブラウザーが待機する時間(秒)を定義します。最大の許容タイムアウトは 240 秒です。
2. Parallel Threads to Find Broken Links (破損リンク検索のための並列スレッド) - ここには同時に処理できる破損リンクの数を入力します。デフォルト値は「10」に設定されています。
3. Find Broken Links Time Out (破損リンク検索のタイムアウト) - Web Recorder で「破損リンク」が表示されるまで待機します。デフォルト値は「10」に設定されています。

### 一般的な設定

1. Launch Internet Explorer as a Process (Internet Explorer をプロセスとして起動) - セキュリティが厳格な環境で記録する場合はこのオプションを有効にします。

---

## 関連トピック

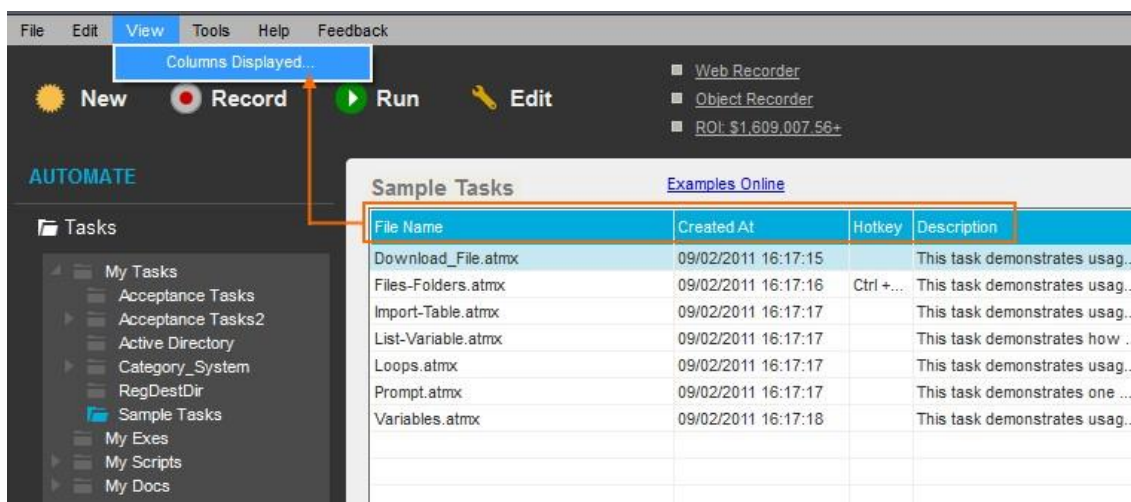
- [Advanced Settings \(詳細設定\) を使用する](#) • [自動ログインオプションを使用する](#)
- [Email Notifications \(メール通知\) を設定する](#) • [Client の Hotkey を定義する](#)
- [View \(表示\) オプションを設定する](#)
- [ランタイム設定を使用する](#)
- [ROI Settings \(ROI\) 設定を使用する](#)
- [タスクリストビューをカスタマイズする](#)

### タスクリストビューをカスタマイズする

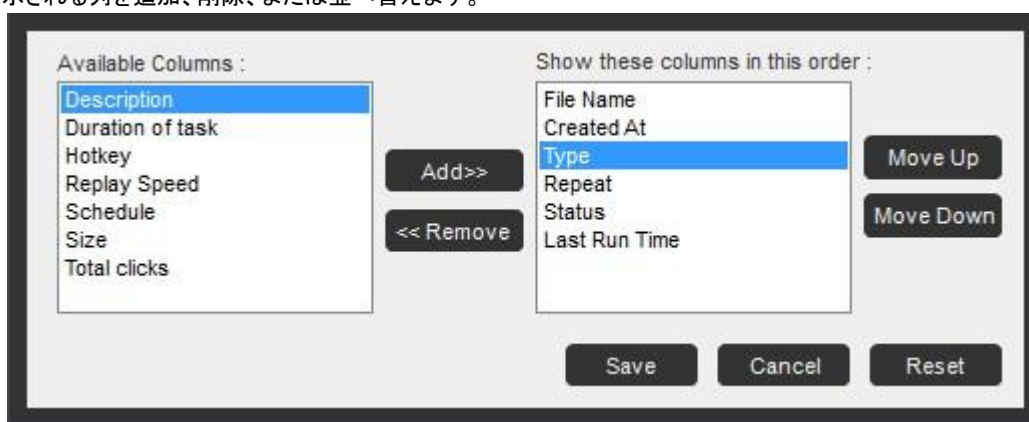
タスクリストから特定の列を削除して表示されないようにすると、使いやすくなる場合があります。

以下の手順に従って、タスクリスト列の表示をカスタマイズできます。

1. Automation Anywhere メインウィンドウで、[View] (ビュー) → [Columns Displayed] (表示される列) をクリックします。



2. 表示される列を追加、削除、または並べ替えます。



3. 表示の変更内容を保存、キャンセルまたはリセットします。

列を追加する


使用可能な列のリストから列を選択し、[Add] (追加) をクリックします。

新しく追加された列が右側のリストに表示されます。

列を削除する

[Show these columns in this order:] (この順序で列を表示:) の下に表示される右側のリストから列を選択し、[Remove] (削除) をクリックします。

列がリストから削除され、左側の [Available Columns:] (使用可能な列:) リストに戻されます。

 備考: [File Name] (ファイル名) 列は必須列であり、ビューから削除できません。

列を並べ替える

[Move Up] (上に移動) ボタンと [Move Down] (下に移動) ボタンを使用して、ビューの列の位置を左から右に変更します。上から下にリストされる列は、タスクリストビューでは左から右に表示されます。

変更を保存する


[Save] (保存) をクリックし、ビューに加えた変更を保存して、タスクリストに適用します。

変更をキャンセルする

[Cancel] (キャンセル) をクリックし、ビューに加えた変更を破棄します。

表示をデフォルトにリセットする

[Reset] (リセット) をクリックし、タスクリストビューでデフォルトの列設定を復元します。

 備考: デフォルトの列順序は、[File Name] (ファイル名)、[Type] (タイプ)、[Repeat] (繰り返し)、[Status] (ステータス)、[Last Run Time] (最後の実行時間) です。

---

---

## 関連トピック

- [自動ログインオプションを使用する](#)
- [Email Notifications\(メール通知\)を設定する](#)
  - [View\(表示\)オプションを設定する](#)
- [Advanced Settings\(詳細設定\)を使用する](#)
  - [ランタイム設定を使用する](#)
- [ROI Settings \(ROI\) 設定を使用する](#) • [Client の Hotkey を定義する](#)

## ユーザーアクセス制御とデータ実行防止を設定する

場合によっては、Windows 7などで Automation Anywhere を使用する場合に、ユーザーアクセス制御(UAC)設定とデータ実行防止(DEP)設定を変更する必要があります。

Windows Vista 以降の OS を実行するマシンで確実に動作をスムーズにするには、次の手順を実行します。

- Automation Anywhere を実行しているコンピューターでユーザーアクセス制御(UAC)がオンになっているかどうか確認します。
  - Windows のデスクトップで、[スタート]>[コントロールパネル]>[ユーザーアカウント]>[ユーザーアカウント制御設定の変更]をクリックします。
  - スライダーを下にドラッグして、[通知しない]に設定します。
- [データ実行防止(DEP)]の下の例外リストに Automation Anywhere を追加します。
  - Windows のデスクトップで、[スタート]>[コントロールパネル]>[システム]>[システムの詳細設定]をクリックします。
  - [詳細設定]タブで、[パフォーマンス]領域の[設定]ボタンをクリックします。
  - [データ実行防止]タブをクリックして、[次に選択するものを除くすべてのプログラムおよびサービスについて DEP を有効にする:]オプションを選択します。
  - [追加]ボタンをクリックして、リストに Automation Anywhere.exe (Program Files (x86)\Automation Anywhere\Enterprise\Client) フォルダーを追加します。
  - [適用]をクリックして [OK] をクリックします。
- コンピューターを再起動して、新しい設定が有効になっていることを確認します。

---

### 関連トピック

- [自動ログインオプションを使用する](#)
- [Email Notifications \(メール通知\)を設定する](#) • [Client の Hotkey を定義する](#)
- [View \(表示\) オプションを設定する](#)
- [Advanced Settings \(詳細設定\)を使用する](#) • [ランタイム設定を使用する](#) • [ROI 設定を使用する](#)
- [タスクリストビューをカスタマイズする](#)

## セクション: 特殊機能を使用する



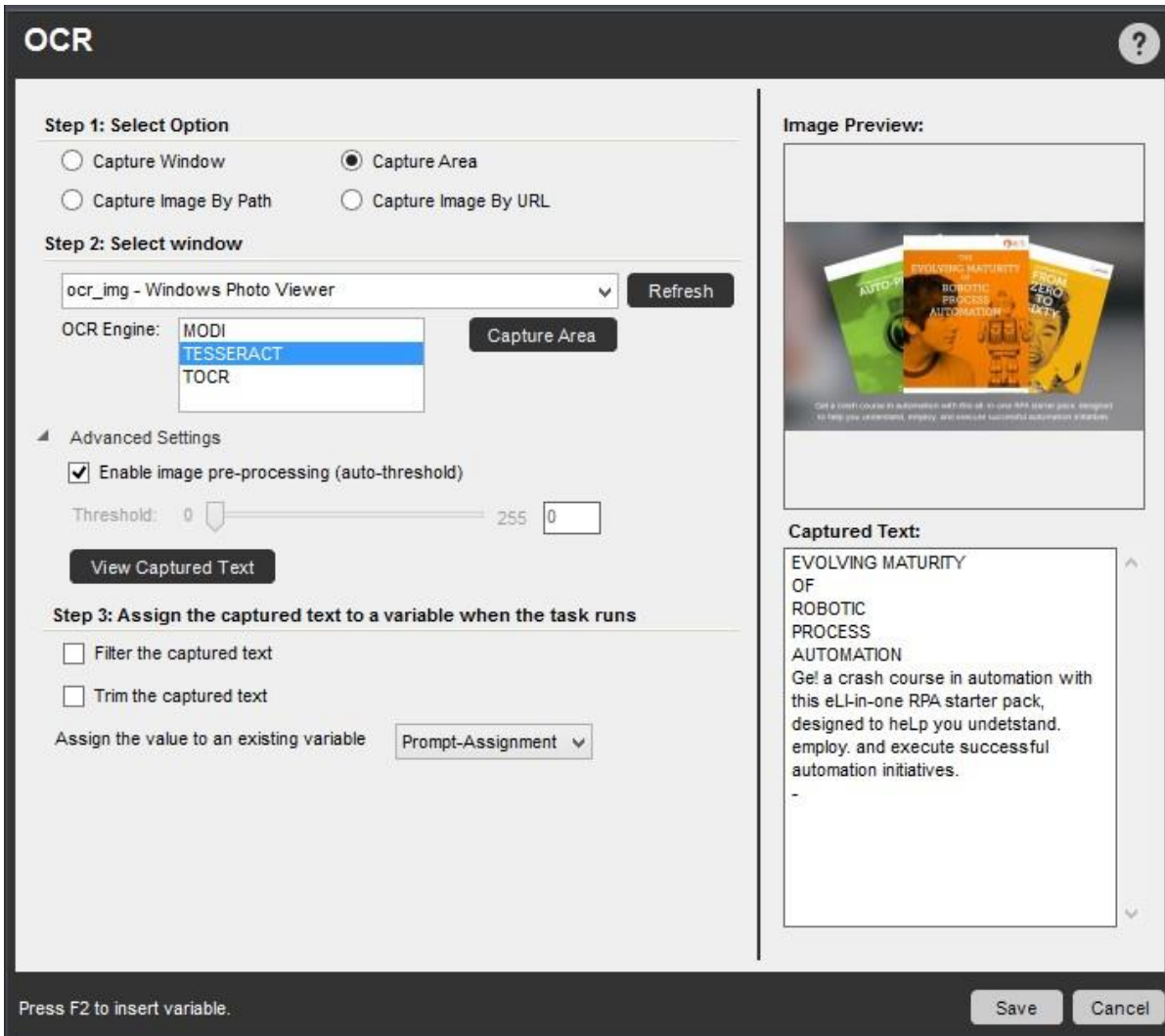
## OCR 機能を使用する

OCRFeature(OCR 機能)コマンドには以下のオプションがあります。

- Capture Window(ウィンドウをキャプチャ): ウィンドウタイトルを指定します。Automation Anywhere はウィンドウを画像としてキャプチャします。
- Capture Area(範囲をキャプチャ): キャプチャするウィンドウの特定の範囲を指定します。
- Capture Image By Path(パスによる画像キャプチャ): ローカルまたはネットワークドライブに保存した画像に含まれるテキストを抽出するには、ファイルの場所を指定します。このドライブはタスクを実行するときにアクセス可能である必要があります。
- Capture Image by URL(URL で画像をキャプチャ): キャプチャする画像が含まれる Web サイトの URL を指定します。

キーワードを使用してキャプチャしたテキストを特定する

キャプチャ対象のテキストを簡単に指定するには、[Before] (前)および[After] (後)キーワードを使用します。たとえば、次のテキスト文字列「Name: ABC Inc. Location:」の中で、「ABC Inc.」のみをコピーする場合、[Before] (前)で「Location」を、[After] (後)で「Name:」を指定します。キャプチャしたテキストをトリミングして前後のスペースを取り除くこともできます。



## 関連トピック

- [画像認識を使用する](#) • [SnapPoint を使用する](#)
- [Report Designer を使用する](#) • [ROI Calculator を使用する](#) 画像認識を使用する

大きな画像を比較し、視覚要素を用いたアプリケーションプロセスを自動化するには、画像認識機能を使用します。

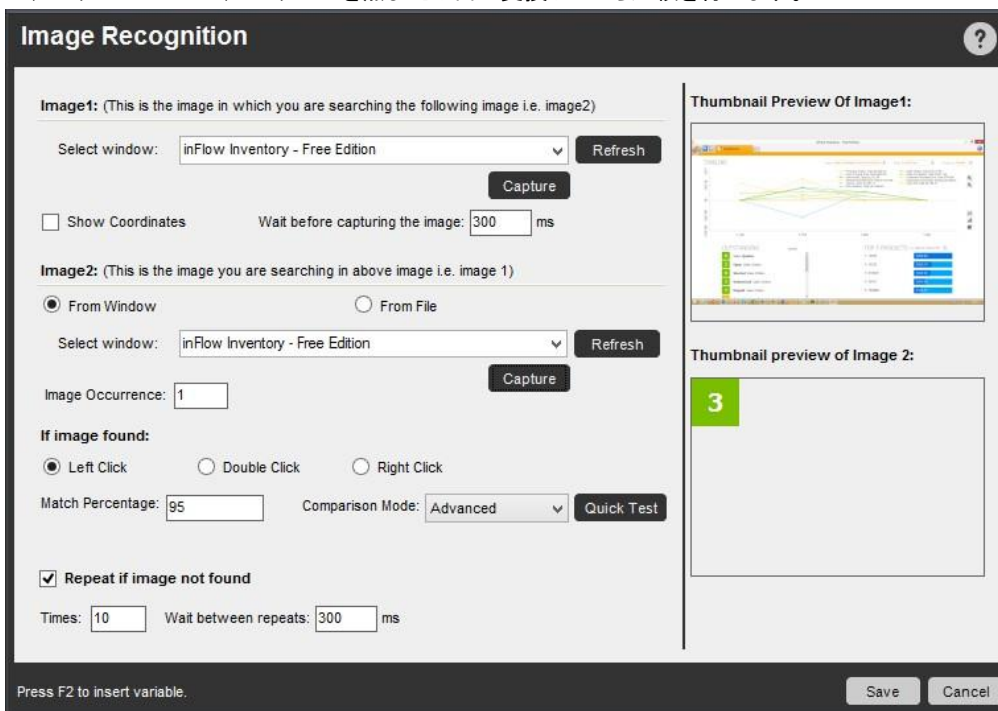
自動テストでは、ユーザーインターフェースの検証に画像認識を使用できます。現在のアプリケーション画面と予想されるアプリケーション画面とを比較できます。同様にすべてのユーザーインターフェースの要素が有効であることを確認します。

画像認識を使用して、以下のことが行えます。

- ある画像が、ファイルに保存された、または実行時にウィンドウから取得された別の画像の中のどこにあるかを探します。指定したウィンドウで実行時に動的に画像をキャプチャします。
- コマンドが True を返す最小一致率を指定します。
- 大きな画像の中に対象の画像が見つかった場合、その画像を左クリック、右クリック、またはダブルクリックします。
- 画像を BMP、JPG、GIF ファイル形式でキャプチャします。
- 2つのモードで画像を比較します。トレランスモードと比較モードです。
- **トレランスモード**：色の濃淡がある画像を比較します。色階調のチェックを実行します。

トレランスを 0% に指定すると、元の画像とピクセル色を厳密に比較します。トレランスを 10% に指定すると、元の画像と 10% (プラス/マイナス) の色調を比較します。

- **比較モード**：以下のオプションがあります。
- **通常モード**：ピクセルの RGB コンポーネントをソースと比較します。
- **グレースケールモード**：ピクセルをグレースケールに変換してから比較を行います。
- **Monochrome mode (モノクロームモード)**：ピクセルを黒または白に変換してから比較を行います。



**Image Recognition**

**Image1:** (This is the image in which you are searching the following image i.e. image2)

Select window: inFlow Inventory - Free Edition [Refresh]

Show Coordinates Wait before capturing the image: 300 ms [Capture]

**Image2:** (This is the image you are searching in above image i.e. image 1)

From Window  From File

Select window: inFlow Inventory - Free Edition [Refresh]

Image Occurrence: 1 [Capture]

**If image found:**

Left Click  Double Click  Right Click

Match Percentage: 95 Comparison Mode: Advanced [Quick Test]

Repeat if image not found


Times: 10 Wait between repeats: 300 ms


Press F2 to insert variable. [Save] [Cancel]

**Thumbnail Preview Of Image1:**

**Thumbnail preview of Image 2:**

### セキュアレコーディングが[有効]の場合

 備考：「Secure Recording mode」を有効にした場合、「Image1」と「Image2」はキャプチャされません。詳しくはこちらを参照してください。

 備考：「Secure Recording mode」が有効のときに「Image2」をキャプチャしようとする、「Secure Recording mode. Ensure that the 'Image2' does not show any secure data (セキュアレコーディングモードです。『Image2』にセキュアなデータが表示されていないことを確認してください)」というエラーメッセージが表示されます。

### Image Recognition

**Image1:** (This is the image in which you are searching the following image i.e. image2)

Select window:  Refresh

Capture

Show Coordinates      Wait before capturing the image:  ms

**Image2:** (This is the image you are searching in above image i.e. image 1)

From Window       From File

Select window:  Refresh

Capture

Image Occurrence:

**If image found:**

Left Click       Double Click       Right Click

Match Percentage:       Comparison Mode:  Quick Test

Tolerance:


Repeat if image not found

Times:       Wait between repeats:  ms


Press F2 to insert variable.

Save Cancel

**Thumbnail Preview Of Image1:**



**Thumbnail preview of Image 2:**



## 関連トピック

- OCR 機能を使用する
- SnapPoint を使用する
- Report Designer を使用する
- ROI Calculator を使用する
- SnapPoint を使用する

SnapPoint 機能を使用し、自動化タスクにスクリーンショットを追加したり、タスクの実行時にスクリーンショットを再キャプチャしたりします。

タスク記録中に画像をキャプチャする

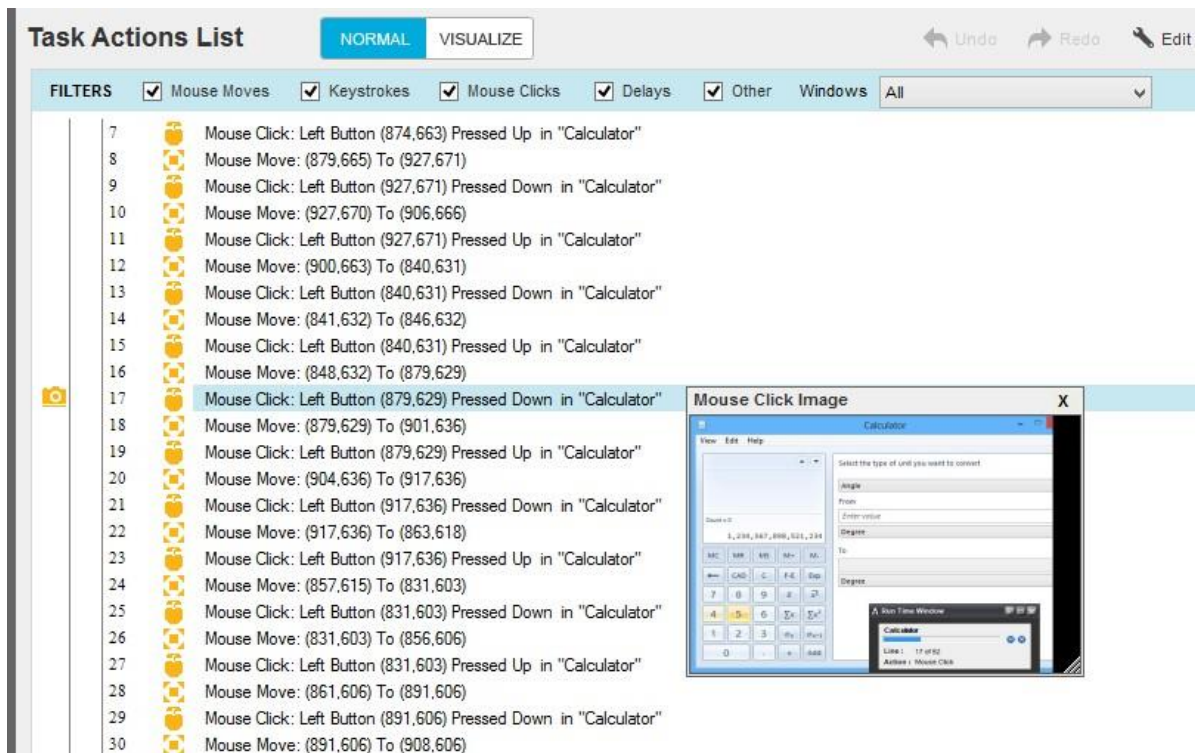
Automation Anywhere は、自動化タスクを作成しながらスクリーンショット画像をキャプチャし、表示するための最新技術を備えています。

 備考: 「Secure Recording mode」を有効にした場合、値や画像はキャプチャされません。詳しくは[こちらを参照してください](#)。

スクリーンショットをキャプチャするには、[Tools] (ツール) メニューをクリックし、[Options] (オプション) を選択し、[Advanced Settings] (高度な設定) を選択します。[Capture Screenshots While Recording] (記録中にスクリーンショットをキャプチャ) をクリックします。

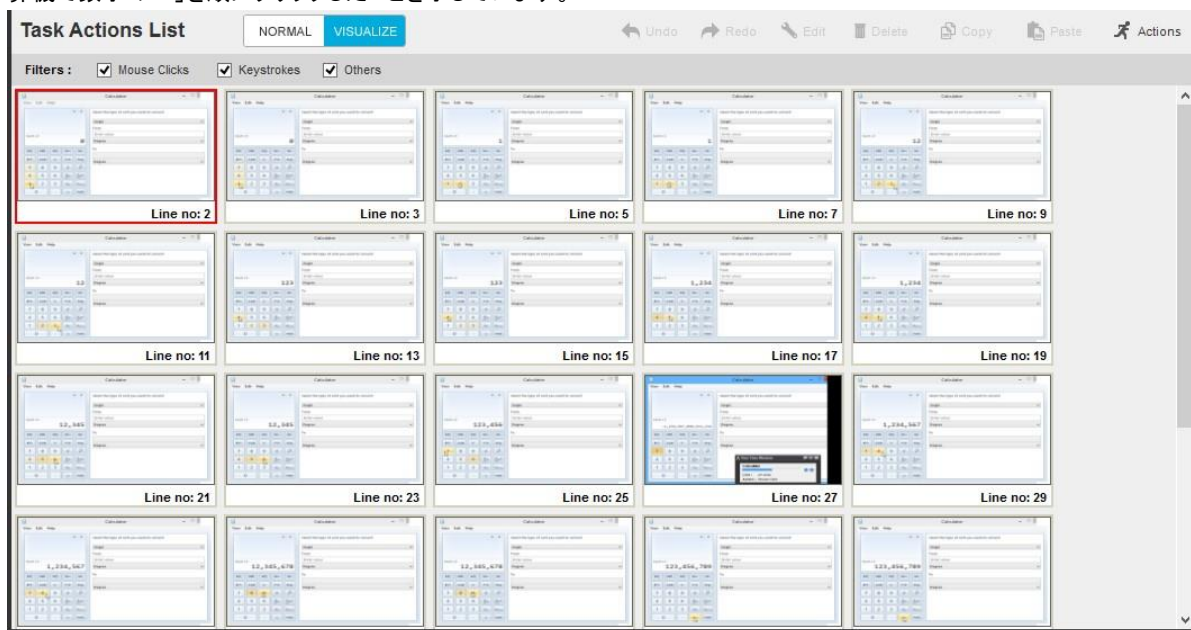
Workbench 内で画像のサイズを変更したり、画像を目的の場所に移動したりできます。記録中、キャプチャ画像はアクティブウィンドウとなり、マウスカーソルの位置を正確に示します。

たとえば、次のスクリーンショットでは、タスクの行番号 24 の「Mouse Click: Left Button on 2 in Calculator」(計算機の 2 で左クリック) で、Windows 計算機を示す該当画像を確認できます。



[Visualize] (視覚化) タブを使用する

Workbench の [Visualize] (視覚化) タブを使用し、現在のタスクを完全なグラフィックレイアウトで表示します。次のスクリーンショットでは、[Visualize] (視覚化) タブをクリックした後のタスクを確認できます。この例では、[Start] (開始)、[Run] (実行)、[Run] (実行) ウィンドウで [OK]、計算機で数字の「1」を順にクリックしたことを示しています。



SnapPoints を設定して画像を更新する

Workbench を使用して手動でタスクを作成するとき、あるいは記録したタスクを修正するとき、記録中にキャプチャした画像が最新の状態ではないことがあります。Automation Anywhere では、便利な方法で画像を更新できます。それが SnapPoints です。

SnapPoints を設定するには、[Set SnapPoint] (SnapPoint の設定) ボタンをクリックします。これで、下の画像のように、行番号の左にある列で SnapPoints を設定できます。SnapPoints の設定後にタスクを実行すると、Automation Anywhere では、SnapPoints を設定したコマンドに対して画像が再キャプチャされます。

タスクの実行後に画像がキャプチャされます。



Task Actions List		NORMAL	VISUALIZE
FILTERS <input checked="" type="checkbox"/> Mouse Moves <input checked="" type="checkbox"/> Keystrokes <input checked="" type="checkbox"/> Mouse Clicks <input checked="" type="checkbox"/> Delays			
1		Mouse Move: (716,300) To (843,667)	
2		Mouse Click: Left Button (843,667) Pressed Down in "Calculator"	
3		Mouse Click: Left Button (843,667) Pressed Up in "Calculator"	
4		Mouse Move: (843,667) To (874,663)	
5		Mouse Click: Left Button (874,663) Pressed Down in "Calculator"	
6		Mouse Move: (875,663) To (877,665)	
7		Mouse Click: Left Button (874,663) Pressed Up in "Calculator"	
8		Mouse Move: (879,665) To (927,671)	
9		Mouse Click: Left Button (927,671) Pressed Down in "Calculator"	
10		Mouse Move: (927,670) To (906,666)	
11		Mouse Click: Left Button (927,671) Pressed Up in "Calculator"	
12		Mouse Move: (900,663) To (840,631)	
13		Mouse Click: Left Button (840,631) Pressed Down in "Calculator"	
14		Mouse Move: (841,632) To (846,632)	
15		Mouse Click: Left Button (840,631) Pressed Up in "Calculator"	
16		Mouse Move: (848,632) To (879,629)	
17		Mouse Click: Left Button (879,629) Pressed Down in "Calculator"	
18		Mouse Move: (879,629) To (901,636)	
19		Mouse Click: Left Button (879,629) Pressed Up in "Calculator"	
20		Mouse Move: (904,636) To (917,636)	

### SnapPoints をサポートするコマンド

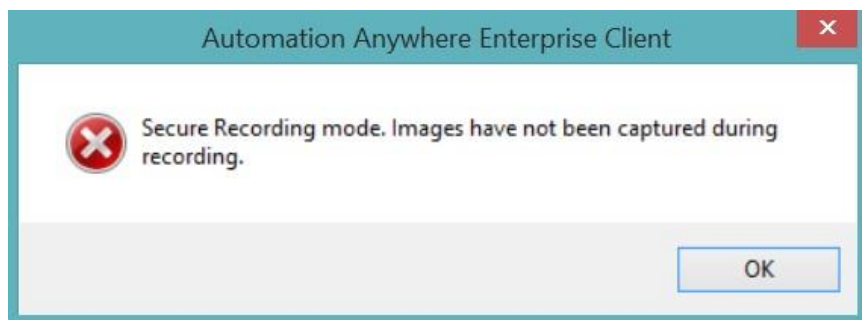
以下のコマンドは SnapPoints に対応しています。

- [Insert Keystrokes](#) (キーストロークを挿入)
- [Insert Mouse Click](#) (マウスクリックを挿入)
- [Prompt](#) (プロンプト)
- [Excel](#)
- [Web Recorder](#)
- [Window Actions](#) (ウインドウアクション)
- [Message Box](#) (メッセージボックス)
- [Manage Windows Controls](#) (ウインドウコントロールを管理)
- [Screen Capture](#) (スクリーンキャプチャ)

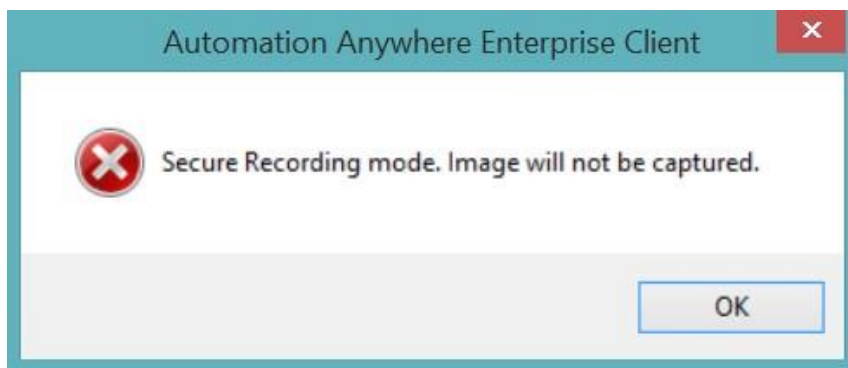
### セキュアレコーディングが[有効]の場合

備考: 「Secure Recording mode」を有効にした場合、値や画像はキャプチャされません。詳しくは[こちら](#)を参照してください。

備考: [Visualize] (視覚化) をクリックしても、[Secure Recording] (セキュアレコーディング) がオンの間は無効となります。



備考: 「Secure Recording Mode」が有効になっている場合、「SnapPoint」は無効になります。また、「Secure Recording Mode」が有効になっているときに、「Snap view」を有効にしようとすると、「Secure Recording mode. Image will not be captured」(セキュアレコーディングモードです。記録中、画像はキャプチャされていません) と表示されます。



---

### 関連トピック

- [Report Designer](#) を使用する
- [ROI Calculator](#) を使用する
- [Report Designer](#) を使用する

Automation Anywhere Report Designer を使用してオートメーションプロジェクトのレポートを実行します。これらのレポートは一定期間中の自動化されたタスクをグラフィック表示します。また、Automation Anywhere 製品を使用している組織の投資収益率 (ROI) も表示します。

---

### このセクションの内容

- [レポートとは](#)
- [レポートを実行する](#)
- [レポートを保存する](#)
- [レポートの Email Notifications \(メール通知\) を送信する](#)
- [実行するレポートのスケジュールを設定する](#)
- [実行するレポートをトリガーする](#)
- [レポートをグラフィックで表示する](#)

## レポートとは

レポートは、成功の度合いを測り、Automation Anywhere が時間の観点から組織にもたらす ROI を計算する、重要な機能です。Automation Anywhere は、タスクやワークフローのステータスを表示するグラフィカル レポートに加え、経時的な ROI を提供します。

以下のタイプのレポートを表示できます。

**Task Run (タスク実行)**: タスクが正常に実行された回数と期間中に失敗した回数を表示します。以下のワークフローに関してこのレポートを表示できます。

- デフォルトの場所に保存されているすべてのタスク(例: My Documents\Automation Anywhere\Automation Anywhere\My Tasks)
- 指定したフォルダー内のタスク • 選択したタスク。

Task Run (タスク実行) をグラフィカルに表示するには、Visualize Report (視覚化レポート) を参照してください。

**Workflow Run (ワークフロー実行)**: ワークフローが正常に実行された回数と期間中に失敗した回数を表示します。以下のワークフローに関してこのレポートを表示できます。

- デフォルトの場所に保存されているすべてのワークフロー(例: My Documents\Automation Anywhere Files\Automation Anywhere Files\My Workflow)
- 指定したフォルダー内のワークフロー • 選択したワークフロー

**Task Timeline (タスクタイムライン)**: タスク履歴をグラフィカル タイムラインで表示します。タスクとタイムラインを選択して、期間中にタスクが実行または変更された回数を表示します。また、その期間中にタスクが作成または削除されたかを示します。以下のワークフローに関してこのレポートを表示できます。

- デフォルトの場所に保存されているすべてのタスク(例: My Documents\Automation Anywhere Files\Automation Anywhere Files\My Tasks)
- 指定したフォルダー内のタスク • 選択したタスク

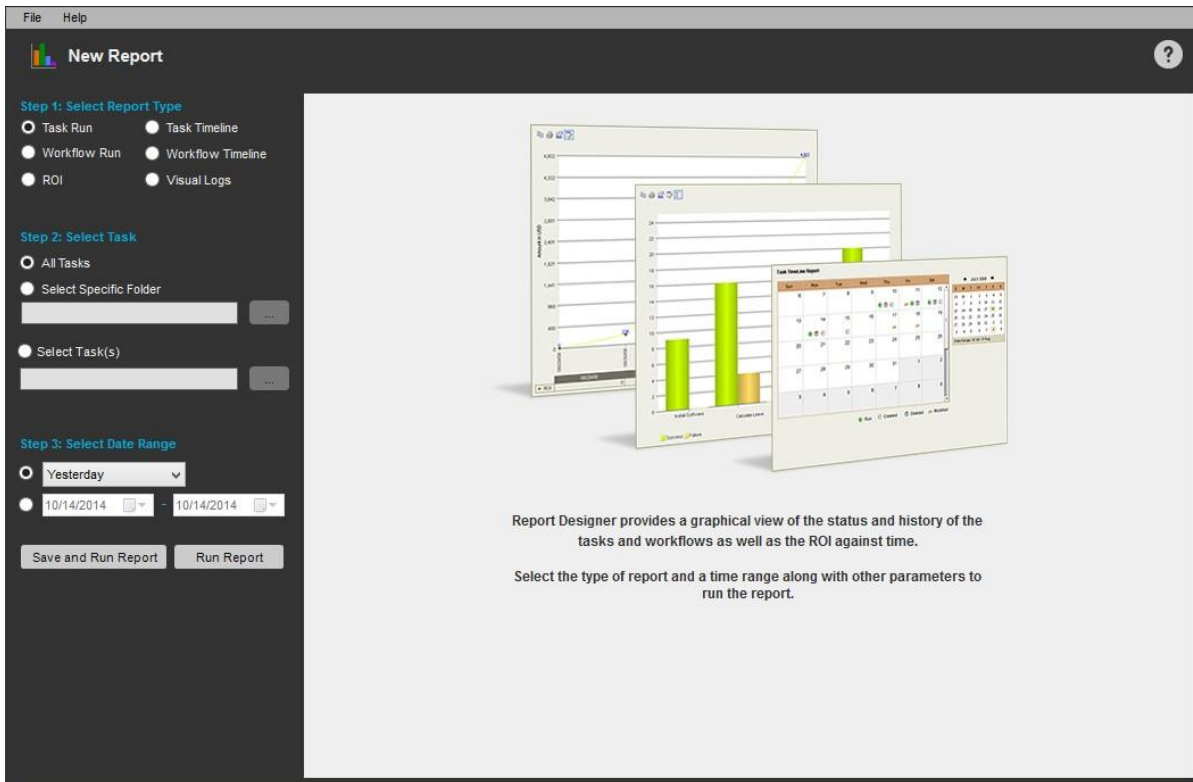
**ワークフロータイムライン**: ワークフロー履歴をグラフィカル タイムラインで表示します。ワークフローとタイムラインを選択して、期間中にワークフローが実行または変更された回数を表示できます。また、その期間にワークフローが作成または削除されたかを示します。以下のワークフローに関してこのレポートを表示できます。

- デフォルトの場所に保存されているすべてのワークフロー(例: My Documents\Automation Anywhere Files\Automation Anywhere Files\My Workflow)
- 指定したフォルダー内のワークフロー • 選択したワークフロー

**ROI**: Automation Anywhere を使用することによって、期間中に米ドル単位でどのくらい節約できたかを表示します。

**Visual Logs (視覚的ログ)**: タスク内の各アクションについてステップごとの SnapPoints を提供することで実行されたタスクをグラフィカルに表示します。





## 関連トピック

- [レポートを実行する](#) • [レポートを保存する](#)
- [レポートの Email Notifications \(メール通知\) を送信する](#) • [実行するレポートのスケジュールを設定する](#) • [実行するレポートをトリガーする](#) • [レポートをグラフィックで表示する](#)

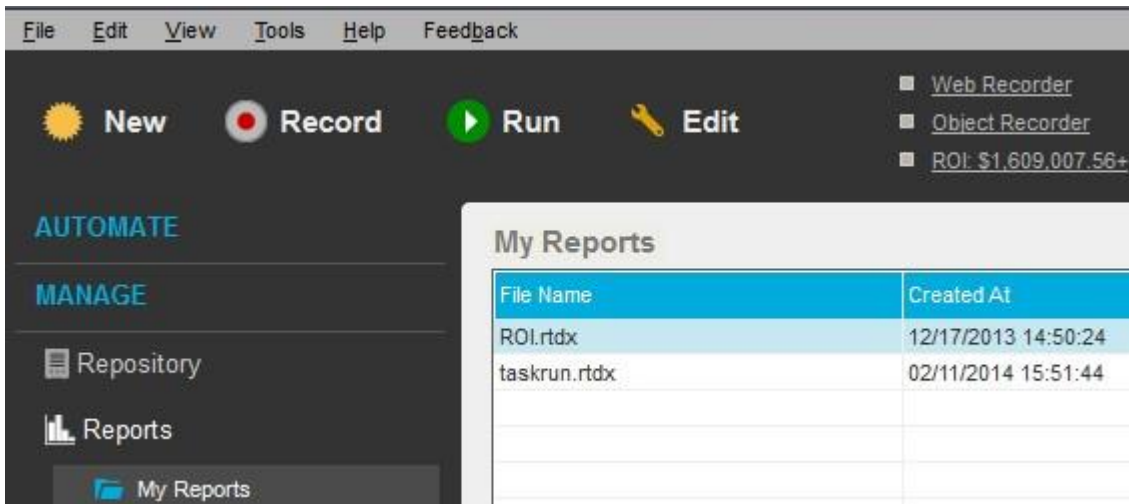
### レポートを実行する

#### レポートの実行方法

レポートの実行方法は簡単です。

レポートを実行するには、Report Designer で条件を指定し、[Run Report] (レポートを実行) をクリックします。

保存されたレポートを実行するには、タスクリストでレポートファイルをダブルクリックするか、タスクリストでレポートを選択して [Run] (実行) をクリックします。



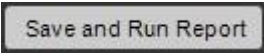
---

## 関連トピック

- [レポートとは](#)
- [レポートを保存する](#)
- [レポートの Email Notifications \(メール通知\) を送信する](#) • [実行するレポートのスケジュールを設定する](#) • [実行するレポートをトリガーする](#) • [レポートをグラフィックで表示する](#)

### レポートを保存するレポートの保存方法

条件の指定後にレポートを保存するには、[Save and Run Report] (レポートを保存して実行) をクリックします。



Automation Anywhere に選択した内容が保存され、あとで使用できるようテンプレートとしてレポートが保存されます。

レポートをイメージとして保存するには、[File] (ファイル) メニューをクリックして、[Save as Image] (イメージとして保存) を選択します。



Directory :  ...

Filename :

---

## 関連トピック

- [レポートとは](#)
- [レポートを実行する](#)
- [レポートの Email Notifications \(メール通知\) を送信する](#) • [実行するレポートのスケジュールを設定する](#) • [実行するレポートをトリガーする](#) • [レポートをグラフィックで表示する](#)

レポートの Email Notifications (メール通知) を送信する

[Notification] (通知) プロパティを使用すると、レポートの完成後にメール通知を自動的に送信できます。

メールには、画像としてのレポートとその他の有益な情報が含まれます。

---

#### 関連トピック

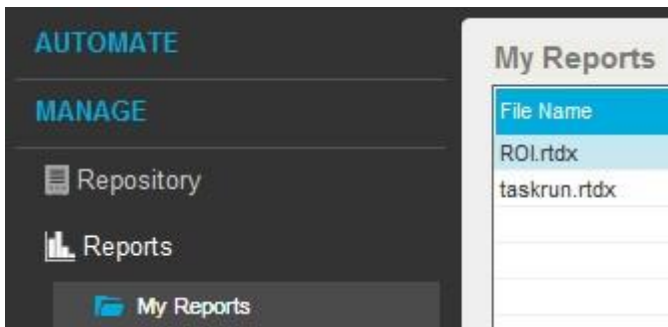
- [レポートとは](#)
- [レポートを実行する](#) • [レポートを保存する](#)
- [実行するレポートのスケジュールを設定する](#) • [実行するレポートをトリガーする](#) • [レポートをグラフィックで表示する](#)

実行するレポートのスケジュールを設定する

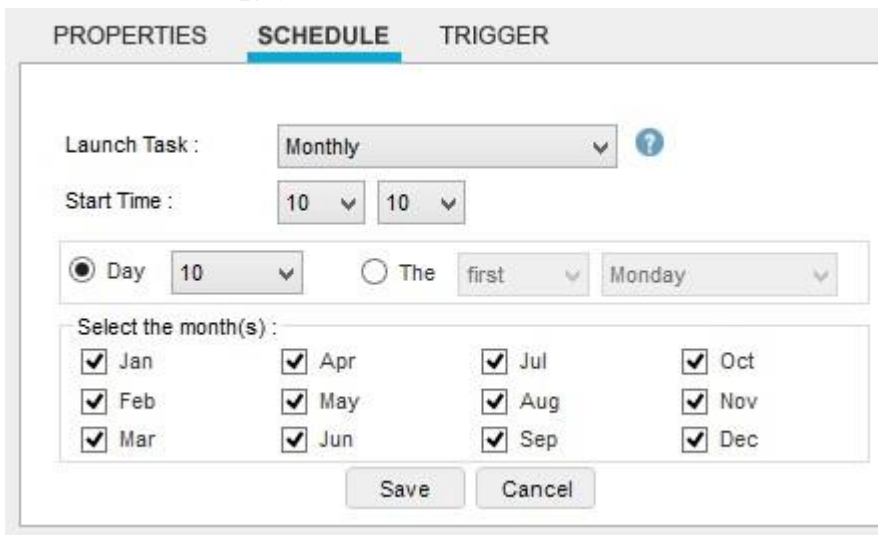
Automation Anywhere スケジューラーを使用すると、レポートの実行スケジュールを設定できます。

レポートの実行をスケジュール設定するには、次の手順を実行します。

1. [Task List] (タスクリスト) でレポートを選択します。



2. [Schedule] (スケジュール) を選択します。
3. スケジュールパラメーターを指定します。



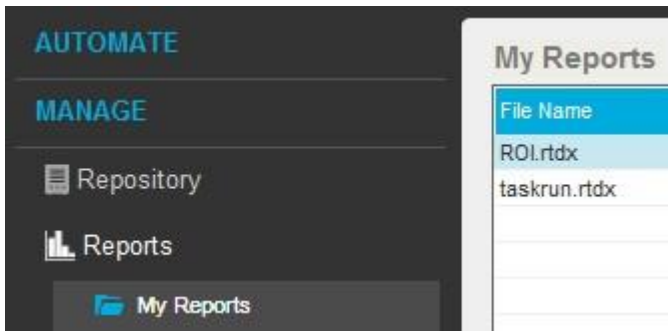
#### 関連トピック

- [レポートとは](#)
- [レポートを実行する](#) • [レポートを保存する](#)
- [レポートの Email Notifications \(メール通知\) を送信する](#)
  - [実行するレポートをトリガーする](#) • [レポートをグラフィックで表示する](#) [実行するレポートをトリガーする](#)

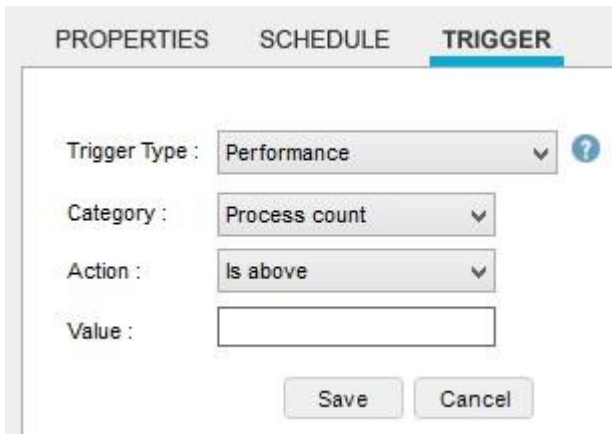
Automation Anywhere のトリガー機能を使用すると、トリガーイベントに基づいてレポートを実行できます。

実行するレポートをトリガーするには、次の手順を実行します。

1. [Task List] (タスクリスト) でレポートを選択します。



2. [Trigger] (トリガー) を選択します。
3. トリガーを定義します。



[Notification] (通知) プロパティを使用すると、トリガーイベントがレポートを実行した後に、メール通知を送信できます。詳しくは、「[レポートの Email Notifications \(メール通知\) を送信する](#)」を参照してください。

#### 関連トピック

- [レポートとは](#)
- [レポートを実行する](#) • [レポートを保存する](#)
- [レポートの Email Notifications \(メール通知\) を送信する](#)
  - [実行するレポートのスケジュールを設定する](#) • [レポートをグラフィックで表示する](#)

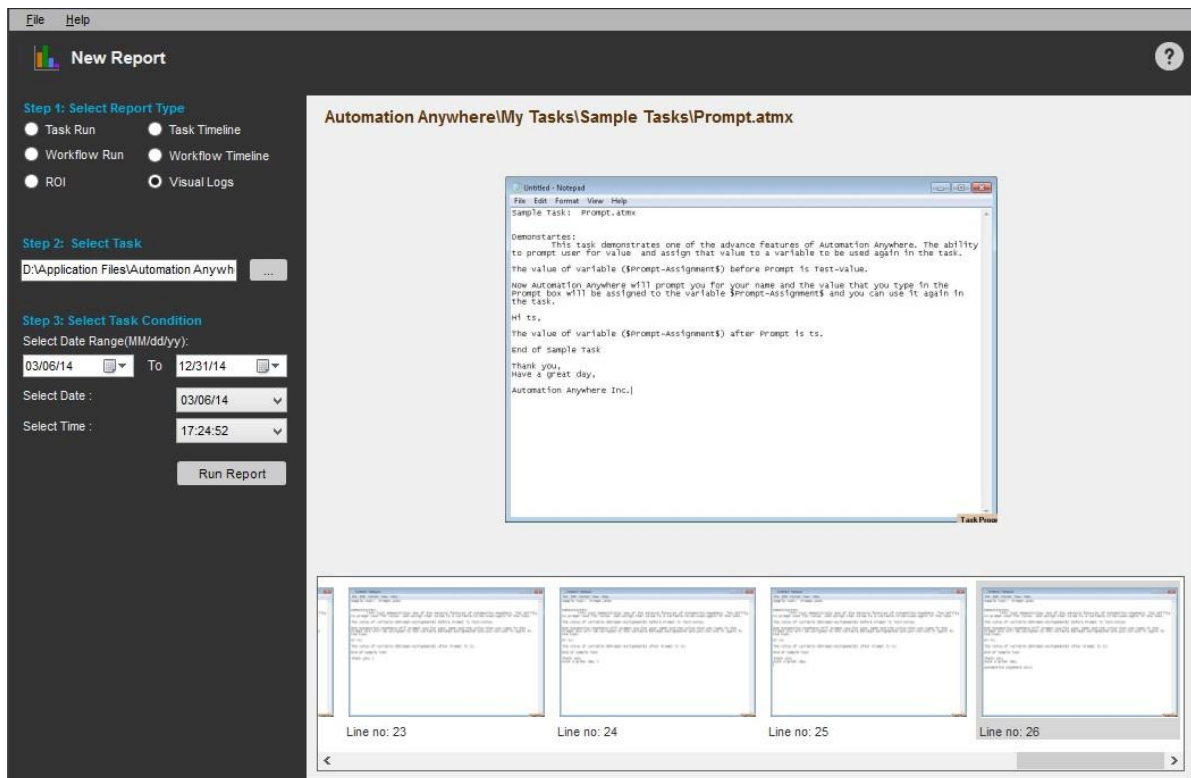
Automation Anywhere では、実行するすべてのタスクがステップごとにグラフィカルに表示されます。[Visualize] (視覚化) ビューをオンにするには、次の手順を実行します。

1. [Tools] (ツール) メニューをクリックし、[Options] (オプション) を選択します。
2. [Advanced Settings] (詳細設定) をクリックします。
3. [Capture Screenshots While Recording a Task] (タスクの記録中にスクリーンショットをキャプチャ) チェックボックスにチェックを入れます。
4. [Apply] (適用) ボタン、[OK] ボタンの順にクリックします。
5. タスクをグラフィカルに表示するには、[Task Run] (タスク実行) レポートビューを使用して、タスクを表すバーをクリックします。

SnapPoints がタスクでサポートされていない場合は、ただちに通知メッセージが表示されます。

Visualize Report (ビジュアライズレポート) を使用すると、以下のことができます。

- 特定の期間にタスクが実行された日数を表示する。
- 特定の日を表示して、その日に実行されたタスクの回数を表示する。
- タスクフォルダー (..) \Automation Anywhere \SnapPoints) に保存されているすべての SnapPoint を使用してタスクを比較する。



## 関連トピック

- [レポートとは](#)
- [レポートを実行する](#) • [レポートを保存する](#)
- [レポートの Email Notifications\(メール通知\)を送信する](#) • [実行するレポートのスケジュールを設定する](#) • [実行するレポートをトリガーする](#)

## Workflow Designer を使用する

Automation Anywhere ではビジネスワークフローの設計と向上をサポートするために、Workflow Designer ツールを用意しています。Workflow Designer を使用すると、グラフィック環境でワークフローのフロー図が構築できるようになります。こうしたワークフローは後に、Automation Anywhere で自動化ワークフローを構築し、実行するために使用できます。

## 概要

ワークフローでは、ビジネスや IT ワークフローの高レベルなグラフィックビューを、条件ロジックとワークフローのフローとともに表示します。ワークフローはシンプルなものもあれば複雑なものもあります。

Workflow Designer では、直観的なドラッグアンドドロップインターフェイスを提供するため、ワークフローが簡単に設計できるようになります。

ワークフローを作成する新しいワークフローを作成するには、次の手順を実行します。

1. [Tools] (ツール) メニューをクリックし、Workflow Designer を選択します。Workflow Designer では次のデザインオブジェクトを提供します。

- Start(開始) : ワークフローの開始ポイントです。各ワークフローの Start(開始)オブジェクトは 1 つのみです。



- Run Task(タスクを実行) : 以前構築したタスク(.atmx ファイル)を実行します。次のワークフロー手順に進む前に、Run Task(タスクを実行)コマンドが完全に終了するまでワークフローは停止します。



## Run Task

Enter Run Task Parameters:

Select Task :

**TIP** : Press F2 to insert variable.

Repeat   
  Speed   
  Variable


Do Not Repeat  
 Repeat  times  
 Repeat until I stop it  
 Repeat for  hh  mm  ss time

Repeat Options

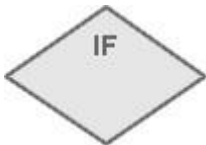
Time between  mins  sec  
 Upon error continue with next repeat

Run Task オブジェクトを挿入する場合、Successful(成功)矢印と Unsuccessful(失敗)矢印が1つずつ表示されます。完了したワークフローには両方の矢印が必須となります。いずれかの矢印を誤って削除した場合は、Run Task オブジェクトにマウスを移動し、別の矢印をプルして希望するオブジェクトに接続します。



 備考: タスクを右クリックしてメニューを表示させることで、[Run Task](タスクを実行)リストからタスクを編集できます。

- 条件 (If) : 後続のワークフロー手順が依存するイベントの条件です。条件の結果 (True(真)または False(偽)) に基づいて、ワークフローは適切なパスに沿って次の手順に移動します。



Conditional(条件)オブジェクトを挿入する場合、True(真)矢印と False(偽)矢印が1つずつ表示されます。両方の矢印が必須になります。いずれかの矢印を誤って削除した場合は、オブジェクトにマウスを移動し、別の矢印をプルして希望するオブジェクトに接続します。

複数の AND(および)または OR(または)条件を使用\* - 同じコマンドに複数の条件を含める場合、AND(および)または OR(または)条件を含めることができます。

\* バージョン 7.5.2 以降で対応

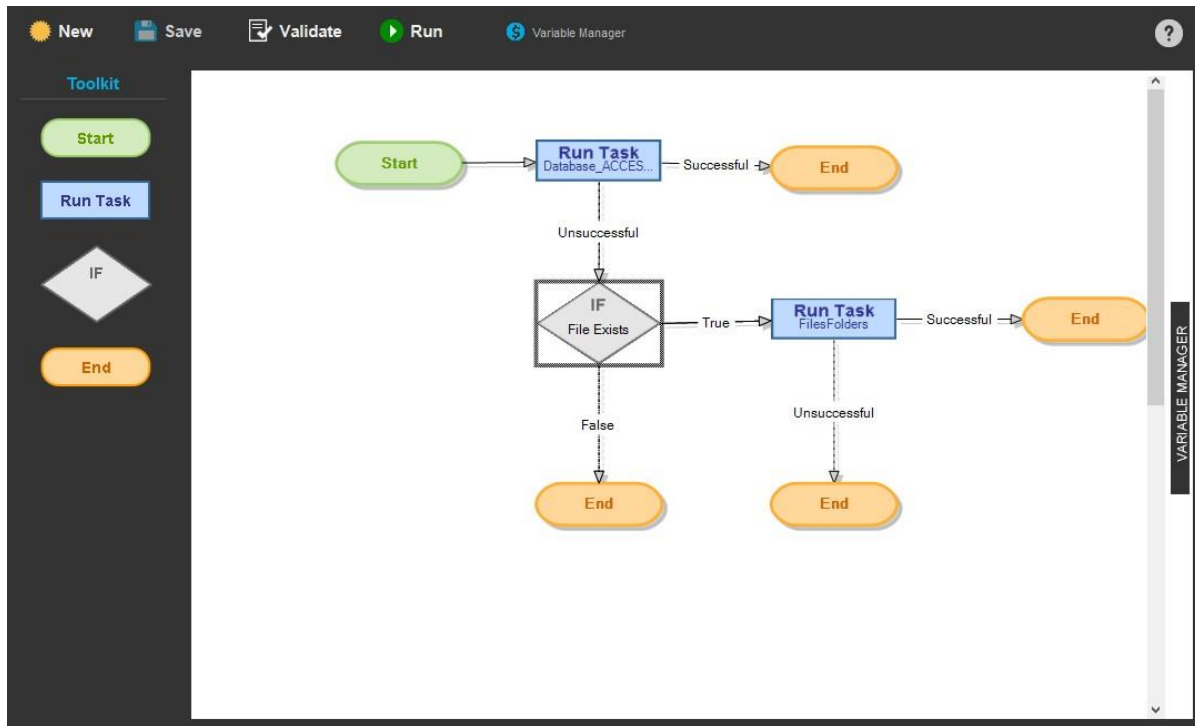
方法については、「If Else コマンド」を参照してください。

- End(終了) : ワークフローの終了ポイントです。ワークフローがこのオブジェクトに達すると、実行は停止します。



- Arrows(矢印) : ワークフローでオブジェクトとパスウェイを接続します。オブジェクトから矢印を挿入するには、オブジェクトにマウスを移動し、マウスアイコンがハンドアイコンに変わるまでそのままにします。



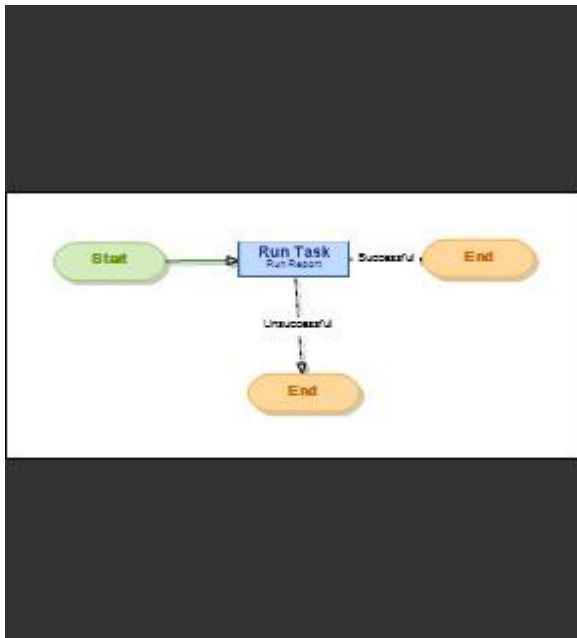


💡 ヒント: ワークフローまたは既存の Workflow Designer を実行する前にワークフローを必ず検証してください。検証により、ワークフローのオブジェクトが正しく接続され、エラーが発生しないことを確認できます。

#### ワークフローを実行する

Workflow Designer からワークフローを実行するには、[Run] (実行) をクリックするか、[Task List] (タスクリスト) のワークフローファイルをダブルクリックします。

Workflow Designer 内でワークフローを実行する場合、Automation Anywhere ではワークフローで従ったパスを示します。たとえば、True (真) または False (偽) 条件が発生したかどうかを簡単に確認できます。



ワークフローの実行が完了すると、Workflow Designer では完了したパスを色付きでハイライト表示します。



ワークフローを繰り返す

ワークフローを繰り返すには、Repeat プロパティを使用します。ワークフローは再び実行します。

ワークフローのメール通知を送信する

ワークフローの実行が完了する際にメール通知を送信するには Notification (通知) プロパティを使用します。

ワークフローを画像として保存する

ワークフローを画像として保存するには、[File] (ファイル) メニューをクリックして、[Save as Image] (画像として保存) を選択します。

ワークフローを印刷する

ワークフローを印刷するには、[File] (ファイル) メニューをクリックして、[Print] (印刷) を選択します。

ワークフローの実行をスケジュールする

Automation Anywhere スケジューラーを使用すると、ワークフローの実行をスケジュールできます。「[タスクの実行をスケジュールする](#)」を参照してください。

ワークフローの実行をトリガーする

トリガーを使用してワークフローの実行をスケジュールできます。「[トリガーを使用してタスクをスケジュールする](#)」を参照してください。ワークフロー変数をタスク変数に関連付ける

ワークフローの変数はさまざまなタスクに関連付けることができます。関連付けられた変数は Run Task (タスクを実行) コマンドで明確に表示されません。

変数の関連タイプだけは同じにしてください。変数の名前は異なるものにできます。

ワークフロー変数をタスク変数に関連付ける手順は次のとおりです。

1. Run Task (タスクを実行) コマンドをクリックします。
2. [Browse] (ブラウズ) を使用して [Task] (タスク) を選択します。
3. アクションとして [Variable] (変数) オプションを選択します。
4. [Create variable] (変数を作成) 関連セクションが表示されます。
5. ドロップダウンリストから [Workflow Variables] (ワークフロー変数) を選択して、ドロップダウンリストの [Task Variables] (タスク変数) と関連付けます。

関連付ける変数が大量にある場合、[Quick Map] (クイックマップ) ボタンを使用します。

\*バージョン 8.1 以降で対応

詳しくは、「[Run Task \(タスクを実行\) コマンド](#)」を参照してください。

6. [Run Task] (タスクを実行) > [Variable] (変数) オプションを使用して、ワークフロー変数をタスク変数に関連付けます。
  - 両方のドロップダウンでは、定義された変数の [Value] (値) タイプのみ表示されます。

## Run Task

Enter Run Task Parameters:

Select Task :

Repeat   
  Speed   
  Variable

Create variable association :

<input type="checkbox"/> Workflow Variable		Task Variable	
<input type="checkbox"/> Prompt-Assignment	↔	Prompt-Assignment	(Type = Value)
<input type="checkbox"/> RegEx	↔	RegEx	(Type = Value)
<input type="checkbox"/> RegEx2	↔	RegEx2	(Type = Value)
<input type="checkbox"/> RegEx3	↔	RegEx3	(Type = Value)

7. ワークフローからタスクへの変数の関連付けをさらに追加するには、[Add] (追加) ボタンを使用します。
8. 削除する場合は、関連付けを選択して [Delete] (削除) ボタンを使用します。

 備考:

1. タスク変数タイプまたはソースに変更がある場合、関連付けは無効になります。
2. タスクのアプリケーションパスに変更がある場合、関連付けは自動的に更新されます。ただし、ワークフローは手動で保存する必要があります。
3. こうしたワークフローでは、[Save] (保存) ボタンが有効になっており、適切なメッセージが表示されます。

### 関連トピック

- [SnapPoint を使用する](#) • [Report Designer を使用する](#) • [ROI Calculator を使用する](#)
- [変数を使用する](#)

## ROI Calculator を使用する

ROI 計算機を、プロセス改善に対する投資収益率 (ROI) を計算する計画ツールとして使用します。

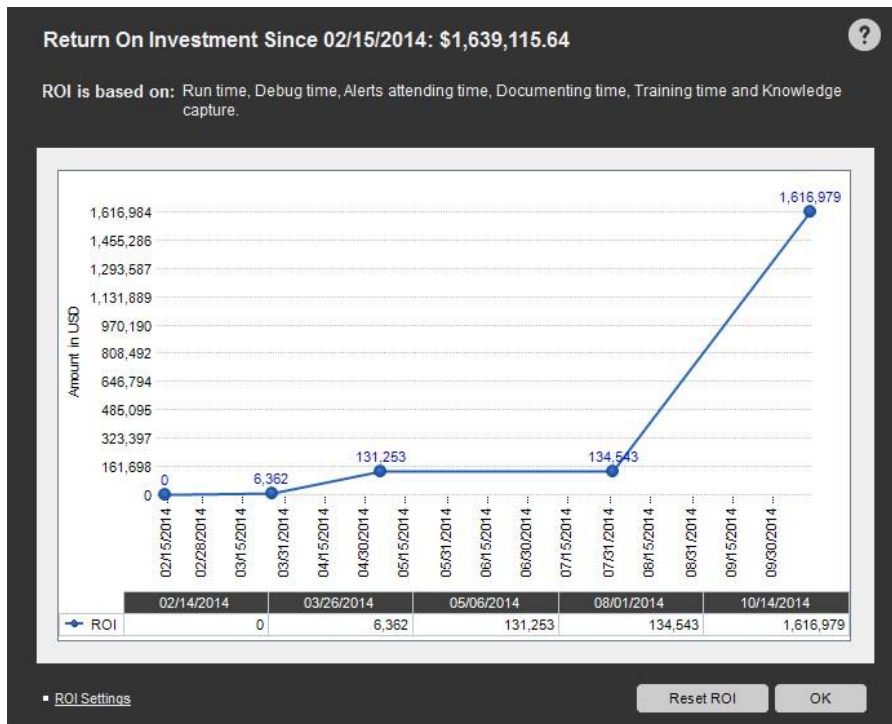
ROI 計算機では以下の計算を行います。


- 時間削減によるリソースコスト
  - 削減したエラー率
- 自動化したトラブルシューティング
  - 自動化した文書管理
- リソースの再調整
- トレーニングメリット
  - 知識の取り込み

Automation Anywhere は、プロセスを自動化した結果に基づいて投資収益率 (ROI) を計算します。投資収益率 (ROI) はタスクを実行したことによるドルでの累積金額です。

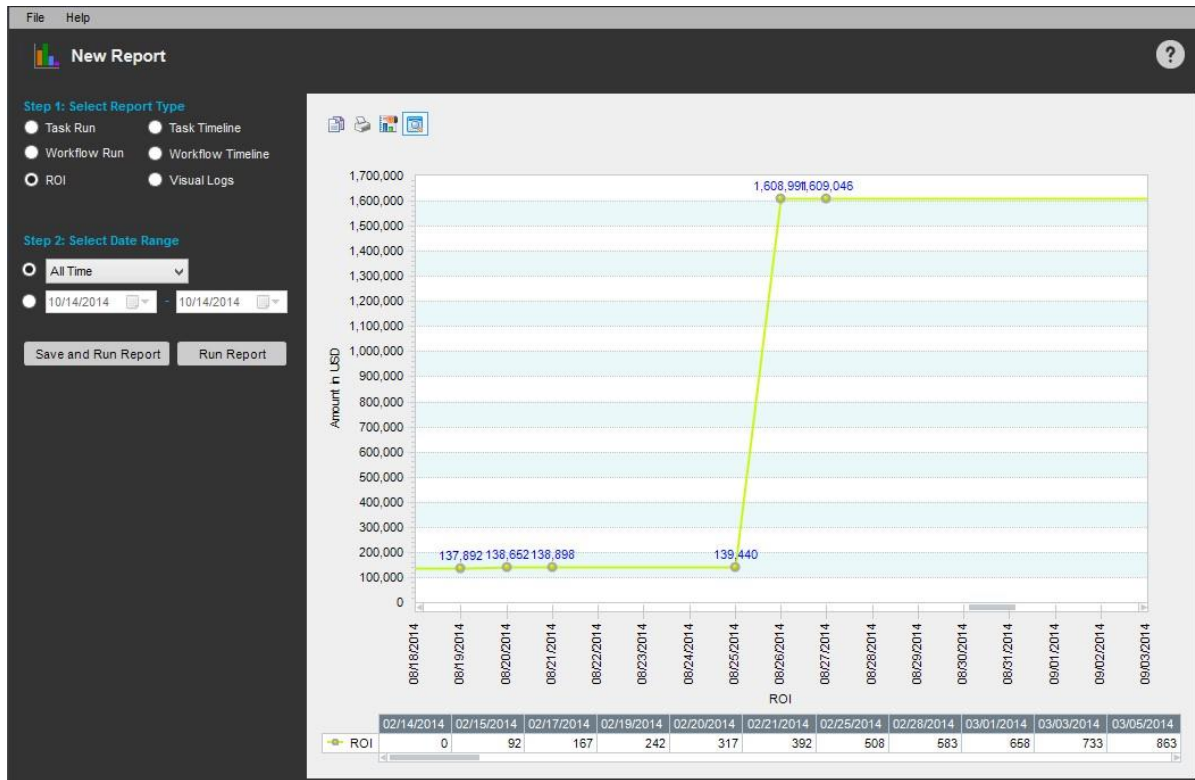
ROI 計算の基準として、時間あたりの人件費を登録することで時間あたりの削減額を計算できます。詳しくは ROI 計算機の [ROI Settings] (ROI 設定) を参照してください。

ROI 計算をわかりやすくするため、また便利に共有するために、投資収益率 (ROI) をグラフで表示することができます。



 備考: [Reset ROI] (ROI をリセット) ボタンをクリックすればいつでも投資収益率 (ROI) をリセットできます。

次のように、Report Designer を使用して投資収益率 (ROI) 関連のレポートを生成することもできます。



### 関連トピック

- [SnapPoint を使用する](#)
- [Report Designer を使用する](#)

## セクション: Control Room と通信する

## サーバーにタスクをアップロードおよびダウンロードする

このトピックでは、リポジトリを使用してサーバー間で自動化タスクを移動する方法について説明します。

- Automation Anywhere クライアントは、サーバーと通信するための使いやすい機能を備えています。
- リポジトリ機能を起動するには、クライアントのメイン画面で[Repository] (リポジトリ) タブをクリックします。
- クライアントがサーバーに登録済みであることを確認します。

リポジトリを使用して次のタスクを実行できます。

- クライアントとサーバー間でタスクを転送します。
- クライアントまたはサーバー上でタスクが最後に変更された日時を表示します。
- クライアント上で作成された、またはサーバーにアップロードされた新しいタスクをすべて表示します。
- タスクファイルを比較して、クライアントとサーバー上にあるファイルのバージョンの違いを識別します。

詳しくは、[クライアントとサーバー上にあるファイルを比較する](#)を参照してください。

サーバーにタスクをアップロードする次の 4 つの方法のいずれかを使用して、サーバー(または Control Room リポジトリマネージャー)にタスクをアップロードできます。

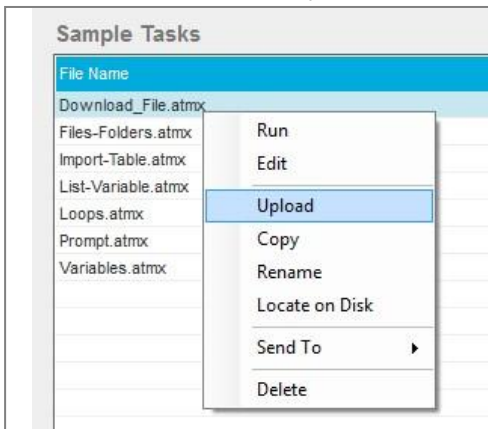
- [Action] (アクション) ボタンのドロップダウンリストから [Upload] (アップロード) を選択する



- 右上の [Task List] (タスクリスト) ペインの [Upload] (アップロード) ボタンをクリックする

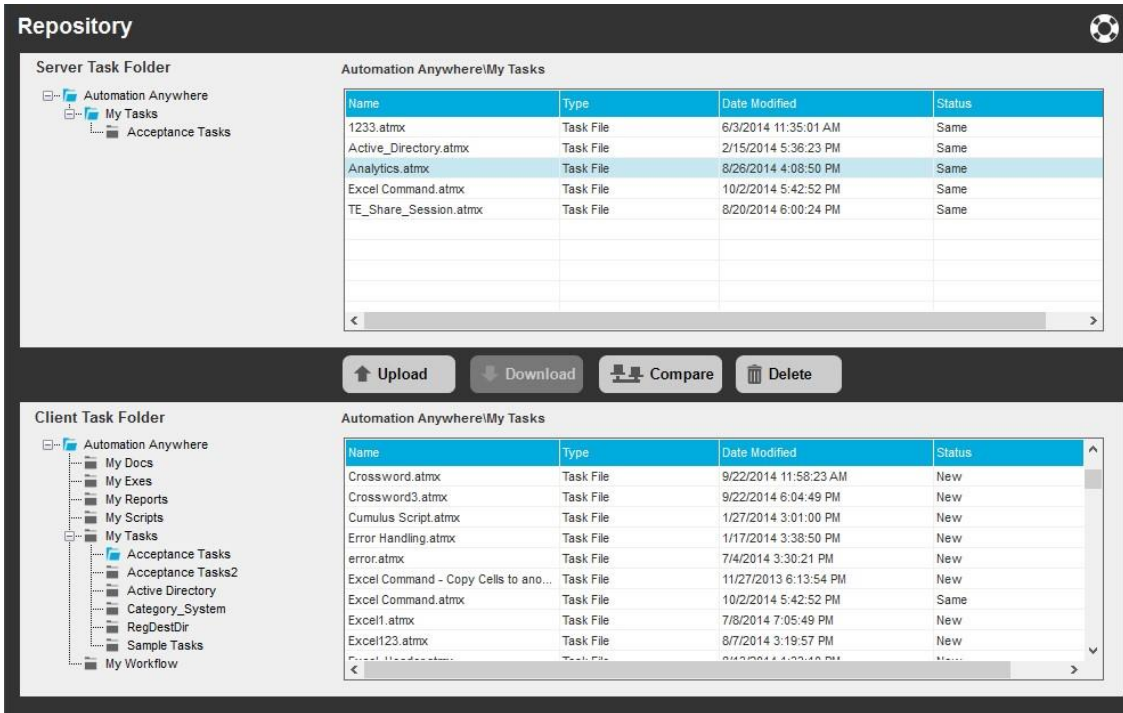


- 選択したタスクを右クリックして [Upload] (アップロード) を選択する




- リポジトリからタスクを選択する





The screenshot shows the 'Repository' window in Automation Anywhere. It is split into two panes: 'Server Task Folder' and 'Client Task Folder'. Both panes show a tree view on the left and a table of tasks on the right. The 'Server Task Folder' table lists tasks like '1233.atmx', 'Active\_Directory.atmx', and 'Analytics.atmx'. The 'Client Task Folder' table lists tasks like 'Crossword.atmx', 'Crossword3.atmx', and 'Cumulus Script.atmx'. Below the tables are buttons for 'Upload', 'Download', 'Compare', and 'Delete'.


- タスクが正常にアップロードされると、確認ウィンドウが表示されます。[OK]をクリックします。
- タスクは[Server Repository Manager] (サーバーリポジトリマネージャー)に表示されます。

 備考: バージョン管理を設定している場合は、タスクをアップロードするときにコメントを追加する必要があります。詳しくは[こちら](#)を参照してください。

#### サーバーからタスクをダウンロードする

サーバー(または Control Room リポジトリマネージャー)からタスクをダウンロードするには、リポジトリ機能を使用する必要があります。次の手順を実行します。

1. Automation Anywhere メインウィンドウで、[Repository] (リポジトリ) タブをクリックします。リポジトリ機能が表示され、分割画面にサーバー上とクライアントにあるファイルが表示されます。
2. クライアントにダウンロードするタスクファイルを強調表示します。
3. [Download] (ダウンロード) ボタンをクリックします。クライアントにタスクがコピーされます。

 備考: クライアントにダウンロードされるファイルと同名のファイルがあった場合は上書きされることに注意してください。ファイルをダウンロードする前に、最新バージョンのタスクがサーバーにあることを確認してください。

## 関連トピック

- [Client とサーバー上のファイルを比較する](#)

### Client とサーバー上のファイルを比較する

自動化ユーザーのチームは、多くのタスクを作成、アップロード、編集、実行し、Client とサーバー間でタスクファイルを移動できます。タスクファイルの複数のコピーを維持し、複数のユーザーが単一タスクを変更するには、タスクファイルが最後に変更された方法と日時をユーザーが確認する必要性が生じる場合があります。

このトピックでは、Client とサーバー上のタスクファイルのバージョンを比較する方法について説明します。

ファイルの比較機能を使用して、タスクファイルの異なる 2 つのバージョンを比較し、最近の変更をすべて特定できます。これらの差分は比較を実行した後に生成される [Task Actions List] ペインを使用して表示できます。

2 つのタスクファイルの比較を実行するには、次の手順を実行します。

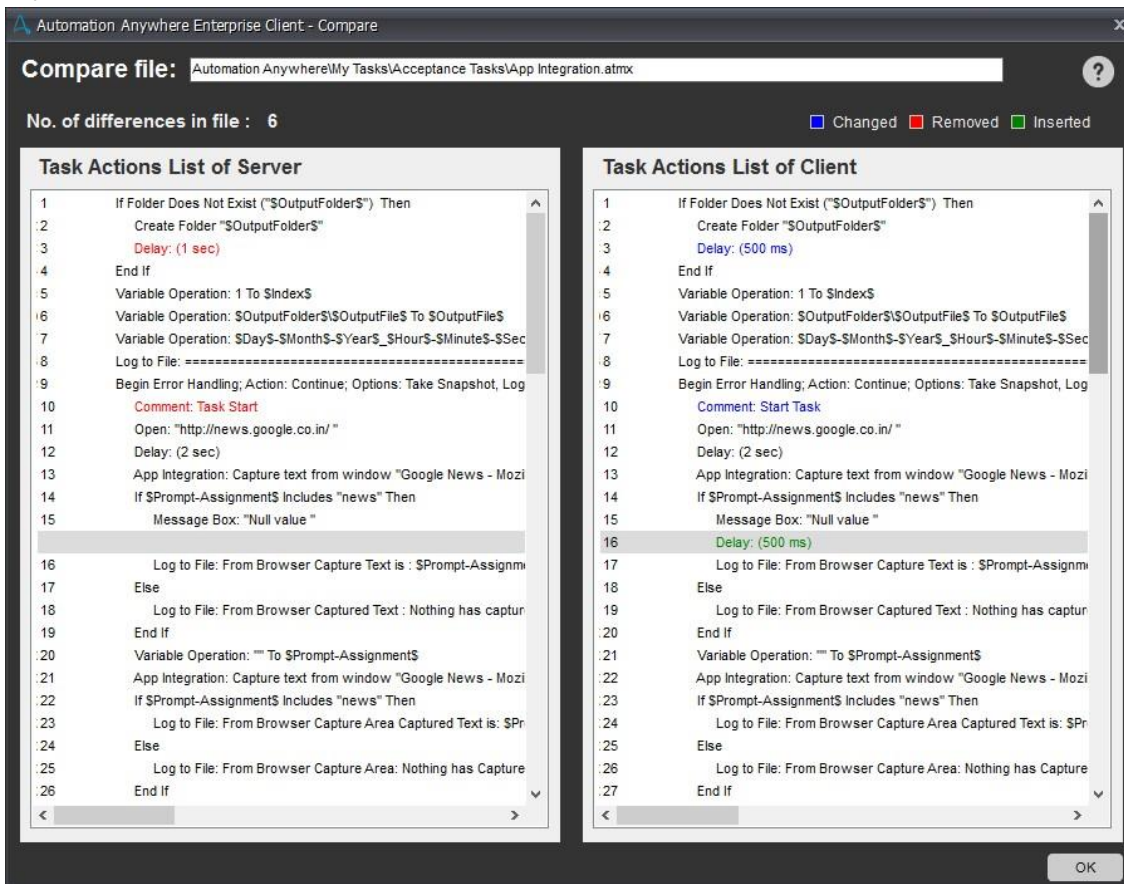
1. Client のメインスクリーンで [Manage] (管理) タブの [Repository] (リポジトリ) をクリックし、リポジトリ機能を起動します。Client がサーバーに登録済みであることを確認します。



2. サーバーまたは Client のペインでファイル名を 1 回クリックし、比較するタスクファイルを強調表示します。サーバーまたは Client に名前が重複するファイルがある場合、[Compare] (比較) ボタンが有効になります。



3. [Compare] (比較) ボタンをクリックして比較を実行します。新しいウィンドウが開き、比較結果が表示されます。



- ファイル間に差分が検出されない場合、「No differences found. (差分が見つかりません)」というメッセージが上部に表示されます。
- 差分が検出された場合、差分の数が上部に表示されます。
  - タスクファイルアクションの差分は次の色別に表示されます。
    - 青: 変更されています。変更されたタスクアクションは青色で表示されます。
    - 緑: 挿入されています。挿入されたタスクアクションは Client 側では緑色で表示され、サーバー側では空白行として示されます。
    - 赤: 削除されています。削除されたタスクアクションはサーバー側では赤色で表示され、Client 側では空白行として示されます。

## 関連トピック

- [サーバーにタスクをアップロードおよびダウンロードする](#)

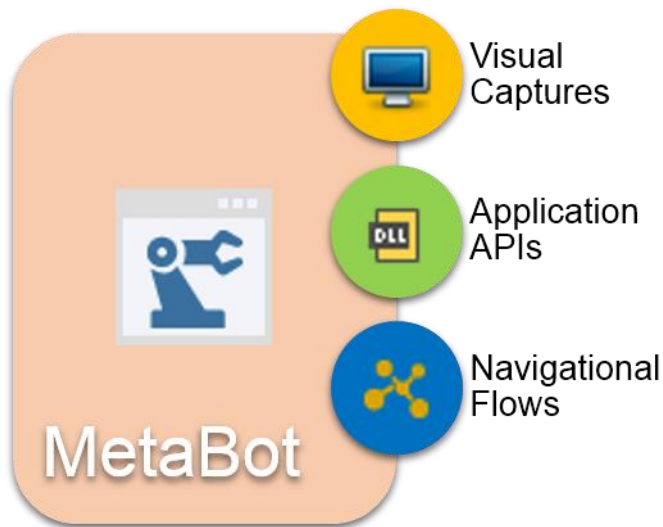
## セクション: MetaBot - はじめに

## AAE Client MetaBot Designer の概要

MetaBot は高度に再利用可能なアプリケーションの自動化ブループリントです。この自動化ブループリントは、以下を使用して構築できます。

- ビジュアルキャプチャ - アプリケーションの GUI コンポーネント(スクリーン)です。
- MetaBot Designer では、ビジュアルキャプチャをスクリーンと呼んでいます。
- アプリケーション API - GUI を迂回してアプリケーションの詳細な操作を可能にするインターフェイスです。
- MetaBot Designer は Windows プラットフォーム上で最も一般的な形式の API(DLL)にも対応しています。
- ナビゲーション フロー - アプリケーションにあらかじめ設定された使用事例です。ビジュアルキャプチャと API を活用します。
- MetaBot Designer ではスクリーンと DLL が Asset を形成し、これを使用してターゲットアプリケーションの使用事例を定義して事前設定し、Logic(ロジック)と呼ばれるナビゲーションフローを作成できます。

詳しくは[こちら](#)を参照してください。



## MetaBot を使用するメリット

自動化タスクで MetaBot を使用すると、次のようなメリットがあります。

- MetaBot は再利用性が高く、一度作成すると、どこでも使用できます。AA Enterprise の自動化コマンドライブラリーに表示され、どの自動化タスクでも活用できます。
- 企業は MetaBot ライブラリーを活用して、組織全体の自動化を迅速に標準化できます。
- 計画的に、ROI の自動化を加速します。
- 複雑な自動化タスクで一般的なナビゲーションエラーを排除できます。
- ライブアプリケーションにアクセスすることなく自動化できます
- 新しいバージョンのアプリケーションを簡単に較正でき、互換性を確保できます。

## MetaBot Designer

MetaBot Designer は MetaBot の概念化、作成、管理、アップロードを支援します。

MetaBot Designer を使用して次のことができます。

- MetaBot を作成する。
- Asset を追加する - スクリーンと DLL を MetaBot に追加します。
- MetaBot Asset を管理する。
- スクリーンを設定および較正する。
- スクリーンに custom object を作成する。
- スクリーンと DLL を使用してナビゲーションフローを表す論理を作成する。
- Control Room に MetaBot をアップロードし、他の Enterprise Client ユーザーが使用できるようにする。
- 他のユーザーが作成した MetaBot を編集する。

- MetaBot をエクスポートおよびインポートし、異なる Control Room の設定で使用できるようにする。

MetaBot Designer をインストールする


MetaBot Designer は Automation Anywhere Client にプレインストールされています。

MetaBot にアクセスするには、Control Room 管理者から提供される必要なアクセス権限を Client ユーザーが持っている必要があります。

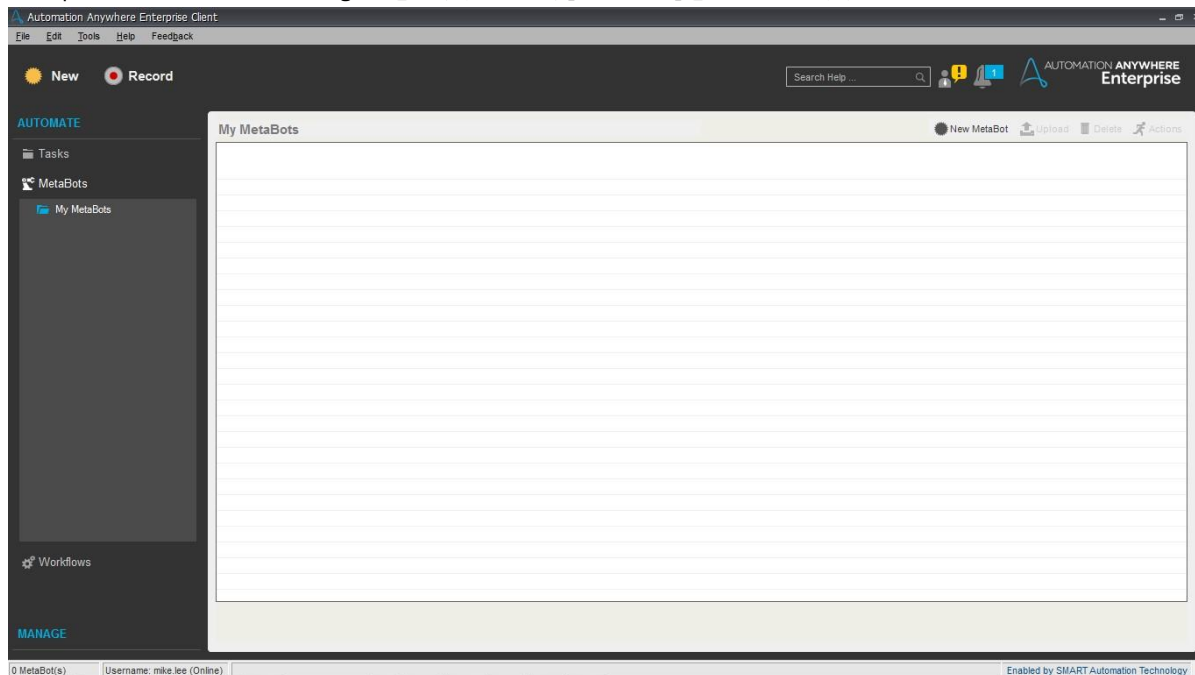
- MetaBot Designer がインストールされ正常に動作しているかどうかを簡単に確認するには、左側のパネルで[AUTOMATE] (自動化)の下に MetaBot が表示されているようにします。
- [MetaBots]タブをクリックし、[My MetaBots]ビューを起動します。
- MetaBot を初めて使用している場合、リストにはファイルが表示されません。[NEW] (新規)または[Record] (記録)オプションを使うだけで、MetaBot の作成を開始できます。詳しくは[こちら](#)を参照してください。
- 現在のバージョンにアップグレード済みの場合には、過去のバージョンで作成した MetaBot のリストが[My MetaBots]に表示されます。
- MetaBot Designer コンソールにアクセスするには、[Edit] (編集)をクリックする必要があります。詳しくは[こちら](#)を参照してください。

MetaBot Designer を起動する

Automation Anywhere Client のセットアップが正常にインストールされると、[Automate] (自動化)タブに記載されている製品にこの機能が追加されます。

 **備考:** 現在のバージョンにアップデートした場合にはこの変更を実行するには、Automation Anywhere Client を終了させ、再起動する必要があります。

Enterprise Client – MetaBot Designer を起動するには、[MetaBots]をクリックします。



Enterprise Client – MetaBot を理解する

MetaBot リポジトリへのアクセス許可を持つ BotCreator Client は、Client – [My MetaBots]リストビューから MetaBot の作成、記録、編集、アップロード、ダウンロード、名前の変更を実行できます。

BotCreator は Enterprise Client – [MetaBots]ビューから新しい MetaBot の作成、新しい MetaBot のスクリーンの記録、MetaBot のアップロード、削除を実行できます。

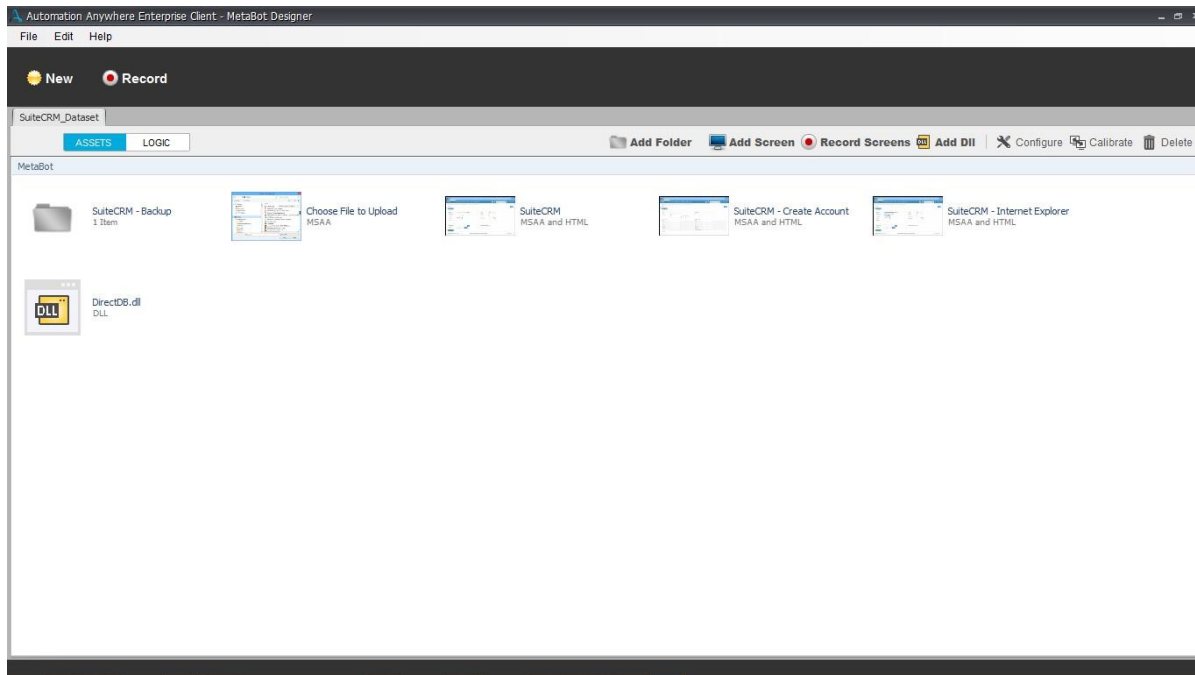
さらに、Version Control が MetaBot の制御編集に対応している場合には、BotCreator は編集のために[Check Out the MetaBot] (MetaBot を点検)し、[Version History] (バージョン履歴)を見ることができます。詳しくは[こちら](#)を参照してください。

BotCreator は[My MetaBots]リストビューから、次のアクションを実行できます。

1. New (新規) – 新しい MetaBot を作成します。詳しくは[こちら](#)を参照してください。
2. Record (記録) – MetaBot を作成するもう 1 つの方法です。詳しくは[こちら](#)を参照してください。
3. Delete (削除) – 古くなったり不要になったりした MetaBot を削除します。詳しくは[こちら](#)を参照してください。

一部の機能には MetaBot Designer コンソールからもアクセスできます。詳しくは[こちら](#)を参照してください。

## MetaBot Designer を理解する

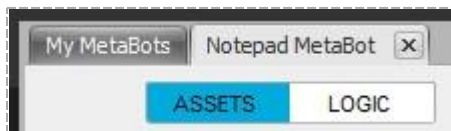


MetaBot Designer を使用すると、次のことができます。

- 既存の MetaBot にフォルダーを指定する。
- DLL を追加して、GUI を使用せずに低レベル操作のアプリケーションを作成する。
- MetaBot に新しいスクリーンを追加して記録する。
- 単純で独立していながらも機能的なロジックブロックを作成する。
- MetaBot を作成して Control Room にアップロードし、MetaBot を使用／再利用するためのリポジトリを自動化タスクで作成する。

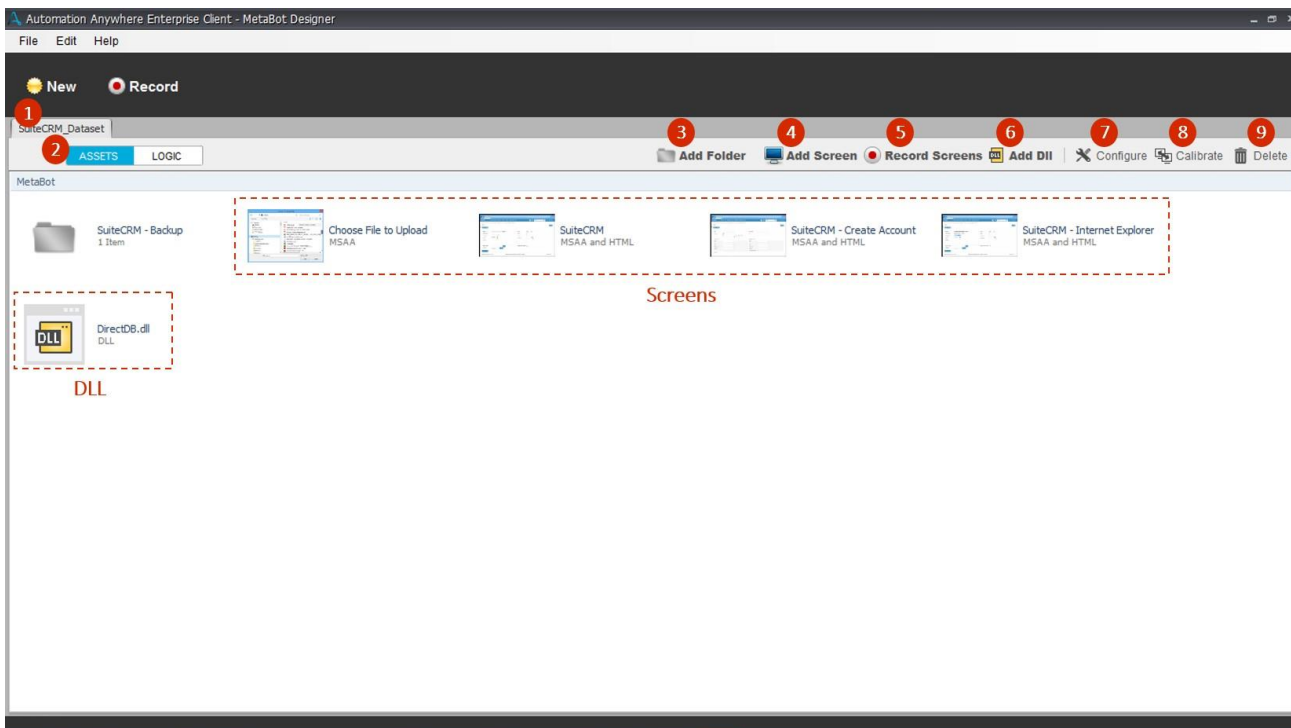
### MetaBot Designer のデコード

MetaBotDesigner のワークスペースでは、同時に複数の MetaBot を操作できます。操作する MetaBot をタブ形式で開いたままにすることができます。




MetaBot を作成すると、デフォルトで [Assets] (アセット) タブが表示され、このタブに新しいアセット (スクリーン / DLL) を追加することで開始できます。

### Asset (アセット) を理解する




以下は、アセットビューで使用できるオプションの説明です。


1. MetaBot Tab (MetaBot タブ) – MetaBot が専用のタブで開きます。このタブは、特定の MetaBot の Asset (アセット) と Logic (ロジック) 専用です。
2. Assets (アセット) タブ – 強調表示されている場合は、ビューが [Assets] (アセット) で開いていることを示します。この特定の MetaBot に固有のスクリーン、DLL、フォルダーがすべて表示されます。新しい MetaBot にはデフォルトで選択されます。
3. Add Folders (フォルダーを追加)\* – 「フォルダー」を使用して MetaBot を整理できます。これにより、アップロードする(またはアップロード済みの)すべてのスクリーンや DLL を簡単に管理できます。  
詳しくは[こちらを参照してください](#)。
4. Add Screen (スクリーンを追加)\* – 実行中のアプリケーション実行可能ファイルの 1 つのスクリーンをキャプチャする必要がある場合、この機能は非常に便利です。  
詳しくは[こちらを参照してください](#)。

 備考: この機能を使用する前に、アプリケーション画面を起動する必要があります。また、アプリケーションが閉じている場合は、必要なアプリケーションを開くことを促すメッセージが表示されます。


\*スクリーンが低解像度(1024x768 など)で設定されている場合、[AddFolder] (フォルダーを追加) と [AddScreen] (スクリーンを追加) のオプションは、[Edit] (編集) メニューからアクセスできます。

5. Record Screen (スクリーンを記録) – 関連するアプリケーションや Web ページの複数のスクリーンを一度にキャプチャする必要がある場合は、[Record Screen] (スクリーンを記録) を使用します。記録中にやりとりするすべてのスクリーン/メニュー項目/ポップアップ/コンテキストメニューがキャプチャされます。  
詳しくは[こちらを参照してください](#)。

 ヒント: ワークフローモードでアプリケーションとやりとりしながらすべてのスクリーン/UI 要素 ([Menu Item] (メニュー項目)/[Popup] (ポップアップ)/[Context Menu] (コンテキストメニュー) など) を記録するには、[Record Screen] (スクリーンを記録) を使用します。これらの UI 要素は、[Add Screen] (スクリーンを追加) を使用してキャプチャすることはできません。

 備考: 1 つのアプリケーションに複数の EXE がある場合、それぞれに個別の MetaBot を作成する必要があります。

6. Add DII (DII を追加) – MetaBot 内で「アプリケーションプログラミングインターフェイス」(DLL)を使用する必要がある場合は、[Add DII] (DII を追加)を使用して MetaBot に追加できます。ただし、DLL 名に特殊文字を含めることはできません。  
詳しくは[こちらを参照してください](#)。

 備考: スクリーン、DLL、フォルダーは、追加された順に表示されます。

7. Configure (設定) – 記録または追加されたスクリーンのプロパティを編集します。ここで [Screen Name] (スクリーン名)、



[Screen Title] (スクリーンタイトル)などのエイリアスを使用することもできます。オブジェクトを選択し、[Name] (名前)、[Path] (パス)、[Value] (値)、[ID]、[Class] (クラス)、[Index] (インデックス)、[States] (状態)などのプロパティと、タスク実行時に使用する[Play Mode] (再生モード)も選択できます。これらのプロパティの一部を使用すると、再生時にオブジェクトを一意に識別できます。そのため、[Configure] (設定)を使用するとオートメーションの信頼性を高めることができます。詳しくは[こちら](#)を参照してください。

8. Calibrate (調整) - アプリケーションは、ライフサイクル中に機能強化や新機能によって継続的に更新されることがあるため、キャプチャしたスクリーンやそのオブジェクトのプロパティは、アプリケーションが更新されるたびに再表示する必要がある場合があります。MetaBot Designer では、[Calibrate] (調整)を使用して既存のスクリーンと新しいスクリーンをすぐに比較し、変更があればそれを特定できます。

詳しくは[こちら](#)を参照してください。

9. Upload (アップロード) - MetaBot をサーバー (Control Room) に「アップロード」できます。Control Room は、MetaBot Designer が自身のタスクに必要な MetaBot を選択できる主要なライブラリとして機能します。MetaBot 特権を持つクライアントは、MetaBot をサーバーにアップロードして配布できます。詳しくは[こちら](#)を参照してください。

。

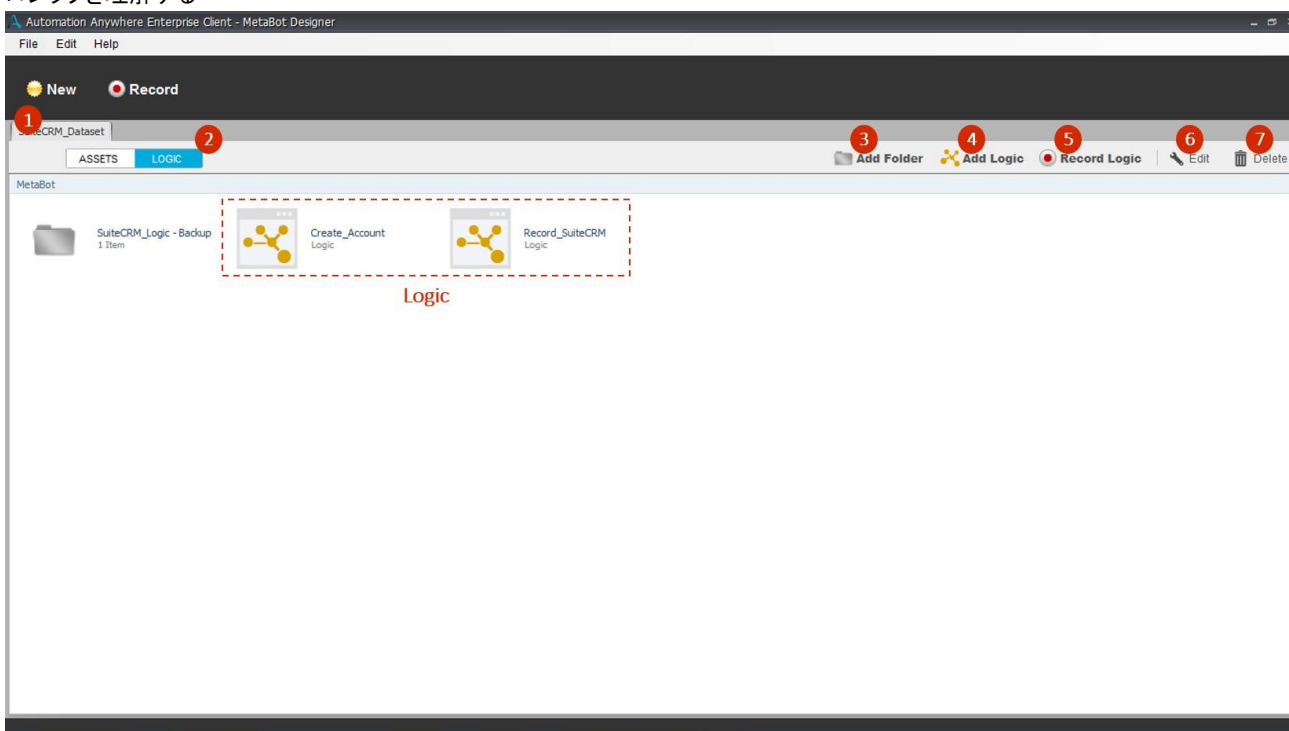
10. Delete (削除) - 不要になった MetaBot を削除します。



備考: MetaBot Designer から MetaBot を削除しても、Control Room からは削除されません。

必要なアセットをキャプチャしたら、そのアセットを使用してロジックの作成に進みます。

## ロジックを理解する



ロジックは、アプリケーションの一部のナビゲーションフローを表すプロセスの独立した機能的ユニットであり、必要に応じて自動化タスクに統合できます。

Asset (アセット) (Screen (スクリーン) と DLL) を使用して Logic ブロックを設計できます。その後、この Logic ブロックを Control Room にアップロードすると、適切な MetaBot 特権を持つ開発/ランタイムクライアントにダウンロードできるようになります。

以下は、Logic ビューで使用できるオプションの説明です。

1. MetaBot Tab (MetaBot タブ) - MetaBot が専用のタブで開きます。このタブは、特定の MetaBot の Asset (アセット) と Logic (ロジック) 専用です。
2. Logic (ロジック) タブ - 強調表示されている場合は、ビューが [Logic] (ロジック) で開いていることを示します。この特定の MetaBot に固有のロジックブロックとフォルダーがすべて表示されます。

3. Add Folder(フォルダーを追加) – アセットと同じ。たとえば、機能的に似ているロジックブロックをフォルダーに追加できます。
4. Add Logic(ロジックを追加) – Logic Editor でナビゲーションフローを作成します。  
詳しくは[こちら](#)を参照してください。
5. Record Logic(ロジックを記録) – ロジックフローを記録し、自動的にアセットにスクリーンを保存します。  
詳しくは[こちら](#)を参照してください。
6. Edit(編集) – 既存のナビゲーションフローを編集します。
7. Upload(アップロード) – (新規または編集済み)ロジックを Control Room に公開(アップロード)します。  
詳しくは[こちら](#)を参照してください。
8. Delete(削除) – 古くなったロジックを削除します。



備考: ロジックとフォルダーは、追加された順に表示されます。



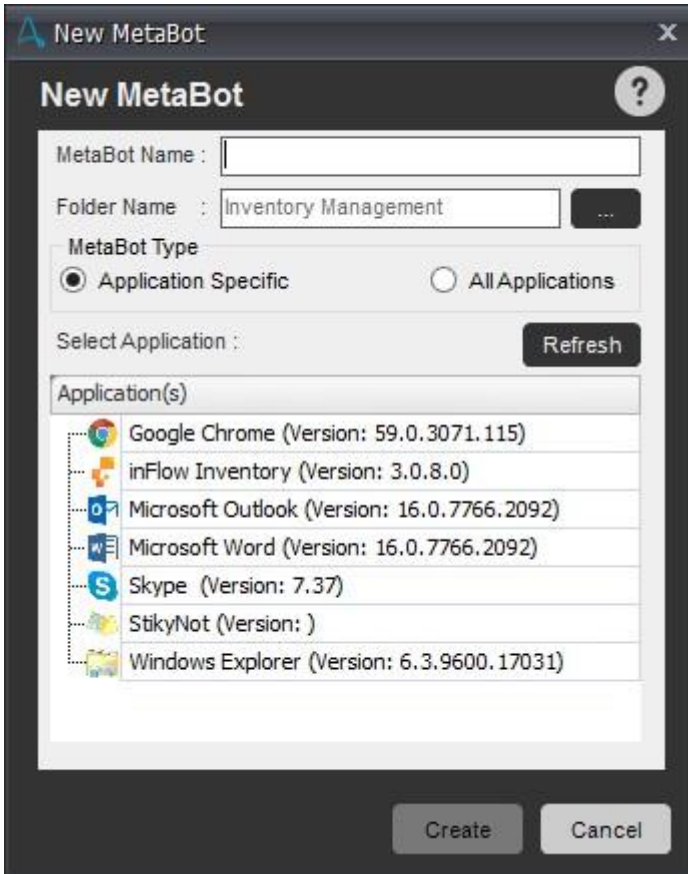
## MetaBot を作成する

最初の MetaBot を作成しましょう。在庫管理システムにベンダーを追加できます。

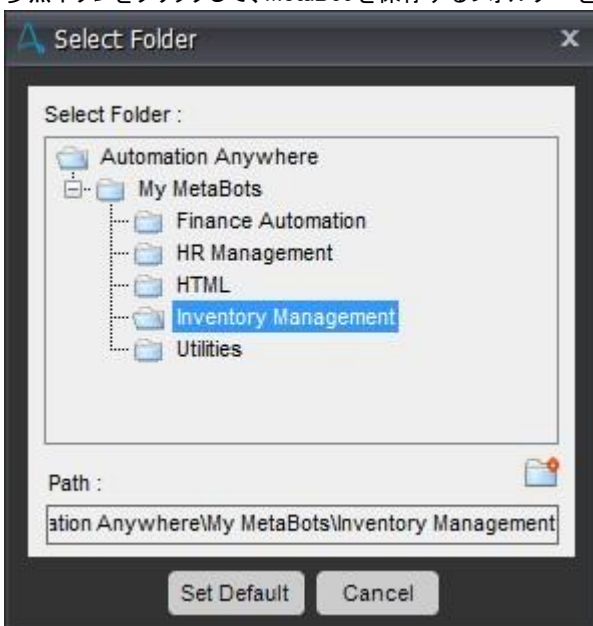
1. MetaBot Designer を開き、[New] (新規) をクリックします。




2. [New MetaBot] (新規 MetaBot) という小さいウィンドウが開き、現在マシンで実行しているすべてのアプリケーションが一覧表示されます。

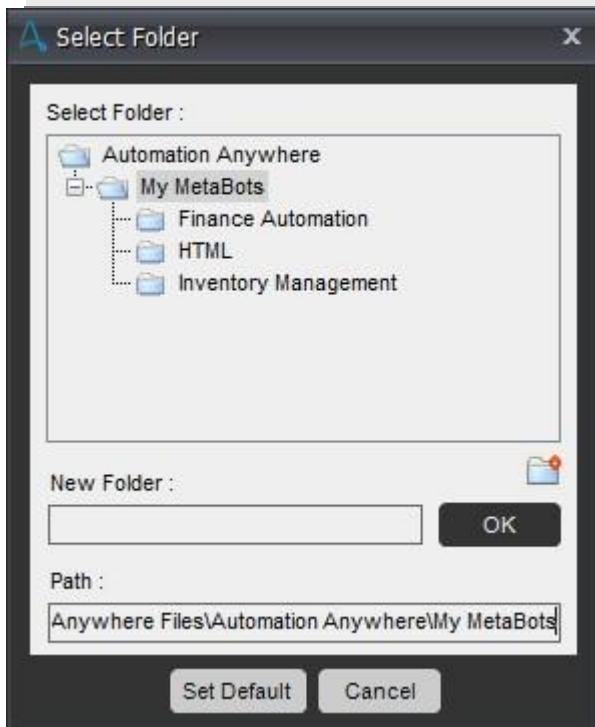


3. MetaBot を単一のアプリケーションと複数のアプリケーションのどちらで作成するかを選択します。[Application Specific] (アプリケーション固有) オプションを選択する場合、その特定のアプリケーションのスクリーンのみを使用して自動化を作成できます。一方、[All Applications] (すべてのアプリケーション) オプションを選択する場合、自動化フローごとにさまざまなアプリケーションのスクリーンを組み合わせることで自動化を作成できます。
4. 参照ボタンをクリックして、MetaBot を保存するフォルダーを選択します。[Select Folder] (フォルダーを選択) ウィンドウが起動します。

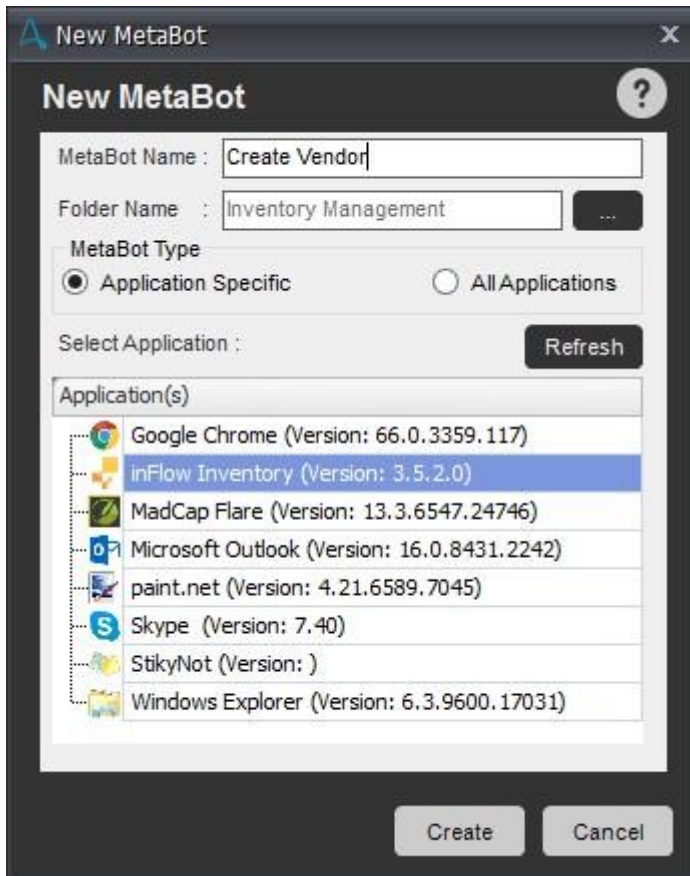




ヒント: 論理的に作成されたフォルダーに MetaBot を保存します。これらは  をクリックして作成できます。

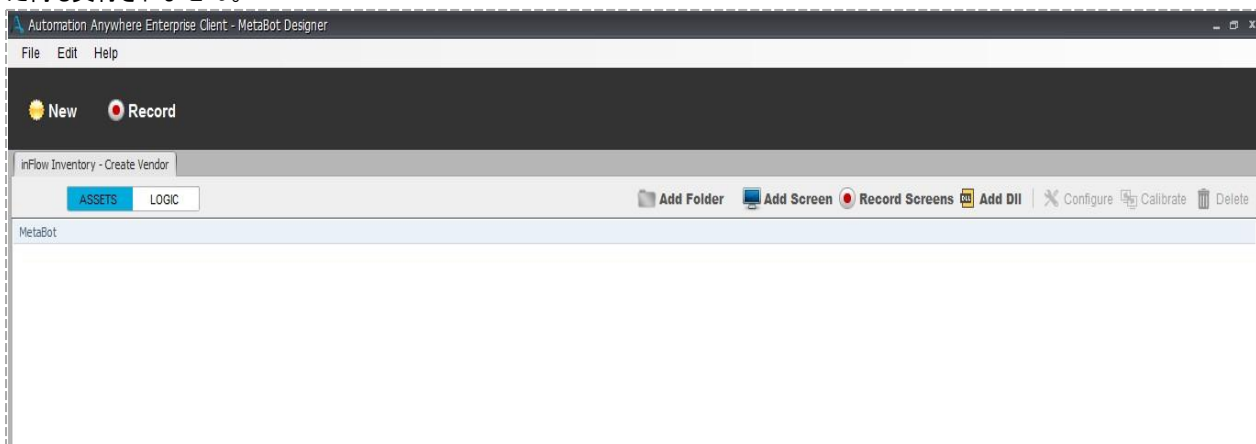


- デフォルトのフォルダーを選択して MetaBot を保存するには、[Set Default] (デフォルトを設定) をクリックします。
  - [OK] をクリックし、[New MetaBot] (新規 MetaBot) ウィンドウに戻ります。
5. ここでは、わかりやすくするために単一のアプリケーションを使用して MetaBot を作成します。[Application Specific] (アプリケーション固有) を選択します。
  6. このリストから MetaBot を作成するアプリケーション (この場合は inFlow Inventory) を選択します。名前を「inFlow Inventory - Create Vendor」(inFlow Inventory - ベンダーを作成) と入力します。
  7. [Create] (作成) をクリックします。



ヒント: MetaBot を作成する前にアプリケーションを起動しなかった場合は、アプリケーションを開き、[New MetaBot] (新規 MetaBot) ウィンドウで [Refresh] (更新) をクリックします。アプリケーションがリストに選択可能な状態で表示されます。

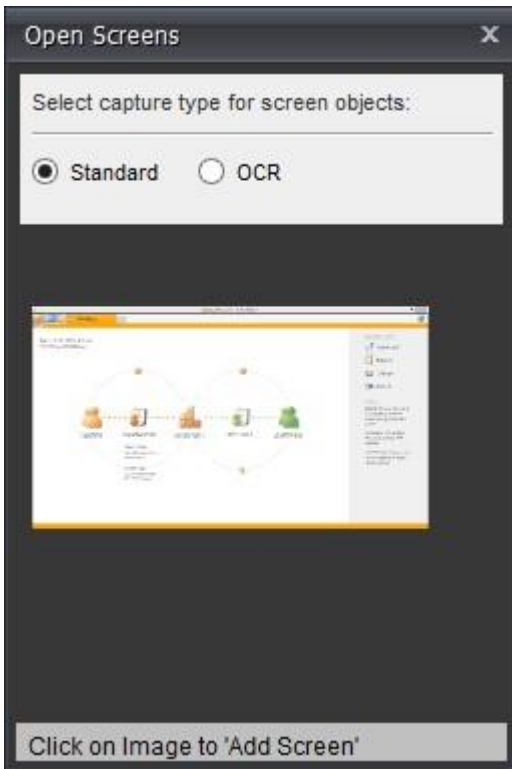
8. これにより、新しい空の [inFlow Inventory - Create Vendor] (inFlow Inventory - ベンダーを作成) が作成され、表示されます。この時点ではまだ何も実行されません。



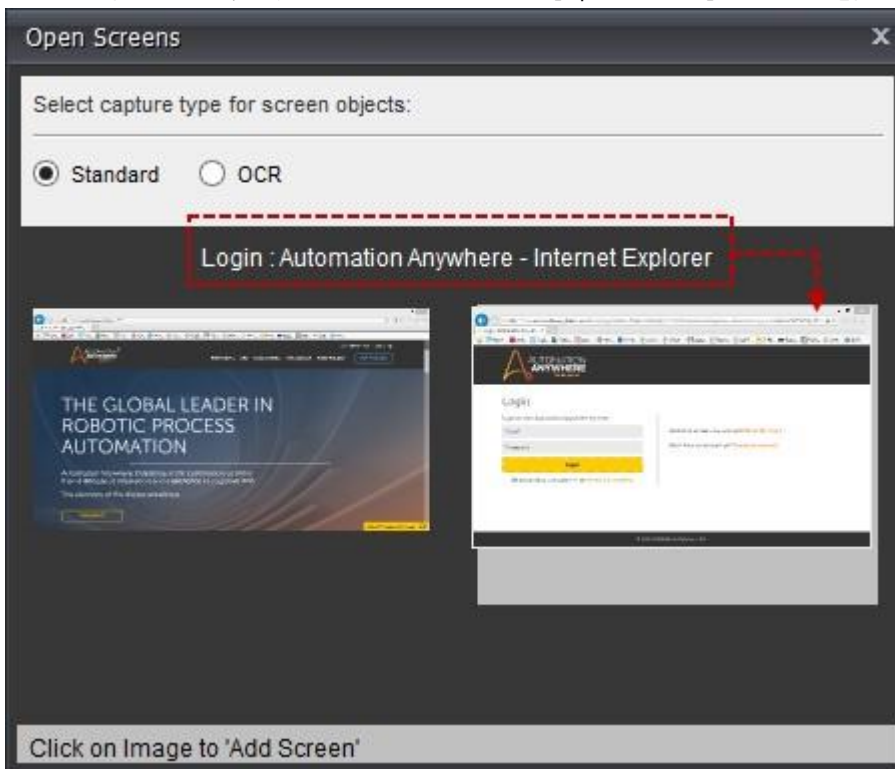
9. アプリケーションでベンダーを作成するには、ベンダーのスクリーンアセットが必要です。[Add Screen] (スクリーンを追加) をクリックします。



10. スクリーンの中心に、[Open Screens] (スクリーンを開く) という小さいウィンドウが表示されます。このウィンドウには、ターゲットアプリケーションに対して現在開いているスクリーンのすべてのインスタンスが表示されます。




- 1つのアプリケーションに対して複数のインスタンスが開いている場合、複数のスクリーンが表示されます。たとえば、IEの2つのインスタンスが開いている場合、2つの個別のスクリーンが[Open Screens](スクリーンを開く)に表示されます。



11. スクリーンオブジェクトのキャプチャタイプを[Standard](標準)または[OCR]のいずれかから選択します。

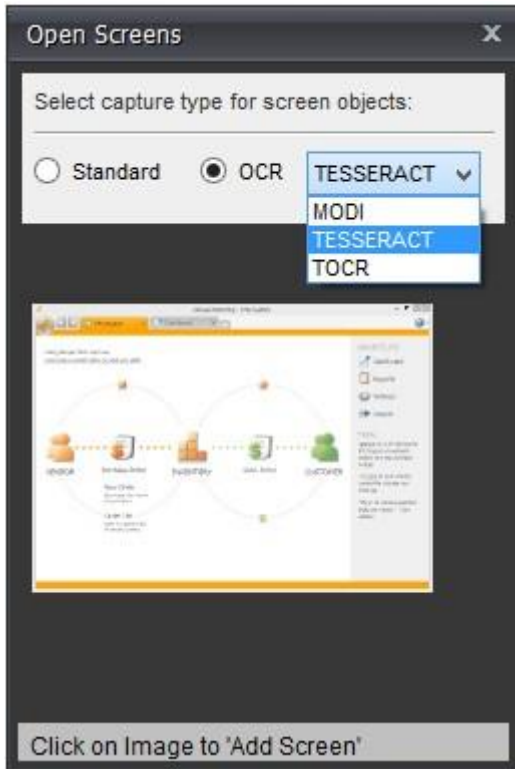
 **備考:** このオプションを使用できるのはスクリーンの作成時のみで、スクリーンの記録時には使用できません。


- [Standard](標準)は、MSAA、htmlなどのテクノロジーを使用する場合に選択します。このオプションはデフォルトで選択されます。
- [OCR]は、CitrixやRDPなどのアプリケーションで公開されているアプリケーション画像から、オブジェクトをキャプチャする場合に選択します。OCRでスクリーンをキャプチャする場合、スクリーンの[DPI]が[Standard](標準)または[100%]に設定されていることを確認します。

 備考: OCR スクリーンのロジックを作成する場合、Import Dataset (データセットをインポート) コマンドの使用をお勧めします。

- OCR を選択すると、スクリーンの作成時に parent object (親オブジェクト) のプロパティが自動的に子オブジェクトにリンクされます。スクリーンの設定時にリンクを変更し、精度を高めることができます。

OCR エンジンを選択してスクリーンからオブジェクトをキャプチャすることもできます。

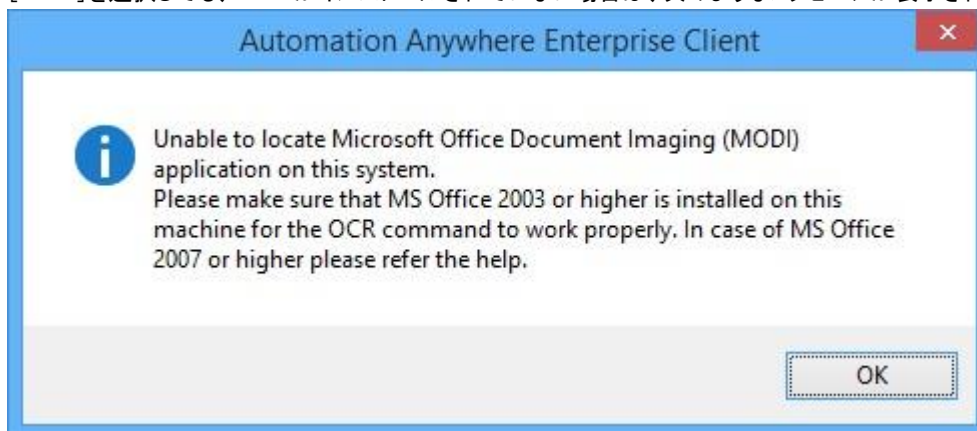


 備考: 選択した OCR エンジンが自動化の実行に使用されます。MetaBot スクリーンの編集時に変更することはできません。このため、自動化の失敗を防ぐには、選択した OCR エンジンも Bot Runner マシンにインストールする必要があります。

- OCR エンジンを使用するには、このエンジンがマシンにインストールされていることを確認する必要があります。TESSERACT はデフォルトの OCR エンジンです。[MODI] または [TOCR] を使用してスクリーンオブジェクトをキャプチャすることもできます。

Tesseract を使用する場合、Visual Studio 2015 の Visual C++ 再頒布可能パッケージをインストールする必要があります。これは Microsoft の [Web サイト](#) からダウンロードできます。Tesseract 以外の OCR エンジンを使用するには、そのエンジンがマシンにインストールされていることを確認する必要があります。

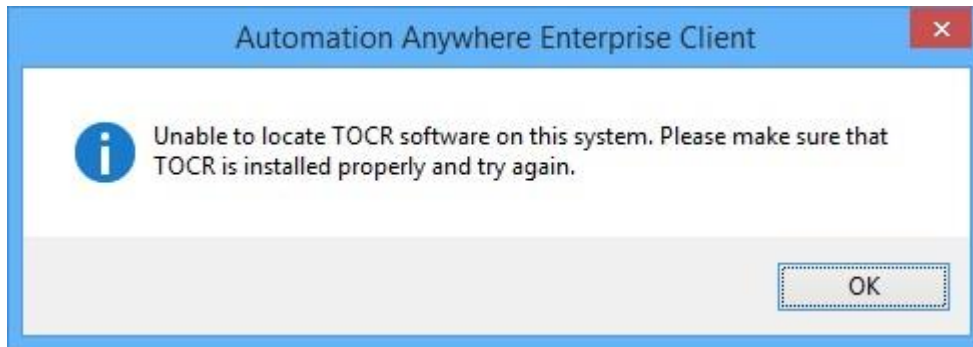
- [MODI] を選択しても、MODI がインストールされていない場合は、次のようなメッセージが表示されます。



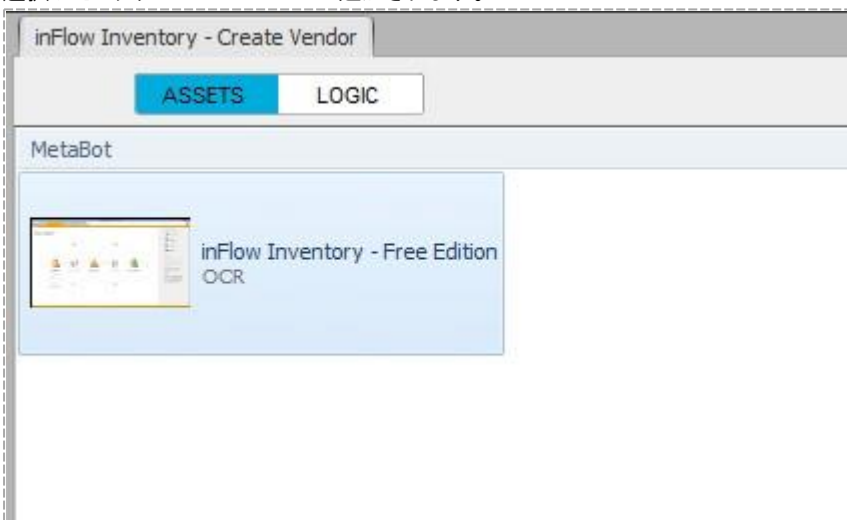
[MODI] を OCR エンジンとして使用する場合は、以下を確認してください。

- Microsoft Office 2003 以降がコンピューターにインストールされている。
- Microsoft Office 2007 のインストール中に、Microsoft Office Document Imaging のサブコンポーネント [スキャン、OCR および Indexing Service フィルター] が選択されている。

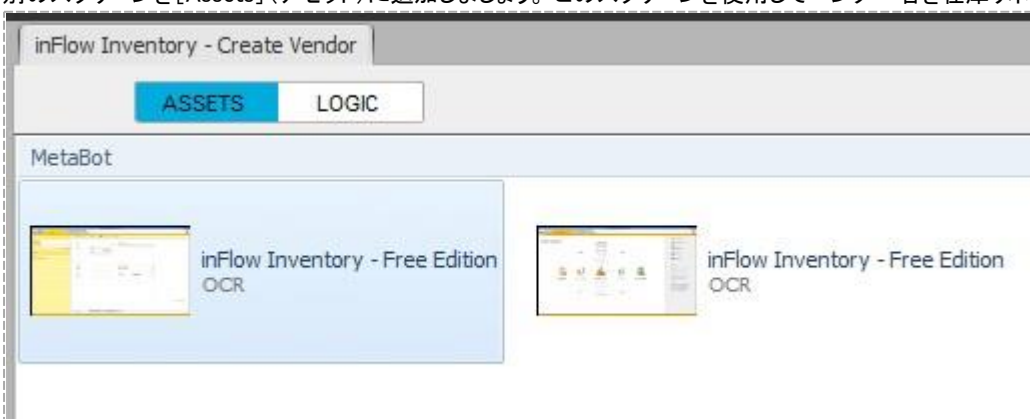
- Microsoft Office 2010 以上を使用している場合は、コンポーネントを別途インストールする。詳しくは、[こちら](#)を参照してください。
- [TOCR]を選択しても、TOCR がインストールされていない場合は、次のようなメッセージが表示されます。



12. inFlow Inventory のホーム画面インスタンスをクリックして次に進みます。
13. 選択したスクリーンが MetaBot に追加されます。

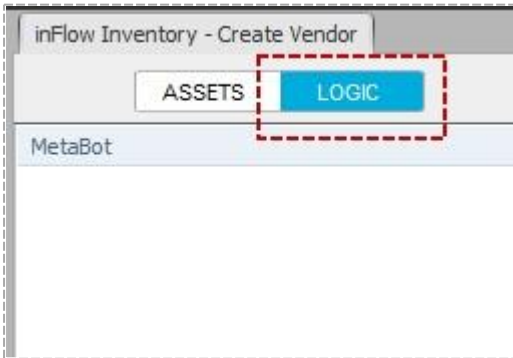


14. 次の手順で[Assets] (アセット) ライブラリにスクリーンをさらに追加します。[Add Screen] (スクリーンを追加) または [Record Screen] (スクリーンを記録) のいずれかのオプションを使用します。詳しくは、[「スクリーンを追加および記録する」](#)を参照してください。
15. 別のスクリーンを[Assets] (アセット) に追加しましょう。このスクリーンを使用してベンダー名を在庫リポジトリに追加します。



16. これらのスクリーンを設定してオブジェクトプロパティを編集し、自動化の実行中に関連付けられているオブジェクトを一意に識別できます。詳しくは、[「MetaBot のスクリーンを設定する」](#)を参照してください。
17. これらのスクリーンを使用して、ベンダーを作成するロジックを作成しましょう。[Logic] (ロジック) タブをクリックします。詳しくは、[「Workbench を使用してロジックを作成する」](#)を参照してください。

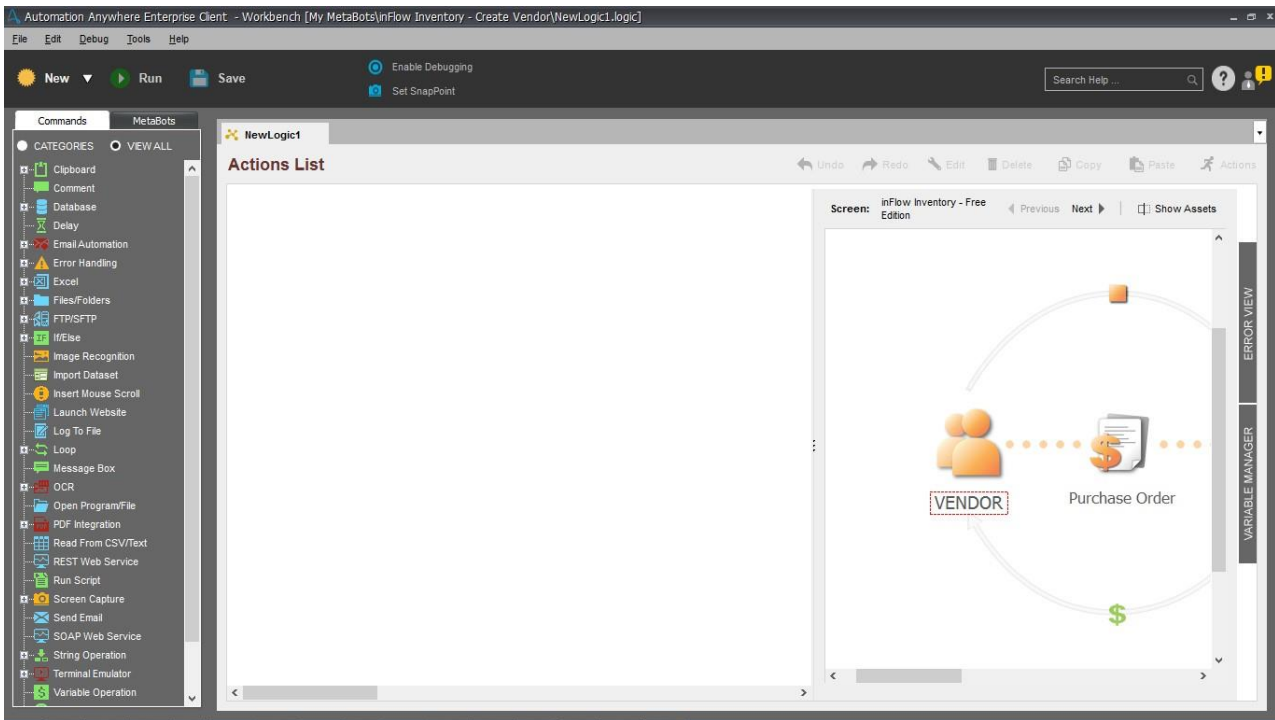




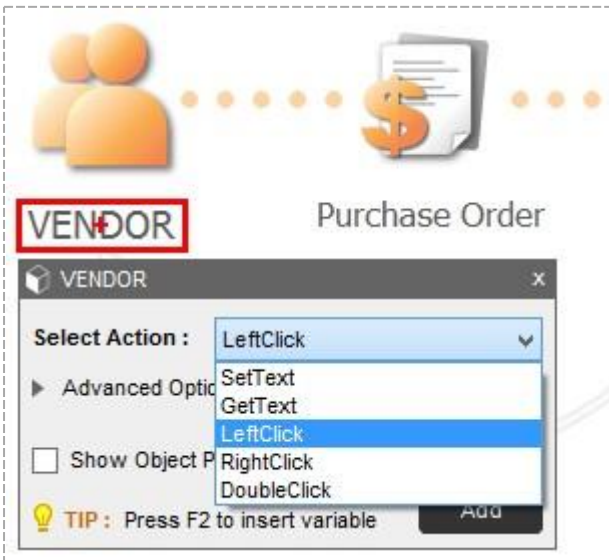
18. [Add Logic] (ロジックを追加) をクリックします。



19. [Workbench] が開きます。ここでは、スクリーンまたは DLL を選択してナビゲーションフローを定義し、コマンドの追加、ロジックの定義、フローの保存および再生を行い、想定どおり動作するかを確認します。



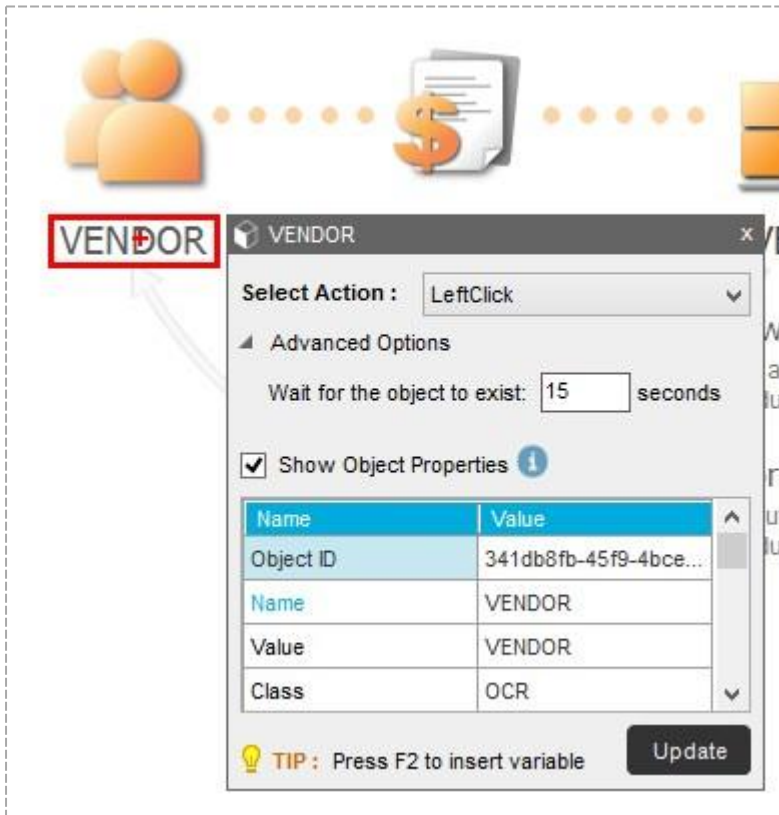
20. 最初にキャプチャしたスクリーンで [Vendor] (ベンダー) をクリックします。選択したオブジェクトの付近にプロパティウィンドウが開かれ、ここで [Actions] (アクション) を設定できます。




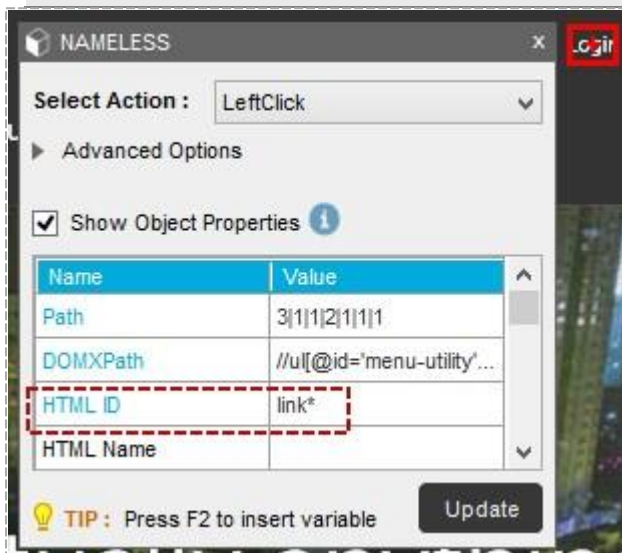



21. アクションのリストから[LeftClick] (左クリック)を選択します。
22. [Advanced Options] (詳細オプション)で、オブジェクトが読み込まれるまでの待機時間を入力します。[Show Object Properties] (オブジェクトプロパティを表示)を選択すると、再生時にオブジェクトの検索で使用するプロパティが表示されます。

Object Property (オブジェクトプロパティ)はスクリーンの設定時に選択した検索条件に基づいて設定されます。検索用に選択した object property (オブジェクトプロパティ)は青いフォントで表示されます。詳しくは、「[MetaBot のスクリーンを設定する](#)」を参照してください。

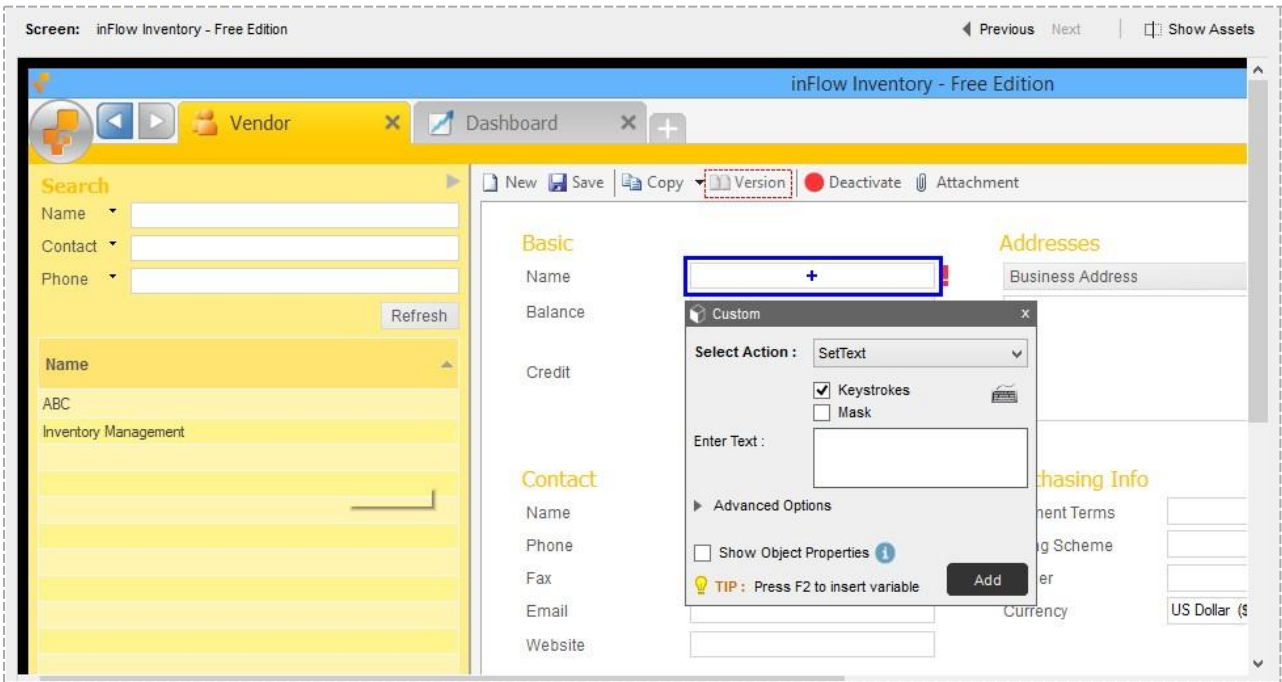


 ヒント: 選択したオブジェクトの検索条件に動的なプロパティが含まれている場合は、実際の値の代わりに「\*」を使用することをお勧めします。たとえば、プロパティ「HTMLID」の値を次に示すように変更します。

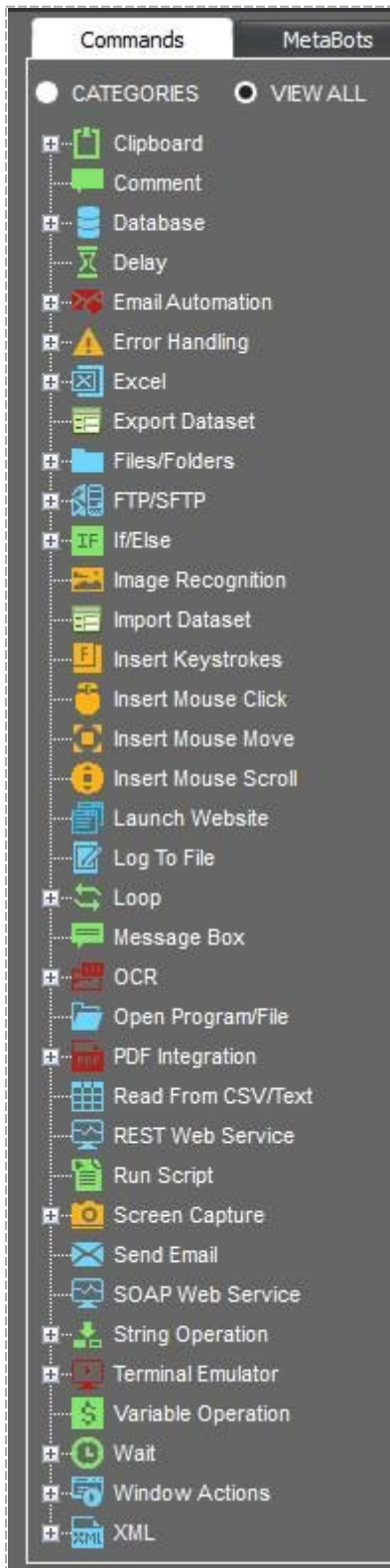


 ヒント: 選択したコントロールに名前が表示されない場合、このコントロールに容易に識別できる名前を付けることができます。必要に応じて選択したコントロールの名前を変更することもできます。詳しくは[こちらを参照してください](#)。

23. その後、[Next] (次へ)をクリックしてその他のスクリーンを追加します。たとえば、前述のアクションによってベンダーを作成するスクリーンに移動し、そこでベンダーを作成して詳細を追加できます。



24. ロジックでコマンドを追加する必要がある場合は、ロジックに適したコマンドを選択します。詳しくは[こちら](#)を参照してください。

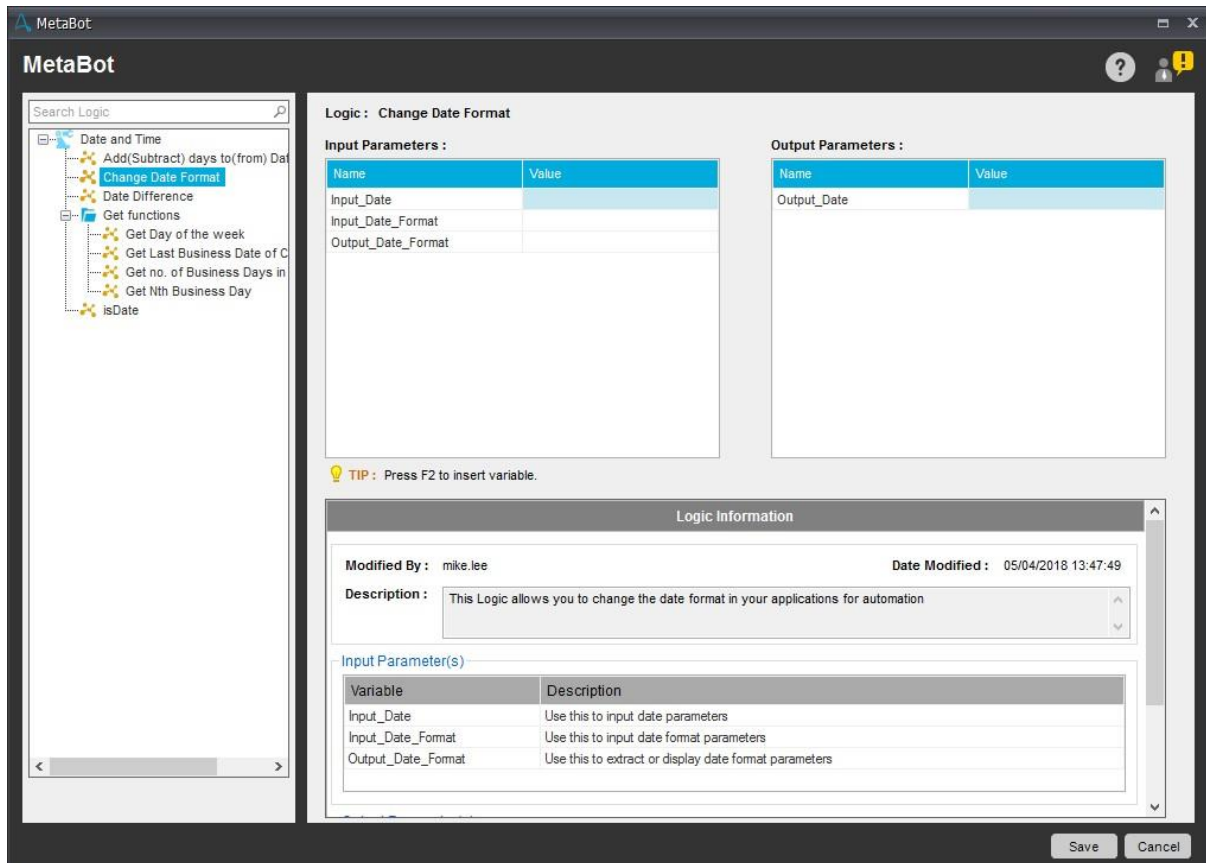


25. また、選択した MetaBot から別のロジックを追加することもできます。

- a. [MetaBots] タブをクリックし、リストから MetaBot を選択します。



- b. ロジックを選択できる MetaBot ウィンドウが起動します。

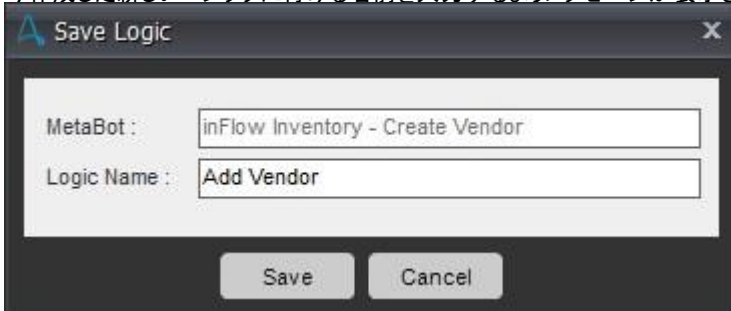


備考：追加する MetaBot で使用可能なロジックのみを選択できます。他の MetaBot からロジックを選択することはできません。これらは、[Workbench から新しいロジックを作成するとき](#)に利用できます

26. 必要に応じて DLL も追加できます。詳しくは[こちら](#)を参照してください。
27. 終了したら、[Save] (保存) をクリックします。



28. 今作成した新しいロジックに付ける名前を入力するようメッセージが表示されます。[Save] (保存) をクリックして終了します。




29. 保存されたアクションが Logic Editor の「Actions List」(アクションリスト) に表示されます。

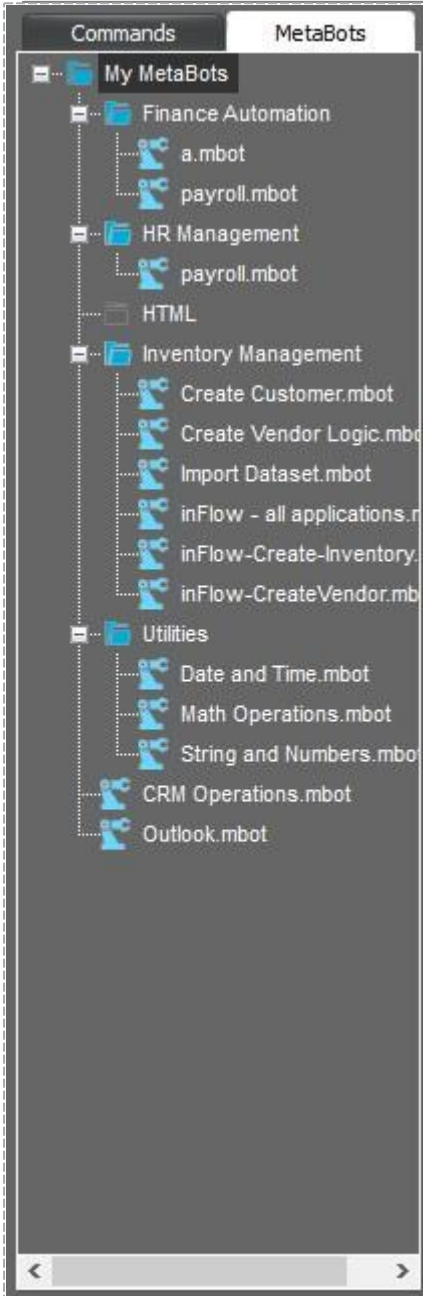


30. このロジックを実行して、ロジックが想定どおり動作することを確認しましょう。[Run] (実行) をクリックします。

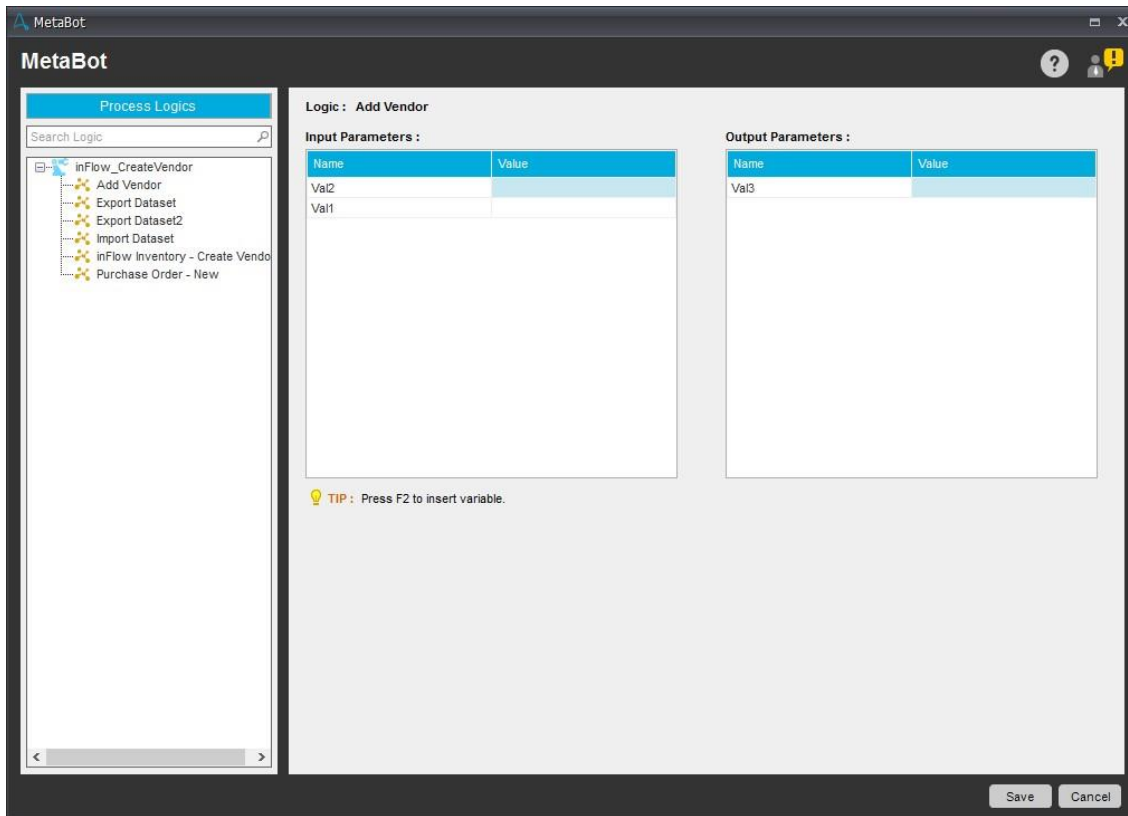


31. 在庫リポジトリでベンダーを作成するロジックの MetaBot が正常に作成されました。
32. 以上でこの MetaBot を自動化タスク内で使用できるようになります。Automation Anywhere Enterprise Client もマシンにインストールされており、MetaBot がサポートされていることを前提として、Workbench を開いて新しい自動化タスクを作成します。
33. 左上の MetaBot リストから[inFlow Inventory – Create Vendor] (inFlow Inventory – ベンダーを作成) を選択し、アクションリストにドラッグします。

 備考: MetaBot が Control Room にアップロードされて Client にダウンロードされた後に、その他の MetaBot ユーザーが利用できるようになります。



34. MetaBot UI が呼び出され、使用可能な[Logics] (ロジック) のリストを参照して選択できるようになります。[Add Vendor] (ベンダーを追加) ロジックを選択し、必要な[Input Parameters] (入力パラメーター) と[Output Parameters] (出力パラメーター) を追加し、[Save] (保存) をクリックします。

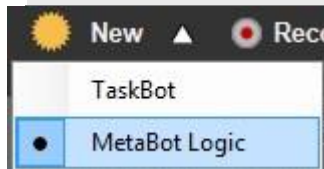


35. Workbench で選択した MetaBot の論理フォルダー内にロジックを直接作成することもできます。

- ロジックを作成するには、[New] (新規) をクリックします。

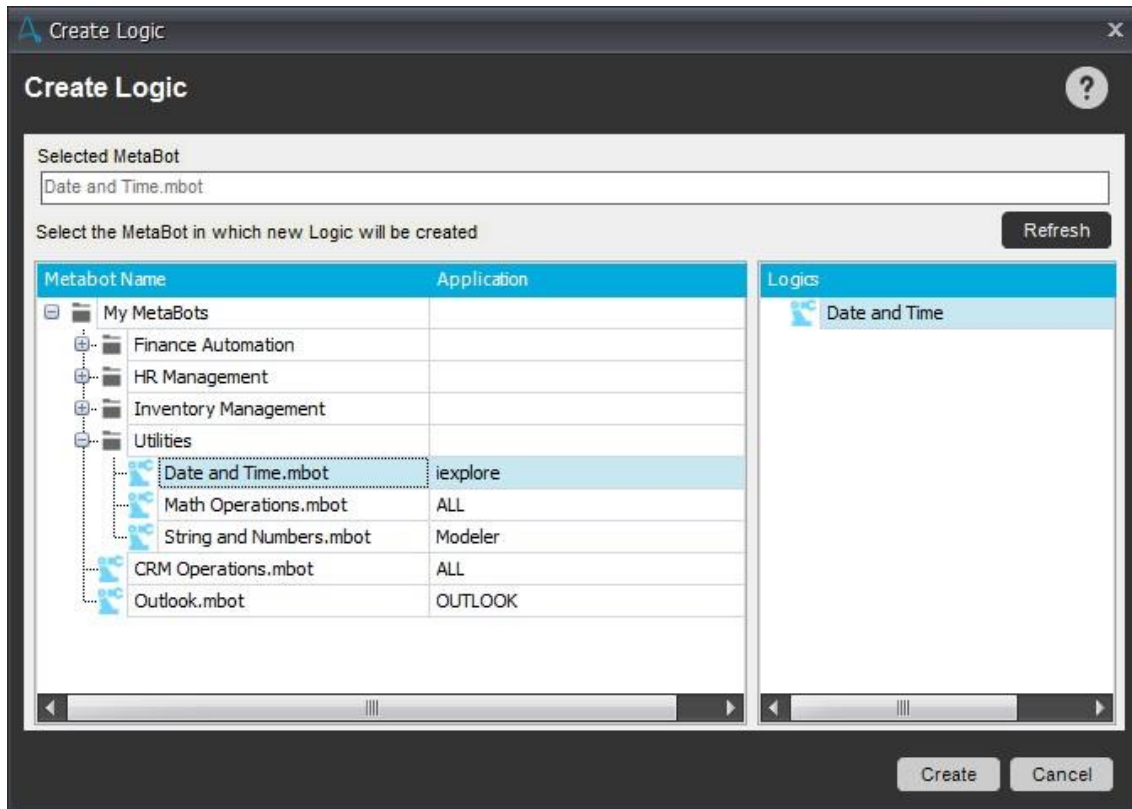


備考: デフォルトでロジックを作成するには、矢印をクリックして MetaBot ロジックを選択し、[New] (新規) をクリックします

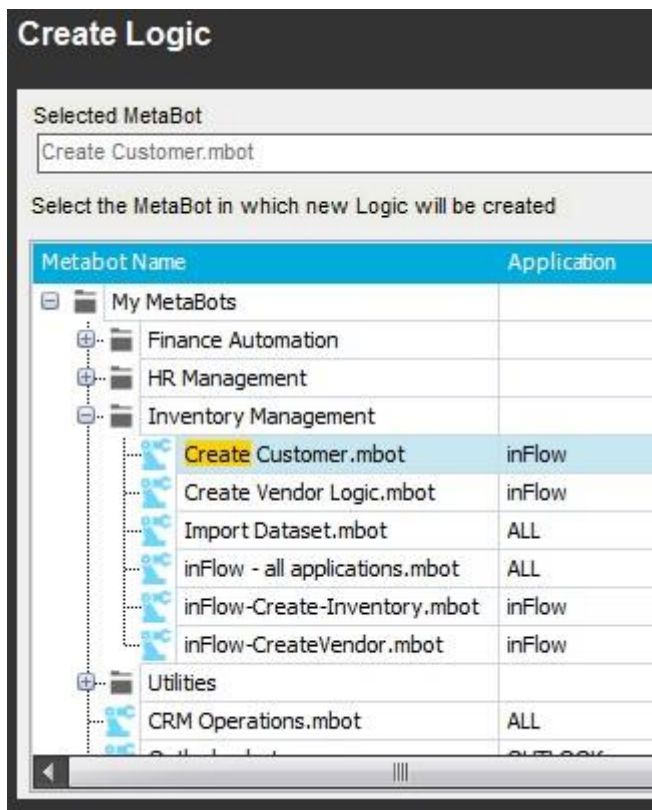


- [Create Logic] (ロジックを作成) ウィンドウが開きます。[My MetaBots] のリストから MetaBot を選択します。





ヒント: キーワードを使用してフォルダー内で MetaBot を検索します。

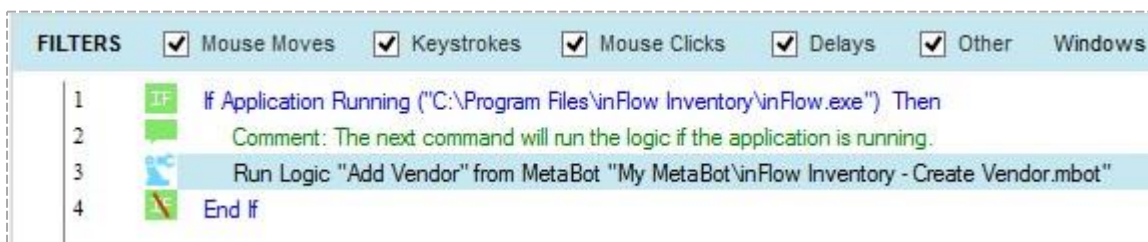


- [Create Logic] (ロジックを作成) ウィンドウには、MetaBot のリスト、作成対象のアプリケーション、ロジックのリスト (存在する場合) が表示されます。

詳しくは、「[Workbench を使用してロジックを作成する](#)」を参照してください。


36. ロジックが TaskBot に追加されます。





 ヒント: Logic Editor でロジックを作成する際に[Input/Output Parameters] (入力/出力パラメーター)を指定した場合は、ここで確認できます。詳しくは[こちら](#)を参照してください。

37. タスクを保存し、実行します。

 ヒント: 最初にアプリケーションを起動してからロジックを使用します。

38. MetaBot を使用して、在庫管理システムにベンダーのリポジトリを正常に作成できました。

## MetaBot を追加および記録する

MetaBot Designer を使用して、空の MetaBot を追加するかワークフローの一連の手順を記録するかのいずれかの方法で、MetaBot を作成できます。

### 新しい MetaBot を作成する


選択したアプリケーション用に空の MetaBot を作成します。引き続き任意のタイミングで、[Add Screen] (スクリーンを追加) と [Record Screens] (スクリーンを記録) を使用して、MetaBot にスクリーンを追加できます。

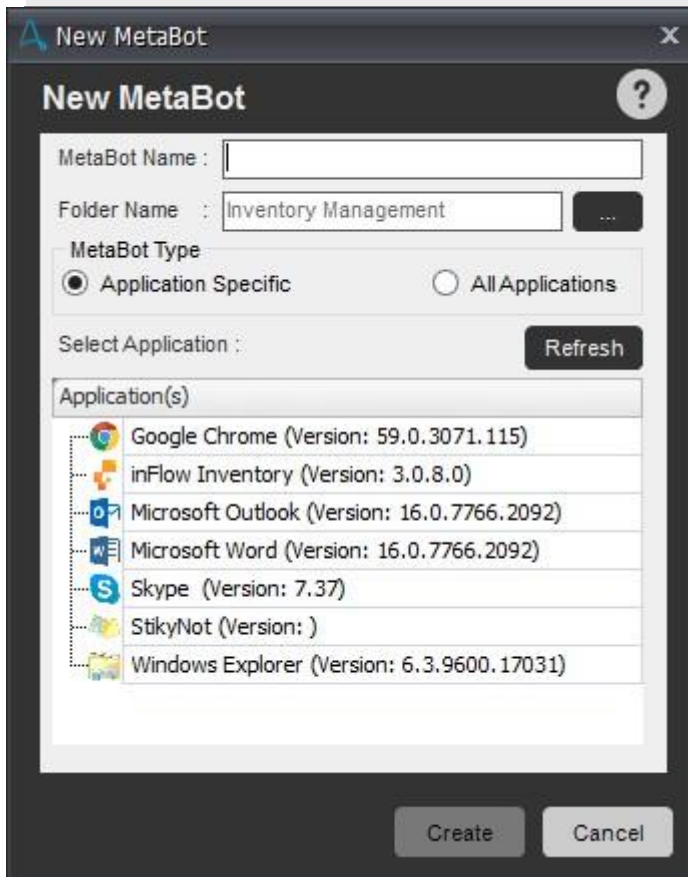
#### [New] (新規) を使用して MetaBot を作成する

1. [New MetaBot] (新しい MetaBot) をクリックします。

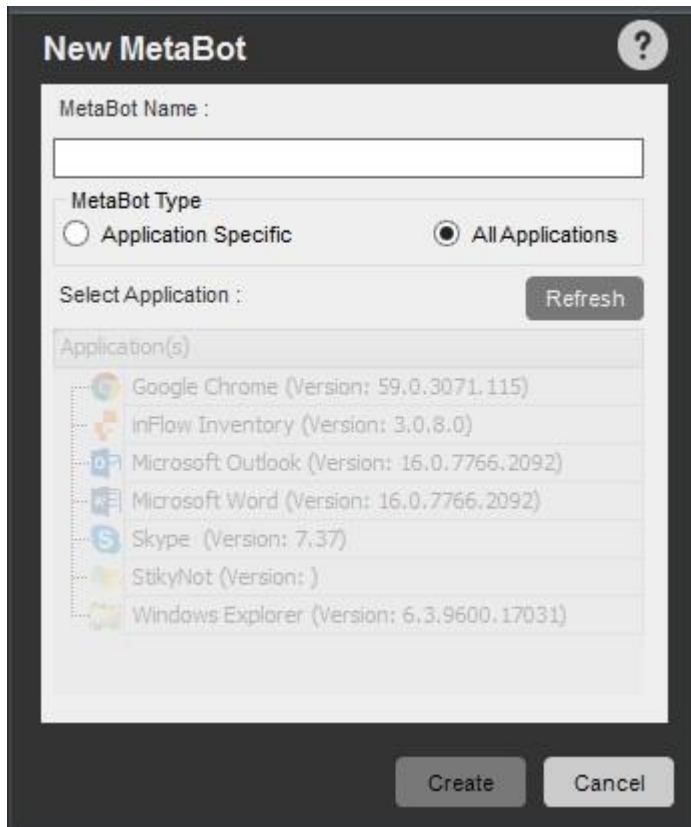


2. 単一のアプリケーション用の MetaBot を作成するには、[Application Specific] (アプリケーションを指定) をクリックします。「アプリケーション非依存型」の MetaBot、すなわち複数のアプリケーションを使用する MetaBot を作成するには、[All Applications] (すべてのアプリケーション) を選択します。MetaBot を作成する目的を反映した名前を指定します。

 備考: お使いのアプリケーションが表示されない場合は [Refresh] (更新) をクリックします。[Refresh] (更新) しても表示されない場合は、アプリケーションが管理者モードで実行されているかどうか確認します。該当する場合は、MetaBot Designer を管理者モードで再起動します。



- [All Applications] (すべてのアプリケーション) を選択した場合、アプリケーションリストは次のように無効化されます。



3. [Create] (作成)をクリックして MetaBot を保存します。



- MetaBot は [My MetaBots] フォルダに保存されます。

 ヒント: 詳細な手順については「[MetaBot を作成する](#)」を参照してください。

[Record] (記録)を使用して MetaBot を作成する

シーケンスのプロセス全体をキャプチャして新しい MetaBot を作成することもできます。

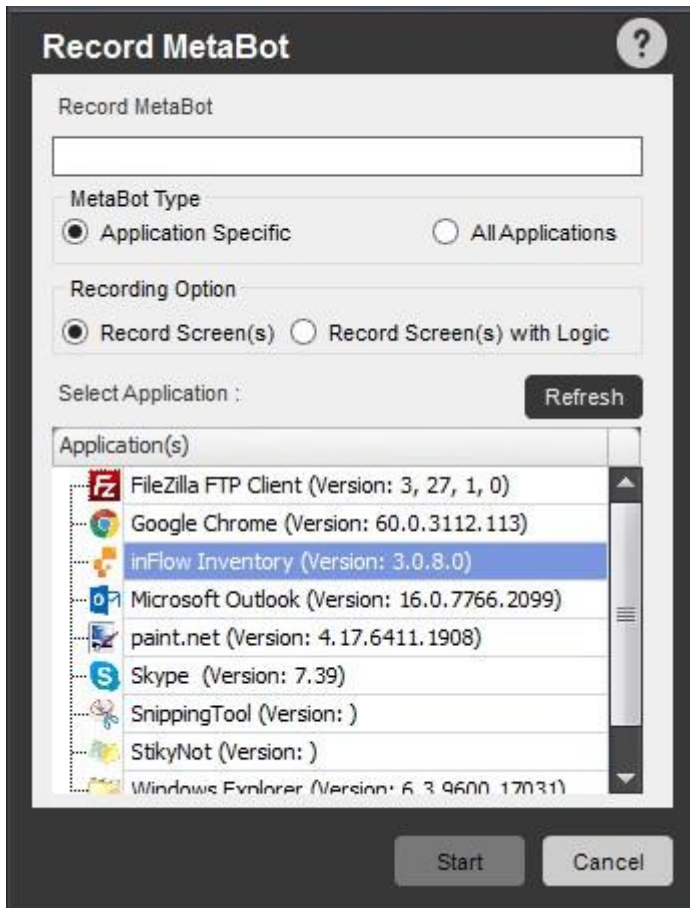
記録はワークフローをキャプチャする場合に特に便利です。ここでは、次のどちらかを選択できます。

- スクリーンのみを記録または
  - ロジックの形式のワークフローとともにスクリーンを記録
1. スクリーンを記録関連するオブジェクトプロパティを持つスクリーンのみをキャプチャする場合はこのオプションを使用します。

1. [record] (記録)をクリックします。



2. GUI のプロパティをキャプチャするワークフローに応じて、[Application Specific] (アプリケーションを指定)または [All Applications] (すべてのアプリケーション)のいずれかを指定します。
3. [Record MetaBot] (MetaBot を記録) ウィンドウで [Record Screen(s)] (スクリーンを記録) オプションを選択します。



4. [Open Screens] (スクリーンを開く)で画像をクリックします。



- MetaBot Designer が選択したアプリケーションのスクリーンの記録を開始します。



備考：クリックするごとにスクリーンが記録されます。

- 次の画面が表示されていれば記録モードになっています。



- 一時記録を停止し、その後そこから再開する予定の場合は、[Pause]（一時停止）をクリックします。
- 記録を続ける場合は[Resume]（再開）をクリックします。

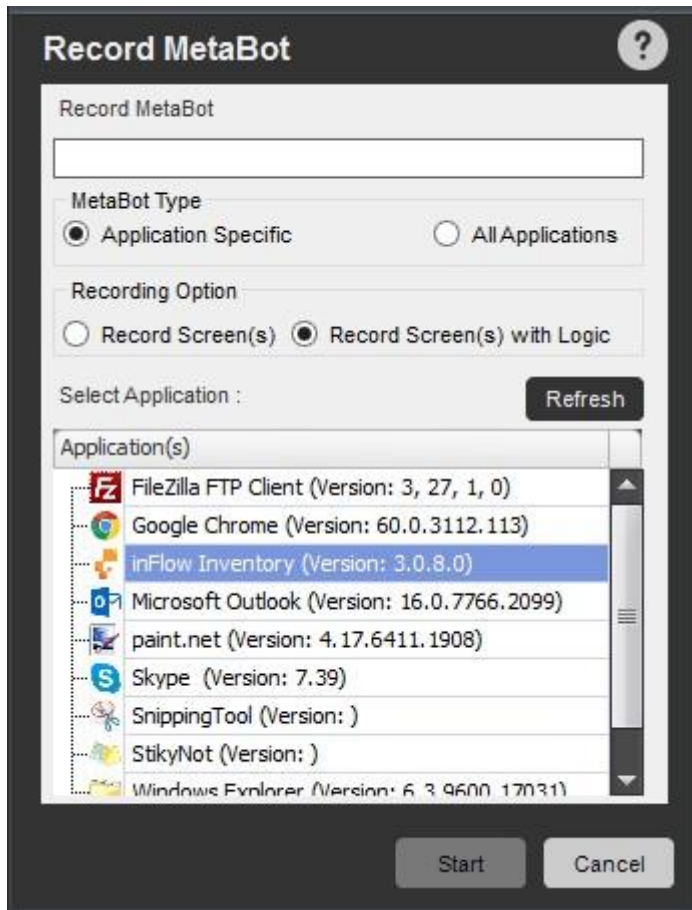


備考：1つのアプリケーションに複数の EXE がある場合、それぞれに個別の MetaBot を作成する必要があります。

## 2. スクリーンをロジックとともに記録

ロジックフローの構成、調整、設計をする代わりに、ワークフローをロジックの形式で直接保存する場合は、このオプションを使用します。これによって、記録されたスクリーンは[Asset]（アセット）ライブラリーにも追加されます。

手順 1～6 を実行します。ただし、[Record Screen(s)]（スクリーンを記録）ではなく、[Record Screen(s) with Logic]（スクリーンをロジックとともに記録）を選択します。



[Stop] (停止)を押すと Logic Editor が起動します。ここでワークフローを編集しロジックとして保存することを選択できます。

 ヒント: [Logic] (ロジック) タブの [Record Logic] (ロジックを記録) オプションを使用して、既存の MetaBot に、スクリーンをロジックとともに記録することもできます。詳しくは [こちら](#) を参照してください。

[Add Screen] (スクリーンを追加) を使用して MetaBot にスクリーンを追加する

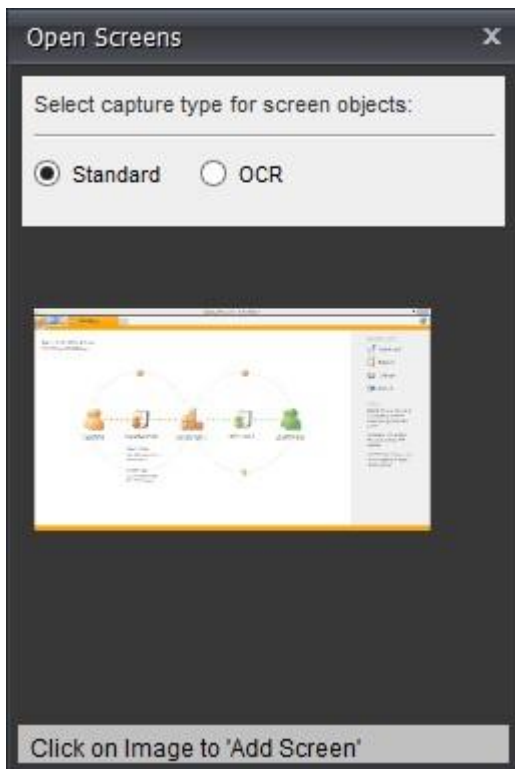
実行中のアプリケーションの 1 つのスクリーンをキャプチャするにはこのオプションを使用します。これによって、既存の MetaBot にスクリーンが追加されます。

スクリーンを追加するには、

1. [Add Screen] (スクリーンを追加) をクリックします。

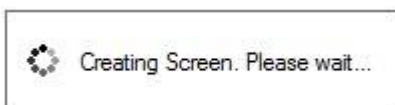


2. スクリーンオブジェクトのキャプチャタイプを [Standard] (標準) または [OCR] (OCR) のいずれかから選択し、[Open Screens] (スクリーンを開く) ウィンドウの画像をクリックします。スクリーンキャプチャタイプの詳細については「[MetaBot を作成する](#)」を参照してください。



 備考: [Add Screen](スクリーンを追加)オプションでのみ OCR を選択できます。[Record Screens](スクリーンを記録)では選択できません。

3. スクリーンがキャプチャされるまで待機します。



4. スクリーンは現在の MetaBot に追加されます。

[Record Screens](スクリーンを記録)を使用して MetaBot のスクリーンを記録する記録はワークフローをキャプチャする場合に特に便利です。

ワークフローモードでアプリケーションとやりとりしながらすべてのスクリーン/UI 要素([Menu Item](メニュー項目)/[Popup](ポップアップ)/[Context Menu](コンテキストメニュー)などを記録するには、[Record Screen](スクリーンを記録)を使用します。これらの UI 要素は、[Add Screen](スクリーンを追加)を使用してキャプチャすることはできません。

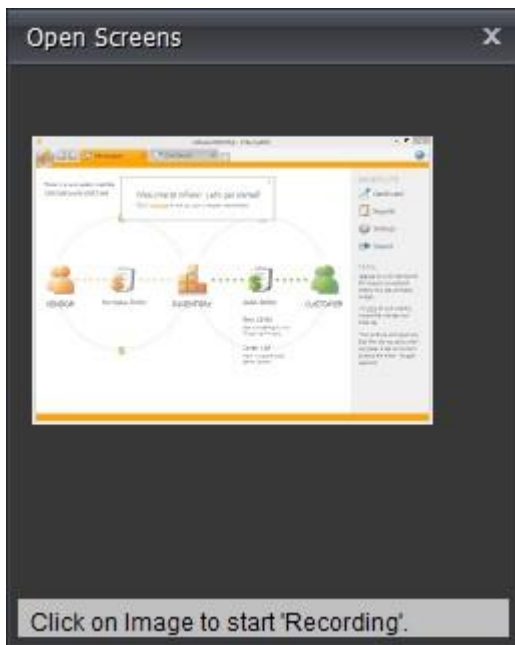
スクリーンを記録するには、

1. [Record Screen](スクリーンを記録)をクリックします。



2. [Open Screens](スクリーンを開く)ウィンドウでクリックします。





3. キャプチャされるスクリーンは現在の MetaBot に保存されます。



ヒント: MetaBot の作成、記録、実行の間はスクリーンのズームレベルを 100%にしておくことを推奨します。

#### MetaBot を更新する

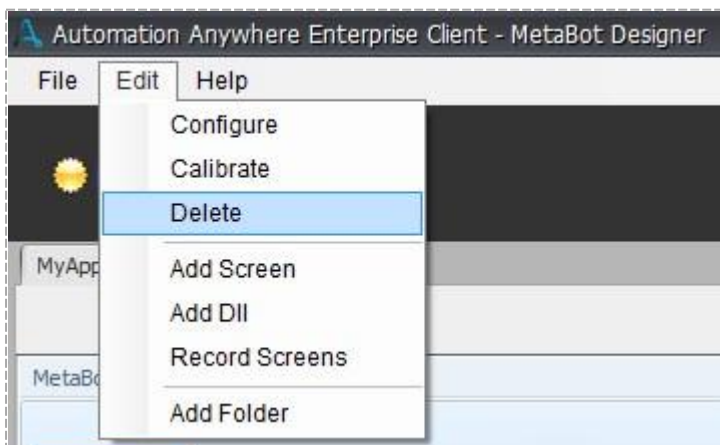
既存の MetaBot に追加または変更を行うことで MetaBot を更新します。スクリーンの追加/記録、DLL とフォルダーの追加、Control Room への再アップロードができます。キャプチャされたスクリーンの再構成と再較正ができます。すなわち、新しい MetaBot を作成する場合に実行できる機能はすべて実行できます。

#### MetaBot を削除する

MetaBot を削除したり、MetaBot からスクリーンや DLL を削除したりできます。

次のいずれかの手順で削除できます。

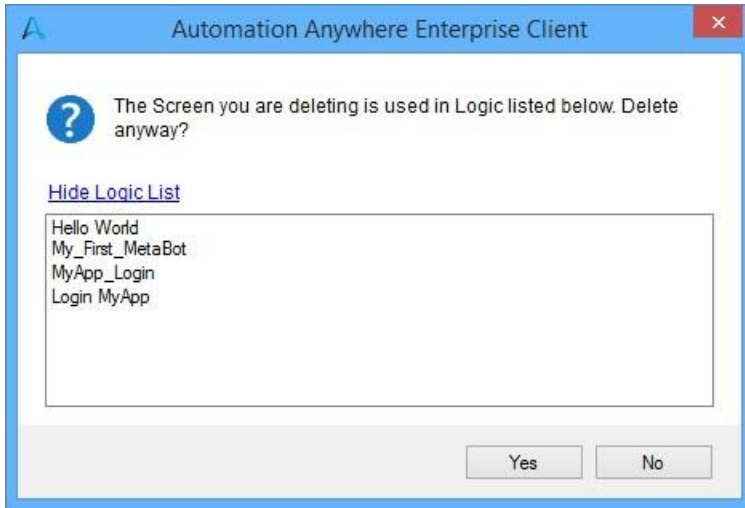
1. [Edit] (編集)メニューから:



2. [Delete] (削除)ボタンを使用:



備考: 削除しようとする[Screen] (スクリーン)が複数のロジックで使用されているかどうかは、[Logic List] (ロジックリスト)から確認できます。



## MetaBot のスクリーンを設定する

基本的に、起こりうるすべての実行時シナリオに対応するように MetaBot を作成する必要があります。そうすることで、問題なく関連タスクを実行できるようになります。したがって、ほとんどの場合スクリーンをキャプチャするのみでは不十分です。Configure (設定) 機能はこの操作で重要になります。

[Configure] (設定) を使用して、記録または追加されたスクリーンのオブジェクトプロパティを編集します。ここで [Screen Name] (スクリーン名)、[Screen Title] (スクリーンタイトル) などのエイリアスを使用することもできます。オブジェクトを選択し、[Name] (名前)、[Path] (パス)、[Value] (値)、[ID]、[Class] (クラス)、[Index] (インデックス)、[States] (状態) などのプロパティと、タスク実行時に使用する [Play Mode] (再生モード) も選択できます。

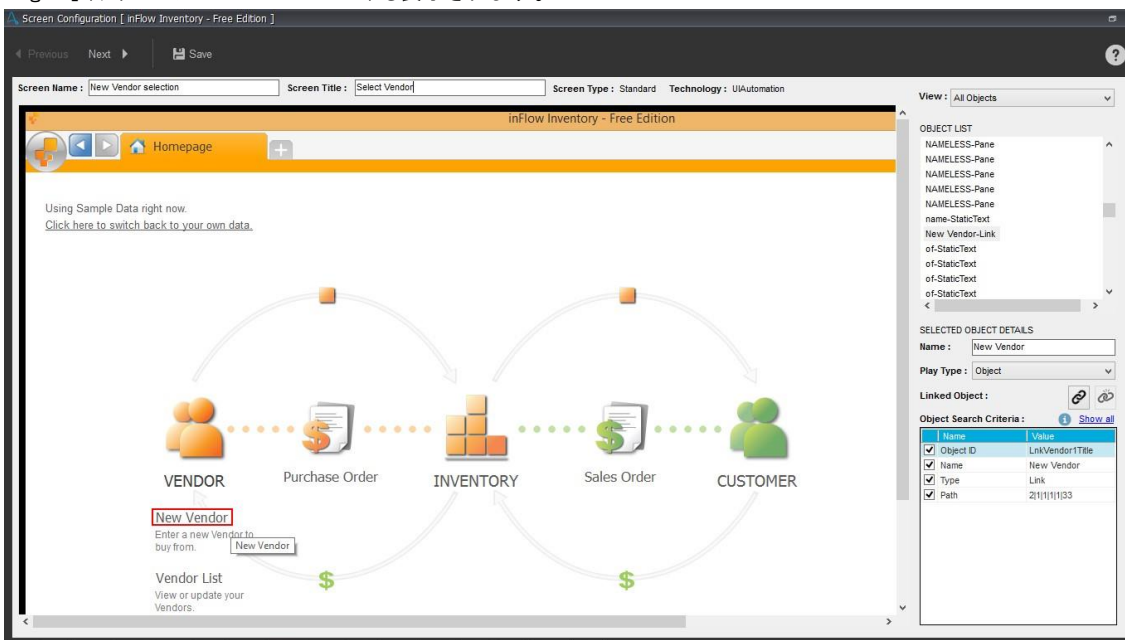
オブジェクトプロパティには、非常に重要な目的があります。これらのプロパティセットを使用して、再生時に関連オブジェクトを一意に識別できます。この製品では、選択したオブジェクトごとにデフォルトでいくつかのプロパティが効率的に選択されるため、ほとんどのシナリオを進めることができます。ただし、複雑なケースの場合、これらのプロパティを操作して信頼性の高い MetaBot の作成がいつでも可能です。たとえば、[Custom Object] オプションを使用して特定のオブジェクトをカスタマイズできます。

### 1. スクリーンを設定する


1. スクリーンを選択します。
2. [Configure] (設定) をクリックします




3. [Screen Configuration] (スクリーンの構成) エディターが開きます。ここには、スクリーンを移動する [Previous] (前へ) と [Next] (次へ) オプションや、スクリーンの [View] (ビュー) と [Object Details] (オブジェクトの詳細) を選択するオプションがあります。[Screen Name] (スクリーン名)、[Screen Title] (スクリーンタイトル)、[Screen Type] (スクリーンタイプ) と、スクリーンのキャプチャに使用する [Technology / OCR Engine] (テクノロジー / OCR エンジン) も表示されます。



4. 実行時に使用するコントロールを強調表示します。
  - オブジェクトプロパティはスクリーンの右パネルに入力されます。
5. [Screen Name] (スクリーン名) を任意で入力します。

 備考: [Screen Name] (スクリーン名) は追加されたスクリーンに表示され、[Screen Title] (スクリーンタイトル) は設定したスクリーンウインドウに表示されます。

- 他のスクリーンと区別しやすいように、必要に応じてスクリーンの名前を変更できます。
- また、あらゆる状況に対応できるように汎用スクリーンタイトルを指定することをお勧めします。

 備考: 「\*」を使用して汎用タイトルを追加します。

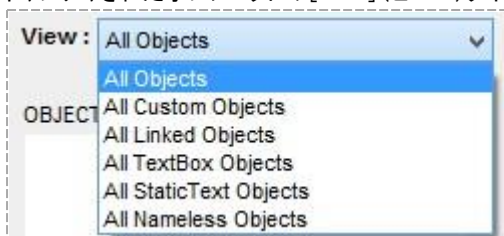
6. [Screen Type] (スクリーンタイプ) を使用して、選択したスクリーンの追加時に使用したオブジェクトのキャプチャタイプが [Standard] (標準) と [OCR] のどちらであるかを特定できます。

7. オブジェクトのキャプチャタイプに応じて、[Technology] (テクノロジー) または [OCR Engine] (OCR エンジン) が表示されます。標準キャプチャの場合、[Technology] (テクノロジー) は [UIAutomation] (UI 自動化) として表示されます。OCR 自動化の場合、オブジェクトのキャプチャに使用する OCR エンジンが表示されます。詳しくは、「[MetaBot を作成する](#)」でスクリーンの追加に関するセクションを参照してください。

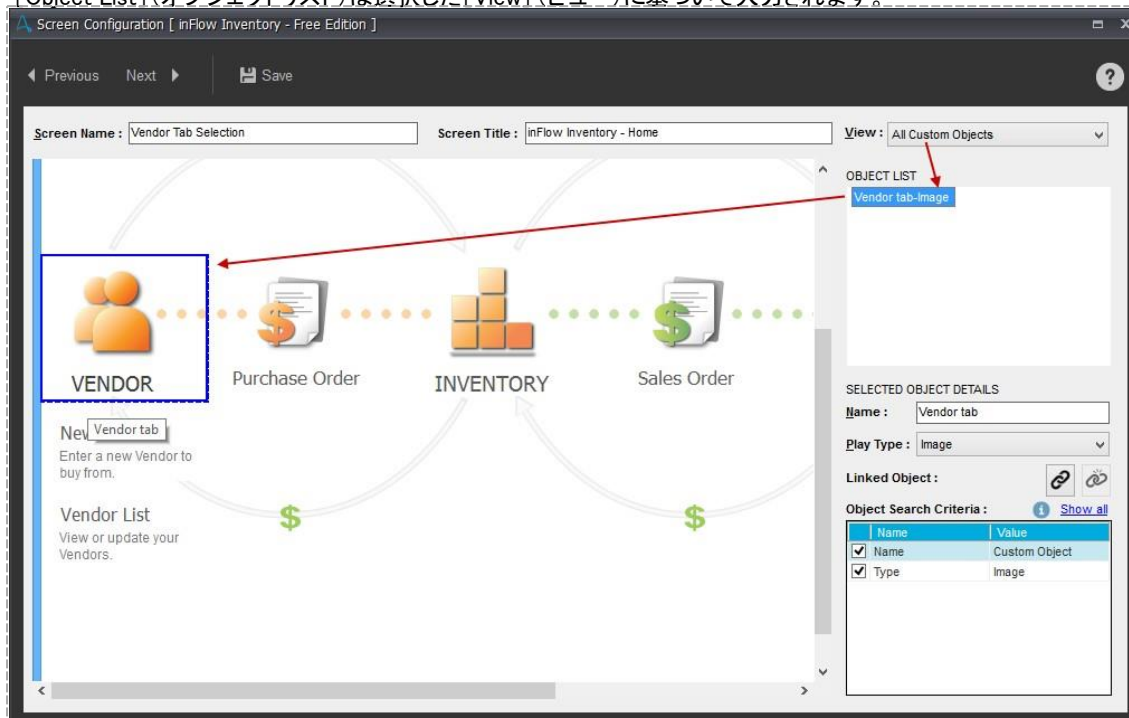
## 2. オブジェクトプロパティを設定する

オブジェクトプロパティは、[View] (ビュー)、[Selected Object Details] (選択したオブジェクトの詳細)、[Object Search Criteria] (オブジェクトの検索条件) を使用して設定できます。ここでは、オブジェクトの名前変更、再生タイプの選択、手動によるオブジェクト間のリンク、自動化の実行で使用する検索条件の定義を実行できます。

1. キャプチャされたオブジェクトの [View] (ビュー) タイプをカスタマイズするには、リストからいずれか 1 つを選択します。



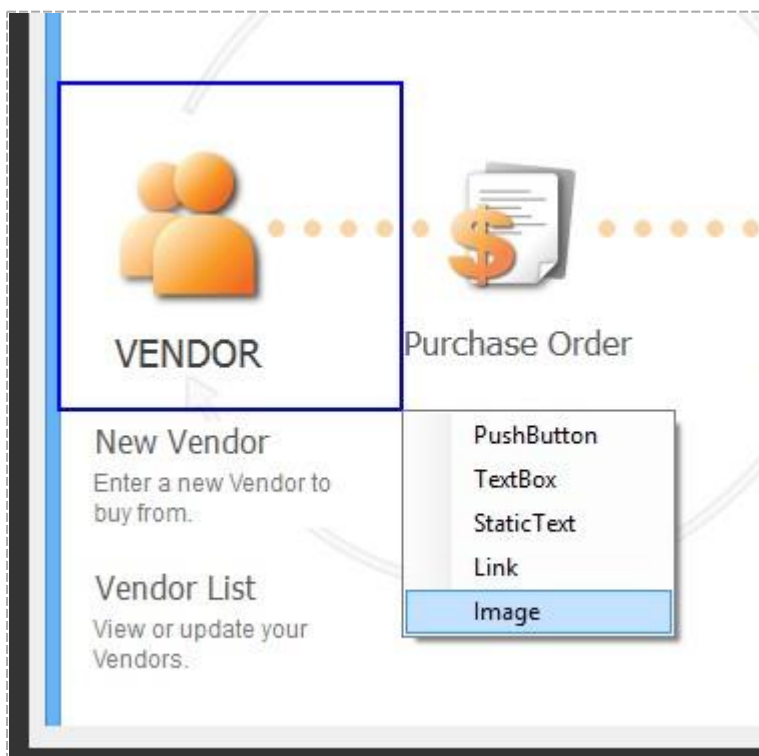
2. [Object List] (オブジェクトリスト) は選択した [View] (ビュー) に基づいて入力されます。



- Custom Objects – 特に、スクリーンの記録またはキャプチャ時にオブジェクトプロパティがキャプチャされない場合に定義します。

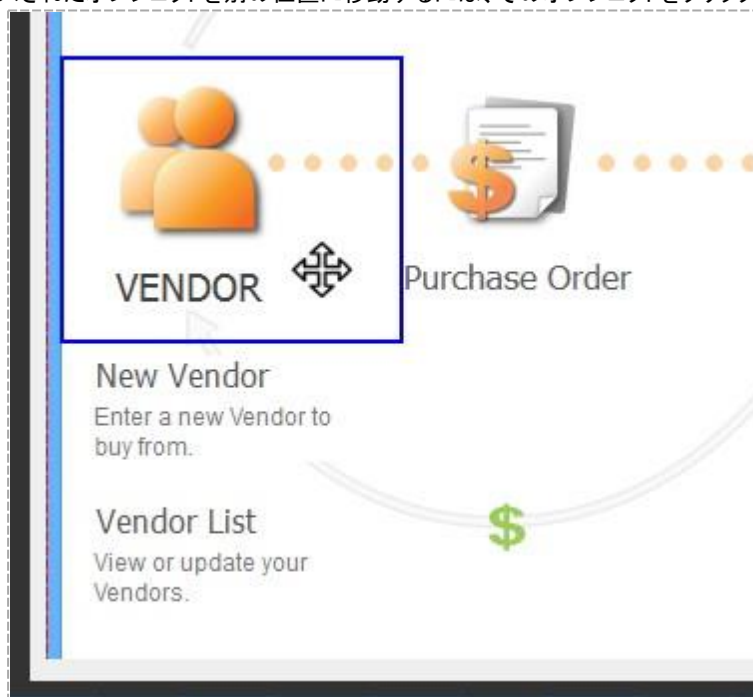
オブジェクトをカスタムとして分類するには、該当範囲をドラッグして選択し、オブジェクトの処理方法を [Push Button] (プッシュ型ボタン)、[Text Box] (テキストボックス)、[Static Text] (固定テキスト)、[Link] (リンク)、[Image] (画像) から選択します。

 **備考:** 1 つのオブジェクトを選択するとすべての custom object が青い枠で強調表示され、custom object 以外は赤い枠で強調表示されます。同様に、オブジェクトにマウスポインターを合わせると、custom object が青い点線で強調表示され、custom object 以外は赤の点線で強調表示されます。



custom object を移動またはサイズ変更する場合、同じ動作が反映されるように関連するスクリーンを更新する必要があります。これは、設定中に移動またはサイズ変更して実行できます。

- a. カスタマイズされたオブジェクトを別の位置に移動するには、そのオブジェクトをクリックして目的の位置にドラッグします。




- b. カスタマイズされたオブジェクトのサイズを変更するには、クリックボタンを押したまま、必要なサイズになるまでポインターをドラッグします。



- Linked Objects (リンクオブジェクト) – スクリーンで特定のオブジェクトにリンクされたオブジェクトです。オブジェクトは、他のオブジェクトまたは自動化の実行中に簡単に検索できる UI 要素にリンクされます。

OCR を使用してキャプチャされるオブジェクトの場合、リンクは自動的に行われるため、手動でオブジェクトをリンクする必要はありません。ただし、標準テクノロジーを使用してキャプチャされるスクリーンの場合は、手動でオブジェクトをリンクする必要があります。詳しくは[こちら](#)を参照してください。

 備考: スクリーンにリンクする HTML 要素がある場合、それらの要素を custom object として設定してからリンクすることをお勧めします。

- オブジェクト間をリンクするには、スクリーンで容易に識別できるオブジェクトを選択し、[Linked Objects] (リンクオブジェクト) で



アイコンをクリックします。容易に識別できるオブジェクトは親オブジェクトで、それにリンクされるオブジェクトは子オブジェクトです。


- リンクするオブジェクトにカーソルを移動して、リンクをクリックします。
- これでオブジェクトがリンクされます。



- 複数の子オブジェクトを 1 つの parent object にリンクできます。
- 親オブジェクトと子オブジェクト間のリンクを変更することもできます。これを行う場合、これらのオブジェクトが使用される自動化を編集する Bot Creator にメッセージが表示されます。詳しくは[こちら](#)を参照してください。

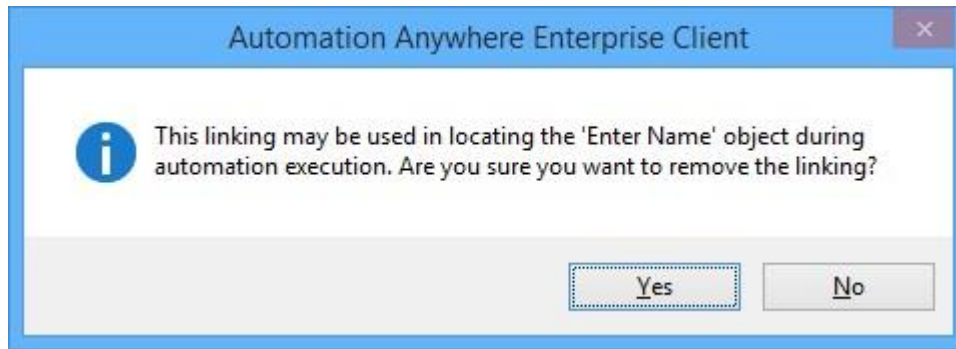


ヒント: 親オブジェクトと子オブジェクトのプロパティは、ロジックを作成する際にプロパティウィンドウで個別に確認できます。自動化を実行すると、親オブジェクトの再生タイプで子オブジェクトが検索されます。詳しくは[こちら](#)を参照してください。

- リンクされたオブジェクトのリンクの解除もできます。[Linked Objects] (リンクオブジェクト) で  アイコンをクリックします。

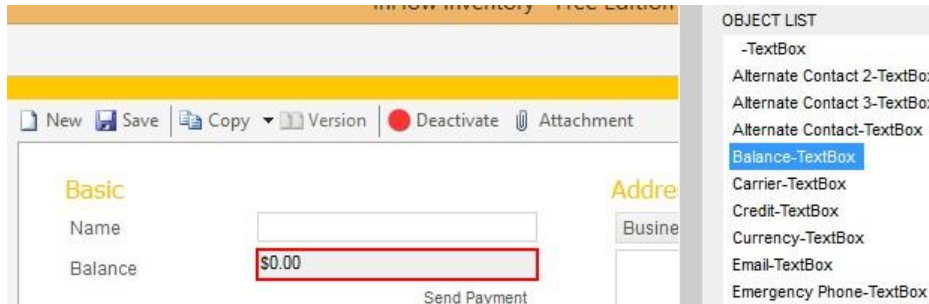
オブジェクトのリンクを解除する際は、対象オブジェクトが自動化で使用されていないことを確認する必要があることに留意してください。



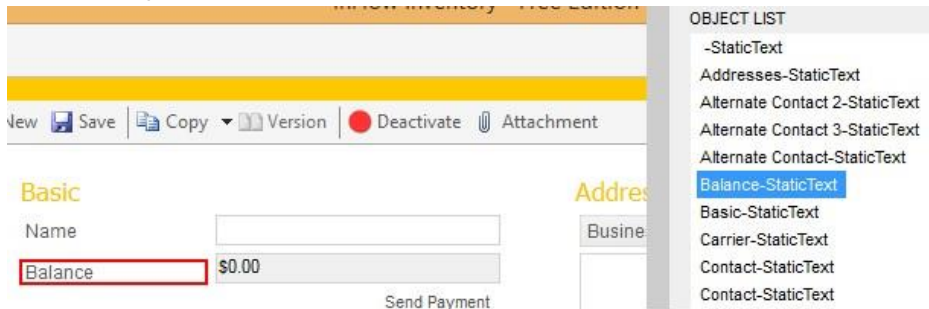


オブジェクトが自動化ですでに使用されている場合、[Yes] (はい) をクリックすると、Bot Creator によってその自動化が編集モードで開かれる際にメッセージが表示されます。詳しくは [こちら](#) を参照してください。

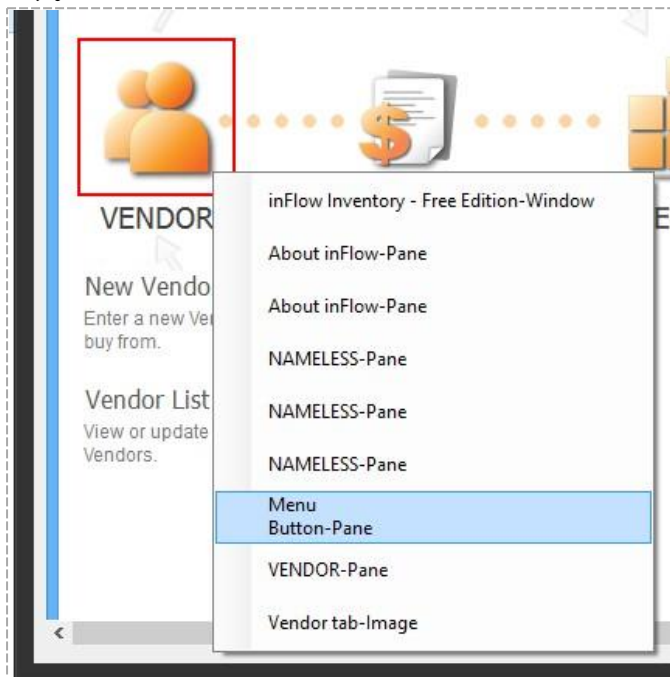
- TextBox Objects (テキストボックスオブジェクト) - キャプチャされたスクリーンにテキストボックスとして表示されるオブジェクトです。



- StaticText Objects (静的テキストオブジェクト) - キャプチャされたスクリーンにテキストとして表示されるオブジェクトです。




- Co-located Objects (併置オブジェクト) - 同じ親 (parent) コントロールに属し、現在選択されているオブジェクトに隣接するオブジェクトです。





 備考: これらのオブジェクトは[View] (ビュー) フィルターに表示されません。

- Nameless Objects (無名オブジェクト) - 他のどのオブジェクトタイプにも分類されていないオブジェクトです。これらのオブジェクトはスクリーンに表示されますが、設定されません。[Screen] (スクリーン) と [Import/Export Command] (インポート/エクスポートコマンド) の設定中の識別を容易にするために、これらのオブジェクトにはシステムで生成された一意の名前が付けられます。


 重要: Enterprise Client の MetaBot バージョン 11.0 以降、これらの無名オブジェクトは、オブジェクトタイプに基づいてテキストボックスまたは静的テキストとして定義されます。

バージョン 11.0 へのアップグレード前にキャプチャされた無名オブジェクトは、引き続き無名オブジェクトとして存在します。ただし、インポートまたはエクスポートの自動化で容易に識別できるよう、これらのオブジェクトに名前を割り当てることをお勧めします。

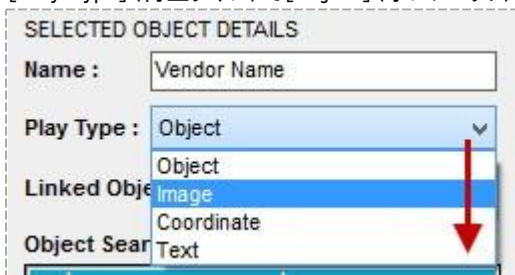
### 3. 選択したオブジェクトの詳細をカスタマイズする


オブジェクトプロパティを設定した後、自動化の要件に従ってオブジェクトの詳細をカスタマイズできます。[Selected Object Details] (選択したオブジェクトの詳細) パネルで、オブジェクトの [Name] (名前) を入力し、[Play Type] (再生タイプ) と [Object Properties] (オブジェクトプロパティ) を選択すると、オブジェクトの [Search Type] (検索タイプ) を使用できます。

1. [Selected Object Details] (選択したオブジェクトの詳細) パネルでは、スクリーン/タイトルの名前変更と同じ理由で [Name] (名前) テキストボックスに任意でエイリアスを指定できます。


 備考: この [Name] (名前) は選択したオブジェクト名です。ユーザーにわかりやすい、容易に識別できる名前をオブジェクトに指定します。自動化のタスクでこのスクリーンを使用する際に役立ちます。

2. [Play Type] (再生タイプ) で [Object] (オブジェクト)、[Image] (画像)、[Coordinate] (座標)、[Text] (テキスト) のいずれかを選択します。



 備考: 選択したオブジェクトタイプに応じて再生タイプが自動的に有効になることを確認します。ただし、ロジックの目的に適したタイプを選択する必要があります。

- Object (オブジェクト) - オブジェクトプロパティに基づいて選択したオブジェクトの再生タイプとして使用します。この再生タイプは、選択したオブジェクトがターゲットアプリケーションで位置を移動し続けるという意味で、本質的に動的である場合に便利です。オブジェクトの UI を基準とした要素で実行されるため、最も信頼性の高い自動化の形式と考えられます。

 ヒント: オブジェクトベースの自動化を実行できない場合は、他の再生モードを [Image] (画像)、[Coordinate] (座標)、[Text] (テキスト) から選択できます。

- Image (画像) - 画像プロパティに基づいて選択したオブジェクトの再生タイプとして使用します。これは、オブジェクトベースの自動化が実行できない場合や、特定の理由で失敗する場合に役立ちます。たとえば、画像ベースの自動化は Citrix、RDP、delphi などのレガシーアプリケーションで動作します。  
このオプションを使用して自動化を実行し、OCR を使ってキャプチャされたスクリーンからテキストを抽出することもできます。詳しくは [こちら](#) を参照してください。
- Coordinate (座標) - 座標プロパティに基づいて選択したオブジェクトの再生タイプとして使用します。選択したオブジェクトがターゲットアプリケーションの同じ座標で使用できる場合に役立ちます。
- Text (テキスト) - テキストプロパティに基づいて選択したオブジェクトの再生タイプとして使用します。ターゲットアプリケーションで画像ベースのオブジェクトからテキストを抽出する場合に役立ちます。テキストはスクリーンの設定時に OCR エンジンを使用して抽出されるため、自動化の実行にはその OCR エンジンのみが使われます。このため、自動化の失敗を防ぐには、選択した OCR エンジンも Bot Runner マシンにインストールする必要があります。

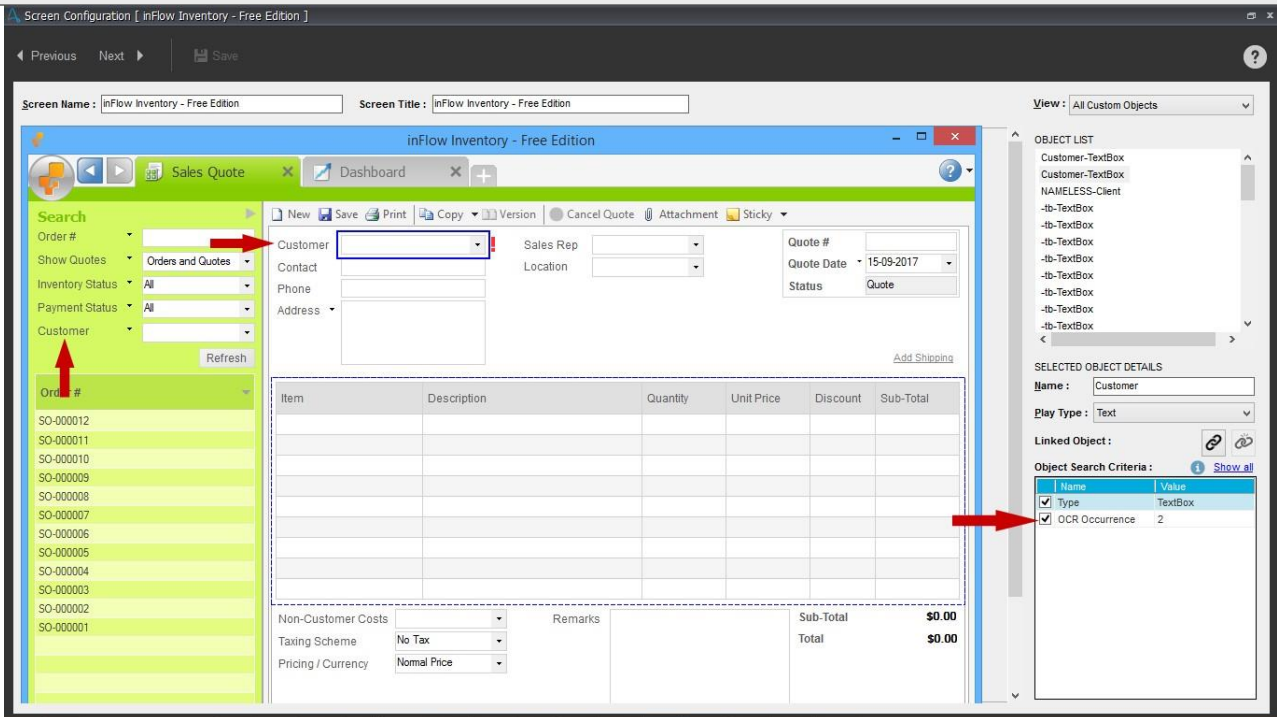
備考: 再生モードが[Text](テキスト)のときの自動化の信頼性を高めるため、オブジェクトは[Text](テキスト)モードを使用して検索されます。[Text](テキスト)モードを使用しても特定のオブジェクトが見つからない場合、オブジェクトの保存された画像を使用した[Image Recognition](画像認識)方法に自動的に切り替わり、同じオブジェクトが検索されます。

- [Object Search Criteria](オブジェクトの検索条件)から、再生時に使用する[Properties](プロパティ)タイプを選択します。選択したプロパティまたはすべてのプロパティを表示できます。一部のプロパティはデフォルトで選択されます。

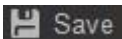
他のオブジェクトに手動でリンクされていないオブジェクトの場合、その独自の検索プロパティが使用されますが、[Link](リンク)オプションを使用して他のオブジェクトにリンクされているオブジェクトの場合は、自動化の実行時にリンクオブジェクトの検索プロパティに基づいて選択したオブジェクトが検索されることにご注意ください。

MetaBot の信頼性の向上に必要な場合は、プロパティの[Values](値)を変更することもできます。

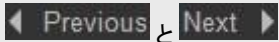
備考: プロパティは、キャプチャしたオブジェクト/コントロールのタイプによって異なる場合があります。たとえば、OCRを使用してキャプチャしたオブジェクトの場合、1つのオブジェクトがスクリーンに表示される回数オブジェクトプロパティに表示されます。この表示回数は手動で更新することもできます。



- すべてのスクリーンの設定が完了したら保存します。



ヒント: アプリケーションの設定を終了せずに MetaBot で他のスクリーンにアクセスするには、[Previous](前へ)ボタンと[Next](次へ)ボタンを使用します。



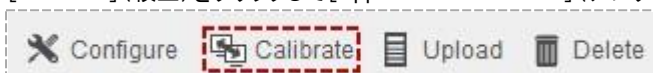
### MetaBot のスクリーンを較正する

アプリケーションは改良や機能更新により製品のライフサイクルの間、絶えず変化します。MetaBot Designer の較正機能を使用すれば、既存のスクリーンと新しいスクリーンを直ちに比較してその違いを見分けることができます。

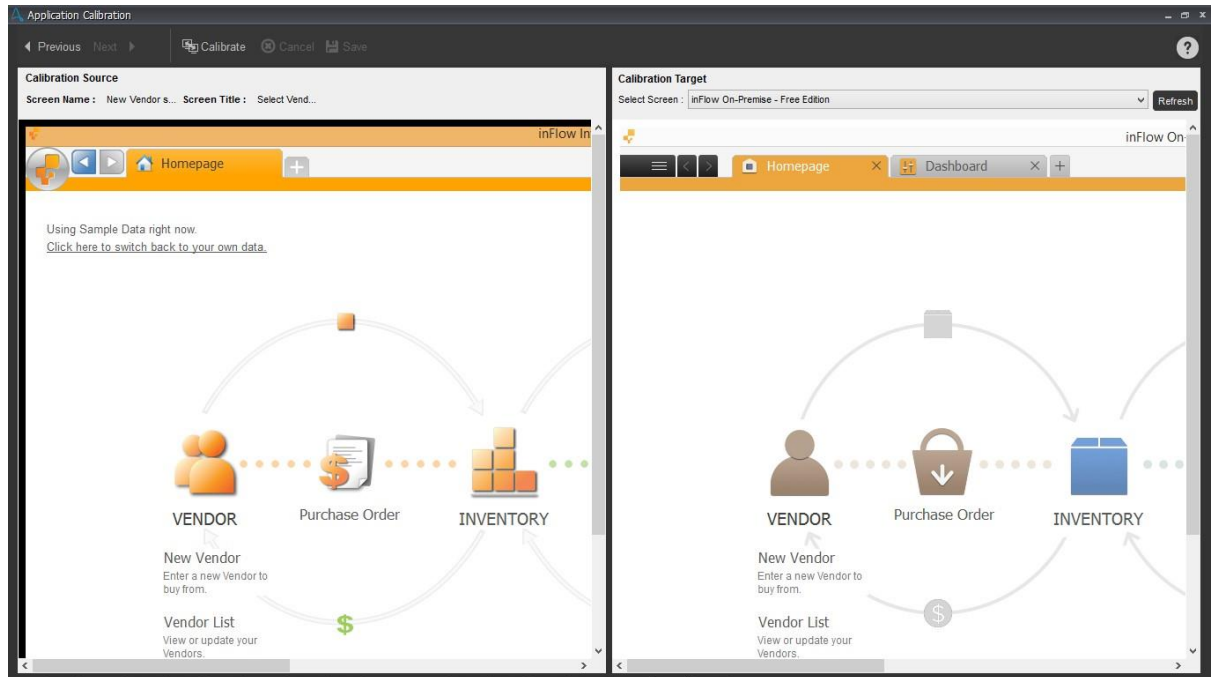
一回のクリックで既存のスクリーンのアップグレードとアップロードができます。それによって、そのスクリーンを使用するすべての自動化タスクが機能を向上できます。

#### スクリーン較正の手順

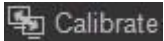
- スクリーンを選択します。
- [Calibrate](較正)をクリックして[Application Calibration](アプリケーションの較正)エディターを起動します。



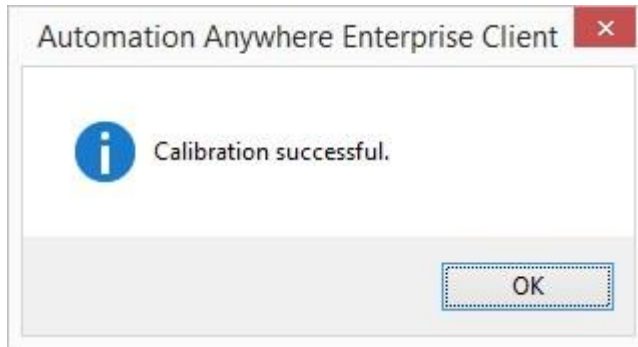
- 較正画面は2つのパネルに分かれています。左側のパネル[Calibration Source] (較正ソース)は現在の画面(較正を必要とする画面)で、右側のパネルは(通常は最新の画面の)[Calibration Target] (較正ターゲット)です。




3. [Calibration Source] (較正ソース)パネルでは、MetaBot から選択された画面が表示されます。
4. [Calibration Target] (較正ターゲット)パネルには、較正に使用される最新の画面が表示されます。
5. [Calibrate] (較正)をクリックします。

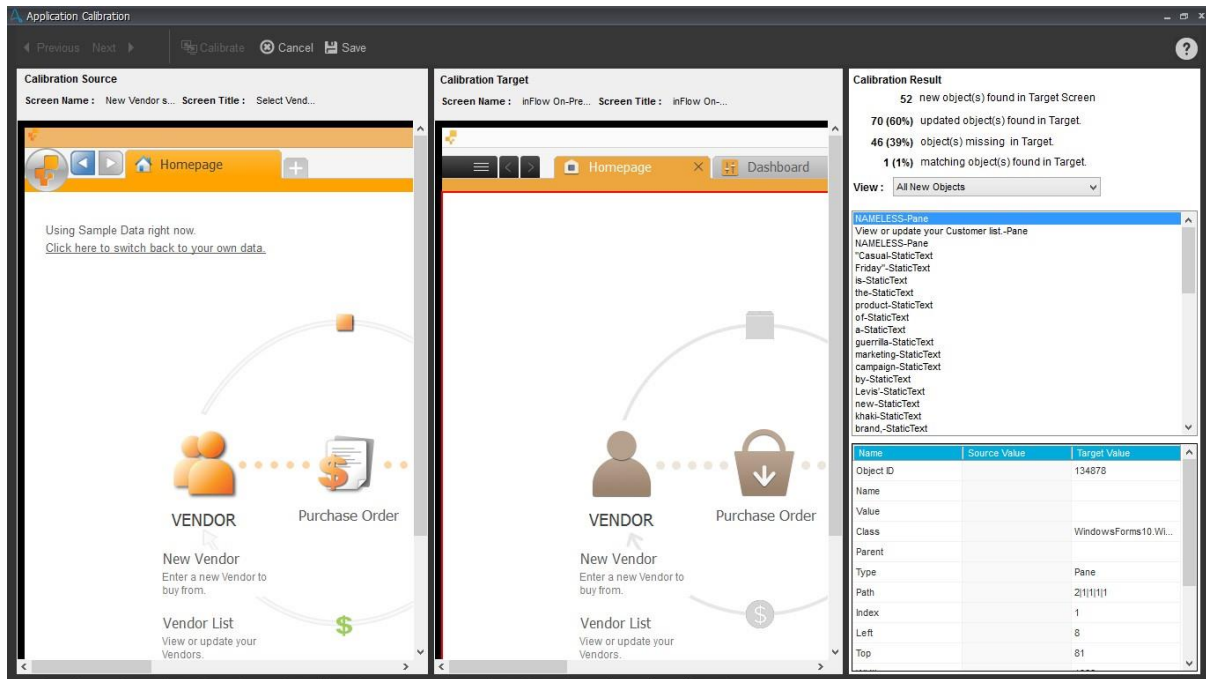


- 次のメッセージが表示され、較正が成功したことを確認できます。

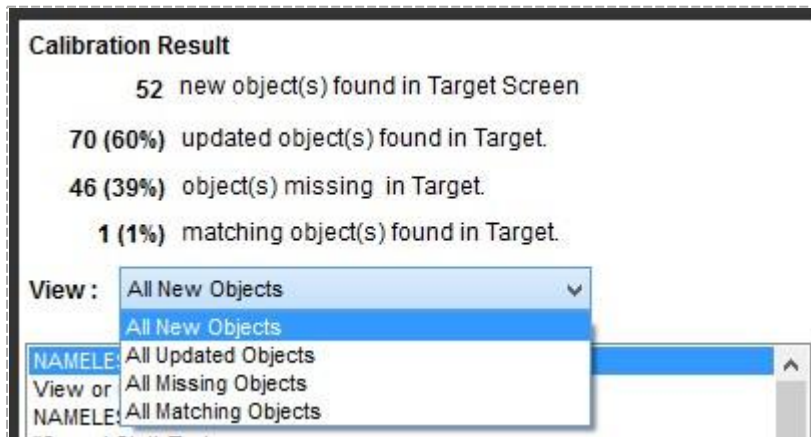


 備考: ポップアップ画面やタイトルのない画面は較正できません。

- スクリーンの下に表示されるプロパティも適切に較正され、[Calibration Result] (較正結果)パネルに表示されます。



4種類のビューから校正の表示方法を選択できます。



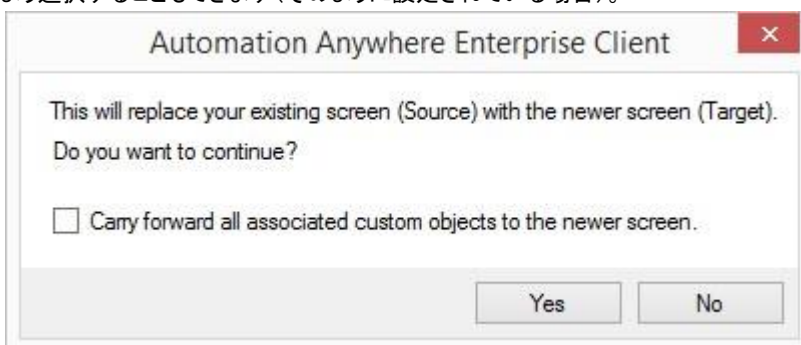
備考: MetaBot Designer では、新たに追加したオブジェクト、アップデートしたオブジェクト、ターゲットスクリーンにはないオブジェクトおよびこれと一致するオブジェクトの簡単な概要(数と割合)が表示されます。

- 校正の終了後、どちらかのウィンドウのオブジェクトをクリックしてスクリーンを実際に比較できます。それに応じて、オブジェクトが強調表示されます。変化のないオブジェクトは両方のウィンドウで強調表示されます。強調表示されない場合は、現在のスクリーンと校正ソースとの間に変化があることを示します。

5. 実行後、保存します。



6. 次に、新しいスクリーンを検出した場合に、既存のスクリーンを保持するか上書きするかを選択できます。既存の custom object を持ち越すよう選択することもできます(そのように設定されている場合)。





ヒント: アプリケーションの較正を終了せずに MetaBot で他のスクリーンにアクセスするには、[Previous] (前へ) および [Next] (次へ) ボタンを使用します。

◀ Previous と Next ▶




## MetaBot にフォルダーを追加する

フォルダーを使用して類似のスクリーンや DLL を 1 つにまとめることができます。これによって、MetaBot を論理的に管理でき、理解と使用が容易になります。

たとえば、新規従業員の記録作成に関連するスクリーンや DLL を「新規従業員」というフォルダーにまとめることができます。

MetaBot では任意の数のフォルダーが作成できます。また、1 つのフォルダーで特定の操作（構成、較正、アップロード、削除など）を実行することもできます。

 備考: [Folders] (フォルダー) を [Assets] (アセット) や [Logic] (ロジック) に追加できます。

### フォルダー作成のガイド

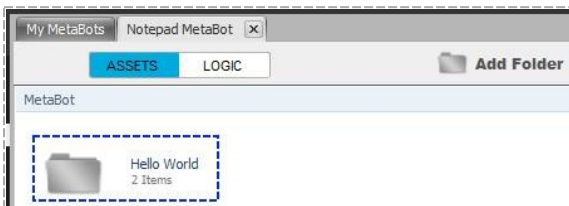
1. MetaBot Designer で [Add folder] (フォルダーを追加) をクリックします。



2. [Add folder] (フォルダーを追加) ウィンドウでフォルダー名を指定します。必ず、作成するフォルダーのタイプを反映する名前を使用するようにします。[Create] (作成) をクリックして保存します。



- ワークスペースウィンドウでフォルダーは次のように表示されます。



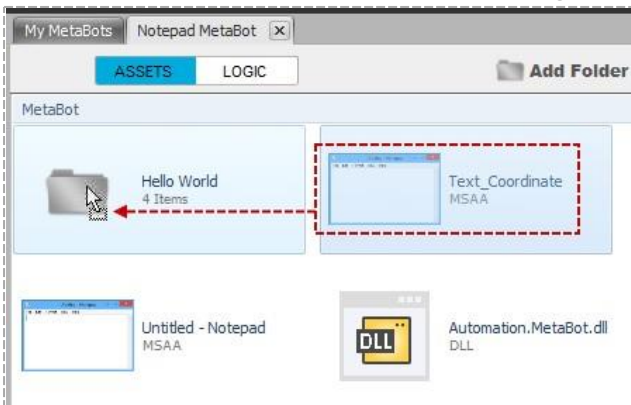
- 関連するスクリーンや DLL にアクセスするにはフォルダーをダブルクリックします。

 備考: メインウィンドウや前のウィンドウに戻る場合は、「戻る」ボタン () を使用します。

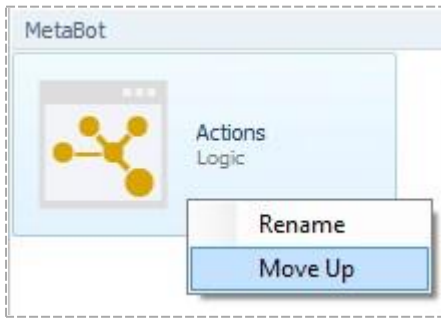
## フォルダー内の [Assets] (アセット) や [Logic] (ロジック) を移動する

MetaBot のフォルダー内の [Assets] (アセット) (スクリーンと DLL) とロジックを移動できます。

- [Assets] (アセット) (個別のスクリーンや DLL も) や [Logic] (ロジック) を移動するには、目的のフォルダーにドラッグアンドドロップします。



- [Assets] (アセット) (個別のスクリーンや DLL も) や [Logic] (ロジック) を 1 つ上のレベルに移動するにはコンテキストメニューの [Move Up] (上に移動) オプションを選択します。



注意 - フォルダーに移動するには「ドラッグアンドドロップ」アクションが必要ですが、1つ上のレベルに移動するにはコンテキストメニューを使用する必要があります。



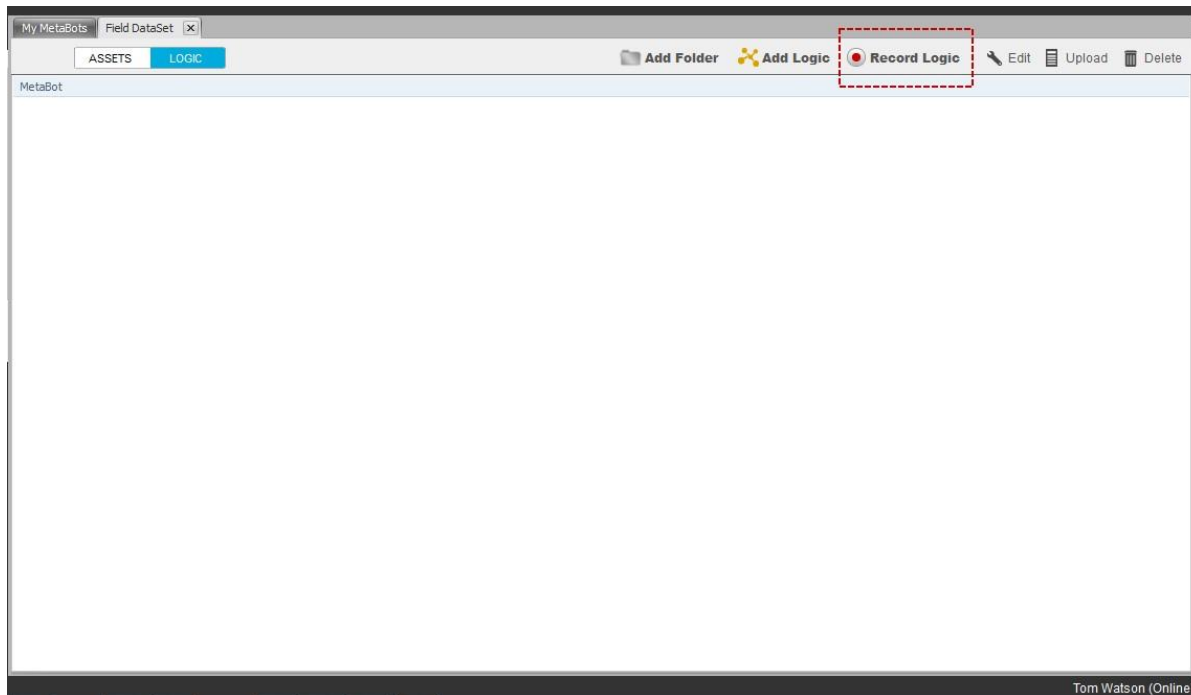
## ロジックを記録する

場合により、スクリーンを作成する代わりに、スクリーンを設定した後でロジックを手動で設計し、ワークフローを直接キャプチャします。スクリーンを使用したワークフローの直接キャプチャを有効にするために、既存の MetaBot のロジックを記録することを選択できます。

新しい MetaBot のロジックを記録するには、[MetaBot Designer] パネルの [Record] (記録) に表示される [Record Screen(s) with Logic] (スクリーンをロジックとともに記録) オプションを使用する必要があります。詳しくは [こちら](#) を参照してください。

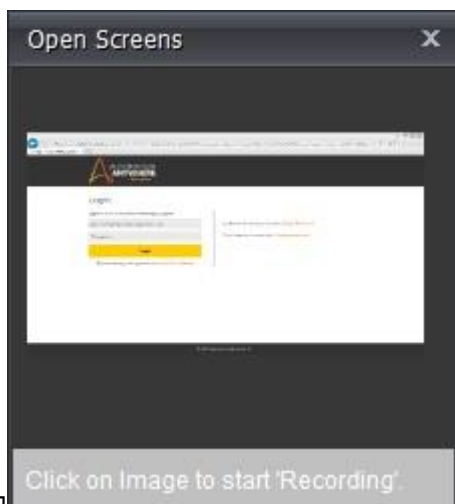
ただし、既存の MetaBot のロジックを記録するには、[MetaBot Designer] の [Logic] (ロジック) セクションの [Record Logic] (ロジックを記録) を使用する必要があります。


このトピックでは、2 番目のオプションについて説明しています。



## ロジックを記録する

1. ターゲットアプリケーションを開きます。
2. 該当するアプリケーションに対応する既存の MetaBot を 1 つ選択します。
3. [Logic] (ロジック) タブに移動し、[Record Logic] (ロジックを記録) を選択します。



4.  のイメージをクリックして、ロジックの流れの記録を開始するには、[Open Screens] (スクリーンを開く) ウィンドウの画像をクリックします。
5. これでアプリケーションが起動され、[MetaBot Recorder] (MetaBot レコーダー) ウィンドウが開かれます。



6. ロジックに必要となる操作を実行します。



備考: [MetaBot Recorder] (MetaBot レコーダー) ウィンドウには、現在実行中のアクションのステータスが表示されます。

7. 終了したら、[Stop] (停止) をクリックします。これで Logic Editor が起動されます。この Logic Editor で、すべてのアクションがキャプチャされているかどうかを確認できます。
8. 必要に応じて修正し、[Logic] (ロジック) を保存します。



備考: 記録されたスクリーンが [Assets] (アセット) ライブラリに追加されます。

Workbench でアクションを選択する

Workbench では、選択したオブジェクトとコントロールタイプに基づいて、さまざまな[Actions](アクション)を選択できます。各種アクションを実行できる対象は、HTML、NET および Java Swing/AWT コントロールです。

HTML コントロールに対し許可されるアクション

HTML コントロールでは、次のアクションが許可されています。

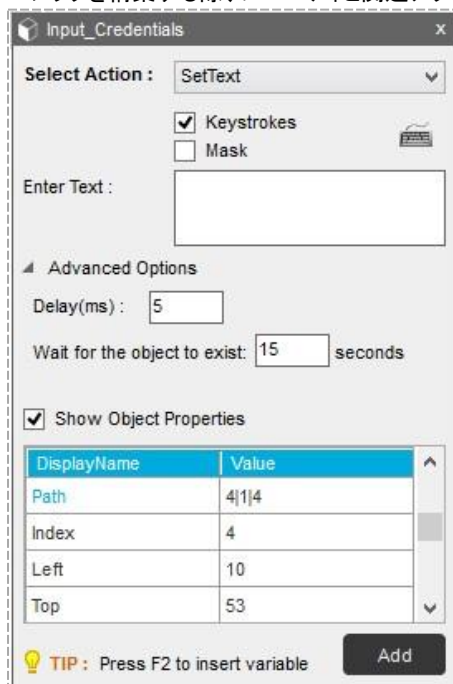
1. Click(クリック)
2. DoubleClick(ダブルクリック)
3. Right Click(右クリック)
4. Left Click(左クリック)
5. SetText(テキストを指定)
6. AppendText(テキストを追加)
7. GetProperty(プロパティを取得)
8. GetVisibility(可視化)
9. GetTotalItems(全項目を取得)
10. GetSelectedIndex(選択したインデックスを取得)
11. GetSelectedText(選択したテキストを取得)
12. SelectItembyText(テキストごとに項目を選択)
13. SelectItembyIndex(インデックスごとに項目を選択)
14. GetChildrenName(子の名前を取得)
15. GetChildrenValue(子の値を取得)

次のセクションでは、[Set Text](テキストを指定)、[Append Text](テキストを添付)、[Get Property](プロパティを取得)で用意されたオプションについて簡単に説明します。


Get Text(テキストを取得)、Set Text(テキストを指定)、AppendText(テキストを添付)

選択したオブジェクトタイプが[Text/Text Box](テキスト/テキストボックス)、[Client](クライアント)、[Password](パスワード)、[Windows Control](Windows コントロール)、[Custom Objects](カスタムオブジェクト)のいずれかである場合、[Get Text](テキストを取得)、[Set Text](テキストを設定)、[AppendText](テキストを添付)のアクションを選択できます。

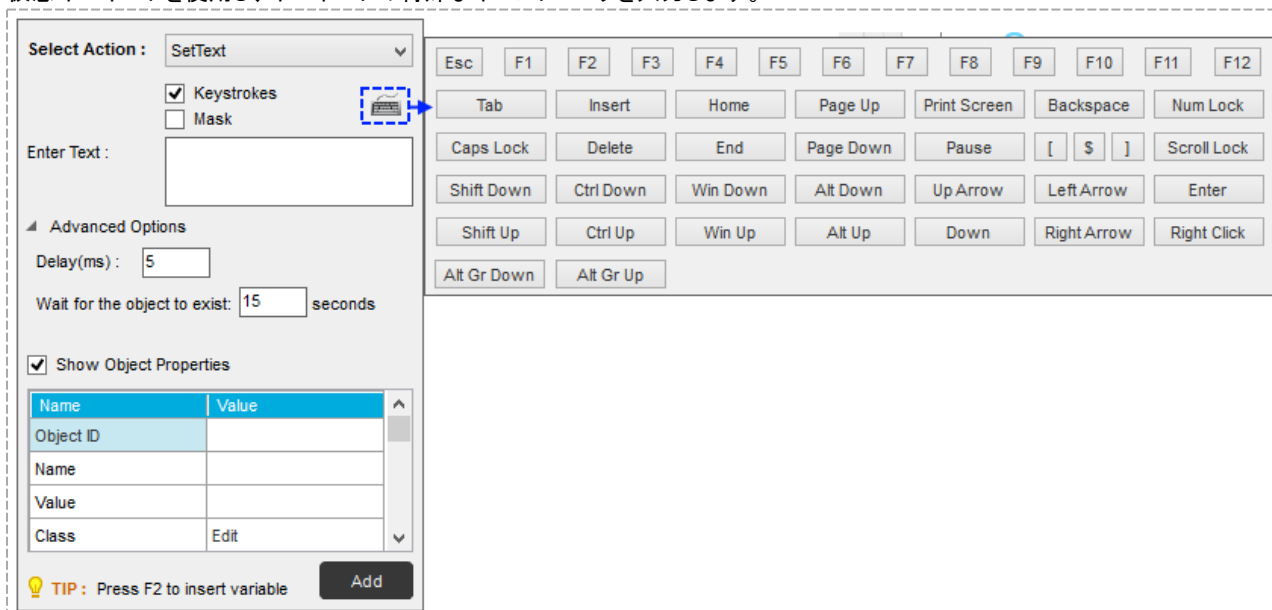
ロジックを構築する際、プロパティと関連アクションは、選択したスクリーン向けに設定された「Play Type」(再生タイプ)によって制御されます。



- アクションタイプが[SetText] (テキストを指定) の場合、キーストロークオプションを使用してキーボードからのテキスト入力をエミュレートできます。

 備考: [SetText] (テキストを設定) では、[Play Type] (再生タイプ) が[Image] (画像) または[Coordinate] (座標) の場合にデフォルトで[Keystrokes] (キーストローク) が選択されます。

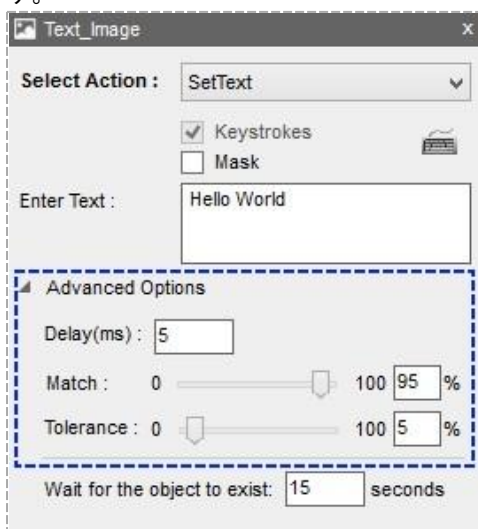
- 仮想キーボードを使用し、キーボードの特殊なキーストロークを入力します。



- オプションの[Mask] (マスク) を選択すると、キーストロークを暗号化できます。
- [Enter Text box] (テキストボックスを入力) に必要なテキストを入力します。オプションで変数を[Delay] (遅延) に割り当てます。
- 詳細オプション: [Advanced Options] (詳細オプション) でキーストローク間の適切な「Delay」(遅延) を設定できます。

[Wait time for the object to exist] (オブジェクトが表示されるまでの待機時間) では、オブジェクトの読み込み時間を指定し、再生中にロジックが失敗しないように設定できます。

再生タイプが[Image] (画像) に設定されている場合、画像の[Match] (一致) と[Tolerance] (トレランス) の値をパーセント(%) 指定で設定できます。

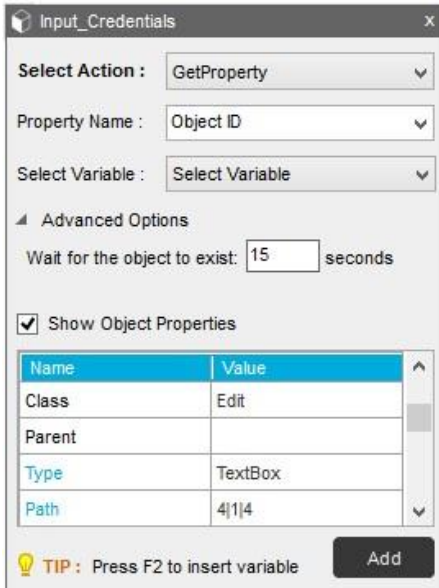


[Match] (一致) 値は、Image1 と Image2 の間で許容される全体的な不一致の程度を定義します。[Tolerance] (許容) は、比較中の 2 つのピクセル間で許容される不一致の程度を定義します。

同様に、再生タイプが[Object] (オブジェクト) に設定されている場合、OCR エンジンを選択して[Tolerance] (トレランス) の値をパーセント(%) 指定で設定できます。

GetProperty (プロパティを取得)

再生時のオブジェクトのプロパティに基づいてオブジェクトを検索する場合は、[Get Property] (プロパティを取得) アクションを使用します。



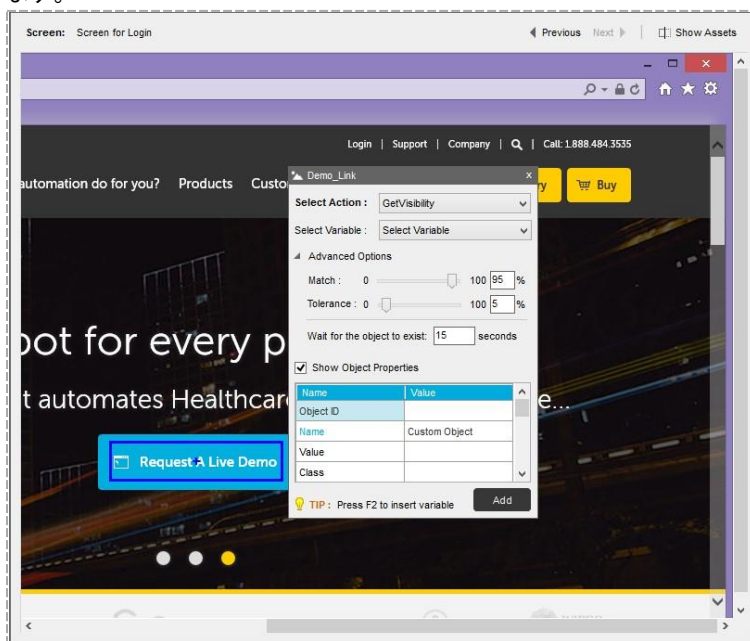
アクションに[Get Property] (プロパティを取得)を選択すると、選択したオブジェクトコントロールに基づいて、[Object ID] (オブジェクト ID)、[Name] (名前)、[Value] (値)、[Class] (クラス)、[Type] (タイプ)、[Index] (インデックス)、[Description] (説明)、[State] (状態)、[IsVisible] (表示可能)、[IsProtected] (保護)などのプロパティ名を選択できます。

**ヒント:** 特定のオブジェクトを表示するかどうかを特定するには、[IsVisible] (表示可能) プロパティを使用します。custom object の場合、[GetVisibility] (可視化) アクションを使用することによってこれを実行できます。次のセクションを参照してください。

#### GetVisibility (可視化)

再生中にオブジェクトの可視性に基づいてロジックを構築するには、[GetVisibility] (可視化) アクションを使用します。このスクリーン領域は、custom object または[Play Type] (再生タイプ) が[Image] (画像) のオブジェクトになります。[GetVisibility] (可視化) アクションは、可視性ステータスを True または False で返します。

[GetVisibility] (可視化) アクションを Logic Editor に追加するには、オブジェクトの[Play Type] (再生タイプ) を[Image] (画像) に設定する必要があります。

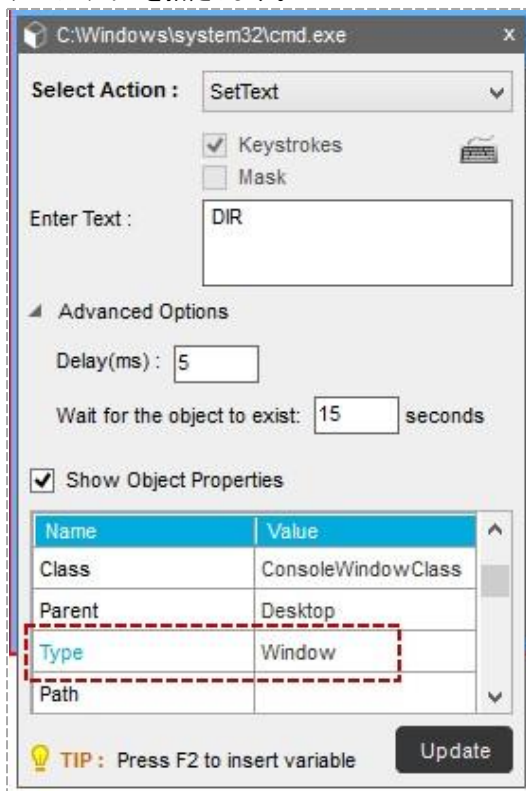



**ヒント:** [GetVisibility] (可視化) は、If などの条件付きコマンドと組み合わせることができます。

ウィンドウコントロールで許可されるアクションウィンドウコントロールでは、次のアクションが許可されています。

1. Click(クリック)
2. DoubleClick(ダブルクリック)
3. RightClick(右クリック)
4. LeftClick(左クリック)
5. SetText(テキストを指定)
6. AppendText(テキストを追加)
7. GetProperty(プロパティを取得)
8. GetChildrenName(子の名前を取得)
9. GetChildrenValue(子の値を取得)

ウィンドウコントロールの SetText - ウィンドウコントロールのアクションタイプ[SetText](テキストを指定)を使用します。ウィンドウ全体を選択し、アクションタイプを指定します。



 備考: [Play Type](再生タイプ)が[Object](オブジェクト)のウィンドウコントロールは、デフォルトでキーストロークを使用します。

#### OCR スクリーン

OCR テクノロジーを使用してキャプチャされるスクリーンでは、custom object の[Play Type](再生タイプ)に[Image](画像)を選択すると、[SetText](テキストを設定)、[GetText](テキストを取得)、[LeftClick](左クリック)、[RightClick](右クリック)、[DoubleClick](ダブルクリック)、[GetVisibility](可視化)アクションを実行できるようになります。

- GetText(テキストを取得) - custom object の[Play Type](再生タイプ)が[Image](画像)の場合に[GetText](テキストを取得)を選択すると、MetaBot Logic を作成する際にテキストを抽出するための OCR エンジンを選択できます。スクリーンの設定時に選択したもの以外に OCR エンジンを選択して、自動化を最適化できます。

Screen: Add Vendor-OCR ◀ Previous Next ▶ | Show Assets

Contact ▶

Phone ▶

Refresh

**Name** ▲

- Oh-Mega Toys
- Protekt-Ship Inc.
- Richardson Quick Liquidation

### Basic

Name

Balance  Send Payment

Credit

### Contact

Name

Phone

Fax

Email

Website

### Remarks

### Addresses

Business Address

**Business Address** x

Select Action:  ▼

Select Variable:  ▼

OCR Engine:  ▼

MODI

**TESSERACT**

TOCR

▶ Advanced Options

Show Object Properties ⓘ

💡 TIP: Press F2 to insert variable Add

Alternate Contact 2

Alternate Contact 3



## セクション: MetaBot – 変数

## 変数を追加、編集、削除する

変数とは、既知または未知の情報の保存場所です。ロジックを作成する場合、変数は情報を維持または計算する上で重要な役割を果たします。オンラインデータを取得することから、アプリケーション間でデータを交換することまで、変数はさまざまな方法で役に立ちます。

Automation Anywhere では、MetaBot のロジックにおいてローカルに定義された変数やシステムで定義された変数など多様な変数を使用できます。次のセクションではローカルに作成された変数の追加、編集、削除の方法を説明します。

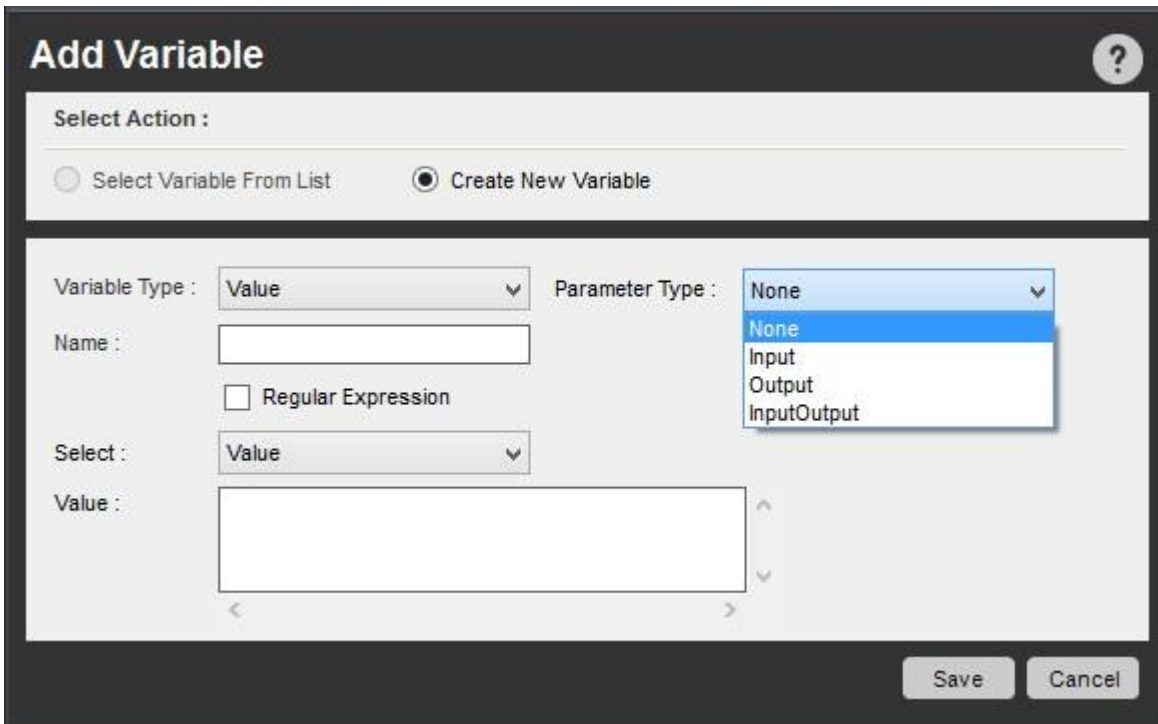
### MetaBot ロジックに変数を追加する

F2 ファンクションキーを使用して、MetaBot ロジックで挿入が可能なすべてのユーザー変数とシステム変数を一覧表示できます。

### ユーザー定義変数の種類

MetaBot のロジックで使用できる 4 種類の変数([Value] (値)、[List] (リスト)、[Array] (配列)、[Random] (ランダム))を作成できます。

1. Value (値) - 単一のデータポイントを保持し複数の場所で使用する場合、値型変数を使用できます。この「プレースホルダ」値は文字または数字のデータを表します。



作成された変数は、いくつかの Logic Editor コマンドに挿入して使用できます。変数の値を変更すると、この値はすべての後続のコマンドに反映されます。

値型変数は「Regular Expression」(正規表現)として指定することもできます。これらは、ファイル、フォルダー、ウィンドウタイトルのコマンドでパターンに基づく検索が必要な TaskBot/MetaBot Logic を作成する場合に使用することができます。

2. List (リスト) - 複数の値を 1 つずつ取得する必要がある場合、リスト型変数を使用できます。これは基本的にデータの一次元のプレースホルダです。

## Add Variable ?

Select Action :

Select Variable From List   
  Create New Variable

---

Variable Type : List   
 Parameter Type : None

Name :    
 List Value :

Make Random

Select : Value

リスト変数がよく使用されるのは次のような状況です。

- 複数の受信者にメールを送る
- 1つのループ内で異なる値を渡す • 複数の Web アドレスを検索する

この値は文字または数字のデータを表します。

3. Array (配列) - 実行中のプロセスで取得する必要があるデータのステージング領域を作成する場合、配列型変数を使用できます。これは、行と列で構成される 1 つの表に複数の値が入る二次元変数です。

## Add Variable ?

Select Action :

Select Variable From List   
  Create New Variable

---

Variable Type : Array   
 Parameter Type : None

Name :

Select : Value

Row(s) :    
 Column(s) :    

4. Random (ランダム) - 次の 2 つのタイプのランダム変数が作成できます: 文字列と数値です。ランダムで反復的な文字列や数値の集合を作成する必要がある場合には、ランダム変数が便利です。この値は、TaskBot/MetaBot Logic を実行するときに生成されます。

## Add Variable ?

Select Action :

Select Variable From List   
  Create New Variable

---

Variable Type : Random    Parameter Type : None

Name :

Random String   
  Random Number - Range

String Length :     From :     To :

ランダム変数がよく使用されるのは次のような場合です。

- 文字列：フィールドまたはフォームに入力するテストデータを作成する
- 数値：バッチで ID ナンバーを作成するパラメータータイプ

MetaBot のロジックは TaskBot で使用できるため、Bot を実行する場合に特定のパラメーターを別の TaskBot や(同じ MetaBot の)ロジックに渡すことが必要となる場合があります。そのために、変数を使用してそのパラメータータイプを定義することができます。パラメータータイプを定義することで、Bot 間での変数の最適な使用が可能となります。

MetaBot Logic では、4 種類のパラメーター([None](なし)、[Input](入力)、[Output](出力)、[InputOutput](入出力))を定義できます。

詳しくは「[変数 - パラメータータイプ](#)」を参照してください。

変数を編集する

作成したローカル変数はすべて編集および変更ができます。さらに、事前定義された変数を編集できます。

## Edit Variable ?

Variable Type : Value    Parameter Type : Input

Name :

Regular Expression

Select : Value     Log For Analytics

Value :

Description : (Optional)

182 Characters Remaining

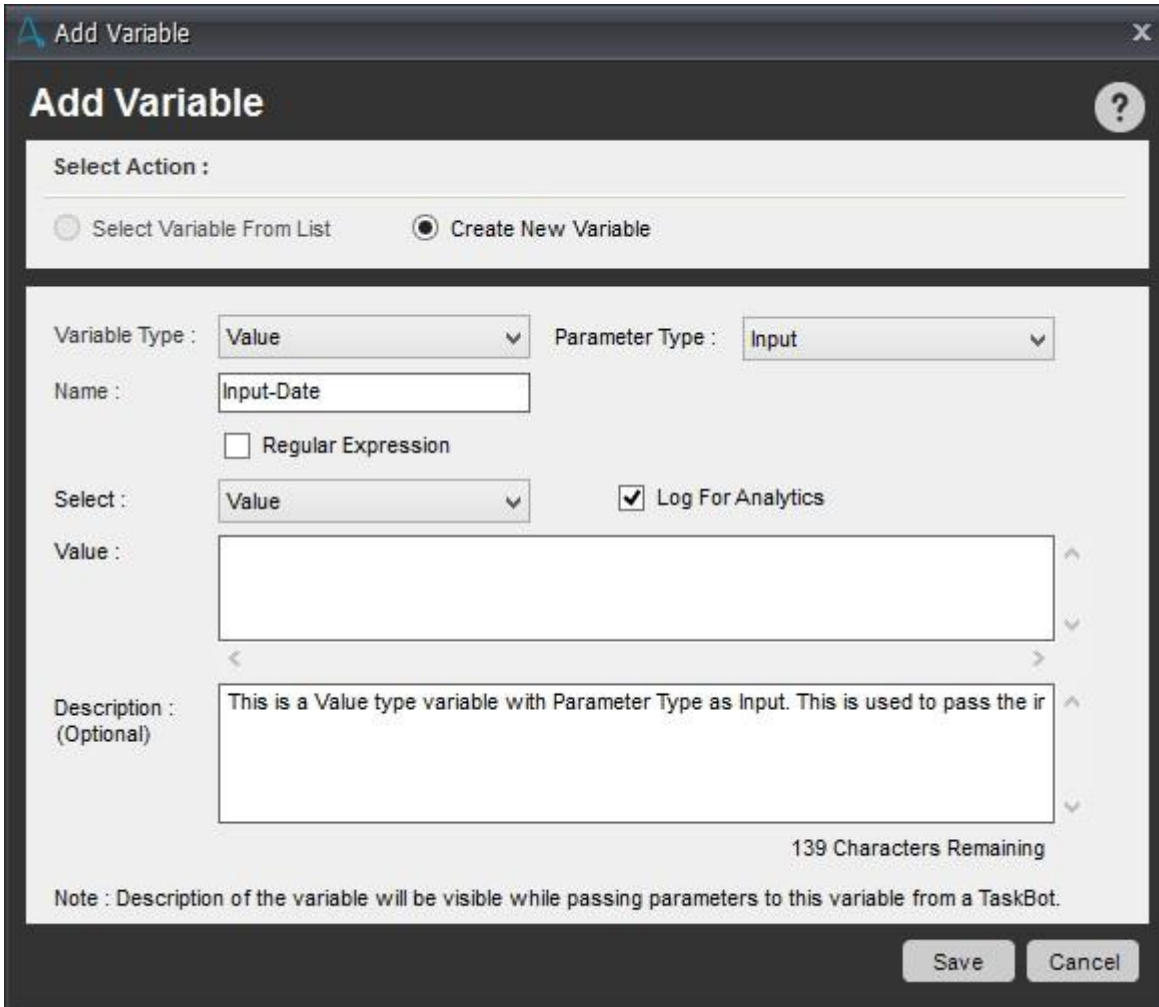
Note : Description of the variable will be visible while passing parameters to this variable from a TaskBot.

変数を編集するには、次の手順を実行します。

1. 編集する変数を選択します。
2. [Edit] (編集) ボタンをクリックするか、変数を右クリックして [Edit] (編集) を選択します。[Edit Value] (変数を編集) ウィンドウが表示されます。
3. 必要に応じて変数フィールドを変更します。変数のタイプ、名前、説明、値の定め方を変更できます。
4. [保存] をクリックします。

説明を追加または編集する

[Parameter Type] (パラメータータイプ) が [Input] (入力)、[Output] (出力)、[InputOutput] (入出力) の場合、[Value] (値)、[Array] (配列)、[List] (リスト) 型の変数に説明を追加または編集できます。TaskBot で MetaBot Utilities/Logics を使用中に、クリックしなくてもコンテキストヘルプが提供されるため、非常に便利です。



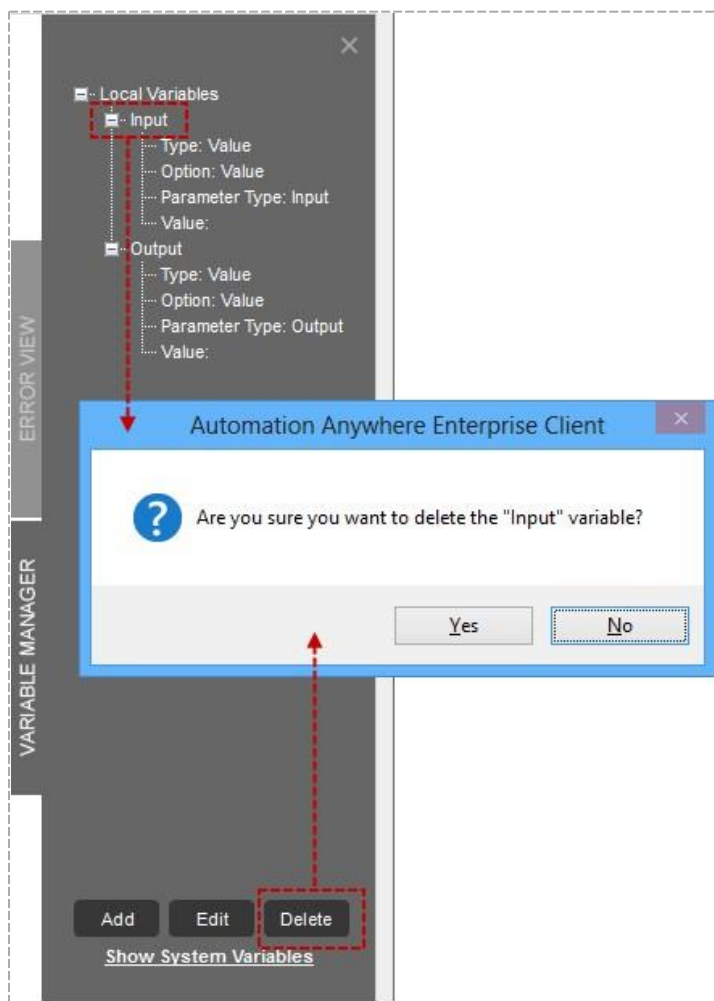
変数を削除する


変数を削除するには、Variable Manager を使用します。

[Copy All] (すべてをコピー) を使用して変数をすべて別のロジックにコピーする場合、その新しいナビゲーション フローで冗長となるいくつかの変数を削除することが必要となる場合があります。

変数を削除するには、

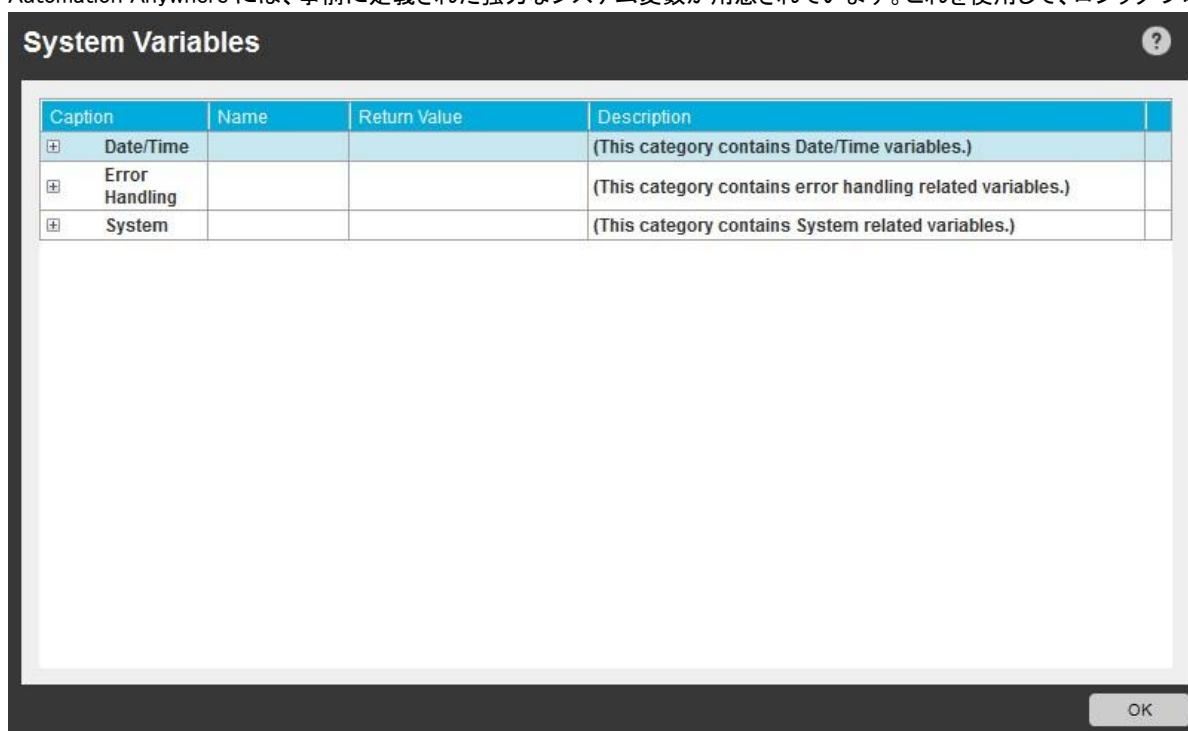
1. 削除する変数を選択します。
2. [Delete] (削除) ボタンをクリックするか、変数を右クリックして [Delete] (削除) を選択します。
3. 確認メッセージが表示されたら、[Yes] (はい) をクリックします。




 備考: 変数は1度に1つずつ削除できます。

#### システム変数

Automation Anywhere には、事前に定義された強力なシステム変数が用意されています。これを使用して、ロジック ブロックを設計できます。





 備考: Task Editor で使用できるシステム変数と似ていますが、混同しないでください。


Logic(ロジック)ブロックで使用できるシステム変数タイプは次のとおりです。


- Date/Time(日付/時刻): システム関連の日付と時間の変数。
- Error Handling(エラー処理): エラーの処理に関連する変数。
- System(システム): 特定のクライアントマシンに固有の変数。

Date/Time(日付と時間)のシステム変数

Caption	Name	Return Value	Description
[-] Date/Time			(This category contains Date/Time variables.)
Year	Year	Integer	Returns Year. e.g. if date is 02/23/04, it returns 2004.
Month	Month	Integer	Returns System Month. e.g. if date is 02/23/04, it returns 2.
Day	Day	Integer	Returns System Day. e.g. if date is 02/23/04, it returns 23.
Date	Date	Date	Returns System Date in mm/dd/yyyy HH:mm:ss format. <span>...</span>
Hour	Hour	Integer	Returns System Hour. e.g. if time is 17:33:49, it returns 17.
Minute	Minute	Integer	Returns System Minute. e.g. if time is 17:33:49, it returns 33.
Second	Second	Integer	Returns System Second. e.g. if time is 17:33:49, it returns 49.
Milliseco	Millisecond	Integer	Returns System Millisecond. e.g. if time is 17:33:49:10, it returns 10.
[+] Error Handling			(This category contains error handling related variables.)
[+] System			(This category contains System related variables.)

ナビゲーション フローが実装されている場合、一連の日付と時間のシステム変数を使用して、システムの現在の日時を挿入または監視できます。

 ヒント: システム日付の日付形式を変更できます。

 をクリックして日付形式を変更します。

Caption	Name	Return Value	Description
Date	Date	Date	Returns System Date in mm/dd/yyyy HH:mm:ss format. <span>...</span>
Hour	Hour	Integer	
Minute	Minute	Integer	
Second	Second	Integer	
Milliseco	Millisecond	Integer	
[+] Error Handling			
[+] System			(This category contains System related variables.)

Select Date Format

Date format: mm/dd/yyyy HH:mm:ss

- dd/mm/yyyy hh:mm:ss AM/PM
- dd/mm/yyyy hh:mm AM/PM
- dd/mm/yyyy HH:mm:ss
- dd/mm/yyyy HH:mm
- m/dd/yyyy
- m/d/yy
- yy/mm/dd
- yyyy-mm-dd

Error Handling(エラー処理)の変数

Caption	Name	Return Value	Description
[+] Date/Time			(This category contains Date/Time variables.)
[-] Error Handling			(This category contains error handling related variables.)
Error Line Number	Error Line Number	Integer	Returns Automation Anywhere task error line number.
Error Description	Error Description	String	Returns Automation Anywhere task error line description.
[+] System			(This category contains System related variables.)

一連のエラー処理のシステム変数を使用して、タスクエラーの行番号と説明を返します。

System(システム)タイプのシステム変数



Caption	Name	Return Value	Description
System			(This category contains System related variables.)
Machine	Machine	String	Returns Machine Name.
Clipboard	Clipboard	String	Returns Clipboard text data.
System	System (Name)	String	Name = { "Path", "PATHEXT", "USERDOMAIN", "PROCESSOR_ARCHITECTURE", "ProgramW6432", "PUBLIC", "APPDATA", "windir", "LOCALAPPDATA", "CommonProgramW6432", "USERDNSDOMAIN", "TMP", "USERPROFILE", "ProgramFiles", "PROCESSOR_LEVEL", "FP_NO_HOST_CHECK", "HOMEPATH", "COMPUTERNAME", "PROCESSOR_ARCHITECTURE", "USERNAME", "NUMBER_OF_PROCESSORS", "PROCESSOR_IDENTIFIER", "SystemRoot", "ComSpec", "LOGONSERVER", "TEMP", "ProgramFiles(x86)", "CommonProgramFiles", "__COMPAT_LAYER", "USERDOMAIN_ROAMINGPROFILE", "PROCESSOR_REVISION", "CommonProgramFiles(x86)", "ALLUSERSPROFILE", "SystemDrive", "PSModulePath", "OS", "ProgramData", "HOMEDRIVE" }
AAApplicationPath	Application Path	String	Returns Product Application Path.
AAInstallationPath	Installation Path	String	Returns Product Installation Path.

「システム」変数を使用して、特定のコンピューターに関連する自動化タスクにパラメーターを含めることができます。変数は、RAM、GPU/RAM の使用量、RAM の合計量などの実際のシステム設定やパラメーターを返します。

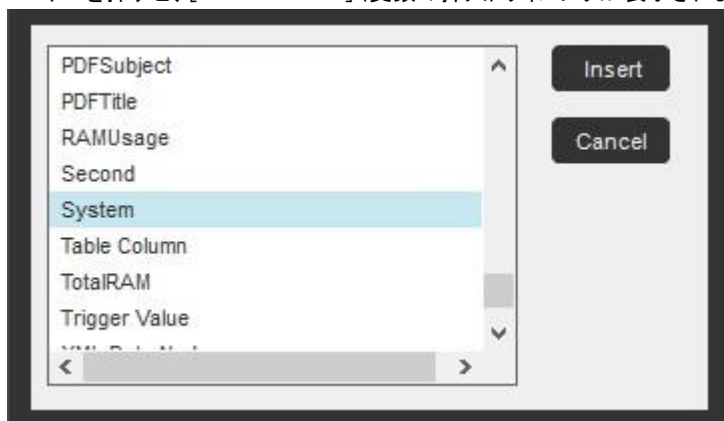
一般的な使用事例: これらの変数は、たとえばロードテストといった、活動中にシステムのパフォーマンスを追跡する必要がある場合に役立ちます。

次表にはシステム関連のシステム変数の名前、戻り値、説明が示されています。

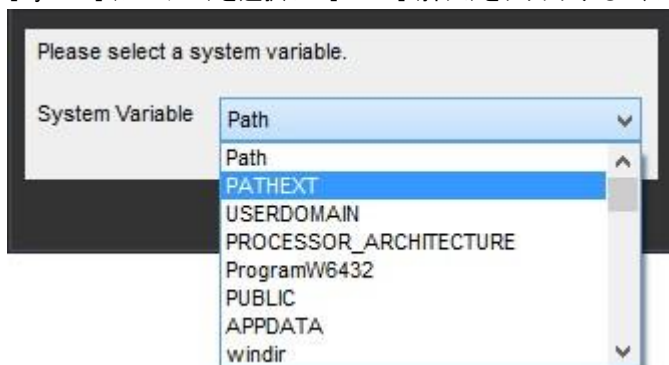
\*システム変数を選択すると、特定のシステム変数を選択できるメニューが表示されます(以下の手順を参照)。

変数から[System](システム)を選択する手順:

1. F2 キーを押すと、[Insert Variable] (変数の挿入) ウィンドウが表示されます。



2. [System] (システム) を選択して [Insert] (挿入) をクリックすると、システム変数オプションを選択するためのポップアップウィンドウが開きます。



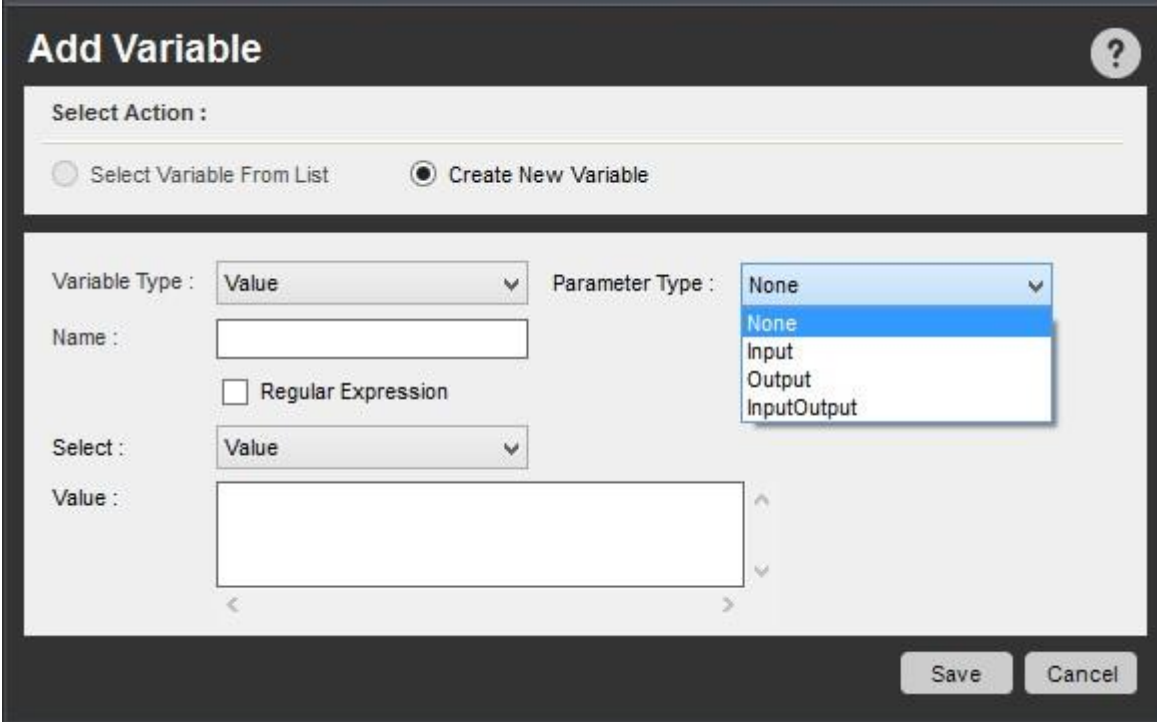
3. [OK] をクリックして、システム変数を挿入します。

## 変数 - パラメータータイプ

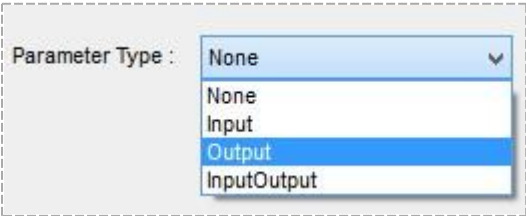
MetaBot Logic は別の TaskBot や同じ MetaBot の Logic で使用できるため、ボットを実行する際は特定の**変数パラメーター**を別の TaskBot/MetaBot

Logic に渡せません。これには、**変数**を使用して**パラメータータイプ**を定義します。その後、オートメーションで Input(入力)または Output(出力)パラメーターとして追加できます。

パラメーターのタイプは Variable Manager → [Add/Edit] (追加/編集) から追加および更新できます。



## パラメータータイプ



MetaBot Logic では、すべての変数タイプに 4 種類の**パラメーター**(None(なし)、Input(入力)、Output(出力)、InputOutput(入出力))を定義できます。

1. None(なし) - MetaBot Logic でのみ作成された変数の値を使用する場合、変数は None(なし)と定義します。こうした変数の値は別の TaskBot や MetaBot Logic に渡せません。値はロジックの実行中のみに読み取ることができます。
2. Input(入力) - 同じ MetaBot の TaskBot や MetaBot Logic からの値を変数に確定する必要がある場合、変数を Input(入力)パラメータータイプとして定義します。またオートメーションでは別の値/変数を Input(入力)パラメーターとして割り当てることができます。
3. Output(出力) - MetaBot Logic の出力として作成され、値を Output(出力)パラメーターとして別の TaskBot や MetaBot Logic にパスする変数の値を使用する場合、変数を Output(出力)パラメータータイプとして定義します。
4. InputOutput(入出力) - MetaBot Logic の入力と出力の両方として作成され、値を別の TaskBot や MetaBot Logic にパスする変数の値を使用する場合、変数を InputOutput(入出力)パラメータータイプとして定義します。オートメーションで、値/変数は Input(入力)パラメーターとして、変数は Output(出力)パラメーターとして割り当てることができます。

## MetaBot Logic とパラメーターを送受する

自動化のエキスパートとして、TaskBot Logic と MetaBot Logic を組み合わせる自動化を作成する場合は、互いに**パラメーター値**を送受し、自動化をスムーズに機能させる必要があります。

Automation Anywhere では、Logic から他の TaskBot、Logic、DLLAPI に**パラメーター**を渡すことができます。その逆も可能です - TaskBot、Logic、DLLAPI から Logic に**パラメーター**を渡すこともできます。

「パラメーターをパスする(送受する)」とは

MetaBot Logic を作成するとき、ユーザーはその MetaBot Logic をさまざまな TaskBot Logic と MetaBot Logic で最適に使用できるようにする必要があります。これを実現するには、まずさまざまな種類のパラメーター (None、Input、Output、InputOutput) で変数を作成する必要があります。

その後パラメーターのタイプによって、TaskBot Logic や MetaBot Logic で入力パラメーターまたは出力パラメーター、あるいはその両方として各変数を使用します。


変数を入力パラメーターとして使用する場合、ユーザーは変数に値を追加するか、変数の値として他の変数を割り当てることができます。

変数を出力パラメーターとして使用する場合、ユーザーは変数の値として変数のみ割り当てることができます。これが自動化の実行中に読み込まれます。

これが MetaBot Logic とのパラメーターの送受です。

変数をパラメーターとして使用方法については、「[TaskBot で MetaBot Logic を使用する](#)」を参照してください。


パラメーターのタイプについては、「[変数 - パラメータータイプ](#)」を参照してください。

 備考: Automation Anywhere Enterprise 10.x から現在のバージョンにアップグレードした場合、パラメーターとして変数をパスするときの変数の動きについては、以降のセクションを参照してください。

Logic から TaskBot に、また TaskBot から Logic にパラメーターをパスする

下表では、変数をパラメーターとして Logic から TaskBot に、あるいはその逆方向にパスするときの変数の動きを示しています。

TaskBot( T1) / Logic ( L1) の変数の種類	TaskBot( T2) / Logic ( L2) の変数の種類	動作
値( V1)	値( V2)	V1 で V2 が上書きされる
	一覧( L2)	V2 は 1x1 一覧に変換され、V1 の値が割り当てられる
	配列( A2)	V2 は 1x1 配列に変換され、V1 の値が割り当てられる
ランダム( R1)	値( V2)	V1 で V2 が上書きされる
	一覧( L2)	V2 は 1x1 一覧に変換され、V1 の値が割り当てられる
	配列( A2)	V2 は 1x1 配列に変換され、V1 の値が割り当てられる
一覧( L1)	値( V2)	ループの外で使用されるとき、一覧の最初のインデックスが割り当てられる。ループ内では、カウンターの参照と共に値が割り当てられる。範囲の外にあるとき、最初のインデックスが考慮される。
	一覧( L2)	V1 で V2 が上書きされる
	配列( A2)	V2 は nx1 配列に変換され、V1 の値が割り当てられる
配列( A1)	値( V2)	V1 の行と列に入力する必要がある。その値が V2 に割り当てられる。
	一覧( L2)	V1 の列に入力する必要がある。その値が V2 に割り当てられる。
	配列( A2)	V1 で V2 が上書きされる


 備考: ターゲット変数の値は、ソースの変数の値で上書きされます。ただし、ターゲット変数のタイプには変化はありません。

Logic から API DLL に、また API DLL から Logic にパラメーターをパスする

下表には、変数をパラメーターとして Logic から API DLL に、あるいはその逆方向にパスするときの変数の動きが示されています。

Logic からパスされている変数のタイプ	DLL API の変数タイプ	動作
値( V1)	値( V2)	V1 で V2 が上書きされる
	一覧( L2)	未対応。読み取り専用セル
	配列( A2)	未対応。読み取り専用セル

ランダム( R1)	値( V2)	V1 で V2 が上書きされる
	一覧( L2)	未対応。読み取り専用セル
	配列( A2)	未対応。読み取り専用セル
一覧( L1)	値( V2)	ループの外で使用されるとき、一覧の最初のインデックスが割り当てられる。 。ループ内では、カウンターの参照と共に値が割り当てられる。範囲の外にあるとき、最初のインデックスが考慮される。
	一覧( L2)	V1 で V2 が上書きされる
	配列( A2)	未対応。
配列 - A X B (A1)	値( V2)	V1 の行と列に入力する必要がある。その値が V2 に割り当てられる。
	一覧( L2)	V1 の列に入力する必要がある。その値が V2 に割り当てられる。
	配列( A2)	V2 が A X B タイプの場合、V1 で V2 が上書きされます。V2 が 1 次元の場合、この列を入力する必要があります。

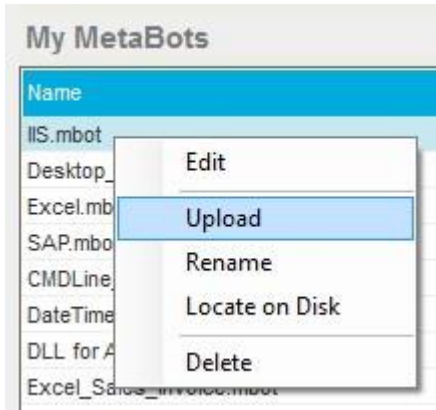
 備考：出力変数は値型変数にのみ割り当てることができます。

## セクション: Enterprise Control Room の MetaBot

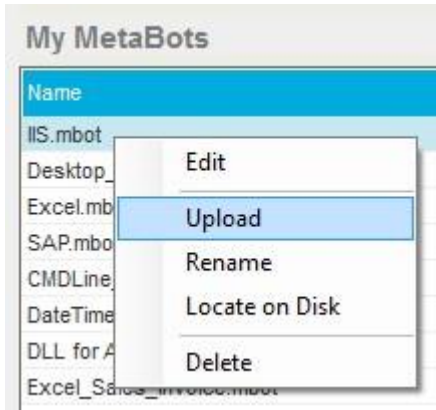
## MetaBot を Control Room にアップロードする

MetaBot は、MetaBot ライセンスを持つ任意の数の Bot Creator クライアントから Control Room にアップロードできます。このような Bot Creator クライアントは、オートメーションタスク内で MetaBot をダウンロードして統合できます。

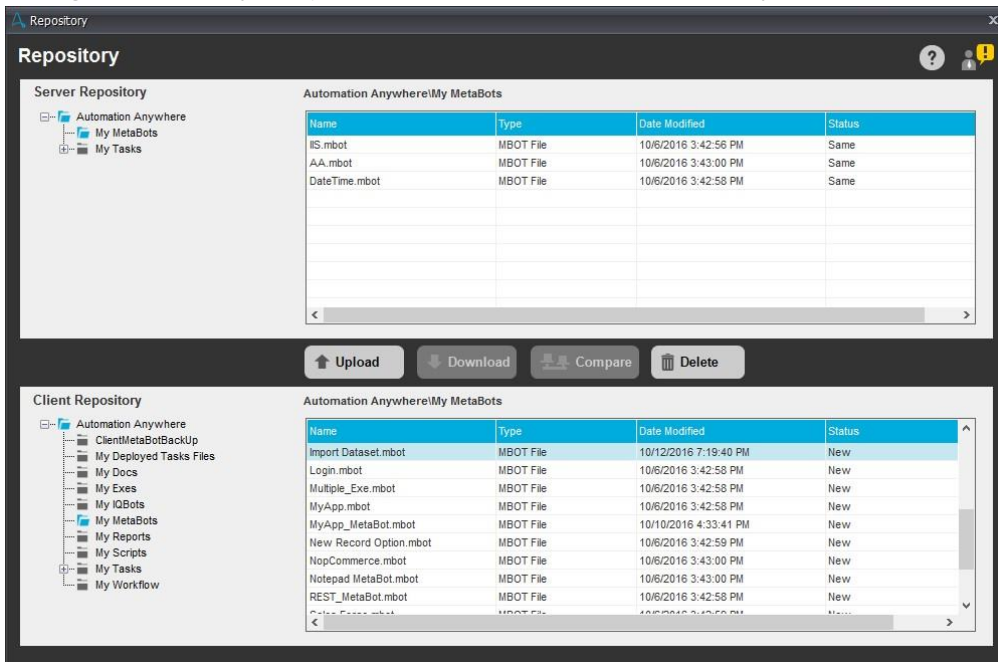
1. [My MetaBots]リストで、アップロードする MetaBot を選択(強調表示)します。
2. 次のいずれかの方法で、MetaBot をアップロードします。
  - [Actions] (アクション) ボタンのドロップダウンリストから [Upload] (アップロード) を選択します。



- MetaBot コンテキストをクリックし、[Upload] (アップロード) を選択します。



- [Manage] (管理) の [Repository] (リポジトリ) に進み、MetaBot を選択し、[Upload] (アップロード) をクリックします。

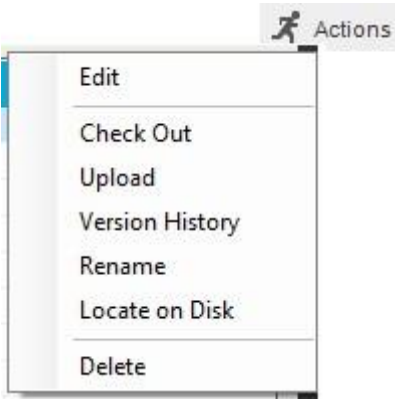


 ヒント: MetaBot Client 内で MetaBot が閉じていることを確認します。アップロードするときに、MetaBot でその MetaBot 以外に開いている MetaBot がない場合は、その MetaBot を MetaBot Client を終了する必要があります。

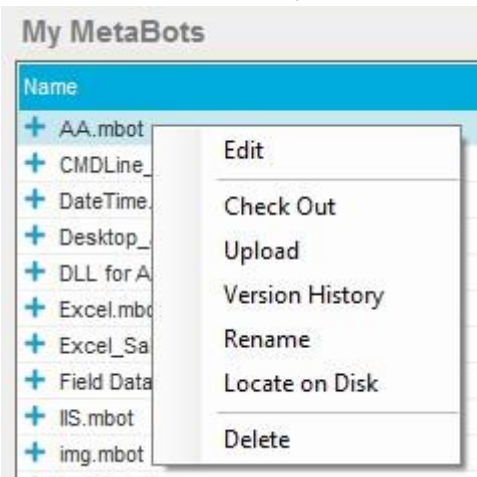
バージョン管理が有効な場合に MetaBot をアップロードする

バージョン管理が有効になっている場合は、[Edit] (編集) オプションを使用した後に、Control Room リポジトリに MetaBot をコメント付きでアップロードできます。

1. [My MetaBots] リストで、編集してアップロードする MetaBot を選択 (強調表示) します。
2. 次のいずれかの方法で、MetaBot を編集します。
  - [Actions] (アクション) ボタンのドロップダウンリストから [Upload] (アップロード) を選択します。



- MetaBot を右クリックして、[Upload] (アップロード) を選択します。



- [Upload Comment] (コメントをアップロード) ウィンドウが起動します。



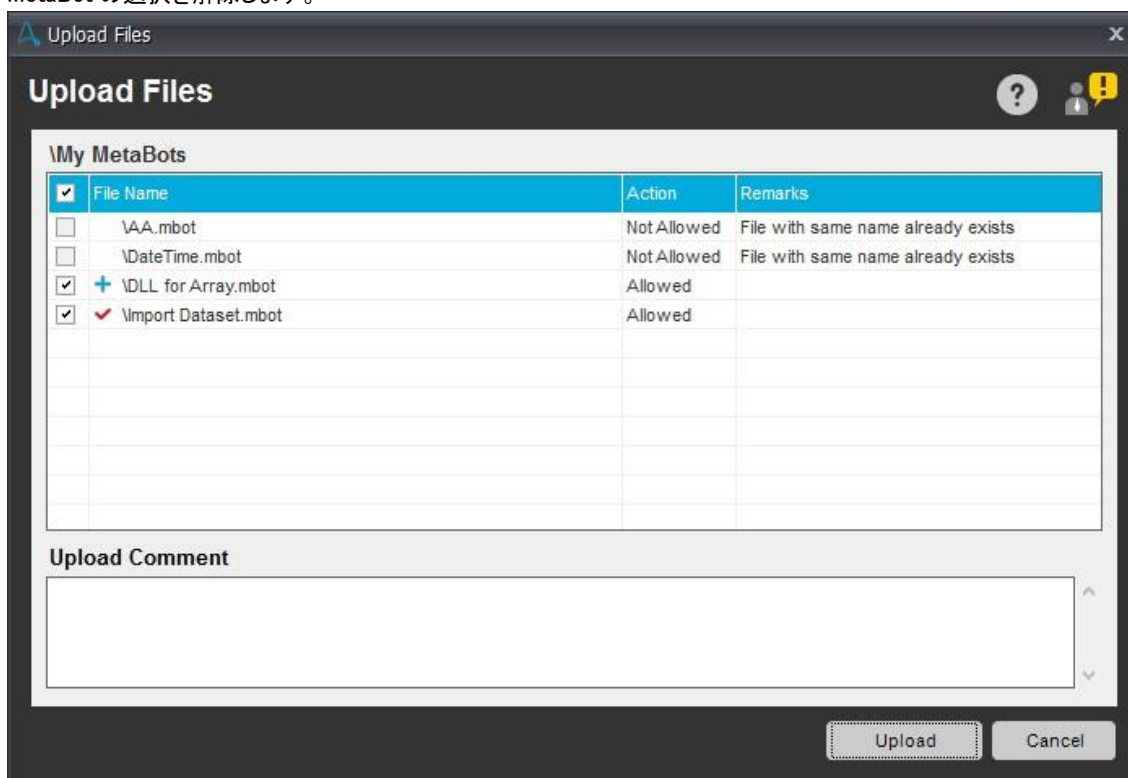
- コメントを入力して、[Save] (保存) をクリックします。これで MetaBot が Control Room にアップロードされます。


複数の MetaBot をアップロードする


1. [Manage] (管理) > [Repository] (リポジトリ) に進みます。
2. [Client Repository] (クライアントリポジトリ) リストの [My MetaBots] フォルダを選択します。
3. MetaBot を複数選択します (必要な場合は Ctrl キーまたは Shift キーを使用します)。



4. [Upload] (アップロード) ボタンをクリックします。
5. [Upload Files] (アップロードファイル) ウィンドウにアップロード可能(「Allowed」)な MetaBot が選択されます。必要に応じて、アップロードしない MetaBot の選択を解除します。



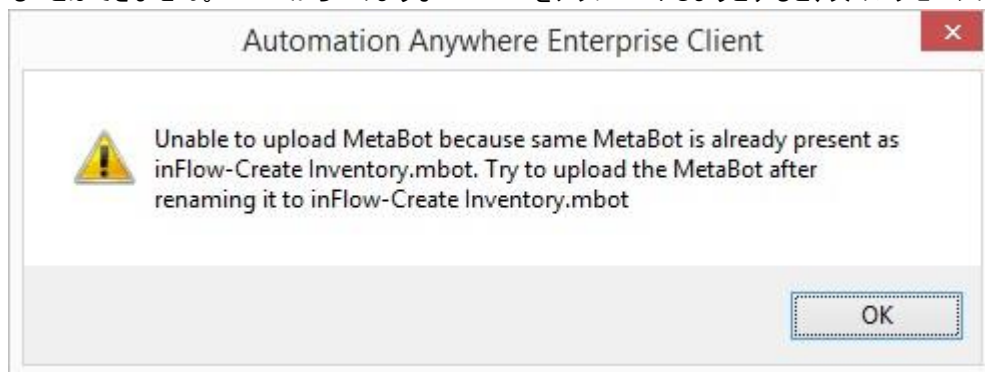
 ヒント: 先頭にアイコン/記号が付いていない場合は、アップロードが成功したことを示します。これにより、クライアントがバージョン履歴を参照ポイントとして使用できるようになります。

 備考: 「Not Allowed」(アップロード不可)のマークが付いた MetaBot をアップロードすることはできません。その理由は「Remarks」(コメント)列に示されます。

6. 「Upload Comments」(コメントをアップロード)を追加して、[Upload] (アップロード) をクリックします。これらのコメントは、アップロードされるすべての MetaBot に適用されます。

名前が変更された MetaBot をアップロードする

すでに Control Room リポジトリに存在しておりファイルシステムから名前が変更された MetaBot を、Control Room リポジトリに再度アップロードすることはできません。Client からこのような MetaBot をアップロードしようとする、次のメッセージが表示されます。

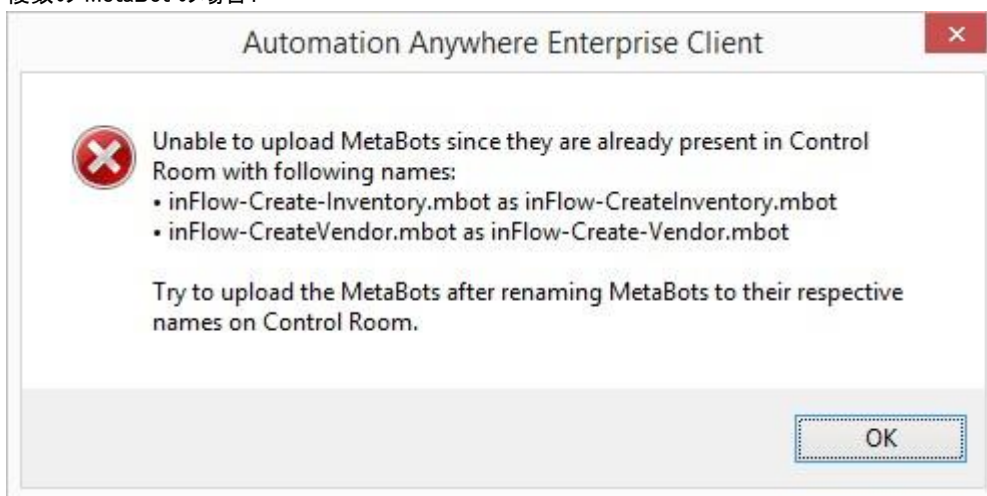


リポジトリから名前を変更した MetaBot をアップロードすると、次のメッセージが表示されます。

- 1 つの MetaBot の場合:



- 複数の MetaBot の場合:



アップロードするには元の名前に戻す必要があります。

MetaBot の役割を作成して権限を割り当てる

[Administration] (管理) → [Roles] (役割) ページでユーザーの役割を定義し、Web ベースの Control Room で MetaBot の使用に必要な役割を割り当てることができます。

新しい Roles (役割) を作成する

新しいユーザーの Roles (役割) を定義するには、次をクリックします。 [\\* Create role...](#)

[Create Role] (役割を作成) ページで、役割名を入力します。

## Create role

Cancel Create role

Users with this role will be able to use which features?

Role name:  Role description (optional):

**FEATURES**

- Name: HR
- Features:
  - DASHBOARDS
  - ACTIVITY
  - BOTS
  - DEVICES
  - WORKLOAD

**BOTS**

- View my In progress activity
- View everyone's In progress activity
- View my scheduled bots
  - Schedule my bots to run
  - Edit my scheduled activity
  - Delete my scheduled activity
  - View and manage ALL scheduled activity
- View my bots
  - Run my bots
  - Export bots
  - Import bots

**View my scheduled bots**

- Users will see the schedules which they have created on the bots which they have access to.

Next >

[View my bots] (マイ Bot を表示) 機能を選択します。[Bots] パネルが [Features] (機能) パネル下で有効になります。

ユーザーに付与する役割に基づいて権限を割り当てることができます。

**備考:** MetaBot ユーザーは MetaBot ファイルへの一連のアクセス権が個別に必要になります。したがって、Control Room 管理者は、[Which Bots and supporting files?] (Bot とサポート対象のファイルはどれですか?) ページのフォルダー権とは別に、MetaBot リポジトリのアクセス権を MetaBot ファイルレベルで個別に付与する必要があります。

### MetaBot ユーザーのアクセス権

実行、アップロード、ダウンロード、削除などの権限を付与するには、[Bots] パネルで [TaskBots and Other Supporting Files] (TaskBot と他のサポート対象のファイル) タブの横にある [MetaBots] タブをクリックします。MetaBot ファイルレベルごとにユーザーにアクセス権を付与できます。

## Create role

Cancel Create role

Which bots and supporting files?

Please select folders this role will have access to on the Bots tab. Also, select the actions they will be able to take on objects within the folder. Selecting a folder means that the role will automatically inherit permission to any objects that are added to it in the future.

This step is optional. You can add this information later.

TASK BOTS AND OTHER SUPPORTING FILES META BOTS

Folders (1)

- My MetaBots

Select All Upload Download Execute Delete

< Back Next >

1. Select All (すべて選択) - ユーザーは TaskBot で MetaBot を使用して、Control Room へのアップロード、Client へのダウンロード、ダウンロードした MetaBot の削除を行うことができます。
2. Execute (実行) - ユーザーは TaskBot で MetaBot を使用できますが、MetaBots Designer でダウンロードした MetaBot を開くことはできません。この制限により、MetaBot をブラックボックス化された Bot として共有できるようになります。ユーザーは MetaBot のコンテンツを表示/変更できません。
3. Upload (アップロード) - ユーザーは MetaBot をアップロードできます。
4. Download (ダウンロード) - ユーザーは MetaBot をダウンロードして変更できます。
5. Delete (削除) - ユーザーはダウンロードした MetaBot を削除できます。

**備考:** ユーザーに「ダウンロード」権限を付与すると「実行」権限が自動的に有効になるため、ユーザーはダウンロードした MetaBot のコンテンツを表示/編集するか、どちらもしない(ブラックボックスとして使用)のいずれかを選択できるようになります。

ユーザーに割り当てられた役割に基づいてアクセス権を付与するように選択できます。

例: MetaBot へのアクセス権がある BotCreator Client にはすべての権限を付与できますが、MetaBot ライセンスを持つ BotRunner Client には「実行」権限のみを付与できます。

ユーザーが [Roles] (役割) リストページで作成されているかどうかを確認できます。詳しくは [こちら](#) を参照してください。

## セクション: Enterprise Client の MetaBot

### AISense - 概要

Automation Anywhere AISense によって、オブジェクトベースの自動化が使用できない、または信頼性が低いあらゆる環境でも、インテリジェントな自動化が可能となります。次のタイプのアプリケーションが AISense による自動化に最適です。

Citrix (XenDesktop および XenApp) で公開されているビジネスアプリケーションリモートデスクトッププロトコル (RDP) でアクセスされるアプリケーション

Delphi などのレガシーアプリケーション

AISense はアプリケーションのスクリーン画像をスキャンしコンピュータービジョンを使用して、すべての UI 要素 (ラベルやテキストボックスなど) を特定します。その後、その画像からすべてのアプリケーション UI オブジェクトを自動的に作成します。自動的に作成されたオブジェクトはすべて、MetaBot Logic を通じた自動化用に直接使用できます。これによって、自動化の作成対象となるオブジェクトをユーザーが手動で作成する時間を大幅に省くことができます。

さらに、自動作成されたオブジェクト間に AI を利用したインテリジェントなリンクが作成されます。このリンクによって、あるオブジェクト (親オブジェクト) に基づいて別のオブジェクト (子オブジェクト) を検索することもできます。インテリジェントなリンクによって、子や親の絶対位置や相対位置が変更された場合でも、確実に自動化の実行が続けられます。

MetaBot の [Export Dataset] (データセットをエクスポート) によって、任意のアプリケーションからデータを容易に一括抽出できます。これは HTML や .NET などの標準技術に対して使用でき、さらに、画像として表示されるアプリケーション、たとえば Citrix や RDP で公開されるアプリケーションにも使用できます。そのようなアプリケーションに対して AISense を使用することで、アプリケーションを 1 度スキャンするだけでスクリーン上に表示されているすべてのオブジェクトを確実に抽出できます。それにより、抽出するフィールド (オブジェクト) の数に応じて 5 倍から 10 倍自動化実行時間を短縮できます。

同様に、強化された MetaBot の [Import Dataset] (データセットをインポート) 機能によって、任意のアプリケーションに容易にデータを一括入力できます。Citrix タイプや RDP タイプのアプリケーションに対しこれを使用することで、入力するフィールド (オブジェクト) の数に応じて 5 倍から 10 倍も自動化実行時間を短縮できます。

詳しくは次のセクションを参照してください。

- [MetaBot を作成する](#)
- [MetaBot を追加および記録する](#) • [MetaBot のスクリーンを設定する](#)
- [Workbench を使用してロジックを作成する](#)
- [Export Dataset \(データセットをエクスポート\) コマンド](#) • [Import Dataset \(データセットをインポート\) コマンド](#) MetaBot の名前を変更する

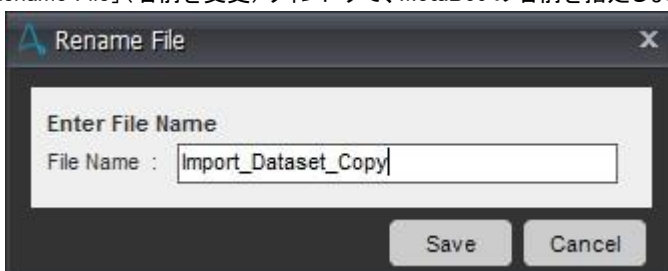
MetaBot の名前を変更するには、次の手順を実行します。

1. クライアントの [Automate] (自動化) タブにある [My MetaBots] リストで、名前を変更する MetaBot を選択 (強調表示) します。
2. 次のいずれかの方法で、MetaBot の名前を変更します。
  - [File] (ファイル) メニューで、[Rename] (名前の変更) を選択します。
  - [Actions] (アクション) ボタンのドロップダウンリストから [Rename] (名前の変更) を選択します。
  - MetaBot を右クリックし、[Rename] (名前の変更) を選択します。



ヒント: MetaBot Designer で MetaBot が閉じていることを確認します。名前の変更時に、MetaBot Designer でその MetaBot 以外に開いている MetaBot がない場合は、MetaBot Designer を終了する必要があります。

3. [Rename File] (名前を変更) ウィンドウで、MetaBot の名前を指定します。



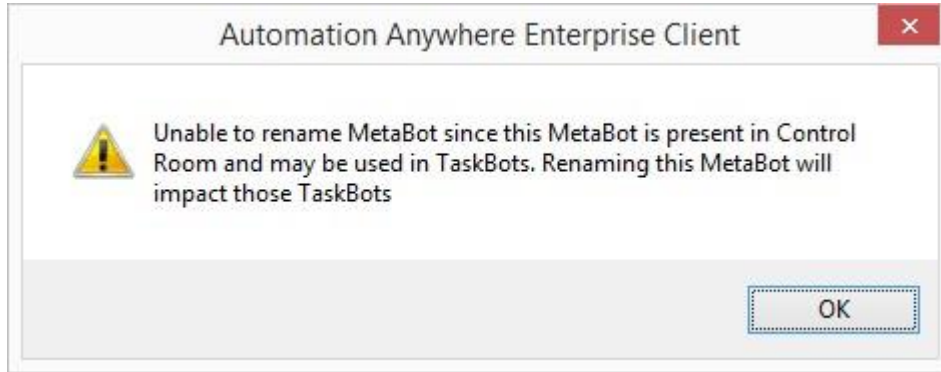
4. [保存] をクリックします。


名前が変更された MetaBot が、[My MetaBots] のリストビューに表示されます。

既存の MetaBot の名前を変更する

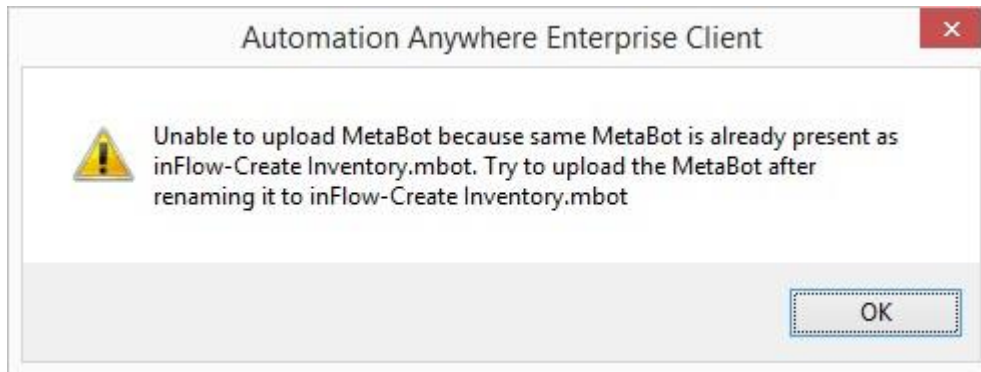
ローカルマシンにのみ存在し、Control Room にまだアップロードしていない MetaBot の名前を変更できます。MetaBot が Control Room に存在する場合は、その MetaBot が TaskBot で使用されている可能性があり、名前を変更するとそれらの TaskBot にも影響が及ぶことがあるため、変更はできません。

すでに Control Room に存在する MetaBot の名前をクライアントで変更しようとすると、次のメッセージが表示されます。



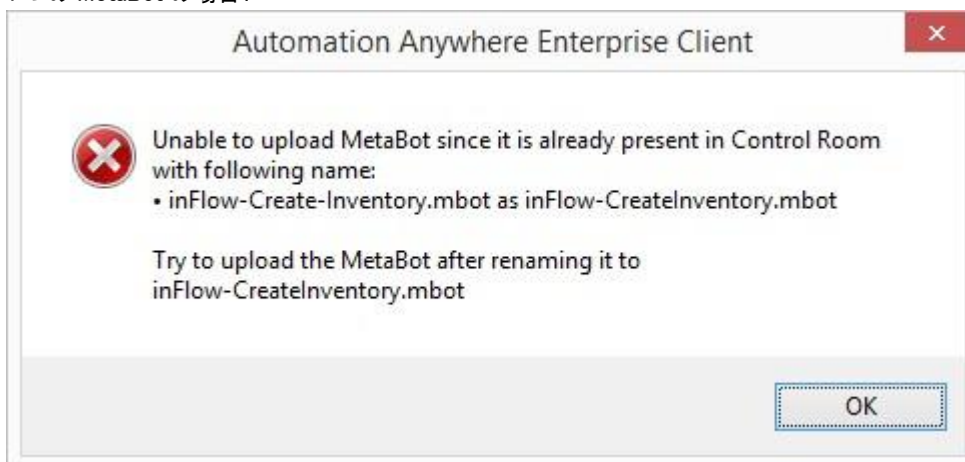
 ヒント: MetaBot の名前変更をファイルシステムから行わないことをおすすめします。

ファイルシステムから名前を変更された MetaBot は、Control Room リポジトリに再度アップロードできません。Client からこのような MetaBot をアップロードしようとすると、次のメッセージが表示されます。



リポジトリから名前を変更した MetaBot をアップロードすると、次のメッセージが表示されます。

- 1 つの MetaBot の場合:



- 複数の MetaBot の場合:

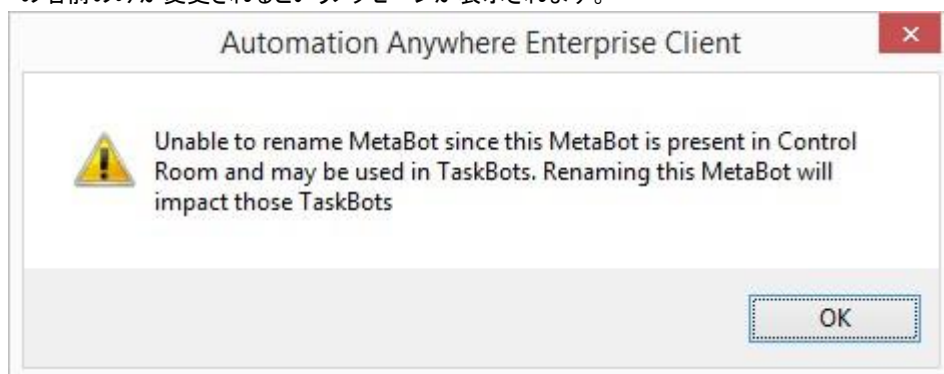




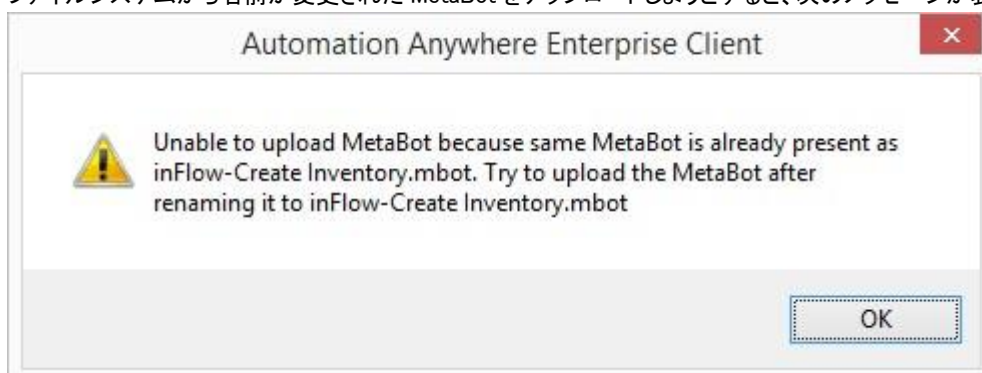
アップロードするには元の名前に戻す必要があります。

バージョン管理が有効な場合に MetaBot の名前を変更する

ローカルリポジトリでのみ MetaBot の名前を変更できます。ファイルが編集用にチェックアウトされている場合は、ローカルバージョンの MetaBot の名前のみが変更されるというメッセージが表示されます。




- ファイルシステムから名前が変更された MetaBot をアップロードしようとすると、次のメッセージが表示されます。



MetaBot を削除する

場合によっては、既存の MetaBot を削除することもできます。

 ヒント: MetaBot の削除をファイルシステムから行うことはお勧めしません。

MetaBot を削除するには、次の手順を実行します。

1. [My MetaBots]リストで、削除する MetaBot を選択(強調表示)します。
2. 次のいずれかの方法で、MetaBot を削除します。
  - [Edit] (編集)メニューの[Delete] (削除)をクリックします。
  - [Actions] (アクション)ボタンのドロップダウンリストから[Delete] (削除)を選択します。

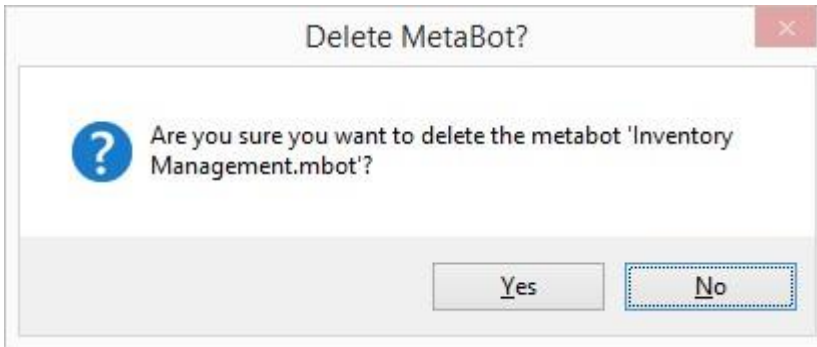


- MetaBot を右クリックし、[Delete] (削除)を選択します。



ヒント: MetaBot Designer で MetaBot が閉じていることを確認します。削除する時に、MetaBot Designer でその MetaBot 以外に開いている MetaBot がない場合は、MetaBot Designer を終了する必要があります。

3. [Delete MetaBot?] (MetaBot を削除しますか?) ウィンドウで [Yes] (はい) をクリックします。



- [My MetaBot] (マイ MetaBot) リストビューから MetaBot が削除されます。



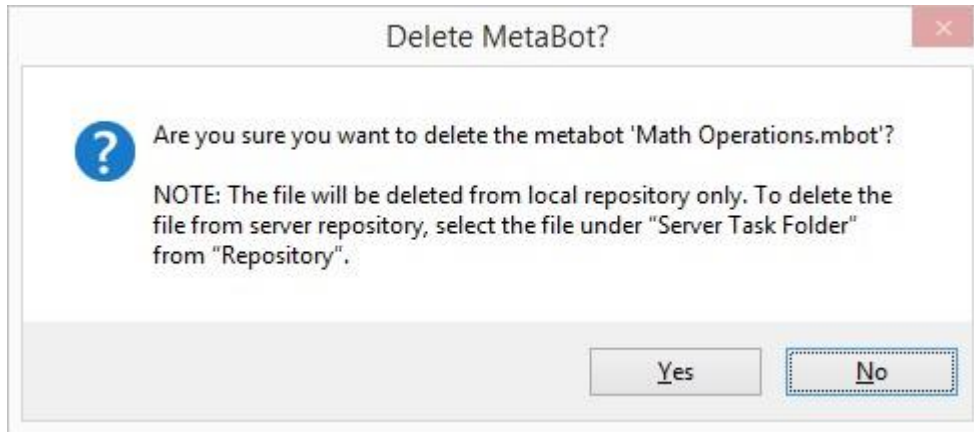
備考: MetaBot を削除した後、クライアントでその MetaBot を復元することはできません。MetaBot を削除する前に、今後その MetaBot を使用しないことを確認してください。




ヒント: MetaBot をバックアップする手段として、すべての MetaBot が Control Room リポジトリにコピーされていることを確認することをお勧めします。

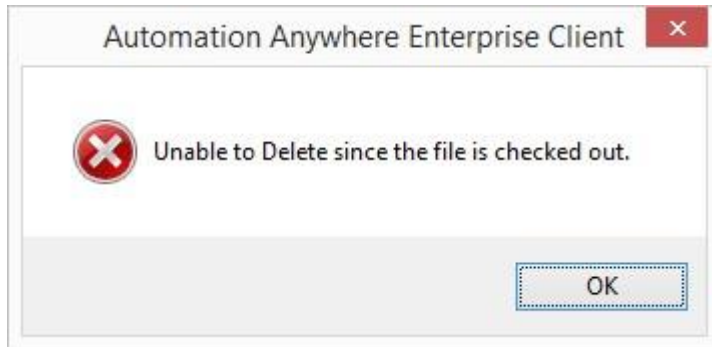
バージョン管理が有効になっている場合に MetaBot を削除する

バージョン管理を有効にしている場合、クライアントから MetaBot を削除する際、確認の他に、MetaBot がローカルのみで削除されることが通知されます。



 備考： Control Room リポジトリから MetaBot を削除するには、リポジトリの該当するフォルダーから選択する必要があります。

MetaBot がチェックアウトされている場合、削除することはできません。



バージョン履歴を表示する

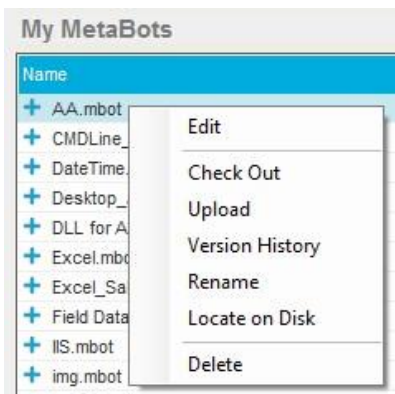
バージョン履歴を使用して、選択した MetaBot の更新履歴を表示します。必要に応じて更新をロールバックすることもできます。

バージョン履歴を選択すると、選択した MetaBot で作成されたすべてのバージョンのリストを表示できます。

ファイルバージョン履歴を表示する選択した MetaBot の「バージョン履歴」は、以下から表示できます

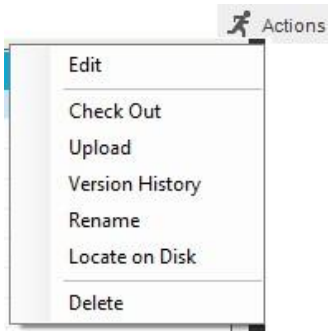
。

1. コンテキストメニュー:

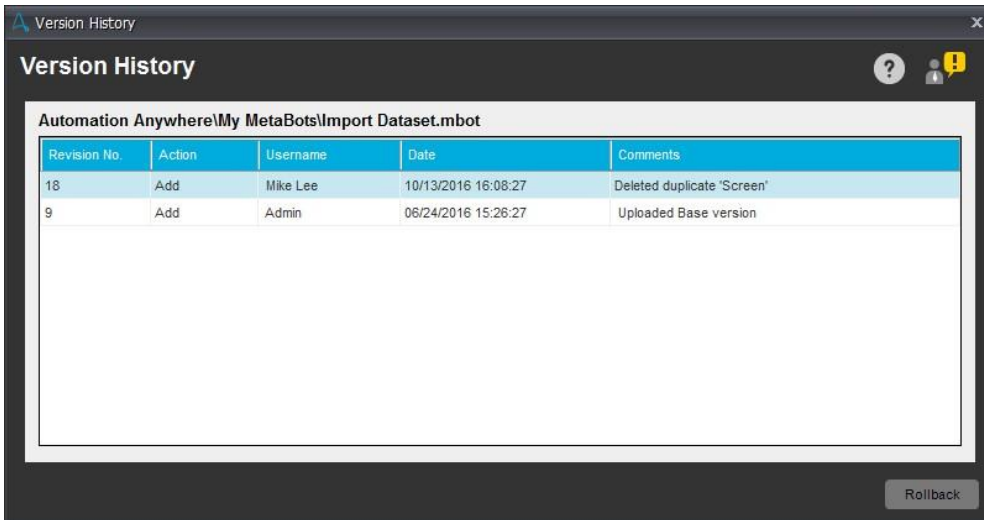


または

2. アクションリスト:



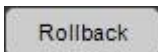
3. バージョン履歴を選択すると、選択した MetaBot のバージョン情報を表示できます



バージョン履歴は、タイムスタンプの降順、つまり最上部に最新バージョン、最下部に最初のバージョンが表示されます。ユーザーと特定の [Date and time] (日時) に実行された関連する [Action] (アクション) を特定し、[Comments] (コメント) で関連事項を確認できます。

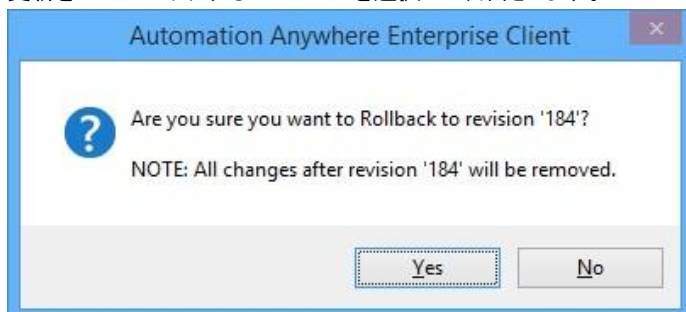
更新をロールバックする

更新を特定のバージョンにロールバックすることもできます。これを使用して、選択した MetaBot の更新/変更をバージョン履歴で選択したバージョンに戻します。

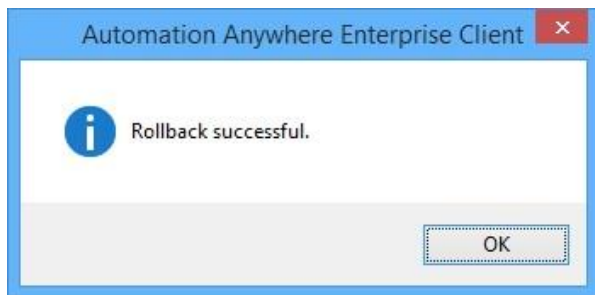



 ヒント: ロールバックを使用する前に、MetaBot Designer クライアントが閉じていることを確認してください。

更新をロールバックするバージョンを選択して、確定します。



確定すると、選択したバージョンから最新バージョンまでの間に加えられたすべての変更がロールバックされ、正常にロールバックされたことを示すメッセージが表示されます。



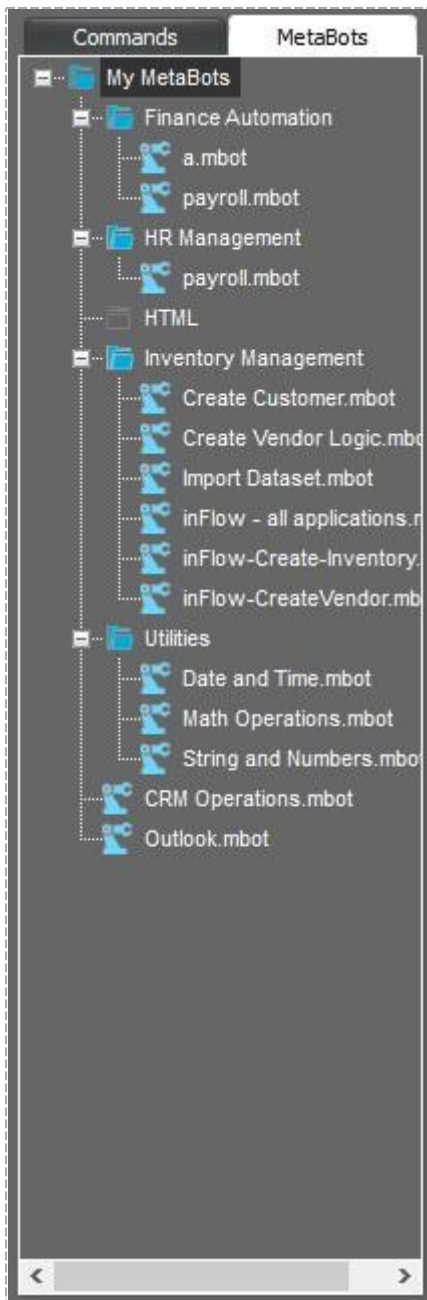
 **備考:** 選択したバージョンにロールバックしたら、最新バージョンが更新に反映されるように、ロールバックしたファイルをチェックイン(アップロード)することをおすすめします。

#### TaskBot ロジックおよび MetaBot ロジックで MetaBot ロジックを使用する

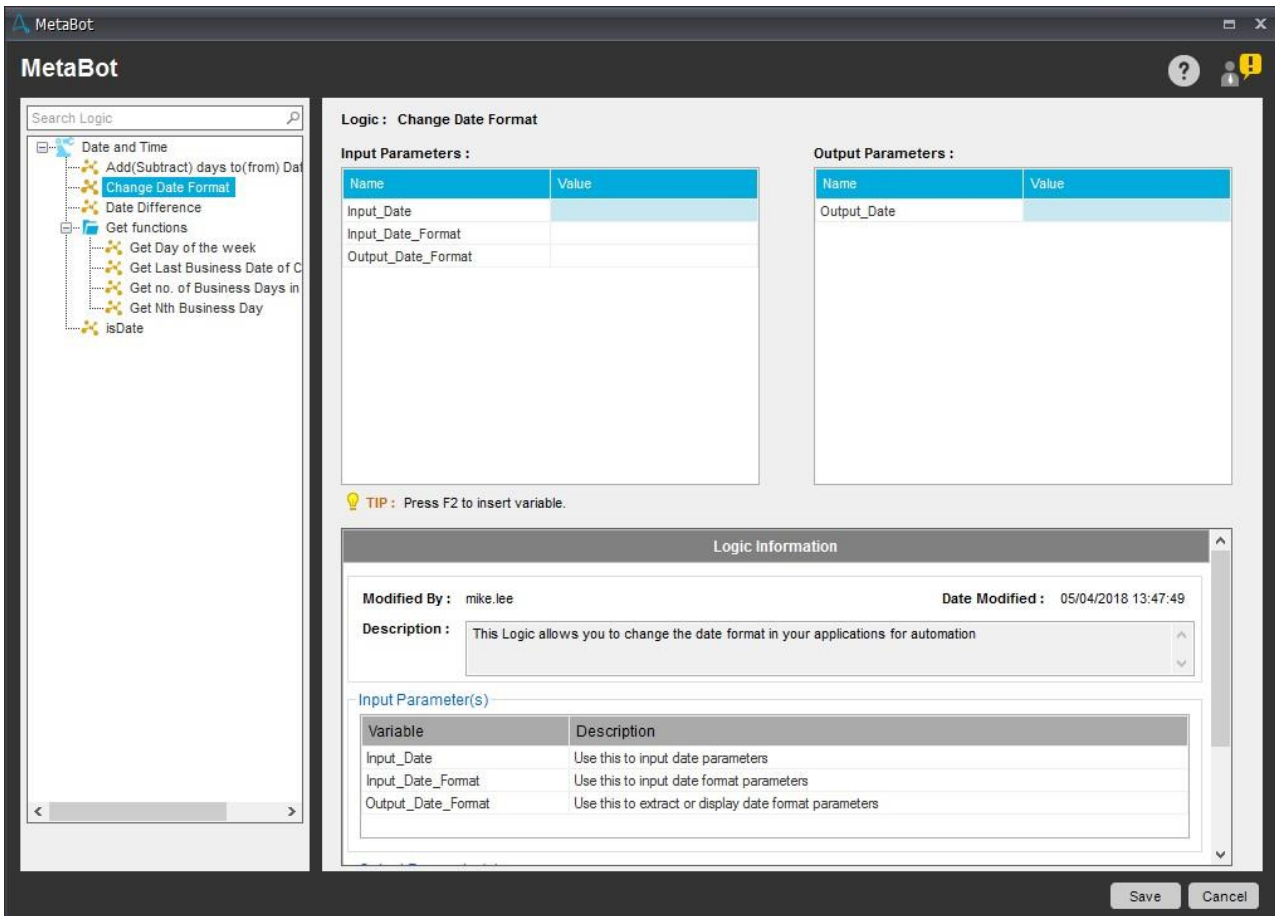
Automation Anywhere Workbench では、TaskBot ロジックやその他の MetaBot ロジック内でロジックを統合し、自動化を作成できます。具体的なワークフローに沿って、1 つの MetaBot に由来する 1 つまたは複数のロジック、または多様な MetaBot に由来する複数のロジックを追加できます。

#### TaskBot に MetaBot ロジックを追加する

1. 開始するには、Workbench 内にあるコマンドパネルの上部に配置された [MetaBot] セクションをクリックします。



2. MetaBot の一覧にある MetaBot をダブルクリックまたはドラッグアンドドロップします。
3. [MetaBot]ウィンドウが開きます。



4. 必要に応じて、リストまたはフォルダーから目的のロジックを選択します。このロジックで入力または出力、あるいはその両方として特定の値または変数、あるいはその両方が必要な場合は、[Input and/or Output Parameters] (入力パラメーターまたは出力パラメーター、あるいはその両方) ペイン下にリストされます。それ以外の場合は、空のパラメーター表が表示されます。
  - ロジック内で Input (入力) および InputOutput (入出力) パラメーター型変数を使用できる場合、[Input Parameters] (入力パラメーター) ペインで入力として必要な値または変数を割り当てることができます。
  - 同様に、ロジック内で Output (出力) および InputOutput (入出力) パラメーター型変数を使用できる場合、[Output Parameters] (出力パラメーター) ペインで出力としてほかの変数を割り当てることができます。
  - 詳しくは「[変数 - パラメータータイプ](#)」と「[自動化でパラメーターを渡す](#)」を参照してください。



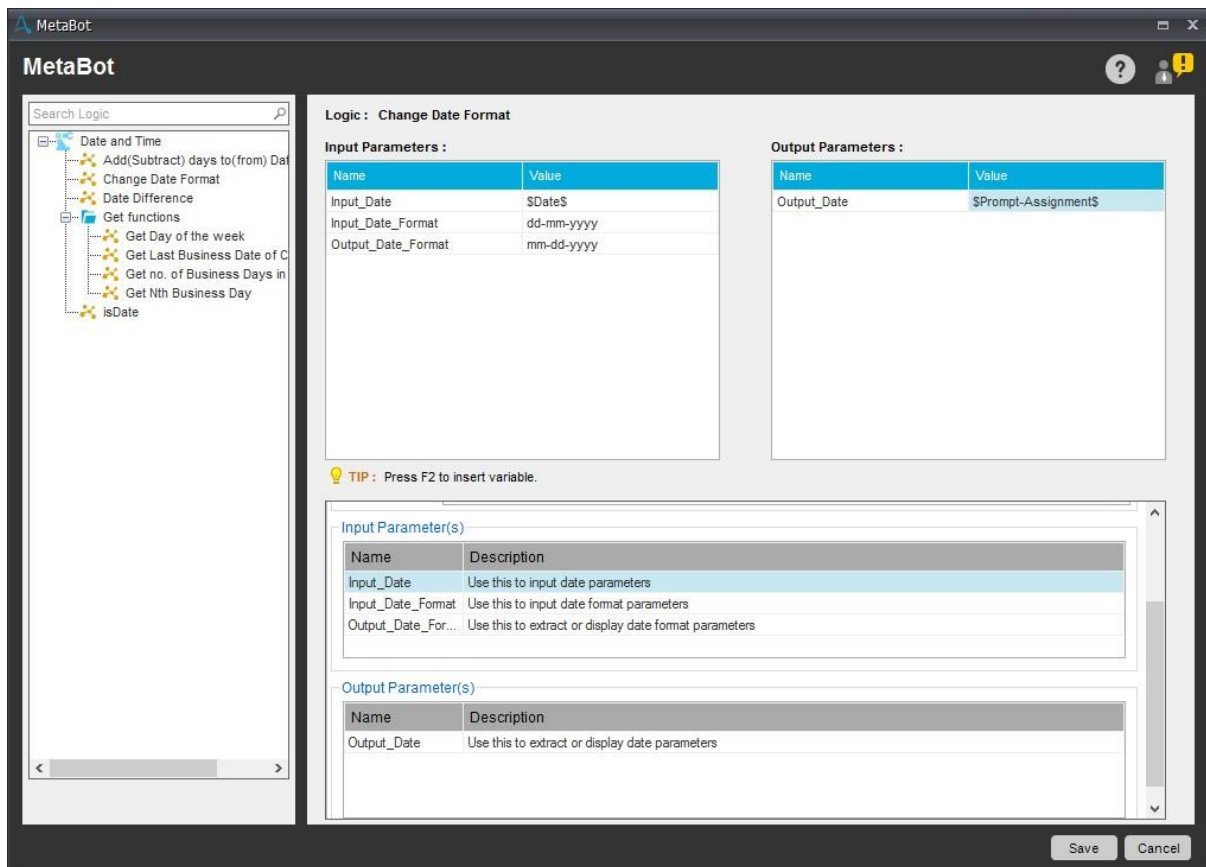
ヒント: 「ロジックを検索」機能を使用して、目的のロジックに移動します。

5. ロジック内で変数を割り当てた場合は、必要な値一式を入力および出力パラメーターに割り当てる必要があります。
  - これらを空白のままにはしておくことはできません。
  - タスク内で使用可能な変数のリストから、入力または出力パラメーター、あるいはその両方に変数を割り当てることもできます。



ヒント: Input (入力) または Output (出力) パラメーター、あるいはその両方で資格情報または機密データの必要な場

合、[Credential Variables] (資格情報変数) を使用することもできます。[変数の挿入] の [Credential Variables] の下にリストされている必要な変数を選択します。ただし、これらの変数を異なる TaskBot/MetaBot Logic 間で渡すことはできません。詳しくは「[Credential Variables を割り当てる](#)」を参照してください。




6. [説明]フィールドには、設定中のロジックに関する情報が表示されます。ロジック情報を更新するユーザーの名前と、変更された日時も表示されます。詳しくは、「[MetaBot Logic のプロパティを追加する](#)」を参照してください。


同様に、ロジックの説明の下にある[入力パラメーター]と[出力パラメーター]の[説明]も参照できます。これは、変数を作成するときに追加されます。「[変数を追加、編集、削除する](#)」を参照してください。

TaskBots で MetaBot Utilities/Logics を使用する際に、クリックしなくてもコンテキストヘルプが提供されるため、非常に便利です。

- 変数を(パラメーターから)選択すると、対応する説明が強調表示/選択されます。
- スクロールせずに説明を表示する場合、マウスを[Description](説明)フィールドの上に移動すると、テキスト全体がヒントとして表示されます。

 備考: ロジックと入力/出力パラメーターが 10.x バージョンで作成された場合、デフォルトでは説明は表示されません。ただし、ロジックの説明は更新できます。これは、[Properties](プロパティ)オプションを使用して編集および保存すると表示されます。同様に、変数を編集してパラメーターの説明を含めることができます。

7. 完了したら、[Save](保存)をクリックして MetaBot ロジックを TaskBot 内に組み込みます。

 備考: ターゲットアプリケーションが管理者モードで開かれている場合、TaskBot の実行中に管理者モードでタスクを実行する必要があります。

この Workbench はロジックのイベントデータを示しています。



MetaBot Logic を別の MetaBot Logic に追加する

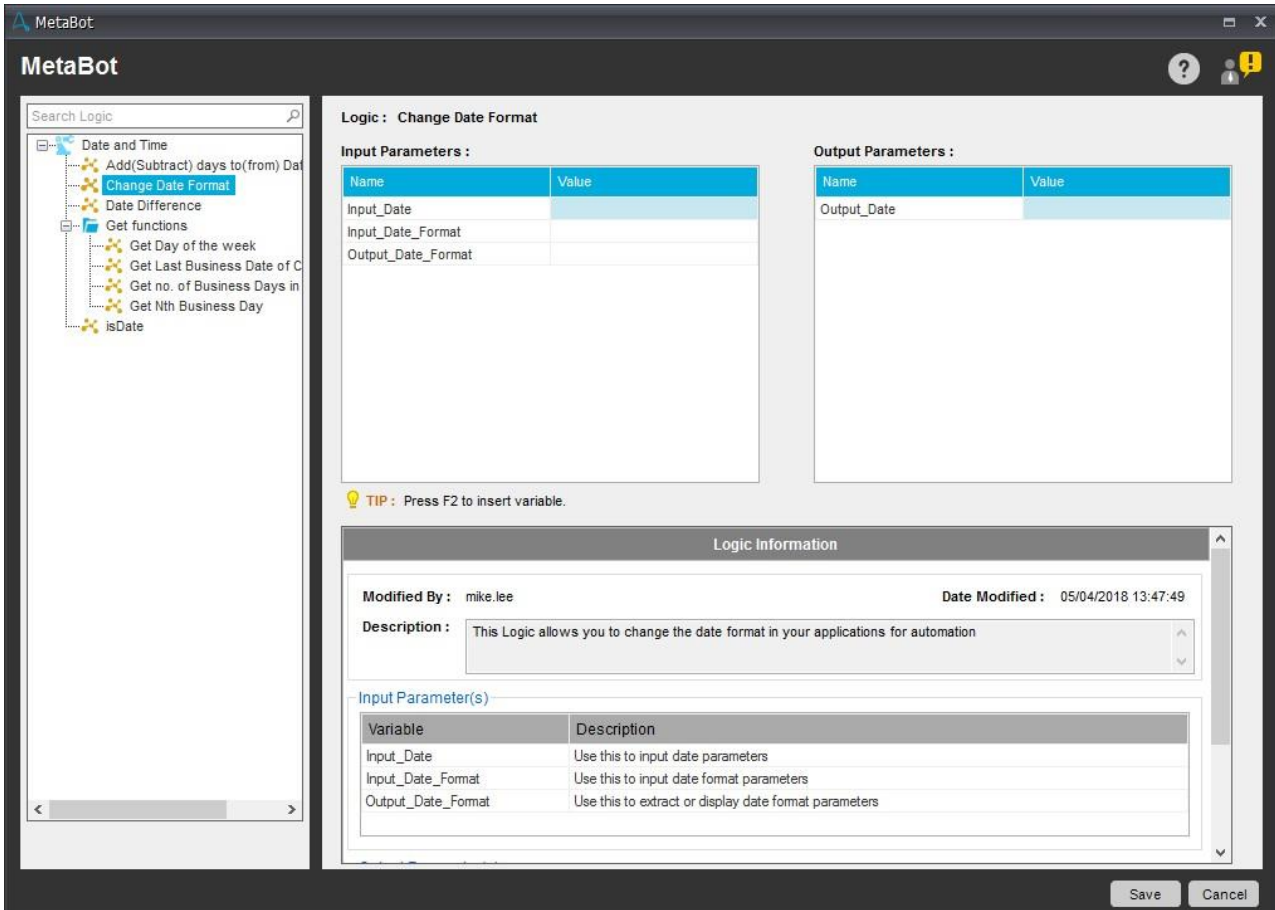
既存のロジックを Workbench から別の MetaBot Logic(新規または既存)に追加するには、次の手順を実行します。

1. [新規]をクリックして [MetaBot Logic を作成する](#)か、MetaBot ビューから[ロジックを追加]をクリックします。
2. 選択した MetaBot の[新しいロジック]ウィンドウが表示されます。



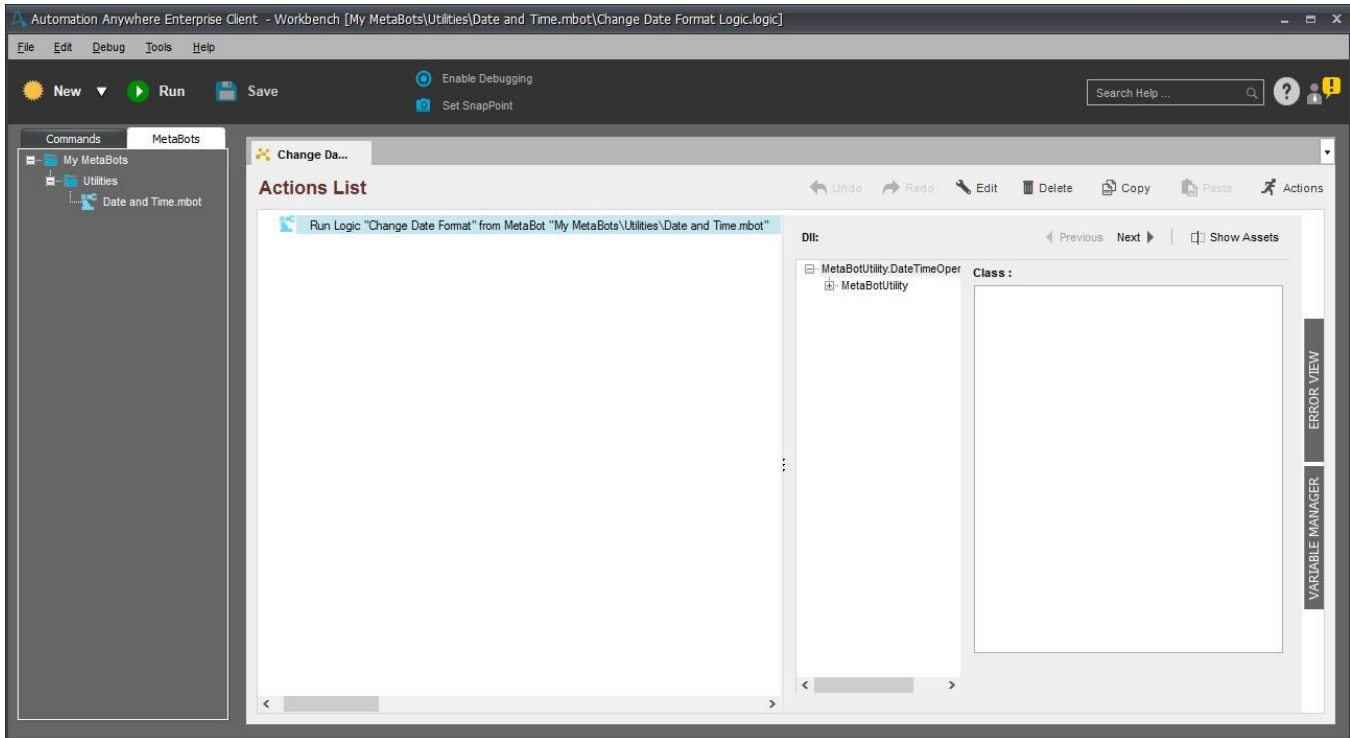


3. MetaBot を選択してドラッグするかダブルクリックして、Workbench で開きます



4. リストまたはフォルダーから必要なロジックを選択します。
5. 自動化フローごとにパラメーターを追加します。
6. 保存して、既存のロジックまたは新しいロジックにロジックを追加します。





### MetaBot Logic のプロパティを追加する

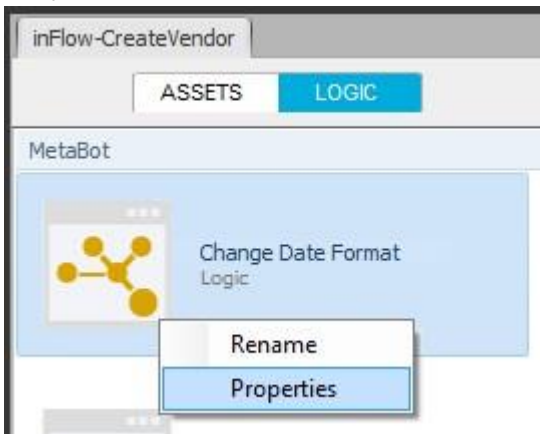
MetaBot Logic を作成すると、特定の自動化で達成する最終的な目標を簡単に記録しておくことができます。ただし、自動化のエキスパートとして、別の自動化エキスパートが作成した MetaBot Logic との統合が必要になる場合もあります。同様に、作成する自動化は他の自動化でも使用されず。

自分の自動化や他の自動化で実行可能な自動化ロジックを決定するための一助になるよう、[Properties] (プロパティ) オプションを使用して MetaBot Logic に説明を追加できます。これは、MetaBot Logic/MetaBot Utilities の使用時に便利なコンテキストヘルプとして活用できます。

同様の行で [Input] (入力)、[Output] (出力)、[InputOutput] (入出力) 変数にパラメーターの説明を追加することもできます。詳しくは、「[変数を追加、編集、削除する](#)」を参照してください。

新しいロジックにプロパティを追加するロジックにプロパティを追加するには、次の手順を実行します。

1. MetaBot Logic を作成して保存します。詳しくは、「[MetaBot を作成する](#)」を参照してください。
2. MetaBot を開きます。
3. [Logic] (ロジック) ビューに移動します。
4. ロジックを右クリックします。<Logic>
5. [Properties] (プロパティ) を選択します。



6. [Logic Properties] (ロジックプロパティ) ウィンドウが起動します。

**Logic Properties**

Change Date Format

**Details**

Date Created : 05/04/2018 11:44:46      Author : mike.lee

Date Modified :      Modified By :

Description :

300 Characters Remaining

**TIP :** Go to Variable Manager in Workbench to update parameter description

OK      Cancel

7. [Description] (説明)フィールドに、この MetaBot Logic が達成する目的、いくつかのヒント、TaskBot/MetaBot Logic でロジックの使用に役立つその他の情報を入力します。

- この説明は、パラメーターを渡すときに、TaskBot/MetaBot Logic からロジックを使用する場合に表示できます。

**Logic Properties**

Change Date Format

**Details**

Date Created : 05/04/2018 11:44:46      Author : mike.lee

Date Modified : 05/04/2018 13:47:49      Modified By : mike.lee

Description :

217 Characters Remaining

**TIP :** Go to Variable Manager in Workbench to update parameter description



ヒント: [Description] (説明)フィールドには最大 300 文字追加できます。

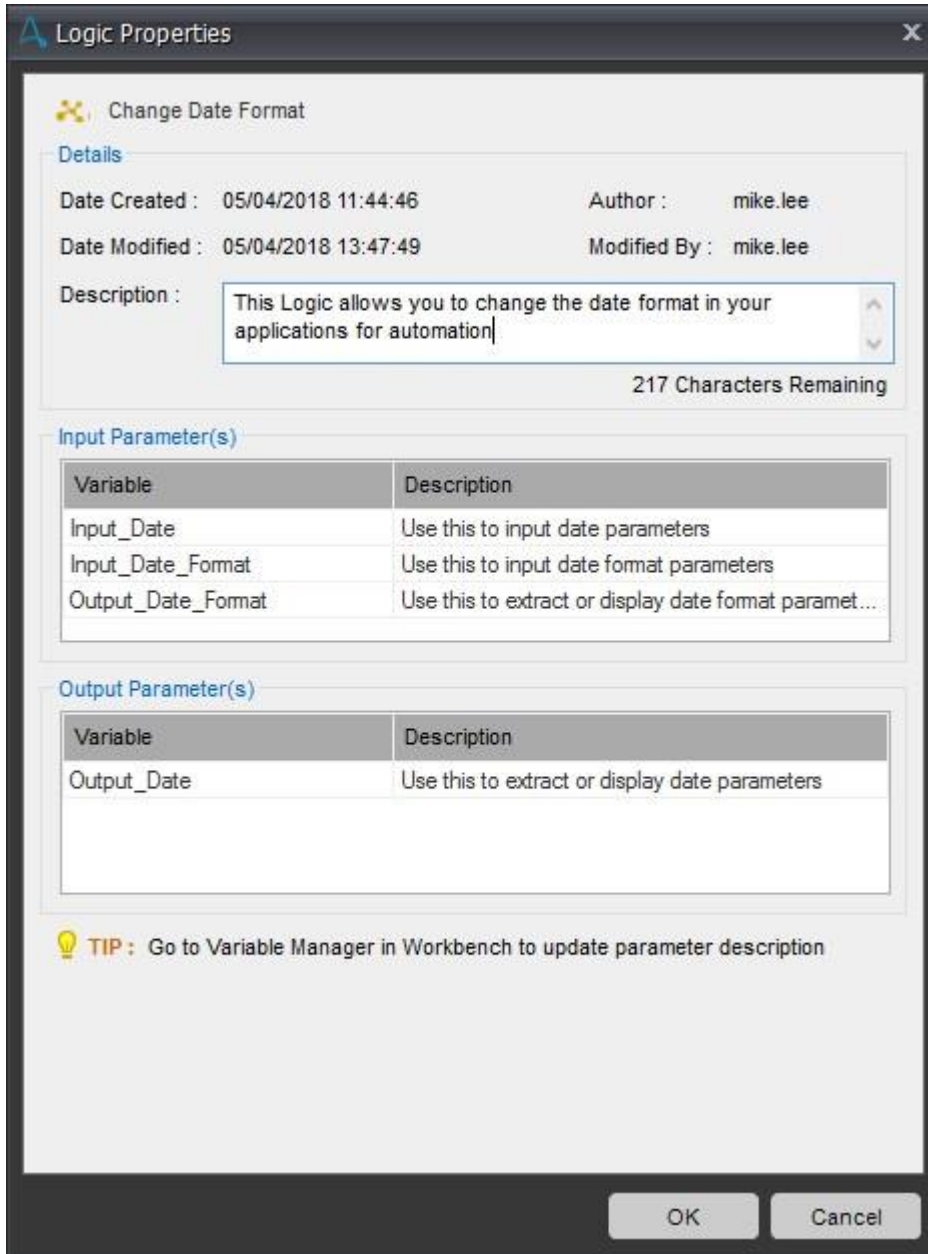
8. [OK]をクリックします 説明が保存されます。



ヒント: [Workbench]->[Variable Manager] (変数マネージャー)->[Add variable] (変数を追加)でパラメーターの説明を追加できます

ロジックプロパティを編集するプロパティの説明フィールドを編集することもできます。

1. 編集モードで開くには、Logic を右クリックして[Properties] (プロパティ)を選択します。
2. [Logic Properties] (ロジックプロパティ) ウィンドウが起動します。



- パラメーターの説明は、対応する変数の作成/編集中に追加/変更できる読み取り専用モードで表示されます。詳しくは、「変数を追加、編集、削除する」で「説明を追加または編集する」のセクションを参照してください。

3. 必要に応じて説明を編集します。

備考: 編集モードでプロパティウィンドウを開くと、[Date Created] (作成日)、[Author] (作成者)、[Date Modified] (変更日)、[Modified by] (変更者)などの[Details] (詳細)が表示されます。パラメーターの説明が追加されると、[Input Parameter(s)] (入力パラメーター)、[Output Parameter(s)] (出力パラメーター)、[InputOutput Parameter(s)] (入出力パラメーター)の各フィールドにも表示されます。

既存の 10.x ロジックに説明を追加/編集する

AAE 10.x のいずれかのバージョンで作成された MetaBot Logic を使用している場合、パラメーターの説明はデフォルトでは更新されないため、追加する必要があります。詳しくは、「変数を追加、編集、削除する」で「説明を追加または編集する」のセクションを参照してください。デバッグログを有効にする

デバッグログを有効にする機能を使用して Automation Anywhere のサポートチームに送信できるログを収集し、問題のトラブルシューティングなど、AAE Client の問題を調査する際に役立てることができます。

デバッグログを有効にすると、AAE Client の次のアプリケーションおよびサービスのデバッグログが保存されます。

- メイン
  - WorkBench • プレーヤー
  - クライアントサービス
  - スケジューラーサービス • MetaBot Designer • EventWatcher
  - FipsDataMigration • Terminal Emulator
  - 自動ログインサービス • プロキシサーバー
- デバッグログを有効にするには、次の手順を実行します。

1. AAE Client の [Options] (オプション) スクリーンで、[Tools] (ツール) > [Options] (オプション) > [Advanced Settings] (詳細設定) をクリックします。
2. [Enable Debug Logging] (デバッグログを有効にする) チェックボックスをオンにします。

デフォルトでは、エラーと致命的な問題のログが有効になっています。[Enable Debug Logging] (デバッグログを有効にする) オプションを選択すると、ステータスバーに太字の赤色で「Debug logging enabled」(デバッグログ記録有効) というメッセージが表示されます。

ログをエクスポートする方法については、「[詳細設定を使用する](#)」の「ログをエクスポート」を参照してください。

クライアントアプリケーションのログは、Application Logs (アプリケーションログ) サブフォルダー、サービスのログは Service Logs (サービスログ) サブフォルダーで確認できます。これらは <Log file folder selected by you>\AAE\_Client\_Logs\_<date>\_<time> フォルダーにあります。

Application Log のパス: <Application Path>\LogFiles

Service Log のパス: 共通フォルダーパス\Automation Anywhere Client Files\LogFiles

**備考:** デフォルトでは、1 MB のログファイルがそれぞれ最大 10 個保存されます。この制限を超えると、既存のログエントリが上書きされます。

アプリケーションとサービスのログ構成ファイルが異なる場合は、[Enable Debug Logging] (デバッグログを有効にする) チェックボックスが不確定な状態が表示され、ステータスバーに「Debug logging enabled」(デバッグログ記録有効) というメッセージが表示されます。

次の表に、デバッグログを有効または無効にした場合の [Enable Debug Logging] (デバッグログを有効にする) チェックボックスのさまざまな状態を示します。

サービス	アプリケーション	[Enable Debug Logging] (デバッグログを有効にする) チェックボックスの状態	Description(説明)
デバッグログは有効	デバッグログは有効	<input checked="" type="checkbox"/> Enable Debug Logging	デバッグログが有効な場合、チェックボックスはオンになります。
デバッグログは無効	デバッグログは有効	<input type="checkbox"/> Enable Debug Logging	アプリケーションとサービスのデバッグログの状態が異なる場合、またはログ設定ファイルが編集された場合、チェックボックスは不確定になります。
デバッグログは有効	デバッグログは無効	<input type="checkbox"/> Enable Debug Logging	アプリケーションとサービスのデバッグログの状態が異なる場合、またはログ設定ファイルが編集された場合、チェックボックスは不確定になります。
デバッグログは無効	デバッグログは無効	<input type="checkbox"/> Enable Debug Logging	アプリケーションとサービスの両方でデバッグログが有効になっていない場合、チェックボックスはオフになります。

ログは 無効				
-----------	--	--	--	--

備考: デバッグログファイルが誤って削除された場合、クライアントアプリケーションの起動時または[Options](オプション)スクリーンでの更新時にデフォルト設定を使用して新しいファイルが作成されます。

デバッグログファイルが破損している場合、ファイル名<origFileName>\_Date\_Time\_backup.xml で既存のファイルをバックアップし、アプリケーションの起動時または[Options](オプション)スクリーンを開いたときにデフォルトのログファイルに置き換わります。

ログをクリアする方法については、「[詳細設定を使用する](#)」の「ログをクリアする」を参照してください。

自動ログインの場合は以前のログと設定メカニズムが継承されるため、Automation.Autologin.Settings.XML ファイルでデバッグログを手動で設定する必要があります。詳しくは、「[自動ログインのデバッグログを有効にする](#)」(ページ 447 ページ)を参照してください。

## セクション: よくあるご質問

Automation Anywhere Client に関するよくある質問

1. Client はどのようにサーバーと通信しますか？
2. どのようなタイプのドキュメントもダウンロードまたはアップロードできますか？
3. 登録プロセスはどのようになっていますか？
4. アカウントロックアウトの場合は、どうしたらよいですか？

Client はどのようにサーバーと通信しますか？

メインの Client ウィンドウで [Repository] (リポジトリ) タブをクリックしてサーバーと通信します。サーバー上のタスクを直接アップロード、ダウンロードしたり、Client 上のタスクと比較したりすることができます。

どのようなタイプのドキュメントもダウンロードまたはアップロードできますか？はい。

あらゆるタイプのドキュメントをダウンロードまたはアップロードできます。

登録プロセスはどのようになっていますか？

初めて Client を起動するときには、ログインを求められ、認証情報を入力後 [Login] (ログイン) をクリックすると自動的にサーバー (Control Room) に登録されます。

アカウントロックアウトの場合は、どうしたらよいですか？

Client アカウントへのログイン試行が許容回数を超えるとロックされます。Control Room に閾値が設定されている場合、Control Room 管理者のみがロックを解除できます。デフォルトのドメインポリシーが有効になっている場合は、システム管理者に連絡する必要があります。



File and Folder(ファイルとフォルダー)に関するよくある質問

1. 任意の拡張子のファイルを作成できますか？
2. 「Delete Files 'c:\MyPrgs\\*. \*」(「c:\MyPrgs\\*. \*」のファイルを削除)のような Files/Folders(ファイル/フォルダー)コマンドを使用すると、サブフォルダー内のすべてのファイルも同時に削除されますか？
3. フォルダーに含まれるすべてのファイル名のリストを取得し、操作を行うことはできますか？
4. タスク実行時にファイルまたはフォルダー名の値を指定できますか？任意の拡張子のファイルを作成できますか？

はい。Files/Folders(ファイル/フォルダー)コマンドで Create File(ファイルを作成)サブコマンドを使用して、任意の拡張子のファイルを作成できます。

「Delete Files 'c:\MyPrgs\\*. \*」(「c:\MyPrgs\\*. \*」のファイルを削除)のような Files/Folders(ファイル/フォルダー)コマンドを使用すると、サブフォルダー内のすべてのファイルも同時に削除されますか？

いいえ。このコマンドは、現在のフォルダーに含まれるすべてのファイルのみを削除します。上記の例では、「c:\MyPrgs」ディレクトリに含まれるすべてのファイルのみが削除されます。

フォルダー内のすべてのファイル名を取得し、操作を行うことはできますか？

はい。Loop for Files in a <folder>(指定のファイルをループ)コマンドを使用できます。

\$FileName\$は、各ループの実行時に指定のフォルダー内に次のファイル名を取得します。このシステム変数を使用して、Loop - End Loop ブロック内で任意の処理が実行できます。

タスク実行時にファイルまたはフォルダー名の値を指定できますか？

はい。Automation Anywhere には、実行時に値を指定する Prompt(プロンプト)コマンドがあります。任意のウィンドウに値を指定したり、ファイル/フォルダーのプロンプト、さらには yes/no(はい/いいえ)をプロンプトしたりすることもできます。

IF 条件に関するよくある質問

1. 特定のコマンドを実行できるのは、ウィンドウが存在する場合のみですか？
2. いずれかのソフトウェアが動作しているかどうかを知ることができますか？ そのソフトウェアが動作している場合のみ、特定のアクションを実行希望です。

特定のコマンドを実行できるのは、ウィンドウが存在する場合のみですか？

はい。IF コマンドには、いくつかの条件があります。その 1 つは「ウィンドウが存在する場合」です。

いずれかのソフトウェアが動作しているかどうかを知ることができますか？ そのソフトウェアが動作している場合のみ、特定のアクションを実行希望です。

はい。If 条件 (If Application Running) を使用して、いずれかのアプリケーションが実行中かどうか確認できます。If 条件に、テストする Exe

名を指定できます。たとえば、次のスクリプトを検討してください。

```
If Application Running (「F:\WINNT\system32\calc.exe」) コメント: 電卓プログラムの実行中にコマンドを追加します  
。  
End If
```

Internet(インターネット)に関するよくある質問

1. E-Mail Notification(メール通知)とは何ですか？
2. プロパティウィンドウの[Notification](通知)タブに表示される[Email Settings](メール設定)とは何ですか？
3. オートメーションソフトウェアにはメールを送信する機能がありますか？

E-Mail Notification(メール通知)とは何ですか？

E-Mail Notification(メール通知)を使用すると、タスクの実行終了時に通知を受け取ることができます。実行していたタスクのステータスやその他いくつかのプロパティを含んだメールが、指定したアドレスに送信されます。

プロパティウィンドウの[Notification](通知)タブに表示される[Email Settings](メール設定)とは何ですか？

このボタンをクリックすると、[Options](オプション)ユーザーインターフェイスが開き、送信メールサーバーとそのポート番号、ある場合は Exchange サーバーの認証を設定します。メールを送受信するには、そのメールサーバーが必要です。この情報は、インターネットメールプロバイダーまたはメールプログラムの設定セクションから取得する必要があります。

オートメーションソフトウェアにはメールを送信する機能がありますか？

はい。Automation Anywhere には、「Send mail(メールを送信)」コマンドがあります。このコマンドを使用して、誰にでもメールを送信できます。このコマンドは、タスクを実行するたびに[Options](オプション)メニューの[Mail Setting](メール設定)から、メールサーバーとそのポート番号、ある場合は Exchange サーバーの認証に関する情報を取得します。

Loop(ループ)に関するよくある質問

1. Loop(ループ)コマンドとは何ですか？
2. フォルダー内のすべてのフォルダーに対して特定のアクションを実行する場合、自動化ソフトウェアを使用してこれを行うにはどうすればよいですか？
3. Loop(ループ)コマンドを使用してフォルダー内のすべてのファイル名を取得できますか？

Loop(ループ)コマンドとは何ですか？

Loop(ループ)コマンドを使用すると、「Loop」と「End Loop」で挟まれたブロック内に配置されているコマンドグループを繰り返し実行できます。これらのコマンドの実行が繰り返される回数は、選択した Loop(ループ)コマンドに依存します。Loop(ループ)から End Loop(ループ終了)までのブロックには、別の Loop(ループ)から End Loop(ループ終了)までのブロックが組み込まれる(Loop コマンドが入れ子型で使用される)場合があります。

フォルダー内のすべてのフォルダーに対して特定のアクションを実行する場合、自動化ソフトウェアを使用してこれを行うにはどうすればよいですか？

Automation Anywhere では、Loop(ループ)コマンド(ループ開始'各フォルダへ'<folder>)を使用できます。指定したフォルダーに' $n$ '個のフォルダーが含まれる場合は、このループが' $n$ '回実行されます。このループブロック内で\$FolderName\$システム変数を使用すると、各フォルダーの名前を取得できます。

Loop(ループ)コマンドを使用してフォルダー内のすべてのファイル名を取得できますか？

はい、指定フォルダー内で Loop(ループ)コマンド「ループ開始'各ファイルへ'<folder>」を使用してシステム変数\$FileName\$を使用すると、ファイル名を取得できます。

ウィンドウズコントロールを管理に関するよくある質問

1. ウィンドウズコントロールを使用および管理して、Automation Anywhere のチェックボックスやラジオボタンのステータスを取得するにはどうすればよいですか？
2. MWC を使用して記録されたタスクは、バックグラウンドで動作しますか？
3. MWC を使用してキャプチャしようとする、一部のコントロールが強調表示されないのはなぜですか？

ウィンドウズコントロールを使用および管理して、Automation Anywhere のチェックボックスやラジオボタンのステータスを取得するにはどうすればよいですか？

Manage Windows Controls (ウィンドウズコントロールを管理) コマンドを使用すると、チェックボックスやラジオボタンなど、複数のウィンドウコントロールを管理できます。このコマンドで、ラジオボタンまたはチェックボックスがチェックされているかどうかを確認できます。Automation Anywhere では、Windows 標準のチェックボックスとラジオボタンのみサポートされています。

Task Editor でウィンドウズコントロールを管理をクリックし、適切なラジオボタンを選択します。チェックボックスまたはラジオボタンをキャプチャするウィンドウを選択します。キャプチャした値は、変数に割り当てすることもできます。

MWC を使用して記録されたタスクは、バックグラウンドで動作しますか？

はい。MWC を使用して記録されたタスクは、バックグラウンドで動作します。

MWC を使用してキャプチャしようとする、一部のコントロールが強調表示されないのはなぜですか？

MWC では、標準の Windows コントロールをキャプチャします。MWC では、クライアントのコントロールと Java はサポートされていません。このような場合、コントロールは強調表示されません。

#### アイコンおよびメニューの移動に関するよくある質問

1. [スタートメニュー] > [プログラム] からプログラムを開くタスクを記録しましたが、タスクを実行すると、プログラムを開くメニューが移動しました。結果的に、間違ったプログラムをクリックし、間違ったプログラムが開きます。タスクをもう一度記録する必要がありますか？
2. クイック起動やデスクトップからファイルやプログラムショートカットアイコンが移動した場合でも、このタスクは正しく実行されることがありますか？

[スタートメニュー] > [プログラム] からプログラムを開くタスクを記録しましたが、タスクを実行すると、プログラムを開くメニューが移動しました。結果的に、間違ったプログラムをクリックし、間違ったプログラムが開きます。タスクをもう一度記録する必要がありますか？

いいえ。Automation Anywhere に組み込まれている自動化技術 SMART には、当初のタスクの使用を可能にする強力な機能があります。[ツール] > [オプション] > [アイコン/メニューを移動] でオプションを選択できます。このオプションを選択してからタスクを実行すると、メニューが移動しても、記録中に開いていたプログラムが開きます。

クイック起動やデスクトップからファイルやプログラムショートカットアイコンが移動した場合でも、このタスクは正しく実行されることがありますか？

いくつかの例外は別として、クイック起動またはデスクトップからファイルやショートカットアイコンを開くとき、ほとんどの場合、アイコンが元の場所から移動していても正しく実行されます。この機能を有効にするには、[ツール] > [オプション] メニューで [アイコン/メニューを移動] を選択する必要があります。ご注意ください。

Report Designer に関するよくある質問

1. [Report Designer とは何ですか？](#)
2. [Report Designer で生成されたレポートを印刷できますか？](#)

Report Designer とは何ですか？

Report Designer では、カスタムレポートを作成できます。Automation Anywhere には、タスクの実行（成功または失敗したかどうか）、タスクのタイムライン（実行、作成、変更、削除）、ワークフローの実行、ワークフローのタイムライン、ROI、ビジュアルログのレポートがあります。

1 日、1 週間、1 か月ごと、または全期間のレポートを生成できます。カスタムの日付範囲を指定してレポートを生成することもできます。

Report Designer で生成されたレポートを印刷できますか？

はい。Report Designer で生成されたレポートは、Automation Anywhere から直接印刷できます。印刷するには、グラフの左上にある Print（印刷）ロゴをクリックします。



## 記録に関するよくある質問

1. Automation Anywhere ではどのようにタスクを記録しますか？
2. 記録と実行の間にアプリケーションのウィンドウサイズや場所が変更された場合、それは影響しますか？
3. 次のアプリケーションに移る前に 1 つのアプリケーションのすべての作業を完了する必要がありますか？あるいは、記録中、さまざまなアプリケーションを切り替えることができますか？
4. コンピューターがロックされている場合、Automation Anywhere は機能できますか？ コンピューターのロックを解除するタスクを記録できますか？
5. コンピューターがロックされているとき、stealth mode でタスクを実行できますか？
6. 実行中のタスクを停止できますか？
7. 実行中のタスクを一時停止できますか？
8. 他のことができるように、マウスとキーボードをコントロールしているとき、記録してあるアクティビティをバックグラウンドで実行できますか？
9. リモートアクセスソフトウェアを使用し、離れた場所にあるコンピューターにアクセスしています。リモートアクセスソフトウェアを使用してアクティビティを実行するタスクを記録できますか？
10. abc.xls で記録したタスクを xyz.xls で実行するには、どうすればよいですか？
11. タスクはパスワードで保護できますか？

## Automation Anywhere ではどのようにタスクを記録しますか？

SMART Task Recorder を使用すると、新しいタスクを簡単に作成できます。[RECORD] (記録) をクリックします。記録するアクティビティをコンピューターで実行して [STOP] (停止) をクリックし、タスクとして記録したアクティビティを [SAVE] (保存) します。該当するタスクを選択し、[Run] (実行) ボタンをクリックすると、記録したアクションを再生できます。詳しくは、ヘルプファイルを参照してください。

## 記録と実行の間にアプリケーションのウィンドウサイズや場所が変更された場合、それは影響しますか？

いいえ。Automation Anywhere の SMART 自動化テクノロジーでは、ウィンドウのサイズや場所の変更に合わせて、自動的に調整されます。

## 次のアプリケーションに移る前に 1 つのアプリケーションのすべての作業を完了する必要がありますか？あるいは、記録中、さまざまなアプリケーションを切り替えることができますか？

記録中、さまざまなアプリケーションを自由に切り替えて使用できます。

## コンピューターがロックされている場合、Automation Anywhere は機能できますか？ コンピューターのロックを解除するタスクを記録できますか？

はい。Automation Anywhere には安全な自動ログインテクノロジーがあります。自動ログインでは、コンピューターがロックされているときでも、スケジュールしたタスクを実行できます。タスクのスケジュールを設定するとき、自動ログイン機能を有効にできます。自動ログインが有効な場合、コンピューターがロックされていると、Automation Anywhere によってコンピューターのロックが解除され、タスク実行後に再びコンピューターがロックされます。

## コンピューターがロックされているとき、stealth mode でタスクを実行できますか？

はい。タスクを stealth mode で実行できるようにするには、[Properties] (プロパティ) → [Security] (セキュリティ) → [Run this task in stealth mode option] (このタスクを stealth mode オプションで実行) の順にチェックします。これでタスクの実行が表示されなくなります。コンピューターがロックされているときにタスクを実行できるようにするには、自動ログイン機能を有効にします。自動ログインでは、コンピューターがロックされているときでも、スケジュールしたタスクを実行できます。タスクのスケジュールを設定するとき、自動ログイン機能を有効にできます。

タスク実行中にマウスやキーボードをロックする場合、追加のセキュリティオプションも設定できます。これを設定するには、[Properties] (プロパティ) → [Security] (セキュリティ) → [Disable mouse and keyboard for this task] (このタスクでマウスとキーボードを無効にする) を選択するだけです。

## 実行中のタスクを停止できますか？

はい。ESC キーを 2~3 秒間長押しします。

## 実行中のタスクを一時停止できますか？

はい。キーボードの **Pause** キーを押します。これでタスクの実行が一時的に停止されます。スクリーンの右下に表示される **Resume** ボタンをクリックして、一時停止した箇所からタスクの実行を続行します。

## 他のことができるように、マウスとキーボードをコントロールしているとき、記録してあるアクティビティをバックグラウンドで実行できますか？

Automation Anywhere の際立った特徴の 1 つは、タスクをバックグラウンドで実行できることです。Web Recorder、Object Recorder をはじめとする高度なテクノロジーと何百種類もの強力なアクションで、タスクの多くをバックグラウンドで実行できます。標準レコーダーで記録したタスクなど、ごく一部のタスクではマウスやキーボードのコントロールが必要となるため、バックグラウンドでは実行できません。上記のほか、ごわずかな明らかな

例外として、スクリーンショットの撮影やスクリーン上の画像の比較のようにスクリーンを必要とするコマンドなどがあります。ただし、大半のアクションでは、バックグラウンドでタスクを実行できます。

リモートアクセスソフトウェアを使用し、離れた場所にあるコンピューターにアクセスしています。リモートアクセスソフトウェアを使用してアクティビティを実行するタスクを記録できますか？

はい。Automation Anywhere では、すべてのリモートアクセスソフトウェアをサポートしています。abc.xls で記録したタスクを xyz.xls で実行するには、どうすればよいですか？

同じタスクを別ファイルの同じプログラムで実行できます。デフォルトでは、タスクはそのタスク自体が記録された特定のファイルでのみ実行されます。ただし[Properties](プロパティ)>[General](一般)で[Enable this task to run with other similar files and windows](このタスクを他の類似のファイルとウィンドウで実行)オプションを有効にすることもできます。そのため、たとえばタスクを abc.xls に記録したとして、このタスクを def.xls、xyz.xls、あるいはその他のあらゆる\*.xls ファイルで実行できますタスクはパスワードで保護できますか？

はい、タスクをパスワードで保護できます。タスクを保存するとき、[Password Protection](パスワード保護)チェックボックスにチェックマークを入れ、パスワードを指定します。あるいは、Automation Anywhere のメインスクリーンの[Security](セキュリティ)タブに移動して、保存済みタスクをパスワードで保護できます。

## スクリプト作成に関するよくある質問

1. 日常業務の一部を実行するため、ずっと VBScript と JScript を使用してきました。自動化ソフトウェアでこれらを何らかの形で再利用できますか？
2. スクリプト内のエラーの有無を確認するには、どうすればよいですか？ 日常業務の一部を実行するため、ずっと VBScript と JScript を使用してきました。自動化ソフトウェアでこれらを何らかの形で再利用できますか？

はい。VBScript や JScript などのさまざまなスクリプトを Automation Anywhere タスク内で統合できるだけでなく、繰り返しや通知といった組み込まれた自動化サービスを VBScript や JScript で使用することもできます。Automation Anywhere については、「[自動化ソフトウェア](#)」を参照してください。

Automation Anywhere Editor には、Run Script(スクリプトを実行)コマンドがあります。このコマンドを使用して、Automation Anywhere から VBScript ファイルまたは JScript ファイルを実行できます。コマンドプロンプトを介して実行する場合、VBScript ファイルおよび JScript ファイルに引数を渡すこともできます。また、必要に応じて VBScript ファイルおよび JScript ファイルに値を返すこともできます。

スクリプト内のエラーの有無を確認するには、どうすればよいですか？

If コマンド内で If Script Successful(If スクリプトの成功)サブコマンドを使用できます。このコマンドは、スクリプトを実行し、そのスクリプトが正常に実行された場合にのみ If - End If ブロックを実行します。

タスクに関するよくある質問

1. 多数のタスクをバッチで実行できますか？
2. Run Task(タスクを実行)コマンドを使用したときに、タスクが正常に完了したかどうかをどのような方法で知ることができますか？多数のタスクをバッチで実行できますか？

はい。Run Task(タスクを実行)コマンドを使用して個々のタスクを実行する新しいタスクを作成できます。

Run Task(タスクを実行)コマンドを使用したときに、タスクが正常に完了したかどうかをどのような方法で知ることができますか？

If コマンド内で If Task Successful サブコマンドを使用します。このコマンドは、タスクを実行し、そのタスクが正常に実行された場合にのみ「If - End If」ブロックを実行します。

トリガーに関するよくある質問

1. ファイル、フォルダー、パフォーマンス、またはサービスが利用できるかできないかに応じてタスクを実行できますか？
2. 新しいメールを受信するたびにアラートを受け取る方法がありますか？

ファイル、フォルダー、パフォーマンス、またはサービスが利用できるかできないかに応じてタスクを実行できますか？

はい。トリガーを使用することによって、ファイル、フォルダー、パフォーマンス、またはサービスが利用できるかできないかに応じてタスクを実行できます。ウィンドウ(開閉)、ファイル(作成、削除、名前変更、修正)、パフォーマンス(CPU 使用率、ディスク空き容量、プロセス数)、プロセス、サービスに基づくトリガーがあります。

新しいメールを受信したときにタスクを実行する方法はありますか？

はい。Automation Anywhere には、新しいメールを受信したときにタスクを実行するトリガー機能があります。タスクで[Email Message Trigger] (メールメッセージトリガー)を設定する必要があります。

## 変数に関するよくある質問

1. 変数はタスクでどのように使用すればよいですか？
2. 1つのタスクに変数を作成した場合、別のタスクでその変数を使用できますか？
3. リスト変数にはさまざまなテキスト値を数多く含められます。リスト変数を使用するときには、どの値が実行されますか？
4. 変数に[Tab]キーのような特殊文字を格納することができますか？
5. 繰り返すごとに、変数に異なる値を使用する必要のあるタスクを実行しなくてはなりません。このオートメーションソフトウェアではどのようにしたらよいですか？
6. システム変数の「`$CurrentDirectory$`」、「`$FolderName$`」、「`$FileName$`」はそれぞれ何でしょうか？変数はタスクでどのように使用すればよいですか？

変数は「Insert Keystroke」、「Open Program/File」、「Files/Folders」などさまざまなコマンド内で使用できます。すべてのコマンドで、変数名は「\$」の記号に両端を囲まれて指定されます。例: `$Password$`

1つのタスクに変数を作成した場合、別のタスクでその変数を使用できますか？

1つのタスクで作成された変数は、そのタスクでのみローカルで使用でき、別のタスクでは使用できません。ただし、バージョンを 5.5 以降にアップグレードしている場合、それ以前のバージョンで作成されたすべての変数はグローバル変数としてあらゆるタスクで使用できます。

リスト変数にはさまざまなテキスト値を数多く含められます。リスト変数を使用するときには、どの値が実行されますか？

再生中にタスクがリスト変数を通過するたびに、リスト変数のシーケンスにある次のテキスト値が使用されます。リスト変数が最後のテキスト値に達すると、その後の参照は最初のテキスト値を返します。

変数に[Tab]キーのような特殊文字を格納することができますか？はい、変数には特殊文字をテキスト値として格納できます。

繰り返すごとに、変数に異なる値を使用する必要のあるタスクを実行しなくてはなりません。このオートメーションソフトウェアではどのようにしたらよいですか？

Automation Anywhere では、Loop `â€œ` End Loop (ループ `â€œ` ループ終了) コマンドを備えています。Loop `â€œ` End Loop (ループ `â€œ` ループ終了) ブロック内に繰り返しタスクを配置できます。各ループで常に変化するデータでは、その中のリスト変数を使用できます。

システム変数の「`$CurrentDirectory$`」、「`$FolderName$`」、「`$FileName$`」はそれぞれ何でしょうか？

こうしたシステム変数は、「Loop for Folders in a folder」(フォルダー内のフォルダーをループ)や「Loop for Files in a folder」(フォルダー内のファイルをループ)などのコマンドで使用されます。

タスクのコマンド「Loop for Folders in a <folder>」を考慮に入れてください。

ここでは、<folder>がループが実行する指定のフォルダーです。完全なパスは、システム変数「`$CurrentDirectory$`」によって実行時に利用可能になります。

<folder>でフォルダーに数字「n」がある場合、ループは「n」回実行されます。「`$FolderName$`」変数には毎回、指定したフォルダー内の次のフォルダー一名が付きま。

たとえばタスクが「Loop for Files in a <folder>」であるとします。

すると「`$FileName$`」では指定したフォルダー内の次のファイル名を示します。

ループ「`$CurrentDirectory$`」以外では、「`$FolderName$`」と「`$FileName$`」の用途はありません。

視覚化テクノロジーに関するよくある質問

1. Automation Anywhere の Visualize Technology (視覚化テクノロジー)とは何ですか？
2. Automation Anywhere の SnapPoint とは何ですか？
3. Automation Anywhere の Image Recognition (画像認識)とは何ですか？

Automation Anywhere の Visualize Technology (視覚化テクノロジー)とは何ですか？

Automation Anywhere には、自動化されたタスクを画像とストーリーボードで表示できる視覚化テクノロジーが搭載されています。視覚化テクノロジーは、Task Editor のさまざまな表示で使用され、SnapPoint や IF コマンドを使用した画像認識で画像をオンデマンドでキャプチャします。

Automation Anywhere の SnapPoint とは何ですか？

Automation Anywhere でタスクが記録されているときには、すべてのマウスクリックやキーストロークの画像が自動的にキャプチャされます。しかし、Task Editor でタスクが作成されたときは、オンデマンドで画像をキャプチャする必要があります。SnapPoint を使用すると、必要に応じて画像をキャプチャできます。SnapPoint を有効にして、使用するコマンドに合わせて設定します。

Automation Anywhere の Image Recognition (画像認識)とは何ですか？

画像認識は、Automation Anywhere で利用可能な視覚化テクノロジーのもう 1 つの機能です。画像認識により、画像を認識し、比較することができます。これにより、自動化されたタスクは「見る」ことができるようになります。



Web Recorder に関するよくある質問

1. [Web Recorder とは何ですか？](#)
2. [Web データ抽出とは何ですか？ Web Recorder でデータをどのように抽出するのですか？](#)
3. [Web Recorder で壊れたリンクを確認するにはどうすればよいですか？](#)
4. [Web コントロールの管理とは何ですか？](#)
5. [Automation Anywhere で Web ベースのプロセスを自動化することはできますか？ もし可能な場合、どのようなタイプの Web サイトを自動化することができますか？](#)

Web Recorder とは何ですか？

Web Recorder では、Web ベースのタスクを確実にかつ正確に記録および自動化できます。Automation Anywhere Web Recorder は、あらゆる Web コントロールに対応しています。ブラウザを開く、閉じる、クリック操作をする、フォームを入力する、Web からデータをインポートする、ファイルをダウンロードする、データを抽出する、ソースを抽出する、壊れたリンクを確認するなどの操作をすることができます。

Web データ抽出とは何ですか？ Web Recorder でデータをどのように抽出するのですか？

スクリプトを使用してインターネットから構造化データまたは非構造化データを自動的に抽出する方法には、[Web データ抽出](#)や[スクリーンスクレイピング](#)があります。データ抽出やスクリーンスクレイピングソフトウェアとしての Automation Anywhere は、どのような種類の Web テクノロジーやページ形式にも柔軟に対応でき非侵入型でもあります。

Automation Anywhere Web Recorder をデータ抽出に使用する方法については、次の 2 つのデモを参照してください。

デモ 1: [インテリジェントパターンマッチング技術を用いた Web データ抽出デモ](#)

2: [Web データ抽出デモ 2](#) 詳しくは、[Web データ抽出とスクリーンスクレイピング](#)を参照してください。

Web Recorder で壊れたリンクを確認するにはどうすればよいですか？

Web Recorder でリンクが壊れていないかを確認するには、Task Editor へと進み、[Web Recorder] (Web レコーダー) -> [Find Broken Links] (壊れたリンクを検索)コマンドの順に選択します。URL を入力し、Web サイト全体をチェックするか、指定した Web ページのみをチェックするかを指定します。結果を保存するファイルのパスを入力し、[Save] (保存) をクリックします。Automation Anywhere は、指定された通りに壊れたリンクをチェックします。このタスクは、あらかじめ定義した時間に行うようにスケジュールできます。

Web コントロールの管理とは何ですか？

画像リンク、ラジオボタン、テキストボックス、チェックボックス、その他の Web コントロールをキャプチャするには、[Automation Anywhere Web Recorder] -> [Manage Web Controls] (Web コントロールを管理) で Web コントロールをキャプチャして変数を割り当てることができます。

Automation Anywhere で Web ベースのプロセスを自動化することはできますか？ もし可能な場合、どのようなタイプの Web サイトを自動化することができますか？

はい。Automation Anywhere は、[Web オートメーション](#)機能で Web ベースのプロセスを自動化できます。JavaScript, AJAX, Flash, iFrame を使用する複雑な Web サイトであっても、自動化することができます。

詳しくは [Web 自動化を参照してください](#)

Workflow Designer に関するよくある質問

1. [Workflow Designer とは何ですか？](#)
2. [Workflow Designer を使用するにはどうすればよいですか？](#)
3. [ワークフローを実行するにはどうすればよいですか？](#)

Workflow Designer とは何ですか？

Workflow Designer を使用すると、IT やビジネスプロセスの直感的でわかりやすいグラフィック表示を作成することができます。Automation Anywhere を使用すると、あらゆるユーザー (ビジネスや IT) がビジネスワークフロー全体を簡単に作成できます。

Workflow Designer を使用するにはどうすればよいですか？

Workflow Designer を開きます (ショートカットキー: Ctrl+K)。ツールキットからオブジェクトをドラッグアンドドロップして、ビジネスプロセス全体を設計します。

Workflow Designer では、ワークフローを設計するために次の 4 つのオブジェクトが用意されています

- Start (開始)
- Run Task (タスクを実行)
- Condition (IF) (条件 (IF))
- End (終了)

ワークフローを実行するにはどうすればよいですか？

ワークフローを実行するのは非常に簡単です。Workflow Designer の [Run] (実行) ボタンをクリックするだけです。もう 1 つの方法としては、[Task List] (タスクリスト) にある「MyWorkflow」ファイル内のワークフローをクリックして、[Run] (実行) をクリックします。

Workflow Designer を介してワークフローを実行すると、ワークフローの実行されている部分が強調表示されます。ワークフローの実行が完了すると、使用された完全なパスが強調表示されます。

## AAE - バージョン管理システムとの統合 - よくある質問とベストプラクティス概要

Automation Anywhere Enterprise (AAE) は Subversion (バージョン管理システム - VCS) と直接統合でき、これによって自動化タスクのライフサイクルを管理できます。

Subversion が AAE Control Room で設定されている場合、チェックイン、チェックアウト、チェックアウトの取り消し、バージョン履歴など、Subversion 機能のほとんどを Bot Consumer が利用できます。

このマニュアルでは、いくつかのよくあるご質問への回答と、VCS 統合に関するガイダンス(必須事項と禁止事項)を記載します。

### よくある質問

Q: Subversion の全バージョンが AAE でサポートされていますか？

A: 現在 AAE がサポートしているのは、Subversion 1.8.13、1.8.14、1.7.2 です。バージョン 1.8.13 と 1.8.14 を使用することを推奨します。

Q: AAE は Subversion の最新バージョンに対応していますか？

A: いいえ。Subversion の最新バージョンを公式には認定していません。

Q: Visual SVN Server や Tortoise などの Subversion のフロントエンドは使用できますか？ AAE 統合に影響しますか？

A: Subversion のすべてのフロントエンドを使用できます。AAE は Subversion と直接通信を行い、フロントエンドアプリケーションとは通信しません。  
ただし、フロントエンドアプリケーションから自動化 Bot の操作はしないよう、強く推奨します。

Q: TFS や GitHub などの Subversion 以外のバージョン管理システムには対応していますか？

A: いいえ、現在 AAE と統合できるのは Subversion のみです。

Q: UNIX 上で Subversion をホストしています。AAE で使用できますか？

A: はい。ただし、試験と認定がなされているのは Windows 上でホストされている Subversion です。

Q: Control Room 設定からいつでも VCS の有効化と無効化ができますが、このオプションを頻繁に行うとなんらかの問題が生じますか？

A: VCS が有効になっている場合は、絶対に必要な場合以外、無効化しないことを推奨します。VCS を無効化すると、バージョン履歴が失われ、Bot の基本バージョンが再作成されることとなります。

Q: Subversion Repository を変更するとどうなりますか？たとえば、既存のリポジトリが破損し新たなものを作成する必要がある場合や、別のシステムに Subversion を移動する必要がある場合です。

A: 前の質問と同様、Subversion Repository を変更すると、Bot のバージョン履歴が失われ、基本バージョンが再作成されることとなります。

Q: Subversion Repository を変更しても、バージョン履歴は残すことができますか？

A: 外部ツール(Visual SVN Server や TortoiseSVN など)を使用する場合のみできます。AAE ではできません。

Q: AAE Client で Bot の名前を変更するとどうなりますか？

A: 新たなファイルが(新たな名前とともに)Subversion に作成されます。また、それが基本バージョンとなります。

Q: ファイルサイズの大きな Bot があります。Subversion Repository のサイズについて AAE では何らかの表示(使用済み容量や空き容量など)がありますか？

A: いいえ、十分な容量が Subversion Repository に割り当てられていることをご自身で確認する必要があります。

Q: ファイルのアップロードやダウンロード中にネットワークの中断があった場合はどうなりますか？

A: そのような場合は、Control Room Repository にファイルが存在していることを確認してください。最悪の場合でも、ファイルのコピーが Bot Creator マシン(アップロードの場合)または Control Room Repository (ダウンロードの場合)にあるはずですが。

Q: ファイルのアップロードやダウンロードにタイムアウトはありますか？それはどのように設定できますか？

A: はい。次の手順を実行します。

1. AAE Client Installation フォルダー(C:\Program Files (x86)\Automation Anywhere Enterprise 10.3\Client)に移動します。
2. AAClientService.exe.config のファイルを検索し開きます。
3. RequestTimeOutInSeconds のセクションを検索します。
4. その値を大きくします(デフォルト値は 15 ですが、60 まで増やすことができます)。
5. AAClientService を再起動し、ファイルをアップロードまたはダウンロードできるか確認します。

Q: Control Room がアップグレードされた場合はどうなりますか？ VCS 統合は機能しますか？

A: はい(Control Room 10.2 から 10.3 にアップグレードする場合、VCS に再度接続する必要があります。10.3 より後のバージョンでは VCS の状態は維持されます)。

Q: Subversion Repository を複数のアプリケーションに接続した場合はどうなりますか？

A: 問題ないはずですが。ただし、Visual SVN Server や TortoiseSVN などの外部ツールからは自動化 Bot を変更しないでください。

Q: Subversion Repository を複数の Control Room に接続できますか？

A: いいえ。

Q. Development、Test、Production の各 Control Room があります。各 Control Room に SVN を設定できますか？

A. Subversion は Development Control Room にのみ設定するよう推奨します。Test および Production Control Room はバージョン制御システムでは設定しないようにしてください。

Q: AAE Control Room から Subversion に接続できません。どうすればよいですか？

A: デバッグログを確認してください。このログは[パブリックのドキュメント]にある WebCR.log ファイル (C:\Users\Public\Documents\Automation Anywhere Server Files\Logs) に生成されます。

Q: AAE Control Room Repository が変更されています。Subversion に影響しますか？

A: いいえ。

Q: High Availability - Disaster Recovery モード(複数 IIS)で AAE Control Room をホストしています。Subversion に影響しますか？

A: いいえ。

Q: Subversion がファイルのバージョンを作成する方法を制御しようと思います。そのようなことはできますか？ A

: いいえ。Subversion にはファイルのバージョン作成に独自の方法があります。その方法は変更できません。

Q: Subversion Repository が破損した場合はどうなりますか？

A: 定期的に Subversion Repository のバックアップをとることを推奨します。バックアップについては、Subversion のヘルプを参照してください。

Q: 既存の(空でない) Subversion Repository に接続できますか？

A: いいえ。リポジトリは空であることが必要です。

#### 必須事項


1. 最高の性能を得るために、Subversion Repository と Control Room repository は同じマシン上にあることが必要です。
2. VCS を無効状態から有効化する場合、必ず[connect] (接続) をクリックして基本バージョンをアップロードします。
3. 基本バージョンのアップロード中は[Control Room] ページから離れないようにします。離れると、基本バージョンの一部だけがアップロードされることとなります。Control Room アプリケーションは閉じないでください。ファイルが基本バージョンになっている(アップロードされている)ことを確認するには、ブラウザで Subversion を開き、ファイルが実際にリポジトリに追加されていることを確認します。
4. 基本バージョンをリセットする場合(新しい Subversion Repository に接続する場合)、Control Room にあるファイルが最新で最大になっていることを確認します。

#### 禁止事項

1. Control Room と Subversion Repository でバックエンド操作(ファイルの名前の変更や file info.dat のアップデートなど)をしないでください。
2. VCS が有効化されているかどうかを問わず、いかなる場合も、AAE Client は複数の Control Room には接続できません。
3. ある AAE Client から別の Client に手動でタスクをコピーしないでください。Control Room にタスクをアップロードしてから別の AAE Client にダウンロードすることを推奨します。
4. VCS の自動化タスクを管理するためにフロントエンド UI(TortoiseSVN, Visual SVN)は使用しないでください。
5. 基本バージョンをリセットする場合(新しい Subversion Repository に接続する場合)、Control Room が最新で最大になっていることを確認します。

Java の自動化に関するよくある質問ここでは Java の自動化に関するよくあるご質問にお答えします

。

 備考: AAE 10 SP2 以降では、AAE が動的な Java アプリケーション(パッケージ化された JRE から実行されるスタンドアロン Java アプリケーション)の自動化をサポートしているため、AAE Java プラグインをインストールしなくてもデスクトップ(スタンドアロン)の Java アプリケーション(JRE 6 以降のバージョンで実行)を自動化できます。Web ベースの Java アプリケーションを自動化するには、引き続き AAE Java プラグインが必要です。

1. Java アプリケーションを AAE で自動化するにはどうしたらよいですか？

Java アプリケーションを自動化するには、[Tools] (ツール) > [Options] (オプション) > [Plugin Settings] (プラグイン設定) > [Java of AAE Client] (AAE Client の Java) から AAE Java プラグインをインストールする必要があります。

2. Java プラグインをインストールするのに管理者アクセス権が必要なのはなぜですか？

Java プラグインのインストールでは、JRE アプリケーションパスにいくつかのファイルをコピーし(ただしファイルがない場合のみ)、(コントロールパネルの) [コンピューターの簡単操作センター] で Java Access Bridge を有効にします。上記のどちらのアクションにも管理者権限が必要で、そのため、Java プラグインをインストールするには管理者アクセス権が必要です。

3. (異なるバージョンの JRE で実行されている)複数の Java アプリケーションを同時に自動化したいのですが、可能でしょうか？

Java プラグインを([Tools](ツール)>[Options ](オプション)>[Plugin Settings](プラグイン設定)>[Java of AAE Client](AAE Client の Java)からインストールしたのち、Java 設定パネルに移動します([Tools](ツール)>[Options](オプション)>[Java Settings of AAE Client](AAE Client の Java 設定))。システムにインストールされているすべてのバージョンのプラグインがインストールされます。これによって、これらの異なるバージョンの JRE で実行されている複数の Java アプリケーションを AAE が自動化できるようになります。

4. さらに追加して JRE をインストールする場合、プラグインを再インストールする必要がありますか？

JRE のバージョンが 1.8 以降ならば必要ありません。

それ以外では必要です。

5. Java で制御された Web サイトを自動化する場合、AAE Java プラグインをインストールする必要がありますか？はい。Java 制御では AAE Client マシンの JRE を利用するため、Web ページの Java 制御を自動化するには Java プラグインのインストールが必須です。

6. Java プラグインの機能はどのようなものですか？

Java プラグインは JRE インストールパスにファイルをコピーします。ファイルのバージョンはオペレーティングシステムが 32 ビットか 64 ビットかで異なります。

次のファイルは、存在しない場合に限り、「JRE installation folder\bin」パスにコピーされます。

- JavaAccessBridge.dll
- JAWTAccessBridge.dll
  - WindowAccessBridge.d
- ||

次のファイルは、存在しない場合に限り、「JRE installation folder\lib\ext」パスにコピーされます。

- Access-bridge.jar
  - Jaccess.jar
- jaccess-1\_2.jar
  - jaccess-1\_3.jar

次のファイルは JRE のバージョンにかかわらず、「JRE installation path\lib」パスにコピーされます。

- Accessibility.properties

上のほか、Java プラグインはコントロールパネルの[コンピューターの簡単操作センター]で Java Access Bridge の有効化も行います。

7. 上記のファイル(Access-bridge.jar, Jaccess.jar など)はすべて Oracle のファイルですか？はい。

8. 上記のファイルは JRE のバージョンごとにコピーされるのですか？

はい、ただし、JRE にそれらのファイルが存在しない場合に限りです。Java プラグインをインストールした場合、accessibility.properties ファイルはすべての JRE バージョンで変更されます。

9. Oracle が既存の JRE をアップデートした場合はどうなりますか？ Java プラグインに影響がありますか？はい。JRE のバージョンが 1.8 より前の場合は、Java プラグインは JRE アップデートの一環でアンインストールされる場合があります。そのような場合、Java プラグインを再インストールすることを推奨します。

JRE バージョンが 1.8 以降の場合は、JRE がアップデートされても Java プラグインを再インストールする必要はありません。

10. なぜ、Java プラグインをインストールするのに 2 つのオプションがあるのですか？

Java プラグインをインストールするための推奨オプションは、[Tools](ツール)>[Options](オプション)>[Plugin settings of AAE Client](AAE Client のプラグイン設定)です。

ただし、JRE の新しいバージョンがシステムにインストールされている場合は、[Tools](ツール)>[Options](オプション)>[Java Settings of AAE Client](AAE Client の Java 設定)で AAE プラグインを追加することもできます。

さらに、カスタム JRE がある場合は、[Tools](ツール)>[Options](オプション)>[Java Settings](Java 設定)で Java プラグインを追加できます。

11. コマンドラインでプラグインをインストールできますか？はい。「[プラグイン設定を使用する](#)」の「Java プラグイン」のセクションを参照してください。

12. コマンドラインインストールのオプションにはどのようなものがありますか？

「[プラグイン設定を使用する](#)」の「Java プラグイン」のセクションを参照してください。

13. Java プラグインをサイレントモードでインストールできますか？

はい。「[プラグイン設定を使用する](#)」の「Java プラグイン」のセクションを参照してください。

14. [Tools](ツール)>[Options](オプション)>[Java Settings of AAE Client](AAE Client の Java 設定)のみを使用し、[Plugin Settings](プラグイン設定)>[Tools](ツール)>[Options](オプション)>[Plugin Settings](プラグイン設定)>[Java](Java)で Java プラグインをインストールしない場合はどうなりますか？

正常に機能しません。最初に使用する際、[Tools](ツール)>[Options](オプション)>[Plugin Settings](プラグイン設定)>[Java](Java)で

Java プラグインをインストールする必要があります。その後、[Tools] (ツール) > [Options] (オプション) > [Java Settings] (Java 設定) を使用してカスタム JRE で Java プラグインをインストールできます。

15. 自動化するには、管理者モードで Java アプリケーションを実行する必要がありますか？

AAE Client を管理者モードで実行する場合、または [Tools] (ツール) > [Options] (オプション) > [Runtime settings] (ランタイム設定) で [Run Task as an Administrator] (管理者としてタスクを実行) が有効の場合は、Java アプリケーションを管理者モードで実行する必要があります。AAE Client、AAE プレーヤー、Java アプリケーションの状態はすべて同じであることが必要です。つまり、すべてを管理者モードで実行するか、すべてを非管理者モードで実行するかのいずれかです。

16. Java プラグインを手動でインストールするにはどうすればよいですか？次のリンクに従って Java Access Bridge をインストールします。

<http://docs.oracle.com/javase/accessbridge/2.0.2/setup.htm#installing-jab-64-bit>



## その他のよくある質問

1. [スタートメニュー] > [プログラム] からプログラムを開くタスクを記録しましたが、タスクを実行すると、プログラムを開くメニューが移動しました。結果的に、間違ったプログラムをクリックし、間違ったプログラムが開きます。タスクをもう一度記録する必要がありますか？
2. クイック起動やデスクトップからファイルやプログラムショートカットアイコンが移動した場合でも、このタスクは正しく実行されることがありますか？
3. エラーが発生したとき、スナップショットまたはログデータを取得できますか？
4. スケジュールしたタスクは実行されませんか？
5. 大きなタスクです。タスクに追加したコマンドの一部のみをテストするには、どうすればよいですか？
6. コマンドをコピーし、さまざまな場面で使用できれば便利です。毎回、コマンドを作成する必要がありますか？
7. 複雑なキーシーケンスを含むキーストロークを作成しました。このキーストロークを多くのタスクで繰り返し使用します。新しいタスクを作成するたびに、このキーストロークをコピーする必要がありますか？
8. 繰り返し可能なタスクを記録しましたが、1つのファイルのみ、毎回置換する必要があります。タスクの実行中にこのテキストを入力する必要があります。自動化ソフトウェアでは、それをどのような方法で行いますか？
9. 複数のコマンドを同時に編集できますか？すべてのコマンドでウィンドウタイトルを置換することはできますか？
10. 優先度の高いタスクがすでに実行されているとき、トリガーまたはスケジュールが設定されているタスクはどうなりますか？
11. Automation Anywhere をマクロレコーダーとして使用できますか？
12. Automation Anywhere を使用し、Excel コマンドと他のアプリケーションを統合できますか？
13. Automation Anywhere では、どのような方法でデータベース自動化が実行されますか？

[スタートメニュー] > [プログラム] からプログラムを開くタスクを記録しましたが、タスクを実行すると、プログラムを開くメニューが移動しました。結果的に、間違ったプログラムをクリックし、間違ったプログラムが開きます。タスクをもう一度記録する必要がありますか？

いいえ。Automation Anywhere に組み込まれている自動化技術 SMART には、当初のタスクの使用を可能にする強力な機能があります。[ツール] > [オプション] > [アイコン/メニューを移動] でオプションを選択できます。このオプションを選択してからタスクを実行すると、メニューが移動しても、記録中に開いていたプログラムが開きます。

クイック起動やデスクトップからファイルやプログラムショートカットアイコンが移動した場合でも、このタスクは正しく実行されることがありますか？

いくつかの例外は別として、クイック起動またはデスクトップからファイルやショートカットアイコンを開くとき、ほとんどの場合、アイコンが元の場所から移動していても正しく実行されます。この機能を有効にするには、[ツール] > [オプション] メニューで [アイコン/メニューを移動] を選択する必要があります。ご注意ください。

エラーが発生したとき、スナップショットまたはログデータを取得できますか？

はい、Automation Anywhere には高度なエラー処理能力があります。[タスクを続行] または [タスクを停止] のようなアクションを選択できます。[スナップショットを作成]、[タスクを実行]、[ログデータをファイルに記録]、[メールを送信]、[変数割り当て] などのエラー処理オプションを指定できます。

スケジュールしたタスクは実行されませんか？スケジュールしたタスクが実行されない場合、この簡単なチェックリストに沿って問題を解決します。

1. 入力したユーザー名とパスワードを確認します。セキュリティ上の理由から、Windows XP ではスケジュールしたタスクを実行する際に、Windows XP のユーザー名とパスワードが必要となります。パスワードを所有していない場合の対処方法について詳しくは、「ユーザー名とパスワードを設定する」を参照してください。他の Windows オペレーティングシステムでは、アカウントにログオンするときパスワードが求められる場合は、タスクスケジュール中にパスワード入力が必要となります。アカウントへのログオンにパスワードが求められない場合、パスワード入力は不要です。
2. 複数のアカウントがある場合は、正しいユーザー名とパスワードを指定していることを確認します。同一のコンピューターで、ドメインアカウント 1 個とローカルアカウント 1 個というように複数のアカウントを持っている場合、入力したユーザー名がコンピューターにログインするときに使用したログインと一致していることを確認してください。タスクをスケジュールしたユーザーアカウントと現在ログインしているユーザーアカウントが異なると、タスクが動作しません。Automation Anywhere では、ユーザーがログインしたユーザー名が自動的に入力されます。
3. [コントロールパネル] -> [スケジュールされたタスク] ウィンドウで [タスクの状態] を確認します。[コントロールパネル] -> [スケジュールされたタスク] ウィンドウに移動してください。自分の設定したタスクに対応するタスク (自分の設定した名前前で始まるタスク) を選択し、右クリックして [実行する] を選択します。実行されるかどうかを確認します。実行されない場合は、[タスクの状態] 列の表示内容を確認してください。
4. 次のとおり、電卓アプリケーションをスケジュールします。設定されたタスクが依然として実行されない場合は、[コントロールパネル] -> [スケジュールされたタスク] に移動します。[スケジュールされたタスクの追加] をクリックします。以下のとおり、アプリケーションリストで [電卓] を選択してください。電卓が動作していない場合は、コンピューターにスケジューラーサービスが正常にインストールされていません。

大きなタスクです。タスク内の一部のコマンドのみをテストするには、どうすればよいですか？



実行しないコマンドを選択します。右クリックし、[無効]を選択します。タスクを保存して実行します。このタスクの実行中、無効にしたコマンドは実行されません。コマンドを有効に戻すには、右クリックして[有効]を選択します。

コマンドをコピーし、さまざまな場面で使用できれば便利です。毎回、コマンドを作成する必要がありますか？

いいえ。コマンドを右クリックして[複製]を選択すると、[複製]機能を使用できます。このコマンドで現在選択しているコマンドが複製されます。ここで、マウスを使用して新しく作成したコマンドをドラッグします。

複雑なキーシーケンスを含むキーストロークを作成しました。このキーストロークを多くのタスクで繰り返し使用します。新しいタスクを作成するたびに、このキーストロークをコピーする必要がありますか？

いいえ。該当するキーストロークを右クリックし、[変数に変換]をクリックします。このキーストロークを変数として保存できます。

繰り返し可能なタスクを記録しましたが、1つのファイルのみ、毎回置換する必要があります。実行中にこのテキストを入力する必要があります。自動化ソフトウェアでは、それをどのような方法で行いますか？

1. エディターでタスクを開きます。
2. 毎回入力する必要のあるキーストロークを右クリックします。
3. ポップアップメニューで[プロンプトに変換]をクリックします。
4. 実行中、表示するメッセージを入力します。
5. タスクを保存します。
6. 入力するテキストの入力を促すダイアログボックスが実行中に表示されます。
7. [OK]をクリックすると、入力したテキストが入力されます。

複数のコマンドを同時に編集できますか？すべてのコマンドでウィンドウタイトルを置換することはできますか？

はい。[一括編集]はキーストローク、遅延などのコマンドに対応しています。キーストロークまたは遅延のコマンドを複数選択し、右クリックします。[一括編集]オプションを選択し、選択したコマンドの新しい詳細を指定します。

ウィンドウタイトルを置換するには、ウィンドウを含むコマンドをどれか選択し、右クリックして[ウィンドウタイトルを変更]オプションを選択します。特定のコマンドのウィンドウタイトルを置換したり、タスクに含まれるコマンドすべてのウィンドウを変更したりすることができます。

優先度の高いタスクがすでに実行されているとき、トリガーまたはスケジュールが設定されているタスクはどうなりますか？

上のケースでは、現在実行中の優先度の高いタスクが継続され、その他すべてのタスクはキューに送られます。

Automation Anywhere は、高度なタスクキュー管理テクノロジーを備えています。このテクノロジーにより、実行中のタスクにどれほど他のタスクが割り込んでも、確実にすべてのタスクが優先度に沿って遂行されます。

実行順序は優先度(高、中、低)によって決まります。キューに同じ優先度のタスクが2つある場合はタスクのカテゴリ(トリガー済み、スケジュール設定済み、手動)に従ってどちらのタスクを先にするかが決まります。したがって、同じ優先度のタスクが2つある場合は、トリガー済みのタスクが先行し、次にスケジュール設定済みのタスク、そして手動のタスクとなります。

Automation Anywhere をマクロレコーダーとして使用できますか？

Automation Anywhere は、マクロを簡単に作成、編集、実行できるインテリジェントな**キーボードマクロレコーダー**や**マウスマクロレコーダー**として使用できます。

- キーストロークを自動化し、数千回分のクリックを保存して、繰り返しタスクを自動化します。
- キーボードマクロやマウスマクロを記録する、またはポイントアンドクリック方式のウィザードを使用すると、数分で自動化タスクを作成できます。
- 詳しくはこちらを参照してください。 <http://www.automationanywhere.com/landing/macro-recorder.htm>

Automation Anywhere を使用し、Excel コマンドと他のアプリケーションを統合できますか？

Automation Anywhere は、高度な **Excel 統合** および **Excel 自動化** 機能を備えています。Automation Anywhere は、Salesforce、SAP、Access、SQL など、任意の Web アプリケーションまたは Windows アプリケーションと Excel との**データ転送**を自動化できます。

**Excel オートメーション**について詳しくは、こちらを参照してください。

Automation Anywhere では、どのような方法でデータベース自動化が実行されますか？

Automation Anywhere は、Oracle、MS SQL、Sybase などの SQL データベースと連携し、データベースを転送、維持、更新します。Automation Anywhere の**データベース自動化**ソリューションでは、多様なデータベース、Web、および社内アプリケーションからデータを取得して照合し、レポートを作成できます。

**データベース自動化**について詳しくは、こちらを参照してください。

## 一般的なエラーメッセージ

このセクションでは、Automation Anywhere で発生する一般的なエラーメッセージについて説明します。

エラー429: ActiveX コンポーネントはオブジェクトを作成できません

- 説明: このエラーは TA/AA のユーザーインターフェイスの読み込みにおける問題が原因で発生します
- ソリューション: 「実行時エラー429」は「GDIPlusWrapper.dll」が破損すると表示されます。次に指定するコマンドを「Start - Run - cmd」に入力できます。

```
Windows 7 32 ビットの場合 - regsvr32 C:\WINDOWS\system32\GDIPlusWrapper.dll
```

```
Windows 7 64 ビットの場合 - regsvr32 C:\WINDOWS\sysWOW64\GDIPlusWrapper.dll
```

---

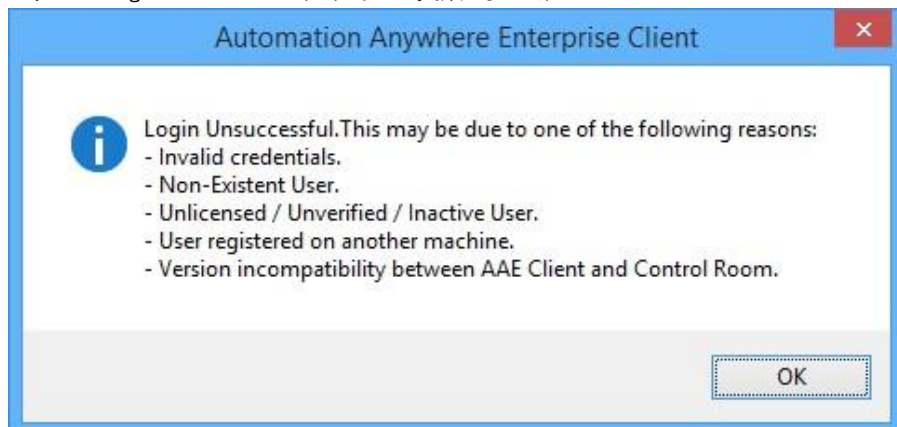
## 関連トピック

- [デバッグオプションを有効にする](#)

## Client のログインエラー

ユーザーとして Client にログインしようとする場合、入力内容に応じて次のエラーが表示されることがあります。

### エラー1: Login Unsuccessful(ログインに失敗しました)



上のエラーは、次の場合に表示されます。

- 入力したユーザー名やパスワードが正しくなかった場合
- ログインしようとしているユーザーが、Control Room で作成されていない場合
- ログインしようとしているユーザーが、Control Room でライセンス(Development/Runtime)を割り当てられていない場合 • Control Room から送信されたメールを使用してユーザーアカウントの確認を済ませていない場合 • ログインしようとしているユーザーが、Control Room で無効になっている場合
- ログインしようとしているユーザーが、別のコンピューターから Control Room にすでに登録されていた場合
- ログインしようとしているユーザーが、別の Windows 資格情報を使用して Control Room に登録されている場合

## 改善措置

- 有効なユーザー名とパスワードを入力する
- ログインしようとしているユーザーが Control Room に実際に存在していることを Control Room 管理者に確認する
- ログインしようとしているユーザーが Control Room で開発またはランタイムライセンスを割り当てられていることを Control Room 管理者に確認する
- Control Room から送られたメールを使用して自動化アカウントを確認する(Control Room が送信メールサーバーに設定されている場合)。この確認メールの件名は「Your Automation Account is Created(自動化アカウントは作成されています)」です • ログインしようとしているユーザーが Control Room で[Active](アクティブ)ステータスにあることを Control Room 管理者に確認する
- ログインしようとしているユーザーが、別のコンピューターから Control Room にすでに登録されているかどうかを Control Room 管理者に確認する。該当する場合、ログインは不可
- Windows 資格情報をチェックする。これを以下の例を用いて分かりやすく説明する

### ログインが有効なシナリオ:

- トムが自分のノート型パソコン(たとえば TomLaptop)に Windows 資格情報(たとえば Tom.Watson)を使用してログインします
- トムが AAE Client を開始し、自分の AAE ユーザー名(たとえば Tom\_AAE)と有効なパスワードを AAE Client のログインウィンドウに入力し、Control Room に登録します
- これで、Tom\_AAE ユーザーが Tom.WatsonWindows アカウントの TomLaptop から Control Room に登録されます

### 無効なシナリオ: コンピューターの変更>ログイン失敗

- トムのノート型パソコンがクラッシュしたため、一時的に新しいノート型パソコン(TempLaptop)を入手します
- トムは自分の Windows 資格情報(Tom.Watson)で TempLaptop にログインし、TempLaptop に AAE Client をインストールして AAE Client から Tom\_AAE ユーザーとしてログインしようとしています • ユーザーはすでに TomLaptop で登録されているため、トムは Tom\_AAE としてはログインできません • Control Room 管理者は Tom\_AAE ユーザーを

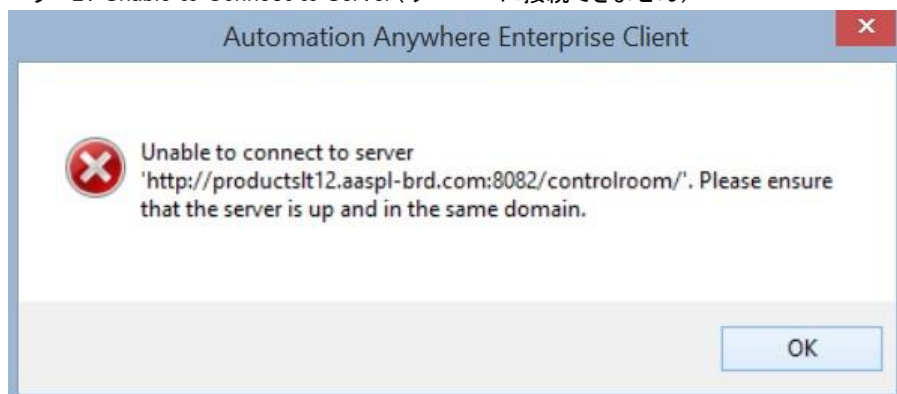
Control Room から削除します • Control Room 管理者は同じ名前 (Tom\_AAE) の新規ユーザーを作成します

- これによってトムは Tom\_AAE として TempLaptop からログインできるようになります
- Tom\_AAE ユーザーが Tom.WatsonWindows 資格情報下の TempLaptop から Control Room に登録されます

無効なシナリオ: WindowsCredentialsChange (Windows 資格情報の変更) > LoginFailure (ログインの失敗)

- ジョンが自分の Windows 資格情報 (John.Smith) を使用して TempLaptop にログインする
- ジョンが AAE Client を開始し、トムの AAE ユーザー名 (Tom\_AAE) と有効なパスワードを AAE Client のログインウィンドウに入力する
- 指定したユーザー (Tom\_AAE) が Tom.Watson という Windows 資格情報ですでに登録されているため、ジョンは AAE Client にログインできない

エラー2: Unable to Connect to Server (サーバーに接続できません)



上のエラーは、次の場合に表示されます。

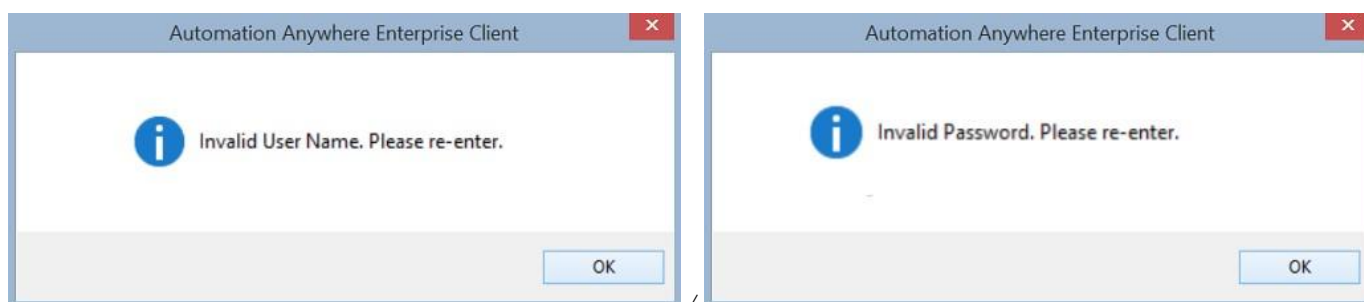
- ログイン時に指定された Control Room の URL が正しくない • AAE Client マシンを Control Room の URL に接続できない

---

#### 改善措置

- ログイン時に指定した Control Room の URL が正しいことを確認します。
- AAE Client マシンで Web ブラウザーを開き、Control Room の URL に移動します。Control Room にログインしていない場合は、ログイン画面が表示されます。
- Control Room の URL で指定されたポートが通信用に開いていることを確認します。

エラー3: Invalid User Name / Password (無効なユーザー名/パスワード)



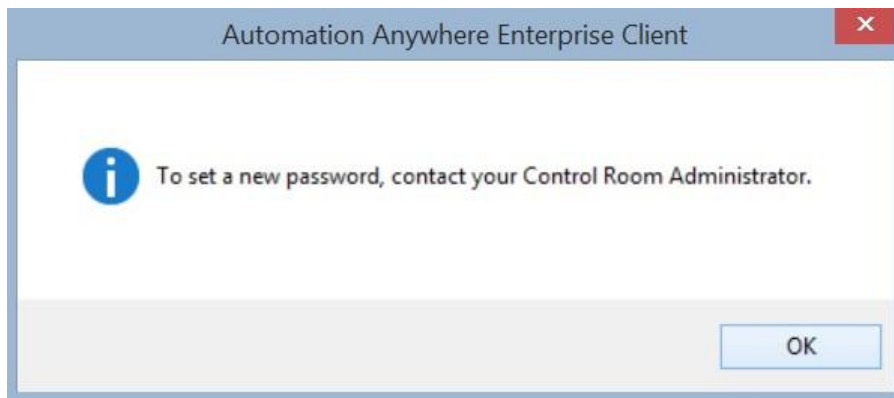
ユーザー名またはパスワードフィールドが入力されていない場合、このエラーが表示されます。

---

#### 改善措置

- 有効なユーザー名とパスワードを入力します。

エラー4: Forgot Password (パスワードを忘れた場合)



AAE Client でのログイン時に[Forgot Password] (パスワードを忘れた場合)をクリックすると、このメッセージが表示されます。

### 改善措置

SMTP(送信メールサーバー)を指定せずに設定された Control Room の場合: Control Room 管理者に連絡し、ユーザーのパスワードリセットを依頼してください。

SMTP を指定して設定された Control Room の場合:


- Web ブラウザーで Control Room を開きます。
- ログインウィンドウが表示されます。
- ログインウィンドウに AAE ユーザー名を入力し、Web ページで[Forgot Password] (パスワードを忘れた場合)をクリックします。
- 登録したメールアドレスに確認メールが送信され、このメールから AAE パスワードをリセットできます。

エラー5: Invalid Certificate (無効な証明書)



Control Room 証明書が以下に該当する場合、Client から Control Room インスタンスにログオンすると無効な証明書エラーが発生する可能性があります。

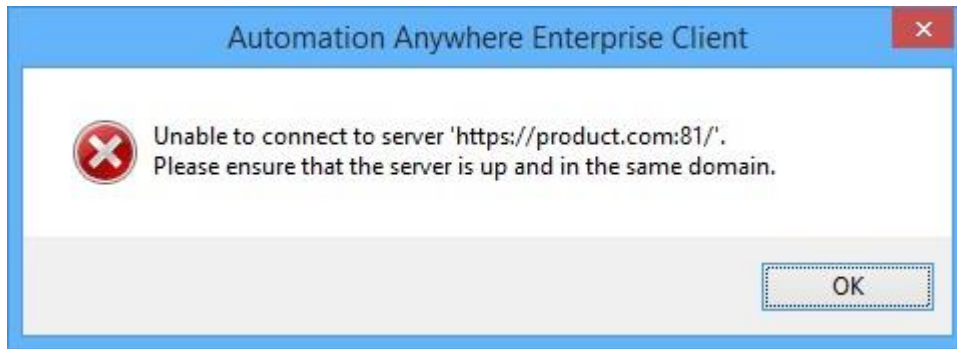
- 存在しない • 無効である
- 有効期限切れ • 信頼されていない機関から発行された

 備考: 前述のエラーメッセージは、AAE Client マシンに次のレジストリエントリがある場合にのみ表示されます。  
HKEY\_LOCAL\_MACHINE\SOFTWARE\Automation Anywhere\ValidateServerCertificate1.

### 改善措置

Control Room 管理者に連絡してください。

エラー6: バージョンの不一致

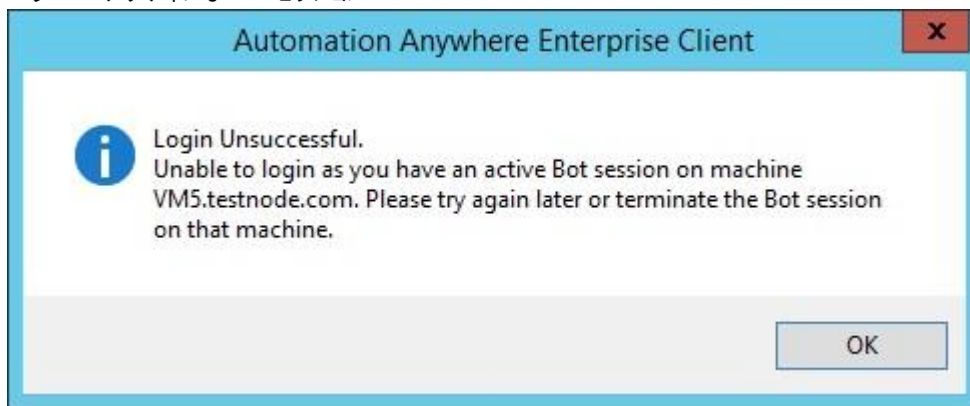


新しいバージョンまたは古いバージョンの Control Room にログオンすると、バージョンの不一致エラーが表示されます。

#### 改善措置

Control Room 管理者に連絡し、Control Room とインストールした Client のバージョンに互換性があることを確認してください。

#### エラー7: アクティブな Bot セッション



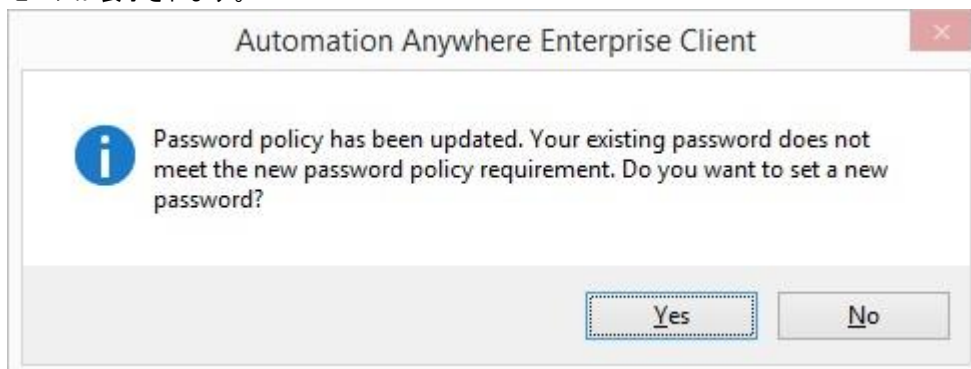
異なるマシンを使用して Client にログオンしようとする場合、前のマシンですでにアクティブな Client セッションに Bot がデプロイされていると、このエラーが表示されます。これは、フローティングライセンスモデルをサポートするように Control Room が設定されていると発生する可能性があります。

#### 改善措置

1. 別のマシンにログオンする場合は、前のマシンでアクティブなプレーヤーなどの Bot セッションを、以下のボタンをクリックして終了します。✕
2. TaskBot が完了してから、他のマシンにログインします。

#### エラー8: パスワードポリシーの更新

Control Room でパスワードポリシーが更新された後、Client のログイン/再ログインまたは自動ログイン時に古い認証情報を入力すると、次のメッセージが表示されます。






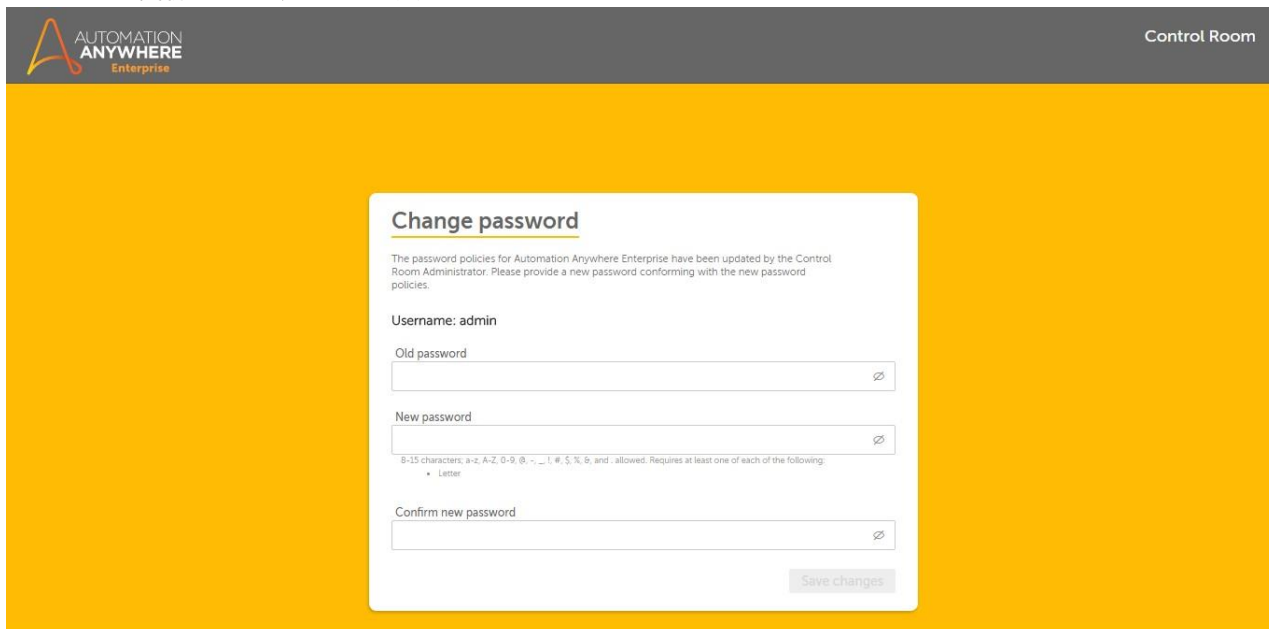
## 改善措置

Control Room インターフェイスからパスワードを更新してログインする必要があります。

1. [Yes] (はい) をクリックし、デフォルトのブラウザで Control Room を起動します。

 備考: 後でログインする場合は、[No] (いいえ) をクリックします。この場合、Client のログインページに留まります。

2. 認証情報を使用してログインします。
3. パスワードの更新ページが表示されます。



4. 新しいパスワードポリシーの要件に適合するようにパスワードを変更して保存します。
5. Client にログインできるようになります。

デバッグオプションを有効にする

Automation Anywhere には、より複雑な自動化タスクをデバッグできる機能があります。タスクのデバッグは、より長く、複雑な業務や IT プロセスの自動化に役立ちます。

デバッグオプションを有効にするには、次の手順を実行します。

1. Task Editor でタスクを開きます。
2. [Debug] (デバッグ) メニューをクリックして、[Enable Debugging] (デバッグを有効化) を選択します。
3. ツールバーを使用して、タスクにブレイクポイントを挿入します。
4. [Step Over] (ステップオーバー) (F10) 機能を使用して、タスクを 1 行ずつデバッグします。

タスクで [Set SnapPoint] (SnapPoint を設定) 機能を使用すると、実行中のタスクの画像をキャプチャできます。




デバッグオプションを使用する

デバッグオプションを使用すると、次のことができます。

- 一度に 1 つのコマンドのタスクをデバッグするには、各コマンドの隣にブレイクポイントを挿入します。これにより、タスクがブレイクポイントで一時的に停止します。
- ブレイクポイントを挿入するには、コマンドを選択して F9 をクリックします。• ブレイクポイントを削除するには、コマンドを選択して F9 をクリックします。
- [Step Over] (ステップオーバー) 機能を選択すると、一度に 1 つのコマンドを移動します。
- ブレイクポイントをすべてクリアするには、[Clear All Breakpoints] (すべてのブレイクポイントをクリア) をクリックします。
- デバッグを停止するには、[Debug] (デバッグ) メニューをクリックして、[Disable Debugging] (デバッグを無効化) を選択します。



 備考: Automation Anywhere では、デバッグ情報およびブレイクポイントは保存されません。Task Editor(タスクエディター)を閉じると、すべてのブレイクポイントが失われます。

## 関連トピック

- [Error View\(エラービュー\)を使用する](#)
- [アプリケーションパスの変更時に Windows にログインする](#)

よくあるご質問 • [ユーザーをクライアントとして Automation Anywhere に登録する方法を教えてください。](#)


- [ドメイン名の変更はクライアントの動作に影響しますか？](#)
- [クライアントに\[Run\]\(実行\)ボタンのみが表示されるのはなぜですか？](#)
- [Excel のセルをコピーして、レコードの次のセルに移動するにはどうすればよいですか？](#)
- [データをアプリケーションに貼り付けて、次の項目に移動するにはどうすればよいですか？](#)
- [Automation Anywhere のシステム変数を使用して、ファイルのタイムスタンプを作成するにはどうすればよいですか？](#) • [タスクの一部としてアプリケーションを開くには、どのような方法が推奨されますか？](#)

ユーザーをクライアントとして Automation Anywhere に登録する方法を教えてください。

1. [Automation Anywhere Client](Automation Anywhere クライアント)アイコンをクリックして、Automation Anywhere を起動します。
2. [Client Login](クライアントログイン)ウィンドウで、[Server Settings](サーバー設定)リンクをクリックします。
3. サーバーの IP アドレスを入力します。クライアントがサーバーと同じシステム上にある場合は、「localhost」と入力します。
4. サーバーに使用されているサーバーポートを選択します。
5. [Apply](適用)、[OK]の順にクリックします。
6. メインクライアントウィンドウで[Tools](ツール)メニューをクリックし、[Server Communication](サーバー通信)を選択します。
7. Automation Anywhere Enterprise Control Room でクライアント登録時に指定したユーザー名とパスワードを入力します。
8. [Login](ログイン)ボタンをクリックします。
9. 正しく登録された場合、「Registration Successful(登録に成功しました)」というメッセージが表示されます。

ドメイン名の変更はクライアントの動作に影響しますか？

はい。登録済みのクライアントのドメインを変更した場合、再度登録が必要になります。ドメイン名は、特にタスクのスケジュール設定をするときと自動ログイン機能を使用するときに必要なためです。

 備考: そのクライアントの Control Room の [Machine Information](マシン情報)セクションで正しいドメイン名を確認できます。

ドメイン名を変更したクライアントは、次のいずれかを実行できます(記載順に)。

1. [Tools](ツール) > [Options](オプション) > [Advanced Settings](詳細設定)でアプリケーションパスを変更する。これにより、クライアントは現在のドメインで、以前のパスで利用できたすべてのデータを利用できるようになります。
2. 新しいクライアントを作成する。ただし、これは最終手段として使用することを推奨します。

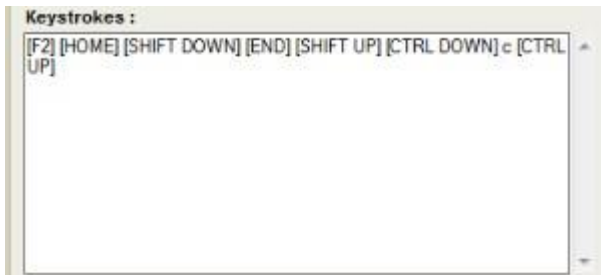
クライアントに[Run](実行)ボタンのみが表示されるのはなぜですか？サーバー管理者がクライアントに権限を付与していない場合、クライアントに Run(実行)以外の権限は表示されません。

1. 必要な権限を得るには、サーバー管理者に Create Task(タスク作成)権限をリクエストします。
2. 管理者は Enterprise Control Room を使用して、Client Control Center の [Client Information](クライアント情報)セクションで Create Task(タスク作成)権限を付与します。
3. サーバー上の特定のフォルダーについてアップロード、ダウンロード、削除、表示権限が必要な場合は、Enterprise Control Room で Access Control List(アクセス制御リスト)権限をリクエストします。
4. Client Control Center で Access Control List(アクセス制御リスト)が更新され、Create Task(タスク作成)権限が付与された後、クライアントは再度ログインする必要があります。
5. これでクライアントは新しい権限を使用して、サーバーと通信できるようになります。

Excel のセルをコピーして、レコードの次のセルに移動するにはどうすればよいですか？

Excel のセルを強調表示し、[Ctrl+C]を使用してコピーすると、データと一緒に余分な[ENTER]キーボード操作がコピーされます。セルだけをコピーするには、次の手順を実行します。

1. 以下のキーボード操作を使用します。



これらのキーボード操作は、セルのデータをコピーします。

2. 現在のセルをコピーした後、次のセルにカーソルを移動させるには、以下のキーボード操作を使用します。
  - [ENTER]を押して、同じ列の 1 行下に移動
  - [TAB]を押して同じ行の右隣のセルに移動
  - [Shift + ENTER]([SHIFT DOWN][ENTER][SHIFT UP])を押して、同じ列の 1 行上に移動
  - [Shift + TAB]([SHIFT DOWN][TAB][SHIFT UP])を押して、同じ行の左隣のセルに移動
  - セルを飛ばすには、対応するキーを 2 回押します。たとえば 2 つ先のセルへ右方向に移動するには[TAB][TAB]と押す必要があります。

データをアプリケーションに貼り付けて、次の項目に移動するにはどうすればよいですか？

ほとんどのアプリケーションでは、ショートカットキー[Ctrl+V]でクリップボードにコピーされたデータを貼り付けることができます。キーボードを使用してデータを貼り付けるには、次の手順を実行します。

1. カーソルがテーブルの正しいセル内、ブラウザページの正しいコントロール内などにあることを確認します。
2. [Ctrl+V]を押します。Automation Anywhere で[Ctrl+V]のシミュレーションをするには、次のキーを使用します: [CTRLDOWN]v[CTRL UP].

このキーボード操作で、データをアプリケーションに貼り付けることができます。

3. キーボードを使用して、アプリケーション内で次のレコードやセルに移動するには、次の例を参照して行います。
  - Internet Explorer の Web ページで、強調表示されたリンクから次のリンクに移動するには、[TAB]キーを使用します。
  - Microsoft Word のテーブルで、同じ行の次のセルへ移動するには、右矢印キーを使用します。
  - スペースバーを使用して、次のコントロールやボタンに移動するアプリケーションもあります。

Automation Anywhere のシステム変数を使用して、ファイルのタイムスタンプを作成するにはどうすればよいですか？

Automation Anywhere では、タイムスタンプの追加に使用できる次のシステム変数が用意されています：

- Year(年)
- Month(月) • Day(日)
- Hour(時間) • Minute(分) • Second(秒) • Date(日付)

これらの変数を組み合わせてカスタムタイムスタンプを作成できます。

例：

- ABC の後ろに年、月、日を追加するには、以下を使用できます。

```
ABC$Year$$Month$$Day$
```

- 日付と時間を含む完全なタイムスタンプを作成するには、以下を使用できます。

```
ABC$Year$$Month$$Day$$Hour$$Minute$$Second$
```

- 次の例のように、変数と変数の間にテキスト文字を含めることもできます：

ABC\$Year\$-\$Month\$-\$Day\$

- 日付変数の形式を自分で設定するには、[Tools] (ツール) メニューをクリックし、[Variable Manager] (変数マネージャー) を選択します。[System Variable] (システム変数)、[Date] (日付) の順にクリックします。日付変数を使用してファイル名に日付を追加する場合、日付形式にスラッシュ(/) を含めないようにします。Windows のファイル名は「/」文字を使用しない可能性があるためです。

タスクの一部としてアプリケーションを開くには、どのような方法が推奨されますか？タスクでアプリケーションを開くには、次のような方法を推奨します。

- タスクを記録する際に、デスクトップ上のアプリケーションアイコンをダブルクリックします。
- [スタート]メニュー、[プログラム]の順にクリックします。アプリケーションを選択します。

アイコンの位置が変わったことが原因でタスク実行時にエラーが発生した場合は、次の推奨手順に従います。

1. Task Editor でタスクを開きます。
2. メニュー項目への移動およびクリックを含むアクションを選択します。これらのアクションには、複数のマウス動作やマウスクリックが含まれている可能性があります。
3. これらのアクションを削除します。
4. Open Program/File (プログラム/ファイルを開く) コマンドをダブルクリックし、アプリケーションへのパスを指定して、作成した 1 行コマンドで置換します。[Open Program/File] (プログラム/ファイルを開く) ダイアログには、Automation Anywhere がアプリケーションに伝えることのできるパラメーターを入力するテキストボックスがあります。
5. これでタスクは、アイコンの位置に関わらずアプリケーションを開くことができるようになります。

アプリケーションパスの変更時に Windows にログインする

場合によっては、Automation Anywhere タスクのアプリケーションパスの変更が必要となる場合があります。セキュリティ上の理由から、[詳細設定]の[Windows ログイン]オプションを設定してタスクのアプリケーションパスを変更できます。

以下の手順に従います。

1. [ツール]->[オプション]->[詳細設定]の順に移動します。
2. [Application Path] (アプリケーションパス) チェックボックスにチェックマークがない場合、チェックマークを入れます。
3. 閲覧ボタンをクリックします。



- 次のような[Windows ログインコマンド]ウィンドウが開かれます。



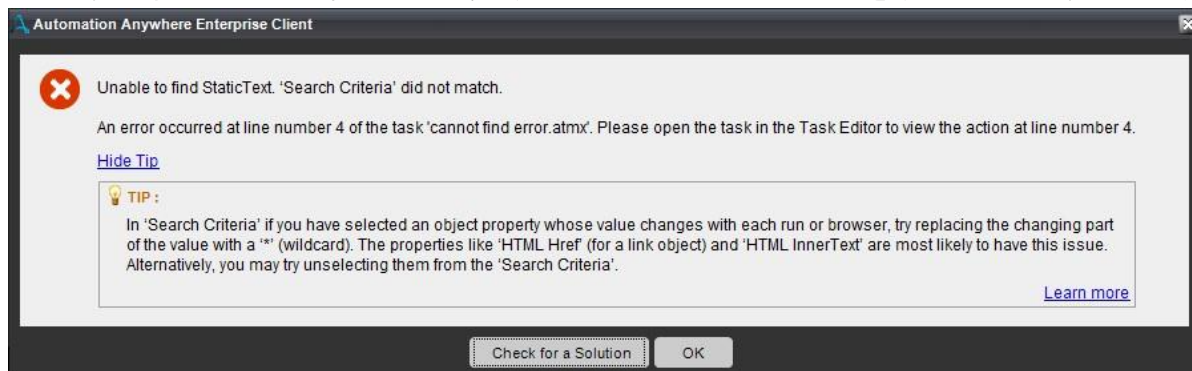
4. 次のパラメーターを入力します。
  - ユーザー名: [ユーザーアカウント]で作成したユーザー名を入力します。ユーザー名とパスワードを作成するには、どうすればよいですか？
  - パスワード: 自分のユーザーアカウントに関連付けられているパスワードを入力します。
  - ドメイン名: ドメイン名を指定します。指定しない場合、Windows ログインはコンピューターのドメイン名を使用します。

新しいアプリケーションパスが有効となるのは、Automation Anywhere の再起動後です。

Object Cloning (オブジェクトクローニング) コマンド - 検出不可 <object property name>

Automation Anywhere の[Show Tip] (ヒントを表示) 機能を使用すると、Object Cloning/SMART Recorder コマンドを使用する場合に発生する、オブジェクトが検出されないというエラーを容易に理解して修正することができます。

タスクの実行時にオブジェクトが検出されない場合、入力されたさまざまなパラメーターを考慮したエラーが表示されます。



メッセージを表示するには、[Show Tip] (ヒントを表示) リンクをクリックします。これにより、実行可能なソリューションが表示されます。ただし、これでは不十分な場合は、[Learn more] (こちらを参照) リンクをクリックして、このトピックの説明を表示することができます。

## 表示されるヒント

検索条件に一致しない場合にワイルドカードを使用する

1. エラーメッセージ上の[Show Tip](ヒントを表示)リンクをクリックします。
2. エラーメッセージには、推奨されたアクションで検出されなかったオブジェクトが明記されます。
3. ワイルドカードを使用して検索条件を変更できます。
4. 特定のプロパティに「\*」を使用します。
5. プロパティの最初、最後、または中間に「\*」を使用できます。
6. 以下に示された[Test Log](テストログ)で同じ詳細なヒントを表示することもできます。

<content missing>

オブジェクトが検出されない場合にテクノロジーに従って詳細なヒントを表示する

- MSAA: オブジェクトが検出されず、[Search Criteria](検索条件)の[HTMLProperties](HTML プロパティ)にチェックが入っている場合、値にワイルドカードを指定するか、[HTMLHref]、[HTMLInnerText]などの HTML プロパティのチェックを外します。

オブジェクトが検出されず、[Search Criteria](検索条件)の[HTMLProperties](HTML プロパティ)にチェックが入っていない場合、[Name](名前)、[Value](値)、[Parent](親)、[Index](インデックス)などその他の一意のプロパティにチェックを入れます。

- Silverlight: オブジェクトが検出されない場合、[Name](名前)、[Value](値)、[Parent](親)、[Content](内容)などその他の一意のプロパティにチェックを入れます。
- Flex: オブジェクトが検出されない場合、[Name](名前)、[Value](値)、[ObjectID](オブジェクト ID)、[Parent](親)などその他の一意のプロパティにチェックを入れます。
- UI オートメーション:
  - Java: オブジェクトが検出されない場合、[Name](名前)、[Value](値)、[ObjectID](オブジェクト ID)、[Parent](親)、[Index](インデックス)などその他の一意のプロパティにチェックを入れます。
  - HTML: オブジェクトが検出されない場合、[HTMLTag](HTML タグ)、[HTMLTag-Index](HTML タグインデックス)、[HTMLName](HTML 名)、[HTMLID]などその他の一意のプロパティにチェックを入れます。

オブジェクトが検出されず、[Search Criteria](検索条件)の[HTMLProperties](HTML プロパティ)にチェックが入っている場合、値にワイルドカードを指定するか、[HTMLHref]、[HTMLInnerText]などの HTML プロパティのチェックを外します。

オブジェクトに共通/デフォルトのプロパティがない場合に検索条件を修正する

1. エラーメッセージ上の[Show Tip](ヒントを表示)リンクをクリックします。
2. エラーメッセージには、推奨されたアクションで検出されなかったオブジェクトが明記されます。
3. 検索条件を変更して、テストが正常に実行されるように一意のオブジェクトのプロパティを含めます。
4. 実行時にオブジェクトのプロパティが動的に変更されている場合、プロパティのチェックを外すとオブジェクトが検出されます。
5. 以下に示された[Test Log](テストログ)で同じ詳細なヒントを表示することもできます。

<content missing>

以下のテーブルに、さまざまなテクノロジーに関するさまざまなオブジェクトの主な検索条件を示します。

	テキストボックス/固定テキスト	リンク/画像	その他
1- すべてに 共通	Type(タイプ)  Path(パス)	Type(タイプ)  Path(パス)	Type(タイプ)  Path(パス)
2- .NET/WP-	Name(名前)  Object ID(オブジェクト ID)	Name(名前)  Object ID(オブジェクト ID)	Name(名前) F  Object ID(オブジェクト ID)
3-	Silverlight Parent(親) Parent(親) Parent(親)		

	Name (名前)	Name (名前)	Name (名前)
4-	Flex Class (クラス) Class (クラス) Class (クラス) .		
	Index (インデックス)	Index (インデックス)	Index (インデックス)
5-	MSAA	Name (名前)	Name (名前)
6-	MSAA-	HTMLID HTMLHref HTMLID .HTML	
	HTMLName (HTML 名)	HTMLName (HTML 名)	HTMLName (HTML 名)
	HTMLInner Text (HTML 内部テキスト)	HTMLInner Text (HTML 内部テキスト)	
7-	HTML HTMLValue (HTML の値) HTML Href HTMLValue (HTML の値) .		
	HTML Tag (HTML タグ)	HTMLInner Text (HTML 内部テキスト)	HTML Tag (HTML タグ)
	HTMLType (HTML のタイプ)	HTMLValue (HTML の値)	HTMLType (HTML のタイプ)
	HTMLTitle (HTML のタイトル)	HTML Tag (HTML タグ)	HTMLTitle (HTML のタイトル)
	HTMLName (HTML 名)	HTMLType (HTML のタイプ)	HTMLName (HTML 名)
	HTMLID	HTMLTitle (HTML のタイトル)	HTMLID
	HTML TagIndex (HTML タグインデックス)	HTMLName (HTML 名)	HTML TagIndex (HTML タグインデックス)
		HTMLID	
	HTMLFrame Src (HTML フレームソース)	HTMLFrame Src (HTML フレームソース)	HTMLFrame Src (HTML フレームソース)
	HTMLFrame Name (HTML フレーム名)	HTMLFrame Name (HTML フレーム名)	HTMLFrame Name (HTML フレーム名)
	HTMLFrame Path (HTML フレームパス)	HTMLFrame Path (HTML フレームパス)	HTMLFrame Path (HTML フレームパス)

#### Object Cloning のトラブルシューティング

このトピックでは、Object Cloning コマンドを使用して、インターネットやイントラネットの Web サイトでオブジェクトをキャプチャできない場合の対処法について説明します。

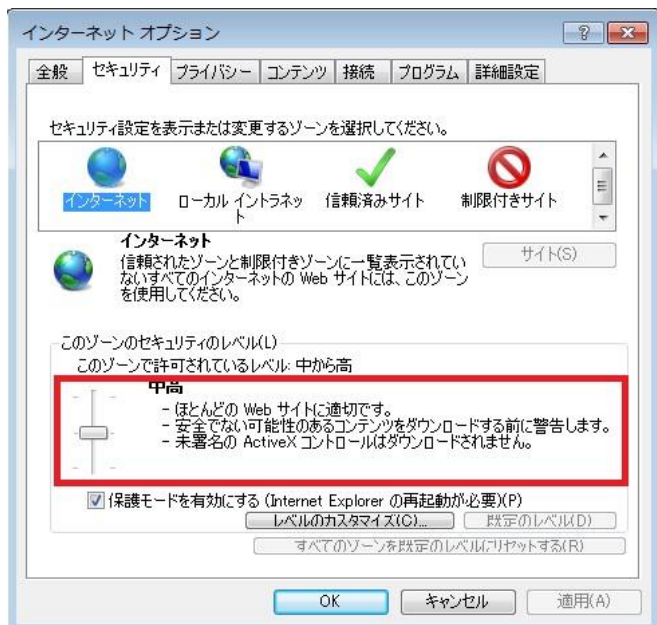
Object Cloning コマンドを使用してインターネットやイントラネットの Web サイトでオブジェクトをキャプチャできない場合は、そのサイトで使用されているセキュリティ設定を確認してください。

[Internet Explorer] > [設定] > [インターネットオプション] > [セキュリティ]に移動します。

#### Web サイトがセキュリティゾーンに割り当てられていない場合

Web サイトが Internet Explorer でセキュリティゾーンに割り当てられていない場合は、インターネットゾーンのセキュリティ設定のレベルがデフォルトで適用されます。このような Web サイトから Object Cloning コマンドを使用してオブジェクトをキャプチャするには、セキュリティレベルを[中~高]以下に設定します。

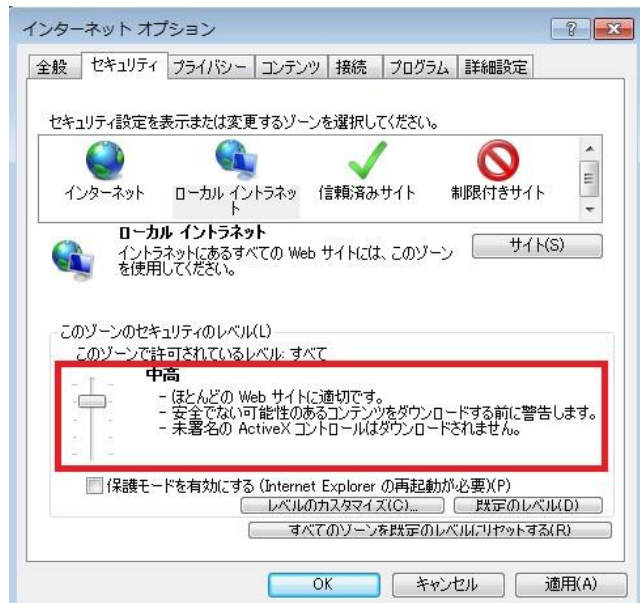




Web サイトがセキュリティゾーンに割り当てられている場合

- ローカルイントラネットの Web サイトでオブジェクトをキャプチャするには

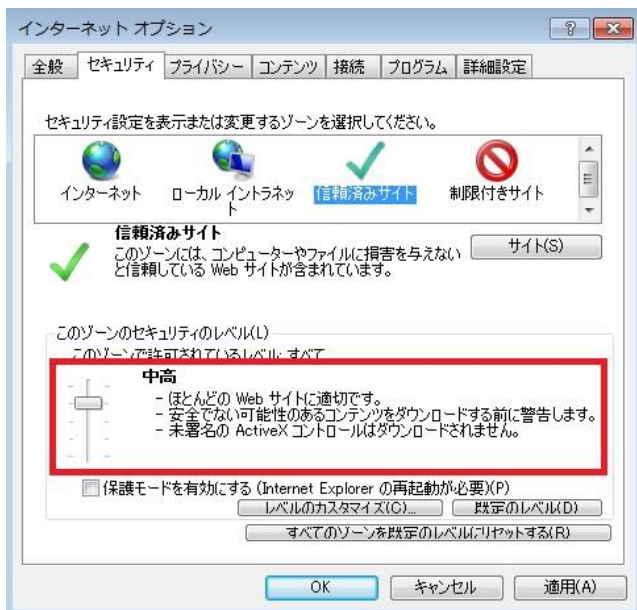
Web サイトが Internet Explorer でローカルイントラネットのセキュリティゾーンにのみ割り当てられている場合は、ローカルイントラネットのセキュリティレベルを[中～高]以下に設定し、ActiveX フィルターを無効にします。



- 信頼済みゾーンに割り当てられたローカルイントラネットの Web サイトでオブジェクトをキャプチャするには

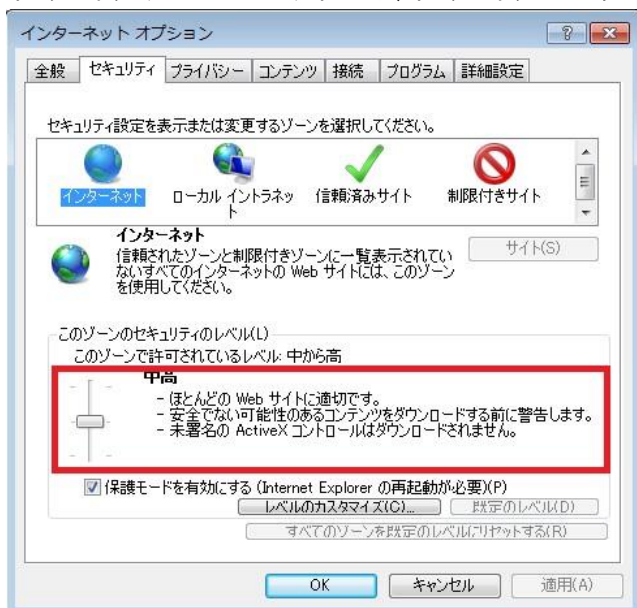
ローカルイントラネットの Web サイトが Internet Explorer で信頼済みサイトのセキュリティゾーンに割り当てられている場合は、信頼済みサイトのセキュリティレベルを[中～高]以下に設定し、ActiveX フィルターを無効にします。



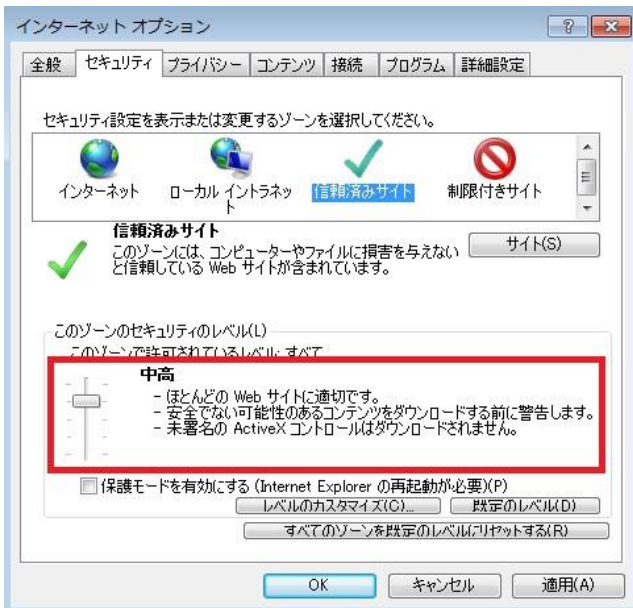


- インターネットの Web サイトでオブジェクトをキャプチャするには

インターネットゾーンの Web サイトでは、インターネットのセキュリティレベルを[中～高]以下に設定します。



- 信頼済みゾーンに割り当てられたインターネットの Web サイトでオブジェクトをキャプチャするには  
インターネットの Web サイトが Internet Explorer で信頼済みサイトのセキュリティゾーンに割り当てられている場合は、信頼済みサイトのセキュリティレベルを[中～高]以下に設定します。



### トラブルシューティング情報

これらのトピックでは、Automation Anywhere クライアントのインストール、設定、使用中に発生する可能性がある問題の診断と修正に役立つトラブルシューティング情報を提供します。

以下の情報について説明します。

- [インストールに関する問題をトラブルシューティングする](#) • [タスクを実行する - トラブルシューティング](#) • [スケジュールする - トラブルシューティング](#) • [自動ログインに関する問題](#)
- [Microsoft Office ファイルでトリガーが正常に機能しない](#)
- [\[Launch\] \(起動\)をクリックしても Web Recorder で \[Capture\] \(キャプチャ\) ボタンが無効](#)

### インストールに関する問題をトラブルシューティングする

#### 1. プログラム (コード LP5) の展開中のエラー

プログラムコードの展開中にエラーが発生した場合は、ファイアウォールの例外リストに Automation Anywhere を追加する必要があります。

次の手順に従って、Automation Anywhere を例外リストに追加します。

1. Windows の [コントロールパネル] を開きます (すべての項目を表示)。
2. [Windows ファイアウォール] アイコンをクリックします。
3. 左側の青いペインにある [Windows ファイアウォールによるプログラムの許可] リンクをクリックします。
4. [設定の変更] ボタンをクリックします。
5. 次の手順を実行して、既存の例外を許可します。
  - a. 左側で、プログラムの例外の名前ボックスをオンにして、Windows ファイアウォールによりプログラムを許可します。
  - b. そのプログラムが Windows ファイアウォール経由でアクセスするネットワークの場所 ([プライベート] または [パブリック]) のボックスをオンに (許可) します。
6. 次の手順を実行してプログラムの例外を追加します。
  - a. [別のプログラムの許可] ボタンをクリックします。
  - b. Automation Anywhere プログラムが表示される場合は、そのプログラムをクリックして強調表示します。
  - c. Automation Anywhere プログラムが表示されない場合は、[参照] ボタンをクリックし、C:\Program Files (x86)\Automation Anywhere\Enterprise\Client\Automation Anywhere.exe に移動します。ここが、Automation Anywhere 実行可能ファイルの場所です。
  - d. [ファイルを開く] ボタンをクリックします。
  - e. [追加] ボタンをクリックします。
7. 完了したら、[OK] をクリックします。
8. [Windows ファイアウォール] ウィンドウを閉じます。

#### 2. MSSTDFMT.DLL のエラー (Windows 7 のみ)

このエラーメッセージが表示された場合は、次の手順を実行して解決します。

1. 次の場所から「mssdfmt.zip」ファイルをダウンロードします。
2. <http://www.dll-files.com/dllindex/dll-files.shtml?mssdfmt>
3. このファイルをシステム上の任意の場所に保存し、抽出します。
4. ダウンロードしたフォルダーから MSSTDFMT.DLL ファイルをコピーし、'C:\Windows\syswow64\sysWOW64'
5. 「sysWoW64」フォルダーから「cmd.exe」ファイルを見つけます。
6. [cmd.exe]を右クリックし、[Run as administrator] (管理者として実行)をクリックします。Windows コマンドプロンプトウィンドウに、「C:\Windows\system32>」と表示されます。
7. タイプ: Regsvr32 C:\Windows\SysWOW64\MSSTDFMT.DLL と Enter キーを押してファイルを登録します。

これらの手順を完了すると、エラーが解決します。

### [先頭に戻る](#)

#### タスクを実行する - トラブルシューティング

Microsoft Excel コマンドを含むタスクの実行速度が遅い場合は、次の手順を実行します。

1. デバッグモードを無効にします。
2. Delay (遅延) コマンドを削除するか、1 秒短縮します。
3. Excel ファイルを最小化します。Excel が最大化された状態になっていると、ユーザーインターフェイスが表示され、リソースを消費します。
4. タスクの実行中はスクリーンショットのキャプチャを停止します。次の手順を実行します。
  - a. Automation Anywhere のメインウィンドウで、[Tools] (ツール) メニューをクリックし、[Options] (オプション) を選択します。
  - b. [Run Time Settings] (ランタイム設定) を選択します。
  - c. オプションの [Capture Screenshots while Running a Task] (タスクの実行中にスクリーンショットをキャプチャ) をオフにします。

タスクの実行中はスクリーンショットがキャプチャされないため、進行状況の監視が難しくなります。

### [先頭に戻る](#)

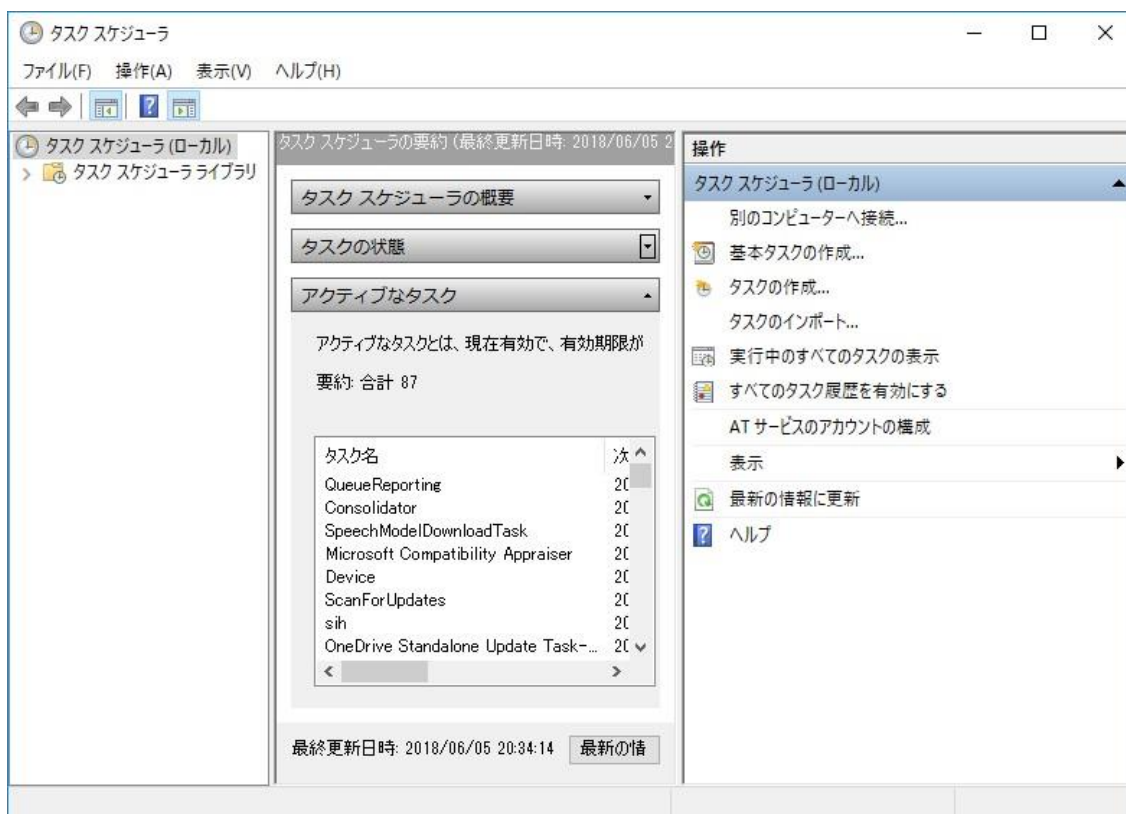
#### スケジュールする - トラブルシューティング

1. スケジュールされたタスクが実行されないスケジュールされたタスクがスケジューラーを使用して実行されない場合は、次の手順を実行して問題を解決します。

1. Windows のユーザー名とパスワードを正しく指定していることを確認します。
  - アカウントにログオンするときにパスワードが要求される場合は、タスクをスケジュールする際にそのパスワードを指定します。それ以外の場合は、パスワードは要求されません。
2. 複数のアカウントがある場合は、正しいユーザー名とパスワードを指定していることを確認します。同じコンピューターに複数のアカウント (ドメインアカウントやローカルアカウントなど) がある場合は、指定したユーザー名がコンピューターにログオンするときに使用したユーザー名と同じであることを確認します。
3. ログオンしたユーザーアカウントとは異なるアカウントを使用してタスクをスケジュールした場合、そのタスクは実行されません。Automation Anywhere には、ログインに使用されたユーザー名が自動的に入力されます。
4. 次の手順を実行して、[コントロールパネル] のステータスを確認します。
  - a. Windows の [コントロールパネル] を開き、[管理ツール] > [タスクスケジューラ] に移動します。
  - b. スケジュールしたタスクに対応するタスク (スケジュールしたタスク名で始まる名前) を選択し、右クリックします。
  - c. [実行する] をクリックして、タスクが実行されることを確認します。
    - タスクが実行されない場合は、[状態] 列を確認し、次の手順に進みます。

次の手順を実行して、電卓アプリケーションをスケジュールします。

1. [コントロールパネル] を開いて、[管理ツール] をクリックします。
2. [タスクスケジューラ] をクリックします。
3. [アクティブなタスク] のドロップダウンリストで、[Calculator] (電卓) を選択します (下図参照)。電卓が動作しない場合は、コンピューターにスケジューラサービスが正常にインストールされていません。



スケジューラサービスが実行していることを確認するには、次の手順を実行します。

1. Windows の[コントロールパネル]をクリックし、[管理ツール]、[サービス]の順に選択します。
2. Task Scheduler サービスの状態が[実行中]となっていることを確認します。
3. 実行していない場合は、[タスクスケジューラ]を右クリックし、[開始]を選択します。また、[スタートアップの種類]が[自動]に設定されていることを確認します。これにより、次回システムを起動するときに自動的にサービスが開始されます。
  - Task Scheduler を再起動します。

それでも Task Scheduler が実行されない場合は、次の手順を実行します。

1. Windows の[コントロールパネル]をクリックし、[スケジュールされたタスク]を選択します。
2. [詳細]メニューで、[タスクスケジューラの使用停止]をクリックします。
3. 10 分間待機します。
4. [タスクスケジューラの使用開始]をクリックします。

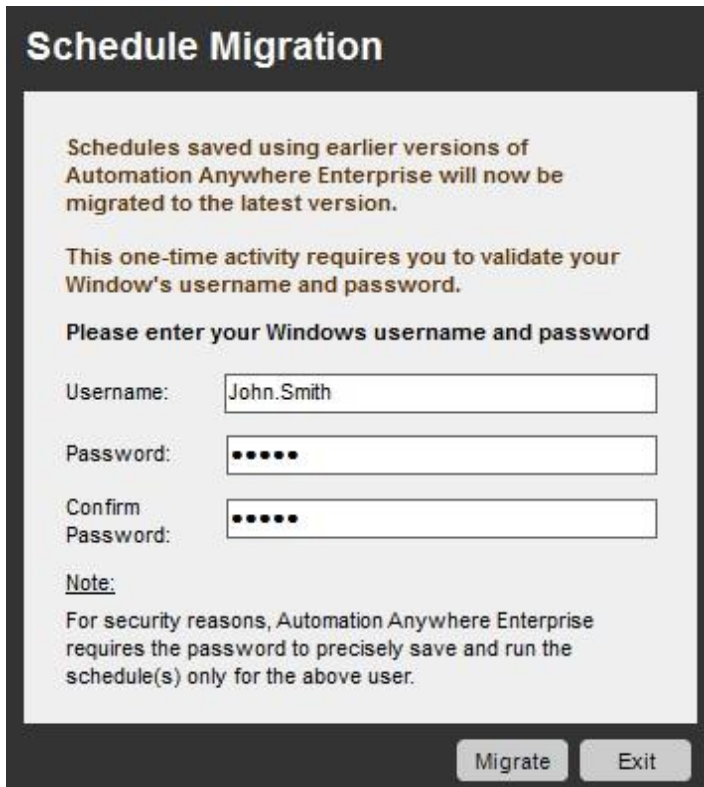
## 2. 新しいバージョンにスケジュールを移行する


8.0 より前のバージョンを使用している場合は、クライアントのスケジュールを以前のバージョンから最新バージョンに移行する必要があります。

セットアップにバンドルされているスケジュールの migration utility は、インストール後に利用できます。migration utility を実行すると、古いスケジュールを正常に実行するために必要な、パスの自動更新にかかる時間を節約できます。

以下を実行するだけです。

1. ログインしたユーザーがすべてのスケジュールを移行するには、管理者特権なしで migration utility を実行します。ログインしたユーザーは、自分の Windows 資格情報のみを入力する必要があります。
2. Control Room の管理者がプッシュしたすべてのスケジュールを移行するには、管理者特権で migration utility を実行します。ユーザーは、Windows 資格情報を入力してこのアクティビティを完了する必要があります。



 備考: 移行後、Control Room の管理者がプッシュした以前のバージョンのスケジュールすべてがユーザーに表示されます。ただし、新しいスケジュールは引き続きクライアント側には表示されません。

スケジュールの migration utility のパス:

<AA Installation Path>\AutomationScheduleMigration.exe

例:

```
C:\Program Files (x86)\Automation Anywhere Enterprise
8.0\Client\AutomationScheduleMigration.exe
```

[先頭に戻る](#) [自動ログインに関する問題](#) [自動ログインに関する問題](#)

がある場合は、以下を確認してください。

- Windows 7 以上の OS の場合は、SAS.dll が system32 フォルダ (例: C:\Windows\System32) に存在することを確認します。存在しない場合は、製品インストールフォルダ (例: C:\Program Files\Automation Anywhere 7.1\Client\32-Bit または 64-Bit (OS によって異なる)) からコピーします。
- Ctrl+Alt+Del が正しく動作することを確認します。
- レジストリ: HKEY\_LOCAL\_MACHINE\SOFTWARE\Microsoft\Windows\CurrentVersion\Policies\System\SoftwareSASGeneration
  - 値: Dword 3
  - 自動ログインレジストリと値を確認します。

```
[HKEY_CLASSES_ROOT\CLSID\{75A22DF0-B81D-46ed-B119-CD30507BD614}]@"Automation.CredentialProvider"
```

```
[HKEY_CLASSES_ROOT\CLSID\{75A22DF0-B81D-46ed-B119-CD30507BD614}\InprocServer32]@"Automation.CredentialProvider.dll""ThreadingModel"="Apartment"
```

- 自動ログインサービスが有効かつ実行中であることを確認します。
- [services.msc] -> [Automation Anywhere Enterprise Auto Login Service] (Automation Anywhere Enterprise 自動ログインサービス) に移動
- 資格情報を再確認します。
  - [Task] (タスク) > [Provide schedule] (スケジュールを入力) > [Enter window authentication credentials with domain] (Windows 認証資格情報とドメインを入力) を選択 (例: ユーザー名:ドメイン\ユーザー名とパスワード)

2. スケジュールが正常に追加されたら、[Tools](ツール) > [Option](オプション) > [Auto-login Settings](自動ログイン設定)に移動します。ユーザー名とパスワードを確認します。

- 一致するはずです。

#### [先頭に戻る](#)

Microsoft Office ファイルでトリガーが正常に機能しない

ファイルが変更されたときに Microsoft Office ファイルのトリガーを使用するには、[File](ファイル) -> [When file is renamed](ファイル名が変更されたとき)の条件を使用する必要があります。

条件が変更され、条件の名前が変更されると、トリガーは正しく起動します。これは Microsoft Office に固有の動作です。

#### [先頭に戻る](#)

Web Recorder(Web レコーダー)コマンドの[Extract Source](ソースを抽出)と[Execute Java Script](JavaScript を実行)オプションの[Capture](キャプチャ)ボタンが無効になる

[Capture](キャプチャ)ボタンは、次のオプションで有効になります。

- Extract Source(ソースを抽出) - 起動したページに iFrame がある場合。
- Execute Java Script(Javascript を実行) - 起動したページに JavaScript がある場合。

#### [先頭に戻る](#)

テクニカルサポートに問い合わせる

上記の手順を完了してもタスクスケジューラを使用してタスクを実行できない場合は、スケジューラサービスがコンピューターに正しくインストールされていない可能性があります。詳しくは、Automation Anywhere [テクニカルサポート](#)にお問い合わせください。



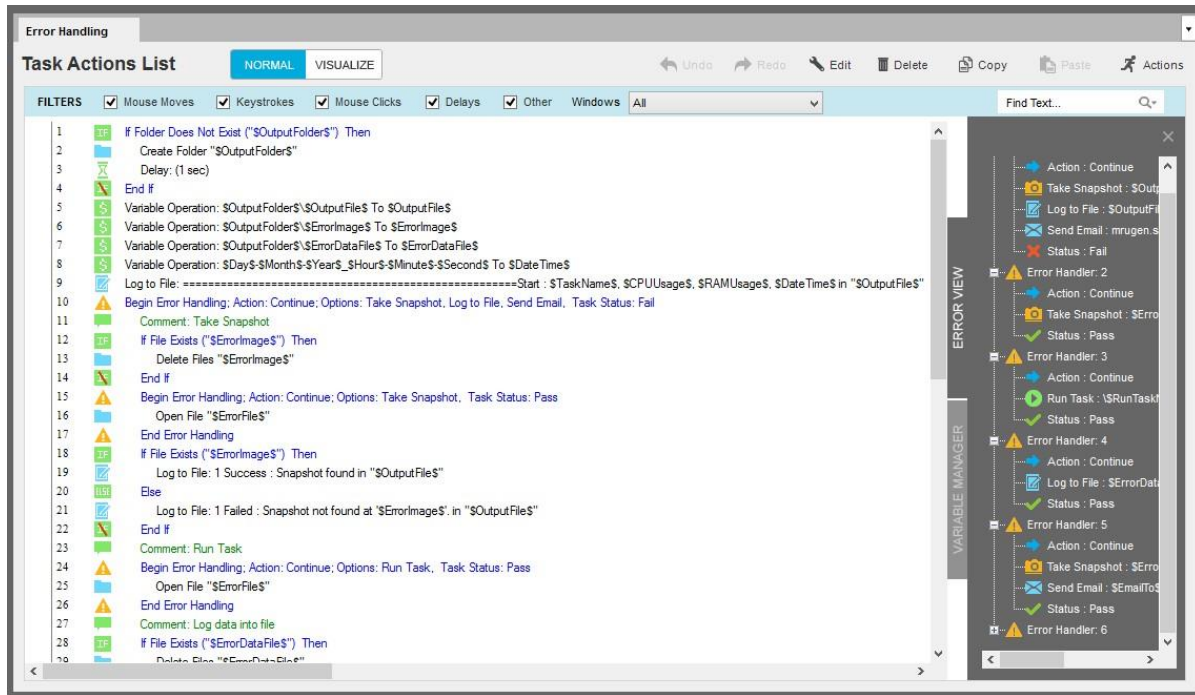
## Error View(エラービュー)を使用する

Automation Anywhere Task Editor には、タスクエラーを表示、解消し、タスク変数を使用するためのオプションが 2 つあります。Error View と Variable Manager を有効にするには、次のリンクをクリックします。



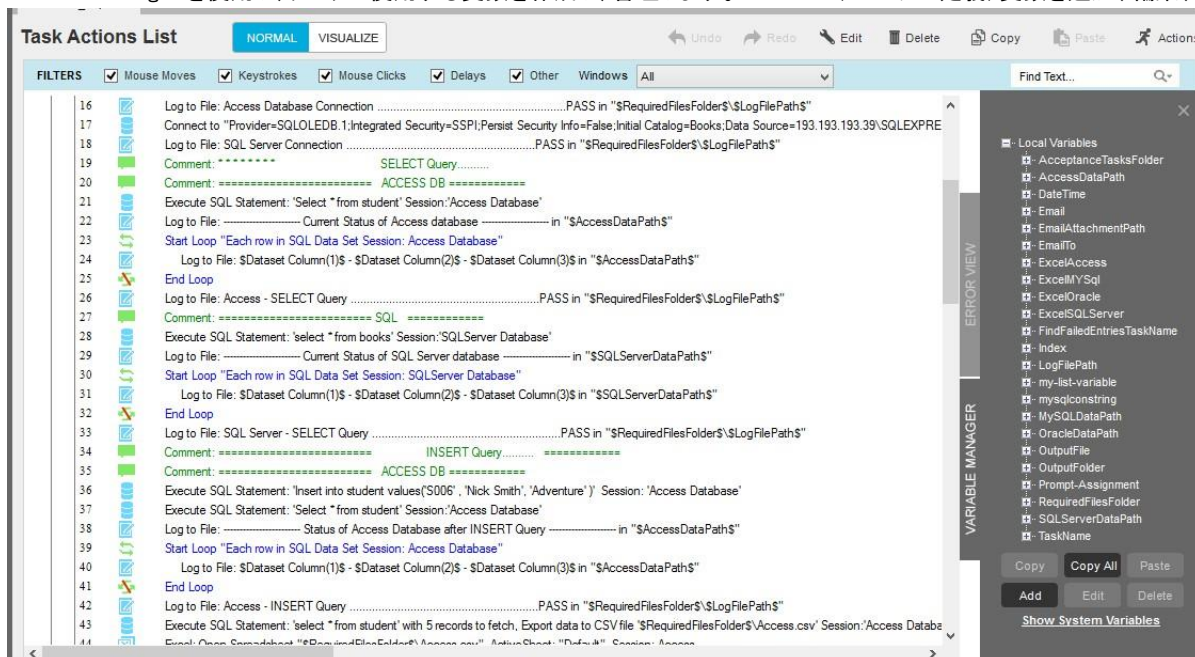
## Error View(エラービュー)

Error View を使用し、タスクで発生するエラーを管理します。Error Handling(エラーの処理)機能が使用されるとき、このビューが自動的に更新されます。



## Variable Manager(変数マネージャー)

Variable Manager を使用し、タスクで使用する変数を作成し、管理します。ローカル(ユーザー定義)変数を追加、編集、削除できます。



## Variable Watch Table(変数追跡テーブル)

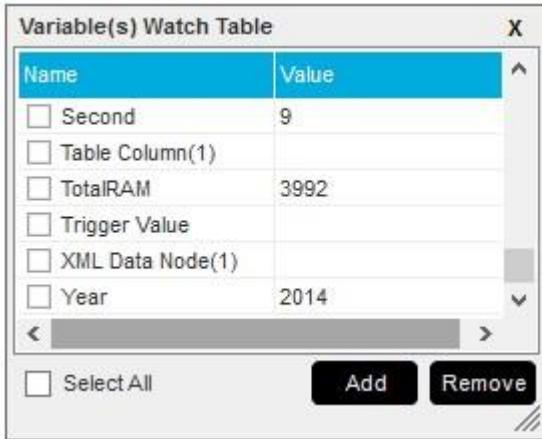


Variable Watch Table を使用し、変数の値を追跡します。Variable Watch Table は、[Enable Debugging] (デバッグを有効化) リンクをクリックして Debug Mode を有効にすると有効になります。

必要に応じて、Variable Watch Table を移動したり、拡張したりできます。

変数が動的に変化する様子を見るには、[Add] (追加) または [Remove] (削除) ボタンをクリックします。ユーザー定義の変数とシステム変数の両方を表示できます。

Variable Watch Table はデバッグプロセスの一環として使用します。



Name	Value
<input type="checkbox"/> Second	9
<input type="checkbox"/> Table Column(1)	
<input type="checkbox"/> TotalRAM	3992
<input type="checkbox"/> Trigger Value	
<input type="checkbox"/> XML Data Node(1)	
<input type="checkbox"/> Year	2014

---

#### 関連トピック

- [アプリケーションパスの変更時に Windows にログインする](#)